高等専門学校機関別認証評価

自 己 評 価 書

平成２５年６月

舞鶴工業高等専門学校

目　　次

Ⅰ　高等専門学校の現況及び特徴 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1

Ⅱ　目的 ・・ 2

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 5

基準２　教育組織（実施体制） ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 25

基準３　教員及び教育支援者 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 51

基準４　学生の受入 ・・ 155

基準５　教育内容及び方法 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 185

基準６　教育の成果 ・・ 329

基準７　学生支援等 ・・ 409

基準８　施設・設備 ・・ 461

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 495

基準10　財務 ・・ 565

基準11　管理運営 ・・・ 581

Ⅰ　舞鶴工業高等専門学校の現況及び特徴

１　現況

（１）高等専門学校名　舞鶴工業高等専門学校

（２）所在地　京都府舞鶴市

（３）学科等の構成

学　科：機械工学科，電気情報工学科
　　電子制御工学科，建設システム工学科

専攻科：電気・制御システム工学専攻
　　建設・生産システム工学専攻

（４）学生数及び教員数（平成２５年５月１日現在）

学生数：学　科　８１６人，専攻科　３７人

専任教員数：　　６０人，助手数：　０人

２　特徴

本校は，昭和４０年度に機械工学科２学級と電気工学科１学級で発足し，昭和４５年度に土木工学科１学級を増設，平成２年度には機械工学科２学級を機械工学科と電子制御工学科に改組，平成６年度に土木工学科を建設システム工学科に改組した。平成１６年度に独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する高等専門学校となり，電気工学科を電気情報工学科に名称変更した。また，平成１２年度に専攻科を設置した。準学士課程卒業生の進路は就職と進学がおよそ６対４であり，専攻科修了生は大学院にも進学している。本校の学生は，京都府はもとより兵庫，滋賀，福井，大阪などの広範囲の地域から入学しており，全国高専でも有数の大規模寮を有し，在学生の６０％以上が学寮生活を営んでいる。そのため，１，２年生を全寮制として遠隔地からの入学に配慮している。本校の教育方針は，（１）実験，実習，演習，ものつくりを重視する，（２）基礎に立ち返って考えさせる，（３）自ら学ぼうとする意欲を育てる，（４）豊かな教養と国際性を育む，であり，「広く工学の基礎と教養を身につけ，問題発見・解決能力，創造力を有し，地域・社会の発展に寄与できる国際感覚豊かな実践的開発型技術者を育成」している。専攻科課程では，準学士での教育を基盤として，より創造的な技術開発能力と研究能力を有した人材を養成している。

本校の教育の特徴として，広い視野を獲得し多くの友人を作ることを目的として，１～２年生には混合教育を導入している。同時に，優れた技術者となるための動機付け科目として，１年生に「工学基礎」を開講し，大学・企業等からの外部講師による授業，近隣企業の見学，ものつくりとPBLを融合させた体験型授業を行っている。また，豊かな教養と国際性を育むため，４年生全員を研修旅行でタイ，韓国，台湾，ベトナムの協定校と日系企業に派遣し，５年生と専攻科生には海外の企業や協定校でインターンシップを行う機会を与えている。一方，海外協定校からインターンシップ生を受け入れ，世界市民の自覚を学生に促している。長期留学生との交流にも積極的で，学内や地元での行事に加え，中部日本海高専国際交流学生会議を組織し，講演会を開催したり，海外協定校に学生を共同派遣している。さらに，全学生にA. C. E. とTOEIC団体受験を義務付け，英語によるコミュニケーション能力の向上を図っている。遠隔地からの入学者が多いことに配慮し，保護者で構成されている後援会との連携を強化しており，毎年夏休み期間に後援会支部が開催する懇談会に校長，副校長，主事をはじめとする学校関係者が出席し，保護者からの要望を直接聴取するとともに，本校の教育を改善するための意見交換が行われている。その他，親元を離れて暮らす学生の支援として，平成１８年度から全教員が数名の１年生を分担し，相談窓口となるパートナーシップ制度を導入している。

「産業の発展に寄与すること，並びに北近畿地域の教育，文化の基盤を支える」ために地域と連携した事業に取り組んでいる。例えば，舞鶴市の商店街の空き店舗を利用し，「よろずー商店街まちづくり研究所ー（商店街ラボ）」を運営している。商店街と連携してゼミや授業，商店街活性化のための研究報告などを実施している。また，丹後機械工業共同組合と連携して共同研究やインターンシップを推進している。平成２４年度は，地域連携活動の全国的な発表の場である全国高専テクノフォーラムの世話校を担当した。全国の高専５３校と地元の企業２５社に参加いただき，産学連携の成果を発表した。また，京都ビジネス交流フェア，ビジネスエンカレッジフェアなど各種展示会に積極的に参加して産学連携の強化を図っている。その他，地域の小中学生と保護者を対象に高専PRイベントを開催し，理科離れ対応と，高専の認知に努めている。

学生の課外活動も活発で，ロボコン，プロコン，エコラン，デザコンと称される高専学生対象の競技会で，近畿地区大会優勝や最優秀賞（文部大臣賞）等を受賞している。平成１６年度に本校準学士課程４，５年生と専攻科課程で構成される「生産・情報基礎工学」教育プログラムが工学（融合複合・新領域）関連分野でJABEE認定を受けて現在に至っている。

Ⅱ　目的

１．教育理念

広く工学の基礎と教養を身につけ，問題発見・解決能力，創造力を有し，地域・社会の発展に寄与できる国際感覚豊かな実践的開発型技術者を育成する。

２．本校の目的

舞鶴工業高等専門学校は，教育基本法及び学校教育法に基づいて，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とし，その目的を実現するための教育を行いその成果を広く社会に提供することにより，社会の発展に寄与するものとする。

専攻科課程は，高等専門学校の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門知識及び技術を教授し，その研究を指導することを目的とする。

３．準学士課程の目的

準学士課程は，専門分野の基礎知識を修得し，社会の変化やニーズに対応した製品やシステムをつくり出す能力と，豊かな人間性・国際性を兼ね備えた実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

４．学科の目的

⑴機械工学科

あらゆるものづくりの基盤となる，機械工学の基礎知識と技術を習得し,環境とエネルギーに配慮できる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

⑵電気情報工学科

電気・電子工学及び情報・通信工学分野の基礎知識と技術を習得し,環境とエネルギーに配慮できる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

⑶電子制御工学科

電子・機械システム及び制御・情報技術を幅広く習得し,それらを融合したメカトロ ニクス技術分野において，環境とエネルギーに配慮した設計・開発・管理運営ができる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

⑷建設システム工学科

安全で快適な社会の創造とそのための基盤を，設計・建設・維持する基礎知識と技術を習得し,環境とエネルギーに配慮できる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

５．専攻科課程の目的

専攻科は，５年間にわたる一貫した実践教育の特徴を生かしながら，更に２年間の課程において，高度の学問と技術を追求し，創造性・人間性豊かで，より独創的技術開発能力を兼ね備えた中核的技術者の育成を目的とする。

６．専攻科修了者像

（１）実践的な技術者として，幅広い工学の基礎と深い専門領域の学識を修得し，これらをエンジニアリングの実務と技術革新に活用できる。

（２）技術開発力のある技術者として，課題の発見とその解決に取り組む探究能力，粘り強いチャレンジ精神

と独創力を身につける。

（３）２１世紀の地球人として，多面的な視点から社会の様々な問題に関心をもち，そのあり方を問うことのできる素養と国際感覚を身につける。

（４）職業人として，人間性豊かな調和のとれた思考力と，それに基づく実行力を備え，自ら考え行動できる。

７．教育方針

Ⅰ　実験・実習，演習，ものつくりを重視する

Ⅱ　基礎に立ち返って考えさせる

Ⅲ　自ら学ぼうとする意欲を育てる

Ⅳ　豊かな教養と国際性を育む

８．準学士課程の学習・教育到達目標

(A)自然科学と工学の基礎を身につける。

(B)専門分野の基礎知識を修得し，技術の実践に応用できる。

(C)修得した知識を統合し，製品やシステムを考案できる。

(D)実験・実習・演習により現象の理解を深め，実践力を身につける。

(E)技術者に必要な人間性，国際性，協調性及び英語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける。

(F)技術が自然や社会に与える影響を理解し，技術者としての倫理観を身につける。

(G)課題の提案・報告などを適切にまとめ，発表できる。

(H)コンピュータを技術の実践に活用できる。

(I)責任を自覚し，互いに協力し合い，チームの目的達成に貢献できる。

ただし，(I)は平成２５年度準学士課程第１～４学年に適用する。

９．専攻科課程の学習・教育到達目標

(A)自然科学と工学の基礎を幅広く修得し，それを応用することができる。

(B)専門分野の基礎知識を修得し，それを実際の技術の問題に応用することができる。

(C)修得した知識を統合して，社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発する創造的能力と意欲を有する。

(D)実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる。

(E)豊かな人間性，国際性，協調性，及び英語によるコミュニケーション能力を身につける。

(F)技術が持つ地球的，社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し，説明することができる。

(G)課題の提案や報告などを効果的に記述し，説明することができる。

(H)コンピュータをはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる。

(I)責任を自覚し，互いに理解・協力し合い，チームの目的達成のために能力を発揮できる。

ただし，(I)は平成２７年度入学者から適用する。

Ⅲ　基準ごとの自己評価

基準１　高等専門学校の目的

（１）観点ごとの分析

観点１－１－①：　高等専門学校の目的が，それぞれの学校の個性や特色に応じて明確に定められ，その内容が，学校教育法第１１５条に規定された，高等専門学校一般に求められる目的に適合するものであるか。また，学科及び専攻科ごとの目的も明確に定められているか。

（観点に係る状況）

本校の特色として，まず，日本海を臨む北近畿・舞鶴に位置していることが挙げられる。舞鶴は，日本海有数の港を有し，かつては軍港の町として栄え，近年ではアジア大陸との海運の拠点として発展してきた。舞鶴湾では海外から来航する船舶が見られ，身近な存在となっている。そのため，本校では日本海やアジア大陸へと視野を広げる気風が自然に醸成され，国際性を養う教育を重視するようになっていることが特色の一つである。また，本校の学生は広範囲の地域から入学しているため，国内有数の大規模寮を有しており，学寮生活を通じて，自立心や協調性など豊かな人間性を養うことも特色となっている。さらに，近隣には大規模な産業地帯が存在しない半面豊かな自然に恵まれ，物理現象や工学の基礎に親しむ風土が醸成され，自ずと工学の基礎教育を重視するようになっている。これは本校の個性と言えよう。本校の教育理念，教育方針，準学士課程の目的は，これらの特色や個性に応じて設定されている。教育理念は，資料１－１－①－１に示すように，「広く工学の基礎と教養を身につけ，問題発見・解決能力，創造力を有し，地域・社会の発展に寄与できる国際感覚豊かな実践的開発型技術者を育成する。」と定められており，「国際性」や「工学の基礎」を重視することを明確にしており，本校の特色に応じた理念となっている。また，教育方針は資料１－１－①－１に示すように（１）実験・実習，演習，ものつくりを重視する，（２）基礎に立ち返って考えさせる，（３）自ら学ぼうとする意欲を育てる，（４）豊かな教養と国際性を育む，と定めており，基礎に立ち返ることの重要性や，豊かな教養と国際性を養うことを明確にすることにより，本校の特色や個性が生かされるよう定められている。準学士課程の目的は，資料１－１－①－２に示すように「専門分野の基礎知識を修得し,社会の変化やニーズに対応した製品やシステムをつくり出す能力と豊かな人間性・国際性を兼ね備えた実践的・創造的技術者を育成すること」と定めている。ここでも，本校の特色や個性に応じて，自然科学や工学の基礎知識，寮生活で育む豊かな人間性，海外に視野を広げる国際性を強調している。

以上に述べた教育理念，教育方針，準学士課程の目的で定めた能力や人間性は，技術者として実社会で活躍するために必要な専門能力と人間性であり，学校教育法第 115 条で定められた「深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成すること」という高等専門学校の目的に適合している。本校はこれを，資料１－１－①－３に示す通り，学則第１条で明確に規定している。本校の準学士課程には，機械工学科，電気情報工学科，電子制御工学科，建設システム工学科の４学科が設置されており，各学科の目的は学則第１２条の２（資料１－１－①－４）により定められている。また，卒業時に身につけているべき能力として，資料１－１－①－５に示す通り，４学科共通の学習・教育到達目標を定めている。ここでの専門分野や工学は，学則第１２条２で定めた学科毎の専門領域や専門工学を指している。

専攻科課程の目的は，資料１－１－①－６に示すとおり，学則第４０条において定められている。

また，専攻科学習の手引き・シラバスには，資料１－１－①－７に示すとおり専攻科における教育の目的が，資料１－１－①－８に示すとおり専攻科修了者像が明示されている。

専攻科は，電気・制御システム工学専攻と建設・生産システム工学専攻の２専攻から成っており，それぞれの専攻の目的は，資料１－１－①－９に示すとおり定められている。また，専攻科修了時に身につけているべき能力として，学習・教育到達目標を資料１－１－①－１０のとおり定めている。

資料１－１－①－１

＜教育理念＞

広く工学の基礎と教養を身につけ，問題発見・解決能力，創造力を有し，地域・社会の発展に寄与できる国際感覚豊かな実践的開発型技術者を育成する。

＜教育方針＞

Ⅰ　実験・実習，演習，ものつくりを重視する
Ⅱ　基礎に立ち返って考えさせる
Ⅲ　自ら学ぼうとする意欲を育てる
Ⅳ　豊かな教養と国際性を育む

（出典　平成２５年度学生便覧）

資料１－１－①－２

（準学士課程の目的）

準学士課程は，専門分野の基礎知識を修得し，社会の変化やニーズに対応した製品やシステムをつくり出す能力と，豊かな人間性・国際性を兼ね備えた実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

（出典　平成２５年度学生便覧）

資料１－１－①－３

（舞鶴工業高等専門学校の目的）

舞鶴工業高等専門学校は，教育基本法（平成１８年度法律第 120 号）及び学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）に基づいて，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とし，その目的を実現するための教育を行いその成果を広く社会に提供することにより，社会の発展に寄与するものとする。

（出典　平成２５年度学生便覧）

資料１－１－①－４

（各学科の人材養成の目的）

(1)機械工学科

あらゆるものづくりの基盤となる，機械工学の基礎知識と技術を習得し,環境とエネルギーに配慮できる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

(2)電気情報工学科

電気・電子工学及び情報・通信工学分野の基礎知識と技術を習得し,環境とエネルギーに配慮できる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

(3)電子制御工学科

電子・機械システム及び制御・情報技術を幅広く修得し,それらを融合したメカトロ ニクス技術分野において，環境とエネルギーに配慮した設計・開発・管理運営ができる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

(4)建設システム工学科

安全で快適な社会の創造とそのための基盤を，設計・建設・維持する基礎知識と技術を習得し,環境とエネルギーに配慮できる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

（出典　平成２５年度学生便覧）

資料１－１－①－５

＜学習・教育到達目標＞

（準学士課程）

（A）自然科学と工学の基礎を身につける。

（B）専門分野の基礎知識を修得し，技術の実践に応用できる。

（C）修得した知識を統合し，製品やシステムを考案できる。

（D）実験・実習・演習により現象の理解を深め，実践力を身につける。

（E）技術者に必要な人間性，国際性，協調性及び英語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける。

（F）技術が自然や社会に与える影響を理解し，技術者としての倫理観を身につける。

（G）課題の提案・報告などを適切にまとめ，発表できる。

（H）コンピュータを技術の実践に活用できる。

（I）責任を自覚し，互いに協力し合い，チームの目的達成に貢献できる。

ただし，（I）は平成２５年度準学士課程第１～４学年に適用する。

（出典　平成２５年度学生便覧）

資料１－１－①－６

＜専攻科課程の目的＞

専攻科課程は，高等専門学校の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門知識及び技術を教授し，その研究を指導することを目的とする。

（出典　平成２５年度学生便覧）

資料１－１－①－7

教育の目的

本校専攻科は，５年間にわたる一貫した実践教育の特徴を生かしながら，更に２年間の課程において，高度の学問と技術を追求し，創造性・人間性豊かで，より独創的技術開発能力を兼ね備えた中核的技術者の育成を目的とする。

（出典　平成２５年度専攻科学習の手引き・シラバス）

資料１－１－①－８

専攻科修了者像

専攻科では，次のような資質を備えた人材を育てようとしています。

（１）　実践的な技術者として，幅広い工学の基礎と深い専門領域の学識を修得し，これらをエンジニアリングの実務と技術革新に活用できる。

（２）　技術開発力のある技術者として，課題の発見とその解決に取り組む探求能力，粘り強いチャレンジ精神と独創力を身につける。

（３）　２１世紀の地球人として，多面的な視点から社会の様々な問題に関心をもち，そのあり方を問うことのできる素養と国際感覚を身につける。

（４）　職業人として，人間性豊かな調和のとれた思考力と，それに基づく実行力を備え，自ら考え行動できる。

（出典　平成２５年度専攻科学習の手引・シラバス）

資料１－１－①－９

各専攻の教育目的

（１）電気・制御システム工学専攻

主として準学士課程の電気情報工学科，電子制御工学科で修得した基礎学力を基盤に，ソフトウェア，通信，電子回路，制御技術及びメカトロニクス等に係わる最新の教育を行い，電気機器，運輸，通信及び情報システム等の分野で活躍できる，設計・開発・管理能力を備えた電気・制御システム技術者の育成を目指します。

（２）建設・生産システム工学専攻

主として準学士課程の建設システム工学科，機械工学科で修得した基礎学力を基盤に，先端材料，水圏環境，動的設計及びシステム設計等に係わる最新の教育を行い，都市建設システム及び機械生産システム等の分野で活躍できる，独創性豊かな研究開発型の建設・生産システム技術者の育成を目指します。

（出典　平成２５年度専攻科学習の手引・シラバス）

資料１－１－①－１０

＜学習・教育到達目標＞

（専攻科課程）

(A)自然科学と工学の基礎を幅広く修得し，それを応用することができる。
(B)専門分野の基礎知識を修得し，それを実際の技術の問題に応用することができる。
(C)修得した知識を統合して，社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発する創造的能力と意欲を有する。
(D)実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる。
(E)豊かな人間性，国際性，協調性，及び英語によるコミュニケーション能力を身につける。
(F)技術が持つ地球的，社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し，説明することができる。
(G)課題の提案・報告などを効果的に記述し，説明することができる。
(H)コンピュータをはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる。
(I)責任を自覚し，互いに理解・協力し合い，チームの目的達成のために能力を発揮できる。

ただし，(I)は平成２７年度入学者から適用する。

（出典　平成２５年度学生便覧）

（分析結果とその根拠理由）

本校の個性や特色に応じて，本校の目的が明確に定められている。これらの目的は，教育基本法や学校教育法に基づいて設定された本校の目的に適合したものとなっている。また，学科の目的，専攻科の目的が明確に定められている。

観点１－２－①：　目的が，学校の構成員（教職員及び学生）に周知されているか。

（観点に係る状況）

本校の「教育理念」と「教育方針」は「学校概要」，「学生便覧」，「シラバス」（本科）及び「専攻科学習の手引・シラバス」に掲載され，教職員及び学生に周知されている。準学士課程にける「教育の目的」，「学習・教育到達目標」及び「学科の目的」は，「学校概要」，「学生便覧」，「シラバス」（本科）に掲載され，学生や教職員への周知が図られている。本科と専攻科の接続に配慮した「生産・情報基礎工学プログラム」の「学習・教育到達目標」は，専攻科の「学習・教育到達目標」と同じであり，「シラバス」（本科）に掲載されている。専攻科における「専攻科修了者像」，「教育の目的」，「各専攻の目的」及び「学習・教育到達目標」は，「専攻科学習の手引・シラバス」に掲載され，専攻科生及び教職員への周知が図られている。また，専攻科の「学習・教育到達目標」は，「学校概要」，「学生便覧」及び「専攻科学習の手引き・シラバス」に掲載されている。これらをまとめると表１－２－①－１のようになる。

表１－２－①－１　目的が校内配布物に掲載されている状況

理念，方針，目的など		学校概要	学生便覧	シラバス（本科）	専攻科学習の手引・シラバス
教育理念		◎	◎	◎	◎
教育方針		◎	◎	◎	◎
本校の目的		◎	◎	◎	－
準学士課程	教育の目的	◎	◎	◎	－
	学習・教育到達目標	◎	◎	◎	－
	学科の目的	◎	◎	◎	－
専攻科課程（教育プログラム）	目的	◎	◎	－	－
	修了者像	－	－	－	◎
	教育の目的	－	－	－	◎
	各専攻の目的	－	－	－	◎
	学習・教育到達目標	◎	◎	（○）	◎

（注）◎：巻頭に抜き出して強調　○：本文中に記述

（分析結果とその根拠理由）

本校の「教育理念」，「教育方針」，「本校の目的」が「学校概要」，「学生便覧」，「本科のシラバス」に掲載されており，本校の構成員に十分周知されている。準学士課程にける「教育の目的」，「学習・教育到達目標」及び「学科の目的」は，「学校概要」，「学生便覧」，「シラバス」（本科）に掲載され，本校の構成員に十分周知されている。専攻科の「目的」は，「学校概要」と「学生便覧」に掲載され，専攻科における「専攻科修了者像」，「教育の目的」，「各専攻の目的」及び「学習・教育到達目標」は，「専攻科学習の手引・シラバス」に掲載され，本校の構成員に十分周知されている。

観点１－２－②：　目的が，社会に広く公表されているか。

（観点に係る状況）

社会への公表は，資料１－２－②－１に示すように，インターネットを通じてウェブページ上で公表している。また，資料１－２－②－２及び３に示す通り，本科学生，編入学生及び専攻科学生の「募集要項」，並びに，「学校概要」に明示することにより，広く社会に公表している。

資料１－２－②－１

教育目的と学生像

本校の教育理念

広く工学の基礎と教養を身につけ、問題発見・解決能力、創造力を有し、地域・社会の発展に寄与できる国際感覚豊かな実践的開発型技術者を育成する。

本校の目的

舞鶴工業高等専門学校は、 教育基本法（平成18年法律第120号）及び学校教育法（昭和22年法律第26号）に基づいて、 深く専門の学芸を教授し、職業に必要な能力を育成することを目的とし、その目的を実現するための教育を行いその成果を広く社会に提供することにより、社会の発展に寄与するものとする。

本校の教育方針

1. 実験・実習、 演習、 ものつくりを重視する
2. 基礎に立ち返って考えさせる
3. 自ら学ぼうとする意欲を育てる
4. 豊かな教養と国際性を育む

準学士課程の目的

準学士課程は、専門分野の基礎知識を修得し、社会の変化やニーズに対応した製品やシステムをつくり出す能力と、豊かな人間性・国際性を兼ね備えた実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

各学科の人材養成の目的

（1）機械工学科

あらゆるものづくりの基礎となる、機械工学の基礎知識と技術を習得し、環境とエネルギーに配慮できる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

（2）電気情報工学科

電気・電子工学及び情報・通信工学の分野の基礎知識と技術を習得し、環境とエネルギーに配慮できる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

（3）電子制御工学科

電子・機械システム及び制御・情報技術を幅広く修得し、それらを融合したメカトロニクス技術分野において、環境とエネルギーに配慮した設計・開発・管理運営ができる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

（4）建設システム工学科

安全で快適な社会の創造とそのための基盤を、計画・建設・維持する基礎知識と技術を習得し、環境とエネルギーに配慮できる実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

専攻科課程の目的

専攻科課程は、高等専門学校の基礎の上に、精深な程度において工業に関する高度な専門知識及び技術を教授し、その研究を指導することを目的とする。

（出典　舞鶴工業高等専門学校ウェブページ）

資料１－２－②－１の続き

学習・教育到達目標（準学士課程）

A.　自然科学と工学の基礎を身につける。
B.　専門分野の基礎知識を修得し，技術の実践に応用できる。
C.　修得した知識を統合し，製品やシステムを考案できる。
D.　実験・実習・演習により現象の理解を深め，実践力を身につける。
E.　技術者に必要な人間性，国際性，協調性及び英語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける。
F.　技術が自然や社会に与える影響を理解し，技術者としての倫理観を身につける。
G.　課題の提案・報告などを適切にまとめ，発表できる。
H.　コンピュータを技術の実践に活用できる。
I.　責任を自覚し，互いに協力し合い，チームの目的達成に貢献できる。
※ただしＩは平成25年度準学士課程第1～4学年に適用する。

学習・教育到達目標（専攻科課程）

A.　自然科学と工学の基礎を幅広く修得し，それを応用することができる。
B.　専門分野の基礎知識を修得し，それを実際の技術の問題に応用することができる。
C.　修得した知識を統合して，社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発する創造的能力と意欲を有する。
D.　実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる。
E.　豊かな人間性，国際性，協調性及び英語によるコミュニケーション能力を身につける。
F.　技術が持つ地球的，社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し，説明することができる。
G.　課題の提案・報告などを効果的に記述し，説明することができる。
H.　コンピュータをはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる。
I.　責任を自覚し，互いに理解・協力し合い，チームの目的達成のために能力を発揮できる。
※ただしＩは平成27年度入学者から適用する。

■ アクセス　■ お問い合わせ　■ サイトマップ　■ このサイトについて　■ 個人情報の保護について　■ 各種証明書発行　■ 教職員募集
独立行政法人　国立高等専門学校機構　舞鶴工業高等専門学校
〒625-8511　京都府舞鶴市字白屋234番地　電話(代表)/Telephone : 0773-62-5600　ファクシミリ(代表)/Facsimile : 0773-62-5558
Copyright(c) Maizuru National College of Technology All Rights Reserved.　サイト内の記事・写真・イラスト等の無断掲載・転用を禁じます。

（出典　舞鶴工業高等専門学校ウェブページ）

資料１－２－②－１の続き

専攻科
電気・制御システム工学　Electric and Control System Engineering Course

「大学院への進学、学士として産業社会で活躍．．．さらなる可能性が広がります」

専攻科制度

より深い専門的知識と幅広い視野を持った技術者育成を目的とし、本科課程による5年間の実践教育をベースに、引き続き2年間研究できる課程が、専攻科として平成12（2000）年に設置されました。ここでさらに専門分野の知識と技術を深め、問題解決能力を養い、国際社会で力を発揮できる豊かな人間性・創造性を備えた中核的技術者になるための研究を指導します。

高等専門学校専攻科への入学資格

- 高等専門学校を卒業した者
- 短期大学を卒業した者
- 専修学校の専門課程を修了した者のうち、学校教育法第82条の10＊の規定により、大学に編入学できる者
- 外国において、学校教育における14年の課程を修了した者

＊学校教育法第82条の10専修学校の専門課程を修了した者（第56条に規定するものに限る）は、文部科学大臣の定めるところにより、大学に編入学する事ができる。

専攻科修了者像

専攻科では、次のような資質を備えた人材を育てようとしています。

1. 実践的な技術者として、幅広い工学の基礎と深い専門領域の学識を修得し、これらをエンジニアリングの実務と技術革新に活用できる。
2. 技術開発力のある技術者として、課題の発見とその解決に取り組む探究能力、粘り強いチャレンジ精神と独創力を身につける。
3. 21世紀の地球人として、多面的な視点から社会の様々な問題に関心をもち、そのあり方を問うことのできる素養と国際感覚を身につける。
4. 職業人として、人間性豊かな調和のとれた思考力と、それに基づく実行力を備え、自ら考え行動できる。

専攻科教育の目的

本校専攻科は、5年間にわたる一貫した実践教育の特徴を生かしながら、更に2年間の課程において、高度の学問と技術を追求し、創造性・人間性豊かで、より独創的技術開発能力を兼ね備えた中核的技術者の育成を目的とします。

教育体制

『電気・制御システム工学専攻』（2年制）は、本科の「電気情報工学科」と「電子制御工学科」を基盤とし、『建設・生産システム工学専攻』（2年制）は、本科の「建設システム工学科」と「機械工学科」を基盤としています。

電気・制御システム工学専攻

主として準学士課程の電気情報工学科、電子制御工学科で修得した基礎学力を基盤に、ソフトウェア、通信、電子回路、制御技術及びメカトロニクス等に係わる最新の教育を行い、電気機器、運輸、通信及び情報システム等の分野で活躍できる、設計・開発・管理能力を備えた電気・制御システム技術者の育成を目指します。

建設・生産システム工学専攻

主として準学士課程の建設システム工学科、機械工学科で修得した基礎学力を基盤に、先端材料、水圏環境、動的設計及びシステム設計等に係わる最新の教育を行い、都市建設システムおよび機械生産システム等の分野で活躍できる、独創性豊かな研究開発型の建設・生産システム技術者の育成を目指します。

（出典　舞鶴工業高等専門学校ウェブページ）

資料１－２－②－１の続き

機械工学科

工業の基礎を支える技術と知識と総合的な応用力を養います。

機械工学科の詳しいページ

学習内容：こんなことを学びます

様々な機器・機械がなぜ動くのか、そのしくみを研究し、理論を学び、製作をします。これらに必要な機械工学の基礎知識とともに、最新のコンピュータ支援技術や機械制御技術を学び、理論と現象を正確に理解しながら、事態を的確に判断し、実行に移せる行動力を持った技術者の育成を目指します。

職業像　：例えば、こんな職業に就くための技術を身につけます

あらゆる製品や生産設備の開発・設計の分野で活躍できるエンジニア

期待される学生像　：こんな人が向いているでしょう

- 「ものつくり」が好きな人、関心がある人
- 「自動車」が好きな人、関心がある人
- 「ロボット」が好きな人、関心がある人
- 体が不自由な人のための福祉機械に興味がある人
- できるだけエネルギーを使わない機械を作りたい人
- 資源のリサイクルに関心のある人
- 世の中を便利で快適にする機械を作りたい人

技術的な取り組み

ファクトリーオートメーションシステムの開発

連続してものを作るラインを、自分の手で生み出す知識と技術を身に つけます。
具体的に機械や部品に触れながら学ぶことが、工学の基 本であり、ものつくりの楽しさの原点です。

介助用椅子の開発

車が前に進む力をハンドル部分で得て、モータで補助力を発生させる ため、この「補助動力式介助用車椅子」は、介助する人の押し出す力 が少なくてすみます。福祉機器の開発を通じて、身体が不自由な方々 の生活を改善するためにできることは何かを考えていきます。

創造設計製作

自分のアイディアに基づいて実際に設計し、製図を作成してそれをも とに工作し、組み立てて試運転し、成果を発表します。設計したものが かたちになるプロセスや、目的を満たしているかを確認する作業を楽し く体感します。

主な専門科目

材料力学、水力学、熱力学、情報処理、ロボット工学、工作実習、 機械工学実験、インターンシップ、卒業研究etc...

■ アクセス　■ お問い合わせ　■ サイトマップ　■ このサイトについて　■ 個人情報の保護について　■ 各種証明書発行　■ 教職員募集
独立行政法人　国立高等専門学校機構　舞鶴工業高等専門学校
〒625-8511　京都府舞鶴市字白屋234番地　電話(代表)/Telephone：0773-62-5600　ファクシミリ(代表)/Facsimile：0772-62-5558
Copyright(c) Maizuru National College of Technology All Rights Reserved.　サイト内の記事・写真・イラスト等の無断掲載・転用を禁じます。

（出典　舞鶴工業高等専門学校ウェブページ）

資料１－２－②－１の続き

電気情報工学科

最先端のエレクトロニクスと情報通信ネットワークの技術を身につけます。

電気情報工学科の詳しいページ

学習内容：こんなことを学びます

最新の情報技術の高度化に必要な電気工学の専門知識を基礎から着実に学び、それらを基盤に、電気回路、電気磁気学、情報処理など、電気・電子・情報・通信系を中心に、幅広い分野の勉強をします。電気情報工学科には専用のコンピュータシステムがあり、校内LANとつながっていて教育・実習・研究にたいへん役立っています。

職業像　：例えば、こんな職業に就くための技術を身につけます

電気・電子関連の幅広い分野で活躍できる技術者、情報技術者、研究者

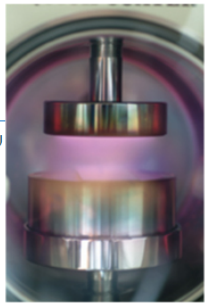
期待される学生像　：こんな人が向いているでしょう

- 電気・電子、情報・通信分野に関心がある人
- ハードウェア、ソフトウェアなどの製作ができるようになりたい人
- 「自分の意志」を抱いて、基礎科目を継続的に学習できる人

技術的な取り組み

無線LANによる回転台制御

無線LANを用いてWebカメラの回転台を制御するシステムを構築してい ます。無線LANを使えば、ネットワークケーブルを引けない場所でも広 範囲に観察できます。ネットワークなどを電気機器などと組み合わせて システム化すると、さらに有意義で役に立つ情報が得られます。



電気抵抗ゼロの応用研究

マイナス196℃の液化窒素に浸すと電気抵抗が消えるという高温超電導 体の特性を利用すると、強い磁界を発生してリニアモーターカーを浮上 させることができます。研究室では電力ネットワーク機器の省エネルギ ー化を目的とした高温超電導体の高性能化の研究をしています。

ダイヤモンドの応用研究

ダイヤモンドを用いた電子部品の研究を通して、様々な材料の性質を調べ ます。電気の特性をうまく利用して電子部品をつくり、その性能が正しく 表れているかどうかを確認し、電子測定機による電気的・光学的評価を 行っています。

電気工学実験

電気電子技術者にとって「回路図を読む力」「自分で回路図を作成して他 者に説明できる力」、つまり製図に関する知識や作成能力は必須条件で、今やエンジニアの国際共通言語です。制限時間を設けて製図を早く作成 するトレーニングなどを行い、習熟度を深めています。

主な専門科目

電気磁気学、電気回路、情報処理、計算機工学、通信工学、 電気工学実験、工学基礎研究、インターンシップ、卒業研究etc...

■ アクセス　■ お問い合わせ　■ サイトマップ　■ このサイトについて　■ 個人情報の保護について　■ 各種証明書発行　■ 教職員募集
独立行政法人　国立高等専門学校機構　舞鶴工業高等専門学校
〒625-8511　京都府舞鶴市字白屋234番地　電話(代表)/Telephone : 0773-62-5600　ファクシミリ(代表)/Facsimile : 0773-62-5558
Copyright(c) Maizuru National College of Technology All Rights Reserved.　サイト内の記事・写真・イラスト等の無断掲載・転用を禁じます。

（出典　舞鶴工業高等専門学校ウェブページ）

資料１－２－②－１の続き

電子制御工学科

メカトロニクス周辺分野に幅広く精通できる力を養います。

電子制御工学科の詳しいページ

学習内容：こんなことを学びます

本学科では、電子・電気・機械・情報系の工学技術、制御・計測技術などの専門分野が融合したメカトロニクス系技術分野の専門科目を、基礎から応用までバランスよく勉強します。また、電子制御工学科教育用電算機システムを用いて、CAD、回路設計、制御系設計、プログラミングなど、ロボットの設計製作に関連するコンピュータ演習やシミュレーションを行っています。

職業像　：例えば、こんな職業に就くための技術を身につけます

メカトロニクス系工業製品や、それらの生産システムを開発・設計できる技術・知識・良識を持ったエンジニアの育成を目的としています。

期待される学生像　：こんな人が向いているでしょう

- ロボットの制御や操作に興味がある人
- コンピュータグラフィックやデザインに興味のある人
- “もののしくみ”に興味を持ち、好奇心旺盛な人

技術的な取り組み

風力発電機の制御

環境問題を視野に入れ、風力発電の風扇特性を最大限に活用して最適な風扇回転数に合わせるようにコンピュータで計測・演算し、回転数を制御することで従来の風力発電機より効率の高い発電を目指します。
さらに、最新の電気機器などを関連企業と共同で商品化に向けて研究開発しています。

電子制御実験

メカトロニクスの基盤となる電気・電子工学の基礎を体験的に学習し、実験装置の適切な扱い方や現象を理論的に考察する能力を養います。

歩行ロボットの制御

機械的に動く2足歩行ロボットなどをコンピュータで制御することを目指し、ソフトウェアとハードウェアの両方を扱い、身近で安価なセンサやアクチュエータでシステムを構築しています。
人間の目や耳などのセンサと手や足のアクチュエータとコンピュータとの関係を身近に感じることができます。

ツインローター・ヘリコプタの制御

ツインローター・ヘリコプタは、前後のプロペラでヘリコプタ 本体の上昇・旋回角度を制御する実験装置です。
本研究では、様々な状況の変化に応じた、高性能な制御の実現を目指しています。

主な専門科目

応用数学、ロボット工学、電子回路、制御工学、 電子制御実験、制御回路実験、CAD演習、計測工学、卒業研究etc...

■ アクセス　■ お問い合わせ　■ サイトマップ　■ このサイトについて　■ 個人情報の保護について　■ 各種証明書発行　■ 教職員募集
独立行政法人　国立高等専門学校機構　舞鶴工業高等専門学校
〒625-8511　京都府舞鶴市字白屋234番地　電話(代表)/Telephone : 0773-62-5600　ファクシミリ(代表)/Facsimile : 0773-62-5558
Copyright(c) Maizuru National College of Technology All Rights Reserved.　サイト内の記事・写真・イラスト等の無断掲載・転用を禁じます。

（出典　舞鶴工業高等専門学校ウェブページ）

資料１－２－②－１の続き

建設システム工学科

地下から宇宙までの広い領域で活躍できる技術と知識、高度な設計能力を身に付けます。

建設システム工学科の詳しいページ

学習内容：こんなことを学びます

人が豊かで安全な社会生活を営むために必要な、道路、鉄道、橋、河川、港湾などを建設する都市環境（土木）技術者と、住宅や公共の建物を建設する建築技術者の育成を目指しています。1～3年次は建設システム工学の基礎である工学基礎系科目を学びます。4年次からコース制になり、都市環境科目履修コースと建築科目履修コースに分かれて学習します。

職業像　：例えば、こんな職業に就くための技術を身につけます

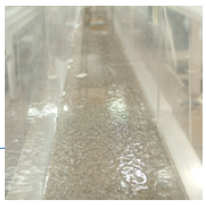
都市環境科目履修コースの卒業生：建設会社、官公庁、コンサルタントなどの技術者
建築科目履修コースの卒業生：建設会社、工務店、建築設計事務所などの技術者
期待される学生像　：こんな人が向いているでしょう

- 自然環境と調和した街づくりに関心のある人
- 災害に強く、安全な社会環境づくりに興味を持っている人
- 建設技術に関する知識を修得し、地域社会の発展に関わりたい人

技術的な取り組み

水理実験

河川環境に配慮した川づくりのあり方を検討するため、水を流して土砂が流れる様子を調べる水理実験を行い、河床の瀬や淵が変化する際の特性を研究しています。
講義で学習した水理現象を目視と測定で確かめ、理論と比較検討します。
実験と実際の河川での現象について考えていきます。



コンクリート材料実験

建設システム工学実験（材料実験）では、セメント硬化体の強度試験を行っています。
建設が人の生活基盤を支えるために必要不可欠な技術であることを把握し、設計や施工など、将来の職業に活かせられるよう、建材の基本的な性質を実験を通して正しく理解していきます。

卒業研究

卒業研究は５年間の総まとめで、各教員に3～4名の学生が配属され研究課題に取り組みます。指導教員とのふれあいを通して物の見方や考え方、技術者としての素養を身につけます。成果は卒業研究発表会で口頭発表し、論文にまとめて提出します。
普段の授業では得られなかった成果を得て、大きく成長します。

主な専門科目

CAD、構造力学、耐震工学、水理学、地盤工学、河川工学、都市計画、測量学、
建設材料学、 建設システム実験、測量実習、インターンシップ、卒業研究etc…

■ アクセス　■ お問い合わせ　■ サイトマップ　■ このサイトについて　■ 個人情報の保護について　■ 各種証明書発行　■ 教職員募集
独立行政法人　国立高等専門学校機構　舞鶴工業高等専門学校
〒625-8511　京都府舞鶴市字白屋234番地　電話(代表)/Telephone : 0773-62-5600　ファクシミリ(代表)/Facsimile : 0773-62-5558
Copyright(c) Maizuru National College of Technology All Rights Reserved.　サイト内の記事・写真・イラスト等の無断掲載・転用を禁じます。

（出典　舞鶴工業高等専門学校ウェブページ）

資料１－２－②－２

舞鶴工業高等専門学校　入学案内

１．沿革概要

昭和 40年 4月　1日　国立学校設置法の一部を改正する法律が公布され，機械工学科２学級及び電気工学科１学級を置く舞鶴工業高等専門学校を設置
昭和 40年 4月 26日　開校式ならびに第１回入学式を挙行
昭和 45年 4月　1日　土木工学科１学級を増設
平成　2年 4月　1日　機械工学科２学級を機械工学科１学級，電子制御工学科１学級に改組
平成　6年 4月　1日　土木工学科を建設システム工学科に改組
平成 12年 4月　1日　専攻科(電気・制御システム工学専攻，建設・生産システム工学専攻)を設置
平成 12年 4月　7日　第１回専攻科入学式を挙行
平成 16年 4月　1日　電気工学科を電気情報工学科に名称変更
平成 16年 4月　1日　独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する高等専門学校となる
平成 18年 4月　1日　建設システム工学科に都市環境コースと建築コースを導入した

２．目的

舞鶴工業高等専門学校は，教育基本法及び学校教育法に基づいて，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とし，その目的を実現するための教育を行い，その成果を広く社会に提供することにより，社会の発展に寄与するものとする。

３．教育理念（育成すべき学生像）と教育方針

広く工学の基礎と教養を身につけ，問題発見・解決能力，創造力，国際感覚豊かな実践的技術者を育成することを教育理念とし，次のとおり教育方針を定めています。

Ⅰ　実験・実習，演習，ものつくりを重視する
Ⅱ　基礎に立ち返って考えさせる
Ⅲ　自ら学ぼうとする意欲を育てる
Ⅳ　豊かな教養と国際性を育む

４．学習・教育目標

(A)　自然科学と工学の基礎を身につける。
(B)　専門分野の基礎知識を修得し，技術の実践に応用できる。
(C)　修得した知識を統合し，製品やシステムを考案できる。
(D)　実験・実習・演習により現象の理解を深め，実践力を身につける。
(E)　技術者に必要な人間性，国際性，協調性及び英語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける。
(F)　技術が自然や社会に与える影響を理解し，技術者としての倫理観を身につける。
(G)　課題の提案・報告などを適切にまとめ，発表できる。
(H)　コンピュータを技術の実践に活用できる。

－ 8 －

（出典　平成２５年度本科学生募集要項
平成２５年度編入学生募集要項）

資料１－２－②－２の続き

５．学科の紹介

■機械工学科

本学科は，あらゆる産業の基幹となる機械工学科分野において，単なる「ものつくり」だけではなく，自然と調和のとれた高度の技術開発に貢献できる技術者の育成を目指しています。

① 系統化されたカリキュラムにより，機械工学の基礎から先端的機械技術に至るまでの幅広い分野の学習をします。

② 総合的な判断力や分析能力を高めるため，実験，実習，製図等の実践的科目を各学年に積極的に導入しています。

③ 情報系科目によって，問題の解決，装置の設計・開発のために効果的にコンピュータを活用できる能力を養います。

■電気情報工学科

本学科は，電気・電子・情報・通信の４分野を柱とする教育プログラムにより，将来の技術革新にも柔軟に対応できる能力をもつ技術者の育成を行っています。

① 燃料電池・可視光通信などの先端技術や，スマートグリッド・医用画像処理などの融合技術にも対応できるように，４分野の基盤技術を重点的に学習します。

② ４分野すべての実験・実習を幅広く複合的に行い，講義で学んだことを体験として確かめることができます。

③ 卒業研究・工学基礎研究により，４分野の知識を連携させる能力や，実践的な創造力・発想力を養います。

■電子制御工学科

本学科は，ロボットのような機械と電気を一体化させたメカトロニクス分野の製品，並びにそれらの生産システムを開発・設計できる，いわるゆ，メカトロニクス技術者の育成を目指しています。

① 「ものつくり」に従事する技術者に必要な，コンピュータや電気・電子工学及び機械工学に関する基礎科目を学習します。

② 電子回路やコンピュータをメカトロ製品に組み込むための技術を演習，実験を通して習得します。

③ 制御工学や情報工学などを応用し，メカトロ製品の高性能化，知能化を図ることのできる視野の広い技術者を育成します。

■建設システム工学科

本学科は，“都市環境コース”と“建築コース”のコース制が採用されています。

都市環境コース：道路，橋梁，トンネル，河川，パイプライン，地下開発などの社会基盤の建設や維持管理および都市の防災，地球環境の保全について学びます。

建 築 コ ー ス：建物や住宅の計画・設計・施工や都市環境の創造，建物の防災について学びます。

① ３年次までは共通授業で両コースの基礎を学び，４年次からコースに分かれてそれぞれの専門知識や技術を修得します。

② 両コースとも基礎学力の徹底修得と実験実習を重視し，地域社会に貢献できる都市環境技術者および建築技術者を育成します。

（出典　　平成２５年度本科学生募集要項
平成２５年度編入学生募集要項）

資料１－２－②－２の続き

８．「生産・情報基礎工学(Production and Information Engineering)」教育プログラムについて

本校では，国際的に通じる，より良い教育を進めるために「生産・情報基礎工学」教育プログラムを設けています。本教育プログラムは，本科４・５学年と専攻科１・２学年で構成される４年間の教育プログラムで，本科４学科と専攻科を１つにまとめたものです。

「生産・情報基礎工学」という名前は，ＩＴ成熟時代に即した「ものつくり」教育を目指しているという意味です。このプログラムのもと，カリキュラムは，工学基礎教育を基盤として，学生それぞれの目指す得意分野（専門）を学習していくように設計されています。また，幅広い工学の基礎を学べるように，いずれの学年においても専門共通科目を設定し，どの得意分野（専門）からも異分野の専門科目を学べるようにしています。

なお，この教育プログラムは平成16年度にＪＡＢＥＥの審査を受け認定されました。また，平成21年度にＪＡＢＥＥの継続審査が実施されました。

本教育プログラムを修了することにより，プログラム修了証書が授与され，技術士の一次試験が免除されます。また，必要な申請手続きを経て，技術士補の国家資格が取得できます。

「生産・情報基礎工学」教育プログラムは，次のとおり学習・教育目標を定めています。

(A) 自然科学と工学の基礎を幅広く修得し，それを応用することができる。
(B) 専門分野の基礎知識を修得し，それを実際の技術の問題に応用することができる。
(C) 修得した知識を統合して，社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発する創造的能力と意欲を有する。
(D) 実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる。
(E) 豊かな人間性，国際性，協調性及び英語によるコミュニケーション能力を身につける。
(F) 技術が持つ地球的，社会的影響の重要性と技術者の理論的責任を理解し，説明することができる。
(G) 課題の提案や報告などを効果的に記述し，説明することができる。
(H) コンピュータをはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる。

９．課外活動

学生の大半が寮生活をしていることもあって，クラブ活動は盛んに行われています。

文化系クラブでは各種コンテスト出場や演奏会の開催，体育系クラブでは各種の競技会に出場するほか，近畿地区や全国の高専体育大会に出場しています。

（クラブ）陸上競技，男子バスケットボール，女子バスケットボール，男子バレーボール，女子バレーボール，ソフトテニス，卓球，柔道，剣道，サッカー，硬式野球，ハンドボール，バドミントン，水泳，テニス，ローイング，弓道，空手道，フリークライミング，自動車，アマチュア無線，吹奏楽，プログラマーズ・コミュニティ，創造技術研究会，華道，デザコン，軽音楽

（同好会）ストリート・バスケット，フットサル，ボランティア，文学研究会，鉄道研究会，ＥＳＳ，マルチメディアリサーチ，シビックデザイン，合気道，パフォーマンス，ピタゴラ，雪上スポーツ

（出典　　平成２５年度本科学生募集要項
平成２５年度編入学生募集要項）

資料１－２－②－２の続き

舞鶴工業高等専門学校 専攻科入学案内

１．沿革概要

昭和40年4月 1日 国立学校設置法の一部を改正する法律が公布され，機械工学科2学級及び電気工学科1学級を置く舞鶴工業高等専門学校を設置
昭和40年4月26日 開校式ならびに第1回入学式を挙行
昭和45年4月 1日 土木工学科1学級を増設
平成 2年4月 1日 機械工学科2学級を機械工学科1学級，電子制御工学科1学級に改組
平成 6年4月 1日 土木工学科を建設システム工学科に改組
平成12年4月 1日 専攻科（電気・制御システム工学専攻，建設・生産システム工学専攻）を設置
平成12年4月 7日 第1回専攻科入学式を挙行
平成14年3月26日 専攻科棟新営工事竣工
平成16年4月 1日 電気工学科を電気情報工学科に名称変更
平成16年4月 1日 独立行政法人国立高等専門学校機構が設置する高等専門学校となる
平成18年4月 1日 建設システム工学科に都市環境コースと建築コースを導入した。

２．目的

専攻科は，高等専門学校の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し，その研究を指導することを目的とする。

３．教育の目的（育成すべき技術者像）

本校専攻科は，５年間にわたる一貫した実践教育の特徴を生かしながら，更に２年間の課程において，高度の学問と技術を追求し，創造性・人間性豊かで，より独創的技術開発能力を兼ね備えた中核的技術者の育成を目的とします。

４．各専攻の教育目的

（１）電気・制御システム工学専攻

主として準学士課程の電気情報工学科，電子制御工学科で修得した基礎学力を基盤に，ソフトウェア，通信，電子回路，制御技術及びメカトロニクス等に係わる最新の教育を行い，電気機器，運輸，通信及び情報システム等の分野で活躍できる，設計・開発・管理能力を備えた電気・制御システム技術者の育成を目指します。

（２）建設・生産システム工学専攻

主として準学士課程の建設システム工学科，機械工学科で修得した基礎学力を基盤に，先端材料，水圏環境，動的設計及びシステム設計等に係わる最新の教育を行い，都市建設システムおよび機械生産システム等の分野で活躍できる，独創性豊かな研究開発型の建設・生産システム技術者の育成を目指します。

（出典　平成２５年度専攻科学生募集要項）

資料１－２－②－２の続き

５.専攻科のアドミッションポリシー（入学者受入方針）

舞鶴工業高等専門学校専攻科では，優れた資質の技術者を養成するため，次のような入学者を期待しています。

（１）技術社会の中核を担う者として，社会で広く活躍し貢献していく意欲のある人。
（２）専攻科生としての自覚と確かな目標をもち，自主的に学習・研究する意欲が高く，十分な基礎学力を身につけている人。
（３）コミュニケーションの能力と物事を筋道立てて考察する力があり，自己の考えを適切に表現することができる人。
（４）しっかりとした社会性と倫理観をもち，そして自ら考え，適切に行動できる人。

６.「生産・情報基礎工学 (Production and Information Engineering)」教育プログラムについて

舞鶴工業高等専門学校では，国際的に通じる，より良い教育を進めるために「生産・情報基礎工学」教育プログラムを設けています。本教育プログラムは，本科４・５学年と専攻科１・２学年で構成される４年間の教育プログラムで，本科４学科と専攻科２専攻を１つにまとめたものです。

「生産・情報基礎工学」という名前は，ＩＴ成熟時代に即した「ものつくり」教育を目指しているという意味です。このプログラムのもと，カリキュラムは，工学基礎教育を基盤として，学生それぞれの目指す得意分野（専門）を学習していくように設計されています。また，幅広い工学の基礎を学べるように，いずれの学年においても専門共通科目を設定し，どの得意分野（専門）からも異分野の専門科目を学べるようにしています。

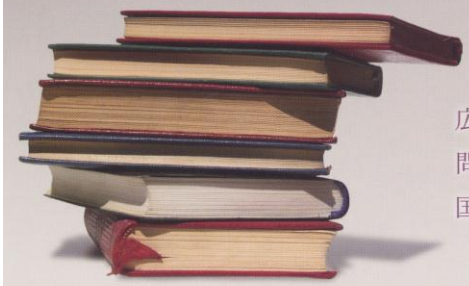
「生産・情報基礎工学」教育プログラムは，次のとおり教育目標を定めています。

(A) 自然科学と工学の基礎を幅広く修得し，それを応用することができる。
(B) 専門分野の基礎知識を修得し，それを実際の技術の問題に応用することができる。
(C) 修得した知識を統合して，社会に貢献できる製品やシステム設計・開発する創造的能力と意欲を有する。
(D) 実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる。
(E) 豊かな人間性，国際性，協調性及び英語によるコミュニケーション能力を身につける。
(F) 技術が持つ地球的，社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し，説明することができる。
(G) 課題の提案や報告などを効果的に記述し，説明することができる。
(H) コンピュータをはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる。

（出典　平成２５年度専攻科学生募集要項）

資料１－２－②－３

国立舞鶴工業高等専門学校



教育理念

広く工学の基礎と教養を身につけ、
問題発見・解決能力、創造力、
国際感覚豊かな実践的技術者を育成する。

教育方針

Ⅰ　実験・実習、演習、ものつくりを重視する
Ⅱ　基礎に立ち返って考えさせる
Ⅲ　自ら学ぼうとする意欲を育てる
Ⅳ　豊かな教養と国際性を育む

学習・教育目標

準学士課程

A. 自然科学と工学の基礎を身につける。
B. 専門分野の基礎知識を修得し、技術の実践に応用できる。
C. 修得した知識を統合し、製品やシステムを考案できる。
D. 実験・実習・演習により現象の理解を深め、実践力を身につける。
E. 技術者に必要な人間性、国際性、協調性及び英語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける。
F. 技術が自然や社会に与える影響を理解し、技術者としての倫理観を身につける。
G. 課題の提案・報告などを適切にまとめ、発表できる。
H. コンピュータを技術の実践に活用できる。

専攻科

A. 自然科学と工学の基礎を幅広く修得し、それを応用することができる。
B. 専門分野の基礎知識を修得し、それを実際の技術の問題に応用することができる。
C. 修得した知識を統合して、社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発する創造的能力と意欲を有する。
D. 実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる。
E. 豊かな人間性、国際性、協調性及び英語によるコミュニケーション能力を身につける。
F. 技術が持つ地球的、社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し、説明することができる。
G. 課題の提案・報告などを効果的に記述し、説明することができる。
H. コンピュータをはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる。

「生産・情報基礎工学」教育プログラムについて

本校では、国際的に通じる技術者教育を行うために、「生産・情報基礎工学」（英語名：Production and Information Engineering）教育プログラムを設けています。

技術者教育とは、基礎科目と専門科目を教授するだけではなく、豊かな人間性と独創性をもって、ものつくりに貢献できる人材を育成する教育です。本教育プログラムは、本科４・５学年と専攻科１・２学年で構成される４年間の教育プログラムで、本科４学科と専攻科を１つにまとめたものです。

この教育プログラムは、日本技術者教育認定機構（Japan Accreditation Board Engineering Education, JABEE）から技術者教育プログラムとしての認定を受けていますので、プログラム修了生には修了証書が授与され、技術士の一次試験が免除されるとともに、所定の手続を経て「技術士補」の国家資格が取得できます。

（出典　平成２４年度学校概要）

（分析結果とその根拠理由）

目的が本校のウェブページ，本科学生募集要項，編入学生募集要項，専攻科生募集要項及び学校概要に明示されており，広く社会に公表されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

教育理念や教育方針が本校の個性や特色に応じて明確に定められており，教育基本法及び学校教育法に基づいて「学校の目的」が定められている。準学士課程及び専攻科課程における教育の目的が明確に定められており，各学科の目的も明確になっている。さらに，準学士課程及び専攻科課程における学習・教育到達目標が定められている。専攻科においては各専攻の教育の目的も定められている。

（改善を要する点）

特になし

（３）基準１の自己評価の概要

学校の目的，教育理念や教育方針が明確に定められており，教育課程毎の教育の目的や学習・教育到達目標が定められている。また学科毎や専攻毎の目的も定められている。これらの目的は，教職員や学生に十分周知されており，本校ウェブページや学生募集要項，並びに「学校概要」を通じて，広く社会に公表されている。

基準２　教育組織（実施体制）

（1）観点ごとの分析

観点２－１－①　学科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校は学則第１条に定められた目的のもとに，機械工学科，電気情報工学科，電子制御工学科，建設システム工学科の４学科を設置している（資料２－１－①－１）。機械工学科ではあらゆる「ものつくり」の基盤をなす機械工学科，電気情報工学科では電気電子工学と情報通信工学，電子制御工学科では実践的なメカトロニクス技術，建設システム工学科では生活基盤建設整備のための技術を学ぶ。学科の構成は工学の幅広い分野にわたっている。平成１８年度から建設システム工学科に都市環境科目履修コースと建築科目履修コースを開設して社会のニーズに対応させ，教育目的達成の上でより適切なものとなった。

資料２－１－①－１

舞鶴工業高等専門学校学則

学則第１条　舞鶴工業高等専門学校は，教育基本法及び学校教育法に基づいて，深く専門の学芸を教授し，職業に必要な能力を育成することを目的とし，その目的を実現するための教育を行いその成果を広く社会に提供することにより，社会の発展に寄与するものとする。

学則第１２条　学科，学級数及び入学定員は，次のとおりとする。

学　　科	学 級 数	入 学 定 員
機械工学科	1	４０人
電気情報工学科	1	４０人
電子制御工学科	1	４０人
建設システム工学科	1	４０人

（出典　平成２５年度学生便覧3,5頁）

（分析結果とその根拠理由）

本校は学則第１条に定められた目的のもとに，４つの専門学科を設置している。この構成は高等専門学校設置基準（第５条）に適合している。

以上のことから，本校の学科構成は，教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点２－１－②　専攻科を設置している場合には，専攻科の構成が，教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校には専攻科が設置され，電気・制御システム工学専攻と建設・生産システム工学専攻の２専攻が置かれている。前者は，本科の電気情報工学科と電子制御工学科を基盤に，後者は，建設システム工学科と機械工学科を基盤にして，それぞれの工学分野のより精深で高度な事項を教授し，研究を指導することを目的にしている。修業年限は２年である。

資料２－１－②－１

舞鶴工業高等専門学校学則

学則第４０条　専攻科課程は，高等専門学校の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門知識及び技術を教授し，その研究を指導することを目的とする。

学則第４１条　専攻科の修業年限は，２年とする。ただし，４年を超えて在学することはできない。

学則第４２条　専攻科の専攻及び入学定員は，次のとおりとする。

専　　攻	入 学 定 員
電気・制御システム工学専攻	８　人
建設・生産システム工学専攻	８　人

（出典　平成２５年度学生便覧12頁）

（分析結果とその根拠理由）

専攻科の構成は，本科の４つの専門学科を基礎にしており，本校の目的に整合し，学校教育法第19条の規定に適合している。

以上のことから，本校の専攻科の構成は，教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点２－１－③　全学的なセンターを設置している場合には，それらが教育の目的を達成する上で適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校には，全学的センターとして情報科学センター，地域共同テクノセンターおよび教育研究支援センターが設置されている。

情報科学センターは校内ＬＡＮを支える施設として，ネットワークの整備・構築，保守と維持の活動を通じて，本校の教育課程を効果的に展開し，また研究活動を行うために不可欠なインフラ維持改善のために機能している。さらに，基礎情報教育や専門の情報処理教育に利用されている（資料２－１－③－１）。情報科学センター施設内に 50 台のコンピュータがあるほか，マルチメディア教室（図書館３階）に 48 台，電子制御工学科棟３階（CAD/CAM 室）に 52 台，専攻科棟２階の情報演習室に 30 台のコンピュータがあり，授業に活用されている（資料２－１－③－２）。情報科学センター施設は放課後であっても，利用申請をすれば，平日午後 10 時まで学生が自由に利用できる（資料２－１－③－１）。また，e-learning システムが導入され，学生は情報科学センター端末から英語の自主学習ができるようになっている。地域共同テクノセンターは地域企業との共同研究を円滑に行うための中核施設である（資料２－１－③－３）。その目的どおりに共同研究の場として利用されているほか，教育目的として特許講習会の企画，学生の卒業研究，専攻科生の特別研究の場として利用されている（資料２－１－③－４）。

教育研究支援センターは全学的な教育・研究に関し，技術に係わる専門的業務を組織的かつ効率的に支援する組織である。技術職員が中心となり，本校の教育および研究活動を支援する重要な業務を担っており，また支援業務に対する研鑽を積んでいる（資料２－１－③－５・６）。

資料２－１－③－１

舞鶴工業高等専門学校情報科学センター利用細則

第２条　センター及びネットワークは，次の各号に掲げる研究及び業務等に利用することができる。

(1)　学生に対する情報処理教育
(2)　学生の実験・演習及び研究
(3)　教職員の研究
(4)　事務管理
(5)　その他センター長が特に必要と認めた業務

（出典　平成２５年度学生便覧109頁）

資料２－１－③－２

平成25年度　情報科学センター　時間割

		月								火								水							
		1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
		8:50～9:35	9:35～10:20	10:30～11:15	11:15～12:00	12:45～13:30	13:30～14:15	14:25～15:10	15:10～15:55	8:50～9:35	9:35～10:20	10:30～11:15	11:15～12:00	12:45～13:30	13:30～14:15	14:25～15:10	15:10～15:55	8:50～9:35	9:35～10:20	10:30～11:15	11:15～12:00	12:45～13:30	13:30～14:15	14:25～15:10	15:10～15:55
情報科学センター	前期	C言語 2E 小野澤		C言語演習 3E 小野澤		ネットワーク論 Ⅰ・Ⅱ 4年共通 舩木		建設設計製図Ⅰ 4C 尾上・加登		建設製図制作 3C 尾上・宮元・加登・徳永・坂本								システム 制御工学 1ES 川田		オペレーティング システムⅠ・Ⅱ 5E 舩木		工学基礎 1E 片山・井上			
	後期	コンピュータ グラフィックス 2E 舩木		インターフェースⅡ 3E 中川				ディジタル 信号処理 4E 中川										CAD演習ⅠB 3S 仲川							
マルチメディア室 （図書館3F）	前期	情報処理Ⅱ 4C 渡部		設計製図ⅡA 3M 豊田・村上（信）		建設設計製図 ⅡA 5C 尾上・岡本					構造解析 5C 高谷							測量実習 2C 渡部・栗野		測量学ⅠA 2C 栗野		現代日本の 経済と法Ⅰ・Ⅱ 5年共通 児玉			
	後期	設計製図ⅡB 3M 豊田・村上（信）		設計製図Ⅲ 4M 鈴木・生水		建設設計製図 ⅡB 5C 宮元・岡本					設計製図Ⅲ 4M 鈴木・生水														
CAD/CAM室 （制御棟3F）	前期	技術英語Ⅰ 5S 奥村（幸）		画像処理Ⅰ 5年共通 奥村（幸）		数値計算法 Ⅰ・Ⅱ 4S 川田		CAD演習ⅡA 5S 金森		電子制御実験Ⅰ・Ⅱ 3S 前：仲川・伊藤 後：町田・石川・新任								情報処理Ⅳ 3S 仲川		CAD演習ⅡB 5S 町田		工学基礎 1S 川田			
	後期	創造設計プロジェクト 4S 仲川・町田						CAD演習ⅡC 5S 仲川																	

		木								金							
		1	2	3	4	5	6	7	8	1	2	3	4	5	6	7	8
		8:50～9:35	9:35～10:20	10:30～11:15	11:15～12:00	12:45～13:30	13:30～14:15	14:25～15:10	15:10～15:55	8:50～9:35	9:35～10:20	10:30～11:15	11:15～12:00	12:45～13:30	13:30～14:15	14:25～15:10	15:10～15:55
情報科学センター	前期	情報リテラシー 1-1 小野澤		情報リテラシー 1-4 小野澤						情報リテラシー 1-3 小野澤		情報リテラシー 1-2 小野澤		耐震工学A 5年共通 高谷		電気概論 1E 金山・芦澤	
	後期	情報処理Ⅰ 1S 伊藤								信号処理特論 1ES 町田				数値解析実習 3E 片山			
マルチメディア室 （図書館3F）	前期													シミュレーション 工学Ⅰ・Ⅱ 5年共通 丹下			
	後期	数値解析 4年共通 高谷								情報処理Ⅰ 3C 渡部							
CAD/CAM室 （制御棟3F）	前期	情報処理Ⅱ 2S 伊藤								電子計測実験 4S 奥村（幸）・野間				情報学Ⅰ・Ⅱ 5年共通 伊藤		CAD演習ⅠA 3S 仲川	
	後期									制御工学実験 5S 川田・新任						情報処理Ⅲ 2S 仲川	

（出典　学生課資料）

資料２－１－③－３

○舞鶴工業高等専門学校地域共同テクノセンター規程

第２条　センターは，産学官の共同研究の推進及び地域産業との連携並びに発展に寄与するとともに，本校における教育研究の向上発展に資することを目的とする。

第４条　センターは，次の各号の業務を行う。

(1) 地域産業界等との共同研究，技術交流推進に関すること。

(2) 地域に開かれた体験教育等に関すること。

(3) 総合技術開発力のある学生の育成に関すること。

(4) 学科の枠を超えた横断的な研究及び協力支援に関すること。

(5) その他センターの管理運営に関すること。

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集 ）

資料２－１－③－４

地域共同テクノセンター使用状況

年度	使用目的	使用年月日	使用人数	使用者
H24	２軸ロボット並びに倒立振子制御系解析/設計	10 月 19 日～1 月 11 日	毎週 16 名	川田昌克
	走査電子顕微鏡を用いた試料表面の微細構造の観察	4 月～12 月	2,3 回/月 3 名	内海淳志
	3 次元形状測定	4 月～12 月	毎週火木 3 名	小林洋平
	癌治療装置の開発	4 月～3 月	毎週火木 4 名	丹下　裕
	テクノセンター運営委員会＃1	H24. 5. 9	委員 10 名	平地克也
	テクノセンター運営委員会＃2	H24. 6.27	委員 10 名	平地克也
	テクノセンター運営委員会＃3	H24.10.31	委員 10 名	平地克也
	テクノセンター運営委員会＃4	H24.11.28	委員 10 名	平地克也
	テクノセンター運営委員会＃5	H25. 1.30	委員 10 名	平地克也
	テクノセンター運営委員会＃6	H25. 2.27	委員 10 名	平地克也

（出典　地域共同テクノセンター資料）

資料２－１－③－５

○舞鶴工業高等専門学校教育研究支援センター規程

（趣旨）

第１条　独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第１２条及び舞鶴工業高等専門学校教員組織規程（平成１８年４月１日施行）第２条第２項の規定に基づき，舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）教育研究支援センター（以下「センター」という。）に関し，必要な事項を定める。

（目的）

第２条　センターは，本校の各学科，図書館，情報科学センター及び地域共同テクノセンターが行う教育・研究に関し，技術に係わる専門的業務を組織的かつ効率的に支援することを目的とする。

（業務）

第３条　センターにおいては、次の支援業務を行う。

(1) 実習指導計画の立案及び指導に関すること。

(2) 実習工場の管理運営に関すること。

(3) 実習用機械器具類の保守管理に関すること。

(4) 実習工場の災害事故防止に関すること。

(5) 実習の調査統計及び報告に関すること。

(6) 学校運営における学務業務に関すること。

(7) その他実験実習に関すること。

第４条　センターは，第１技術部門及び第２技術部門の２部門で構成する。

２　各部門においては，次の業務を行う。

区　　分	
第１技術部門	機械工学科及び建設システム工学科の工学に関する技術的業務
第２技術部門	電気情報工学科及び電子制御工学科の工学に関する技術的業務

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集 ）

資料２－１－③－６

教育研究支援センター

教育研究支援センター長　　野間　正泰

教育研究支援センターでは，昨年度に引き続いて，教育支援ならびに研究レベルの向上，地域貢献等に関連して，さまざまな取り組みを行ってきた。研究面では，西川隼人技術職員の日頃の研鑽が実を結び，日本地震工学会の論文奨励賞を受賞したことが特筆に値する。この受賞により，他の技術職員も大いに刺激を受けたと考えている。

以下に，本年度，技術職員が取り組んだ活動および成果について報告する。

１．ホームページ開設

これまでの教育研究支援センターは，組織として単独のアウトプットがなかったので，地域や他高専，他大学に向けて情報発信することを目的に，教育研究支援センターのホームページを開設した。ホームページはセンター概要，センター技術職員全体と個人の活動報告，センター実施の公開講座や出前授業，メンバの担当業務の紹介等，から構成され，センターの活動が一覧できるようになっている。またホームページは技術職員各自の責任において積極的に更新され，出張報告，研修，研究会の報告等は概ね１週間以内に更新されている。

支援センターホームページ

２．出前授業

平成 24 年 5 月に地域貢献の一環として出前授業「魔法の鉛筆」を，[redacted]市立[redacted]小学校[redacted]年生を対象に行った。

本出前授業は子供たちに理科学体験を通して将来の夢を育むとともに，交流を深めることを目的に実施された。魔法の鉛筆は基板に電子部品をはんだ付けしていき，完成した鉛筆で引いた線上を指で触れていくと音が鳴り，線の太さや濃さによって音階が変わるものを製作した。

ほとんどの小学生が初めてはんだごてを使うということで，最初に技術職員が手本を見せた。その後，小学生が製作しはじめ，途中からは親子で協力して製作している様子が見られた。完成して鉛筆から音が鳴った瞬間は「鉛筆から音が鳴った。やった！」と驚きの声があがった。

43 名という大人数の受講生数で行ったが，全員が完成させ音を鳴らすことができた。受講者や保護者の方からは「理科や科学に興味が出てきた」，「舞鶴高専を進路の選択肢に考えたい」等の声が聞かれた。

出前授業　はんだづけの説明

３．公開講座

地域貢献の一貫として，昨年に引き続き公開講座「イルミネーションアクリルスタンドを作ろう！」を実施した。建設システム・機械・電子制御・電気情報の４学科の分野を取り入れた公開講座で，LED

（出典　舞鶴高専年報・第１０号・2013 年４月）

資料２－１－③－６続き

によってアクリル板が七色に光るスタンドを製作した。昨年度からの反省で土台部分のセメントが割れやすかったものを強化した。20 名の参加者は技術職員のサポートのもと，セメントで土台を作成し，CAD でデザインしたアクリルの模様を工作機械にて彫り込み，電子工作で回路を作成した。はんだづけが難しい部分もあったが，全員の作品が美しく彩られた光を灯すことができた。

公開講座　土台作り

公開講座　回路作り

公開講座　完成品

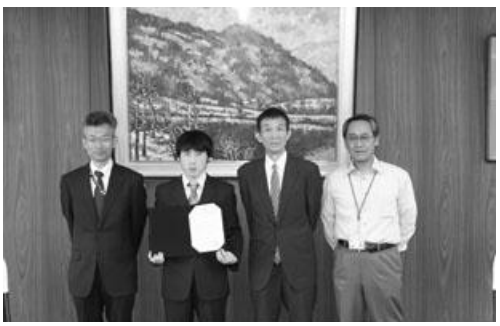
４．自己点検評価に基づく活動発表会

事務組織では，機構本部主導のもと自己点検評価の導入準備が進められている。技術職員は今のところ対象外ということなので，舞鶴高専教育研究支援センターで独自に自己点検評価を導入した。各技術職員が年度の初めに年度目標・計画をたて，年度の終わりに目標・計画がどの程度達成できたか，センター長および全技術職員に対して発表する。技術職員各個人の活動状況がお互いに理解することができた。

５．活動報告集の発刊

今年度から新たに活動報告集を発刊した。教育研究支援センターで取り組んできたことを掲載し，ホームページと同様に舞鶴高専内やその他の高専大学に配布することによって，教育研究支援センターがどのような組織で，どういう仕事をしてどういう方向性や将来性を持っているかをアピールすることができる。また他機関との情報交換や交流など相互活動のさらなる発展を期待するとともに，各技術職員が，この機会に自らの活動を見つめ直し，ステップアップや技術の向上に繋がることを目指す。

６．表彰・受賞



西川技術職員

平成 24 年 3 月 29 日，第 1 部門主任の西川隼人技術職員が，日本地震工学会 2012 年論文奨励賞を受賞した。受賞論文は，「2008 年岩手・宮城内陸地震における一迫，衣川震度観測点のフーリエスペクトルと応答スペクトルの推定，日本地震工学会論文集，第 11 巻，5 号，pp. 1-16，日本地震工学会，2011 年，西川隼人・宮島昌克」。日本地震工学会では，平成 18 年より，これからの我が国の地震工学を担う若手研究者や技術者の研究活動を奨励する意味で，論文奨励賞が設置されている。若手とは該当年 4 月 1 日現在で 35 歳以下が対象となり，公募ではなく過去 2 年に投稿された論文から選考される。西川技術職員の絶え間ぬ努力の成果と言える。

平成 24 年 9 月 24 日，釣技術専門職員が，平成 24 年度国立高等専門学校機構職員表彰を受賞した。表彰題目は「島嶼県沖縄における地域貢献活動としての科学コミュニケーション活動への取組み」である。釣技術専門職員は沖縄高専時代に他の技術職員と共に離島の小中学生を対象に，出前授業として科学や理科に関する実験や工作を行ってきた。それらの活動が認められて今回の受賞に繋がった。

（出典　舞鶴高専年報・第１０号・2013 年４月）

（分析結果とその根拠理由）

本校の情報科学センターは，授業に有効に利用されているだけでなく，放課後にも多くの学生に利用されており，教育を遂行するために不可欠のものとなっている。地域共同テクノセンターは，地域企業との共同研究を円滑に行うための中核施設であり，共同研究の場として利用されているほか，教育目的として特許講習会の企画，学生の卒業研究，専攻科生の特別研究の場としても利用されている。教育研究支援センターは，教職員および学生が教育・研究活動を遂行する上で重要な業務を担っており，それらは有効に機能している。

以上のことから，本校の全学的センターは教育の目的を達成する上で適切なものとなっている。

観点２－２－①　教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制及び教育課程を有効に展開するための検討・運営体制が整備され，教育活動等に係る重要事項を審議するなどの必要な活動を行っているか。

（観点に係る状況）

教育課程全体の企画調整と教育課程の有効な展開のための検討・運営体制の中心となっているのは，準学士課程については教務委員会，専攻科課程については専攻科委員会である(資料２－２－①－１)。

教務委員会は，概ね毎月１回開催され，教育活動に係る広範な重要事項を審議してきた。教育活動の改善に直接係わる評価委員会 FD・ICT 部会は，授業公開（平成１３年度後期より４学科・２部門でそれぞれ年２回，平成２２年度より年１回実施）と授業アンケート（平成９年度より通年・後期開講の全ての科目に実施，平成１６年度より前期開講科目にも拡大実施）を実施し、教育活動の改善に向けての検討・実施とフィードバックを行っている。平成１７年度より始めた授業参観型授業公開（２週間の期間内に教員各自が最低１回他の教員の授業を自由に参観し，自分の教育改善の参考とする）及び科目間連絡ネットワークの活動（観点２－２－②参照）の他，FD 講演会の企画・実施など，教育課程の改善と実施に向けての活動を行ってきた。専攻科委員会も概ね毎月１回開催され，専攻科課程の教育活動に係る広範な重要事項を審議してきた。上記委員会等の議事概要は訪問調査時の閲覧資料として提示する。

本校の継続的改善システムを円滑かつ効果的に機能させるために，平成２３年度より教育改善委員会を設置した（資料２－２－①－２）。教育改善委員会は教育プログラム（PIE）委員会および評価委員会で CHECK された事項について ACTION を行う役割を担っており，委員会が必要と認めるときは，各学科・部門および他の委員会に提議，付託または協力要請を行うことができる。

資料２－２－①－１

教務委員会規則

第３条　委員会は，校長の諮問に応じ，次の各号に掲げる事項について協議する。

(1) 教育課程の編成及び改廃に関すること。

(2) 学校行事に関すること。

(3) 授業時間割の編成に関すること。

(4) 学生の編入学及び進学に関すること。

(5) 定期試験及び学業成績に関すること。

(6) 課外教育に関すること。

(7) その他教務に関すること。

専攻科委員会規則

第３条　委員会は，校長の諮問に応じ，次の各号に掲げる事項について協議する。

(1) 教育課程の編成及び実施に関すること。

(2) 教育計画及び授業時間の編成に関すること。

(3) 入学者選抜に関すること。

(4) 入学，退学，転学，休学，復学及び修了に関すること。

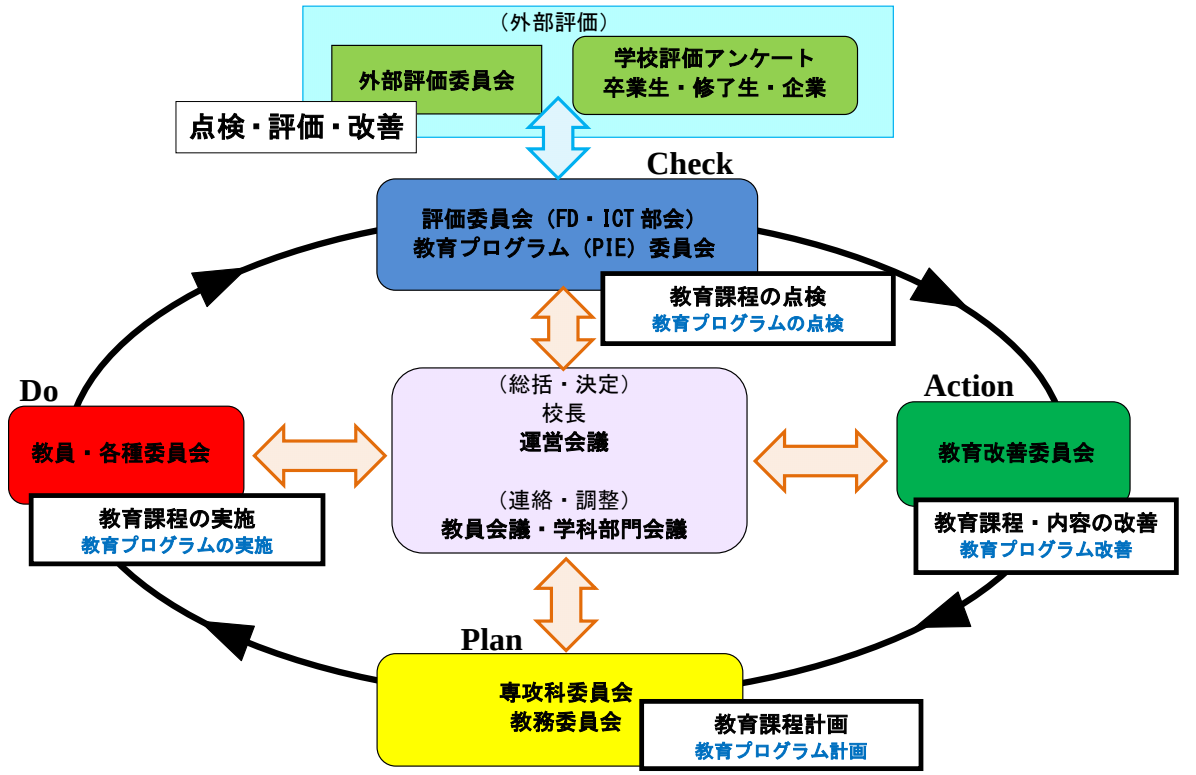
(5) 試験及び学業成績に関すること。

(以下，省略)

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集 ）

（資料２－２－①－２）

平成 24 年 10 月 9 日



（出典　舞鶴工業高等専門学校ウェブページ ）

（分析結果とその根拠理由）

本校では教務委員会と専攻科委員会が組織として整備され，教育課程に係る重要事項を審議し，企画・実施するなどの活動を行っている。また，FD・ICT 部会及び教育改善委員会等継続的改善システムを持ち，これにより実際に教育課程の改善に取り組んでいる。

以上のことから，教育課程全体を企画調整するための検討・運営体制と教育課程を有効に展開するための検討・運営体制は整備され，教育活動に係る必要な活動を行っている。

観点２－２－②　一般科目及び専門科目を担当する教員間の連携が，機能的に行われているか。

（観点に係る状況）

平成１７年度より科目群連絡ネットワークを構築して教員間の連携を強めるために，「科目群連絡会」に取り組んできた。平成２１年度より「教育連絡会議」に名称を改め，科目間連携の強化と教育改善に取り組むこととした。教員全体を１.グループＡ，２．グループＢ，３.グループＣ，４．グループＤの４つに分け（資料２－２－②－１），各グループの教育連絡会が前・後期１回ずつ実施されている。学科会議，専攻科委員会などで個々の問題点を抽出した上で，この連絡会を通じて複数の視点から議論を行い，その結果を学科会議，専攻科会議等を通じて教育現場にフィードバックすることで，専門学科だけでなく一般学科を含めて教育の質的向上に寄与することを目的としている。それぞれの連絡会での情報交換や話し合いは，各授業内容の相互理解を深め，授業科目相互の調整と連携を強め，教育効果を高める効果がある（資料２－２－②－２）。今後，教員間連携の一層の強化に効果を上げることが期待される。

（分析結果とその根拠理由）

本校においては，一般科目及び専門科目を担当する教員との連携は，従来から適宜機能的に行われてきたが，教員間の連携を強めるための「教育連絡会」を導入することにより組織的に連携を強化するようにしている。このように，一般科目及び専門科目を担当する教員との連携が，機能的に行われている。

資料２－２－②－１

平成２４年度　教育連絡会議　実施計画

FD･ICT 部会

１．連絡会議の趣旨

学科（専攻科），部門を超えて科目間の連携を密にし，また，教育改善に向けた検討を行うことにより，教育の質的向上に寄与することを目的とした連絡会議です。連絡会議のテーマは，人文科学系，自然科学系および専門工学系の科目間連携に関する内容を基本としていますが，さらに，教科教育，学習指導，生活指導等に関する内容を議論することによって，より高い教育効果を期待しています。

２．連絡会議の実施

以下の所属グループごとに連絡会議を行い，主査の教員はその報告を総務課総務係[redacted]までご提出下さい。

３．所属一覧

各自、自分の所属グループをご確認ください。

グループA		グループB		グループC		グループD	
H	三川　譲二	H	村上美登志***	H	宮崎　　操	H	Jonathan Kay
H	松井　信義*	H	荒川　吉孝	H	○吉永　進一	H	○児玉　圭司***
H	垂谷　茂弘***	H	田村　修一***	N	宮崎　昭仁***	N	岡田　浩嗣
N	背戸柳　実	N	○宮野　敏男*	N	梅垣　浩二***	M	野毛　宏文**
N	亀谷　　睦	M	生水　雅之**	N	小松　幸恵***	M	村上信太郎
M	西山　　等**	M	谷川　博哉*	N	上杉　智子***	M	室巻　孝郎
M	篠原　正浩	E	新池　一弘	N	奥村　昌司	E	芦澤　恵太**
E	平地　克也	E	金山　光一	M	山田耕一郎****	E	丹下　　裕**
E	中川　重康**	E	片山　英昭*	M	豊田　　香	S	伊藤　　聡**
S	○金森　　満	S	野間　正泰**	M	小林　洋平	S	石川　一平**
S	奥村　幸彦*	S	川田　昌克	E	竹澤　智樹	S	南　　裕樹
C	森尾　　敏	C	三輪　浩**	E	舩木　英岳****	C	徳永　泰伸**
C	高谷　富也	C	玉田　和也	E	内海　淳志	C	坂本　英輔
C	尾上　亮介*			S	町田　秀和		
				S	仲川　　力		
				S	清原　修二****		
				C	四蔵　茂雄**		
				C	宮元　健次****		
				C	加登　文学		

注　○・主査，H=人文，N=自然，各部門・学科内順不同。

＊　部門長・学科長，**　専門担任，*** 低学年担任，**** 副担任

（出典　総務課資料）

資料２－２－②－１　続き

1　具体的な検討テーマ

（1）コアカリキュラムの導入に関する学科・部門の現状について情報交換を行ってください（コアカリキュラムをどのように理解し，どのように対応するのか）。

（2）コアカリキュラムの導入・展開に際しての科目間連携のあり方についてご議論ください。

（3）学習や生活について問題があると思われる学生について、個別にご議論ください。

（4）その他、教育、カリキュラムに関するテーマについてご議論ください。

以上

（出典　総務課資料）

資料２－２－②－２

平成２４年１１月２０日

評価委員会委員長
太　田　泰　雄　殿

教育連絡会議主査
宮野 敏男　　印

下記のとおり、教育連絡会議の検討結果を報告します。

グループ名	グループＢ	開　催　日	平成２４年１１月０６日
出席者氏名	村上美登志，荒川 吉孝，宮野 敏男，生水 雅之，谷川 博哉，新池 一弘，金山 光一，片山 英昭，野間 正泰，川田 昌克（寮監のため途中退席），三輪 浩，玉田 和也，（欠席　田村 修一）		

（１）モデルコアカリキュラムへの対応の現状について

各学科・部門ともモデルコアカリキュラムの項目を現行のカリキュラムの各科目について該当の有無をチェック・確認している現状である。今後の導入・展開の方法の議論までにはいたっていない。（モデルコアカリキュラムの目指すものが不明確であるから仕方がないのかも知れない。）

その他の意見。

・モデルコアカリキュラムの項目が細かすぎてコアとは言えないのではないか。
もっとそぎ落とすべきである。本来の意味のコアとするべきである。
・モデルコアカリキュラムが強制力のあるものになると各学校の特色や独自性が失われる懸念がある。そのようなことがないような工夫が必要ではないか。
・モデルコアカリキュラムの項目が杜撰・分かりにくいものになっているものが見受けられる。
・専攻科や複合学科となっている学科には対応するようなモデルコアカリキュラムがない。
・モデルコアカリキュラムの項目が大学レベルの内容まで要求しているものが見受けられる。
高専は５年間の一貫教育で完結しているものとして，モデルコアカリキュラムの構築をするべきである。
・モデルコアカリキュラムの項目は科目のシラバス作成の参考になる。
・モデルコアカリキュラムの科学史を本校のカリキュラムに取り入れてはどうか。

（２）科目間連携について

卒業生や企業へのアンケート結果，また５年生の意見によれば，本校の英語教育が不十分という。学生の英語力を伸ばすために，科目間で連携してできることはないか，という問題提起があった。英語だけに限らず，他の科目も含めて学習の動機付けが大事であろうという意見から，教務関係の種々の事項の改善に話は及んだが，結論として収斂するものはなかった。

（３）個人情報に関するものなので省略

（４）特別支援教育のあり方に問題提起があった。該当学生に本当に必要な支援が何か，支援の仕方を工夫する必要があるのではないか。現行では有効な支援となっていない。今後，支援が必要な学生が増加すると予想されるので，特別支援教育の充実は重要である。

（出典　総務課資料）

観点２－２－③　教育活動を円滑に実施するための支援体制が機能しているか。

（観点に係る状況）

学級担任への支援として，教務委員会と学生課が毎年「学級担任のしおり」（資料２－２－③―１）を作成して配布している。まだ高専での生活に慣れていない１年生の教育活動を円滑に実施するために，平成１４年度から副担任制度を設け（資料２－２－③―２），１・２年生では学年ごとに担任会議を開催し（資料２－２－③―３，資料２－２－③―４）支援している。その他，４月には全学級担任で行う担任会議を開催している。また１年生から３年生で毎週１単位時間実施している特別活動について実施記録を作成している。また，担任は適宜校長以下教務・学生・寮務各主事等の助言・協力を得ることができるようになっている。１年生の入学直後に行われる新入生合宿研修も，担当クラスの学生をよく知ることができる絶好の機会となっており，１年生を担任する教員にとっての支援となっている。

課外活動の中心となるクラブ・同好会活動に対しては，原則として２名以上の顧問教員を配置するほか（資料２－２－③―５），学外からの専門コーチを配置し（資料２－２－③―６），また教員には変形労働時間制が導入されており，クラブ・同好会活動の指導時間の確保を図るなどの支援体制をとっている。

学級担任は，特別活動の他にも，教室清掃活動等の生活指導，学生との面談などを通じて，学生一人一人の個性と，その学習・課外活動，学校・寮での生活状況全般を把握し，また学生との交流を通じて学校に親しませ，学生が楽しくかつ有意義に学校生活を送れるように支援している。また学校と保護者との間の意思疎通のために，後援会支部総会の開催時の面談及び必要に応じての保護者と面談も実施しその目的を達成している。

クラブ活動は，学生が興味を持って取り組んでいる課外活動であり，顧問教員が指導・援助を行うことで学生との信頼関係を築く機会となっており，本校の教育活動への支援となっている。

（分析結果とその根拠理由）

学級担任とクラブ顧問等の活動は，学生が本校の教育目的の下で充実した学生生活を送るために重要な役割を果たしており，その活動を支援するための体制も整えられている。

以上のことから，教育活動を円滑に実施するための支援体制は機能している。

資料２－２－③―１

学級担任のしおり　目次(1)

目　　次

Ⅰ. 学級運営 …… 1
1. 前年度担任との引き継ぎ，同学年担任との連絡，専門学科との連絡，学年担任会議の開催
2. 留学生・編入生
3. 運営
4. 特別活動(1～3年生)
Ⅱ. 学級組織と教室 …… 1
1. 学級組織
(1)学生会クラス委員
(2)週番
(3)掃除当番
2. 教室
(1)座席配置
(2)設備・備品・机・椅子・壁等
(3)黒板・掲示板
(4)その他
Ⅲ. 学生の指導 …… 2
1. 学習指導
(1)日常の学習指導
(2)授業態度
(3)定期試験時の指導
(4)履修単位確認票(2～5年生)
(5)履修科目追試験受験願
(6)インターンシップ(4年生)
2. 進路指導
(1)進路決定
(2)就職指導
(3)進学指導
(4)退学・転学・休学・復学
(5)転科(1～2年生)
3. 生活指導
(1)出欠
①欠席・欠課
②病欠
③遅刻・早退
④忌引
⑤公欠
⑥出席停止

（出典　平成２５年度 学級担任のしおり）

資料２－２－③―１続き

学級担任のしおり　目次(2)

(2)身だしなみ
(3)アルバイト
(4)万引き・自転車窃盗
(5)盗難防止
①自転車
②金銭管理
③ロッカー
④盗難発生時
(6)学生相談
①カウンセラー・学生相談員・保健室
②セクシャルハラスメント
4. 寮生の指導
(1)寮生
①寮生活の把握
②訪問
③寮務主事・寮務係との連携
(2)寮生以外の学生の寮訪問
①寮生への面会
5. 通学生の指導
(1)自宅外通学生
①住所・生活状況の把握
②訪問
③下宿学生の指導
④女子学生
⑤その他
(2) 自宅通学生
①生活状況の把握
②家庭訪問
(3)寮生以外の通学生全員
①ロッカー
6. 車両使用に関する指導
(1)車両使用許可
7. クラブ活動の指導
(1)クラブ加入届
(2)顧問との連携
8. 学校行事の指導
(1)行事全般
(2)始業式
(3)身体計測・健康診断(内科・歯科検診等)

（出典　平成２５年度 学級担任のしおり）

資料２－２－③―１続き

学級担任のしおり　目次(3)

(4)新入生合宿研修(1年生)
(5)交通安全講習会(2～5年生)
(6)進路ガイダンス(2～5年生)
(7)環境美化一斉清掃
(8)球技大会･スポーツフェスタ
(9)学生会総会
(10)海外研修旅行(4年生)
(11)高専祭
(12)マラソン大会
(13)卒業証書授与式(5年生)
Ⅳ. 保護者との連絡 …… 7
(1)日常的な連絡
(2)問題行動把握
(3)成績表の記入
(4)後援会支部総会
Ⅴ. 事務的業務 …… 7
1. 学生支援制度
① 高等学校等就学支援金
(1)対象
(2)申請の時期
② 授業料免除(前期分･後期分)
(1)対象
(2)申請の時期
(3)申請学生との面談
(4)選考
③ その他の授業料免除(申込時期等の詳細については別途通知)
(1)保護者が失職した学生に対する授業料免除
(2)家計が急変した学生に対する授業料免除
(3)就学支援金の受給期間が超過した学生に対する授業料免除
(4)本科2･3年生に対する経過措置
④ 日本学生支援機構奨学金の申請
(1)申請の時期
(2)緊急採用･応急採用
(2) 申請学生との面談
(3) 選考
(5)奨学生の異動
⑤ その他の奨学金
(1)都道府県等奨学金
2. 学生の表彰

（出典　平成２５年度 学級担任のしおり）

資料２－２－③―１続き

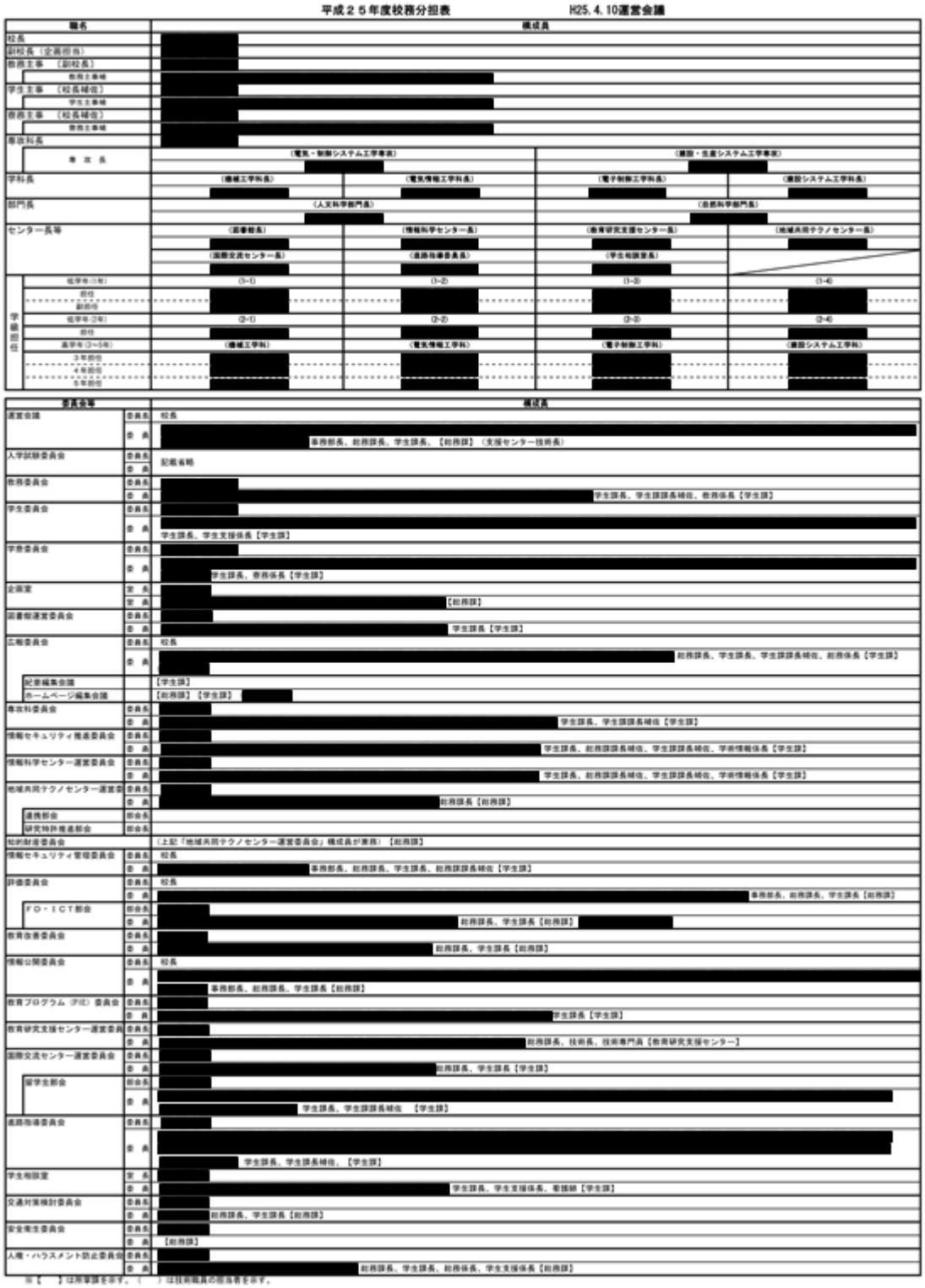
学級担任のしおり　目次(4)

Ⅵ. 突発的事態への対応 …… 9
1. 学校管理下での事故等
(1)応急措置･連絡
(2)学生の身柄引き取り
①事実の把握
②保護者との連携
③処分･事後の指導
Ⅶ. 年間行事･提出書類一覧 …… 10
Ⅷ. 参考書類
･学校において出席停止となる感染症
･学生の身柄引き取りについて

（出典　平成２５年度 学級担任のしおり）

資料２－２－③―２

平成２５年度校務分担表



上より１０番目に記載された学級担任・副担任の欄を参照

（出典　運営会議資料）

資料２－２－③―３

学級担任会議：教務主事からのお願い

平成 24 年 4 月 3 日

１．　１年生及び２年生学年主任の選任について
（1 年生の担任の先生はこの後お残りください。）

２．　引継ぎについて
・過年度生→個々の担任で
・専門学科へ→旧 2 年生学年主任と 3 年生担任代表が呼びかけ，8 名で
・代表の選任をお願い

３．　修了及び卒業認定規則改正等の周知について
＜規則改正について＞
資料を用意させていただいた。
・学生の皆さんへ→掲示及びお手元に，
資料→掲示及びお手元に，
解説→学生に配布を，
保護者の皆様へ→お手元に
とくに解説が必要な場合は，教務委員会で対応するつもりですので，その旨お申し越しください。

＜授業時間について＞
・1･2 時限，3･4 時限，5･6 時限，7･8 時限の 50 分授業と 50 分授業の間の 5 分休みをなくし，短チャイムを鳴らすだけにした。
・100 分連続授業とし，100 分授業と 100 分授業の間を 10 分休みとした。
・始業時間が 8:45→5 分遅くなる。終業時間が 16:30→5 分早まる。
・教務委員会では，短チャイム時に担当教員の裁量と指導で，周辺の教室の迷惑にならないことを条件に，5 分を限度としたトイレ休憩を含む休憩をとることが可能ということで合意されている。

４．追試験の受験願について
とくに 5 年生については，必修科目卒業できなくなる可能性がありますので 4 月 27 日（金）の締切を厳守させてください。

５．インターンシップ打合せについて
4 月中に学科長，4・5 年生担任，教務主事，担当委員に呼びかけて実施しますので，よろしくお願いします。
本日，時間をとっていただこうと思っていたのですが，資料のご用意が間に合いませんでした。

６．　学生の緊急時連絡システムについて
・4 月 6 日の危機管理委員会で協議，5 月中旬の全クラス実験に向けて準備を進めています。追ってご案内しますので，ご協力をよろしくお願いします。
・「気象警報発令に伴う授業等措置要領」及び対応措置の見直しするとともに，学生の緊急時連絡システムの活用を考えていく予定。

７．　特別支援教育について
４月中に第１回目の連絡会を開催する予定。追ってご案内差し上げたい。

（出典　学生課資料）

資料２－２－③―４

学級担任会議（２年生以上）報告

日時：平成２４年４月１９日（木）１６：５０～１８：２０
場所：中会議室
出席者：三川教務主事，背戸柳学生主事，高谷寮務主事，篠原学生相談室長，
（学科長）M谷川、E片山、S奥村、C尾上　（担任）２－１村上，２－３児玉，２－４小松，３M生水，３S石川，４E丹下，４S伊藤，　（主事補）上杉，奥村，南，
中島学生課長，清水看護師

１．要支援学生の現状及び対応策
　支援が必要と思われる学生について、各担任から別紙の表のような報告があった。
また、ＴＡに関して次のような意見があった。
・実習科目のＴＡを専攻科生に頼む件だが、今年は専攻科の１年、２年にMの学生がいるので頼めそうだが、来年以降、Mの学生が少ない場合には頼めないこともある。外部の人に来てもらうことも検討して欲しい。
・ＴＡの経費は校長裁量経費から出す予定。機構に特別支援教育用の予算があるという話もあり、現在、機構に問い合わせてもらっている。

２．舞鶴高専における特別支援教育について
・特別支援教育に関する「校内体制についての提案」（資料２のⅤ章）について説明があり、提案のように校内体制を整備する方向で進めることについて了承された。今後は、運営会議に諮る予定である。また、特別支援教育連絡会（仮称）の規則なども整備する必要がある。

３．その他
・教務主事から、特別支援教育に関する講演会を開催したいという提案があり、了承された。
・教務主事から、昨年度、特別支援教育の講演をして頂いた、[redacted]にアドバイザーとして年に数回来校してもらい、発達障害の学生について相談するようにしてはどうかという提案があり了承された。

（出典　学生課資料）

資料２－２－③―５

平成25年度　クラブ顧問一覧表

太字はチーフ顧問

部	顧問名
陸上競技	[redacted]
男子バスケットボール	
女子バスケットボール	
男子バレーボール	
女子バレーボール	
ソフトテニス	
卓球	
柔道	
剣道	
サッカー	
硬式野球	
ハンドボール	
バドミントン	
水泳	
テニス	
ローイング	

部	顧問名
弓道	[redacted]
空手道	
フリークライミング	
自動車	
アマチュア無線	
吹奏楽	
プログラマーズコミュニティ	
創造技術研究会	
華道	
デザコン	
軽音楽	

同好会	顧問名
ストリートバスケット	[redacted]
フットサル	
ボランティア	
文学研究会	
鉄道研究会	
ESS	
マルチメディアリサーチ	
シビックデザイン	
合気道	
パフォーマンス	
ピタゴラ	
雪上スポーツ	

（出典　学生課学生支援係資料）

資料２－２－③―６

平成２５年度クラブ(同好会)指導コーチ一覧表

この資料については，学外者の個人情報が含まれているため，訪問調査時の閲覧資料とする。

（出典　学生課学生支援係資料）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

一般科目担当教員と専門科目担当教員の連携を円滑に行うため，教育連絡会が設置され機能している。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準２の自己評価の概要

本校は学則第１条に定められた目的のもとに４つの専門学科を設置している。「広く工学の基礎と教養を身につけ，問題発見・解決能力，創造力を有し，地域・社会の発展に寄与できる国際感覚豊かな実践的開発型技術者を育成する。」ことを教育理念としており，学科の構成はこの目的に整合したもので，高等専門学校設置基準に適合している。また，専攻科の構成は，上記の本校の目的に整合しており，学校教育法の規定に適合している。本校の情報科学センターは，授業において十分利用されているだけでなく，数多くの学生が放課後等に利用しており，教育を遂行するために不可欠のものとなっている。本校では教務委員会と専攻科委員会が組織として整備され，重要事項を審議し，企画・実施するなどの必要な活動を行っている。一般・専門の教員間の連携は「教育連絡会」などを通じて機能的に行われている。学級担任とクラブ顧問等の活動は，学生が本校の教育目的の下で充実した学生生活を送るために重要な役割を果たしており，その活動を支援するための体制も整えられている。

基準３　教員及び教育支援者

（１）観点ごとの分析

観点３－１－①：　教育の目的を達成するために必要な一般科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

資料３－１－①－１は，本校の一般科目（人文科学部門，自然科学部門）教員の現員表を示したものであり，資料３－１－①－２は，一般科目教員ごとの担当科目，専門分野及び研究テーマを示したものである。一般科目の非常勤講師については，資料３－１－①－３に示すとおりである。教育課程に基づいて担当科目を教授するため各専門分野において十分な実績を有する20名の一般科目担当の専任教員を配置しており，この教員組織は学校教育法（第120条）及び高等専門学校設置基準（第6条，第9条）を十分に満たしている。本校では国際性を身につけることを目的に，英語コミュニケーション能力を身につけさせるため，英文学，英語教育学等を専門分野とする外国人教員を含む５名の専任教員と４名の外国人非常勤講師を配置し，教育態勢を強化している。

（分析結果とその根拠理由）

教育課程に基づいて担当科目を教授するため各専門分野において十分な実績を有する教員を，学校教育法（第120条）および高等専門学校設置基準（第6条，第9条）を満たすように配置している。

以上のように，教育の目的を達成するために必要な一般科目教員が適切に配置されている。

資料３－１－①－１

教員現員表(校長を除く)

平成25年4月1日現在

科目＼職名			教　授	准教授	講　師	助　教	合　計
			現　員	現　員	現　員	現　員	現　員
一般科目	人文科学部門	倫理哲学	1	0	0	0	1
		歴　史	1	0	0	0	1
		地　理	0	0	0	0	0
		法学経済学	0	1	0	0	1
		国　語	2	0	0	0	2
		英　語	2	2	1	0	5
	自然科学部門	数　学	2	3	0	0	5
		物　理	1	1	0	0	2
		化　学	0	1	0	0	1
		保健・体育	1	1	0	0	2
合計			10	9	1	0	20

(出典　総務課資料)

資料３－１－①－２

学科・部門別教員一覧　（平成２５年３月現在）

人文科学部門

氏　名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
三川　譲二 （文学修士）	教授	・教務主事	①日本史 ②世界史Ⅰ・Ⅱ ③現代日本の政治Ⅰ・Ⅱ	日本近現代史	①民主党論 ②芦田均論 ③ダグラス･マッカーサー論 ④占領下の地方自治体･地域
村上 美登志 （博士〔文学〕）	教授	・学級担任 （２－１）	①古　文Ⅰ・Ⅱ ②総合国語ⅡA・B ③国語国文Ⅰ・Ⅱ ④日本文化論	①日本･中世文学 ②漢文学 ③唱導文学 （含む声明学） ④佛教伝承民俗芸能	①延慶本『平家物語』研究 ②太山寺本『曽我物語』研究 ③和製類書研究 ④中世説話研究 ⑤佛舞・融通大念佛狂言研究
松井　信義 （文学修士）	教授	**・部門長** ・教務主事補	①総合英語ⅡA, ⅡB, ⅢA, ⅢB, ⅣB, VA ②現代英語Ⅱ	英語学 （English Linguistics）	①語用論（Pragmatics） ②語法・文法（Usage & Grammar）
荒川　吉孝 （文学修士）	教授	・国際交流センター長	①総合英語ⅠA, ⅠB, ⅢA, ⅢB, ⅣB, VA ②現代英語Ⅰ	英文学	①シェイクスピア喜劇 ②ジェイムズⅠ世の『悪魔学』
垂谷　茂弘 （文学修士）	教授	・図書館長 ・学級担任 （１－１）	①人間論Ⅰ・Ⅱ ②哲学 ③心と癒しⅠ・Ⅱ	宗教と心理学	①ユング思想 ②力動精神医学の思想史的位置づけ
田村　修一 （博士〔文学〕）	教授	・学生主事補 ・学級担任 （１－３）	①現代文Ⅰ・Ⅱ ②総合国語ⅡA・B ③日本語 ABCDEF	日本近代文学	①芥川龍之介 ②阿部知二 ③日本近代文学史
宮崎　　操 （教育学修士）	准教授		総合英語ⅡA, ⅡB, ⅢA, ⅢB, ⅣB, VA	①英語教育学 ②通訳理論	①通訳教育法の英語教育への導入 ②シャドーイング ③児童英語教育 ④リメディアル教育
吉永　進一 （文学修士）	准教授		①総合英語 IA, IB, ⅢA, ⅢB, ⅣB, VA ②現代社会と宗教Ⅰ・Ⅱ	日本とアメリカの近代宗教思想	①　近代仏教史 ②　神智学史 ③　精神療法

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－①－２の続き

氏　名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
Kay, Jonathan-David Robert (文学士)	講師		①英会話ⅠA, ⅠB ②総合英語ⅢA, ⅢB, ⅣA, ⅣB, ⅤA, ⅤB	International Political Economy	Maintenance of Welfare State Legitimacy in Social Democratic Societics (eg. Denmark, Sweden, Norway)
児玉　圭司 (修士〔法学〕)	講師	・寮務主事補 ・学級担任 （２－３）	①法学Ⅰ・Ⅱ ②経済学 ③現代日本の経済と法Ⅰ・Ⅱ	法制史 （日本近代）	①明治前期監獄制度史 ②刑事政策史

62

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－①－２の続き

自然科学部門

氏　　名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
宮野　敏男 （博士〔理学〕）	教授	・部門長	①物理ⅡA，B， 物理ⅢB，D ②応用物理Ⅰ，Ⅱ	①固体物理学 ②固体化学	①不定比金属酸化物の微細構造の研究 ②組成適応（アダプティブ）構造の計算機シミュレーション
背戸柳　実 （理学修士）	教授	・学生主事	①　基礎数学Ⅲ ②　微分積分Ⅰ，Ⅱ，Ⅲ	①微分代数 ②p 進解析	①常微分方程式の Liouville 解 ②冪級数解の p 進収束半径
小野 伸一郎 （教育学士）	教授			①運動生理学 ②運動方法学	①運動制御に対する呼吸･代謝と不安心理 ②パフォーマンスへの暑熱影響
亀谷　　睦 （理学博士）	教授	・広報委員 ・紀要編集委員 ・情報セキュリティ管理委員	①基礎数学Ⅰ，II ②応用数学 IA，IB	微分方程式	①複素領域における偏微分方程式 ②KAM 理論
小松　幸恵 （博士〔理学〕）	准教授	・教務主事補 ・学級担任 （２－４）	①基礎数学Ⅲ ②微分積分Ⅰ ③数学演習Ⅱ ④応用数学ⅡA，ⅡB	微分方程式	①単独保存則方程式の周期解 ②粘弾性体方程式の周期解
上杉　智子 （博士〔理学〕）	准教授	・寮務主事補 ・学級担任 （１－２）	①物理ⅠA，ⅠB ②物理ⅢA，ⅢC ③応用物理Ⅰ，Ⅱ ④近代物理学	①素粒子論 ②初期宇宙論	① 宇宙論的相転移の解明 ② 宇宙磁場，物質の起源
宮崎　昭仁 （博士〔理学〕）	准教授		化学ⅠA，ⅠB，ⅡA， ⅡB，ⅢA，ⅢB	①分析化学 ②錯体化学 ③社会地球化学 ④環境化学	①新機能性リガンドのトポロジーを用いたナノテクノロジー ②物質移動の社会地球化学的地域研究
梅垣　浩二 （体育学修士）	准教授	学級担任 （２－２）	保健体育Ⅰ，Ⅱ，Ⅳ，Ⅴ	スポーツバイオメカニクス	ハンマー投げの加速のメカニズムとその技術

63

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－①－２の続き

氏　　名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
岡田　浩嗣 （博士〔理学〕）	講師	学生主事補	①微分積分Ⅱ ②微分積分Ⅲ ③応用解析１ ④応用解析２	①微分方程式 ②力学系 ③特異摂動論	①反応拡散系における内部遷移層と界面のダイナミクス ②特異摂動法の非局所方程式への応用
奥村　昌司 （博士〔理学〕）	准教授	・数学科主任	①応用数学ＩＡ・ＩＢ ②基礎数学Ⅰ・II ③微分積分Ⅱ・Ⅲ	①非線形方程式 ②微分幾何学 ③数理物理	自己双対方程式のパンルベ解析

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－①－３

非常勤講師一覧(平成25年度)

学科部門名	氏名	担当授業科目	期間	担当授業時間数(週)	担当クラス	講義曜日	備考
人文	A	総合国語ⅠAB	通年	2×4回	2年全	月 火	
	B	地理	後期	2×4回	1年全	月 火	
	C	世界史ⅠⅡ	通年	2×2回	2-1 2-2	火 火	
	D	金融工学ⅠⅡ 韓国語ⅠⅡ 経営学	通年 通年 後期	2 2 2	4年共通 5年共通 専攻科1年	水 水 水	
	E	ｱｰﾄ&ﾃﾞｻﾞｲﾝⅠⅡ	通年	2×4回	1年全	木 金	
	F	中国語ⅠⅡ	通年	2	4年共通	水	
	G	ドイツ語ⅠⅡ ドイツ文化論ⅠⅡ	通年	2 2	4年共通 5年共通	水 水	
	H	英会話ⅡAB 実践英会話Ⅰ 実践英会話Ⅱ	通年 前期 後期	2 2 2	2-1、2-2, 2-4 4C 5C	月、火 火 火	
	I	英会話ⅠAB 総合英語ⅢAB 実践英会話Ⅰ 実践英会話Ⅱ	通年 通年 前期 後期	2×3回 2 2 2	1-3 1-1、1-2 3年共通 4E 5E	火 木 火 火 火	
	J	総合英語ⅢAB 実践英会話Ⅰ 実践英会話Ⅱ	通年 前期 後期	2×2回 2 2	3年共通 4S 5S	火、木 火 火	
	K	英会話ⅡAB 総合英語ⅢAB 実践英会話Ⅰ 実践英会話Ⅱ 工業英語　(学科:電気)	通年 通年 前期 後期 前期	2 2×2回 2 2 2	2-3 3年共通 4M 5M 5E	木 火、木 火 火 火	
自然	L	数学演習Ⅰ 応用数学Ⅱ	通年	2×2回 2×2回	1-3、1-4 4M、4S	金 木	
	M	数学演習Ⅰ 応用数学Ⅰ	通年	2×2回 2×2回	1-1、1-2 4E、4S,4C	火 木	
	N	線形代数Ⅰ 線形代数Ⅱ	前期 後期	2×4回 2×4回	2年全 2年全	金 金	
	O	基礎数学Ⅰ 基礎数学Ⅱ 数学演習Ⅱ	前期 後期 後期	2×3回 2×3回 2×2回	1-2 1-2 2-1 2-2		
	P	基礎数学Ⅲ 微分積分Ⅰ	前期 後期	2×2回 2×2回	2-2 2-2	月、金 月、金	
	Q	化学ⅠA 化学ⅠB	前期 後期	2×2回 2×2回	1-3、1-4 1-3、1-4	月 月	
	R	生物Ⅰ 生物Ⅱ	前期 後期	2×2回 2×2回	2年全 2年全	火 火	
	S	地学Ⅰ 地学Ⅱ	前期 後期	2×2回 2×2回	2年全 2年全	火 火	
	T	保健体育Ⅰ	通年	2×2回	1-1男、1-2男	月、金	
	U	保健体育Ⅲ(剣道)	通年	2×4回	3E,3S 3C,3M	水 金	
	V	保健体育Ⅲ(柔道)	通年	2×4回	3E,3S 3C,3M	水 金	
	W	保健体育Ⅰ・Ⅱ	通年	2	1・2年女	木	

(出典　総務課資料)

観点３－１－②：　教育の目的を達成するために必要な各学科の専門科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

資料３－１－②－１は，本校の専門4学科における教員の現員表を示したものであり，資料３－１－②－２は，専門4学科における教員ごとの担当科目，専門分野及び研究テーマを示したものである。また，資料３－１－②－３は，専門４学科における非常勤講師一覧表を示したものである。資料３－１－②－１，資料３－１－②－２に示すように，本校の教育理念である「広く工学の基礎と教養を身につけ，問題発見・解決能力，創造力を有し，地域・社会の発展に寄与できる国際感覚豊かな実践的開発型技術者を育成する」ことを達成するために専門4学科に適切な専門科目の教員を配置し，資料３－１－②－３に示すように適切な専門科目に非常勤講師を配置している。この教員組織は学校教育法（第120条）および高等専門学校設置基準（第６条～第９条）を十分に満たしている。平成２５年３月退職教員があった電子制御工学科９名を除き，他３学科は10名から11名の専任による専門科目担当教員を配置し，教育課程の編成に対応した組織となっている。

（分析結果とその根拠理由）

教育目的を達成するために，各学科の教育課程に対応した専門分野の教員を採用し，専門分野に対応した科目を担当させている。教員の数等は，設置基準を満足している。

以上のように，教育の目的を達成するために必要な専門科目担当教員が適切に配置されている。

資料３－１－②－１

教員現員表（校長を除く）

平成25年4月1日現在

科目＼職名		教　授	准教授	講　師	助　教	合　計
		現　員	現　員	現　員	現　員	現　員
専門科目	機械工学科	4	5	0	2	11
	電気情報工学科	5	5	1	0	11
	電子制御工学科	4	4	1	0	9
	建設ｼｽﾃﾑ工学科	5	3	1	1	10
合計		18	17	3	3	41

（出典　総務課資料）

資料３－１－②－２

機械工学科

氏　　名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専門分野	研 究 テ ー マ
生水　雅之 （博士〔工学〕）	教授	・学級担任 （３M）	①材料学Ⅰ，Ⅱ ②加工学Ⅱ，Ⅲ ③機械工学実験Ⅰ ④材料力学Ⅲ ⑤卒業研究 ⑥弾塑性力学 ⑦材料強度学 ⑧特別演習	材料強度学	①超鉄鋼の疲労評価に関する研究 ②薄膜の機械的特性に関する研究
西山　　等 （博士〔工学〕）	教授	・学級担任 （５M） ・教務主事補	①入門機械工学 ②創造演習 ③流れ学Ⅰ，Ⅱ ④知能機械工学 ⑤医工学 ⑥流体工学 ⑦卒業研究 ⑧レオロジー ⑨特別研究 ⑩特別実験 ⑪ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ・ﾃﾞｻﾞｲﾝ演習	①流体工学 ②生体力学	①エアリフトポンプに関する研究 ②竹の利活用に関する研究
篠原　正浩 （博士〔工学〕）	教授	・学生相談室長	①工作実習Ⅰ ②創造演習 ③機械設計法Ⅰ ④材料力学ⅡA，ⅡB ⑤設計工学 ⑥卒業研究 ⑦先端材料工学 ⑧弾塑性力学 ⑨特別実験 ⑩ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ・ﾃﾞｻﾞｲﾝ演習	①材料力学 ②複合材料工学	①自己融着による熱可塑性コンポジットの修復について ②局所加熱を利用した熱可塑性樹脂複合材料の曲げ加工
谷川　博哉 （博士〔工学〕）	教授	・学科長	①入門機械実習 ②情報処理ＩＡ，ＩＢ ③材料力学ＩＡ，ＩＢ ④機械工学実験Ⅰ ⑤設計製図Ⅴ ⑥卒業研究 ⑦流体力学	流体力学	①振動重力場における流体の挙動 ②自動車用排気触媒内流れに関する研究

65

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－②－２の続き

氏　　名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専門分野	研 究 テ ー マ
鈴木　立人 （工学修士）	准教授		①工学基礎 ②機構学 ③応用物理Ⅱ ④制御工学Ⅰ，Ⅱ ⑤電気工学Ⅰ，Ⅱ ⑥特別実験	①制御工学 ②計測工学	①電気刺激による歩行補助装置の開発 ②立上がりリハビリ装置の開発
豊田　香 （博士〔工学〕）	准教授		①システム工学Ⅰ ②システム工学Ⅱ ③力学基礎Ⅱ ④設計製図ⅡA，ⅡB ⑤熱工学 ⑥工作実習Ⅱ ⑦システム設計学 ⑧卒業研究 ⑨特別研究	①エネルギー工学	①膜沸騰熱伝達の研究 ②工作実習の教材開発
山田　耕一郎 （博士〔工学〕）	准教授	・学級副担任 （１－２） ・学生主事補	①加工学Ⅰ ②創造設計製作 ③機械力学Ⅰ，Ⅱ ④計算機援用工学 ⑤機械工学実験Ⅱ ⑥動的設計論 ⑦特別演習 ⑧卒業研究 ⑨特別研究	①計算力学 ②材料力学	①アルミねじ鍛造加工のシミュレーション ②高強度アルミねじの性能試験
小林　洋平 （博士〔工学〕）	准教授		①計測概論Ⅰ、Ⅱ ②マリンエンジニアリングⅠ、Ⅱ ③機械工学実験Ⅰ，Ⅱ ④卒業研究 ⑤材料科学 ⑥プラント工学 ⑦特別実験 ⑧特別研究	①計測工学 ②エネルギー工学	①浮体式洋上風車に関する研究 ③計測技術に関する研究

66

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－②－２の続き

氏　　名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専門分野	研 究 テ ー マ
野毛　宏文 （博士〔工学〕）	講師	・学級担任 （４M） ・寮務主事補	①械工学実験Ⅰ，Ⅱ ②熱力学Ⅰ，Ⅱ ③電子物理Ⅰ，Ⅱ ④工業英語 ⑤エネルギー環境学 ⑥卒業研究 ⑦特別研究	①内燃機関 ②燃焼工学	①軽油代替燃料の熱分解とすす低減に関する基礎研究 ②蛍光誘導化反応を利用したプリン体簡易検出に関する基礎研究
村上信太郎 （博士〔工学〕）	助教		①機械工学実験Ⅰ，Ⅱ ②設計製図Ⅱ ③創造設計製作 ④工学基礎 ⑤情報処理Ⅱ ⑥数学演習 ⑦力学基礎Ⅰ ⑧卒業研究	①熱流体工学 ②数値計算	マイクロスケール圧縮性流れの流動・伝熱
室巻孝郎 （博士〔工学〕）	助教		①機械工学実験Ⅰ，Ⅱ ②設計製図 IA，IB，Ⅲ ③テクニカルドローイング ④応用物理Ⅰ ⑤機械設計法Ⅱ ⑥数学演習 ⑦卒業研究	①数値最適化 ②システム工学	①構造物の損傷要因推定に関する研究 ②荷物搬送ロボットの開発

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－②－２の続き

電気情報工学科

氏　　名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
新池　一弘 （博士〔学術〕）	教授	・専攻科長	①　工学基礎 ②　創造工学 ③　工学基礎研究 ④　電子工学Ⅰ，Ⅱ ⑤　電気情報工学実験ⅣA，ⅣB ⑥　伝送工学 ⑦　卒業研究 ⑧　特別実験 ⑨　応用通信工学	①　システム工学 ②　教育工学	①　協同学習に関する研究 ②　最適化手法を用いたグルーピングに関する研究
平地　克也 （博士〔工学〕）	教授	・地域共同テクノセンター長 ・電気・制御システム工学専攻専攻長	①電子回路Ⅰ・Ⅱ ②アチュエータ工学 ③デジタル回路 ④電気情報工学実験ⅢA・ⅢB ⑤電気機器Ⅰ・Ⅱ ⑥エネルギー工学Ⅰ・Ⅱ ⑦卒業研究 ⑧特別研究 ⑨エンジニアリングデザイン演習	パワーエレクトロニクス	インバータ,DC/DC コンバータ,UPS 等各種電力変換装置の研究
金山　光一 （博士〔工学〕）	教授	・副校長 ・企画室室長 ・教育改善委員会委員長	①電気概論 ②工学基礎 ③交流回路Ⅱ ④電気磁気学Ⅰ ⑤創造工学 ⑥工学基礎研究 ⑦卒業研究 ⑧特別研究 ⑨特別実験 ⑩電子デバイス工学Ⅰ ⑪技術者倫理	①電子デバイス工学 ②超音波エレクトロニクス	①圧電デバイスの研究 ②非破壊検査技術に関する研究 ③センサーに関する研究
中川　重康 （博士〔工学〕）	教授	・学級担任 （５Ｅ）	①ｲﾝﾀｰﾌｪｰｽⅠ・Ⅱ ②ｱﾅﾛｸﾞ信号処理Ⅱ ③デジタル信号処理 ④電気情報工学実験ⅡA・ⅡB ⑤創造工学 ⑥工学基礎研究 ⑦卒業研究 ⑧特別実験 ⑨パワーエレクトロニクス ⑩特別研究	①電力工学 ②太陽エネルギー利用	①太陽エネルギー利用の効率化に関する研究 ②WBGT 計測システムの開発 ③脳機能活性化の評価量に関する研究

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－②－２の続き

氏　　名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
片山　英昭 （博士〔工学〕）	教授	・学科長 ・情報科学センター長	①工学基礎 ②数値解析実習 ③創造工学 ④工学基礎研究 ⑤情報理論 ⑥過渡現象 ⑦電気情報工学実験 ⅣA・ⅣB ⑧卒業研究 ⑨特別実験 ⑩情報工学	情報システム工学	①Web 安否確認システムの開発 ②画像処理による車番認識システムの開発
竹澤　智樹 （博士〔理学〕）	准教授	・教務主事補	①交流回路Ⅰ ②電気情報工学実験 ⅠA・ⅠB ③回路理論 ④創造工学 ⑤工学基礎研究 ⑥半導体工学 ⑦電磁気計測Ⅰ・Ⅱ ⑧卒業研究	物性物理学	第一原理電子状態計算による物性評価 ・物質設計 ・超伝導（Pd, Fe） ・高圧物性（水素）
舩木　英岳 （博士〔工学〕）	准教授		①ｺﾝﾋﾟｭｰﾀｸﾞﾗﾌｨｯｸｽ ②ネットワーク論 Ⅰ・Ⅱ ③電気情報工学実験 ⅢA・ⅢB ④創造工学 ⑤工学基礎研究 ⑥ｵﾍﾟﾚｰﾃｨﾝｸﾞｼｽﾃﾑ Ⅰ・Ⅱ ⑦卒業研究 ⑧ﾈｯﾄﾜｰｸｼｽﾃﾑ論	情報システム工学	①カラー画像の鮮明化に関する研究 ②AR 技術を用いたソフトウェアの開発 ③視線入力を用いたコミュニケーションツールの開発
内海　淳志 （博士〔工学〕）	准教授	・寮務主事補	①電気回路 ②情報数学 ③電気情報工学実験 ⅡA・ⅡB ④アナログ回路 ⑤工業数学 ⑥論理回路 ⑦創造工学 ⑧工学基礎研究 ⑨卒業研究 ⑩電磁気応用工学 ⑪特別研究	光電子工学 半導体工学	近接場光応用技術の開発

69

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－②－２の続き

氏　　名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
芦澤　恵太 （博士〔理学〕）	講師	・学級担任 （３Ｅ）	①電気概論 ②アナログ信号処理Ⅰ ③通信工学Ⅰ・Ⅱ ④画像工学 ⑤電気情報工学実験 ⅡA・ⅡB ⑥創造工学 ⑦工学基礎研究 ⑧卒業研究 ⑨特別研究	①画像処理 ②応用数学	①画像圧縮アルゴリズムの開発 ②ギブス現象軽減に関する研究
丹下　　裕 （博士〔工学〕）	講師	・学級担任 （４Ｅ） ・学生主事補	①工学基礎 ②電気情報工学実験 ⅠA・ⅠB ③電気磁気学Ⅱ ④創造工学 ⑤工学基礎研究 ⑥ｼﾐｭﾚｰｼｮﾝ工学 Ⅰ・Ⅱ ⑦卒業研究 ⑧特別研究	①　医用生体工学 ②　福祉工学	①　癌温熱治療装置の開発 ②　マートフォンを用いた障がい者支援ツールの開発
井上　泰仁 （博士〔工学〕）	講師		①電気情報工学実験 ⅢA・ⅢB ②医療工学 ③特別研究	情報科学	膜タンパク質の機能予測

70

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－②－２の続き

電子制御工学科

氏　　名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
金森　　満 （博士〔工学〕）	教授	・PIE 委員長 ・評価委員会副委員長 ・教務主事補	①電気磁気学Ⅰ ②ＣＡＤ演習ⅡＡ ③制御工学Ⅲ ④(E)制御工学Ⅱ ⑤振動工学Ⅰ・Ⅱ ⑥卒業研究 ⑦ロボットシステム制御 ⑧特別研究 ⑨特別実験	①制御工学 ②電気磁気学 ③メカトロニクス ④振動制御	①制御入力の飽和を考慮した安定化と制御器の設計 ②ロボットシステムの非線形制御手法に関する研究
野間　正泰 （博士〔工学〕）	教授	・教育支援センター長 ・学級担任 （５Ｓ）	①力学Ⅱ ②材料力学Ⅰ ③材料力学Ⅱ ④材料力学Ⅲ ⑤水力学Ⅰ ⑥水力学Ⅱ ⑦計測工学Ⅰ ⑧電子計測実験 ⑨卒業研究 ⑩流体工学特論 ⑪特別研究	①トライボロジー ②可視化情報計測	①テーラー渦とキャビティ流れの相互作用 ②マルチパッドジャーナル軸受内の潤滑油流れ ③直方体容器内の自然対流の可視化と PIV 計測
奥村　幸彦 （博士〔工学〕）	教授	・電子制御工学科長	①エネルギー工学 ②熱工学 Ⅰ，Ⅱ ③計測工学Ⅱ ④工業外国語Ⅰ，Ⅱ ⑤画像処理 ⑥電子計測実験 ⑦卒業研究 ⑧特別研究	①エネルギー工学 ②熱工学 ③プラズマ理工学	①ダイヤモンド薄膜の電子デバイスへの応用 ②環境負荷低減のためのバイオマスの高度利用 ③石炭の高効率燃焼，クリーン燃焼技術に関する研究
川田　昌克 （博士〔工学〕）	教授	・進路指導委員会委員長 ・学生主事補	①工学基礎 ②制御工学Ⅰ・Ⅱ ③数値計算法Ⅰ・Ⅱ ④システム制御Ⅰ・Ⅱ ⑤制御工学実験 ⑥卒業研究 ⑦システム制御工学 ⑧特別研究	制御工学	①非線形制御とその実システムへの応用 ②ディスクリプタ表現を利用した制御系設計

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－②－２の続き

氏　　名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
町田　秀和 （博士〔情報工学〕）	准教授		①計算機工学Ⅰ,Ⅱ ②工業数学 ③創造設計プロジェクト ④電子回路Ⅴ ⑤ＣＡＤ演習ⅡB ⑥卒業研究 ⑦エンジニアリングデザイン演習 ⑧信号処理特論 ⑨特別研究	①ハードウェア(IC)実現 ②ディジタル信号処理	①2 重ループ PLL/PWM モータコントローラの解析と実現 ②PWM/PDM-1bit 信号演算処理の FPGA 実現 ③Java 言語による Web ベースの教育システム(CAI)の開発 ④DSP によるリアルタイム信号処理
仲川　　力 （博士〔工学〕）	准教授	・寮務主事補 ・進路指導委員会就職指導部会長	①工学基礎 ②情報処理Ⅲ ③電子制御実験Ⅰ ④ＣＡＤ演習Ⅰ ⑤創造設計プロジェクト ⑥ロボット工学Ⅰ ⑦卒業研究 ⑧システム設計学 ⑨特別研究	機械工学	①クローラ走行体の走行性能に関する研究 ②人工筋肉の開発
清原　修二 （博士〔工学〕）	准教授	・研究特許推進部会長 ・学級副担任（１－４）	①電子制御実習Ⅰ ②電子制御実習Ⅱ ③電子工学Ⅱ ④電子回路 ⑤電子回路Ⅲ ⑥電子回路Ⅳ ⑦卒業研究 ⑧電子回路特論 ⑨特別演習 ⑩特別研究	①ナノテクノロジー ②超微細加工学	①ECR 酸素イオンビームによるナノインプリント用モールドの開発 ②室温硬化ナノインプリント法によるダイヤモンドのナノ加工
伊藤　稔 （博士〔工学〕）	講師	・学級担任（４Ｓ）	①情報処理Ⅰ ②情報処理Ⅱ ③電子制御実験 ④情報学Ⅰ ⑤情報学Ⅱ ⑥卒業研究 ⑦特別実験 ⑧特別研究 ⑨知識制御工学	ソフトコンピューティング	①進化計算の工学的応用 ②SLAM に関する研究

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－②－２の続き

氏　　名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
石川　一平 （博士〔工学〕）	講師	・学級担任 （３Ｓ）	①電気基礎Ⅰ ②電気基礎Ⅱ ③力学Ⅰ ④電子制御実験Ⅱ ⑤卒業研究 ⑥特別実験 ⑦電子デバイス工学Ⅱ ⑧特別研究	①電子物理 ②応用物理 ③材料工学	①微細発光デバイスの作製 ②プラスチックを用いた放射線計測に関する研究
南　裕樹 （博士〔情報学〕）	助教		①ロボット工学Ⅱ ②電子制御実験Ⅱ ③制御工学実験 ④卒業研究 ⑤制御工学Ⅰ ⑥制御工学特論 ⑦特別実験 ⑧特別研究	①制御工学 ②ロボティクス	①超解像制御理論の構築と応用 ②移動ロボットの開発と制御

73

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－②－２の続き

建設システム工学科

氏　　名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
森尾　　敏 （博士〔工学〕）	教授	・図書館長	①地盤工学ⅠA,B ②地盤工学ⅡA ③建設システム工学実験Ⅱ ④施工管理学A,B ⑤応用建設工学Ⅰ ⑥卒業研究 ⑦地盤工学設計論 ⑧特別実験 ⑨特別研究 ⑩工業数学	①地盤工学 ②耐震工学	①有限要素法による応力・変形～浸透連成解析 ②微動測定によるバンコク地盤・地下構造の推定 ③活断層を想定した強震動予測 ④強震時における表面波寄与率の定量的評価
高谷　富也 （学術博士）	教授	・寮務主事	①構造造力学ⅡA,B ②数値解析 ③構造解析 ④耐震工学A ⑤耐震工学B ⑥卒業研究 ⑦応用情報工学 ⑧建築耐震工学	①構造・耐震工学 ②振動工学 ③動土質	①木造建築物の地震時倒壊過程解析に関する研究 ②RC造建築物の耐震診断・補強に関する研究 ③ACMブレースによる既存木造住宅の耐震補強工法の開発に関する研究 ④起振器を用いた動的木造住宅の耐震診断 ⑤CASBEEによる建築物の評価に関する研究
三輪　　浩 （博士〔工学〕）	教授	・FD・ICT部会長 ・安全衛生委員会委員長 ・学級担任 （４Ｃ） ・学生主事補	①水理学ⅠA，ⅠB ②水理学ⅡA，ⅡB ③建設システム工学実験Ⅲ ④河川工学A，B ⑤海岸工学 ⑥卒業研究 ⑦水圏環境学 ⑧環境防災論 ⑨水工学特論 ⑩特別実験 ⑪特別演習	①水工水理学 ②土木環境システム	①置き土による河床変動予測と河川環境への影響評価 ②河口砂州の動態と変動予測 ③流砂モデルの再構築（砂礫の移動限界） ④閉鎖性水域における流れと物質循環機構および水質改善法
玉田　和也 （博士〔工学〕）	教授	・専攻長	①工学基礎 ②構造力学ⅡA,B ③構造力学Ⅲ ④鋼構造学A,B ⑤設計工学 ⑥構造力学Ⅳ ⑦応用建設工学Ⅱ ⑧卒業研究 ⑨応用構造工学 ⑩メンテナンス工学 ⑪特別研究 ⑫特別実験	①構造工学 ②橋梁工学 ③メンテナンス工学	①鋼桁の耐荷性能 ②橋梁の健全度評価 ③アセットマネジメント ④応急復旧橋の開発 ⑤構造力学教育

74

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－②－２の続き

氏　　名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
尾上　亮介 （博士〔芸術文化学〕）	教授	・学科長 ・広報委員会副委員長	①建設システム工学概論 ②都市計画 ③建設製図Ⅰ ④建設製図 ⑤建築計画Ⅰ ⑥建設設計製図Ⅰ ⑦設計製図ⅡA ⑧建築デザインⅡ ⑨卒業研究 ⑩まちづくり学 ⑪建設製図製作 ⑫設計演習	①建築設計 ②都市計画	①商店街の研究 ②住宅設計 ③景観まちづくり
四蔵　茂雄 （博士〔工学〕）	准教授	・学生主事補 ・学級担任 （４Ｃ）	①環境衛生学A,B ②環境工学A,B ③環境工学Ⅱ ④建設システム工学実験Ⅲ ⑤建設システム工学実験Ⅳ ⑥卒業研究 ⑦地球環境政策学 ⑧特別実験 ⑨特別演習	①環境工学 ②環境政策学	①途上国のエネルギー環境問題 ②循環型社会形成の政策論
宮元　健次 （芸術学修士）	准教授		①建設製図Ⅱ ②交通工学 ③建築史 ④建築デザインⅠ ⑤建設設計製図ⅡB ⑥建築計画Ⅱ ⑦計画学AB ⑧設計製図 ⑨数理計画学 ⑩卒業研究	①建設計画 ②地域計画	①歴史的景観を生かした町づくり ②少子高齢化時代の建設設計
加登　文学 （博士〔工学〕）	准教授	・教務主事補	①建設システム工学概論Ⅰ,Ⅱ ②建設システム工学実験IA,IB ③情報処理Ⅰ ④建設製図制作 ⑤建設設計製図Ⅰ ⑥地盤工学ⅡB ⑦卒業研究 ⑧特別実験 ⑨エンジニアリング・デザイン演習 ⑩特別研究	①地盤工学 ②土質力学	①地盤材料の力学特性に関する研究 ②砂質土の液状化に関する研究 ③有限要素法による応力・変形～浸透連成解析

75

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－②－２の続き

氏　　名	職 名	校 務 分 担	担 当 科 目	専 門 分 野	研 究 テ ー マ
徳永　泰伸 （博士〔工学〕）	講師	・寮務主事補 ・学級担任 （３Ｃ）	①建築環境 A, B ②建築材料施工 ③測量実習 ④建設製図制作 ⑤工学基礎 ⑥卒業研究 ⑦特別研究	①建築環境学	①視覚情報が聴感印象に与える影響 ②温熱環境に対する開口部の影響
坂本　英輔 （博士〔工学〕）	助教		①建設システム工学概論 ②建設製図制作 ③建設システム工学実験ⅠA,B ④建築一般構造 ⑤建築構造 A,B ⑥コンクリート構造学Ⅱ ⑦卒業研究 ⑧材料科学 ⑨メンテナンス工学 ⑩特別研究	①コンクリート工学	①コンクリートの透水・脱水工法に関する研究 ②ポーラスコンクリートに関する研究 ③コンクリートの耐久性に関する研究

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－②－３

共通	a	情報リテラシー	前期	2×4回	1年全	木､金	
機械		テクニカルドローイング	後期	2	1M	水	
		設計製図ⅠAB	前期	2	2M	水	
	b	設計製図ⅠAB	後期	2	2M	月	
電気		電気情報工学実験ⅠA	前期	4	2E	水	
	c	電気情報工学実験ⅠB	後期	4	2E	水	
		C言語実習	前期		3E	月	
		C言語	前期		2E	月	
		情報システム論	後期		5E	水	
	d	情報基礎	後期	2	1E	水	
建設		建築施工	前期	2	4C	月	
	e	建築法規	後期	2	4C	金	
	f	景観工学	後期	2	5C	月	
		測量実習	前期	4	2C	水	
			後期	2	2C	水	
		土木施工Ⅰ	後期	2	4C	火	
		施工監理学AB	通年	2	5C	火	
	g	測量学ⅠⅡ	通年	2	2C	木	
	h	建設設計製図ⅡAB	通年	2	5C	月	

（出典　総務課資料）

観点３－１－③：　専攻科を設置している場合には，教育の目的を達成するために必要な専攻科の授業科目担当教員が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

資料３－１－③－１に示す専攻科修了者像を目指し，専攻科生に対する教育や研究を指導するために，資料３－１－③－２に示すように担当科目に専門分野が対応するような教員を配置している。専攻科の授業科目担当教員は，「経営学」担当の非常勤講師１名以外の教員全員が専任教員であり，専攻科担当教員については資料３－１－③－３に示すように大学評価・学位授与機構から平成２５年２月13日に認定証が発行されている。また，資料３－１－③－４に示すように，毎年発行の「舞鶴高専年報」には専任教員の専門分野におけるその年度の研究業績が掲載されている。このように，専門分野における優れた研究業績を有する大学評価・学位授与機構に認定された教員が専攻科科目を担当し，最新の技術に対応した高いレベルの知識習得の授業を行っている。なお，各教員の教育研究業績については，訪問審査時の閲覧資料として準備する。

（分析結果とその根拠理由）

専攻科では準学士課程の上に，より高度の学問を追及し研究を指導するため，科目に対応した適切な教員を配置している。専攻科授業担当教員は，非常勤講師1名と常勤教員で構成されており，大学評価・学位授与機構に認定されている。

以上より，専攻科の目的を達成するために必要な授業科目担当教員が適切に配置されているといえる。

資料３－１－③－１

〈専攻科一般科目〉

氏　名	部門・学科	職　名	学　位	担当科目	学年	専門分野
荒川　吉孝	人　文	教　授	文学修士	現代英語Ⅰ	１前	英文学
松井　信義	人　文	教　授	文学修士	現代英語Ⅱ	１後	英語学（English Linguistics）
村上美登志	人　文	教　授	文学博士	日本文化論	２後	①日本・中世文学②漢文学③唱導文学（含む声明学）④佛教伝承民俗芸能
上杉　智子	自　然	准教授	博士（理学）	近代物理学	２前	①素粒子論②初期宇宙論
稲葉　哲		非常勤講師	博士（経済学）	経営学	１後	①金融工学②経営学③韓国語

〈専攻科専門共通科目〉

氏　名	部門・学科	職　名	学　位	担当科目	学年	専門分野
奥村　幸彦	電子制御	教　授	博士（工学）	エネルギー工学	１前	①エネルギー工学②熱工学③プラズマ理工学
金森　満	電子制御	教　授	博士（工学）	ロボットシステム制御	２前	①制御工学②電気磁気学③メカトロニクス④振動制御
金山　光一	電気情報	教　授	博士（工学）	技術者倫理	２前	①電子デバイス工学②超音波エレクトロニクス
篠原　正浩	機　械	教　授	博士（工学）	先端材料工学	１前	①材料力学②複合材料工学
高谷　富也	建設システム	教　授	学術博士	応用情報工学	１前	①構造・耐震工学②振動工学③動土質
野間　正泰	電子制御	教　授	博士（工学）	流体工学特論	１後	①トライボロジー②可視化情報計測
四蔵　茂雄	建設システム	准教授	博士（工学）	地球環境政策学	２前	①環境工学②環境政策学
豊田　香	機　械	准教授	工学博士	システム設計学	１後	エネルギー工学
舩木　英岳	電気情報	准教授	博士（工学）	ネットワークシステム論	２前	情報システム工学
芦澤　恵太	電気情報	講　師	博士（理学）	画像工学	１後	①画像処理②応用数学
岡田　浩嗣	自　然	講　師	理学博士	応用解析１	１前	①微分方程式②力学系③特異摂動論
				応用解析２	１後	

（出典　総務課資料）

資料３－１－③－１の続き

〈電気・制御システム専門科目〉

氏　名	部門・学科	職　名	学　位	担当科目	学年	専門分野
奥村　幸彦	電子制御	教　授	博士（工学）	特別研究(1年)	1	①エネルギー工学②熱工学③プラズマ理工学
				特別研究(2年)	2	
				エンジニアリング・デザイン演習	２後	
片山　英昭	電気情報	教　授	博士（工学）	特別研究(1年)	1	情報システム工学
				特別実験	1	
				情報工学	１前	
金山　光一	電気情報	教　授	博士（工学）	特別研究(1年)	1	①電子デバイス工学②超音波エレクトロニクス
				特別研究(2年)	2	
				特別実験	1	
				電子デバイス工学Ⅰ	１後	
金森　　満	電子制御	教　授	博士（工学）	特別研究(1年)	1	①制御工学②電気磁気学③メカトロニクス④振動制御
				特別実験	1	
川田　昌克	電子制御	教　授	博士（工学）	特別研究(1年)	1	制御工学
				システム制御工学	１前	
新池　一弘	電気情報	教　授	博士（学術）	特別研究(1年)	1	①システム工学②教育工学
				特別研究(2年)	2	
				特別実験	1	
				エンジニアリング・デザイン演習	２後	
				応用通信工学	１前	
中川　重康	電気情報	教　授	博士（工学）	特別研究(1年)	1	①電力工学②太陽エネルギー利用
				特別実験	1	
				パワーエレクトロニクス	２前	
野間　正泰	電子制御	教　授	博士（工学）	特別研究(1年)	1	①トライボロジー②可視化情報計測
平地　克也	電気情報	教　授	博士（工学）	特別研究（1年）	1	パワーエレクトロニクス
				特別研究（2年）	2	
				エンジニアリング・デザイン演習	２後	
				インターンシップ	１．２	
町田　秀和	電子制御	准教授	工学修士	特別研究(1年)	1	①ハードウェア(IC)実現②ディジタル信号処理
				エンジニアリング・デザイン演習	２後	
				信号処理特論	１後	
舩木　英岳	電気情報	准教授	博士（工学）	特別研究(1年)	1	情報システム工学
仲川　　力	電子制御	准教授	博士（工学）	特別研究(1年)	1	機械工学
竹澤　智樹	電気情報	准教授	博士（理学）	特別研究(1年)	1	物性物理学
清原　修二	電子制御	准教授	博士（工学）	特別研究(1年)	1	①ナノテクノロジー②超微細加工学
				特別研究(2年)	2	
				特別演習	２前	
				電子回路特論	１前	
内海　淳志	電子制御	准教授	博士（工学）	特別研究(1年)	1	①光電子工学②半導体工学
				特別研究(2年)	2	
				電磁気応用工学	１後	
伊藤　　稔	電子制御	講　師	博士（工学）	特別研究(1年)	1	ソフトコンピューティング
				特別実験	1	
				知識情報工学	２前	
芦澤　恵太	電気情報	講　師	博士（理学）	特別研究(1年)	1	①画像処理②応用数学
				特別演習	２前	
丹下　　裕	電気情報	講　師	博士（工学）	特別研究(1年)	1	①医用生体工学②福祉工学
				特別演習	２前	
				医療工学	２前	
石川　一平	電子制御	講　師	博士（工学）	特別研究(1年)	1	①電子物理②応用物理③材料工学
				特別研究(2年)	2	
				特別実験	1	
				エンジニアリング・デザイン演習	２後	
				電子デバイス工学Ⅱ	２前	
南　　裕樹	電子制御	助　教	博士(情報学)	特別研究(1年)	1	①制御工学②ロボティクス
				特別研究(2年)	2	
				特別実験	1	
				制御工学特論	１後	

（出典　総務課資料）

資料３－１－③－１の続き

〈建設・生産システム専門科目〉

氏　名	部門・学科	職　名	学　位	担当科目	学年	専門分野
尾上　亮介	建設システム	教　授	芸術文化学博士	まちづくり学	１後	①建築設計②都市計画
				設計演習	２後	
篠原　正浩	機　械	教　授	博士（工学）	特別研究(1年)	1	①材料力学②複合材料工学
				特別実験	1	
				エンジニアリング・デザイン演習	２後	
				弾塑性力学	１前	
生水　雅之	機　械	教　授	博士（工学）	特別研究(1年)	１全	材料強度学
				特別演習	２前	
				弾塑性力学	１前	
				材料強度学	１前	
高谷　富也	建設システム	教　授	学術博士	特別研究(1年)	1	①構造・耐震工学②振動工学③動土質
				建築耐震工学	１後	
谷川　博哉	機　械	教　授	博士（工学）	特別研究(1年)	1	流体力学
				流体力学	１前	
玉田　和也	建設システム	教　授	博士（工学）	特別研究(1年)	1	①構造工学②橋梁工学③メンテナンス工学
				特別研究(2年)	2	
				特別実験	1	
				応用構造工学	１後	
				メンテナンス工学	１後	
				インターンシップ	１．２	
西山　　等	機　械	教　授	博士（工学）	特別研究(1年)	1	①流体工学②生体力学
				特別研究(2年)	2	
				特別実験	1	
				エンジニアリング・デザイン演習	２後	
				レオロジー	２前	
三輪　　浩	建設システム	教　授	博士（工学）	特別研究(1年)	前	①水工水理学②土木環境システム
				特別実験	1	
				特別演習	２前	
				水圏環境学	１前	
				環境防災論	１前	
森尾　　敏	建設システム	教　授	博士（工学）	特別実験	１全	①地盤工学②耐震工学
				地盤工学設計論	２前	
四蔵　茂雄	建設システム	准教授	博士（工学）	特別研究(1年)	1	①環境工学②環境政策学
				特別実験	1	
				エンジニアリング・デザイン演習	２後	
宮元　健次	建設システム	准教授	修士(芸術学)	建設計画学	2	①建設計画②地域計画
加登　文学	建設システム	准教授	博士（工学）	特別研究(1年)	1	①地盤工学②土質力学
				特別研究(2年)	2	
				特別実験	1	
				エンジニアリング・デザイン演習	２後	
小林　洋平	機　械	准教授	博士（工学）	特別研究(1年)	1	①計測工学②エネルギー工学
				特別研究(2年)	2	
				特別実験	1	
				プラント工学	２前	
				材料科学	１前	
豊田　　香	機　械	准教授	工学博士	特別研究(1年)	1	エネルギー工学
				特別研究(2年)	2	
鈴木　立人	機　械	准教授	修士（工学）	特別実験	1	①制御工学②計測工学
山田耕一郎	機　械	准教授	博士（工学）	特別研究(1年)	1	①計算力学②材料力学
				特別演習	2	
				動的設計論	１後	
野毛　宏文	機　械	講　師	博士（工学）	特別研究(1年)	1	①内燃機関②燃焼工学
				特別研究(2年)	2	
				エネルギー環境学	１後	
坂本　英輔	建設システム	助　教	博士（工学）	材料科学	１前	コンクリート工学

（出典　総務課資料）

資料３－１－③－２

評学機構学第169号
平成25年２月13日

舞鶴工業高等専門学校長　殿

独立行政法人大学評価・学位授与機構長
野　上　智　行

認定専攻科における教育の実施状況等の審査結果について（通知）

平成24年５月31日付け舞高専庶第46号で提出のあった下記の専攻科の教育の実施状況等について，短期大学及び高等専門学校の専攻科の認定に関する規則（平成16年規則第29号）第９条に規定する審査の結果，「適」と認められたので通知します。

記

１　名称，専攻及び修業年限

名　　称	専　　攻	修業年限
舞鶴工業高等専門学校	電気・制御システム工学専攻	２年
	建設・生産システム工学専攻	２年

（出典　総務課資料）

資料３－１－③－３

人文科学部門

三川　譲二

学会発表

舞鶴高専における緊急時連絡の取り組みについて，平成 24 年度全国高専教育フォーラム教育研究活動発表概要集, pp.267-268,(2012.8)，片山英昭，三川譲二，能勢嘉朗.

広範囲地域における舞鶴高専の入試広報活動，平成 24 年度全国高専教育フォーラム発表概要集，教育研究分野, AP1_2_3, (2012.8.30)，竹澤智樹，三川譲二，太田泰雄.

松井　信義

学会発表

The Catcher in the Rye and *and all*, 第 66 回現代英語談話会, 京都大学百周年時計台記念館, (2012. 7), 松井信義.

Rhetoric of Hyperbole - in the case of *The Catcher in the Rye*，第 67 回現代英語談話会，京都大学百周年時計台記念館，(2012. 10)，松井信義.

「関係詞」で始まる構文について」 - *The Catcher in the Rye* を例に，第 68 回現代英語談話会，京都大学百周年時計台記念館，(2012. 12)，松井信義.

田村　修一

著書

芥川と犀星，おうふう，全 203 頁，（2012.4），足立直子，田村修一，外村彰 他 3 名.

生誕 120 年芥川龍之介，翰林書房，全 319 頁，（2012.12），関口安義，宮坂覺，田村修一 他 29 名.

その他

書評・『兵庫近代文学事典』（和泉書院），阿部知二研究，No.19，pp.97-98，（2012.4），田村修一.

吉永　進一

著書

世界宗教百科事典，丸善，(2012.12)，井上順孝編.

国際会議

"Three Boys on the Great Vehicle—M.T.Kirby, William M. McGovern, and Utsuki Nishu" SE Asia as a crossroads for Buddhist exchange，2012.09.13，University College，Cork ，Ireland. Invited talk.

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－③－３の続き

"Two Propagators of Hypnotism in Meiji Japan: Inoue Enryō (1858-1919) and Kuwabara Toshiro (1873-1906)", Panel: Practices of Kokoro: Psychotherapy and Religion in Modern Japan (organized by Yoshinaga Shin'ichi), The Sixth Conference for the Asian Society for History of Medicine, 2012.12.14, 慶応大学. Invited Panel.

学会発表

「『新佛教』研究の現状と展望」, 第 20 回日本近代仏教史研究会研究大会, 2012.05.12, 青山学院大学, 吉永進一.

「正徳寺資料から見える戦前の仏教国際化」, パネルディスカッション「宗教史研究のフィールドワーク」(代表：大谷栄一), 日本宗教学会第 71 回学術大会, 2012.09.09, 皇學館大學.

「近代日本の宗教状況について」, 神戸学院大学人文学会, 2012.10.17, 神戸学院大学, 吉永進一, 招待講演.

その他

「原坦山　近代仏教の先駆, 生理学的心理学の可能性」, 第 1 回「宗教と精神療法」研究会, 2012.05.13, 早稲田大学, 吉永進一.

「原坦山再考　仏教と生理学的心理学」,「グローバル化する思想・宗教の重層的接触と人文学の可能性」研究会, 2012.05.21, 京都大学人文研究所, 吉永進一.

「明治の仏教青年—新しい仏教運動への道—」, 清澤満之研究会（親鸞仏教センター), 2012.06.04, 東京国際フォーラム, 吉永進一, 招待講演.

"E.S. STEPHENSON: POINT LOMA THEOSOPHY IN JAPAN" (paper read by Kenneth Small), Point Loma Convivium 2012, 2012.08.02, Marina Village Conference Center (San Diego), YOSHINAGA Shin'ichi. Invitation.

「正徳寺資料から見える戦前の仏教国際化」,「近代宗教のアーカイヴ構築のための基礎研究」研究会, 2012.09.02, 金沢市文化ホール, 吉永進一.

「仏教と精神療法　その歴史的パースペクティブ」, 近代仏教史研究会第 17 回夏期セミナー, (2012.09.03), 身延山大学, 吉永進一.

Discussant, Workshop about India PEN club and Theosophical Society in Madras, 2012.11.26, 東京外国語大学, 招待.

「仏教と催眠術：井上円了と桑原俊郎」,「宗教と精神療法：その歴史的パースペクティブ」研究会, 2013.03.06, 求同会館（東京), 吉永進一.

児玉　圭司

著書

日本法制史Ⅱ—中世・近世・近代—, 慶應義塾大学出版会, pp.136-149, 221-241, (2012.4), 霞信彦・原禎嗣・神野潔・児玉圭司・三田奈穂.

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－③－３の続き

日本法制史講義ノート（第２版），慶應義塾大学出版会，pp.100-103，(2012.10)，霞信彦・原禎嗣・神野潔・児玉圭司・三田奈穂.

査読付論文

『司法省日誌』（明治六年刊行分）にみる司法省と行刑，法史学研究会会報，No.17，(2013.3)，児玉圭司.

学会発表

明治前期における行刑指導の転換―国事犯への処遇を中心に―，法制史学会第 422 回近畿部会，(2012.5.19)，児玉圭司.

その他

史跡探訪　自由党總理板垣退助君遭難地，法務史料展示室だより 歴史の壺，No.29，p.2，(2012.7)，児玉圭司.

幕末・明治初期の日本人は西洋の「監獄」をどう理解したか(2)，司法法制部季報，No.131，pp.70-77，(2012.10)，児玉圭司.

史跡探訪　田中正造邸宅，法務史料展示室だより 歴史の壺，No.30，p.2，(2012.11)，児玉圭司.

世論が動かした受刑者の処遇―明治二〇年の「罪石事件」を素材として，人権のひろば，No.89，pp.26-29，(2013.1)，児玉圭司.

史跡探訪　洋学の地・津山，法務史料展示室だより 歴史の壺，No.31，p.2，(2013.2)，児玉圭司.

書評　星原大輔『佐賀偉人伝 07　江藤新平』，法史学研究会会報，No.17，(2013.3，児玉圭司.

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－③－３の続き

自然科学部門

亀谷　睦

その他

コンパクト実解析多様体上の実解析関数に対する指数 $\mu_{P,r}(f)$ の有限性, 舞鶴工業高等専門学校紀要, 第 48 号, (2013.3 予定), 亀谷睦.

梅垣　浩二

学会発表

ハンマーの加速をもたらすハンドル部パワーやハンドル速度の内訳, 第 22 回日本バイオメカニクス学会大会論集, pp.52, (2012.9), 梅垣浩二, 室伏広治, 桜井伸二.

ハンマー投における身体重心―ハンマー間の相対運動, シンポジウム : スポーツ・アンド・ヒューマン・ダイナミクス 2012 講演論文集, pp.265-270, (2012.11), 梅垣浩二, 室伏広治, 太田憲, 桜井伸二.

奥村　昌司

著書

LIBRARY 工学基礎＆高専 TEXT 基礎数学, pp.111-129, 数理工学社, (2012.11.10), 監修 : 河東泰之, 共編著 : 佐々木良勝, 鈴木香織, 竹縄知之, 執筆者 : 五十川読, 上松和弘, 奥村昌司, 他 6 名.

LIBRARY 工学基礎＆高専 TEXT 基礎数学問題集, pp.40-50, 数理工学社, (2012.11.10), 監修 : 河東泰之, 共編著 : 佐々木良勝, 鈴木香織, 竹縄知之, 執筆者 : 五十川読, 上松和弘, 奥村昌司, 他 6 名.

査読付論文

R.Fuchs' problem of the Painleve equations, Contemp. Math., AMS, to appear, Yousuke Ohyama, Shoji Okumura.

岡田　浩嗣

その他

Approximations and Perturbations in Nonlocal Reaction-Diffusion Equations, 舞鶴高専紀要, 48 号 (2013 年 3 月予定), OKADA Koji.

（出典　舞鶴高専年報・第１０号 2013 年 4 月）

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－③－３の続き

機械工学科

生水　雅之

学会発表

微細粒鋼の薄板曲げ疲労特性に関する研究，日本機械学会北陸信越支部学生会第 42 回学生員卒業研究発表講演会論文集，(2013)，赤井聡，生水雅之.

超微細粒鋼の疲労強度特性と疲労き裂に関する研究，日本機械学会関西支部平成 24 年度学生員卒業研究発表講演会論文集，(2013)，岡本大地，生水雅之.

その他

超音波疲労試験機を用いたステンレス鋼 SUS430 薄板の曲げ疲労試験に関する研究，舞鶴高専紀要，No.48，(2013)，生水雅之，坪内翼.

西山　等

学会発表

エアリフトポンプの揚固性能の高効率化，日本機械学会 2012 年度年次大会 DVD 論文集，G050053，(2012.9.12)，愛甲千星，西山　等.

篠原　正浩

国際会議

Moulding of carbon fiber reinforced polycarbonate (CF/PC) using UD tape，High Performance Structurea and Materials VI，pp.249 - 257，(2012.6)，M.Shinohara，S. Isshiki，Y. Fukushima，T. Katayama　K. Tanaka.

学会発表

炭素繊維直接通電加熱成形法におけるポリカーボネート樹脂の含浸挙動，第４回自動車用途コンポジットシンポジウム講演論文集，p.68，(2012.12.1)，一色哲志，篠原正浩，片山傳生，田中和人.

谷川　博哉

国際会議

Analysis of Flow around a Flying Pipe，ISEA Conference - The Engineering of Sport 9，(2012.6)，Katsuya Hirata，Yosuke Kida，Hirochika Tanigawa，Jiro Funaki.

学会発表

様々な LHSV での高次炭化水素燃料の水蒸気改質における反応温度の影響について，第 17 回動力・エネルギー技術シンポジウム，講演番号 C104，(2012.6)，神園正章，篠木俊雄，谷川博哉，舟木治郎，平田勝哉.

粘性流体中の様々な三次元物体に作用する付加質量の数値解析，日本混相流学会年会講演会 2012　第

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－③－３の続き

31 回混相流シンポジウム，講演番号 B32，(2012.8)，北本智也，下原秀基，谷川博哉，平田勝哉.

単純なフルイディック発振器に関するアスペクト比効果と二次元数値計算， 第 90 期日本機械学会流体工学門講演会，pp.471-472，(2012.11)，高野修平，小林諒平，谷川博哉，平田勝哉.

飛行する回転リングの観測と流動解析，第 90 期日本機械学会流体工学門講演会，pp.33-34，(2012.11)，貴田洋輔，谷川博哉，三原宏昭，舟木治郎，平田勝哉.

粘性流体中の様々な三次元振動物体に作用する流体力，第 26 回数値流体力学シンポジウム，講演番号 D05-2，(2012.12)，北本智也，谷川博哉，下原秀基，平田勝哉.

無重力中で振動する正方形容器内の熱対流，第 26 回数値流体力学シンポジウム，講演番号 C07-1，(2012.12)，立元恵祐，岡治亜希，浅倉雄，谷川博哉，平田勝哉.

鈴木　立人

国際会議

Assisting Control for Attendant Propelled Wheelchair based on Force Velocity Relationship，34th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society(EMBC2012)，(2012.9)，Tatsuto Suzuki，Hironobu Uchiyama，Catherine Holloway，Nick Tyler.

Wearable wheelchair activity measurement based on mechanical power using cycloid function，34th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society(EMBC2012)，(2012.9)，Catherine Holloway，Tatsuto Suzuki，Nick Tyler.

A Preliminary Test of Lower Limb Joint Moment Estimation Method without Ground Reaction Force using Inertial Sensors，34th Annual International Conference of the IEEE Engineering in Medicine and Biology Society(EMBC2012)，(2012.9)，Takashi Watanabe，Hiroaki Mori，and Tatsuto Suzuki.

Evaluation of Joint Loads in Pusing / Pulling Attendant-Propelled Wheelchairs During Forward Walking on Upward and Downward Slopes，13th International Conference on 'Mobility and Transport for Elderly and Disabled Persons(TRANSED)，(2012.9)，Tatsuto Suzuki，Hironobu Uchiyama，Catherine Holloway，Nick Tyler.

Development of a device to train people in wheelchairs to travel in a straight line on footways with crossfalls，13th International Conference on 'Mobility and Transport for Elderly and Disabled Persons(TRANSED)，(2012.9)，Catherine Holloway，Tatsuto Suzuki，Hironobu Uchiyama，Nick Tyler.

豊田　香

国際会議

Film Boiling Heat Transfer around a Vertical Finite-Length Cylinder to Subcooled Tap Water，International Symposium on Technology for Sustainability 2012，PID11，(2012.11)，Kaoru Toyoda and Takahiro Shimamoto.

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－③－３の続き

その他
種々の端面形状を有する垂直円柱まわりの膜沸騰(第 1 報：膜沸騰熱伝達)，長崎大学大学院工学研究科研究報告第 43 巻第 80 号(2012.1)，茂地徹，山田たかし，桃木悟，豊田香，山口朝彦，半田修也.

種々の端面形状を有する垂直円柱まわりの膜沸騰(第 2 報：膜沸騰下限界点)，長崎大学大学院工学研究科研究報告第 43 巻第 80 号(2012.1)，茂地徹，山田たかし，桃木悟，豊田香，山口朝彦，半田修也.

山田　耕一郎

その他
鍛造加工のシミュレーション，第 30 回日東精工株式会社全社研究発表会，(2012.12)，上田悠人，村田知明，山田耕一郎，上野美光.

小林　洋平

国際会議
Estimation of the force acting on an offshore floating-type wind turbine，EWEA 2013，(2013.2)，Yohei Kobayashi，Yuya Iwai.

学会発表
浮体式洋上風車の抗力の数値シミュレーション，日本機械学会年次大会，DVD 予稿集，2012 年 9 月，小林洋平，袖長幸広，岩井雄哉.

圧力制御型硬さ試験機に関する研究，日本機械学会年次大会，DVD 予稿集，2012 年 9 月，小林洋平，奥野義久，岩井雄哉.

水の抵抗を受ける振子動揺の実験的推測，日本機械学会年次大会，DVD 予稿集，2012 年 9 月，岩井雄哉，小林洋平.

その他
舞鶴高専における自然エネルギー教育，平成 24 年度全国高専教育フォーラム，(2012 年 8 月)，小林洋平.

野毛　宏文

査読付論文
Utilization of Waste Hydraulic Oil as Fuel in Diesel Engine，WIRA Jazair Yahya，TAN Wee Choon，SYAHRULLAIL Samion，HIROFUMI Noge，MAZLAN Said and ALIAS Mohd Nor，Advanced Materials Research Vols.518-523(2012)pp.3263-3266.

国際会議
Analysis of thermal decomposed components of water emulsified fuel in diesel combustion and effect of the components on PM reduction, Hirofumi NOGE, Yoshiyuki Kidoguchi, Wira Jazair bin Yahya, Yoko IMAI and Kazuo Tajima，International Conference on Advances in Mechanical Engineering and Civil Engineering，pp.160-165.(judged paper)．

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－③－３の続き

学会発表
ディーゼル燃焼過程における水エマルジョン燃料の熱分解と微粒子低減に関する基礎研究，日本機械学会　関西学生会平成 24 年度卒業研究発表講演会　講演前刷集，(掲載中)，今中慎哉，野毛宏文，木戸口善行，Wira Jazair bin Yahya，今井洋子，田嶋和夫.

村上　信太郎

その他
マイクロ流路の気体流れに関する研究，京都ビジネス交流フェア 2013，（2013.2.21～22），秋山玲，村上信太郎.

室巻　孝郎

国際会議
Shape Design and Experimental Study of Flexible Arm Taking Account of Vibration Suppression, The 7th China-Japan-Korea Joint Symposium on Optimization of Structural and Mechanical Systems，J056，(2012.6)，Kenji Matsunotani，Takao Muromaki and Yukio Tada.

Estimating load condition having caused structure failure and an optimal design taking account of the estimated result，5th International Conference on Reliable Engineering Computing，pp.387-406，(2012.6)，T. Muromaki，K. Hanahara，Y. Tada，S. Kuroda and T. Fukui.

学会発表
デザイン性を考慮する構造設計アプローチ，日本機械学会第 25 回計算力学講演会 CD-ROM 論文集，pp.157-158，(2012.10)，町田裕二，室巻孝郎，花原和之.

推定した荷重条件に基づくクレーンフックの形状設計，日本機械学会第 10 回最適化シンポジウム 2012 CD-ROM 講演論文集，1205，(2012.12)，室巻孝郎，花原和之.

Particle Swarm Optimization に基づく動的量子化器設計，第 13 回計測自動制御学会制御部門大会，(2013.3)，南裕樹，室巻孝郎.

その他
構造物の形態的特徴を考慮する構造設計アプローチ，舞鶴工業高等専門学校紀要，No.47，(2013.3)，室巻孝郎，町田裕二.

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－③－３の続き

電気情報工学科

新池　一弘

国際会議

A Genetic Algorithm by Using a Matrix Crossover for Determining Classroom Seating Arrangements, Proceedings of the SICE Annual Conference 2012, pp. 1532-1537, August 20-23, 2012, Kazuhiro Shin-Ike, Hitoshi Iima.

A Method for Determining Classroom Seating Arrangements by Using a Genetic Algorithm, Proceedings of the International Symposium on Technology for Sustainability, pp. 5-8, November 21 – 24, 2012, Swissôtel Le Concorde, Bangkok, Thailand, Yuusuke Nakai, Kazuhiro Shin-ike.

A Method for Determining Classroom Seating Arrangements by Using Computational intelligence, Proceedings of the 20th International Conference on Computers in Education ICCE2012, pp. 383-387, 26-30 November 2012 Singapore, Kazuhiro Shin-ike, Hitoshi Iima.

学会発表

小・中学校理科電気分野における協同学習出前授業教材の開発，第 37 回教育システム情報学会全国大会，pp. 298-299, 2012 年 8 月 22 日～24 日，千葉工業大学芝園キャンパス，新池一弘.

初等・中等教育機関への電気工学関連分野出前授業システムの構築，平成２４年度全国高専教育フォーラム，平成 24 年 8 月 28 日（火）～30 日（木），国立オリンピック記念青少年総合センター，新池一弘.

遺伝アルゴリズムを用いた座席配置決定手法，教育システム情報学会（JSiSE） 2012 年度第 4 回研究会，スキル学習とその支援技術／一般，pp. 38-39，2012 年 11 月 10 日（土），和歌山大学システム工学部 B 棟 1 階 B101 室，中井裕亮，新池一弘.

平地　克也

解説

ソフトスイッチングの基礎，パワーエレクトロニクス学会第 27 回専門講習会テキスト，pp.1-13, (2012.12)，平地克也.

査読付論文

絶縁型 DC-DC コンバータにおける漏れインダクタンスとサージ電圧の関係について，パワーエレクトロニクス学会誌, Vol.36, pp.68-80, (2012.4)，吉富大祐，伊東淳一，平地克也.

降圧チョッパ/昇圧チョッパ縦続接続方式の全動作モードの検討，パワーエレクトロニクス学会誌, Vol.36, pp.89-96, (2012.4)，高見親法，平地克也，三島智和.

１スイッチ２出力昇降圧チョッパ回路の特性評価と考察，電気設備学会誌，Vol.32，No.11，pp.853-859, (2012.11)，西村和則，平地克也，中岡睦雄.

学会発表

プッシュプル型DC/DCコンバータの偏磁現象について，パワーエレクトロニクス学会誌, Vol.36, p.238, (2012.4)，石田武揚，平地克也.

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－③－３の続き

レントゲン用の高速 ON/OFF 可能な高電圧発生回路の研究, パワーエレクトロニクス学会誌, Vol.36, p.254, (2012.4), 森脇稔, 平地克也.

位相シフト方式フルブリッジ型 DC/DC コンバータの励磁電流について, パワーエレクトロニクス学会誌, Vol.36, p.244, (2012.4), 佐藤美澄, 平地克也.

プッシュプル方式 DC/DC コンバータの励磁電流と偏磁現象について, パワーエレクトロニクス学会第 195 回定例研究会, pp.1-8, (2012. 10), 石田武揚, 平地克也.

非対称制御ハーフブリッジ型 DC/DC コンバータの動作解析, パワーエレクトロニクス学会第 196 回定例研究会, 若手のための研究発表会講演予稿集, p.21, (2012.12), 伊庭悠平, 平地克也.

金山　光一

学会発表
LC 共振型磁界センサによる導体形状検知の研究, 平成 24 年電気学会産業応用部門大会講演論文集(CD), R2-6, no.2-41(2012.8), 坂口一灯, 金山光一.

中川　重康

学会発表
NIRS と連動した脳機能検査システムの検討,平成 24 年電気関係学会関西支部連合大会, G2_9pmH-7,(2012.12),上藤将人, 中川重康, 小野伸一郎, 吉岡亮.

片山　英昭

学会発表
舞鶴高専における緊急時連絡の取り組みについて, 平成 24 年度全国高専教育フォーラム教育研究活動発表概要集, pp.267-268,(2012.8), 片山英昭, 三川譲二, 能勢嘉朗.

竹澤　智樹

学会発表
広範囲地域における舞鶴高専の入試広報活動, 平成 24 年度全国高専教育フォーラム発表概要集, 教育研究分野, AP1_2_3, (2012.8.30), 竹澤智樹, 三川譲二, 太田泰雄.

舩木　英岳

国際会議
Toward Practical Education for Regional Contribution, Proc. of the 1st IEEE International Conference on Teaching, Assessment and Learning for Engineering 2012, Hong Kong, pp.402-405, (2012.8), Hidetake Funaki, Yutaka Tange and Kenji Mihara.

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－③－３の続き

学会発表
AR 技術を用いた看板拡張ソフトウェアの開発, 日本高専学会第 18 回年会講演論文集, p.A-8, (2012.8), 辻春樹, 舩木英岳.

視線入力を用いたコミュニケーションソフトウェアの開発, 日本高専学会第 18 回年会講演論文集, p.A-9, (2012.8), 井上大夢, 舩木英岳.

内海　淳志

国際会議
Development of a Thin Transparent Protective Film for Surface Plasmon Resonance Sensor, The IUMRS International Conference in Asia Abstracts (USB Memory), MoP-211, (2012. 8), Atsushi Utsumi, Naoya Shibayama and Mitsuo Fukuda.

学会発表
紫外線 LED を用いたエコ看板の作製, 日本高専学会第 18 回年会講演会講演論文集 pp. 115－116, (2012. 8), 寺尾知也, 内海淳志.

熱酸化法による酸化チタン薄膜の作製, 日本高専学会第 18 回年会講演会講演論文集 pp. 117－118, (2012. 8), 森　友也, 内海淳志.

PSoC を用いた小型紫外線測定器の作製, 日本高専学会第 18 回年会講演会講演論文集 pp. 111－112, 山口太雅, 内海淳志.

表面プラズモンアンテナ製作のための微細加工プロセスの検討, 日本高専学会第 18 回年会講演会講演論文集 pp. 113－114, 山下燿平, 内海淳志.

電気泳動法を用いた微粒子配列制御, 第 20 回電気学会関西支部高専卒業研究発表会, (2013. 3), 山下燿平, 内海淳志.

芦澤　恵太

その他
全国高等専門学校第 23 回プログラミングコンテスト競技部門報告, 舞鶴高専情報科学センター年報, No.41, (2013.3), 中川慎哉, 岡井晃一, 芦田陸, 芦澤恵太.

丹下　　裕

査読付論文
小型ソレノイドアクチュエータを用いた点字ディスプレイの試作, 日本高専学会誌, 第 17 巻, 第 3 号, pp.35-38, 2012 年 7 月, 新谷和也, 雪野瞭治, 丹下裕, 三原健二.

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－③－３の続き

国際会議

Development of Communication Aids for Deaf-Blind People using Smartphone, The 2012 Japan-Taiwan Symposium of intelligent Green and Orange (iGO) Technology, pp.86-87, (2012.12), S. Takeno, R. Yukino, Y. Tange, and Y. Arakawa.

A Real-Time Control System Built by Fourth-Year MNCT Students, The 1st International Convention on Vocational Student's Innovation Project, p.29, (2012.9),T. Kitajima, K. Isago, M. Okuda, M. Yamashiro, Y. Yoshimoto, and Y. Tange.

Towards Practical Education of Students through Local Contribution, IEEE International Conference on Teaching, Assessment and Learning for Engineering 2012 (TALE2012), H2B-2, (2012.8), H. Funaki, Y. Tange and K. Mihara.

学会発表

スマートフォンを用いた視覚障がい者のための就労支援ツールの開発，生体情報処理と高度情報処理シンポジウム 2013，(2013.1)，吉元裕真，丹下裕.

色彩感情による精神的ストレスの定量的評価，生体医工学シンポジウム 2012 講演予稿集 (CD-ROM), 3-3-02 (311)，(2012.9)，高山稔，雪野瞭治，加茂勇太郎，丹下裕.

スマートフォンを用いた盲ろう者のための指点字支援システムの開発，生体医工学シンポジウム 2012 講演予稿集 (CD-ROM), 4-5-09 (175)，(2012.9)，雪野瞭治，竹野峻輔，丹下裕，堀潤一.

地域貢献を目指した学生の実践的教育とその成果，平成 24 年度全国高専教育フォーラム，(2012.8), 丹下裕，舩木英岳，三原健二，尾崎澄子.

高専 4 年生によるリアルタイム制御システムの構築, 第 18 回日本高専学会年会，pp.123-124，(2012.8), 吉元裕真，砂後奎太，山城都，奥田睦，北島巧海，竹野峻輔，藤原佐妃，加茂勇太郎，丹下裕.

高次モードを用いた癌温熱治療用矩形空洞共振器の電磁界分布, 第 26 回東海ハイパーサーミア研究会, p.3，(2012.7)，加茂勇太郎，丹下裕，金井靖.

空洞共振器から漏れ出る電磁波のシミュレーションによる推定, 第 26 回東海ハイパーサーミア研究会, p.3，(2012.7)，丹下裕，金井靖.

井上　泰仁

学会発表

画像修復対戦ゲームへの参加による実践的プログラミング教育，第１７回　計算工学講演会, (2012.5), 寺元 貴幸, 長尾 和彦, 松野 良信, 中道 義之, 小保方 幸次, 千田 栄幸, 井上 泰仁, 片山 英昭, 熊谷 一生, 奥田 遼介, 川田 重夫.

その他

高専の学生が創りあげる高専 PR サイト「高専 Dream」，EM 高専カンファレンス第２巻, pp.３１-３３, (2012.6), 井上泰仁.

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－③－３の続き

電子制御工学科

金森　満

国際会議

Finite-Gain L2 Stability of PID Set Position Control with Anti-Windup Compensation for Euler-Lagrange Systems with Actuator Saturation, Proc. of the IFAC Workshop on Lagrangian and Hamiltonian Methods for Nonlinear Control, Bertinoro, Italy, pp. 143-148, (2012. 8), Mitsuru Kanamori.

Anti-Windup Adaptive Law for Euler–Lagrange Systems with Actuator Saturation, Proc. 10th IFAC Symposium on Robot Control, Dubrovnik, Croatia, pp.800-805, (2012. 9), Mitsuru Kanamori.

野間　正泰

学会発表

軸受技術が鍵となるシステム及び技術課題，トライボロジー会議予稿集（東京 2012-5），pp. 301-302，（2012.5），森　淳暢，平山朋子，野間正泰，矢部　寛.

軸受技術が鍵となるシステム及び技術課題，日本トライボロジー学会・”超”を目指す軸受技術研究会第 37 回研究会，（2012.6.23），森　淳暢，平山朋子，野間正泰，矢部　寛.

奥村　幸彦

査読付論文

The effect of $N_2/CO_2/O_2$ content and pressure on characteristics and CO_2 gasification behavior of biomass-derived char, Fuel Processing Technology, Vol.104, pp.287-294, (2012.12), Toshiaki Hanaoka, Kinya Sakanishi, Yukihiko Okumura.

バイオマス低温燃焼における N_2O 生成特性，日本機械学会論文集，79 巻，799 号，（2013.3），奥村 幸彦，渡部　弘達，岡崎　健.

国際会議

Enhancement of Gasification Rate of Grass Biochar under Low-temperature Conditions by Directrly Supported Catalysts, The 62nd Canadian Chemical Engineering Conference Incorporating The 3rd International Symposium on Gasification and its Applications, Vancouver, BC, Canada, Technical Session: SGA6, Presentation No.00284, CD-ROM Paper: pp.1-12, (2012.10), Yukihiko Okumura, Toshiaki Hanaoka, Kinya Sakanishi.

Study on the N_2O formation under low temperature condition in pulverized biomass combustion, Proceedings of the 3rd International Forum on Heat Transfer, Technical Session 4, Presentation No. IFHT2012-046, Published PDF Paper: pp.1-6 (USB memory), (2012.11), Yukihiko OKUMURA, Hirotatsu WATANABE, Ken OKAZAKI.

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－③－３の続き

学会発表

触媒担持による草本バイオマスの低温・迅速ガス化，第 21 回日本エネルギー学会大会講演要旨集(日本エネルギー学会主催), No.3-2-1, pp.72-73, (2012.8)，奥村　幸彦，中村　吉成，花岡寿明，中島 良枝，坂西欣也.

木質および草本系バイオマスの熱分解過程およびガス収率に及ぼす構成成分の影響，日本機械学会熱工学コンファレンス 2012 講演論文集, No.12-62，pp.475-476, (2012.11)，奥村　幸彦，岡田　卓哉，岡崎健.

触媒担持によるバイオマスチャーの CO_2 ガス化速度向上に関する研究，第 49 回石炭科学会議発表論文集(日本エネルギー学会)，講演番号 No.49，pp.94-95, (2012.10)，奥村　幸彦，中村　吉成，花岡寿明，中島 良枝，坂西欣也.

バイオマスチャーのガス化反応性に及ぼす水蒸気および CO_2 ガス種の影響，第 49 回燃焼シンポジウム講演論文集（日本燃焼学会)，講演番号 C112, pp.60-61, (2012.12)，奥村 幸彦.

直接 K 担持法によるバイオマスの低温・迅速ガス化，化学工学会 第 78 年会講演要旨集(化学工学会)，講演番号 B102, (2013.3)，奥村 幸彦，花岡寿明，坂西欣也.

川田　昌克

解説

制御への道しるべ － 倒立振子の概要と制御系設計の流れ，システム/制御/情報，Vol.56，No.4，pp.160-165，(2012.4)，川田昌克.

物理法則に基づくモデリング，システム/制御/情報，Vol.56，No.4，pp.166-169，(2012.4)，川田昌克.

学会発表

高専－豊橋技科大間における遠隔制御システムを用いた体験型授業の実施，第 30 回日本ロボット学会学術講演会，4L3-4（全 4 頁），(2012.9)，柴田悠次，松崎貴大 ，美間康平，今村孝，三好孝典，小山慎哉，大場譲，市村智康，沢口義人，北川秀夫，河合康典，兼重明宏，川田昌克，内堀晃彦，西山英治，寺嶋一彦.

線形パラメータ変動系の吸収領域解析，第 55 回自動制御連合講演会，TB2-4（全 4 頁），(2012.11)，市原裕之，川田昌克.

制御工学教育における倒立振子と LEGO Mindstorms NXT の活用，第 55 回自動制御連合講演会，WC3-3（全 6 頁），(2012.11)，川田昌克.

LEGO MINDSTORMS NXT と MATLAB/Simulink を利用した制御工学の教育コンテンツの検討 －回転型倒立振子を題材として，第 13 回計測自動制御学会制御部門大会，7D4-4（全 8 頁），(2013.3)，川田昌克.

その他

「初学者のための図解でわかる制御工学」特集号を企画して, システム/制御/情報, Vol.56, No.6, p.336, (2012.6)，川田昌克.

122

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－③－３の続き

情報科学センターの端末以外での MATLAB の利用方法，舞鶴高専情報科学センター年報，No.41，(2013.3)，川田昌克，能勢嘉朗.

町田　秀和

査読付論文

PLL/繰返しハイブリッド制御による高精度回転速度制御、電気学会論文誌C,Vol.132-C,No.5,pp.1-6,(2012,5),町田秀和、井上隆、小林史典.

清原　修二

査読付論文

Fabrication of Diamond Nanopit arrays by Room-temperature Curing Nanoimprint Lithography Using Glass-like Carbon Molds, Mater. Res. Soc. Symp. Proc. Vol.1395, pp.27-32, (2012), S. Kiyohara, C. Ito, I. Ishikawa, H. Takikawa, Y. Taguchi, Y. Sugiyama, Y. Omata and Y. Kurashima.

Micro-Organic Light-Emitting Devices Fabricated by Room-Temperature Curing Nanoimprint Lithography Using Diamond Molds, Mater. Res. Soc. Symp. Proc. Vol.1395, pp.33-38, (2012), I. Ishikawa, T. Okuno, S. Kiyohara, Y. Taguchi, Y. Sugiyama, Y. Omata and Y. Kurashima.

国際会議

Fabrication of DLC-based Micro-gear patterns by Room-temperature Curing Nanoimprint Lithography Using Glass-like Carbon Molds, 2012 Materials Research Society Fall Meeting ABSTRACTS, p.EE5_01, (2012.11), S. Kiyohara, T. Ikegaki, I. Ishikawa, H. Tanoue, H. Takikawa, Y. Taguchi, Y. Sugiyama, Y. Omata, Y. Kurashima.

Nanofabrication of DLC-dot Arrays by Room-temperature Curing Imprint-liftoff Method, 2012 Materials Research Society Fall Meeting ABSTRACTS, p.EE5_02, (2012.11), S. Kiyohara, S. Matta, I. Ishikawa, H. Tanoue, H. Takikawa, Y. Taguchi, Y. Sugiyama, Y. Omata, Y. Kurashima.

Fabrication of Micro-OLEDs by Room-temperature Curing Contact-imprint Using DLC Molds, 2012 Materials Research Society Fall Meeting ABSTRACTS, p.EE5_03, (2012.11), I. Ishikawa, K. Sakurai, S. Kiyohara, C. Ito, H. Tanoue, Y. Suda, H. Takikawa, Y. Taguchi, Y. Sugiyama, Y. Omata, Y. Kurashima.

学会発表

室温硬化ナノインプリントーリフトオフ法によるアルミニウムマスクパターンの形成，ナノ学会第 10 回大会講演論文集，p.111,(2012.6)，池垣斗夢，清原修二，石川一平，田口佳男，杉山嘉也，小俣有紀子，滝川浩史，倉島優一.

室温硬化ナノインプリントリソグラフィによる PDMS 酸化マスクパターンの形成，ナノ学会第 10 回大会講演論文集，p.120，(2012.6)，松田将平，清原修二，石川一平，田口佳男，杉山嘉也，小俣有紀子，倉島優一.

室温硬化ナノインプリントリソグラフィ法による微細 OLED の作製,ナノ学会第 10 回大会講演論文集，p.153，(2012.6)，奥野泰佑，石川一平，清原修二，田口佳男，杉山嘉也，小俣有紀子，須田善行，倉島優一.

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－③－３の続き

室温硬化ナノインプリントによる医療マイクロマシン用ダイヤモンドキアの作製，ナノ学会第 10 回大会講演論文集，p.156, (2012.6), 伊藤茅，清原修二，石川一平，滝川浩史，田口佳男，杉山嘉也，小俣有紀子，倉島優一.

室温硬化インプリントによる医療 MEMS 用 DLC マイクロギアの作製，2012 年度精密工学会関西地方定期学術講演会講演論文集，pp.58-59, (2012.6), 伊藤茅，石川一平，清原修二，滝川浩史，田口佳男，杉山嘉也，小俣有紀子，倉島優一.

室温硬化ナノインプリント-リフトオフ法による DLC ナノエミッタの開発，2012 年度精密工学会関西地方定期学術講演会講演論文集，pp.62-63, (2012.6), 松田将平，清原修二，石川一平，滝川浩史，田口佳男，杉山嘉也，小俣有紀子，倉島優一.

室温硬化ナノインプリントによるポリジメチルシロキサン酸化マスクパターンの形成，2012 年度精密工学会関西地方定期学術講演会講演論文集，pp.64-65, (2012.6), 池垣斗夢，清原修二，石川一平，滝川浩史，田口佳男，杉山嘉也，小俣有紀子，倉島優一.

グラフェンデバイス作製を目指したインプリントリソグラフィ法による超微細構造薄膜の形成，日本高専学会第 18 回年会，講演論文集 pp.79-80, (2012.8), 辻賢介，石川一平，清原修二，須田善行，田口佳男，杉山嘉也，小俣有紀子，倉島優一.

放射線教育のためのプラスチック板を用いた可視化計測技術の検討，日本高専学会第 18 回年会，講演論文集 pp.259-260, (2012.8), 中津徳人，石川一平，清原修二.

その他

ダイヤモンドライクカーボン膜の微細加工と特性評価，平成 23 年度高専連携教育研究プロジェクト成果発表会，p.2_11, (2012.8), 池垣斗夢，松田将平，伊藤茅，清原修二，滝川浩史，田上英人，田口佳男，杉山嘉也，小俣有紀子，倉島優一.

伊藤　稔

査読付論文

Detection of Mobile Objects by Mixture PDF Model for Mobile Robots, システム制御情報学会論文誌, Vol.25, No.11, pp.308--315, (2012.11), Masahiro TANAKA, Masahiro WADA, Tomohiro UMETANI and Minoru ITO.

Target-Tracking based on Fusion of Unsynchronized Sensor Data from Vision System and Thermal Imaging Sensor, システム制御情報学会論文誌, Vol.25, No.11, pp.323--327, (2012.11), Tomohiro UMETANI, Naomichi KUGA, Masahiro TANAKA, Masahiro WADA and Minoru ITO.

国際会議

A Study on Tracking Control of Pan-Tilt Unit for an Inverted Pendulum Mobile Robot, The 44th International Symposium on Stochastic Systems Theory and Its Applications, (2012.11), T. Matsuda, M. Wada, M. Tanaka, T. Umetani and M. Ito.

学会発表

異なる性質を持つ群れで構成された Particle Swarm Optimization に関する研究, 第 56 回システム制御情報学会研究発表講演会講演論文集, pp.187--188, (2012.5.21), 伊藤稔.

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－③－３の続き

石川　一平

査読付論文

Fabrication of Diamond Nanopit arrays by Room-temperature Curing Nanoimprint Lithography Using Glass-like Carbon Molds, Mater. Res. Soc. Symp. Proc. Vol.1395, pp. 27-32, (2012), S. Kiyohara, C. Ito, I. Ishikawa, H. Takikawa, Y. Taguchi, Y. Sugiyama, Y. Omata and Y. Kurashima.

Micro-Organic Light-Emitting Devices Fabricated by Room-Temperature Curing Nanoimprint Lithography Using Diamond Molds, Mater. Res. Soc. Symp. Proc. Vol.1395, pp. 33-38, (2012), I. Ishikawa, T. Okuno, S. Kiyohara, Y. Taguchi, Y. Sugiyama, Y. Omata and Y. Kurashima.

国際会議

Fabrication of DLC-based Micro-gear patterns by Room-temperature Curing Nanoimprint Lithography Using Glass-like Carbon Molds, 2012 Materials Research Society Fall Meeting ABSTRACTS, p.EE5_01, (2012.11), S. Kiyohara, T. Ikegaki, I. Ishikawa, H. Tanoue, H. Takikawa, Y. Taguchi, Y. Sugiyama, Y. Omata, Y. Kurashima.

Nanofabrication of DLC-dot Arrays by Room-temperature Curing Imprint-liftoff Method, 2012 Materials Research Society Fall Meeting ABSTRACTS, p.EE5_02, (2012.11), S. Kiyohara, S. Matta, I. Ishikawa, H. Tanoue, H. Takikawa, Y. Taguchi, Y. Sugiyama, Y. Omata, Y. Kurashima.

Fabrication of Micro-OLEDs by Room-temperature Curing Contact-imprint Using DLC Molds, 2012 Materials Research Society Fall Meeting ABSTRACTS, p.EE5_03, (2012.11), I. Ishikawa, K. Sakurai, S. Kiyohara, C. Ito, H. Tanoue, Y. Suda, H. Takikawa, Y. Taguchi, Y. Sugiyama, Y. Omata, Y. Kurashima .

学会発表

室温硬化ナノインプリントーリフトオフ法によるアルミニウムマスクパターンの形成，ナノ学会第 10 回大会講演論文集，p.111,(2012.6)，池垣斗夢，清原修二，石川一平，田口佳男，杉山嘉也，小俣有紀子，滝川浩史，倉島優一.

室温硬化ナノインプリントリソグラフィによる PDMS 酸化マスクパターンの形成，ナノ学会第 10 回大会講演論文集，p.120，(2012.6)，松田将平，清原修二，石川一平，田口佳男，杉山嘉也，小俣有紀子，倉島優一.

室温硬化ナノインプリントリソグラフィ法による微細 OLED の作製,ナノ学会第 10 回大会講演論文集，p.153，(2012.6)，奥野泰佑，石川一平，清原修二，田口佳男，杉山嘉也，小俣有紀子，須田善行，倉島優一.

室温硬化ナノインプリントによる医療マイクロマシン用ダイヤモンドキアの作製，ナノ学会第 10 回大会講演論文集，p.156，(2012.6)，伊藤茅，清原修二，石川一平，滝川浩史，田口佳男，杉山嘉也，小俣有紀子，倉島優一.

室温硬化インプリントによる医療 MEMS 用 DLC マイクロギアの作製，2012 年度精密工学会関西地方定期学術講演会講演論文集，pp.58-59，(2012.6)，伊藤茅，石川一平，清原修二，滝川浩史，田口佳男，杉山嘉也，小俣有紀子，倉島優一.

室温硬化ナノインプリント-リフトオフ法による DLC ナノエミッタの開発，2012 年度精密工学会関西

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－③－３の続き

地方定期学術講演会講演論文集，pp.62-63,(2012.6), 松田将平，清原修二，石川一平，滝川浩史，田口佳男，杉山嘉也，小俣有紀子，倉島優一.

室温硬化ナノインプリントによるポリジメチルシロキサン酸化マスクパターンの形成， 2012 年度精密工学会関西地方定期学術講演会講演論文集，pp.64-65,(2012.6), 池垣斗夢，清原修二，石川一平，滝川浩史，田口佳男，杉山嘉也，小俣有紀子，倉島優一.

グラフェンデバイス作製を目指したインプリントリソグラフィ法による超微細構造薄膜の形成，日本高専学会第 18 回年会，講演論文集 pp.79-80,(2012.8), 辻賢介，石川一平，清原修二，須田善行，田口佳男，杉山嘉也，小俣有紀子，倉島優一.

放射線教育のためのプラスチック板を用いた可視化計測技術の検討，日本高専学会第 18 回年会，講演論文集 pp.259-260,(2012.8), 中津徳人，石川一平，清原修二.

南　裕樹

解説

PID 制御，システム/制御/情報，Vol. 56，No. 4，pp. 192-195 (2012.4)，南裕樹.

査読付論文

Optimal Decentralized Sigma-delta Modulators for Quantized Feedback Control, Nonlinear Theory and Its Applications (NOLTA), IEICE Journal, Vol. 3, No. 3, pp. 386-404 (2012.6), Y. MINAMI, S. AZUMA, and T. SUGIE.

超解像処理を利用した産業用ロボットの視覚フィードバック制御，日本高専学会誌，Vol. 17, No. 3, pp. 39-42 (2012.7)，南裕樹，森田陽介.

Halftone Control of Distributed Generation Networks, SICE Journal of Control, Measurement, and System Integration, Vol. 6, No. 1, pp. 14-20 (2013.1), Y. MINAMI, S. AZUMA, and T. SUGIE.

学会発表

２リンク三叉ヘビロボットの推進制御実験，第 56 回システム制御情報学会研究発表講演会，M23-3, pp. 147-148 (2012.5)，南裕樹，並河龍汰，石川将人.

LED 照明システムの自律分散制御，第 55 回自動制御連合講演会，2M201, pp. 1799-1802，南裕樹.

分散型電源システムの分散協調制御，第 10 回最適化シンポジウム，1101，南裕樹，小阪飛陽.

Particle Swarm Optimization に基づく動的量子化器設計，第 13 回制御部門大会，7B2-3 (2013.3)，南裕樹，室巻孝郎

その他

アイデア対決･全国高等専門学校ロボットコンテスト 2012 報告, 舞鶴高専情報科学センター年報, No.41, (2012.3)， 永井律樹，吉元裕真，江口泰規，松田慎，林和歩，菅沼友樹，西山等，南裕樹.

量子化合意問題における動的量子化器の性能解析，舞鶴高専紀要，No. 48，(2012.3)，南裕樹

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－③－３の続き

建設システム工学科

森尾　敏

査読付論文

微動測定によるバンコク地盤・深部地下構造の推定，地盤工学会誌，Vol.60，No.9，pp.24-27，2012.9.，森尾敏，加登文学，北角哲，スウィット・コスワン.

SH 波の増幅関数とレイリー波の理論振幅比 H/V の比較，地盤工学会誌，Vol.60，No.11，pp.28-29，2012.11.，森尾敏，加登文学.

国際会議

Micro-tremor in Bangkok and its comparison with amplified shear waves and H/V spectrum of Rayleigh waves，The 6th International Conference on Applied Geophysics，EQ07，Kanchanaburi，Thailand，2012.11，S.Morio，Y.Kato，A.Kitazumi，S.Kosuwan，S.Limpisawad and T.Boonyatee.

高谷　富也

国際会議

Load-Displacement Relationship of ACM Wooden-House Retrofitting Brace，Proceedings of World Conference on Timber Engineering (WCTE 2012)，Auckland，NewZealand，(2012.7)，Tomiya Takatani.

Collapsing Simulation of Wooden-House Retrofitted by ACM Braces During Seismic Ground Motion，Proceedings of the 2012 International Conference on Advances in Coupled System Mechanics (ACSM 2012)，Seoul，Korea，(2012.8)，Tomiya Takatani and Hayato Nishikawa.

Seismic Performance Evaluation of Retrofitted Wooden House by Collapsing Process Analysis，Proceedings of the First Australasia and South East Asia Conference in Structural Engineering and Construction (ASEC-SEC-1 2012)，pp.83-88，Perth，Western Australia (2012.11)，Tomiya Takatani and Hayato Nishikawa.

Collapsing Behavior of Retrofitted Wooden House under Seismic Motion，Proceedings of theFirst International Conference on Performance-based and Life-cycle Structural Engineering (PLSE 2012)，Hong Kong，China，(2012.12)，Tomiya Takatani and Hayato Nishikawa.

学会発表

平均 S 波速度と木造家屋応答の関係―京都府舞鶴市を対象とした検討―，土木学会第 32 回地震工学研究発表会講演論文集，(2012.10)，西川 隼人，加登文学，高谷富也，宮島昌克.

その他

倒壊シミュレーション解析による木造住宅の耐震補強効果の評価，舞鶴高専紀要，No.46，(2013.3)，西川隼人，高谷富也.

建築物環境性能評価システムを用いた図書館の改築案について，情科学センター年報，第 41 号，(2013.3)，福田あゆみ，高谷富也.

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－③－３の続き

在来軸組構法による新築木造住宅の地震時倒壊解析について, 情科学センター年報, 第 41 号, (2013.3), 和田友太, 西川隼人, 高谷富也.

仮想化技術とクラウド監視システムの導入について, 情科学センター年報, 第 41 号, (2013.3), 千賀 優作, 高谷 富也.

三輪　浩

査読付論文

Numerical simulation of low-flow channel evolution due to sediment augmentation, International Journal of Sediment Research, Vol.27, No.3, pp.351-361, (2012.9), Hiroshi Miwa and Gary Parker.

Flow resistance and sediment transport rate in alluvial streams with sedimentary dunes, Journal of Hydroscience and Hydraulic Engineering, JSCE, Vol.30, No.2, pp.49-64, (2012.11), Hiroshi Miwa and Atsuyuki Daido.

学会発表

由良川河口砂州の動態観測と侵食規模の推定, 平成 24 年度土木学会関西支部年次学術講演会講演概要集(CD-ROM), Ⅱ-4, (2012.6), 出野幸一, 三輪　浩, 神田佳一.

由良川河口地形の変動特性と侵食規模の推定, 第 67 回土木学会年次学術講演会講演概要集Ⅱ(CD-ROM), pp.17-18, (2012.9), 三輪　浩, 出野幸一, 神田佳一.

その他

由良川河口砂州周辺の流れとその制御に関する実験的研究, 産学官技術フォーラム'12, 神戸高専地域協働研究センター, OC-1-2, (2012.7), 田口敦士, 神田佳一, 三輪　浩.

洪水による由良川河口砂州のフラッシュ特性に関する移動床模型実験, 産学官技術フォーラム'12, 神戸高専地域協働研究センター, P-28, (2012.7), 藤本真希, 孝子綸図, 神田佳一, 三輪　浩.

由良川における河口砂州の変動特性と侵食規模の推定, 平成 24 年度京都大学防災研究所共同研究一般研究集会, (2012.11), 三輪　浩.

由良川河口地形の動態とその制御法に関する研究, 国土交通省平成 24 年度河川砂防技術研究開発公募地域課題分野(河川)研究成果報告書, (2013.3), 神田佳一, 三輪　浩, 加登文学.

玉田　和也

査読付論文

振動を利用した健全性診断に向けた実橋梁の損傷と動特性変化, 土木学会論文集 A1, Vol.68, No.2, pp.367-383, 2012, 宮下剛, 玉田和也, 劉翠平, 岩崎英徳, 長井正嗣.

学会発表

京都府北部・橋梁維持管理研修会について, 平成 24 年度全国高専教育フォーラム, AK23_3_2, (2012.8), 玉田和也.

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－③－３の続き

橋の動特性変化と健全性評価についての提案, 土木学会第 67 回年次学術講演会, Ⅰ-497, pp.993-994, (2012.9), 玉田和也, 宮下剛.

既設 PC 斜張橋の維持管理に向けたケーブルの振動計測, 第 30 回土木学会関東支部新潟会研究調査発表会, Ⅰ-107, pp.26-29, (2012.10), 古川侑大, 上原繁輝, 宮下剛, 玉田和也, 長井正嗣.

尾上　亮介

学会発表

東舞鶴商店街における空き店舗活用の実践, 第 18 回高専シンポジューム in 仙台講演要旨集, p234, (2013.1), 奥村智輝, 尾上亮介.

その他

「商店街巡礼」, 舞鶴市民新聞連載 (2010.1～), 尾上亮介.

KWI, 個人住宅, 設計･監理, (2012.12) 尾上亮介 (共同).

舞鶴市子供支援施設, 基本設計 (2012.10～) 尾上亮介 (尾上研究室).

宮元　健次

解説

日本庭園, 和楽３月号, 2013.3, 宮元健次.

天海の都市計画, 歴史街道３月号, 2013.3, 宮元健次.

加登　文学

国際会議

Microtremor in Bangkok and its comparison with amplifed shear waves and H/V spectrum of Rayleigh waves, Proc. of the 6th International Conference on Applied Geophysics, EQ07, Kanchanaburi, Thailand.(2012.11), Satoshi Morio, Yoshinori Kato, Akira Kitazumi, Suwith Kosuwan, Sitirag Limpisawad, Tirawat Boonyatee.

学会発表

平均 S 波速度と木造家屋応答の関係－京都府舞鶴市を対象とした検討－, 第 32 回地震工学研究発表会講演論文集, 4-298, (2012.10), 西川隼人, 加登文学, 高谷富也, 宮島昌克.

一面せん断試験による斜面挙動の評価, 第 18 回高専シンポジウム in 仙台講演要旨集, p.249, (2013.1), 北島君則, 加登文学.

一面せん断試験による砂質土の液状化特性, 第 18 回高専シンポジウム in 仙台講演要旨集, p.250, (2013.1), 田中光典, 加登文学.

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料３－１－③－３の続き

その他

微動測定によるバンコク地盤・深部地下構造の推定， 地盤工学会誌， Vol.60， No.9， pp.24-27，(2012.9)， 森尾 敏， 加登 文学， 北角 哲， スウィット コスワン.

SH 波の増幅関数とレイリー波の理論振幅比 H/V の比較，地盤工学会誌 ，Vol60，No.11，pp.28-29，(2012.11)， 森尾 敏， 加登文学.

徳永　泰伸

学会発表

室内における距離感と予想される響きの長さの関係，日本建築学会大会学術講演梗概集， pp.119-120，(2012.9)， 奥家大智， 徳永泰伸.

坂本　英輔

学会発表

ポーラスコンクリートの保水・揚水・透水性能に関する基礎的研究，2012 年度大会（東海）学術講演梗概集，A-1 材料施工，pp.845-846，(2012.9.14)，坂本英輔，三島直生，畑中重光.

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

観点３－１－④：　学校の目的に応じて，教員組織の活動をより活発化するための適切な措置（例えば，均衡ある年齢構成への配慮，教育経歴や実務経験への配慮等が考えられる。）が講じられているか。

（観点に係る状況）

教育理念に謳う「広く工学の基礎と教養を身につけ，問題発見・解決能力，創造力を有し，地域・社会に貢献できる国際感覚豊かな実践的開発型技術者」を育成すべく，教員の年齢構成に配慮しているため，資料３－１－④－１のとおり教員の年齢別構成は，人文科学部門を除いて，特定の範囲の年齢層に著しく偏っていない。教員組織の活動をより活性化するために，教員採用には公募を行い，教授および准教授については学位取得者の比率及び採用前経歴の構成に配慮している（資料３－１－④－２）。教員公募では年齢構成と専門分野及び実績を考慮している（資料３－１－④－３）。また，教員の教育研究レベルを維持向上するため，国内外機関への教員派遣やFD講演会を実施している（資料３－１－④－４）。

本校では，専門４学科と自然科学部門の博士号取得者が90％(51名中46名)，人文科学部門の修士以上の学位取得者が90％であり，国立高等専門学校機構の中期計画目標を達成している。同様に「教授および准教授について，採用された学校以外の学校，企業，機関などで勤務経験を持つ者が全体として60％以上」の目標に対しても，本校では85％に達している。教授･准教授に限れば，民間企業出身者の教員構成割合は13％，他大学または研究機関割合は55％であり，国内外における研究機関への教員派遣，国際会議への参加も近年増加している。

（分析結果とその根拠理由）

本校における教員の年齢層は，人文科学部門を除いて特定の年齢層に偏らず，若年層から年配者層まで広く分布しており，均衡がとれた年齢構成となっている。同様に教授および准教授に関する目標に対しても，本校では目標を達成しており多様な背景を持つ教員組織となっている。

以上より，高等専門学校設置基準（第6条第6項）を満たしており，学校の目的に応じて教員組織の活動をより活性化するための適切な措置が講じられていると判断できる。なお，人文科学部門については，今後の教員採用において適切な措置を講じる必要がある。

資料３－１－④－１

年齢別構成表（平成25年4月1日）

年齢は平成26年3月31日現在

学科名 / 年齢	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	建設システム工学科	人文科学部門	自然科学部門
64	[redacted]					
63						
62						
61						
60						
59						
58						
57						
56						
55						
54						
53						
52						
51						
50						
49						
48						
47						
46						
45						
44						
43						
42						
41						
40						
39						
38						
37						
36						
35						
34						
33						
32						
31						
30						

(職名)は、女性教員

（出典　総務課資料）

資料３－１－④－２

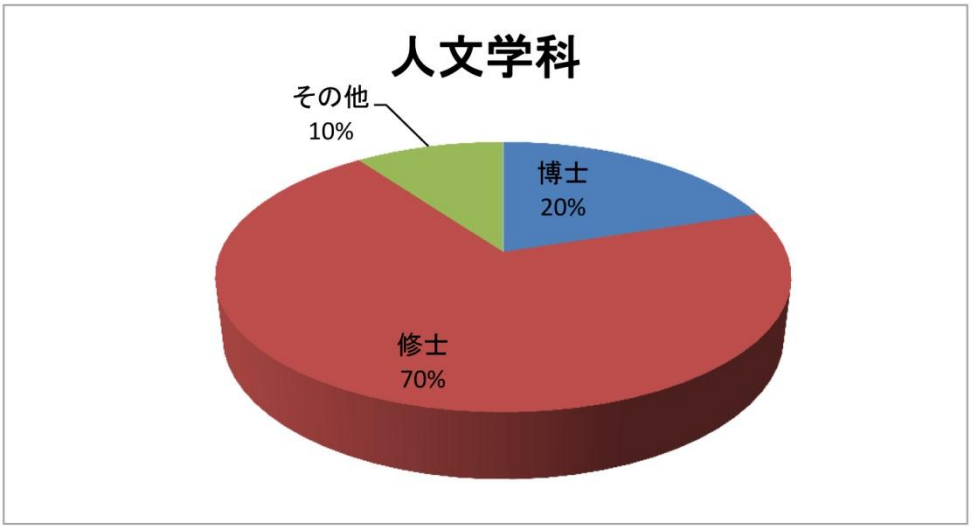
平成25年4月1日

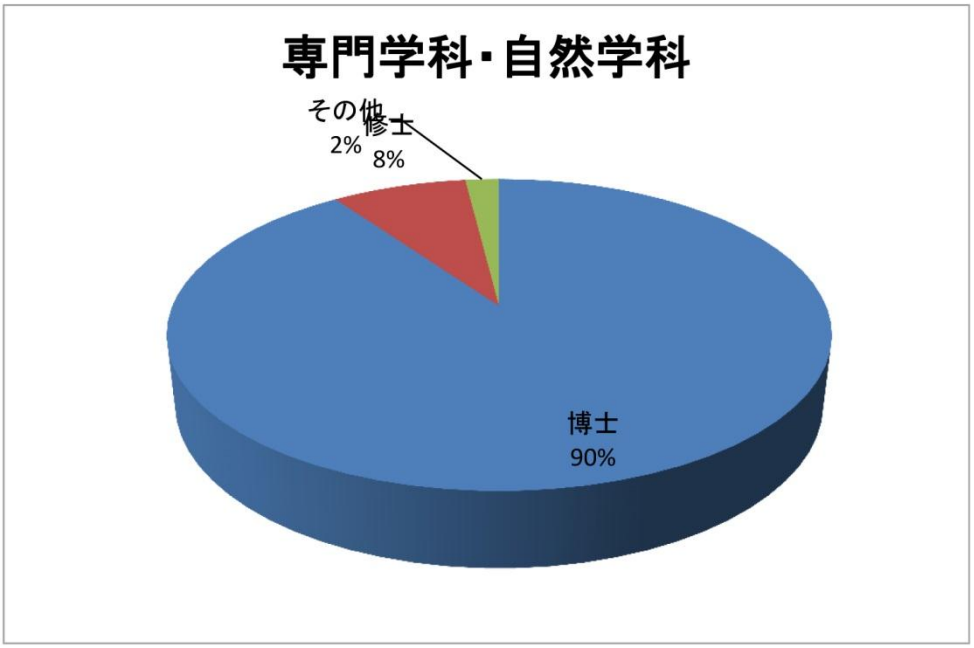
人文学科

博士	2
修士	7
その他	1
合計	10

専門学科・自然学科

博士	46
修士	4
その他	1
合計	51



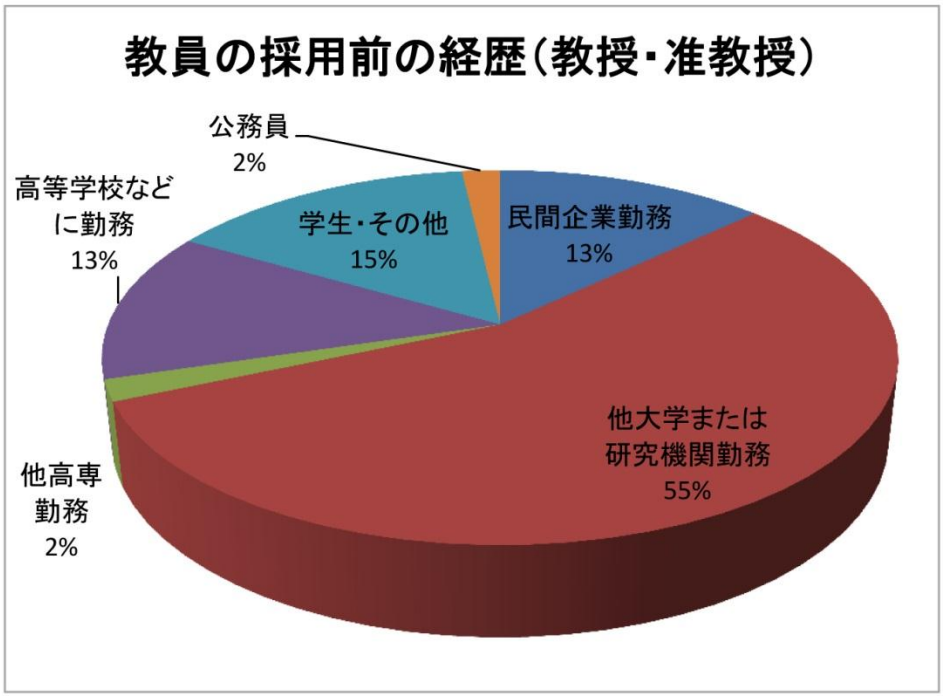


（出典　総務課資料）

資料３－１－④－２の続き

平成25年4月1日

民間企業勤務	7
他大学または研究機関勤務	30
他高専勤務	1
高等学校などに勤務	7
学生・その他	8
公務員	1
合計	54



（出典　総務課資料）

資料３－１－④－３

舞高専総第２３号
平成２４年４月２７日

関係大学（学部）長
関係高等専門学校長　　殿
関係企業 人事担当部長

舞鶴工業高等専門学校長
太田泰雄
（公印省略）

教員の公募について（依頼）

拝啓　時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
さて、このたび本校では、下記のとおり教員を公募することになりました。つきましては、貴機関関係者へ御周知くださいますとともに、適任者の推薦についてよろしくお願いいたします。

敬具

記

１．公募人員　　助教　１名
２．所　　属　　建設システム工学科
３．専門分野　　建築構造（木構造）に関する分野
４．担当予定科目　　上記専門分野関連科目、建築一般構造、建築構造、実験・実習、情報処理、卒業研究等(以上準学士課程)、特別研究(以上専攻科課程)等
５．応募資格　以下の（１）～（５）の条件をすべて満たす方
（１）博士あるいはPh.D.の学位を有する方
（２）一級建築士の資格を有する方（資格取得見込みの方も含む）
（３）３０歳程度までの方（雇用対策法施行規則第１条の３第１項第３号のイの適用により、長期勤続によるキャリア形成を図るため）
（４）高専の準学士課程および専攻科課程の教育(クラス担任、学生指導、クラブ活動指導を含む)に熱意を持って意欲的に取り組む方
（５）優れた学術研究業績を有し、地域と連携した研究推進に意欲のある方
６．採用予定日　平成２５年４月１日
７．提出書類
（１）履歴書(A４判の市販履歴書に自筆、写真貼付のこと)
（２）教育研究業績一覧（研究業績については、現在から過去順に、著書、論文、特許、口頭発表等に分け、その年月日、著者名［氏名を記載順にすべて記述］、掲載誌名、発表機関名などを明記のこと）
（３）主要論文の別刷またはコピー（５編程度）
（４）これまでの研究概要と着任後の教育、研究及び地域貢献についての抱負(A４用紙２枚以内)
（５）推薦書(推薦書のない場合は、応募者に関して意見を求めることが出来る方の氏名・所属・連絡先・応募者との関係を記すこと)
（６）博士あるいはPh.D.の学位取得年月日及び機関名、博士論文の題目及び概要（1,000字程度）
（７）公的診療機関発行の健康診断書（第２次選考対象者のみ、健康診断に要する費用は自己負担）
８．応募締切　平成２４年８月３１日（金）必着
９．選考方法　第１次選考：書類審査
第２次選考：プレゼンテーション(建築構造に関する模擬授業)および面接
（旅費・宿泊費等は自己負担、第１次選考通過者に対して、実施日時等を通知）
10．応募書類提出先　〒625-8511　京都府舞鶴市字白屋２３４番地
舞鶴工業高等専門学校　総務課総務係（Tel.）0773 - 62 - 8862
11．問合せ先　　教員選考委員会委員長　尾上　亮介
Tel : [redacted]　E-mail : [redacted]
12．その他　応募書類は、封筒に「建設システム工学科教員　応募書類在中」と朱書きのうえ、簡易書留で郵送してください。なお、原則として応募書類は返却しません。
※本校は男女共同参画を推進しており、女性の方の公募を歓迎します。

以上

（出典　総務課資料）

資料３－１－④－４

在外研究員派遣実績

年度	氏名	所属	派遣国	派遣先	課題	期間
平成19年度	実績なし					
平成20年度	奥村　幸彦	電子制御工学科	アメリカ合衆国	University of Utah	環境保全を目指した石炭/バイオマスの高度利用に関する研究	平成20年10月1日～
平成21年度	三輪　浩	建設システム工学科	アメリカ合衆国	University of Illinois	河川環境の保全と復元を目指した河床形態・流路変動とその制御に	平成21年10月5日～平成22年9月4日
平成22年度	実績なし					
平成23年度	鈴木　立人	機械工学科	イギリス	University College London	福祉・リハビリ機器による高齢者・身障者のQOL(生活の質)向上の取組	平成23年10月4日～平成24年9月29日
平成24年度	実績なし					

国際学会等派遣事業実績

年度	氏名	所属	派遣国	派遣先	用務	期間
平成19年度	実績なし					
平成20年度	実績なし					
平成21年度	野毛　宏文	機械工学科	オーストリア	4th European Combustion Meeting	学会等における講演・発表のため	平成21年4月13日～平成21年4月19
平成22年度	実績なし					
平成23年度	実績なし					
平成24年度	実績なし					

内地研究員派遣実績

年度	氏名	所属	派遣先	課題	期間
平成19年度	実績なし				
平成20年度	実績なし				
平成21年度	実績なし				
平成22年度	実績なし				
平成23年度	生水　雅之	機械工学科	京都大学工学研究科	超微細粒鋼の創製とその疲労特性	平成２３年８月８日～平成２４年３月２３日
平成24年度	小野　伸一郎	自然科学部門	昭和大学医学部	運動制御に対する呼吸・代謝と不安心理の研究－モノアミン神経関連遺伝子と代謝関連遺伝子－	平成２４年５月１日～平成２５年２月２８日

（出典　総務課資料）

観点３－２－①：　全教員の教育活動に対して，学校による定期的な評価が行われているか。また，その結果把握された事項に対して教員組織の見直し等，適切な取組がなされているか。

（観点に係る状況）

本校では教育活動に関して評価委員会内のFD・ICT部会が定期的な評価として，授業参観と授業アンケートを実施している。授業参観は平成１３年度後期から実施し（資料３－２－①－１），授業アンケートは平成９年度から始めた。授業参観は年1回開催され，他教員の授業を参観した後で参観報告書を提出させている。また，授業公開は年1回後期に開催され（資料３－２－①－２），教員相互による評価が実施されている。一方，授業アンケートは１教員全科目について，各設問3段階評価で学生による授業評価が年2回実施されている（資料３－２－①－３）。また，資料３－２－①－４に示すようにアンケートの総合分析結果を公開し，各教員にも個別の分析結果がフィードバックされ教員の授業の改善に寄与している。このように教員の教育の質の向上させるためのシステムが整備され，実際に評価が行われている。

一方，平成２３年度には教育改善委員会が設置され（資料３－２－①－５），評価委員会（FD・ICT部会）の授業評価などの評価結果に基づいて，教育改善委員会を中心として教育の質の向上と改善の活動（資料３－２－①－６）が実施されている。

（分析結果とその根拠理由）

教員の教育活動に対する定期的な評価については評価委員会内のFD・ICT部会を中心に，授業公開と授業アンケート，教員の自己評価が実施されている。

以上のように，教員の教育の教育活動に関する定期的な評価を適切に実施するための体制が整備され，実際に評価が行われている。

資料３－２－①－１

[all-staff:01968] 授業参観の実施について

Subject: [all-staff:01968] 授業参観の実施について
From: 総務課長補佐(企画担当)[redacted]
Date: Mon, 18 Jun 2012 16:52:31 +0900
To: <all-staff@maizuru-ct.ac.jp>

平成２４年　６月１８日

教　員　各　位

校　　長

太　田　　泰　雄

平成２４年度授業参観の実施について

標記の授業参観を下記の要領で実施しますので、全員もれなく参観してください。

記

１．期間：６月２５日（月）～７月６日（金）

２．期間中に、他の教員の授業を１回以上参観する。

３．授業参観後、１週間以内に添付報告書を[redacted]

あてにメール添付により提出する。

添付ファイル名は「H24授業参観報告_学科記号.参観者の姓.doc」

とすること。

（例）　H24授業参観報告_H.吉永.docx

H24授業参観報告_C.三輪.doc

（英数記号は半角）

※　紙ベースでの提出は受け付けない。

H24授業参観報告.doc	**Content-Type:** application/msword **Content-Encoding:** base64

授業参観実施要項.doc

授業参観実施要項.doc	**Content-Type:** application/msword **Content-Encoding:** base64

（出典　学生課資料）

資料３－２－①－１の続き

授　業　参　観　実　施　要　項

（平成１９年１２月１１日
運　　営　　会　　議
平成２２年６月　８日改訂）

（目　的）

１　本校の授業を質的に向上させるため，各教員が自由に他の教員の授業を参観し，各教員の授業改善に役立てることを目的とする。

（方　法）

２　全校一斉に授業参観期間（以後「参観期間」という。）を設定し，事前に許可を取ることなく，どの授業でも自由に参観できるものとする。

（参観期間）

３　参観期間は２週間以上とし，年間に１回設定するものとする。

（参観回数）

４　教員は前期及び後期参観期間に，それぞれ１回以上他の授業を参観するものとする。

（授業参観報告書）

５　授業参観後，１週間以内に報告書（記名）を提出するものとする。

６　報告書はFD・ICT部会でとりまとめ，評価委員長並びに教務主事に報告するとともに，今後の授業改善に資するものとする。

附　則

この要項は，平成１７年１０月１１日から実施する。

附　則

この要項は，平成１９年１２月１１日から実施する。

附　則

この要項は，平成２２年　６月　８日から実施する。

（出典　学生課資料）

資料３－２－①－１の続き

授業参観報告書

参観日時:＿＿年＿＿月＿＿日(　　)＿＿時限、授業科目名(学年・クラス):＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿(　　)

授業担当者：＿＿＿＿＿＿＿＿、参観者：＿＿＿＿＿＿＿＿

１．自分の授業改善に参考になった点

２．受講学生の状況

３．全体的な感想

特記事項ない場合は「特に無し」とお書きください。

(出典　学生課資料)

資料３－２－①－２

平成24年度授業公開実施計画書

授業科目	クラス（実施教室）	実施日時	実施教員	学外評価者	学内評価者
アナログ信号処理Ⅱ	3E（3E教室）	平成24年12月10日(月) 10時35分～12時15分 第3-4時限	教授 中川　重康	[redacted]	◎ 芦澤　恵太 清原　修二
システム設計学	専攻科1年（専攻科大講義室）	平成24年12月12日(水) 13時00分～14時40分 第5-6時限	准教授 豊田　香	[redacted]	◎ 篠原　正浩 加登　文学
化学ⅢB	4年選択（視聴覚教室）	平成24年12月13日(木) 10時35分～12時15分 第3-4時限	准教授 宮崎　昭仁	[redacted]	◎ 背戸柳　実 小松　幸恵 四蔵　茂雄
電気基礎Ⅱ	1S（1年3組教室）	平成24年12月19日(水) 10時35分～12時15分 第3-4時限	講師 石川　一平	[redacted]	◎ 野間　正泰 片山　英昭
人間論Ⅱ	3M（3M教室）	平成24年12月20日(木) 14時50分～16時30分 第7-8時限	教授 垂谷　茂弘	[redacted]	◎ 児玉　圭司 生水　雅之
建築環境B	4C（B320教室）	平成24年12月21日(金) 10時35分～12時15分 第3-4時限	講師 徳永　泰伸	[redacted]	◎ 尾上　亮介 豊田　香 高谷　富也

◎:主査評価者

（出典　総務課資料）

資料３－２－①－３

平成２５年１月２５日

片山，川田，徳永，鈴木，村上(信)　各教員，眞柄技術職員（１年工学基礎担当）
本科２年，３年担任各位（特別活動担当）
鈴木，室巻，中川，仲川，町田，加登，各教員（４年教科担当）
金山，金森，片山，篠原　各教員（特別実験担当）

評価委員会　FD・ICT 部会
部会長　三輪　浩

平成２４年度後期授業アンケートの実施協力のお願い

本科１～４年生と専攻科１年生に対する今年度後期の授業アンケートを，１月２８日より２月１８日の期間に実施いたします（本科５年生及び専攻科２年生は先行実施）。つきましては，これらの実施にご協力頂きたくお願いする次第です。昨年度よりアンケートの対象科目が全科目（卒業研究，特別研究は除く）となっておりますが，今年度より，科目ごとの自由記述欄を新設しております（全科目共通の記述欄は継続）。アンケート実施の際，学生に確認頂ければ幸いです。

アンケートおよび達成度評価の実施日，時間，場所，担当者および実施概要については別紙のとおりです。校務多忙の折誠に恐縮ですが，ご協力方よろしくお願いいたします。なお，ご不明な点がございましたら，三輪[redacted]までご連絡頂けますよう，併せてお願いいたします。

以上

（出典　総務課資料）

資料３－２－①－３の続き

授業アンケートおよび達成度評価実施要項

１．実施スケジュール

下表のスケジュールに従って実施してください。実施期間中の当該授業で実施して頂けると幸いです。ただし，実施期限は２月１８日(月)です。１人分の回答は約２０分で完了する見込みです。

平成24年度　後期授業アンケート実施スケジュール（1-4年，専1年）

学年	クラス	実施期間	実施時間	実施場所	担当者
1	1	2/1～2/15	工学基礎	情報科学センター	片山
	2			制御棟CAD/CAM	川田（眞柄）
	3			図書館マルチ	徳永
	4			機械CAD室	鈴木・村上（信）
2	1	1/28	特別活動	機械CAD室	村上（美）・村上（信）
	2			制御棟CAD/CAM	梅垣・南
	3				児玉・南
	4			図書館マルチ	小松・坂本
3	M	2/4	特別活動	機械CAD室	生水
	E			制御棟CAD/CAM	芦澤
	S				石川
	C			図書館マルチ	徳永
4	M	1/28～2/18	設計製図Ⅲ	機械CAD室	鈴木・室巻
	E		ディジタル信号処理	情報科学センター	中川
	S		創造設計プロジェクト	制御棟CAD/CAM	仲川・町田
	C		地盤工学ⅡB	図書館マルチ	加登

学年	クラス	実施期間	実施時間	実施場所	担当者
専1	ES	1/21～2/18	特別実験	専攻科棟情報演習室など	金山，金森，片山
	CM		特別実験	専攻科棟情報演習室など	篠原

1-4および２年の担当者のうち，村上(信)，南および坂本の３教員は実施のサポートです。

２．実施手順

１）上表に実施場所を示していますが，あくまで例示です。状況に応じて対応して下さい。なお，図書館３階マルチメディア教室は通常閉室していますので，教務係で鍵を借りてください。

２）舞鶴高専ホームページの左側メニューにある「在校生の皆様へ」をクリックする。

３）授業アンケートおよび達成度評価の欄に「授業アンケート」があるので，回答させる。なお，必要に応じて「授業アンケート回答マニュアル」を参照させて下さい。

４）アンケート終了後はパソコンをシャットダウンする。

３．パスワード忘れ

パスワードが分からない学生は，クラス，氏名および学籍番号を情報科学センターの能勢職員にお知らせ下さい。

以上

（出典　総務課資料）

資料３－２－①－３の続き

平成 24 年度 FD・ICT 部会 第 2 回業務打ち合わせ会 議事概要

１．日　　時　　平成 24 年 10 月 3 日(水) 16：45～17：35
２．場　　所　　B403 教室
３．出 席 者　　三輪教員（部会長）、吉永教員、小林教員、内海教員、坂本教員
眞柄技術職員、石井技術職員、滝総務課課長補佐（総務・企画）、
久保総務係員、池澤教務係員
（欠席者　梅垣教員、村上(信)教員、南教員、柴田総務課長、中島学生課長）

４．報告事項

① 授業参観の実施について
三輪部会長より、6 月 25 日（月）～7 月 6 日（金）に実施した授業参観について報告が行われた。

② FD･ICT 講演会について
三輪部会長より、8 月 6 日（月）に教務・学生・学寮委員会及び学生相談室と合同開催した FD･ICT 講演会について報告があった。また、講演会後に三主事・進路相談室長と 30 分程度の懇談をした旨の報告が行われた。

５．協議事項

① 授業アンケートの実施について
三輪部会長より資料 1 に基づき平成 24 年度前期授業アンケートについて説明があり、その実施及び依頼等について異議なく了承された。
回答の各教員へのフィードバックについては、実施後速やかに行うべきものであるが、10 月 22 日のアンケート締切後、システム上のとりまとめの準備を行い、11 月半ばを目標に集計作業を進めることとなった。

② 教育連絡会議の実施計画について
三輪部会長より資料 2 に基づき、前回（第 1 回業務打ち合わせ会）策定された実施要領に基づいて計画された今年度の教育連絡会議の実施計画について説明があり、異議なく了承された。
今回の検討グループ分けについては試行的要素も含んでいるため、次回（後期）は今回の実施状況を鑑みて検討する旨、意見が出された。

以　上

（出典　総務課資料）

資料３－２－①－４

平成２５年３月１３日

教員各位

校長　太田泰雄

平成２４年度「学生による授業アンケート結果」について

平成２４年度「学生による授業アンケート」の集計結果を配布します。
つきましては，添付されたアンケート集計結果を参考にして各授業の課題分析を行うとともに，今後の改善策を御検討いただき，添付された集計結果ファイルの「課題分析」及び「今後の改善策」の欄に該当事項を記入し，下記によりＥメールに添付して提出してください。
「課題分析」及び「今後の改善策」の提出についてＥメール及び添付ファイルで処理できない場合は，ＦＤ･ＩＣＴ部会の三輪教員までその旨御連絡下さい。

記

提出期限　平成２５年３月３１日（日）１７：００

提出先 [redacted]

以上

（出典　評価委員会(FD・ICT部会)資料）

資料３－２－①－４の続き

アンケート実施時期
平成24年度

アンケート集計結果(全科目)

・各質問に対する各回答の数と割合を示しています。
・講義系科目、実験/実習系科目のそれぞれ全科目についての結果を示しています。

講義系科目(全479科目)

質　　問	回　　答		
この授業の内容や進め方は適切でしたか？	適切であった	どちらとも言えない	不適切であった
	11833（66.3%）	4757（26.7%）	1250（7.0%）
よく準備された授業でしたか？	準備されていた	どちらとも言えない	準備されていなかった
	12019（67.4%）	4806（26.9%）	1015（5.7%）
先生の説明はわかりやすかったですか？	わかりやすかった	どちらとも言えない	わかりにくかった
	10341（58.0%）	5422（30.4%）	2056（11.5%）
あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか？	取り組んだ	どちらとも言えない	取り組まなかった
	11418（64.0%）	5213（29.2%）	1204（6.8%）

実験/実習系科目(全93科目)

質　　問	回　　答		
この授業の内容や進め方は適切でしたか？	適切であった	どちらとも言えない	不適切であった
	2647（76.4%）	700（20.2%）	117（3.4%）
よく準備された授業でしたか？	準備されていた	どちらとも言えない	準備されていなかった
	2625（75.8%）	730（21.1%）	107（3.1%）
先生の説明はわかりやすかったですか？	わかりやすかった	どちらとも言えない	わかりにくかった
	2380（68.8%）	893（25.8%）	184（5.3%）
あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか？	取り組んだ	どちらとも言えない	取り組まなかった
	2824（81.6%）	549（15.9%）	89（2.6%）

（出典　評価委員会(FD・ICT部会)資料）

資料３－２－①－４の続き

科目1/7

科目名	クラス	学期	内容	回答人数
		前期	講義(必修)	37

質　　問	回　　答		
この授業の内容や進め方は適切でしたか？	適切であった	どちらとも言えない	不適切であった
	15(40.5%)	10(27.0%)	12(32.4%)
よく準備された授業でしたか？	準備されていた	どちらとも言えない	準備されていなかった
	22(59.5%)	10(27.0%)	5(13.5%)
先生の説明はわかりやすかったですか？	わかりやすかった	どちらとも言えない	わかりにくかった
	15(40.5%)	9(24.3%)	13(35.1%)
あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか？	取り組んだ	どちらとも言えない	取り組まなかった
	25(67.6%)	7(18.9%)	5(13.5%)

コ　　メ　　ン　　ト
楽しかったです。
授業が早い
進むのが早い。解説はわかりやすい
とてもたのしかったです。
進むのが早い。微積など習ってないことも説明なしに進められるとついていけない

科目2/7

科目名	クラス	学期	内容	回答人数
			講義(選択)	32

質　　問	回　　答		
この授業の内容や進め方は適切でしたか？	適切であった	どちらとも言えない	不適切であった
	21(65.6%)	6(18.8%)	5(15.6%)
よく準備された授業でしたか？	準備されていた	どちらとも言えない	準備されていなかった
	21(65.6%)	7(21.9%)	4(12.5%)
先生の説明はわかりやすかったですか？	わかりやすかった	どちらとも言えない	わかりにくかった
	17(53.1%)	8(25.0%)	7(21.9%)
あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか？	取り組んだ	どちらとも言えない	取り組まなかった
	22(68.8%)	8(25.0%)	2(6.3%)

科目3/7

科目名	クラス	学期	内容	回答人数
			講義(選択)	29

質　　問	回　　答		
この授業の内容や進め方は適切でしたか？	適切であった	どちらとも言えない	不適切であった
	4(13.8%)	20(69.0%)	5(17.2%)
よく準備された授業でしたか？	準備されていた	どちらとも言えない	準備されていなかった
	11(37.9%)	15(51.7%)	3(10.3%)
先生の説明はわかりやすかったですか？	わかりやすかった	どちらとも言えない	わかりにくかった
	3(10.3%)	18(62.1%)	8(27.6%)
あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか？	取り組んだ	どちらとも言えない	取り組まなかった
	9(31.0%)	12(41.4%)	8(27.6%)

科目4/7

科目名	クラス	学期	内容	回答人数
			講義(選択)	25

質　　問	回　　答		
この授業の内容や進め方は適切でしたか？	適切であった	どちらとも言えない	不適切であった
	8(32.0%)	15(60.0%)	2(8.0%)
よく準備された授業でしたか？	準備されていた	どちらとも言えない	準備されていなかった
	13(52.0%)	11(44.0%)	1(4.0%)
先生の説明はわかりやすかったですか？	わかりやすかった	どちらとも言えない	わかりにくかった
	7(28.0%)	12(48.0%)	6(24.0%)
あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか？	取り組んだ	どちらとも言えない	取り組まなかった
	12(50.0%)	11(45.8%)	1(4.2%)

コ　　メ　　ン　　ト
少し難しい

（出典　評価委員会(FD・ICT部会)資料）

資料３－２－①－４の続き

授業スピードが速すぎる。
わけがわからない

科目5/7

科目名	クラス	学期	内容	回答人数
			講義(選択)	14

質　　問	回　　答		
この授業の内容や進め方は適切でしたか？	適切であった	どちらとも言えない	不適切であった
	6(42.9%)	5(35.7%)	3(21.4%)
よく準備された授業でしたか？	準備されていた	どちらとも言えない	準備されていなかった
	6(42.9%)	5(35.7%)	3(21.4%)
先生の説明はわかりやすかったですか？	わかりやすかった	どちらとも言えない	わかりにくかった
	4(28.6%)	5(35.7%)	5(35.7%)
あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか？	取り組んだ	どちらとも言えない	取り組まなかった
	7(50.0%)	3(21.4%)	4(28.6%)

コ　　メ　　ン　　ト
もう少し適切な解説がほしかった。

科目6/7

科目名	クラス	学期	内容	回答人数
			講義(必修)	32

質　　問	回　　答		
この授業の内容や進め方は適切でしたか？	適切であった	どちらとも言えない	不適切であった
	14(43.8%)	11(34.4%)	7(21.9%)
よく準備された授業でしたか？	準備されていた	どちらとも言えない	準備されていなかった
	18(56.3%)	7(21.9%)	7(21.9%)
先生の説明はわかりやすかったですか？	わかりやすかった	どちらとも言えない	わかりにくかった
	13(40.6%)	9(28.1%)	10(31.3%)
あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか？	取り組んだ	どちらとも言えない	取り組まなかった
	21(65.6%)	7(21.9%)	4(12.5%)

コ　　メ　　ン　　ト
上から目線過ぎ。生徒がわからんのに進めすぎ。
ありがとうございました。
授業の速度が異常に早く、一部説明してほしい

科目7/7

科目名	クラス	学期	内容	回答人数
			講義(選択)	30

質　　問	回　　答		
この授業の内容や進め方は適切でしたか？	適切であった	どちらとも言えない	不適切であった
	11(39.3%)	14(50.0%)	3(10.7%)
よく準備された授業でしたか？	準備されていた	どちらとも言えない	準備されていなかった
	17(56.7%)	11(36.7%)	2(6.7%)
先生の説明はわかりやすかったですか？	わかりやすかった	どちらとも言えない	わかりにくかった
	12(41.4%)	11(37.9%)	6(20.7%)
あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか？	取り組んだ	どちらとも言えない	取り組まなかった
	15(51.7%)	12(41.4%)	2(6.9%)

課題分析

今後の改善策

（出典　評価委員会(FD・ICT部会)資料）

資料３－２－①－５

舞鶴工業高等専門学校教育改善委員会規則

（目的）
第１条　舞鶴工業高等専門学校組織規程（平成２２年１２月２１日施行）第１５条第２項の規定に基づき，教育改善委員会（以下「委員会」という。）に関し，この規則を定める。
（委員会の構成）
第２条　委員会は，次の各号に掲げる委員をもって構成する。
(1)　副校長
(2)　教務主事，学生主事及び寮務主事
(3)　専攻科長
(4)　教育プログラム（ＰＩＥ）委員会委員長
(5)　評価委員会副委員長
(6)　教員のうちから校長が任命した者
(7)　総務課長及び学生課長
（委員会の業務）
第３条　委員会は，校長の諮問に応じ，次の各号に掲げる事項について協議する。
(1)　自己点検・評価結果に基づく教育改善に関すること。
(2)　継続的な改善システムに関すること。
(3)　その他教育改善に関すること。
２　委員会は，必要と認めるときは,各学科・部門及び他の委員会に提議,付託または協力要請ができるものとする。
（委員の任期）
第４条　第２条第６号の委員の任期は１年とし，再任を妨げない。ただし，欠員が生じた場合の後任委員の任期は，前任委員の残任期間とする。
（委員長）
第５条　委員会に委員長を置き，委員のうちから校長が指名する。
（委員会の招集）
第６条　委員長は，委員会を招集し，その議長となる。
２　委員長に事故あるときは，委員のうちから委員長があらかじめ指名した者が，その職務を代行する。
（委員以外の委員会への出席）
第７条　委員会は，必要があると認めた場合は，委員以外の教職員の出席を求めて，意見を聞くことができる。
（事務）
第８条　委員会の事務は，総務課において処理する。

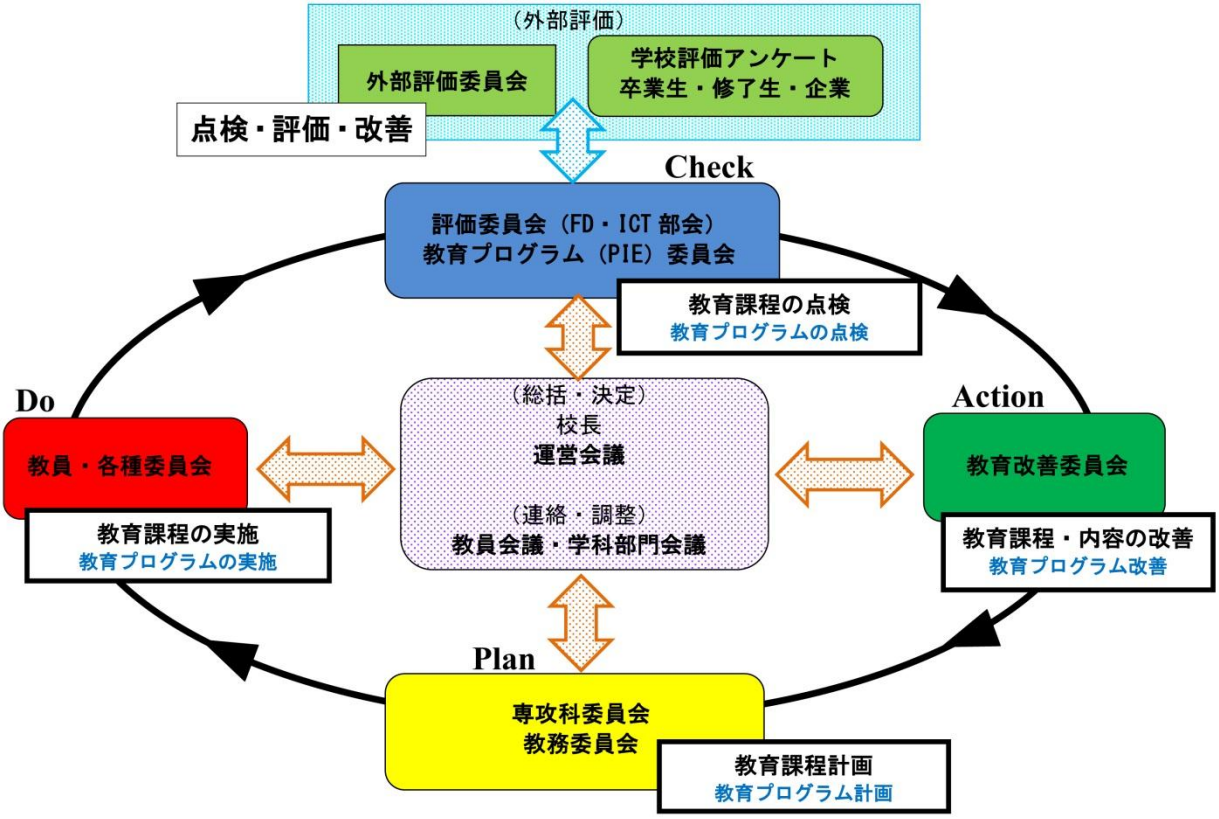
附　則
この規則は，平成２３年４月１日から施行する。

（５－３０－１）

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料３－２－①－６

本校の継続的改善システム



（出典　本校ウェブページ）

観点３－２－②：　教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ，適切に運用がなされているか。

（観点に係る状況）

本校では，教員の採用や昇格は「舞鶴工業高等専門学校教員選考基準」（資料３－２－②－１）及び「舞鶴工業高等専門学校教員選考内規」（資料３－２－②－２）に基づいて運用されている。教員の採用や昇格の際には，選考委員会が書類選考を行い，その上で面接と審査を行い総合的に判断して選考しており，高等専門学校設置基準（第11条～第13条）にある教授，准教授，講師及び助教となることのできる条件を満たしていることを確認している。

教員の採用は，公募によって行っている（資料３－２－②－３）。各学科において，必要な教員の専門分野，経験，職名などを検討し，学科長が選考委員会に報告する。選考委員会はこの報告をもとに，高等専門学校設置基準も考慮して，選考方針，及び公募要領を決定する。選考に際しては書類審査により原則として３名以上の面接候補者を挙げ，面接審査と模擬授業等を経て選考委員会が採用者を決定している。選考基準は一次・二次選考評価シートに基づいている。なお，これら一次・二次選考評価シートについては，訪問審査時の閲覧資料として準備する。採用基準を学位，専門分野，年齢，これまでの教育業績，研究業績，着任後の教育・研究，地域貢献等に対する抱負，ものつくりの経験などの項目に区分し，それぞれの細目を定め，採用の目的に対応した重み付けを行って厳正に審査を行っている。

教員の昇格に際しては，選考委員会が候補者の教員選考個人調書と学位，専門分野，年齢，これまでの教育業績，研究業績，昇格後の教育・研究，地域貢献等に対する抱負，ものつくりの経験などの項目に関する書類の提出を通じた書類審査でその教育・研究活動実績等を評価し，面接審査実施の可否を決定する。その後校長，副校長を加えた選考委員会による候補者の面接審査を経て昇格の可否を決定している。

また，非常勤教員の採用にあたっても「常時勤務を要しない教員の選考に関する申合せ」（資料３－２－②－４）に基づいて審査し採用している。

（分析結果とその根拠理由）

教員の採用や昇格については，教員選考基準及び教員選考内規に基づいて，学位，専門分野，年齢，これまでの教育業績，研究業績，教育・研究，地域貢献対する抱負，ものつくりの経験などの項目について審査し，教育の目的を達成するために必要な条件を満たしていることを審査している。また，非常勤教員の採用にあたっても，選考に関する申合せに基づいて審査している。

以上より，本校の教員の採用や昇格等に関する規定などが明確かつ適切に定められ，適切に運用がなされている。

資料３－２－②－１

○舞鶴工業高等専門学校教員選考基準

（趣旨）

第１条　舞鶴工業高等専門学校における教授，准教授，講師及び助教の採用及び昇任の選考は，この基準により行う。

（教授の資格）

第２条　教授となることのできる者は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有する者と認められる者とする。

(1)　博士の学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有する者

(2)　学位規則（昭和二十八年文部省令第九号）第五条の二に規定する専門職学位（外国において授与されたこれに相当する学位を含む。）を有し、当該専門職学位の専攻分野に関する業務についての実績を有する者

(3)　大学（短期大学を含む。以下同じ。）又は高等専門学校において教授，准教授又は専任の講師の経歴（外国においてこれらに相当する教員としての経歴を含む。）のある者

(4)　学校，研究所，試験所，調査所等に在職し，教育若しくは研究に関する実績を有する者又は工場その他の事業所に在職し，技術に関する業務についての実績を有する者

(5)　特定の分野について，特に優れた知識及び経験を有すると認められる者

(6) 前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

（准教授の資格）

第３条　准教授となることのできる者は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有する者と認められる者とする。

(1)　前条各号のいずれかに該当する者

(2)　大学又は高等専門学校において助教又はこれに準ずる職員としての経歴（外国においてこれらに相当する教員としての経歴を含む。）のある者

(3)　修士の学位又は学位規則第五条の二に規定する専門職学位（外国においてこれらに相当する教員としての経歴を含む。）を有する者

(4)　特定の分野について，優れた知識及び経験を有すると認められる者

(5)　前各号に掲げる者と同等以上の能力を有すると文部科学大臣が認めた者

（講師の資格）

第４条　講師となることのできる者は，次の各号のいずれかに該当する者とする。

(1)　第２条又は前条に規定する教授又は准教授となることのできる者

(2)　高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。）において教諭の経歴のある者で，かつ，高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有する者と認められる者

(3)　前各号に掲げる者と同等以上の能力を有する者と文部科学大臣が認めた者

（助教の資格）

第５条　助教となることのできる者は，次の各号のいずれかに該当し，かつ，高等専門学校における教育を担当するにふさわしい教育上の能力を有すると認められる者とする。

(1)　第2条各号又は第3条各号のいずれかに該当する者

(2)　修士の学位（医学を履修する課程，歯学を履修する課程，薬学を履修する課程のうち臨床に係る実践的な能力を培うことを主たる目的とするもの又は獣医学を履修する課程を修了した者については，学士の学位）又は学位規則第五条の二に規定する専門職学位（外国において授与されたこれらに相当する学位を含む。）を有する者

(3)　特定の分野について，知識及び経験を有すると認められる者

（６－20－１）

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料３－２－②－１の続き

附　則

この基準は，平成１０年３月３日から施行する。

附　則

この基準は，平成１３年３月３０日から施行する。

附　則

この基準は，平成２２年９月２２日から施行する。

（６－20－２）

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料３－２－②－２

○舞鶴工業高等専門学校教員選考内規

第１条　舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）の教授，准教授及び講師並びに助教（以下「教員」という。）の選考は，本校教員選考基準によるもののほか，この内規の定めるところによる。

第２条　舞鶴工業高等専門学校長（以下「校長」という。）は，必要と認めた場合には，教員選考委員会（以下「選考委員会」という。）を発足させ，審査を求めるものとする。

２　選考委員会は，被選考教員が属する学科(部門)及びそれ以外の学科（部門）から少なくともそれぞれ１名を含めた教員３名以上５名以内をもって構成するものとし，原則として，被選考教員が属する学科（部門）からの選考委員は，半数を超えるものとする。

第３条　選考委員会に教員選考委員会委員長（以下「委員長」という。）を置く。

２　委員長は，当該委員の互選によるものとし，教授をもってこれに充てる。この場合，被選考教員の属する学科（部門）からの教授が当たることが望ましい。

３　委員長は，当該選考委員会を総括する。

第４条　選考委員会は，第２条に提案された教員候補者について，本校教員選考基準による資格審査を行うものとする。

第５条　第２条の選考委員会は，次の委員をもってそれぞれ構成する。

(1) 教授の選考については，教授により審査を行うものとする。

(2) 准教授の選考については，准教授以上により審査を行うものとする。

(3) 講師及び助教の選考については，講師以上により審査を行うものとする。

第６条　委員長は，選考審査業務開始後３か月以内に教員選考委員会審査結果報告書（別紙様式）をまとめ，審査の経過及びその結果を校長に報告するものとする。

第７条　校長は，選考委員会の報告を基に教員選考を決定する。

第８条　常時勤務を要しない教員の選考については，この選考内規にかかわらず，別に定める舞鶴工業高等専門学校の常時勤務を要しない教員の選考に関する申合せに基づき選考を行うものとする。

第９条　この内規の解釈について，疑義が生じたときは，校長が決定する。

附　則

この内規は，平成１０年３月３日から実施する。

附　則

この内規は，平成１２年４月１日から実施する。

附　則

この内規は，平成１３年４月１日から実施し，改正後の第８条の規程は，平成１３年１月６日から適用する。

（６－21－１）

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料３－２－②－２の続き

附　則

この内規は，平成１４年４月１日から実施する。

附　則

この内規は，平成２５年２月１２日から実施する。

（６－21－２）

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料３－２－②－２の続き

教　員　選　考　提　案　書

学科(部門)名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　　学科(部門)長氏名＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿㊞

職　名	担当科目	毎週授業 担当時数	最　終　学　歴	学　位

ふりがな 氏名		生年月日 昭和　年　月　日	性別
現　職			

提　案　の　要　旨

（６－21－３）

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料３－２－②－２の続き

平成　　年　　月　　日

舞鶴工業高等専門学校長
殿

教員選考委員会
委員長
委　員
委　員
委　員
委　員

教員選考委員会審査報告

平成　　年　　月　　日開催の教員選考委員会において，下記のとおり判定しましたので，報告します。

記

審査の資格	専任の別 兼任	担当科目名	候補者氏名	判　定

適用条項　　本校教員選考基準　　第　　条第　　号該当
（第　　条第　　号準用）

（６－21－４）

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料３－２－②－２の続き

教員選考委員会審査結果報告書

教員選考委員会委員長　　㊞

学科(部門)名		担当科目名			
審査の資格		候補者氏名 生年月日		性別	
最終学歴			学位称号		
現職					
審査年月日	平成　　年　　月　　日				
審査の要旨					
判定		適用条項	本校教員選考基準　第　　条第　　号該当 （第　　条第　　号準用）		
教員選考委員会委員					

（６－21－５）

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料３－２－②－２の続き

学科(部門)名＿＿＿＿＿＿＿＿

職　名	担当科目	毎週授業担当時数	最終学歴	学　位

ふりがな 氏　名		生年月日 昭和　年　月　日	性別
本籍地			
現住所			

業

年　月　日	事　項

績

著者著書･論文等の名称	発行所，発表雑誌等又は発表学会等の名称	巻(号)頁	発行又は発表の年（月）

（６－21－６）

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料３－２－②－３

舞高専総第２１７号
平成２５年３月２０日

関係大学(学部) 長
関係高等専門学校長　　殿
関係企業 人事担当部長

舞鶴工業高等専門学校長
太 田 泰 雄
(公 印 省 略)

教員の公募について（依頼）

拝啓 時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。
さて，このたび本校では，下記のとおり教員を公募することになりました。つきましては，貴機関関係者へ御周知くださいますとともに，適任者の推薦についてよろしくお願いいたします。

敬具

記

１．公 募 人 員　助教　１名
２．所　　属　電子制御工学科
３．専 門 分 野　制御工学・ロボティクス関連分野
４．担 当 科 目　制御工学・ロボティクス・メカトロニクス関連科目および実験実習
５．応 募 資 格　以下の(1)～(3)の条件を満たす方
(1) 博士の学位を有する方（採用予定日までに学位取得見込みの方）
(2) ３２歳程度までの方（雇用対策法施行規則第１条の３ 第１項第３号のイの適用により，長期勤続によるキャリア形成を図るため）
(3) 対象分野に研究業績があり，工業高等専門学校の教育・研究及び学生指導に理解と情熱のある方
６．採 用 予 定 日　平成２５年９月１日 以降のなるべく早い時期
７．提 出 書 類
(1) 履歴書（書式は任意，写真貼付，署名および押印のこと）
(2) 研究業績一覧（現在から過去順に，著書，学術論文，国際会議，口頭発表，特許等に分け，その年月日，著者名[氏名を記載順にすべて記述]，掲載誌名，発表機関名などを明記のこと）
(3) 主要研究業績３点の著書・学術論文（別刷またはコピー）とその概要
(4) 推薦書，又は応募者について問い合わせ可能な方の氏名・所属と連絡先
(5) 着任後の教育・研究及び学生指導に関する抱負（1000 字程度）
(6) 博士の学位取得（見込）年月日及び機関名，博士論文の題目及び概要（1000字程度）
提出書類(2)は，http://www.maizuru-ct.ac.jp から，著書・論文等一覧 の書式をダウンロードしてご使用下さい。また，(1)及び(3)～(6)の提出書類は，A4 版任意様式とします。
８．応 募 締 切　平成２５年６月２１日（金）　必着
９．選 考 方 法　第１次選考：書類審査
第２次選考：プレゼンテーション及び面接（旅費・宿泊費等は自己負担，第１次選考通過者に対して，実施日時等をお知らせします。）
10. 応募書類提出先　〒625-8511 京都府舞鶴市字白屋２３４番地
舞鶴工業高等専門学校 総務課総務係（Tel.）0773-62-8862
11. 問 合 せ 先　教員選考委員会委員長　奥村　幸彦
(Tel. & Fax.) [redacted]　E-mail：[redacted]
12.そ　の　他　独立行政法人国立高等専門学校機構 舞鶴工業高等専門学校は男女共同参画を推進しており，業績（研究業績，教育業績，社会貢献，人物を含む。）の評価において同等と認められる場合には、女性を採用します。
応募書類は，封筒に「電子制御工学科教員 応募書類在中」と朱書きのうえ，簡易書留で郵送してください。なお，原則として応募書類は返却しません。

以上

（出典　総務課資料）

資料３－２－②－４

○舞鶴工業高等専門学校の常時勤務を要しない教員の選考に関する申合せ

（趣旨）

第１条　舞鶴工業高等専門学校の常時勤務を要しない教員(以下「非常勤講師」という。)の任用については，法令等に定めるもののほか，この申合せによるものとする。

（資格）

第２条　非常勤講師は，高等専門学校設置基準（平成１３年文部科学省令第４８号）に定める講師以上の資格を有し，本校の教育方針に沿った教育指導ができる者で，原則として，次の各号に該当する者とする。

(1) 当該年度の４月１日現在で，満６３歳未満の者とする。ただし，余人をもってかえがたい場合には，原則として満６５歳未満の者とする。

(2) 健康で勤務に支障がない者

（条件）

第３条　非常勤講師は，特殊な専門知識・技術を必要とする内容の授業科目を担当させる場合に任用するものとする。ただし，校長が，特に必要と認めた場合には，必要最小限度の授業時間数を非常勤講師の任用により補うことができる。

（任用期間）

第４条　非常勤講師の任用期間は，１年以内とする。ただし，必要かつ余人をもってかえがたい場合には５年を限度として任用を更新することができるものとする。

（任用計画）

第５条　学科（部門）長は，非常勤講師の任用計画がある場合は，別記様式１の非常勤講師任用計画書及び別記様式２の教員選考個人調書に記入の上，教務主事を経て，前年度の１１月末日までに校長に提出するものとする。この場合において，当該非常勤講師の担当授業科目等については，あらかじめ，教務委員会の審議を経ておくものとする。

（任用計画の調整）

第６条　校長は，非常勤講師の資格その他の事由により，前条に基づき提出さ　れた任用計画に調整が必要であると認めた場合には，教務主事及び当該学科　（部門）長の意見を聴いて調整を行うものとする。

（選考）

第７条　校長は，前２条により提出された当該任用計画に基づき選考し，その旨を当該の学科（部門）長に通知するものとする。

（任用計画の変更）

第８条　前条により決定された任用計画に変更が生じた場合には，当該学科（部門）長は，速やかに第４項の規定に準じて，任用計画変更調書を教務主事を経て校長に提出するものとする。

第９条　校長は，第５項及び第６項の規定に準じて，当該任用計画の変更に基づき選考し，その旨当該学科（部門）長に通知するものとする。

（担当時間数）

第１０条　非常勤講師の担当時間数は，週８時間以内とする。

附　記

１　この申合せは，平成１０年３月３日から実施する。

２　非常勤講師任用手続要領（昭和５９年６月１９日制定）及び舞鶴工業高等専門学校非常勤講師採用についての申合せ事項（昭和５４年４月１日制定）は，廃止する。

（６－22－１）

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料３－２－②－４の続き

附　記

この申合せは，平成１３年４月１日から実施する。

附　記

この申合せは，平成１４年４月１日から実施する。

附　記

この申合せは，平成１５年４月１日から実施する。

（６－22－２）

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料３－２－②－４の続き

別紙様式１

平成　　年度　非常勤講師任用計画書

〔　　学科（部門）〕

授業科目	受講クラス	毎週の時間数	担当(予定)者名	本務	新規継続の別	備考	
						講義の曜日	住所
					新・継		
					新・継		
					新・継		
					新・継		
					新・継		
					新・継		
					新・継		
					新・継		

注）１　次年度分を１１月末日までに学生課教務係へ提出してください。
　　２　提出後変更が生じたときは，速やかに連絡してください。

（６－22－３）

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料３－２－②－４の続き

別紙様式２

教員資格認定個人調書

舞鶴工業高等専門学校

ふりがな 氏　　名	男・女 （年　月　日生満　才）	本籍地	
		現住所	
担当授業科目		最終学歴	
学　　位		資格･免許	
教育・研究・技術に関する職歴の概要		（期間） 計　　年　　月	
教育・研究・技術上の業績			
学科（部門）主任所見　採用の理由・推薦経緯			
学科（部門）主任所見　身体・人物等			
学科（部門）主任所見　その他特記事項			
記入責任者	学科(部門)主任　　㊞ 平成　年　月　日記入		

（６－22－４）

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

観点３－３－①：　学校における教育活動を展開するに必要な事務組織，技術職員等の教育支援者等が適切に配置されているか。

（観点に係る状況）

学校組織図（資料３－３－①－１），教員組織規程（資料３－３－①－２）及び事務組織規程（資料３－３－①－３）に見られるように，専攻科委員会，教員会議，運営会議，各種委員会，学科（部門）会議，学級担任会議等への支援や校長，主事，学科（部門）長，センター長等を補佐するための事務職員が適正に配置され機能している。例えば，教員会議および運営会議では総務課および学生課の，各種委員会ではそれぞれ担当分掌に応じて総務課および学生課の事務職員が支援している。学科（部門）会議では必要に応じて総務課および学生課の事務職員が支援している。

教育活動の展開に直接的に関与するのは，学生課および教育研究支援センターである。

教務係では，入試関連，履修管理，成績管理，学生異動管理，シラバス管理業務及び学生便覧作成業務を担当している。

学生支援係では，課外教育・奨学金等・部活動・保健管理・厚生補導・就職支援など，学生生活に関することを担当している。

寮務係では，学寮の管理運営，入寮・退寮事務，学寮施設設備の保全・整備，寮生の保健衛生など，学生の寮生活に関することを担当している。

学術情報係では，本校の図書館に事務職員3名を配置するとともに，図書の閲覧・貸出，図書の購入・整理保管，学術情報の利用等，情報科学教育及び情報基盤の整備，図書に関する調査統計などに関することを担当している。

教育研究支援センター規程（資料３－３－①－４）に示すように，各学科，情報科学センター及び地域共同テクノセンターにおける教育・研究支援に関し，技術に係わる専門的業務を組織的かつ効率的に行うため技術職員が配置されている。各専門学科からの教育研究支援センター業務依頼書（資料３－３－①－５）の提出を受けて，教育研究支援センターの職員を教育・研究支援を行うために配置している（資料３－３－①－６）。また，これらの教育支援者には，能力開発のための各種研修にも参加させている（資料３－３－①－７，８）。

（分析結果とその根拠理由）

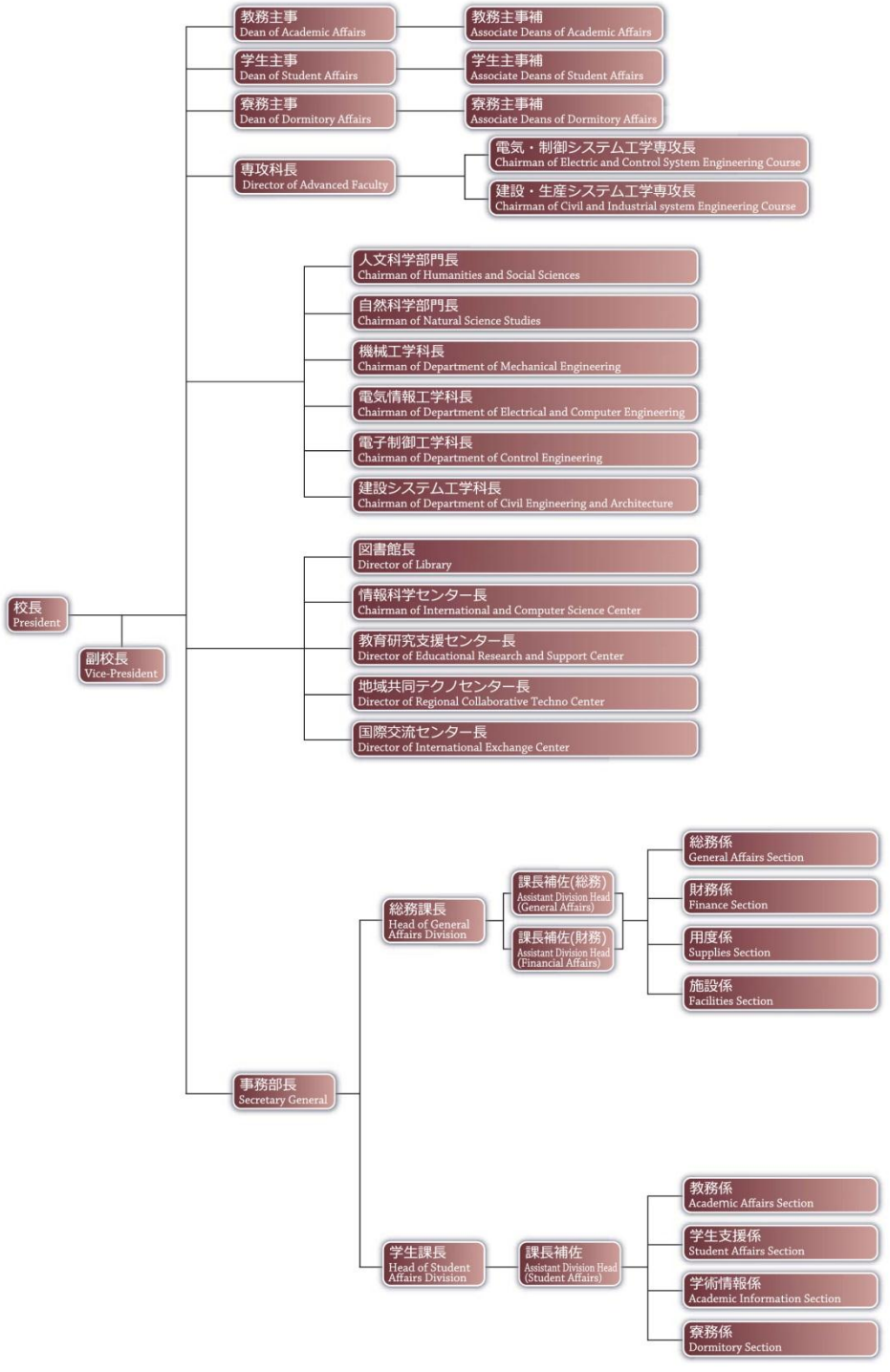
教育課程を展開するに必要な各種会議および各種委員会への支援と補佐の事務体制が整備されている。また，教育研究支援センター所属の技術職員が配置され，教育・研究支援の体制が整えられている。

以上のように，学校教育法（第120条）及び高等専門学校設置基準（第10条）を満たしており，学校において編成された教育課程を展開するに必要な事務職員，技術職員等の教育支援者が適切に配置されていると判断できる。

資料３－３－①－１

組織図

Chart of Organization



（出典　平成２４年度学校概要）

資料３－３－①－２

○舞鶴工業高等専門学校教員組織規程

（目的）

第１条　この規程は，独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（平成１６年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第１号。以下「規則」という。）第５条及び舞鶴工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第６条の規定に基づき，舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）における内部組織及び会議等に関する事項を定め，もって校務の円滑な運営を図ることを目的とする。

（設置）

第２条　本校における教育研究の推進，支援を行うため，次の施設等を置く。

(1)　図書館

(2)　情報科学センター

(3)　地域共同テクノセンター

(4)　教育研究支援センター

(5)　国際交流センター

２　前項についての必要な事項は，別に定める。

第３条　前条及び規則，学則に定めるもののほか，本校の校務の円滑な運営を図るため，副校長，校長補佐，主事補，専攻科長，専攻長，学科長，部門長並びに学級担任を置く。

２　前項に定める各職（副校長，校長補佐，専攻科長を除く。）の任期は，１年とする。ただし，各職に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

３　第１項に定める各職（副校長，校長補佐を除く。）は，再任することができる。

（副校長，校長補佐）

第４条　副校長は，教務主事及び必要に応じて校長が教授のうちから指名した者をもって充て，校長が行う校務運営にかかる業務を分担して行う。

２　校長補佐は，学生主事，寮務主事をもって充て，校長が行う校務運営にかかる業務を補佐する。

（主事の業務）

第５条　学則第４条に定める三主事の業務は，次のとおりとする。

(1) 教務主事

ア　教育計画及び教育課程編成の立案並びに実施に関すること。

イ　入学，退学，休学，進級及び卒業の認定に関すること。

ウ　指導要録に関すること。

エ　教員の研究に関すること。

(2) 学生主事

ア　学生の補導，厚生及び課外教育に関すること。

イ　学生の個人相談及び集団指導に関すること。

ウ　学生の規律の保持及び事故の処理並びに保健指導に関すること。

(3) 寮務主事

ア　寮生の指導及び厚生に関すること。

イ　寮生の個人相談及び集団指導に関すること。

ウ　寮生の規律の保持及び事故の処理並びに保健指導に関すること。

（２－１－１）

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料３－３－①－２の続き

（主事補）
第６条　主事補は，教務主事補，学生主事補及び寮務主事補とし，それぞれ若干人置くものとする。
２　主事補は，教授，准教授又は講師をもって充て，校長が任命する。
３　主事補は，主事の職務を補佐する。
（専攻科長）
第７条　学則第３９条に定める専攻科に専攻科長を置き，専攻科担当の教授のうちから校長が任命する。
２　専攻科長は，校長の命を受け，専攻科の管理運営に関することを掌理する。
３　専攻科長の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし，専攻科長に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。
（専攻長）
第７条の２　専攻科の専攻ごとに専攻長を置き，専攻科担当の教授又は准教授のうちから専攻科長の推薦に基づき，校長が任命する。
２　専攻長は，専攻科長の職務を補佐する。
（学科長及び部門長）
第８条　機械工学科，電気情報工学科，電子制御工学科及び建設システム工学科に学科長を置き，人文科学部門及び自然科学部門に部門長を置くものとする。
２　学科長及び部門長（以下「学科（部門）長」という。）は，その学科及び部門（以下「学科（部門）」という。）に所属する教授をもって充て，学科（部門）において候補者を選出の上，校長に推薦する。推薦のあった候補者について，学科（部門）における審議内容を参考にして，校長が決定し，任命するものとする
３　学科（部門）長は，それぞれの学科（部門）の管理運営及び連絡調整に関することをつかさどる。
（学級担任及び学級副担任）
第９条　学級担任は，各学級に１名置くものとする。
２　校長が必要と認めたときは学級副担任を置くことができる。
３　学級担任及び学級副担任は，講師以上の教員をもって充て，校長が任命する。
４　学級副担任は，教員をもって充て，校長が任命する。
５　学級副担任は，学級担任を補佐し，学級担任不在のときはその業務を代理する。
（会議等の設置）
第１０条　校務の運営に関し，協議，連絡調整を円滑に行うため，次の会議等を置く。
(1) 運営会議
(2) 教員会議
(3) 学科（部門）会議
(4) 学級担任会議
(5) 各種委員会
（運営会議）
第１１条　運営会議においては，各学科（部門），施設等間の連絡調整を図るとともに，校長の諮問に応じ，次の業務を行う。
（１）　校務の企画と運営に関する事項について協議を行う。
（２）　本校の将来構想（運営組織，施設整備，教育・研究の在り方等）事項について，調査，審議し，将来計画案の策定を行う。
（３）　各学科(部門)会議及び各委員会から発議された事項について協議を行う。

（２－１－２）

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料３－３－①－２の続き

第１１条の２　運営会議は，校長，副校長，教務主事，学生主事，寮務主事，専攻科長，各学科（部門）長，図書館長，情報科学センター長，教育研究支援センター長，地域共同テクノセンター長，国際交流センター長，教育プログラム（PIE）委員会委員長，進路指導委員会委員長，事務部長及び課長をもって構成する。
２　校長が必要と認めた場合は，その他の教職員を出席させることができる。
第１１条の３　運営会議は，校長が主宰し，その議長となる。
第１１条の４　運営会議は，偶数月（８月を除く。）原則として第２火曜日に開催するものとする。ただし，必要があるときは，日程を変更し若しくは臨時に開催することができる。
第１１条の５　運営会議の事務は総務課において処理する。
（教員会議）
第１２条　教員会議は，運営会議における審議，決定事項にかかる報告及び教務，厚生補導（学寮の厚生補導を含む。），その他学校運営に関する周知事項について連絡調整し，並びに次の事項について審議する。
(1)　学生（専攻科を含む。）の入学，進級及び卒業，修了の認定並びに重要な賞罰に関すること。
(2)　その他校長が必要と認めた事項
第１２条の２　教員会議は，校長，教授，准教授，専任の講師，助教及び助手をもって構成する。
２　校長は，教員会議に事務部長及び課長を出席させる。
３　校長が必要と認めた場合は，その他の職員を出席させることができる。
第１２条の３　教員会議は，校長が主宰し，その議長となる。
第１２条の４　教員会議は，偶数月（８月を除く。）及び１月並びに３月に開催するものとする。ただし，必要があるときは，臨時に開催することができる。
第１２条の５　教員会議の事務は，総務課において処理する。
（学科（部門）会議）
第１３条　学科（部門）会議は，各学科（部門）に置くものとし，学科（部門）内の運営及び連絡調整について協議する。
２　学科（部門）会議は，学科（部門）長が招集し，主宰する。
（学級担任会議）
第１４条　学級担任会議は，担任学級の指導について連絡協議する。
（委員会）
第１５条　本校に次の委員会を置き，校長の諮問に応じ，特定の重要事項について協議する。
(1)　評価委員会
(2)　教育改善委員会
(3)　広報委員会
(4)　情報セキュリティ管理委員会
(5)　情報セキュリティ推進委員会
(6)　教育プログラム（ＰＩＥ）委員会
(7)　新カリキュラム特別委員会
(8)　知的財産委員会
(9)　入学試験委員会
(10)　専攻科委員会
(11)　教務委員会
(12) 学生委員会
(13) 学寮委員会
(14) 進路指導委員会
２　委員会についての必要な事項は，別に定める。

（２－１－３）

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料３－３－①－２の続き

附　則

この規程は，昭和５０年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，昭和５３年１２月１９日から施行する。

附　則

この規程は，昭和５８年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，昭和５９年７月１７日から施行する。

附　則

この規程は，平成２年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成３年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成４年１月１４日から施行する。

附　則

１　この規程は，平成６年５月１９日から施行する。ただし，第３条，第７条，第１７条及び第２１条の改正規定は，平成５年４月１日から，第６条の改正規定は，平成６年４月１日から適用する。

２　土木工学科に置かれる学科主任は，改正後の第６条の規定にかかわらず，土木工学科が存続する間は，存続するものとする。

附　則

１　この規程は，平成１０年３月３日から施行し，平成１０年４月１日から適用する。

２　第７条及び第７条の２の規定にかかわらず，この規定によりはじめて選出された者の任期は，平成１１年３月３１日までとする。

附　則

この規程は，平成１２年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成１３年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成１３年７月２４日から施行する。

附　則

この規程は，平成１４年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成１８年３月２０日から施行する。

附　則

この規程は，平成１８年９月２９日から施行し，平成１８年４月１日から適用する。

附　則

この規程は，平成１９年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成２０年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成２２年１２月２１日から施行する。

附　則

この規程は，平成２３年４月１日から施行する。

（２－１－４）

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

３－３－①－３

○舞鶴工業高等専門学校事務組織規程

第１章　総則

（目的）

第１条　この規程は，独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（平成１６年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第１号）第５条並びに舞鶴工業高等専門学校学則第５条及び第６条の規定に基づき，舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務組織　及び所掌事務の範囲を定めることを目的とする。

第２章　事務組織

（事務部）

第２条　本校に事務部を置き，事務部に総務課及び学生課の２課を置く。

（事務部長及び課長）

第３条　事務部に事務部長を，各課に課長を置き事務職員をもって充てる。

２　事務部長は，校長の命を受け，事務部の事務を総括する。

３　課長は，上司の命を受け，課の事務を処理する。

（課長補佐）

第４条　事務部の２課に課長補佐を置くことができる。

２　課長補佐は，上司の命を受け，課の事務を処理し，課長を補佐する。

（専門職員）

第５条　事務部に専門職員を置くことができる。

２　専門職員は，上司の命を受け，課の所掌事務のうち専門知識又は経験を必要とする特定又は一定範囲の分野の事務を直接処理する。

（係の設置）

第６条　各課の事務を分掌させるため，次の係を置く。

総務課　　総務係，財務係，用度係，施設係

学生課　　教務係，学生支援係，寮務係，学術情報係

（係長及び主任）

第７条　各係に係長を置き，管理運営上必要ある場合には，係に主任を置くことができる。

２　係長は，上司の命を受け，係の事務を処理する。

３　主任は，係長を補佐し，所掌事務を処理する。

第３章　事務分掌

（総務課）

第８条　課長補佐（総務・企画担当）は，次の事務をつかさどる。

(1) 将来計画策定に係る企画調整に関すること。

(2) 制度及び組織に関すること。

(3) 中期目標・中期計画及び年度計画に関すること

(4) 自己点検・評価及び外部評価に関すること。

(5) 産官学連携に関すること。

(6) 科学研究費補助金の申請その他学術団体との連絡に関すること。

(7) 民間等との共同研究及び受託研究の受入等に関すること。

(8) 受託試験に関すること。

(9) 発明及び特許出願等に関すること。

(10) 学則その他諸規定の制定及び改廃に関すること。

(11) 情報公開に関すること。

(12) 総務係に関する事務のうち，重要な企画及び連絡調整に関すること。

(2-2-1)

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料３－３－①－３の続き

２　課長補佐（財務担当）は，次の事務をつかさどる。
(1)　予算及び決算の総括及び連絡調整に関すること。
(2)　財務会計システムに関すること。
(3)　事務情報化の総括及連絡調整に関すること。
(4)　財務係，用度係，施設係を総括し，財務に関する事務のうち，重要な企画及び連絡調整に関すること。

第９条　総務係においては，次の事務をつかさどる。
(1)　総務課内の連絡調整に関すること。
(2)　儀式，会議その他諸行事に関すること。
(3)　校長印等の管守に関すること。
(4)　公文書の授受，発送及び郵便切手類の受け払いに関すること。
(5)　渉外及び秘書事務に関すること。
(6)　内地研究員及び在外研究員に関すること。
(7)　職員の身分証明及び他の係に属さない諸証明に関すること。
(8)　学校概要，校報等の編集発行に関すること。（学生課の所掌に属するものを除く。）
(9)　構内の警備取締りに関すること。
(10)　職員の任免，分限，懲戒及び服務等に関すること。
(11)　職員の給与等に関すること。
(12)　職員の定員，職階及び級別定数の管理に関すること。
(13)　職員の勤務評定に関すること。
(14)　職員の研修に関すること。
(15)　国家公務員共済組合長期給付，短期給付及び退職手当に関すること。
(16)　職員の災害補償に関すること。
(17)　職員の栄典，表彰に関すること。
(18)　人事記録の作成保存に関すること。
(19)　職員の健康管理及び福利厚生に関すること。
(20)　職員の勤務時間，休暇及び宿日直に関すること。
(21)　通勤手当及び諸手当に関すること。
(22)　出張に関すること。（行程を含む）
(23)　指定統計調査，他の係に属さない諸調査及び諸報告に関すること。（学生課の所掌に属するものを除く。）
(24)　その他，他の課，係の所掌に属さない事務に関すること。

第１０条　財務係においては，次の事務をつかさどる。
(1)　予算及び決算に関すること。
(2)　計算証明に関すること。
(3)　収入及び支出に関すること。
(4)　所得税等の徴収に関すること。
(5)　施設の貸付け及び一時使用に関すること。
(6)　会計事務に関する諸規程の立案に関すること。
(7)　会計検査及び監査に関すること。
(8)　校内の整備，清掃及び用務に関すること。
(9)　会計事務に関する調査統計及び報告に関すること。（他の係の所掌に係るものを除く。）
(10)　その他会計事務で他の係の所掌に属さない事務に関すること。

第１１条　用度係においては，次の事務をつかさどる。
(1)　固定資産（不動産を除く。以下この条において同じ。）及び物品（以下「固定資産等」

(2-2-2)

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料３－３－①－３の続き

という。）の購入，検収，取得，出納及び保管に関すること。
(2)　固定資産等の修理，保全及び処分に関すること。
(3)　固定資産等の購入等の入札及び契約に関すること。
(4)　固定資産等の寄付受領及び管理換に関すること。
(5)　固定資産等の貸付けに関すること。
(6)　自動車の整備，運行及び安全管理に関すること。
(7)　補助金(科学研究費等）及び寄附金の経理に関すること。
(8)　固定資産等に関する調査統計及び報告に関すること。
(9)　その他用度に関すること。

第１２条　施設係においては，次の事務をつかさどる。
(1)　不動産の維持管理及び処分に関すること。
(2)　不動産の防火管理に関すること。
(3)　職員宿舎に関すること。
(4)　施設の立地計画及び環境整備に関すること。
(5)　施設整備，営繕工事の企画立案及び施工監督に関すること。
(6)　工事の入札及び契約に関すること。
(7)　土地，建物，電気，ガス，水道，電話，冷暖房施設等の維持保全に関すること。
(8)　施設に関する調査統計及び報告に関すること。
(9)　その他，施設整備に関すること。

（学生課）

第１３条　課長補佐は，次の事務をつかさどる。
(1)　課内の事務の総括及び連絡調整に関すること。
(2)　入学者の選抜方法に関する調査・検討に関すること。
(3)　教育課程の編成及び実施に関すること。
(4)　外国人留学生に関すること。
(5)　国際学術交流に関すること。
(6)　広報（ホームページ含む。）に関すること。（総務課の所掌に属するものを除く。）
(7)　課の所掌に係る調査統計及び報告に関すること。
(8)　その他，課に係る事務のうち，重要な企画に関すること。

第１４条　教務係においては，次の事務をつかさどる。
(1)　学生の募集及び入学者の選抜に関すること。
(2)　学生の修学指導に関すること。
(3)　授業及び試験に関すること。
(4)　教育課程に関すること。
(5)　学生の入学，休学，復学及び退学に関すること。
(6)　学生の進級及び卒業に関すること。
(7)　学生の校外実習及び見学に関すること。
(8)　学生の学籍に関すること。
(9)　学生の学業成績の記録及び整理保管に関すること。
(10) 教科書及び教材，教具等に関すること。
(11) 学生証，成績証明書その他学生の諸証明に関すること。
(12) 学生便覧の編集に関すること。
(13) 入試広報に関すること。
(14) 教務に関する調査統計及び報告に関すること。
(15) その他教務に関すること。

(2-2-3)

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料３－３－①－３の続き

第１５条　学生支援係においては，次の事務をつかさどる。
(1)　学生の課外教育に関すること。
(2)　学生の奨学金に関すること。
(3)　授業料及び入学料の減免，徴収猶予等経済援助に関すること。
(4)　学生の賞罰に関すること。
(5)　学生団体及び集会等に関すること。
(6)　学生の印刷物等の配布許可及びビラ，ポスター等の掲示に関すること。
(7)　学生の厚生施設の管理運営及び施設，設備の使用に関すること。
(8)　学生の保健管理及び保健施設の管理運営に関すること。
(9)　学生の職業指導及び就職あっせんに関すること。
(10)　学生旅客運賃割引証及び通学証明書に関すること。
(11)　日本スポーツ振興センター等の事務に関すること。
(12)　学生に関する調査統計及び報告に関すること。
(13)　その他学生の厚生補導に関すること。
第１６条　寮務係においては，次の事務をつかさどる。
(1)　学寮の管理運営に関すること。
(2)　学生の入寮及び退寮に関すること。
(3)　寮生の外出及び外泊に関すること。
(4)　寮生の生活指導に関すること。
(5)　寄宿料の免除に関すること。
(6)　学寮施設設備の保全及び整備に関すること。
(7)　学寮の警備及び防火に関すること。
(8)　寮生の保健衛生及び福利厚生に関すること。
(9)　寮生に対する貸与物品に関すること。
(10)　寮生の郵便物接受に関すること。
(11)　寮務に関する調査統計及び報告に関すること。
(12)　その他寮務に関すること。
第１７条　学術情報係においては，次の事務をつかさどる。
(1)　図書原簿の保管に関すること。
(2)　図書の分類に関すること。
(3)　図書目録の作成に関すること。
(4)　図書の購入，受入れ及び整理保管に関すること。
(5)　図書の閲覧及び貸出に関すること。
(6)　文献及び視聴覚資料の収集に関すること。
(7)　学術文献の交換に関すること。
(8)　読書相談及び指導等に関すること。
(9)　学術情報の利用等に関すること。
(10)　情報科学教育及び情報基盤の整備に関すること。
(11)　図書に関する調査統計及び報告に関すること。
(12)　その他図書館に関すること。

附　則
この規程は，平成４年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成８年４月１日から施行する。

(2-2-4)

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料３－３－①－３の続き

附　則

この規程は，平成９年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成１１年２月２５日から施行し，平成１１年４月１日から適用する。

附　則

この規程は，平成１２年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成１３年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成１５年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成１８年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成１９年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成２０年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成２３年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成２４年４月１日から施行する。

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料３－３－①－４

○舞鶴工業高等専門学校教育研究支援センター規程

（趣旨）

第１条　独立行政法人国立高等専門学校機構の本部事務局の組織等に関する規則第１２条及び舞鶴工業高等専門学校教員組織規程（平成１８年４月１日施行）第２条第２項の規定に基づき，舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）教育研究支援センター（以下「センター」という。）に関し，必要な事項を定める。

（目的）

第２条　センターは，本校の各学科，図書館，情報科学センター及び地域共同テクノセンターが行う教育・研究に関し，技術に係わる専門的業務を組織的かつ効率的に支援することを目的とする。

（業務）

第３条　センターにおいては、次の支援業務を行う。

(1) 実習指導計画の立案及び指導に関すること。
(2) 実習工場の管理運営に関すること。
(3) 実習用機械器具類の保守管理に関すること。
(4) 実習工場の災害事故防止に関すること。
(5) 実習の調査統計及び報告に関すること。
(6) 学校運営における学務業務に関すること。
(7) その他実験実習に関すること。

（技術部門）

第４条　センターは，第１技術部門及び第２技術部門の２部門で構成する。

２　各部門においては，次の業務を行う。

区　　分	
第１技術部門	機械工学科及び建設システム工学科の工学に関する技術的業務
第２技術部門	電気情報工学科及び電子制御工学科の工学に関する技術的業務

（センター長）

第５条　センターに，教育研究支援センター長（以下「センター長」という。）を置き，本校の教授又は准教授のうちから校長が任命する。

２　センター長は，センターの業務を総理する。

３　センター長の任期は，２年とし，再任を妨げない。ただし，センター長に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の残任期間とする。

（実習工場長）

第６条　センターに，実習工場長（以下「工場長」という。）を置き，機械工学科長をもって充てる。

２　工場長は，センター長と協力して実習工場における管理及び運営に対する業務を行う。

（副センター長）

第７条　センターに，副センター長を置き，総務課長をもって充てる。

２　副センター長は，センター長と協力して，センターにおける事務部との連携業務を行う。

３　副センター長は，センター長に事故があるとき，その職務を代行する。

（技術長等）

第８条　センターに，次の各号に掲げる職員を置き，本校の技術職員のうちから校長が任命する。

(1) 技術長
(2) 技術専門員
(3) 技術部門長
(4) 技術部門主任
(5) 技術部門員

２　技術長は，センター長を補佐し，各技術部門の業務を統括するとともに技術部門長，技術部門主任及び技術部門員の技術的な指導・助言並びに技術業務を行う。

３　技術専門員は，専門的見地から各技術部門の技術的指導を行うとともに，センターに所属する技術職員の組織に関する事務を行う。

４　技術部門長は，技術部門の業務を整理するとともに技術部門員の技術的な指導・助言並びに技術業務を行う。

５　技術部門主任は，技術部門長を補佐する。

（４－３－１）

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料３－３－①－４の続き

６　技術部門員は，技術業務を行う。
（運営委員会）
第９条　センターの円滑な運営に関し，必要な事項を協議するため，教育研究支援センター運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。
２　運営委員会に関し必要な事項は，別に定める。
（雑則）
第１０条　この規程に定めるもののほか，センターの運営に関し必要な事項は，別に定める。
附　則
この規程は，平成１９年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成２０年４月１日から施行する。
附　則
この規程は，平成２０年１２月９日から施行する。
附　則
この規程は，平成２２年１２月２１日から施行する。

（４－３－２）

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料３－３－①－５

教育研究支援センター業務依頼書

整理番号

教育研究支援センター長 殿

依　頼　年　月　日	平成　　年　　月　　日	依頼組織名	
依頼業務名		代表者名	
		実務担当者	
依頼期間	平成　　年　　月　　日　～　平成　　年　　月　　日		

＊　依頼業務の内容について詳細に記入して下さい。

＜依頼業務内容＞

＜依頼する理由＞

＜依頼する技術職員＞

依頼する技術職員が分かっていれば技術職員名を記入して下さい。

センター記入欄				
	書類の作成者	1．支援センター（　　） 2．依頼者　　（　　）	担当技術職員	
	[受諾の可否、条件等] 可　，否　　条件等			

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

平成24年度技術職員時間割

2012/4/3

氏名	月								火								水								木								金							
	1 8:45~9:35	2 9:35~10:25	3 10:35~11:25	4 11:25~12:15	5 13:00~13:50	6 13:50~14:40	7 14:50~15:40	8 15:40~16:30	1 8:45~9:35	2 9:35~10:25	3 10:35~11:25	4 11:25~12:15	5 13:00~13:50	6 13:50~14:40	7 14:50~15:40	8 15:40~16:30	1 8:45~9:35	2 9:35~10:25	3 10:35~11:25	4 11:25~12:15	5 13:00~13:50	6 13:50~14:40	7 14:50~15:40	8 15:40~16:30	1 8:45~9:35	2 9:35~10:25	3 10:35~11:25	4 11:25~12:15	5 13:00~13:50	6 13:50~14:40	7 14:50~15:40	8 15:40~16:30	1 8:45~9:35	2 9:35~10:25	3 10:35~11:25	4 11:25~12:15	5 13:00~13:50	6 13:50~14:40	7 14:50~15:40	8 15:40~16:30
北代　浩次											3工				卒				2S実				4S創(必要に応じて応援)			2工			卒					4創	1実					
石井　貴弘											3工				卒				2S実				4S創(必要に応じて応援)			2工			卒					4創	1実					
桝田　勲											3工				卒				2S実			4実	4S創(必要に応じて応援)			2工			卒					4創	1実					
櫻井　一樹											3工				卒				2S実				4S創(必要に応じて応援)			2工			卒					4創	1実					
中田　良平	勤務を要しない曜日										3工				卒				2S実				4S創(必要に応じて応援)		16時まで	2工			卒					4創	1実					
四方　義博	勤務を要しない曜日										3工				卒				2S実				4S創(必要に応じて応援)		16時まで	2工			卒					4創	1実					
大和　辰徳																																								
西川　隼人									3実						卒		2測					3製				2測			卒						5実				4実	
西村　良平									3実						卒		2測					3製				2測			卒						5実				4実	
眞柄　賢一											3実				卒				2実				4実 4創			2工			卒						4創(必要に応じて応援) 5実					1工
釣　健孝											3実				卒				2実				4実 4創						卒						3計 5実					1工
福井　繁雄											3実			卒		4創 4工			2実										卒						5実				4実	
古林　達哉											3実			卒		4創 4工			2実										卒						5実				4実	
森内　基隆	勤務を要しない曜日										3実			卒		4創 4工			2実					16時まで					卒						5実				4実	
福村　一実	勤務を要しない曜日										3実			卒		4創 4工			2実					16時まで					卒						5実				4実	
能勢　嘉朗	保管								保管								保管								保管 前期:情報リテラシーも必要に応じて								保管 前期:情報リテラシーも必要に応じて							
野間　正泰			4材力Ⅲ		3力学Ⅱ 3水力Ⅰ		4計測Ⅰ								卒		4材力Ⅱ					4実 専1流体特論								卒				4水力Ⅱ 3材力Ⅰ							

実習工場（機械工学科）

記入	科	目
1実	1M	入門機械実習
2創	2M	創造演習
2工	2M	工作実習Ⅰ
3工	3M	工作実習Ⅱ
4創	4M	創造設計製図
4実	4M	機械工学実験Ⅰ
2S実	2S	電子制御実習
4S創	4S	創造設計プロジェクト

情報科学センター

記入	科	目
保管	学内の計算機とネットワークの保守・管理等	

電気情報工学科

記入	科	目
2実	2E	電気情報工学実験Ⅰ
3実	3E	電気情報工学実験Ⅱ
4実	4E	電気情報工学実験Ⅲ
5実	5E	電気工学実験
4工	4E	工学基礎研究
4創	4E	創造工学

電子制御工学科

記入	科	目
1工	1年	工学基礎
2実	2S	電子制御実習
3実	3S	電子計測実験
3計	3S	計算機工学Ⅰ （時間割上は水曜5～6限）
4実	4S	電子計測実験
4創	4S	創造設計プロジェクト
5実	5S	制御工学実験

建設システム工学科

記入	科	目
2測	2C	測量実習Ⅰ
2応	2C	応用情報処理
2実	2C	建設システム工学実験Ⅰ
3製	3C	建設製図製作
3実	3C	建設システム工学実験Ⅱ
4実	4C	建設システム工学実験Ⅲ
5実	5C	建設システム工学実験Ⅳ

（出典　教育研究支援センター資料）

資料３－３－①－７

事務職員・技術職員の研修参加状況（学外）

研修会等名称	20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		主催等
	技術	事務	技術	事務	技術	事務	技術	事務	技術	事務	
高専機構新任部課長研修会		2		1		1		1			高専機構
高専機構新任課長補佐・係長研修会		5		2		2		2		1	高専機構
高専機構中堅職員研修会				1		1		1		1	高専機構
高専機構初任職員研修会	1	5		3		3	2	2		1	高専機構
高専機構人事事務担当者研修会										2	高専機構
高専機構独法簿記研修						2		2		2	高専機構
高専機構国立高等専門学校機構簿記研修						2		1		2	高専機構
高専機構契約事務研修								1			高専機構
高専機構施設担当職員研修会								1			高専機構
高専機構学務関係職員研修会		1		1		1		1		1	高専機構
高専機構IT担当研修会							1		1		高専機構
高専機構国立高等専門学校機構情報担当者研修会									1	1	高専機構
高専機構知的財産管理システム操作説明会										1	高専機構
高専機構西日本地域高等専門学校技術職員特別研修会	2		1		2				1		高専機構
高専機構ネットワーク管理者研修会							1		1		高専機構
語学研修										5	高専機構
近畿地区中堅係員研修会		1				1		1			人事院近畿事務局
近畿地区セクシャルハラスメント防止研修						1					人事院近畿事務局
近畿地区接遇研修指導者育成コース								1			人事院近畿事務局
近畿地区係長研修										1	人事院近畿事務局
政府関係法人会計事務職員研修						1					財務省
情報システム統一研修			3	1	1	1					文部科学省情報化推進室
近畿地区国立高等専門学校技術職員研修	3				3				2		近畿地区国立高専
近畿地区国立大学法人等会計事務研修		2		1		1		1		1	社団法人国立大学協会近畿地区支部
近畿地区学生指導研修会		1						1		1	東海・北陸・近畿地区学生指導研究会
九州沖縄地区国立高等専門学校技術職員研修							1				九州沖縄地区国立高専
九州沖縄地区国立高等専門学校職員研修								1			九州沖縄地区国立高専
学生相談・メンタルヘルス研修会										1	独立行政法人日本学生支援機構
就職・キャリア支援研修会		1									独立行政法人日本学生支援機構
障害学生支援研修会				1		1		1		1	独立行政法人日本学生支援機構
全国学生指導研修会				1		1		1			独立行政法人日本学生支援機構
留学生交流実務担当教職員養成プログラム（留学生担当者研修）		1		1		1		1		1	独立行政法人日本学生支援機構
京都大学課長補佐研修										1	京都大学
京都大学掛長研修（H22以前：専門職員研修）						3				1	京都大学
京都大学技術職員研修（専門技術群研修含）			2		1		5		2		京都大学

（出典　総務課資料）

資料３－３－①－８

出張関係一覧表

表１　研修・研究出張一覧表

日時	氏名	用務内容	用務先
H24/1/14	西川・西村	耐震診断	兵庫県豊岡市
1/25	櫻井	京都大学技術職員研修（第 1 専門技術群：工作・運転系）	（株）ハイドロエッジ
2/29~3/2	北代	在職者訓練（工具研削技術）	ポリテクセンター関西
3/1~3/13	眞柄	技術研修	自然科学研究機構分子科学研究所
3/2	古林	モバイル端末による次世代ICT活用教育フォーラム	高知工業高等専門学校
3/10	古林	APPLE AcademiX 2012	六本木アカデミーヒルズ
3/14~3/15	釣	平成 23 年度　実験・実習技術研究会	神戸大学
3/15	北代	設備・機器類の見学等	岡山大学
3/27	北代・福井・石井・桝田・櫻井・西村	設備・機器類の見学等	岐阜工業高等専門学校
3/29	西川	日本地震工学会論文奨励賞受賞	建築会館ホール
3/29	西村	京都大学技術職員研修（第 2 専門技術群：システム・計測系）	京都大学
5/29~5/30	古林	制御技術セミナ(マシンオートメーションコントローラコース)	オムロン（株）　東京事業所
6/11	西川・西村	ACM ブレース研究会総会	京都大学
6/4~6/5	能勢	国立高等専門学校機構 平成 24 年度第 1 回ネットワーク管理者研修会	国立オリンピック記念青少年総合センター
8/3	能勢	平成 24 年度 近畿地区高等専門学校 情報処理教育連絡協議会	ホテルアウィーナ大阪
8/20~8/21	釣・古林	第 15 回近畿地区国立高等専門学校技術職員研修	和歌山工業高等専門学校
8/6	西村	自由研削用砥石取替え特別教育受講	（株）日立建機教習センタ京都教習所
8/17	西村	丸のこ等取扱作業者安全衛生教育受講	（株）日立建機教習センタ京都教習所
8/22~8/24	西川	平成 24 年度西日本地域高等専門学校技	豊橋技術科学大学

（出典　平成２４年度版　舞鶴高専教育研究センター活動報告集　2013年3月）

資料３－３－①－８の続き

		術職員特別研修会	
8/28~8/30	釣・能勢・古林	平成 24 年度全国高専教育フォーラム	国立オリンピック記念青少年総合センター
8/30~8/31	能勢	国立高等専門学校機構 平成 24 年度 IT 人材育成研修会	CTC テクノロジーラーニングセンター
9/3~9/14	能勢	技術研修	自然科学研究機構分子科学研究所
9/4~9/7	櫻井	在職者訓練（フライス盤精密加工技術）	ポリテクセンター石川
9/14	桝田	技術公開講座「技術者養成研修」	豊橋技術科学大学
11/26	北代・櫻井	京都大学技術職員研修（第 1 専門技術群：工作・運転系）	京都大学
11/29	眞柄・釣	技術懇談	津山工業高等専門学校
12/5	櫻井	一般高圧ガス消費者安全講習会	舞鶴 21 ビル

表 2　地域貢献（学科主催の公開講座等の支援）

日時	氏名	用務内容	用務先
1/16~1/17、1/23	西村	住まいの設計	舞鶴市立白糸中学校
2/21、3/1	福井・古林	電気情報工学科出前授業	舞鶴市立志楽小学校
5/20	石井	プレオープンカレッジ	舞鶴工業高等専門学校
6/19	桝田	プレオープンカレッジ	京都市メルパルクホール
6/25	桝田	プレオープンカレッジ	三田市総合福祉保健センター
8/11~8/12	13 名	オープンカレッジ	舞鶴工業高等専門学校
8/26	眞柄・釣	電子制御工学科公開講座	舞鶴工業高等専門学校
10/22	福井・古林	電気情報工学科出前授業	舞鶴市立明倫小学校
12/8	古林	女子中学生１日高専体験会	舞鶴工業高等専門学校
12/9	能勢	情報科学センター公開講座	舞鶴工業高等専門学校
12/15	福井	電気情報工学科公開講座	舞鶴工業高等専門学校
12/15	古林	こどもプログラミング教室	京都府立乙訓高等学校

表 3　支援センター主催の公開講座・出前授業・受入研修

日時	氏名	用務内容	用務先
5/1	眞柄	受入研修「NCVC による、かんたん CAD/CAM と NC 加工」	舞鶴工業高等専門学校
5/20	8 名	出前授業「魔法の鉛筆」	綾部市立吉美小学校
11/11	11 名	公開講座「イルミネーションアクリルスタンドを作ろう！」	舞鶴工業高等専門学校

（出典　平成２４年度版　舞鶴高専教育研究センター活動報告集　2013年3月）

資料３－３－①－９

○舞鶴工業高等専門学校企画室規則

（設置）

第１条　舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）に舞鶴工業高等専門学校企画室（以下「企画室」という。）を置く。

（目的）

第２条　企画室は，校長の命を受け，本校の将来構想等に関する事項について，企画，立案及び調査（以下「企画等」という。）を行うことを目的とする。

（企画室の組織）

第３条　企画室に，室長及び室員を置く。

２　室長は，校長が指名するものをもって充てる。

３　室員は，校長が指名するものをもって充てる。

（企画室の業務）

第４条　企画室においては，次の各号に掲げる業務を行う。

(1)　将来計画に関すること。

(2)　中期計画・年度計画に関すること。

(3)　国際交流の企画等に関すること。

(4)　予算計画の企画等に関すること。

(5)　外部資金獲得に係る企画及び実務等に関すること。

(6)　施設設備の企画等に関すること。

(7)　地域連携の企画等に関すること。

(8)　その他企画に関すること。

（支援等）

第５条　室長は，企画室の業務を円滑に推進するため，必要と認めるときは，関係部署に対し，協力，支援を求めることができるものとする。

（事務）

第６条　企画室に関する事務は，総務課において処理するものとする。

附　則

１　この要項は，平成１８年４月１日から施行する。

２　舞鶴工業高等専門学校事務部企画室要項は，廃止する。

附　則

１　この規則は，平成２３年４月１９日から施行し，平成２３年４月１日から適用する。

（２－３－１）

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

国立高等専門学校機構の中期計画における「教員の学位取得者や技術士等の職業上の高度の資格を持つ者の割合」目標を既に達成し，また「教授および准教授について，採用された学校以外の学校，企業，機関などで勤務経験を持つ者の割合」の目標も達成しており，高専に望まれている多様な背景を持つ教員による教員組織となっている。地域社会への技術還元や貢献など，教員組織の活動をより活発化するための措置が講じられている。さらに，授業参観型授業公開，授業アンケート，FD講演会など教育の質の向上と改善に向けての新しい試みが実施されていることなどが優れていると判断される。

（改善を要する点）

教員の構成における外国人・女性教員の割合が少ないことや，人文科学部門における教員年齢構成に関して今後の教員採用について改善を要する。

（３）基準３の自己評価の概要

一般科目担当教員及び専門科目担当教員は，高等専門学校設置基準に定められている人員を厳選して採用・配置し，教員連絡会議などを通じて相互に連携を図る体制を整え，各自の資質を高める工夫をしている。学生に国際性を身につけるため英語コミュニケーション能力を身に付ける教育に重点を置き，英語担当教員を強化している。専門科目の担当教員の配置については，学校の目的を達成できるように，教員の専門分野を考慮した適切な人選と配置を行っている。専攻科担当教員については，業績等を考慮し専攻科の目的を達成できる教員組織を編成しており，大学評価・学位授与機構による認定を受けている。

教員組織の活動を活発化するために，年齢別構成，性別構成，教員の専門分野と実務経歴に配慮するとともに，授業公開や授業アンケート，FD講演会などを実施している。

教員の採用や昇格には舞鶴工業高等専門学校教員選考基準及び舞鶴工業高等専門学校教員選考内規が定められており，これに基づいて適切に運用がなされている。非常勤教職員の採用にあっても，明文化された規定に基づいて厳正に実施されている。

教員の教育活動に対する定期的な評価については，授業公開と授業アンケート，教員の自己評価が実施されており，これを評価委員会（FD・ICT部会）および教育改善委員会を中心に組織的に教育の質の向上と改善の活動が実施されている。

また，事務職員，技術職員等の教育支援者の配置については，明文化された規程に基づいて配置され，各種会議および各種委員会への支援と補佐の事務体制や教育研究支援センターの教育・研究支援の体制が整えられている。

基準４　学生の受入

（１）観点ごとの分析

観点４－１－①：　教育の目的に沿って，求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ，学校の教職員に周知されているか。また，将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されているか。

（観点に係る状況）

本校の求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）は，明確に定められ，「本科学生募集要項」及び「編入学生募集要項」並びに「専攻科学生募集要項」に記載されている（資料４－１－①－１～３）。これらの募集要項は，毎年度教職員に配付され，周知されている。また，「本科学生募集要項」は中学校等関係機関に，「編入学生募集要項」は高等学校等関係機関に，「専攻科学生募集要項」は高等専門学校等関係機関にそれぞれ送付されている（資料４－１－①－４～６）。これらの募集要項は本校ウェブページに掲載され，ダウンロードできるようになっている（資料４－１－①－７～９）。本科学生募集要項記載のアドミッションポリシーは，中学校訪問，プレオープンキャンパス，オープンキャンパスなどの体験学習や進路担当教員向け入試説明会及び生徒・保護者向け入試説明会の際に，中学生・保護者・中学校進路担当教員に紹介されている（資料４－１－①－10及び11）。

資料４－１－①－１

６．アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

本校では，工学の基礎と教養を身につけ，活動力，創造力，国際感覚豊かな実践的技術者の育成に努めています。そのため，次のような人の入学を期待しています。

（１）「ものつくり」を通して，自立した人間を目指す人。

（２）自ら学ぼうとする姿勢を持ち，中学校の学習内容を十分理解している人。

（３）社会のルールを守って，いろいろな人と協調していける人。

（出典　平成２５年度本科学生募集要項）

資料４－１－①－２

６．アドミッション・ポリシー（入学者受入方針）

本校では，工学の基礎と教養を身につけ，活動力，創造力，国際感覚豊かな実践的技術者の育成に努めています。そのため，次のような人の入学を期待しています。

（１）「ものつくり」を通して，自立した人間を目指す人。

（２）自ら学ぼうとする姿勢を持ち，中学校の学習内容を十分理解している人。

（３）社会のルールを守って，いろいろな人と協調していける人。

（出典　平成２５年度編入学生募集要項）

資料４－１－①－３

６.専攻科のアドミッションポリシー（入学者受入方針）

舞鶴工業高等専門学校専攻科では，優れた資質の技術者を養成するため，次のような入学者を期待しています。

（１）技術社会の中核を担う者として，社会で広く活躍し貢献していく意欲のある人

（２）専攻科生としての自覚と確かな目標をもち，自主的に学習・研究する意欲が高く，十分な基礎学力を身につけている人

（３）コミュニケーションの能力と物事を筋道立てて考察する力があり，自己の考えを適切に表現することができる人

（４）しっかりとした社会性と倫理観をもち，そして自ら考え，適切に行動できる人

（出典　平成２５年度専攻科学生募集要項）

本科募集要項配布先一覧（３，０００部）

資料４－１－①－４

文部科学省高等教育局専門教育課長１部（別紙１）
国立高等専門学校機構理事長１部（別紙２）
中学校（送付用・入試説明会用）２，１００部（別紙３）
教育委員会３２部（別紙４）
進学塾１０５部（別紙５）
報道関係機関等８部（別紙６）
直接申込者分５００部
本校関係者８０部
予備１７３部

（出典　学生課資料）

編入学生募集要項配布先一覧（４００部）

資料４－１－①－５

文部科学省(高等教育局専門教育課) １部(別紙１)
機構本部１部(別紙２)
各高等学校７８×２部(別紙３)
各教育委員会１２×１部(別紙４)
進学塾５１×１部(別紙５)
本校関係者８０部
予備等(志願者への配布含む)９９部

（出典　学生課資料）

資料４－１－①－６

専攻科学生募集要項配布先一覧（２５０部）

文部科学省高等教育局専門教育課	２部（別紙　１）
独立行政法人国立高等専門学校機構	３部（別紙　２）
高専	６２部（別紙　３）
報道機関	８部（別紙　４）
志願者用	８０部
教職員・予備	９５部

（出典　学生課資料）

資料４－１－①－７

（出典　本校ウェブページ）

資料４－１－①－８

（出典　本校ウェブページ）

資料４－１－①－９

（出典　本校ウェブページ）

資料４－１－①－10

中学校訪問資料

舞鶴高専ＦＡＱ

Ｑ４：貴校本科の「入学者受入方針」（アドミッションポリシー）及び各学科の概要は何ですか？

Ａ４：本校の本科には，機械工学科，電気情報工学科，電子制御工学科及び建設システム工学科の４学科があり，工学の基礎と教養を身につけ，活動力，創造力，国際感覚豊かな実践的技術者の育成に努めています。そのため，次のような人の入学を期待しています。

（１）　「ものつくり」を通して，自立した人間を目指す人。

（２）　自ら学ぼうとする姿勢を持ち，中学校の学習内容を十分理解している人。

（３）　社会のルールを守って，いろいろな人と協調していける人。

［機械工学科］

機械工学科では，理論と現象を正確に理解し，いろいろな事態に的確に判断ができ，それを実行できる行動力を持った技術者の育成を目指しています。機械工学は，あらゆる「ものつくり」の基盤をなす学問であるからです。本学科では，次のような人の入学を期待しています。

○「ものつくり」が好きな人，関心がある人。

○「自動車」，「ロボット」や動くものが好きな人，関心がある人。

○身体が不自由な人のための福祉機械に興味がある人。

［電気情報工学科］

電気情報工学科では，将来に渡って「発想の泉」となる工学基礎科目の上に立ち，電気・電子系及び情報系科目の幅広い分野を勉強します。本学科では，次のような人の入学を期待しています。

○電気・電子，情報・通信分野に関心がある人。

○ハードウェア，ソフトウェアなどの「ものつくり」ができるようになりたい人。

○「自分の志」を抱いて，基礎科目を継続的に学習できる人。

［電子制御工学科］

電子制御工学科では，メカトロニクス技術者の育成を目指し，電子・電気系，制御・計測系，機械系及び情報系の幅広い分野を勉強します。本学科では，次のような人の入学を期待しています。

○電子回路やマイコンを使ったものつくりをしたい人。

○ロボットの設計製作や制御応用に関心のある人。

○コンピュータや「もののしくみ」に興味を持ち，好奇心旺盛な人。

［建設システム工学科］

建設システム工学科では，21 世紀の住みよい社会を創ることを目的として，その計画，運営，維持を行うことのできる素養を身につけるための勉強をします。本学科では，次のような人の入学を期待しています。

○自然環境と調和した街づくりに熱意を持っている人。

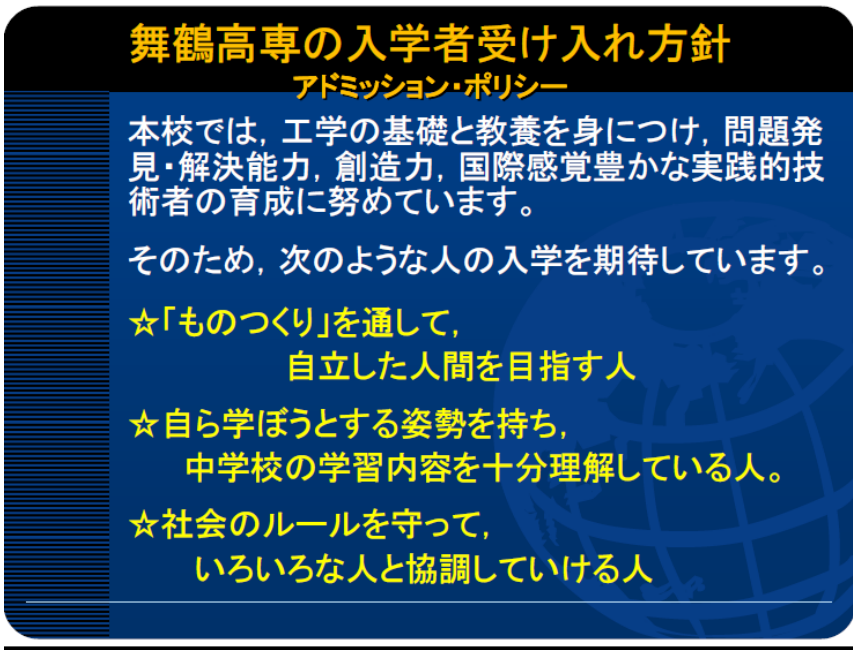
○災害に強く，安全な社会づくりに興味を持っている人。

○建設技術に関する知識を修得し，地域社会の発展や国際貢献に関わりたい人。

（出典　学生課資料）

資料４－１－①－11

平成２５年度入試説明会スライド



（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

以上の状況により，教育の目的に沿って，求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）が明確に定められ，学校の教職員に周知され，また，将来の学生を含め社会に理解されやすい形で公表されている。

観点４－２－①：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実際の入学者選抜が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

本校準学士課程の入学者選抜方法については，特別選抜と学力検査選抜がある。特別選抜の募集人員は各学科とも16名，学力検査選抜の募集人員は24名である。特別選抜の出願資格は，中学校第１～３学年の３ケ年の９科目の学業成績（調査書の内申点）が，５段階評価で合計66（平均3.66)以上の者とし，調査書45点，面接15点，適性検査15点の合計75点で合格判定を行っている。面接においてはアドミッションポリシーに基づいた質問が用意され，適性検査では，理科，数学，英語の３科目が出題される（資料４－２－①－１及び２）。

学力検査選抜は配点を，理科200点，英語160点，数学200点，国語130点，社会130点に調査書180点とし，合計1000点で合否判定を行っている。試験問題は各教科100点満点として作成された国立高等専門学校機構の統一入学試験問題を使用し，理数系科目を重視した傾斜配点を実施している。学力検査選抜の調査書の学業成績（調査書の内申点）は，特別選抜と同じく，中学校３か年の９科目の合計で評価される（資料４－２－①－３）。

編入学試験については，数学，英語，理科それぞれ100点，専門科目100点，面接50点，調査書50点の合計500点で合否判定を行っている。また，数学及び理科については，１教科でも30点未満の教科があった場合は不合格となることがある。準学士課程入学試験と同じく，教科については，理数系科目が重視され，面接においてはアドミッションポリシーに基づいた質問が用意されている（資料４－２－①－４及び５）。

専攻科課程の入学者選抜には，推薦特別選抜，一般学力検査選抜（前期日程・後期日程），社会人特別選抜，外国人留学生特別選抜（学力検査選抜・書類選抜）の区分がある。いずれの区分においても，専攻科課程で学ぶために必要な学力の有無を合格判定の基準とするとともに，面接試験においてはアドミッションポリシーに基づいた質問を用意し，アドミッションポリシーに沿った入学者の選抜を適切に実施している（資料４－２－①－６～10）。

資料４－２－①－１

７．入学者選抜方法

入学者の選抜は，推薦書，調査書，適性検査及び面接の結果を総合して行います。

（１）実施種目及び配点

実施種目	適性検査	面接	調査書	合計
配 点	１５	１５	４５	７５

（出典　平成２５年度本科学生募集要項）

資料４－２－①－２

本科特別選抜面接試験質問例

訪問調査時に閲覧可。

（出典　学生課資料）

資料４－２－①－３

（２）学力検査

学力検査は筆答試験とし，出題する教科は理科・英語・数学・国語及び社会の5 教科です。

①学力検査出題教科及び配点

教科等	理科	英語	数学	国語	社会	調査書	合計
配点	２００	１６０	２００	１３０	１３０	１８０	１０００

（出典　平成２５年度本科学生募集要項）

資料４－２－①－４

3. 学力検査等の配点

数学	英語	理科	専門科目	面 接	調査書	合 計
100	100	100	100	50	50	500

（注）数学及び理科については、1 教科でも 30 点未満があった場合は不合格とすることがある。

（出典　平成２５年度編入学生募集要項）

資料４－２－①－５

本科編入学試験面接試験質問例

訪問調査時に閲覧可。

（出典　学生課資料）

資料４－２－①－６

推薦特別選抜

(3)内容及び配点

内容	面　接	入学志願者調査書	合　計
配点	50	100	150

（注）　面接において，本校専攻科のアドミッションポリシー（入学者受入方針）に著しくそぐわないと判断した場合は，不合格とすることがある。

一般学力検査選抜

(3)学力検査等の配点

内容	数学	英語	専門科目A	専門科目B	面　接	入学志願者調査書	合　計
配点	50	50	50	50	50	50	300

（注１）数学，英語，専門２科目のうち，10点未満の得点が１科目以上あった場合は，不合格とすることがある。

（注２）　面接において，本校専攻科のアドミッションポリシー（入学者受入方針）に著しくそぐわないと判断した場合は，不合格とすることがある。

（出典　平成２５年度専攻科学生募集要項）

資料４－２－①－６の続き

社会人特別選抜

3. 入学者選抜方法

入学者の選抜は，入学志願者調査書及び学力検査等の内容の総合判定により行う。

(1)学力検査実施日等

学力検査等実施日	教科･科目等	実施時間	実 施 場 所
平成25年10月19日(土)	小　論　文	9:30～10:30	舞鶴工業高等専門学校
	面　　接	10:50～	

(注)当日，午前９時 15 分までに本校の指定場所に集合すること。

(2)学力検査等の内容及び配点

内容	小論文	面　接	入学志願者調査書	合　計
配点	50	50	50	150

(注)　面接において，本校専攻科のアドミッションポリシー(入学者受入方針)に著しくそぐわないと判断した場合は，不合格とすることがある。

外国人留学生特別選抜（学力検査選抜・書類選抜）

(1)外国人留学生特別選抜(学力検査選抜)

入学者の選抜は，学力検査等の内容の総合判定により行う。

①学力検査実施日等

学力検査等実施日	教科･科目等	実施時間	実施場所
平成25年10月19日(土)	小　論　文	9:30～10:30	舞鶴工業高等専門学校
	筆記(日本語)	10:45～11:35	
	面　　接	11:50～	

(注)当日，午前９時 15 分までに本校の指定場所に集合すること。

②学力検査等の内容及び配点

内容	小論文	筆記(日本語)	面　　接	合　　計
配点	100	100	100	300

(注)　面接において，本校専攻科のアドミッションポリシー(入学者受入方針)に著しくそぐわないと判断した場合は，不合格とすることがある。

(2)外国人留学生特別選抜(書類選抜)

入学者の選抜は，日本留学試験成績の日本語･理科(物理を含む２科目)･数学の内容の総合判定により行う。

(注)日本留学試験の成績で，１科目でも 50%未満の得点がある場合は不合格とする場合がある。

（出典　平成２５年度専攻科学生募集要項）

資料４－２－①－７

専攻科入学試験面接試験質問例

訪問調査時に閲覧可。

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

以上の状況により，入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿って適切な学生の受入方法が採用されており，実際の入学者選抜が適切に実施されていると判断する。

観点４－２－②：　入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており，その結果を入学者選抜の改善に役立てているか。

（観点に係る状況）

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかの検証として，本科学生への入学後のアンケート（国立高専機構が統一的に実施）と成績追跡調査を行っている。アンケートでは，志望動機が分析されており，「就職率」と並んで「早期専門教育」が最も高い動機となっており，「「ものつくり」を通して，自立した人間を目指す人」というアドミッションポリシーに沿った学生の選抜が行われていることを裏付けている（資料４－２－②－１及び２）。成績追跡調査では，入学試験の成績と入学直後の数学・英語の基礎学力診断テストとの相関や学力検査選抜の成績と後記期末試験の成績との相関が分析されている（資料４－２－②－３及び４）。これらの結果は，入学試験委員会で検討され，入学試験方法の改善が図られている。

例えば，平成２３年度第２回入学試験委員会において，全国国立高専の学業成績評価期間並びに特別選抜の定員枠及び基礎学力診断テストにおける特別選抜入学者と学力選抜入学者の分析に基づいて，学業成績（調査書の内申点）評価期間については，平成２４年度より，特別選抜出願資格を中学校第１～３学年の３年間の総合計を９９以上とすることとし，特別選抜の定員枠については，平成２４年度は変更せず割合は４０％とし，定員枠の変更については，今後も検討していくこととなった（資料４－２－②－５及び６）。

専攻科課程の入学者選抜については，面接試験後「面接結果取りまとめ会報告書」が提出され，入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかの検証が行われている（資料４－２－②－７及び８）。平成２５年度入学者選抜の面接結果の検証を経て，「平成２６年度専攻科学生募集要項」では，専攻科課程の入学者選抜の全ての区分に「面接において，本校専攻科のアドミッションポリシー（入学者受入方針）に著しくそぐわないと判断した場合は，不合格とすることがある。」を付記することになった（資料４－２－①－６）。

資料４－２－②－１

（アンケート様式例）

入学動機に関するアンケート

入試広報関連事業の効果の分析，改善の検討の基礎資料としますので，次のアンケートについて回答してください。

〇学科名　　学科

１　本校への入学を志望した動機に〇を付けてください。（３つまで回答可）

① 技術者教育を中心とする教育内容に関心がある
② 理工系の５年間一貫教育に関心がある
③ 早い時期から専門教育を受けることができる
④ 就職率がよい
⑤ 工学系の大学３年に編入学ができる
⑥ 専攻科に進学し，学士の学位を取得することができる
⑦ 日本技術者教育認定機構（ＪＡＢＥＥ）の認定教育プログラムである
⑧ 創造力のある優れた教員が多い
⑨ 寮がある
⑩ 立地，通学環境がよい
⑪ 「ロボコン」に興味がある
⑫ 運動クラブなどの課外活動に興味がある
⑬ その他（　　）

２　～９　は省略

（出典　学生課資料）

資料４－２－②－２

○入学動機に関するアンケート調査集計結果

（平成24年度）

学科名	学科番号	入学定員	在籍者数	回答者数	1　志望動機（３つまで回答可）													
					教育内容	５年一貫教育	早期専門教育	就職率	大学進学	専攻科	ＪＡＢＥＥ認定	教員	寮	立地・通学環境	ロボコン	課外活動	その他	その他の具体例
計		160	168	143	66	37	77	107	25	6	3	2	26	4	7	9	2	
機械工学科	101	40	41	34	15	11	14	30	6	1	0	2	5	1	1	1	1	自動車部
電気情報工学科	207	40	43	37	24	10	23	21	5	1	1	0	5	0	0	2	1	大きなグラウンドがある
電子制御工学科	205	40	39	33	16	10	17	24	10	1	1	0	5	1	6	3	0	
建設システム工	507	40	45	39	11	6	23	32	4	3	1	0	11	2	0	3	0	

（平成23年度）

学科名	学科番号	入学定員	在籍者数	回答者数	1　志望動機（３つまで回答可）													
					教育内容	５年一貫教育	早期専門教育	就職率	大学進学	専攻科	ＪＡＢＥＥ認定	教員	寮	立地・通学環境	ロボコン	課外活動	その他	その他の具体例
機械工学科	101	40	42	42	23	12	22	23	6	7	6	1	5	1	6	5	1	試験科目及び内容が自分に合っている。
電気情報工学科	207	40	42	42	25	13	26	22	7	3	3	2	6	1	4	2	0	
電子制御工学科	205	40	44	44	27	7	25	23	3	6	2	4	5	2	20	0	0	
建設システム工	507	40	41	41	22	12	24	24	4	5	3	1	8	1	3	2	0	
計		160	169	169	97	44	97	92	20	21	14	8	24	5	33	9	1	

（平成２３年度）

学科名	学科番号	入学定員	在籍者数	回答者数	1　志望動機（３つまで回答可）													
					教育内容	５年一貫教育	早期専門教育	就職率	大学進学	専攻科	ＪＡＢＥＥ認定	教員	寮	立地・通学環境	ロボコン	課外活動	その他	その他の具体例
機械工学科	101	40	37	37	20	8	21	25	5	5	0	0	8	1	2	2	1	車に興味があったから。
電気情報工学科	207	40	39	39	17	9	22	27	8	4	0	0	5	3	2	4	0	
電子制御工学科	205	40	43	43	19	11	22	15	9	7	1	0	7	2	16	2	1	父の母校だから。
建設システム工	507	40	42	42	25	11	22	30	6	1	0	2	10	4	1	3	0	
計		160	161	161	81	39	87	97	28	17	1	2	30	10	21	11	2	

（出典　学生課資料）

資料４－２－②－３

基礎学力診断テストシェア率（上位者）

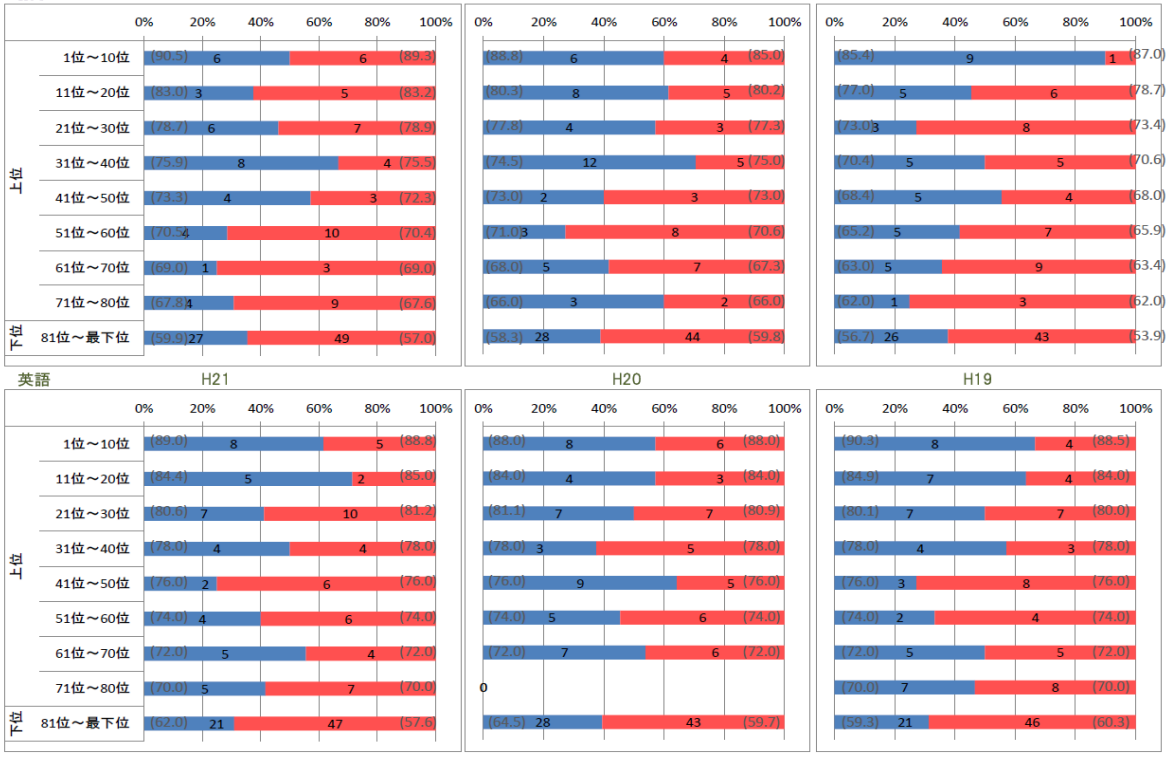
数学		H21				H20				H19			
		特別選抜		学力検査選抜		特別選抜		学力検査選抜		特別選抜		学力検査選抜	
上位	1位～10位	6 (90.5)	36 (77.4)	6 (89.3)	47 (75.4)	6 (88.8)	43 (76.2)	4 (85.0)	37 (73.9)	9 (85.4)	38 (72.9)	1 (87.0)	43 (69.5)
	11位～20位	3 (83.0)		5 (83.2)		8 (80.3)		5 (80.2)		5 (77.0)		6 (78.7)	
	21位～30位	6 (78.7)		7 (78.9)		4 (77.8)		3 (77.3)		3 (73.0)		8 (73.4)	
	31位～40位	8 (75.9)		4 (75.5)		12 (74.5)		5 (75.0)		5 (70.4)		5 (70.6)	
	41位～50位	4 (73.3)		3 (72.3)		2 (73.0)		3 (73.0)		5 (68.4)		4 (68.0)	
	51位～60位	4 (70.5)		10 (70.4)		3 (71.0)		8 (70.6)		5 (65.2)		7 (65.9)	
	61位～70位	1 (69.0)		3 (69.0)		5 (68.0)		7 (67.3)		5 (63.0)		9 (63.4)	
	71位～80位	4 (67.8)		9 (67.6)		3 (66.0)		2 (66.0)		1 (62.0)		3 (62.0)	
下位	81位～最下位		27 (59.9)		49 (57.0)		28 (58.3)		44 (59.8)		26 (56.7)		43 (53.9)
	全受験者		63 (69.9)		96 (66.0)		71 (69.1)		81 (66.2)		64 (66.3)		86 (61.7)

※　カッコ内は等級別平均点

英語		H21				H20				H19			
		特別選抜		学力検査選抜		特別選抜		学力検査選抜		特別選抜		学力検査選抜	
上位	1位～10位	8 (89.0)	40 (79.2)	5 (88.8)	44 (77.6)	8 (88.0)	43 (79.1)	6 (88.0)	38 (78.7)	8 (90.3)	43 (79.5)	4 (88.5)	43 (76.9)
	11位～20位	5 (84.4)		2 (85.0)		4 (84.0)		3 (84.0)		7 (84.9)		4 (84.0)	
	21位～30位	7 (80.6)		10 (81.2)		7 (81.1)		7 (80.9)		7 (80.1)		7 (80.0)	
	31位～40位	4 (78.0)		4 (78.0)		3 (78.0)		5 (78.0)		4 (78.0)		3 (78.0)	
	41位～50位	2 (76.0)		6 (76.0)		9 (76.0)		5 (76.0)		3 (76.0)		8 (76.0)	
	51位～60位	4 (74.0)		6 (74.0)		5 (74.0)		6 (74.0)		2 (74.0)		4 (74.0)	
	61位～70位	5 (72.0)		4 (72.0)		7 (72.0)		6 (72.0)		5 (72.0)		5 (72.0)	
	71位～80位	5 (70.0)		7 (70.0)		0 (－)		0 (－)		7 (70.0)		8 (70.0)	
下位	81位～最下位		21 (62.0)		47 (57.6)		28 (64.5)		43 (59.7)		21 (59.3)		46 (60.3)
	全受験者		61 (73.3)		91 (67.3)		71 (73.3)		81 (68.6)		64 (72.9)		89 (68.3)

※　カッコ内は等級別平均点

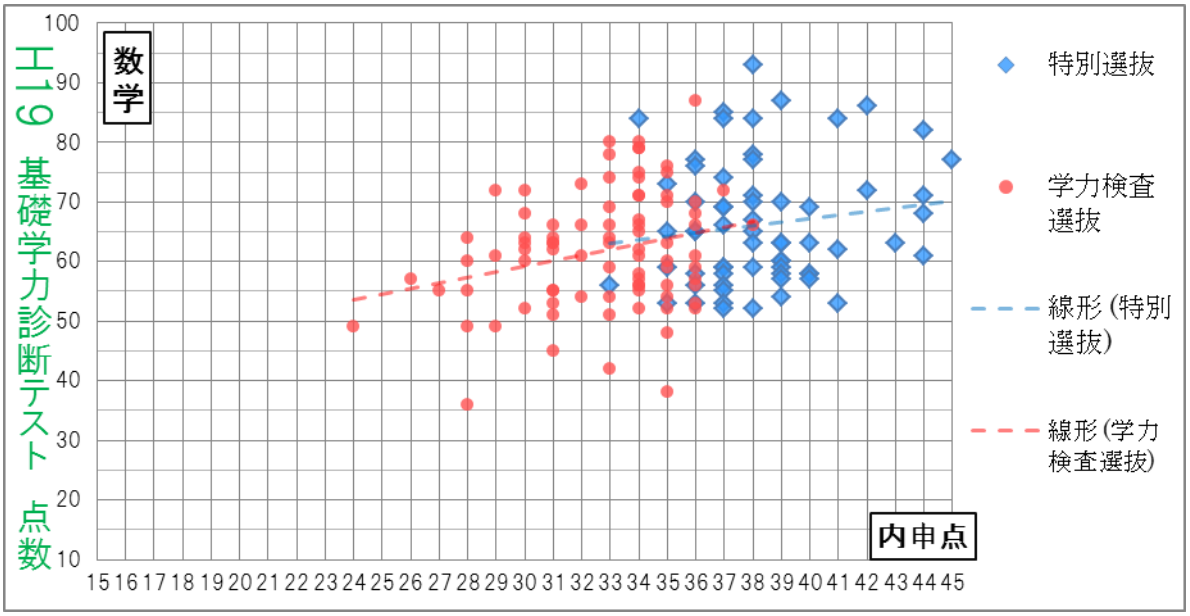
基礎学力診断テストシェア率（上位者グラフ）　特別選抜試験　学力検査選抜試験　※数字は人数。カッコ内は等級別平均点

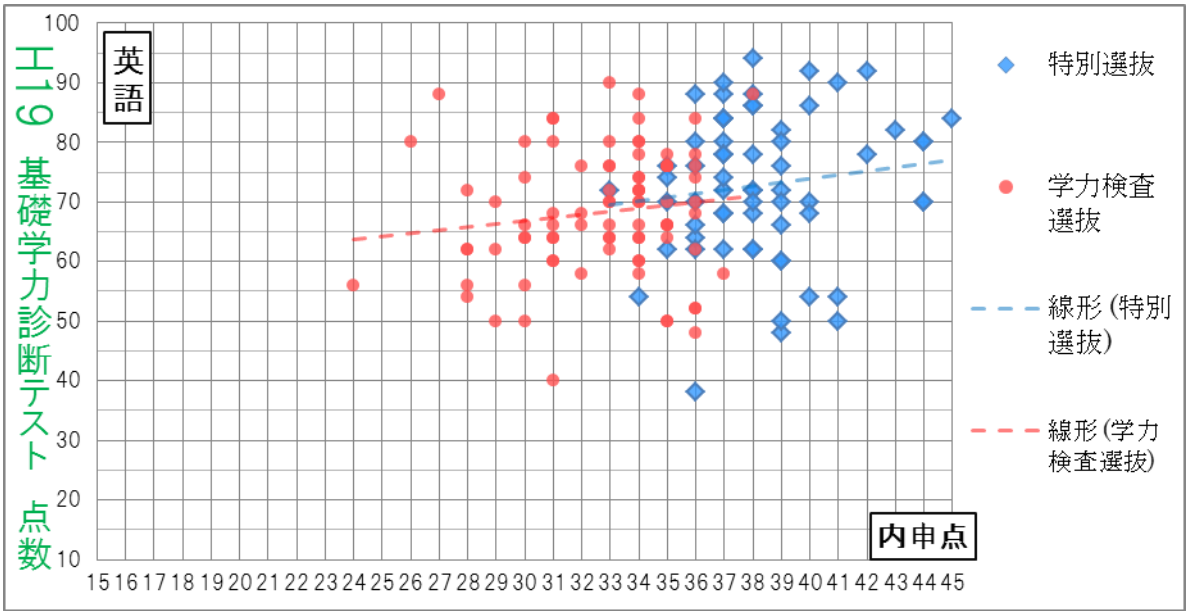


（出典　学生課資料）

資料４－２－②－３の続き

平成１９年度

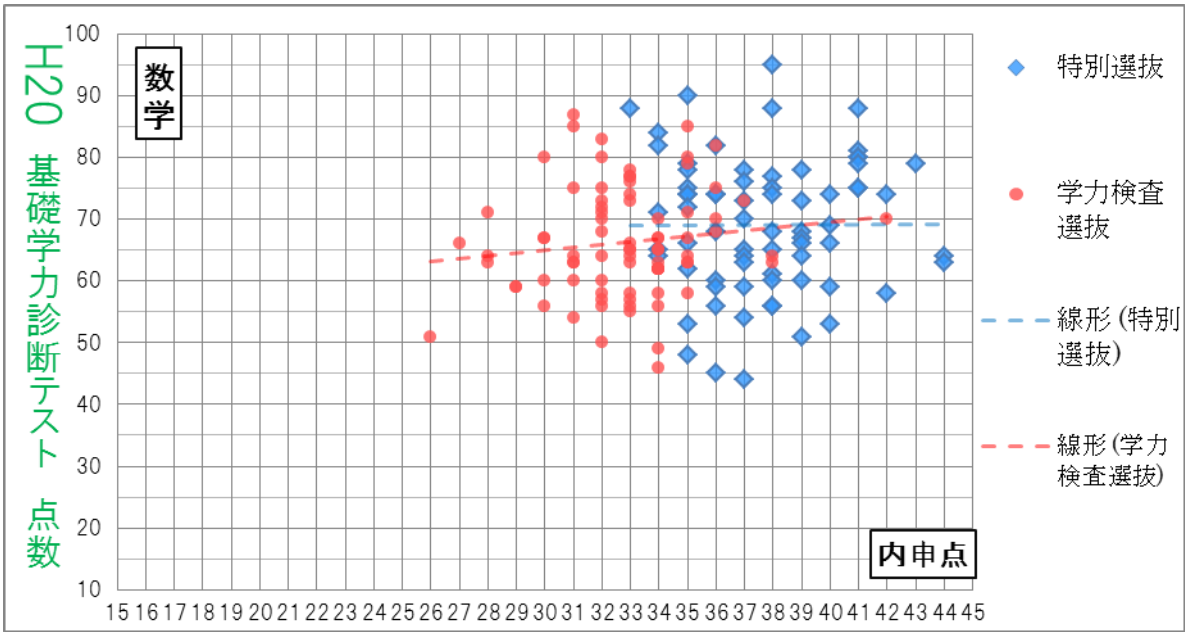


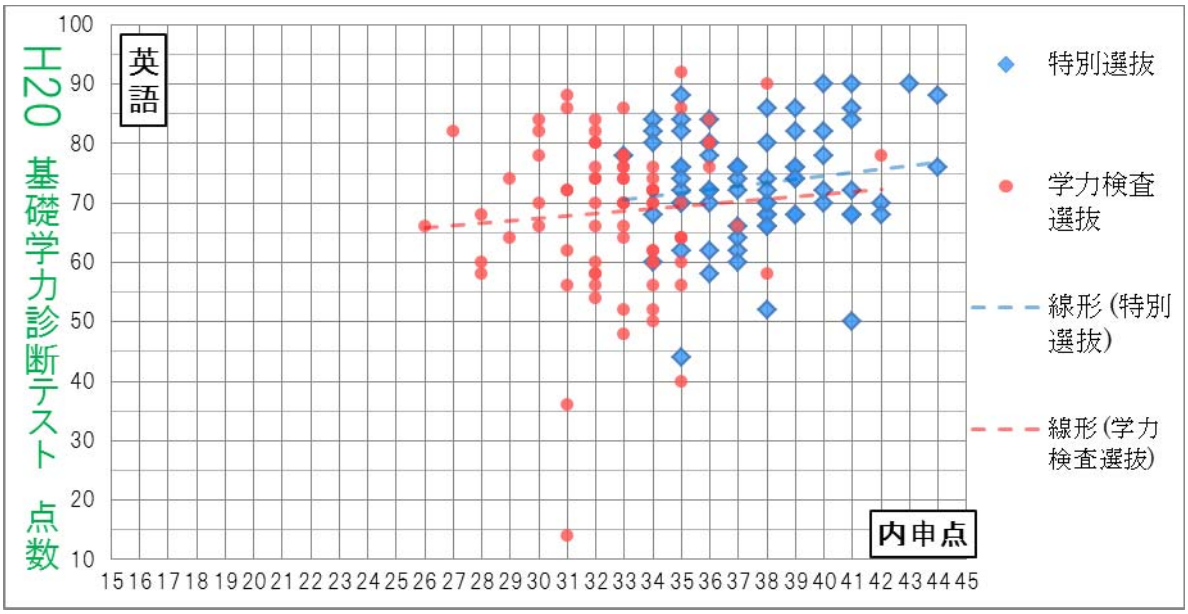


（出典　学生課資料）

資料４－２－②－３の続き

平成２０年度

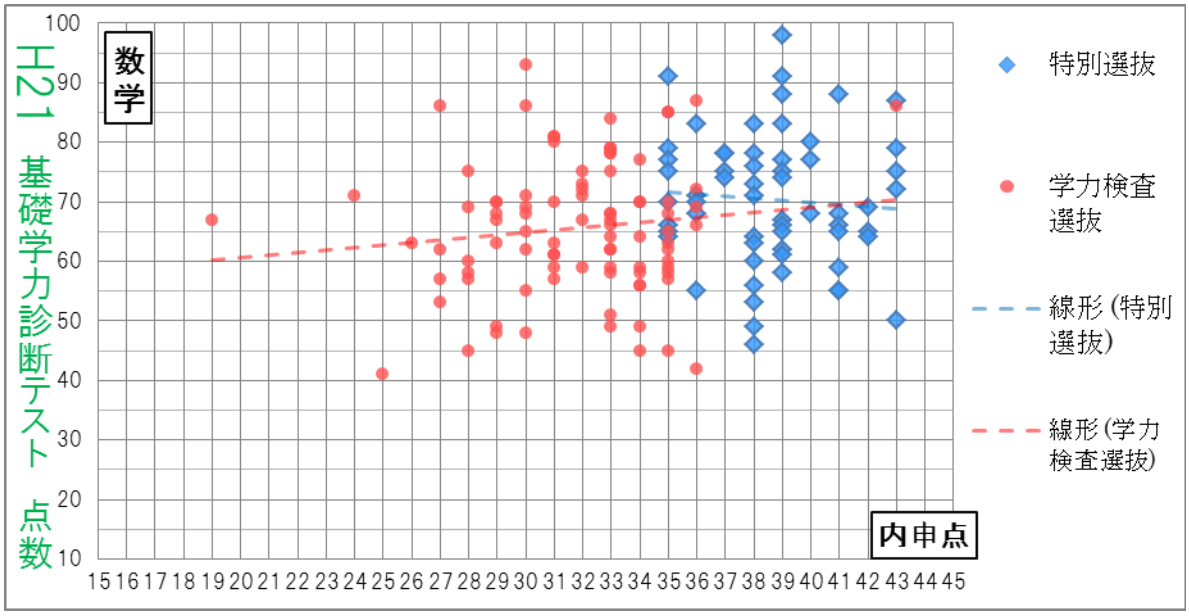


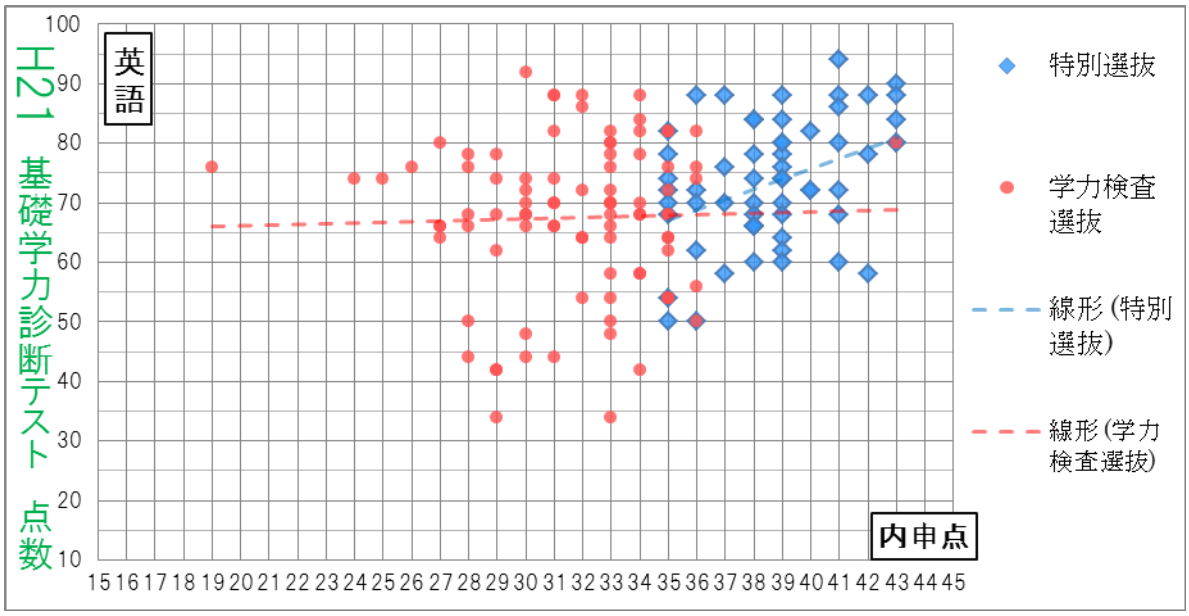


（出典　学生課資料）

資料４－２－②－３の続き

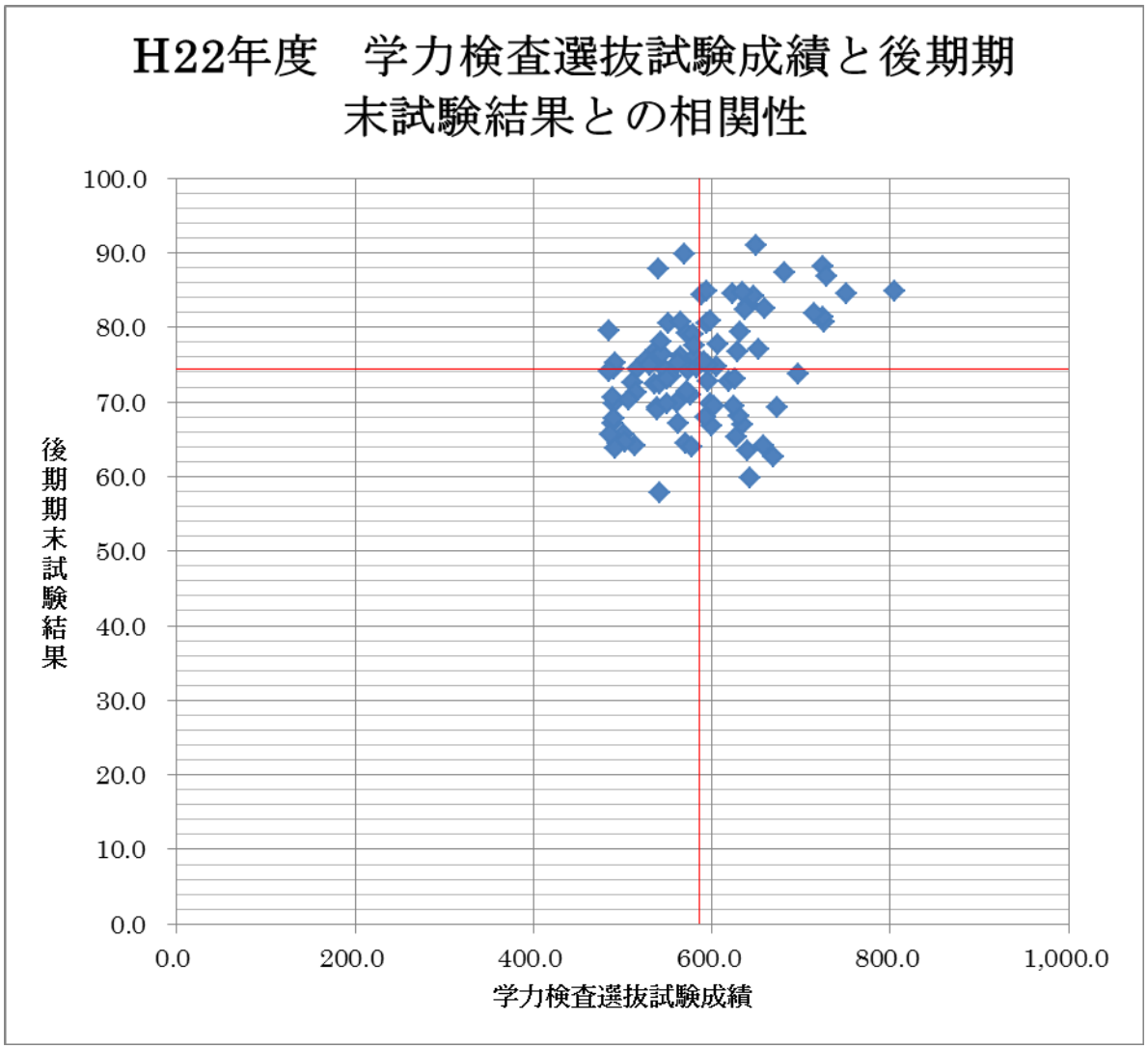
平成２１年度





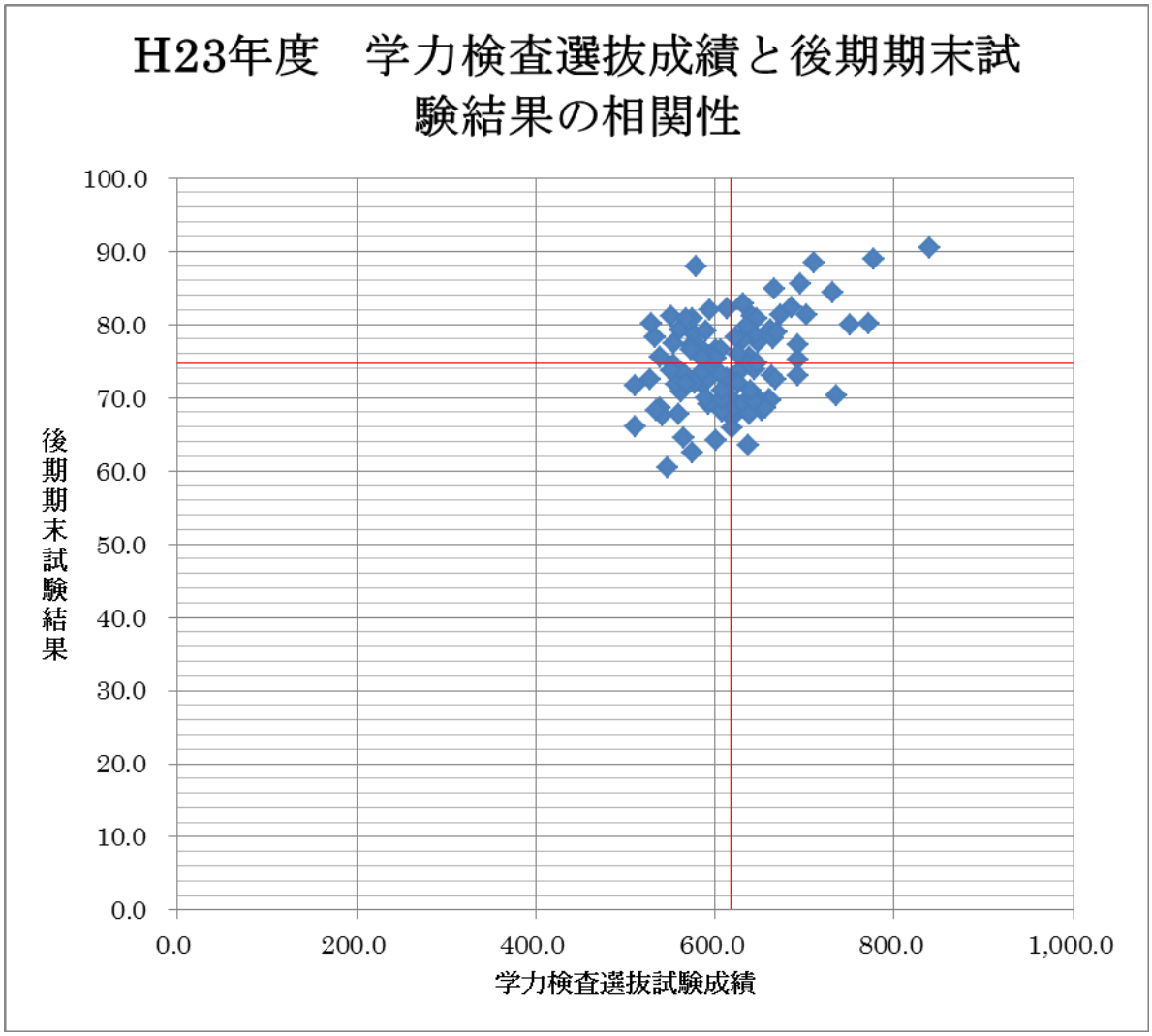
（出典　学生課資料）

資料４－２－②－４



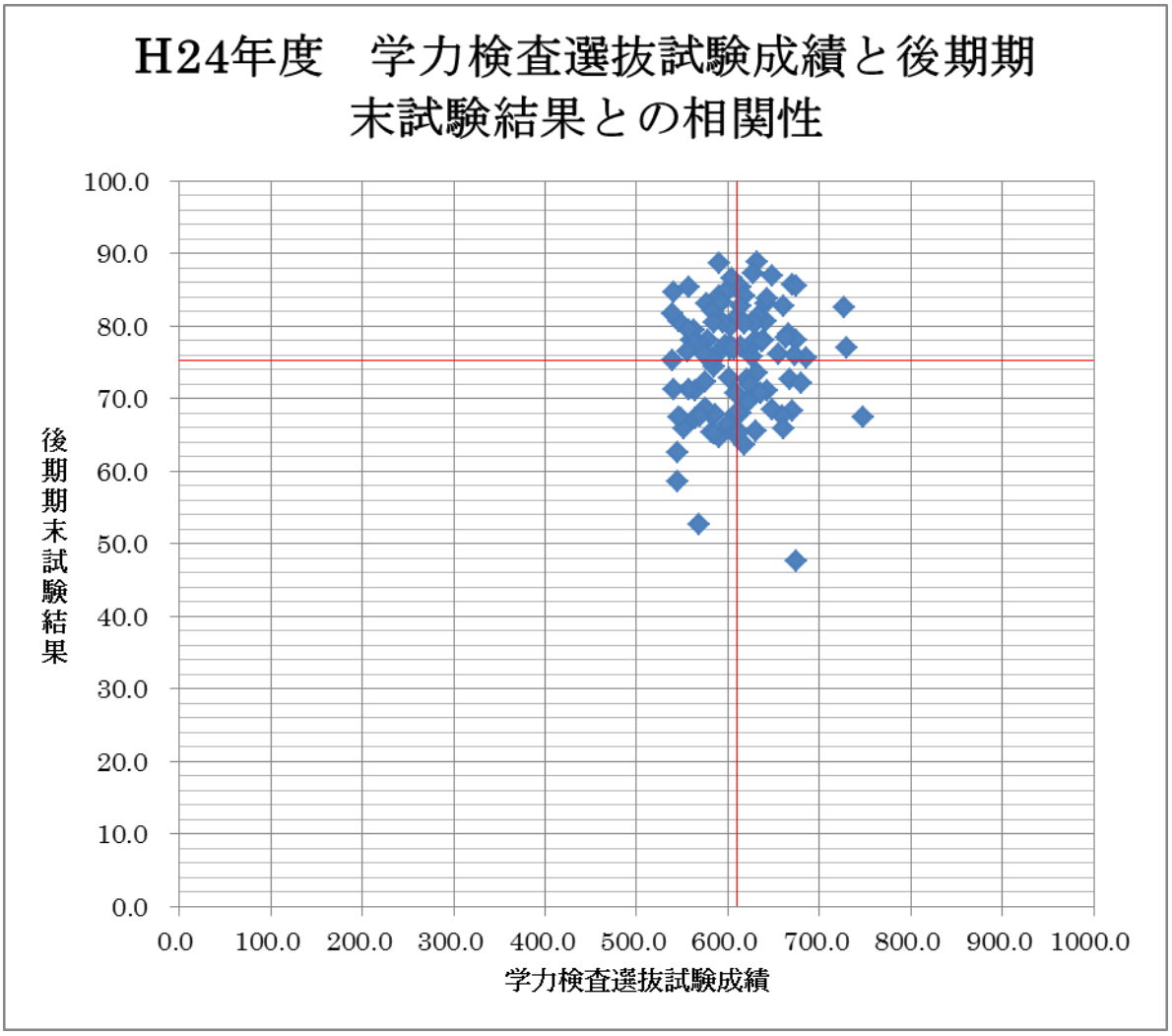
（出典　学生課資料）

資料４－２－②－４の続き



（出典　学生課資料）

資料４－２－②－４の続き



（出典　学生課資料）

資料４－２－②－５

第２回入学試験委員会議事概要

日　　時　　平成２３年４月２５日(月)　１６：５０～１９：００

場　　所　　中会議室

出 席 者　[redacted]

欠席：

陪席：

協議事項

１．本科募集要項について

[redacted]

以下，省略

（出典　学生課資料）

資料４－２－②－６

平成２５年度第２回入学試験委員会議事概要（案）

日　時　　平成２５年５月２９日（水）１４：３０～１６：００
場　所　　中会議室
出席者　[redacted]
陪　席
欠席者

議　題：
（協議事項）

１．特別選抜合格判定基準について

[redacted]

２．学力検査選抜合格判定について

[redacted]

３．学力検査選抜数学の成績について

[redacted]

以下，省略

（出典　学生課資料）

資料４－２－②－７

面接結果取りまとめ会報告書

平成２４年　月　日

舞鶴工業高等専門学校長　殿

＿＿＿＿＿専攻長

＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿印

平成２５年度専攻科入学者選抜にかかる面接について，下記のとおり報告いたします。

記

（出典　学生課資料）

資料４－２－②－８

平成２５年度専攻科課程入学者選抜面接結果取りまとめ会報告書

訪問調査時に閲覧可。

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

以上の状況により，入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組が行われており，その結果を入学者選抜の改善に役立てていると判断する。

観点４－３－①：　実入学者数が，入学定員を大幅に超える，又は大幅に下回る状況になっていないか。また，その場合には，これを改善するための取組が行われる等，入学定員と実入学者数との関係の適正化が図られているか。

（観点に係る状況）

準学士課程における平成２１年度から２５年度入学者の実数，入学定員及び志願倍率の推移は下の表の通りである。実入学者数は入学定員をわずかに上回る程度であり，大幅に超える状況にはない。また，平成２１年度から平成２５年度までの５年間の志願倍率は1.4～1.9で推移しており，実入学者が入学定員を下回ってはいない（資料４－３－①－１）。

平成２１年度から２５年度の専攻科においても，実入学者数は入学定員を若干上回る程度である。志願倍率の推移も1.7から2.3の間を推移しており，実入学者が入学定員を下回ったことはない。

資料４－３－①－１

年度別入試状況（特別選抜・学力検査選抜）

入試年度＼区分	学科	入学定員	特別選抜						学力検査選抜								合計							
			募集人員	志願者数		志願倍率	合格者数		入学者数		募集人員	志願者数		再志願者数		志願者数計	志願倍率	合格者数		入学者数		募集人員	志願者数（実質）		志願倍率（実質）	合格者数		辞退者数		入学者数	
21年度	機械	40	16	27	(2)	1.7	16	(2)	16	(2)	24	34	(1)	10	(0)	44	(1)	1.8	26	(0)	26	(0)	40	61	(3)	1.5	42	(2)	0	(0)	42	(2)
	電気	40	16	33	(6)	2.1	16	(2)	16	(2)	24	29	(1)	17	(4)	46	(5)	1.9	28	(3)	27	(3)	40	62	(7)	1.6	44	(5)	1	(0)	43	(5)
	制御	40	16	29	(2)	1.8	16	(1)	16	(1)	24	22	(1)	13	(1)	35	(2)	1.5	27	(2)	26	(2)	40	51	(3)	1.3	43	(3)	1	(0)	42	(3)
	建設	40	16	27	(8)	1.7	16	(5)	16	(5)	24	15	(3)	11	(3)	26	(6)	1.1	27	(6)	24	(5)	40	42	(11)	1.1	43	(11)	3	(1)	40	(10)
	計	160	64	116	(18)	1.8	64	(10)	64	(10)	96	100	(6)	51	(8)	151	(14)	1.6	108	(11)	103	(10)	160	216	(24)	1.4	172	(21)	5	(1)	167	(20)
22年度	機械	40	16	21	( )	1.3	16	( )	16	( )	24	26	(0)	5	(0)	31	(0)	1.3	26	(0)	21	(0)	40	47	( )	1.2	42	(0)	5	(0)	37	(0)
	電気	40	16	38	(4)	2.4	16	(3)	16	(3)	24	24	(2)	22	(1)	46	(3)	1.9	26	(2)	23	(1)	40	62	(6)	1.6	42	(5)	3	(1)	39	(4)
	制御	40	16	25	( )	1.6	16	( )	16	( )	24	26	(0)	9	(0)	35	(0)	1.5	28	(0)	27	(0)	40	51	( )	1.3	44	(0)	1	(0)	43	(0)
	建設	40	16	22	(2)	1.4	16	(2)	16	(2)	24	23	(3)	6	(0)	29	(3)	1.2	29	(4)	26	(4)	40	45	(5)	1.1	45	(6)	3	(0)	42	(6)
	計	160	64	106	(6)	1.7	64	(5)	64	(5)	96	99	(5)	42	(1)	141	(6)	1.5	109	(6)	97	(5)	160	205	(11)	1.3	173	(11)	12	(1)	161	(10)
23年度	機械	40	16	34	(2)	2.1	17	(1)	17	(1)	24	26	(0)	17	(1)	43	(1)	1.8	27	(0)	25	(0)	40	60	(2)	1.5	44	(1)	2	(0)	42	(1)
	電気	40	16	29	(5)	1.8	16	(4)	16	(4)	24	30	(1)	13	(1)	43	(2)	1.8	28	(1)	26	(1)	40	59	(6)	1.5	44	(5)	2	(0)	42	(5)
	制御	40	16	48	(1)	3.0	16	(1)	16	(1)	24	20	(0)	31	(0)	51	(0)	2.1	28	(0)	28	(0)	40	68	(1)	1.7	44	(1)	0	(0)	44	(1)
	建設	40	16	29	(7)	1.8	17	(5)	17	(5)	24	28	(3)	11	(2)	39	(5)	1.6	28	(3)	24	(3)	40	57	(10)	1.4	45	(8)	4	(0)	41	(8)
	計	160	64	140	(15)	2.2	66	(11)	66	(11)	96	104	(4)	72	(4)	176	(8)	1.8	111	(4)	103	(4)	160	244	(19)	1.5	177	(15)	8	(0)	169	(15)
24年度	機械	40	16	20	(1)	1.3	16	(0)	16	(0)	24	41	(2)	3	(0)	44	(2)	1.8	27	(0)	25	(0)	40	61	(3)	1.5	43	(0)	2	(0)	41	(0)
	電気	40	16	29	(2)	1.8	16	(2)	16	(2)	24	43	(5)	13	(0)	56	(5)	2.3	28	(1)	27	(0)	40	72	(7)	1.8	44	(3)	1	(1)	43	(2)
	制御	40	16	25	(3)	1.6	16	(2)	16	(2)	24	35	(3)	9	(0)	44	(3)	1.8	28	(1)	23	(0)	40	60	(6)	1.5	44	(3)	5	(1)	39	(2)
	建設	40	16	27	(8)	1.7	16	(4)	16	(4)	24	32	(1)	11	(0)	43	(1)	1.8	29	(3)	29	(3)	40	59	(9)	1.5	45	(7)	0	(0)	45	(7)
	計	160	64	101	(14)	1.6	64	(8)	64	(8)	96	151	(11)	36	(0)	187	(11)	1.9	112	(5)	104	(3)	160	252	(25)	1.6	176	(13)	8	(2)	168	(11)
25年度	機械	40	16	27	(2)	1.7	16	(2)	16	(2)	24	41	(2)	11	(0)	52	(2)	2.2	27	(0)	25	(0)	40	68	(4)	1.7	43	(2)	2	(0)	41	(2)
	電気	40	16	40	(4)	2.5	16	(2)	16	(2)	24	44	(3)	24	(2)	68	(5)	2.8	26	(2)	25	(2)	40	84	(7)	2.1	42	(4)	1	(0)	41	(4)
	制御	40	16	34	(4)	2.1	16	(2)	16	(2)	24	48	(0)	18	(2)	66	(2)	2.8	28	(1)	22	(0)	40	82	(4)	2.1	44	(3)	6	(1)	38	(2)
	建設	40	16	32	(12)	2.0	16	(9)	16	(9)	24	33	(5)	15	(3)	48	(8)	2.0	27	(1)	26	(1)	40	65	(17)	1.6	43	(10)	1	(0)	42	(10)
	計	160	64	133	(22)	2.1	64	(15)	64	(15)	96	166	(10)	68	(7)	234	(17)	2.4	108	(4)	98	(3)	160	299	(32)	1.9	172	(19)	10	(1)	162	(18)

（注1）（ ）内は女子を内数で示す。「再志願者」とは、特別選抜を志願・受験し合格内定とならなかった者で学力検査選抜を再度志願する者。
（注2）辞退者はすべて学力検査選抜の志願者である。

（出典　学生課資料）

資料４－３－①－２

年度別専攻科入学状況等調

平成２１年度

専攻名	入学定員	志願倍率	志願者	合格者	入学者	入学者の出身高専別内訳
電気・制御システム工学専攻	8	1.9	１５	１３ (3)	１０	本校　１０
建設・生産システム工学専攻	8	1.6	１３	9 (1)	8	本校　7 富山　1
合計	１６	1.8	２８	２２	１８	本校　１７ 他高専　1

( )辞退者：内数

平成２２年度

専攻名	入学定員	志願倍率	志願者	合格者	入学者	入学者の出身高専別内訳
電気・制御システム工学専攻	8	1.4	１１	１１ (2)	9	本校　9
建設・生産システム工学専攻	8	2.3	１８	１７ (5)	１２	本校　１２
合計	１６	1.8	２９	２８	２１	本校　２１ 他高専　0

( )辞退者：内数

（出典　学生課資料）

資料４－３－①－２の続き

平成２３年度

専攻名	入学定員	志願倍率	志願者	合格者	入学者	入学者の出身高専別 内訳
電気・制御システム工学専攻	８	１.８	１４	１３ (3)	１０	本校　１０
建設・生産システム工学専攻	８	２.０	１６	１２ (4)	８	本校　８
合計	１６	１.９	３０	２５	１８	本校　１８ 他高専　０

平成２４年度

専攻名	入学定員	志願倍率	志願者	合格者	入学者	入学者の出身高専別 内訳
電気・制御システム工学専攻	８	１.８	１４	１８ (6)	１２	本校　１２
建設・生産システム工学専攻	８	２.５	２０	１１ (3)	８	本校　８
合計	１６	２.１	３４	２９	２０	本校　１８ 他高専　０

（出典　学生課資料）

資料４－３－①－２の続き

平成２５年度

専　攻　名	入学定員	志願倍率	志願者	合格者	入学者	入学者の出身高専別 内　　訳
電気・制御システム工学専攻	8	1.6	１３	１３ (5)	9	本　校　8 奈　良　1
建設・生産システム工学専攻	8	1.8	１４	7	7	本　校　7
合　　計	１６	1.7	２７	２０	１６	本　校　１５ 他高専　1

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）
準学士課程及び専攻科課程の実入学者数は，入学定員と比較して適正な数を保っている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）
本校のアドミッションポリシーは，本校ウェブページに掲載されているだけでなく，府県をまたがった多数の中学校訪問，複数回開催するプレオープンカレッジ，オープンカレッジなどの体験学習や各地域の中学校の進路担当教員向け入試説明会及び生徒・保護者向け入試説明会などを通して，将来の学生を含め理解されやすい形で幅広く社会に公表されている。

準学士課程の特別選抜においては，理科，数学，英語の適性検査を実施し，学力検査選抜においては，国立高等専門学校機構が作成した統一試験について傾斜配点を行うなど理数系科目を中心とした基礎学力の評価を重視した合否判定を行っている。編入学試験では，数学及び理科については，１教科でも30点未満があった場合は不合格とするなど同様の措置を行っている。

本校は人口９万人弱の舞鶴市に所在しており，その周辺部に人口の多い都市は存在していない。そのため，全教職員は入学者の確保のために府県をまたがる広域の入試広報に努めている。その結果，平成２１年度から平成２５年度まで５年間の志願倍率は1.3から1.9に推移しており，実入学者は入学定員を下回っていない。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が適切に行われていることの検証として，準学士課程学生に対して入学後のアンケートと成績追跡調査を行い，これらの分析結果から学業成績（調査書の内申点）評価期間を改正し，平成２４年度より特別選抜出願資格を第１学年～第３学年の３年間の総合計を99以上とすることとした。また特別選抜の定員枠については，平成２４年度は変更せず割合は40％を維持するなど入学試験方法の検証と改善が図られている。

（改善を要する点）
該当なし。

（３）基準４の自己評価の概要

本校の求める学生像及び入学者選抜の基本方針等の入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）は明確に定められ，「本科学生募集要項」及び「編入学生募集要項」並びに「専攻科学生募集要項」に記されている。それらは，募集要項の配付を通じて本校および中学校の教職員に周知され，ウェブページや多様な入試広報を通じて，理解されやすい形で社会に公表されている。

本校では，準学士課程の特別選抜における面接・適性検査，学力検査選抜おける傾斜配点，特別選抜及び学力検査選抜における中学校３か年の学業成績（調査書の内申点）評価などに見られるように入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入方法が採用されており，実際に入学者選抜は適切に実施されている。これは，編入学及び専攻科課程の入学者選抜においても同様である。

準学士課程においては，入学後のアンケートや成績追跡調査などによって入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかを検証するための取組

が行われており，その結果を入学者選抜の改善に役立てている。専攻科課程においては，「面接結果取りまとめ会報告書」により入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）に沿った学生の受入が実際に行われているかどうかの検証が行われ，入学者選抜の改善に役立てている。

準学士課程及び専攻科課程の実入学者数は，入学定員を大幅に超える，または大幅に下回る状況にはなく，入学定員と比較して適正な数を保っている。

基準５　教育内容及び方法

（１）観点ごとの分析

＜準学士課程＞

観点５－１－①：　教育の目的に照らして、授業科目が学年ごとに適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）

本校は，教育理念と教育方針に基づき，教育目的と学習・教育到達目標を定め，これに沿って授業科目を学年ごとに配置している（資料５－１－①－１～４）。この教育課程の特長は，低学年に一般科目を多く配置し，学年進行とともに専門科目の割合が高まる楔形の体系的な科目配置である（資料５－１－①－５）。

本校の授業内容で，特筆すべき事項は，「教育方針」の「Ⅰ　実験・実習，演習，ものつくりを重視する」と「Ⅳ　豊かな教養と国際性を育む」である。前者については，第１学年に「工学基礎」を開設して学際的な観点を基礎におき，各学科ともに，学年進行に沿って順次実験実習科目を学ばせ，その中で実践性と創造性を育んでいる（資料５－１－①―６及び７）。後者については，３年生以上の英語科目への習熟度クラスの導入，全学年の英語の授業への外国人講師の配置，さらには，４・５年生を対象とした中国語や韓国語，ドイツ語の開設等により，豊かな教養と国際性を育んでいる。

資料５－１－①－１

＜教育理念＞

広く工学の基礎と教養を身につけ，問題発見・解決能力，創造力を有し，地域・社会の発展に寄与できる国際感覚豊かな実践的開発型技術者を育成する。

＜教育方針＞

Ⅰ　実験・実習，演習，ものつくりを重視する
Ⅱ　基礎に立ち返って考えさせる
Ⅲ　自ら学ぼうとする意欲を育てる
Ⅳ　豊かな教養と国際性を育む

（出典　平成２５年度学生便覧）

資料５－１－①－２

（準学士課程の目的）

準学士課程は，専門分野の基礎知識を修得し，社会の変化やニーズに対応した製品やシステムをつくり出す能力と，豊かな人間性・国際性を兼ね備えた実践的・創造的技術者を育成することを目的とする。

（出典　平成２５年度学生便覧）

資料５－１－①－３

＜学習・教育到達目標＞
（準学士課程）

（A）自然科学と工学の基礎を身につける。
（B）専門分野の基礎知識を修得し，技術の実践に応用できる。
（C）修得した知識を統合し，製品やシステムを考案できる。
（D）実験・実習・演習により現象の理解を深め，実践力を身につける。
（E）技術者に必要な人間性，国際性，協調性及び英語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける。
（F）技術が自然や社会に与える影響を理解し，技術者としての倫理観を身につける。
（G）課題の提案・報告などを適切にまとめ，発表できる。
（H）コンピュータを技術の実践に活用できる。
（I）責任を自覚し，互いに協力し合い，チームの目的達成に貢献できる。

ただし，（I）は平成２５年度準学士課程第１～４学年に適用する。

（出典　平成２５年度学生便覧）

資料５－１－①－４

表１　学習・教育到達目標に到達するための授業科目の流れ（H25年度開講科目）

（電情系：電気情報工学科、電制系：電子制御工学科、機械系：機械工学科、建設系：建設システム工学科（2コース制））

学習・教育目標	学科系	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次	
		専門	一般、専門共通	専門	一般、専門共通	専門	一般、専門共通	専門	一般、専門共通	専門	一般、専門共通
(A) 自然科学と工学の基礎を身につける。	電情系	電気概論(◎) 電気回路(◎) 情報基礎(◎)	基礎数学Ⅰ(◎) 基礎数学Ⅱ(◎) 数学演習ⅠA(◎) 数学演習ⅠB(◎) 物理ⅠA(◎) 物理ⅠB(◎) 化学ⅠA(◎) 化学ⅠB(◎) 情報リテラシー(◎)	交流回路Ⅰ(◎) 交流回路Ⅱ(◎) C言語(◎)	基礎数学Ⅲ(◎) 線形代数Ⅰ(◎) 線形代数Ⅱ(◎) 微分積分Ⅰ(◎) 数学演習Ⅱ(◎) 物理ⅡA(◎) 物理ⅡB(◎) 化学ⅡA(◎) 化学ⅡB(◎) 生物Ⅰ(◎) 生物Ⅱ(◎) 地学Ⅰ(◎) 地学Ⅱ(◎)	回路理論(◎) 電気磁気学Ⅰ(◎) 電気磁気学Ⅱ(◎) アナログ回路(◎) ディジタル回路(◎) アナログ信号処理Ⅰ(◎) アナログ信号処理Ⅱ(◎) インターフェースⅠ(◎) インターフェースⅡ(◎) 情報理論(◎)	微分積分Ⅱ(◎) 微分積分Ⅲ(◎) 応用物理Ⅰ(◎) 応用物理Ⅱ(◎)	電気磁気学Ⅲ(◎)	応用数学ⅠA(◎) 応用数学ⅠB(◎) 応用数学ⅡA(◎) 応用数学ⅡB(◎) 計測概論Ⅰ(◎) 計測概論Ⅱ(◎) 物理ⅢA(◎) 物理ⅢB(◎) 化学ⅢA(◎) 物理ⅢC(◎) 物理ⅢD(◎) 化学ⅢB(◎)		電子物理Ⅰ(◎) 電子物理Ⅱ(◎)
	電制系	電気基礎Ⅰ(◎) 電気基礎Ⅱ(◎)		電子工学Ⅰ(◎) 電子工学Ⅱ(◎) 力学Ⅰ(◎)		電子回路Ⅰ(◎) 電子回路Ⅱ(◎) 力学Ⅱ(◎) 水力学Ⅰ(◎) 材料力学Ⅰ(◎)		電気磁気学Ⅰ(◎) 電気磁気学Ⅱ(◎) 材料力学Ⅱ(◎) 材料力学Ⅲ(◎) 振動工学Ⅰ(◎)		振動工学Ⅱ(◎)	
	機械系	入門機械工学(◎) テクニカルドローイング(◎)		力学基礎Ⅰ(◎)		力学基礎Ⅱ(◎) 材料力学ⅠA(◎) 材料力学ⅠB(◎) 材料学Ⅰ(◎) 材料学Ⅱ(◎) 機構学(◎) 機械設計法Ⅰ(◎) 機械設計法Ⅱ(◎) 加工学Ⅱ(◎) 設計製図ⅡA(◎) 設計製図ⅡB(◎)		機械力学Ⅰ(◎)		医工学(◎) 機械力学Ⅱ(◎) 計算機援用工学(◎)	
	建設系			設計製図ⅠA(◎) 設計製図ⅠB(◎)		情報処理Ⅰ(◎) 建築一般構造(◎) 建設材料学(◎) 水理学ⅠA(◎) 水理学ⅠB(◎)		構造力学ⅢA(◎) 構造力学ⅢB(◎)			
(B) 専門分野の基礎知識を修得し、技術の実践に応用できる。	電情系	電気回路(◎)	工学基礎(◎) 情報リテラシー(◎)	交流回路Ⅰ(◎) 交流回路Ⅱ(◎) 情報数学(◎) C言語(◎)		回路理論(◎) 電気磁気学Ⅰ(◎) 電気磁気学Ⅱ(◎) アナログ回路(◎) ディジタル回路(◎) アナログ信号処理Ⅰ(◎) アナログ信号処理Ⅱ(◎) C言語実習(◎)	応用物理Ⅰ（機械工学科のみ）(◎) 応用物理Ⅱ（機械工学科のみ）(◎)	過渡現象論(◎) ディジタル信号処理(○) 電子工学Ⅰ(◎) 電子工学Ⅱ(◎) 論理回路(◎) 通信工学Ⅰ(◎) 通信工学Ⅱ(◎)	水力学Ⅱ(◎) 電気機器Ⅰ(◎) 電気機器Ⅱ(◎) ロボット工学Ⅰ(◎) 建築論Ⅰ(◎)	制御工学Ⅰ(◎) 制御工学Ⅱ(◎) 半導体工学(◎) エネルギー工学Ⅰ(◎) エネルギー工学Ⅱ(◎) 伝送工学(◎) 卒業研究(○)	マリンエンジニアリングⅠ(◎) マリンエンジニアリングⅡ(◎) 電磁気計測Ⅰ(◎) 電磁気計測Ⅱ(◎) 建設振動学(◎) 耐震工学(◎) 建築論Ⅱ(◎) 応用測量学Ⅰ(◎)
	電制系	電気基礎Ⅰ(◎) 電気基礎Ⅱ(◎)		電子工学Ⅰ(◎) 電子工学Ⅱ(◎)		電子回路Ⅰ(◎) 電子回路Ⅱ(◎) 熱力学Ⅰ(◎) 計算機工学Ⅰ(◎) 計算機工学Ⅱ(◎) 制御工学Ⅰ(◎)		電子回路Ⅲ(◎) 電子回路Ⅳ(◎) 制御工学Ⅱ(◎) 制御工学Ⅲ(◎) 熱力学Ⅱ(◎) 計測工学Ⅰ(◎)		電子回路Ⅴ(◎) システム制御Ⅰ(◎) システム制御Ⅱ(◎) 計測工学Ⅱ(◎) ロボット工学Ⅱ(◎) アクチュエータ工学(◎) 卒業研究(○)	
	機械系	テクニカルドローイング(◎)		加工学Ⅰ(◎) 工作実習Ⅰ(◎) 設計製図ⅠA(◎) 設計製図ⅠB(◎)		力学基礎Ⅱ(◎) 材料学Ⅰ(◎) 材料学Ⅱ(◎) 機構学(◎) 加工学Ⅱ(◎) 工作実習Ⅱ(◎) 設計製図ⅡA(◎) 設計製図ⅡB(◎)		流れ学Ⅰ(◎) 流れ学Ⅱ(◎) 材料力学ⅡA(◎) 材料力学ⅡB(◎) 電気工学Ⅰ(◎) 電気工学Ⅱ(◎) 熱力学Ⅰ(◎) 熱力学Ⅱ(◎)		制御工学Ⅰ(◎) 制御工学Ⅱ(◎) 材料力学Ⅲ(◎) 知能機械工学(◎) 流体工学(◎) 熱工学(◎) 加工学Ⅲ(◎) 卒業研究(○)	
	建設系	建設システム工学概論Ⅰ(◎) 建設システム工学概論Ⅱ(◎)		構造力学ⅠA(◎) 構造力学ⅠB(◎) 測量学Ⅰ(◎) 測量学Ⅱ(◎) 測量実習(◎)		構造力学ⅡA(◎) 構造力学ⅡB(◎) 建築一般構造(◎) 建設材料学(◎) 水理学ⅠA(◎) 水理学ⅠB(◎) 地盤工学ⅠA(◎) 地盤工学ⅠB(◎) 都市計画(◎)		コンクリート構造学Ⅰ(◎) コンクリート構造学Ⅱ(◎) 地盤工学ⅡA(◎)		構造解析(◎) 応用構造力学(◎) 鋼構造学Ⅰ(◎) 鋼構造学Ⅱ(◎) 防災工学(◎) 工学演習(◎) 応用測量学Ⅱ(○) 卒業研究・卒業設計(○)	
	(都市環境コース)							水理学ⅡA(◎) 水理学ⅡB(◎) 地盤工学ⅡB(◎) 環境衛生学Ⅰ(◎) 環境衛生学Ⅱ(◎) 土木施工Ⅰ(◎)		河川工学(◎) 河川環境(◎) 海岸工学(◎) 土木施工Ⅱ(◎)	
	(建築コース)							建築環境Ⅰ(◎) 建築環境Ⅱ(◎) 建築施工(◎) 建築計画Ⅰ(◎) 建築計画Ⅱ(◎) 建築構造Ⅰ(◎)		建築構造Ⅱ(◎) 建築設備Ⅰ(◎) 建築設備Ⅱ(◎)	
(C) 修得した知識を統合し、製品やシステムを考案できる。	電情系		アート＆デザインⅠ(◎) アート＆デザインⅡ(◎)					工学基礎研究(◎) 創造工学(◎)	システム工学Ⅰ(◎) システム工学Ⅱ(◎) インターンシップ(◎) 校外学修(◎)	卒業研究(◎)	インターンシップ(◎) 校外学修(◎)
	電制系							創造設計プロジェクト(◎)		CAD演習ⅡA(○) CAD演習ⅡB(◎) CAD演習ⅡC(◎) 卒業研究(◎)	
	機械系			創造演習(◎)				設計製図Ⅲ(◎) 創造設計製作(◎)		設計製図Ⅳ(◎) 設計工学(◎) 卒業研究(◎)	
	建設系	建設製図Ⅰ(◎)		建設製図Ⅱ(◎)		建設製図制作(◎)		建設設計製図Ⅰ(◎)		建設設計製図Ⅱ(◎) 卒業研究・卒業設計(◎)	

（出典　学生課資料）

資料５－１－①－４の続き

学習・教育目標	学科系	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次	
		専門	一般、専門共通	専門	一般、専門共通	専門	一般、専門共通	専門	一般、専門共通	専門	一般、専門共通
(D) 実験・実習・演習により現象の理解と深め、実践力を身につける。	電情系		物理ⅠA(◎) 物理ⅠB(◎) 化学ⅠA(◎) 化学ⅠB(◎)	電気情報工学実験ⅠA(◎) 電気情報工学実験ⅠB(◎)	化学ⅡA(◎) 化学ⅡB(◎)	C言語実習(◎) 数値解析実習(◎) 電気情報工学実験ⅡA(◎) 電気情報工学実験ⅡB(◎)		電気情報工学実験ⅢA(◎) 電気情報工学実験ⅢB(◎)		電気情報工学実験ⅣA(◎) 電気情報工学実験ⅣB(◎) 卒業研究(○)	
	電制系			電子制御実習Ⅰ(◎) 電子制御実習Ⅱ(◎)		電子制御実験Ⅰ(◎) 電子制御実験Ⅱ(◎)		電子計測実験(◎)		制御工学実験(◎) 総合演習(○)	
	機械系	入門機械実習(◎)		工作実習Ⅰ(◎)		情報処理Ⅱ(◎) 工作実習Ⅱ(◎) 設計製図ⅡA(◎) 設計製図ⅡB(◎)		機械工学実験(◎)		機械工学実験Ⅲ(◎) 卒業研究(○)	
	建設系	建設製図Ⅰ(◎)		測量実習(◎) 建設製図Ⅱ(◎)		建設システム工学実験ⅠA(◎) 建設システム工学実験ⅠB(◎) 建設製図制作(◎)				卒業研究・卒業設計(○)	
	(都市環境コース)										
	(建築コース)							建設システム工学実験ⅡA(◎) 建設システム工学実験ⅡB(◎) 建築デザインⅠ(◎)		建築デザインⅡ(◎)	
(E) 技術者に必要な人間性、国際性、倫理性及び実践的な基礎的な能力を身につける。	電情系		総合英語ⅠA(◎) 総合英語ⅠB(◎) 英会話ⅠA(◎) 英会話ⅠB(◎) 現代文Ⅰ(◎) 古文Ⅰ(◎) 古文Ⅱ(◎) アート&デザインⅠ(◎) アート&デザインⅡ(◎) 日本史(◎) 地理(◎) 保健体育Ⅰ(◎)	インターフェースⅠ(◎) インターフェースⅡ(◎)	総合英語ⅢA(◎) 総合英語ⅢB(◎) 総合英語ⅡA(◎) 総合英語ⅡB(◎) 総合国語ⅡA(◎) 総合国語ⅡB(◎) 人間論Ⅰ(◎) 人間論Ⅱ(◎) 日本語A(留学生)(◎) 日本語B(留学生)(◎) 保健体育Ⅲ(◎)		工業外国語(◎) 国語表式Ⅰ(◎) ドイツ語Ⅰ(◎) 中国語Ⅰ(◎) 心と癒Ⅰ(◎) 工業数学Ⅰ(◎) 国語国文Ⅱ(◎) ドイツ語Ⅱ(◎) 中国語Ⅱ(◎) 心と癒Ⅱ(◎) 金融工学Ⅱ(◎) 総合英語ⅣA(◎) 総合英語ⅣB(◎) 実践英会話Ⅱ(◎) 経済学(◎) 哲学(◎) 法学Ⅱ(◎) 日本語C(◎) 日本語D(◎)	工業英語(◎)	ドイツ文化論Ⅰ(◎) 韓国語Ⅰ(◎) 現代社会と宗教Ⅰ(◎) 現代日本の政治Ⅰ(◎) 現代日本の経済と法Ⅰ(◎) ドイツ文化論Ⅱ(◎) 韓国語Ⅱ(◎) 技術者論Ⅰ(◎) 技術者論Ⅱ(◎) 現代社会と宗教Ⅱ(◎) 現代日本の政治Ⅱ(◎) 現代日本の経済と法Ⅱ(◎) 総合英語ⅤA(◎) 総合英語ⅤB(◎) 実践英会話Ⅲ(◎) 日本語E(◎) 日本語F(◎)
	機械系										
	建設系										
(F) 技術が自然や社会にうける影響を理解し、技術者として倫理観を身につける。	電情系							環境法規(◎)			
	電制系										
	機械系										
	建設系	建設システム工学概論Ⅰ(◎) 建設システム工学概論Ⅱ(◎)									
	(都市環境コース)										
	(建築コース)							環境工学ⅠA(◎) 環境工学ⅠB(◎)		環境工学ⅡA(◎) 環境工学ⅡB(◎) 建築法規(◎)	
(G) 課題の探索・報告などを適切にまとめ、発表できる。	電情系			電気情報工学実験ⅠA(◎) 電気情報工学実験ⅠB(◎)				電気情報工学実験ⅢA(○) 電気情報工学実験ⅢB(○) 創造工学(○)		電気情報工学実験Ⅳ(○) 電気情報工学実験ⅣB(○) 卒業研究(○)	
	電制系							工学基礎研究(○) 創造設計プロ(○) 電子計測実験(○) 機械工学実験Ⅲ(○)		制御工学実験(○) 卒業研究(○)	
	機械系									機械工学実験Ⅲ(○) 卒業研究(○)	
	建設系					建設製図制作(◎)					
	(都市環境コース)							建設システム工学実験ⅡA(○) 建設システム工学実験ⅡB(○)		卒業研究・卒業設計(○)	
	(建築コース)										
(H) コンピュータを技術の実践に活用できる。	電情系			コンピュータグラフィックス(◎)		数値解析実習(◎)		ディジタル信号処理(◎) 論理回路(○)	ネットワーク論(◎) ネットワーク論Ⅲ(◎) 数値解析Ⅰ(◎) 数値計算法Ⅰ(◎) 数値計算法Ⅱ(◎)	情報システム論(◎) オペレーティングシステムⅠ◎ オペレーティングシステムⅡ◎ CAD演習ⅡA(◎) CAD演習ⅡB(○)	画像処理Ⅰ(◎) 画像処理Ⅱ(◎) 情報学Ⅰ(◎) 情報学Ⅱ(◎) シミュレーション工学Ⅰ(◎) シミュレーション工学Ⅱ(◎)
	電制系	情報処理Ⅰ(◎)				情報処理Ⅱ(◎) CAD演習Ⅰ(◎) CAD演習ⅡA(◎) CAD演習ⅡB(◎)					
	機械系	情報処理ⅠA(◎)						設計製図Ⅲ(○)		設計製図Ⅳ(○)	建設振動学(○)
	建設系	情報処理ⅠB(◎)						建設設計製図Ⅰ(○) 情報処理Ⅱ(◎)		計算機応用工学(○) 建設設計製図Ⅱ(○) 数値解析Ⅱ(◎) 構造解析(○) 応用測量学Ⅱ(◎)	
	(都市環境コース)										
	(建築コース)							建築デザインⅠ(○)		建築デザインⅡ(○)	
(I) 責任を自覚し、互いに協力し合い、チームの目的達成に貢献できる。	電情系	物理ⅠA(◎) 物理ⅠB(◎) 工学基礎(◎)		物理ⅡA(◎) 物理ⅡB(◎)		電気情報工学実験ⅡA(◎) 電気情報工学実験ⅡB(◎)		創造工学(◎) 電気情報工学実験ⅢA(○) 電気情報工学実験ⅢB(○)	化学ⅢA(○) 化学ⅢB(○)	建築デザインⅢ(◎) 電気情報工学実験ⅣA(○) 電気情報工学実験ⅣB(○)	現代日本の政治Ⅰ(○) 現代日本の政治Ⅱ(○) 現代日本の経済と法Ⅰ(○) 現代日本の経済と法Ⅱ(○)
	電制系			電子制御実験Ⅱ(◎)		電子計測実験Ⅱ(○) 創造設計プロジェクト(◎)				制御工学実験(○)	
	機械系	入門機械実習(◎)		工作実習Ⅱ(◎)		機械工学実験Ⅰ(◎)				機械工学実験Ⅱ(◎)	
	建設系	測量実習(◎)		建設システム工学実験ⅠA(◎) 建設システム工学実験ⅠB(◎) 建設製図制作(◎)		創造設計製作(◎) 建設設計製図Ⅰ(◎)					
	(都市環境コース)							建設システム工学実験ⅢA(◎) 建設システム工学実験ⅢB(◎)			
	(建築コース)										

（出典　学生課資料）

資料５－１－①－５

一般科目と専門科目の開講単位数

	1年	2年	3年	4年	5年	合計
一般科目開講単位数	28	25	16	13	7	89
専門科目開講単位数	6	9	18	25～26	33～34	90～93
合　計	34	34	34	38～39	40～41	179～182

（出典　学生課資料）

資料５－１－①－６

科　目　名	学年	期別・授業時間・単位数	教員名　片山　英昭(代表) 研究室 [redacted] 内線電話 [redacted] e-mail: [redacted]
工学基礎 Basics of Engineering	1	通年・２単位時間/週・２単位	

【概要】

本科目は，工学技術者として必要な基礎的知識と素養を身に付けることを目的とする。工場見学・講演・出前講義によって，ものつくりの現状や先端技術を見聞きし，工学の意義を理解する。

【到達目標】

1．専門４学科の概略について学ぶ。
2．工学分野の基礎的知識を習得する。
3．工場見学を通じ，ものつくりの仕組みを学ぶ。
4．舞鶴高専出身者，企業技術者などの講演会を通じ，工学のおもしろさや先端技術の動向を知る。

【学習・教育到達目標】

（B）専門分野の基礎知識を修得し，技術の実践に応用できる。
（I）責任を自覚し，互いに協力し合い，チームの目的達成に貢献できる。

【教科書，参考書等】

教科書：必要に応じて資料を配布する。

【授業計画】

期別	週	内　容	到達目標	教科書参照ページ
前期	第１週	オリエンテーション・シラバスの説明　〔視聴覚教室〕		
	第２週	各学科テーマ①～④（各６週）を各クラスでローテーションし，実習を行う。		
	第３週	機械工学科テーマ：①　〔各クラスのホームルーム実施教室〕		
	第４週	１週目　機械工学概論　（前期：村上，後期：鈴木）	1	
	第５週	２～５週目　製図基礎　（前期：村上，後期：鈴木）	2	
	第６週	６週目　作品コンテスト　（前期：村上，後期：鈴木）	2	
	第７週			
	第８週	講演会：⑤　〔視聴覚教室〕	4	
	第９週	電気情報工学科テーマ：②　〔情報科学センター〕		
	第10週	１週目　電気情報工学概論　（片山）	1	
	第11週	２週目　フローチャートの基礎　（井上）	2	
	第12週	３週目　ロボチャートによるフローチャートの練習　（井上）	2	
	第13週	４週目　ロボチャートによる関数の練習　（井上）	2	
	第14週	５～６週目　iPad を用いた回路練習　（片山）	4	
	第15週	講演会：⑥　〔視聴覚教室〕		
		★前期期末試験		
後期	第１週	電子制御工学科テーマ：③　〔CAD/CAM 教室〕		
	第２週	１週目　電子制御工学概論　（川田）	1	
	第３週	２週目　レゴ・マインドストームの使用方法　（川田）	2	
	第４週	３～５週目　レゴ・トレースカー製作　（川田）	2	
	第５週	６週目　トレースカー競技，後片付け　（川田）	2	
	第６週			
	第７週	工場見学事前研修　〔M：1-1 教室，E：1-2 教室，S：1-3 教室，C：1-4 教室〕	3	
	第８週	工場見学：⑧	3	
	第９週	建設システム工学科テーマ：④　〔各クラスのホームルーム実施教室〕		
	第10週	１週目　建設システム工学概論　（玉田，徳永）	1	
	第11週	２～３週目　防災学習～地震と津波～　（玉田）	2	
	第12週	４週目　建築のプランニング　（徳永）	2	
	第13週	５週目　エスキス模型の作成　（徳永）	2	
	第14週	６週目　図面の作成　（徳永）	2	
	第15週	講演会：⑦　〔視聴覚教室〕	4	
		★後期期末試験		

【成績の評価方法・評価基準】

特別な事情がない限り，全テーマ①～⑧が合格していなければ，60 点以上の評価を与えない。全テーマが合格している場合，各学科テーマ①～④ごとの評価点（90%），講演・工場見学⑤～⑧の感想文（10%）により総合的に評価する。到達目標の各項目の到達度を評価基準とする。

【備考】

本科目が不可となった場合，進級できない。各学科テーマ①～④は受講内容によって教室が変わる。講演会⑤～⑦は視聴覚教室で行う。工場見学⑧は借り上げバスを利用し，近隣の工場等を学科ごとに見学する。詳細はオリエンテーションで説明する。

【科目の位置付け】

先に履修する関連科目

後で履修する関連科目

各学科の専門科目

（出典　平成２５年度シラバス）

資料５－１－①－７

専門学科の実験実習科目

機械工学科

	実験実習科目単位数	実験実習科目名
1年	4	工学基礎，入門機械実習，テクニカルドローイング
2年	4	工作実習Ⅰ，設計製図ⅠA・ⅠB
3年	6	工作実習Ⅱ，設計製図ⅡA・ⅡB
4年	9	設計製図Ⅲ，機械工学実験Ⅰ，創造設計製作，インターンシップ
5年	18	設計製図Ⅲ，機械工学実験Ⅰ，インターンシップ，卒業研究
合計	41	

電気情報工学科

	実験実習科目単位数	実験実習科目名
1年	2	工学基礎
2年	4	電気情報工学実験ⅠA・ⅠB
3年	4	電気情報工学実験ⅡA・ⅡB
4年	8	電気情報工学実験ⅢA・ⅢB，創造工学，工学基礎研究，インターンシップ
5年	18	電気情報工学実験ⅣA・ⅣB，インターンシップ，卒業研究
合計	36	

電子制御工学科

	実験実習科目単位数	実験実習科目名
1年	2	工学基礎
2年	4	電子制御実習Ⅰ・Ⅱ
3年	6	CAD演習ⅠA・ⅠB，電子制御実験Ⅰ・Ⅱ
4年	6	創造設計プロジェクト，電子計測実験，インターンシップ
5年	19	CAD演習ⅡA・ⅡB・ⅡC，制御工学実験，インターンシップ，卒業研究
合計	37	

建設システム工学科

	実験実習科目単位数	実験実習科目名
1年	3	工学基礎，建設製図Ⅰ
2年	5	測量実習，建設製図Ⅱ
3年	6	建設ｼｽﾃﾑ工学実験ⅠA・ⅠB，建設製図制作
4年	6	建設設計製図Ⅰ（コース共通），建設システム工学実験ⅡA・B（都市環境コース），建築デザインⅠ（建築コース），インターンシップ
都・環5年	16	建設設計製図Ⅱ，インターンシップ，卒業研究・卒業研究・卒業制作
建築5年	18	建設設計製図Ⅱ，建築デザインⅡ，インターンシップ，卒業研究・卒業研究・卒業制作
都・環合計	36	
建築合計	38	

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校は，教育理念と教育目的に基づき，教育方針と学習・教育到達目標を定め，これに沿って授業科目を学年ごとに配置している。この教育課程の特長は，低学年に一般科目を多く配置し，学年進行とともに専門科目の割合が高まる楔形の体系的な科目配置である。そこでは，教育方針に言う「実験・実習，演習，ものつくり」と「豊かな教養と国際性を育む」ことを重視している。

以上のことから，本校の教育課程においては，授業科目が学年ごとに適切に配置され，教育課程が体系的に編成されており，授業の内容も，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものとなっている。

観点５－１－②：　教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）

学生の多様なニーズは，「授業アンケート」を通して把握している。また，年に２回各クラスの代表学生と校長との「フリートーキング」を実施し，学生の多様なニーズを聴取している（資料５－１－②－１及び２）。学術の発展の動向に配慮して各学科とも毎年１回特別講演会を開催している。また，１年生を対象とした「工学基礎」でも，工場見学・講演・出前講義を行っている。これらによって，ものつくりの現状や社会からの要請を教育内容に組み込んでいる（資料５－１－②－３及び資料５－１－①－６，資料５－１－②－４）。また，第４学年以上の授業科目「専門共通選択科目」では，学科相互に履修を認め学生の多様なニーズや現代の技術・科学の融合・複合化に対応している（資料５－１－②－５）。

社会からの要請のひとつである国際化への対応としては，英語に関しては，３年生以上に習熟度クラスを導入して学生のニーズに配慮しつつ，全学年の英語科目への外国人講師配置，「英語デー」の実施（１・２年生はA. C. E.，３年生以上はＴＯＥＩＣを全員受験），ＴＯＥＩＣや実用英語技能検定（英検）などの語学検定による単位認定，e-learningによるＴＯＥＩＣ演習，ＣＡＬＬ教室の整備などを実施している。加えて，４・５年生では，中国語や韓国語，ドイツ語などを開設し，幅広く国際性を養っている（資料５－１－②－６～８）。

資料５－１－②－１

平成２３年度授業アンケートの総括（総合結果とその評価）

FD・ICT 部会長　三輪　浩

平成２２年度の外部評価を経て，教育プログラム（PIE）委員会，評価委員会等から授業アンケートの全科目実施の検討要請があり，昨年度からの当部会の継続課題となっていた。これまでの授業アンケート（一教員２科目）は，結果とその分析を通した教授法の改善・向上が当初からの趣旨として重要視されてきた。しかし，近年のアンケートは学生の満足度を測ることが重要になっており，このためには全科目の実施が必要との認識である。そこで，当部会で議論の結果，（１）卒業研究と特別研究を除く全科目を対象とする，（２）質問を４項目に精選，（３）回答者ごとの自由記述欄の設置，（４）Moodle によるウェブ入力，の４項目を柱とする授業アンケートシステムを構築した。アンケートの実施は，前期分は平成２３年９月２６日～１０月１７日の期間，後期分は平成２４年１月３０日～２月１７日の期間（一部先行実施あり）に行った。

平成２３年度に実施した授業アンケートの結果を下表に示す。ただし，集計結果は講義系科目と実験/実習系科目ごとの全科目の平均値で示されている。この結果について，全科目実施のコンセプトの観点から考察を行う。

まず，講義系科目について見ると，60%以上の学生が，授業の内容や進め方が適切で，良く準備された授業であると判断しており，学生自身も授業に積極的に参加したと評価している。また，

アンケート実施時期
平成23年度

アンケート集計結果(全科目)

・各質問に対する各回答の数と割合を示しています。
・講義系科目、実験/実習系科目のそれぞれ全科目についての結果を示しています。

講義系科目(全408科目)

質　　問	回　　答		
この授業の内容や進め方は適切でしたか？	適切であった	どちらとも言えない	不適切であった
	10667（62.4%）	4936（28.9%）	1496（8.7%）
よく準備された授業でしたか？	準備されていた	どちらとも言えない	準備されていなかった
	10936（63.7%）	5018（29.2%）	1212（7.1%）
先生の説明はわかりやすかったですか？	わかりやすかった	どちらとも言えない	わかりにくかった
	9186（53.8%）	5498（32.2%）	2403（14.1%）
あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか？	取り組んだ	どちらとも言えない	取り組まなかった
	10273（60.1%）	5446（31.9%）	1361（8.0%）

実験/実習系科目(全75科目)

質　　問	回　　答		
この授業の内容や進め方は適切でしたか？	適切であった	どちらとも言えない	不適切であった
	2411（76.4%）	659（20.9%）	85（2.7%）
よく準備された授業でしたか？	準備されていた	どちらとも言えない	準備されていなかった
	2455（75.1%）	696（21.3%）	120（3.7%）
先生の説明はわかりやすかったですか？	わかりやすかった	どちらとも言えない	わかりにくかった
	2143（67.9%）	830（26.3%）	181（5.7%）
あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか？	取り組んだ	どちらとも言えない	取り組まなかった
	2562（81.2%）	525（16.6%）	68（2.2%）

（出典　評価委員会（ＦＤ・ＩＣＴ部会）資料）

資料５－１－②－１の続き

業であるとの回答（67.4%）と説明がわかりやすいとの回答（58.0%）の差は昨年度と同程度であり，有意な差となっている。昨年度よりも高評価を得たとはいえ，より一層学生の理解度を測りながら授業進める必要がある。つぎに，実験/実習系科目について見ると，講義系科目に比べて総じて高評価となっている。回答の分布は昨年度とほぼ同じで，授業改善の効果は陽には現れていない。改善の効果が現れるのには講義系科目に比べて長時間を要するのかもしれない。状況を見守りたい。

昨年度の自由記述に関する反省から，今年度は各科目にも自由記述欄を設定し，より詳細な意見の収集を図ることとした。これにより，教員へのリプライもより適切に実施でき，改善策への反映も良好に行われたと推察される。ただし，自由記述欄の不用意な拡張は評価の精度にも影響するため，十分注意を払わなければならない。授業アンケートのコンセプトを明確にし，必要な情報を効果的に収集する方策を常に考える必要がある。なお，筆者は担当する最後の授業で無記名の自由記述を学生に依頼した。多くの忌憚のない意見を受けることができ，できるものから授業改善に反映させたいと考えている。

最後に，それにしても，開講科目数の増加に驚く。昨年度は講義系科目数が 408，実験/実習系科目数が 75 であった。これが，今年度は前者が 479，後者が 93 に増加しており，それぞれ 17%と 24%の増加である。カリキュラム改訂がその原因であるが，学生の負担や教員の負担，ひいては事務手続きの煩雑さなど，学年制や単位制のメリット・デメリットも含め教育効果をトータルで考える必要性も感じる。

以上

（出典　評価委員会（ＦＤ・ＩＣＴ部会）資料）

資料５－１－②－２

校長と学生（本科１・２年）とのフリートーキング議事概要

日　時　　平成 23 年 6 月 20 日(月)　17:00～18:00
場　所　　校長室
出席者　　太田校長
　　1・2 年各クラス評議委員、学生会
　　記録　　大谷教務係員

議題　【】は学生からの質問/要望事項を示す。　→印は校長からの回答内容を示す。

〈１年１組〉
【学内の雨漏り対策の改善】
→学校内の雨漏りについては工事を行う。
【校舎から体育館までの屋根の設置】
→以前より要望は聞いていて取り組んではいるが、建物の配置の都合上難しい。
　体育館の工事は行う。

〈１年２組〉
【50 分授業を 90 分授業に変えて欲しい】
→90 分授業では国からの認証を得られないので、ほとんどの高専が 100 分授業である。
　集中力持続の問題や語学授業は毎日したほうがよいので 50 分授業にしている。
【テストを一日二教科にして欲しい】
→教務主事には伝えておく。しかし、テスト期間が長くなると、授業日数は変えられないので休みの日数が減る。

〈１年３組〉
【休み時間を延長して欲しい】
→休み時間を長くすると帰校時間が遅くなる。舞鶴高専は遠方から来る学生もいるので、開始時間を早くすることもできない。

〈１年４組〉
【国内国外で活躍している人を呼んで特別講義をしてほしい】
→昨年度、舞鶴高専の卒業生で起業した人を呼んで講義を行った。このような機会を今後増やしていく予定である。
【トラックの白線を新しくしてほしい】
→体育の教員に聞いておく。

【ソフトテニス部のところに冷水器が欲しい】
→ソフトテニス部だけというわけにはいかない。食中毒の問題等があるため、現在ではほとんどの学校で冷水器は撤去されている。

1

（出典　学生課資料）

資料５－１－②－２の続き

〈２年１組〉
【数学演習を廃止して基礎数学の内容を深く学習】
→基礎数学で学習した内容を数学演習で演習としてやっているため廃止することはないと思う。学習内容が簡単でもっと深く勉強したいということであれば、数学の教員に伝える。

〈２年２組〉
【校舎の中に自動販売機をつくってほしい】
→学生主事は、壊されたり、健康的な問題であまり置きたくはないと考えている。
また、普通校内には教育上自動販売機は設置しない。置くとすれば食堂か売店である。

〈２年３組〉
【入院中の欠席を普通の欠席扱いと同じにしてほしくない。できれば公欠にしてほしい】
→感染症による出席停止以外は認められない。また、入院を公欠とする学校はどこにもないと思う。成績に関わるほどの長期欠席の場合は休学という選択があるが、それほど長期にわたる欠席は滅多にない。
【新しい寮の建設を早くしてほしい】
→現在申請中である。100 人くらい入る寮の建設を考えている。

〈２年４組〉
【台風による校内浸水以降、カビが生えている場所があって不衛生なので取り除いて欲しい。】
→直そうと思っている→現在、修理中です。
【トイレにアルコール消毒液を置いて欲しい（便座クリーナーを設置してほしい)】
→すぐ設置することはできないが、掃除の回数を増やす等別の方法を考えている。
【２年４組だけ数学の先生が他のクラスと違っているので、不利な点が多い。全クラス統一にして欲しい】
→数学の非常勤講師は熱心な方であると思う。何かあるならまだ慣れていないところもあるのでしょう、今後改善されていくと思う。評価に関してはクラスや学年で差がでないようにしているので心配しなくても良い。

〈学生会〉
【電光掲示板を手動でページ送りできるように改良してほしい】
→電子掲示板一つで 100 万以上するので、簡単にはいかない。また、そのようにすると
学生がすぐ壊してしまうと思う。同じ内容を紙でも掲示しているのでそちらで確認して欲しい。電子掲示板は今後増設する予定である。
【テスト期間中、教室を開放して欲しい】
→警備員に相談してみる→関係者に相談します。
【低学年棟前に屋根を作る計画について】
→低学年棟の前に大屋根を作る計画は消防法にひっかかりできなかったが、実習工場から低学年棟までの道に屋根を作る工事はこれから行う。
【TOEIC のテストまでに実践英会話、総合英語の授業で対策をしてほしい】
→英語の教員に相談してみる。

2

（出典　学生課資料）

資料５－１－②－２の続き

校長と学生（本科 3～4 年）とのフリートーキング議事概要

日時　　平成 23 年 6 月 21 日(火) 17:00～18:00
場所　　校長室
出席者　太田校長
3～4 学年クラス代表者（4M、4E は欠席），学生会 3 名，寮生会 2 名
【記録】学生課教務係　久保

学生からの意見			校長の意見
3M	1	融雪剤を学生駐車場に付けてほしい。（駐輪場に入る時、自転車・バイクが通れないので、どうにかしてほしい）	昨年に引き続き、学生委員の先生を中心に、今年もできる限り対応していけるように考えるつもりだ。融雪剤を置いて、撒いてもらうのも良いが、環境に悪いと思う。
3M	2	合宿のできる期間を長くしてほしい。	合宿の期間に制限はしていない（できない期間はない）ので、学生支援係に申請してみたら良いだろう。
3E	1	成績表に科目順位も載せてほしい。	教務委員会で検討してもらうが、それぞれの科目担当者に聞いてもらえたら、すぐに教えてくれると思う。
3E	2	数学も英語のように習熟度別クラスにしてほしい。	（意見に回答する前に、集まった学生の中で「習熟度別クラスに賛成している者」に手を挙げてもらった。結果は、15 名中 8 名であった） このように、意見も様々な通り、習熟度別クラスにも良い面と悪い面がある。習熟度別クラスは、その科目の成績が良い学生は伸びるが、悪い学生の成績は伸びにくい。進学を目指す学生には良いかもしれないが、本校は大学進学のためにつくられた学校ではないので（現在の進路割合も 6 割が就職、4 割が進学である）、全体の学力を伸ばした方が学校の目的にあっているのだと思う。 ただ、習熟度別クラスを望むような意見もあるということを、先生方も参考として教育していくことが良いだろう。
3E	3	関西電力の節電要請に対して、舞鶴高専はどのように対応するのか。	本校は教育機関なので、節電要請がなくても、電気やエネルギーを大切にしていく方針である。みなさんも、節電に向けて、どのようなことができるのか考え、実践していって欲しい。 ただ、このような意見が学生から出るのは、たいへん良いことだと思う。
3S	1	校内放送の音量が小さく聞こえづらいので、もう少し大きくしてほしい。	音量が小さい、聞こえづらい教室があれば、係のものが対応するので教えてほしい。しかし、本校は中学校や高校とは違い、高等教育機関なので、校内放送の音量を大きくした全校放送をするのはなるべく控えていきたいと思っている。

3

（出典　学生課資料）

資料５－１－②－２の続き

3S	2	休憩時間の 5 分間をしっかりとってほしい。	科目担当の先生に直接言って欲しい。 学生からの意見があれば、きっと対応してくれるはずだ。
3C	1	サッカー場と陸上トラックの土の質を良くして欲しい。	多額のお金がかかってしまうため、簡単にはいかないだろう。意見があったことは憶えておく。
3C	2	教室の雨漏りをどうにかしてほしい。	（校長から、5 月 30 日 B 棟雨漏りの経緯が説明された） 原因となった建設棟 4 階ベランダのドレンの工事を検討している。
3C	3	テストの日程を緩めてほしい。 （テスト期間を延ばし、1 日の実施科目を減らして欲しい）	テスト期間の日数を延ばすと、その分、休み（夏休みなどの長期休業）が短くなるが、それでも良いのか。クラスでもう一度話し合ってほしい。 また、福井高専では、1 日 4 教科で、5 教科の日もある。（舞鶴高専の中間試験は 1 日 3 教科が原則。実施時間が長い場合は 4 コマになる） そう考えると、普段から勉強をし、試験に備えておけば、そんなに大変ではないはずだ。
4M	1	低学年棟のイスと机を変えてほしい。	昨年も同様の意見があり、実際に施設係と見に行ったが、確かに窮屈だと感じた。 何とかしてあげたいが、机と椅子を良いものに替えるのに 1 クラス 100 万円以上のお金がかかる。8 クラス全部を替えるには学校の財政的に難しい。まだ教室が使えるのに、そのような多額の税金をつかうのは、時期尚早であると考えている。
4E	1	学生駐車場までの道が暗い。	実際に見に行ってみたが、暗く、危険だと感じたので、検討していきたい。
4E	2	編入対策の授業をして欲しい。	学生自身が、先生のところへ質問しに行けばいいと思う。同じ授業料を払ってもらっている以上、進学希望者と就職希望者に差をつけて授業をするわけにはいかない。
4S	1	暴風警報以外にも休校にすべき。通生によっては通学ができなかったり舞鶴自体田舎で、洪水、土砂崩れなどの危険性がある。	休校にした分、学生の休みが無くなってしまう。先生方も休日出勤をしてもらうことになる。そう考えると、休校の規程を簡単に緩くすることは難しい気がするが、柔軟に考えて行きたい。
4S	2	授業と教科書の内容が全く違い、テストを授業で触れてすらいない教科書の内容から出さないで欲しい。	その科目の担当の先生に言って欲しい。対応してくれるはずだ。
4C	1	4C のエアコンが壊れているので直して欲しい。（4S もエラーがでて止まってしまう）	施設係が調べているところである。工事が必要な場合は、工事をする。

4

（出典　学生課資料）

資料５－１－②－２の続き

4C	2	追試と補講の情報を 1 カ月前から知らせてほしい。	それぞれの先生に言って欲しいが、そういう意見があったことは、教務主事に伝える。
寮生会	1	学寮委員会との意見交換会の開催をお願いしたい。	寮務主事に伝える。
寮生会	2	寮の洗濯場の現状（盗難だけでなくコンセントが抜かれている等のいたずらが頻発している）を知って欲しい。 この件の解決策として、23 時を超えると洗濯場の照明が消えるので、消えないように別電源にするなどの対策をして欲しい。	寮務主事に伝える。 アドバイスをさせてもらうと、自治寮なので、寮生会の中で対策を話し合うことが大切だと思う。例えば、「夜遅くの洗濯はしない」、「洗濯している間は（本を読むなどして）洗濯物のそばから離れない」など、自衛策を練り、自分の物を自分で守ることを考えてほしい。
その他	1	低学年棟前に屋根を作って欲しい。	実習工場から低学年棟までの道に屋根を作る工事は 7 月に着工する。その他、学校が学生にとって良い空間になるように様々なアイデアを考えている。
その他	2	授業時間が前期と後期で差がある。例えば 4M だと前期は 8 コマ埋まっているが、後期になると 4 コマで終わってしまう曜日がある。	前期科目、後期科目と、カリキュラムで決めているので、それを変更することは難しいが、教務主事に伝えておく。
その他	3	トレーニングセンターの機器やマットをきれいにして欲しい	確認しに行ってみてから、検討する。
その他	4	全部の授業を 100 分授業にして欲しい	語学の授業等は「毎日授業をした方が、教育効果がある」という考えで 50 分授業にしているのだろう。ただ、そのような意見があったことは教務主事に伝える。

5

（出典　学生課資料）

資料５－１－②－３

専門学科特別講演会開催状況

年度	学 科	月 日	対 象	講師名	所属等	演 題
H20	機 械	12月22日	4･5年生	[redacted]		スーパー繊維・繊維を超えた繊維
	電気情報	10月14日	4･5年生			日常生活から学ぶ技術
	電子制御	12月11日	3･4･5年生			自転車型ロボット「ムラタセイサク君」の開発と活用
	建設システム	①7月3日 ②11月6日 ③12月18日	①3年生 ②4年生 ③5年生			①パイプラインの建設 ②景観工学の考え方とデザイン ③海外建設プロジェクトの現状
H21	機 械	12月11日	4･5年生			地元企業が目指す技術開発（日東精工の場合）
	電気情報	10月27日	4･5年生			ホームエレクトロニクスにおける音響技術について
	電子制御	12月18日	3･4･5年生			ナノテクノロジーと超精密・微細加工技術について
	建設システム	12月21日	3･4･5年生			これまでの仕事を振り返って
H22	機 械	12月17日	4･5年生			日本の製造業のグローバル展開と企業が求める人材について
	電気情報	11月25日				進化するディスプレイ－過去・現在そして未来－
	電子制御	11月25日	3･4･5年生			JAXAにおける有人飛行機を用いた研究
	建設システム	1月27日	3･4･5年生			地方都市における歴史・文化を活かしたまちづくりの新展開
H23	機 械	1月16日	4･5年生			企業から求められる技術者とは～自分のキャリアを振り返って～
	電気情報	10月20日	4･5年生			関西電力におけるスマートグリッドの取り組み
	電子制御	11月8日	3･4･5年生			トライボロジー入門
	建設システム	12月5日	3･4･5年生			赤煉瓦建造物の保存再生・修論
H24	機 械	1月16日	4･5年生			日東精工概要、（卒業生の）現在の仕事内容，社会人としての心構え
	電気情報	10月16日	4･5年生			拡がるプラズマエネルギーの応用
	電子制御	11月22日	3･4･5年生			薄膜トライボロジーの日仏共同研究口
	建設システム	不実施				

（出典　総務課資料）

資料５－１－②－４

「工学基礎」:講演会と工場等施設見学一覧

○講演会

実施年度	実施日	講 師	所 属 等	演 題
H20	2008/4/18	[redacted]		舞鶴高専出前講義 "竹の建築の魅力、その未来"
H20	2008/6/6			二十一世紀は資源争奪の時代
H20	2008/6/20			新幹線をささえる技術
H20	2008/7/25			流体力学シミュレーション　流れを知り流れを操る
H20	2008/10月			トンネルと地下の利用
H20	2008/12/12			若狭湾の魚たちの素顔
H21	2009/5/29			工学とコンピュータ ―道具としてのコンピュータの仕組み―
H21	2009/7/24			低炭素化社会(水素社会)を目指すパイプライン・エンジニアとしての活動紹介
H21	2009/9/25			あなたも重力の達人
H21	2010/2/12			地球環境問題とは
H21	2010/2/5			エネルギー社会を支える地下空間
H22	2010/6/18			高専における教育の特徴
H22	2010/6/18			地球の異変と技術者の役割
H22	2010/12/10			自転車型ロボット【ムラタセイサク君(R)】の開発と活用
H23	2011/7/1			「種は船」の物語 ～イメージの大切さについて～
H24	2012/12/21			自分の道を切り開く！

○工場等施設見学

実施年度	実施日	見学クラス・学科	見 学 先	備 考
H20	2008/6/13	混合学級別	日東精工	6/13, 9/19, 11/7, 11/21に4クラス順番に訪問
	2008/6/13	混合学級別	関電 高浜原子力発電所	6/13, 9/19, 11/7, 11/21に4クラス順番に訪問
	2008/6/13	混合学級別	京都府道路公社宮津第12トンネル	9/19にも別クラスが訪問
	2008/6/13	混合学級別	エナミ精機	11/21に別クラスが訪問
	2008/9/19	混合学級別	ユニバーサル造船	11/7に別クラスが訪問
H21	2009/11/20	M	海上自衛隊　舞鶴地方総監部	
	2009/11/20	E	GSユアサ長田野工場	
	2009/11/20	S	日東精工株式会社	
	2009/11/20	C	舞鶴国際埠頭建設工事および周辺道路工事(和田地区)	
	2009/6/12	M	ユニバーサル造船㈱舞鶴工場	
	2009/6/12	E	ヒエン電工㈱福知山工場	
	2009/6/12	S	関西電力㈱大飯発電所	
	2009/6/12	C	西日本高速道路、工事現場、(舞鶴若狭道、小浜西-小浜東間)	
H22	2010/10/8	M	海上自衛隊　舞鶴地方総監部	
	2010/10/8	E	株式会社ジーエス・ユアサ 長田野事業所	
	2010/10/8	S	日本製紙クレシア株式会社　京都工場	
	2010/10/8	C	赤れんが博物館, 舞鶴市赤れんが倉庫群	
H23	2011/10/7	M	ユニバーサル造船　舞鶴事業所	
	2011/10/7	E	日東精工株式会社	
	2011/10/7	S	株式会社GSユアサ　長田野事業所工場内	
	2011/10/7	C	舞鶴市　赤れんが倉庫	
H24	2012/10/5	M	ユニバーサル造船株式会社　舞鶴事業所	
	2012/10/5	E	ヒエン電工株式会社　長田野工場	
	2012/10/5	S	日東精工株式会社　産機事業部/城山工場	
	2012/10/5	C	赤れんが倉庫および赤れんが博物館	

（出典　学生課資料）

資料５－１－②－５

平成25年度シラバス(学科ごとの科目一覧から探す)

専門共通選択科目

授業科目	1年		2年		3年		4年		5年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
工学基礎	2									
情報リテラシー	1									
システム工学I ネットワーク論I 数値計算法I 環境工学IA							1			
システム工学II ネットワーク論II 数値計算法II 環境工学IB								1		
計測概論I 電気機器I 水力学II 建築論I							1			
計測概論II 電気機器II ロボット工学I 数値解析I								1		
マリンエンジニアリングI 電磁気計測I 画像処理I 計画学A									1	
マリンエンジニアリングII 電磁気計測II 画像処理II 計画学B										1
電子物理I シミュレーション工学I 情報学I 耐震工学A									1	
電子物理II シミュレーション工学II 情報学II 耐震工学B										1

（出典　舞鶴工業高等専門学校ウェブページ）

資料５－１－②－６

外国語授業開講状況

シラバス担当者 （ ）は非常勤	科目名	単位数	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	5年 前期	5年 後期
松井/荒川	総合英語ＩＡ	2	2									
松井/荒川	総合英語ＩＢ	2		2								
ケイ	英会話ＩＡ	1	1									
ケイ	英会話ＩＢ	1		1								
吉永・宮崎操	総合英語ⅡＡ	2			2							
吉永・宮崎操	総合英語ⅡＢ	2				2						
ケイ	英会話ⅡＡ	1			1							
ケイ	英会話ⅡＢ	1				1						
吉永	総合英語ⅢA(Advanced日本人)	2					2					
ケイ	総合英語ⅢA(Advanced外国人)	2					2					
宮崎操	総合英語ⅢA(Inter1.2日本人)	2					2					
松井・荒川	総合英語ⅢA(Inter3.4日本人)	2					2					
ケイ	総合英語ⅢA(Inter外国人)	2					2					
荒川・吉永	総合英語ⅢA(Basic日本人)	2					2					
ケイ	総合英語ⅢA(Basic外国人)	2					2					
吉永	総合英語ⅢB(Advanced日本人)	2						2				
ケイ	総合英語ⅢB(Advanced外国人)	2						2				
宮崎操	総合英語ⅢB(Inter1.2日本人)	2						2				
松井・荒川	総合英語ⅢB(Inter3.4日本人)	2						2				
ケイ	総合英語ⅢB(Inter外国人)	2						2				
荒川・吉永	総合英語ⅢB(Basic日本人)	2						2				
ケイ	総合英語ⅢB(Basic外国人)	2						2				
ケイ	総合英語ⅣA	1							1			
荒川/松井/宮崎/吉永/ケイ	総合英語ⅣB	1								1		
ケイ	実践英会話Ⅰ	1							1			
（石澤）	ドイツ語Ⅰ	1										
（藤井）	中国語Ⅰ	1							1			
（石澤）	ドイツ語Ⅱ	1										
（藤井）	中国語Ⅱ	1										
荒川/松井/吉永/Kay	総合英語ＶA	1									1	
ケイ	総合英語ＶB	1										1
ケイ	実践英会話Ⅱ	1										1
（石澤）	ドイツ文化論Ⅰ	1									1	
（稲葉）	韓国語Ⅰ	1										
（石澤）	ドイツ文化論Ⅱ	1										1
（稲葉）	韓国語Ⅱ	1										

（出典　学生課資料）

資料５－１－②－７

人文科学部門

人文科学部門長　松井　信義

１．授業公開

本年度は，垂谷茂弘教員が 12 月 20 日（木）５・６時限に「人間論Ⅱ」（3M）の授業時において実施した。学内評価者は人文科学部門の児玉圭司教員（主査），機械工学科の生水雅之教員が務め，学外評価者は[redacted]氏と[redacted]氏に依頼した。

２．英語デー

10 月 16 日（火），教務委員会と英語科が連携し，クラス担任等の協力を仰ぎ，学校行事として TOEIC および ACE の団体受験を実施した。日頃の学習の成果および英語のリーディング・リスニング能力を評価する目的で，本科１・２年生は ACE（Assessment of Communicative English）を，本科３年生から専攻科２年生までは TOEIC（Test of English for International Communication）を受験した。

３．英語プレゼンテーションコンテスト

11 月 10 日（土），11 日（日），明石高専会議室にて第６回近畿地区英語プレゼンテーションコンテストが開催され，本校からはスピーチ部門に電気情報工学科[redacted]年[redacted]（発表題目「About bill to amendment the Copyright law」），機械学科[redacted]年[redacted]（発表題目「Education in Japan」），建設システム工学科[redacted]年[redacted]（発表題目「The Power of Performance」），プレゼンテーション部門に電子制御工学科[redacted]年[redacted]，[redacted]，電気情報工学科[redacted]年[redacted]（発表題目「Bamboo to Save the World」）が出場し，[redacted]君がスピーチ部門の３位に入賞した。本年度の大会は明石高専が主管校となり，吉永教員が近畿地区実行委員を務め，出場者の指導は吉永教員と Kay 教員が担当した。

４．英語暗唱大会

10 月 15 日（月）（１年生）・22 日（月）（２年生）の特活時（７限目）に，松井信義教員が中心となって企画・立案し，クラス担任の協力のもと視聴覚教室にて英語暗唱大会を実施した。題材（250 語程度）は教科書の既習内容などから選び，[redacted]年生の部は[redacted]が，[redacted]年生の部は[redacted]が優勝した。

５．平成 24 年度の英語 e-learning について

平成 22 年度末に ALC 社の TOEIC 演習 2000 コースが導入された。平成 23 年度に本格的に普及活動が始まった。授業で宮崎教員が担当している 2-1, 2-2,3 年 Int.1 と Int.2,4 年 Basic, 5 年 Advanced の学生は授業中に e-learning の使用法の指導を受けた。特に講習を受けていなくとも全教職員が誰でもアクセスして使用できる。アクセス先は，http://alc.icsc.maizuru-ct.ac.jp/anet2/　このサイトのサブコース一覧から入る。自分の単語帳も作れる。リスニング問題はイアフォンをつければできる。

なお，長年の懸案であった CALL システムが宮崎操教員を中心とした関係者の尽力により文部科学省イノベーション創出推進経費の採択を受け，24 年度中に旧 LL 教室に導入されることとなった。平成 25 年度から稼働の予定である。

以下，省略

（出典　舞鶴高専年報・第 10 号・2013 年４月）

資料５－１－②－８

舞鶴工業高等専門学校知識・技能審査に係る単位認定に関する規程（準学士課程）

平成15年４月１日　施行
平成21年４月１日　最終改正

（趣旨）

第１条　この規程は，舞鶴工業高等専門学校学則第１４条の５第１項の規定に基づき，舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）における知識及び技能に関する審査（以下「知識・技能審査」という。）における成果に係る単位認定に関し，必要な事項を定める。

（対象）

第２条　この規程により単位認定の対象となる知識・技能審査は，別表のとおりとする。

（単位認定申請）

第３条　当該年度に単位認定を受けようとする学生は，「知識・技能審査の単位認定申請書」（別紙様式）に証明する書類を添え，第５学年にあっては１月末日まで，第４学年にあっては２月末日までに，学級担任を経て校長に申請しなければならない。

２　第３学年までに知識・技能審査を受験し，所定の成績を修めた単位認定については，第４学年において申請を行うものとする。

（単位の認定）

第４条　知識・技能審査に係る単位認定は，本校在籍中に所定の成績を修めたものに限り，別表に定める単位数を履修したものとして，教務委員会の議を経て，校長が行う。

２　既に単位認定された知識・技能審査について，新たに同一の知識・技能審査の上位の成績を修めた場合は，新たな所定の成績に応じた認定単位数と既に修得した単位数との差の単位数を履修したものとして，単位を認定する。

３　認定される単位数は，第４学年では３単位以内，第５学年では６単位以内とし，単位認定申請を行った年度に在籍する学年の単位とする。ただし，単位認定申請を行った年度において学年修了又は卒業が認められず，原学年に留められた場合は，申請により再履修する学年の単位として認定する。

４　第４学年までにおいて，３単位を超える単位数の認定が可能な知識・技能審査で所定の成績を修めた場合は，第５学年における申請により，認定可能な単位数から第４学年で認定を受けた単位数を減じた単位数を履修したものとして認定する。

（学年修了又は卒業に必要な単位数に算入できる単位数の制限）

第５条　前条の規定により認定された単位のうち，学年修了又は卒業に必要な単位数に算入できる単位数は，インターンシップ及び本校以外の教育施設における学修に関する規程により認定される単位数と併せ，１０単位までとする。

（成績の評価）

第６条　第４条の規定により単位の修得が認定された授業科目の成績は，評価せず，認定とする。

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料５－１－②－８の続き

別表

知識・技能審査の名称・成績結果に応じた認定単位数

知識・技能審査の名称・試験（成績）区分		認　定 単位数	備　　考
実用英語 技能検定	国際コミュニケーション 英語能力テスト （TOEIC）		
１級	850点以上	6	一般科目・専門科目以外の資格認定の授業科目として学年修了又は卒業に必要な単位数に加算することができる
準１級	700点以上850点未満	4	
２級	500点以上700点未満	3	
準２級	400点以上500点未満	2	

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

（分析結果とその根拠理由）

本校は，学生の多様なニーズを「授業アンケート」や校長とのフリートーキングなどにより把握している。各学科の特別講演会や１年生の「工学基礎」などを通して，授業内容をものつくりの現状や先端技術の動向，社会からの要請に配慮したものとしている。また，４年生以上に共通選択科目を開設し，学生の多様なニーズや現代の技術・科学の融合・複合化に対応している。社会から求められている国際感覚を有する人材育成については，外国語教育の充実によって対応している。

以上のことから，教育課程の編成や授業科目の内容は，学生のニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に配慮していると判断する。

観点５－２－①：　教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

本校の教育課程においては，授業形態として講義，演習，実験・実習が適切に配置されている。その比率は，講義・演習と実験・実習科目の単位数の比率は６：４であり，概ねバランスがとれたものといえる（資料５－２－①－１）。このうち，専門科目の実験・実習は必修科目としており，当該学年で単位を修得できなかった場合は進級できない（資料５－２－①－２）。これは本校の教育方針の「実験・実習，演習，ものつくりを重視する」に由来する。また，平成１９年度より第４学年以上で「学修単位科目」を導入し，授業形態および方法に多様性を持たせる工夫を行っている（資料５－２－①－３）。

資料５－２－①－１

講義演習科目と実験実習科目

一般科目

	開講単位数	講義演習科目単位数	実験実習科目単位数	実験実習科目単位数比率	実験実習科目名
1年	28	24	4	14.3%	保健体育Ⅰ，アート＆デザインⅠ・Ⅱ
2年	25	23	2	8.0%	保健体育Ⅱ
3年	16	14	2	12.5%	保健体育Ⅲ
4年	13	11	2	15.4%	保健体育Ⅳ
5年	7	5	2	28.6%	保健体育Ⅴ
合計	89	77	12	13.5%	

機械工学科

	開講単位数	講義演習科目単位数	実験実習科目単位数	実験実習科目単位数比率	実験実習科目名
1年	6	2	4	66.7%	工学基礎，入門機械実習，テクニカルドローイング
2年	9	5	4	44.4%	工作実習Ⅰ，設計製図ⅠA・ⅠB，
3年	18	12	6	33.3%	工作実習Ⅱ，設計製図ⅡA・ⅡB，
4年	26	17	9	34.6%	設計製図Ⅲ，機械工学実験Ⅰ，創造設計製作，インターンシップ
5年	34	16	18	52.9%	設計製図Ⅲ，機械工学実験Ⅰ，インターンシップ，卒業研究
合計	93	52	41	44.1%	

電気情報工学科

	開講単位数	講義演習科目単位数	実験実習科目単位数	実験実習科目単位数比率	実験実習科目名
1年	6	4	2	33.3%	工学基礎
2年	9	5	4	44.4%	電気情報工学実験ⅠA・ⅠB
3年	18	14	4	22.2%	電気情報工学実験ⅡA・ⅡB
4年	26	18	8	30.8%	電気情報工学実験ⅢA・ⅢB，創造工学，工学基礎研究，インターンシップ
5年	34	16	18	52.9%	電気情報工学実験ⅣA・ⅣB，インターンシップ，卒業研究
合計	93	57	36	38.7%	

電子制御工学科

	開講単位数	講義演習科目単位数	実験実習科目単位数	実験実習科目単位数比率	実験実習科目名
1年	6	4	2	33.3%	工学基礎
2年	9	5	4	44.4%	電子制御実習Ⅰ・Ⅱ
3年	18	12	6	33.3%	CAD演習ⅠA・ⅠB，電子制御実験Ⅰ・Ⅱ
4年	26	20	6	23.1%	創造設計プロジェクト，電子計測実験，インターンシップ
5年	34	15	19	55.9%	CAD演習ⅡA・ⅡB・ⅡC，制御工学実験，インターンシップ，卒業研究
合計	93	56	37	39.8%	

建設システム工学科

	開講単位数	講義演習科目単位数	実験実習科目単位数	実験実習科目単位数比率	実験実習科目名
1年	6	3	3	50.0%	工学基礎，建設製図Ⅰ
2年	9	4	5	55.6%	測量実習，建設製図Ⅱ
3年	18	12	6	33.3%	建設システム工学実験ⅠA・ⅠB，建設製図制作
4年	26	20	6	23.1%	建設設計製図Ⅰ（コース共通），建設システム工学実験ⅡA・B（都市環境コース），建築デザインⅠ（建築コース），インターンシップ
都・環5年	34	18	16	47.1%	建設設計製図Ⅱ，インターンシップ，卒業研究・卒業研究・卒業制作
建築5年	34	16	18	52.9%	建設設計製図Ⅱ，建築デザインⅡ，インターンシップ，卒業研究・卒業研究・卒業制作
都・環合計	93	57	36	38.7%	
建築合計	93	55	38	40.9%	

（出典　学生課資料）

資料５－２－①－２

舞鶴工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則

（留年）

第１２条　次の各号のいずれかに該当する者は，進級を認めず，原学年に留める。

(1)　学年修了単位数に対して不足単位が７単位以上の者。

(2)　当該学年までの必修科目の未修得単位数と科目群必修単位数の不足単位数との合計が ７ 単位以上の者

(3)　必修科目又は科目群必修単位数を満たす科目の欠席時間数がその授業科目における出席すべき総時間数の３分の１を超える者

ただし，超過した理由が病気又はけがで，かつ医師の診断書の提出があった場合は，教員会議の議を経て，当号本文の適用を除外することがある。

(4)　欠席日数が年間授業日数の３分の１を超える者

(5)　特別活動の欠席時数が年間総時数の３分の１を超える者

(6)　実験実習科目がＦ評価の者

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料５－２－①－３

履修単位科目と学修単位科目について

平成２５年４月１日

学生の皆さんが履修している各授業科目の単位計算において，平成１８年度までは，従来からの高等専門学校設置基準に従い，各授業科目を３０単位時間履修することで１単位と計算する（卒業研究を除く）という規定のもとで単位計算が行われてきました。

平成１７年９月９日付の高等専門学校設置基準の一部改定により，６０単位まで大学と同様の単位計算ができるようになりました。授業及び授業時間以外に必要な学修（学生による自己自習を含む学習のこと）を考慮し，４５時間（１時間＝６０分）の学修をもって１単位とするというものです。改定の目的は，授業形態，授業方法に多様性を持たせることにより，教育効果の向上を図ることにあります。

平成１９年度より本科の授業科目の単位計算は，つぎの２通りになっています。

（１）履修単位科目

従来からの単位計算と同じで，１単位の授業科目を３０単位時間（１単位時間は５０分）履修する科目です。

（２）学修単位科目

講義，演習科目について，１５～３０時間の授業に加えて３０～１５時間の自学自習を必要とし，合計で４５時間の学修をもって１単位とする科目です。

各学年の授業科目構成はつぎのようになっています。

（１）１学年から３学年まで

すべての授業科目が「履修単位科目」です。

（２）４学年及び５学年

各学科とも４学年，５学年の専門科目において４単位分が「学修単位科目」として実施されます。その他は「履修単位科目」です。

※１　４学年，５学年のシラバスにおいては，「履修単位科目」と「学修単位科目」の区別が明記されています。特に，「学修単位科目」は担当教員の学習方法の説明をよく聞いて授業に臨んでください。

※２　平成２５年度から本校においても，９０分授業が導入されることになりました。９０分連続授業により，履修単位科目は２単位時間，学修単位科目は２時間の授業として扱われることが可能となりました。

ただし，９０分授業の導入に当たっては，演習問題課題の設定，ホームワークの付与，Moodle や e ラーニングの活用等教育の質の保証や学習効果についての適切な配慮が求められています。

学生の皆さんは，授業に集中するとともに自己学習に積極的に取り組みましょう。

※３　平成２５年度から中間試験及び試験返却等到達度確認期間を１週間分の２分の１の授業時間数としてカウントします。中間試験はもとより試験返却等到達度確認期間内の授業には必ず出席しなければなりません。

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校の教育課程においては，講義，演習，実験，実習を適切に組み合わせ，教育方針に沿って，「実験・実習，演習，ものつくりを重視する」観点で，学力等を身に付けさせる工夫を行っている。

以上のことから，講義，演習，実験，実習等の授業バランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

観点５－２－②：　教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示等、内容が適切に整備され、活用されているか。

（観点に係る状況）

シラバスは，本校の理念，教育方針，目的，学習・教育到達目標等教育課程の編成の趣旨に沿って作成されている。シラバスの様式には，科目名（英語訳を含む），授業の概要，到達目標，学習・教育到達目標，教科書・参考書等，授業計画，成績の評価方法・評価基準が明示され，高学年では，これに授業目的と到達目標に英語訳を加え，キーワード（英語訳を含む），授業方法，学習方法，履修上の注意，科目の位置付け，定期試験の実施方法，学生へのメッセージが記される（資料５－２－②－１及び２）。シラバスの作成要項は，資料５－２－②－３に示す通りである。また，シラバスの編集にあたっては，チェックシートを用いた点検を行い，そのうえで刊行されている（資料５－２－②－４）。学生がシラバスを活用していることは，学生による授業アンケートによって分かる（資料５－２－②－５及び６）。

資料５－２－②－１

シラバス様式　1，2，3 年（前期・後期同一系統科目）

科　　目　　名	学 年	期別・授業時間・単位数	教 員 名 研 究 室 内線電話 e-mail:

【概要】	【到達目標】	
	前期	1． 2．
	後期	3． 4． 5．

【学習・教育到達目標】

【教科書，参考書等】

【授業計画】

期別	週	内　　容	到達目標	教科書参照ページ
前期	第 1 週 第 2 週 第 3 週 第 4 週 第 5 週 第 6 週 第 7 週			
	第 8 週	★前期中間試験		
	第 9 週 第 10 週 第 11 週 第 12 週 第 13 週 第 14 週 第 15 週			
		★前期期末試験		
		前期期末試験返却，到達度確認		
後期	第 1 週 第 2 週 第 3 週 第 4 週 第 5 週 第 6 週 第 7 週			
	第 8 週	★後期中間試験		
	第 9 週 第 10 週 第 11 週 第 12 週 第 13 週 第 14 週 第 15 週			
		★後期期末試験		
		後期期末試験返却，到達度確認		

【成績の評価方法・評価基準】	【科目の位置付け】 先に履修する関連科目 後で履修する関連科目
【備考】	

（出典　学生課資料）

資料５－２－②－２

シラバス様式　4，5 年前期・後期同一系統科目（履修単位科目）

<table>
<tr><td colspan="2">科　　目　　名</td><td>学 年</td><td>期別・授業形態・単位数</td><td rowspan="3">教 員 名
研 究 室
内線電話
e-mail:</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td rowspan="2">4</td><td>前期・　　・　単位</td></tr>
<tr><td colspan="2"></td><td>後期・　　・　単位</td></tr>
<tr><td colspan="4">履修単位科目</td></tr>
<tr><td colspan="5">【授業目的】

【Course Objectives】</td></tr>
<tr><td colspan="2">【到達目標】</td><td colspan="3">【Outcomes/Aims】</td></tr>
<tr><td>前期</td><td>１．
２．</td><td colspan="3">Students will be able to:
1.
2. ,</td></tr>
<tr><td>後期</td><td>３．
4
５．</td><td colspan="3">3.
4.
5..</td></tr>
<tr><td colspan="5">【学習・教育到達目標】</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">【キーワード】</td><td colspan="3">【授業時間】</td></tr>
<tr><td colspan="3">前期：
後期：</td></tr>
<tr><td colspan="2">【授業方法】</td><td colspan="3">【学習方法】</td></tr>
<tr><td colspan="2">【履修上の注意】
毎授業には電卓を持参すること。</td><td colspan="3" rowspan="3">【科目の位置付け】
１．先行して履修すべき科目

２．後で履修する関連科目

３．同時に履修する関連科目</td></tr>
<tr><td colspan="2">【定期試験の実施方法】</td></tr>
<tr><td colspan="2">【成績の評価方法・評価基準】</td></tr>
</table>

（出典　学生課資料）

資料５－２－②－２の続き

【教科書・教材等】
教科書：
教材　：

【参考書・参照 URL 等】
参考書：

【授業計画】

期別	週	内　容	到達目標	教科書参照ページ
前期	第 1 週 第 2 週 第 3 週 第 4 週 第 5 週 第 6 週 第 7 週			
	第 8 週	★前期中間試験		
	第 9 週 第 10 週 第 11 週 第 12 週 第 13 週 第 14 週 第 15 週			
		★前期期末試験		
		前期期末試験返却，到達度確認		
後期	第 1 週 第 2 週 第 3 週 第 4 週 第 5 週 第 6 週 第 7 週			
	第 8 週	★後期中間試験		
	第 9 週 第 10 週 第 11 週 第 12 週 第 13 週 第 14 週 第 15 週			
		★後期期末試験		
		後期期末試験返却，到達度確認		

【学生へのメッセージ】

（出典　学生課資料）

資料５－２－②－３

本科シラバス作成要領（抜粋）

平成 25 年 1 月

シラバスの様式には，**１，２，３年用［前期・後期同一系統科目用，半年単独・通年科目用］，４，５年用［前期・後期同一系統科目用（履修単位科目用）・半年単独・通年科目用（履修単位科目用），学修単位科目用］**があります。それぞれのシラバス作成に関する留意事項ならびにシラバス例を参照してシラバスを作成してください。

● **ＪＡＢＥＥ基準の変更に伴い，シラバスの様式を従来のものから多少変更していますので，充分留意してください。**

平成２４年度版変更点はシラバス例では青字で記載

● **平成２５年度版の変更点は，つぎのとおりです。（シラバス例では朱字で記載）**

○従来の【学習・教育目標】を【学習・教育到達目標】に変更しています。

（JABEE の新基準で【学習・教育目標】から【学習・教育到達目標】に変更されたため）

○【学習・教育到達目標】欄に（Ａ）～（Ｉ）の文字を記載するだけでなく，別添の資料を参照の上、学習・教育到達目標の該当する文章を転記してください

（（Ｉ）が追加されましたので留意してください）

○９０分授業の導入に伴い、授業時間の書き方を変更しています。

● **平成２５年度の前期・後期とも中間試験前までの授業期間が７週，授業としてカウントされる中間試験が１週，中間試験後から期末試験までの授業期間が７週，期末試験後の１週が試験返却等到達度確認となります**

● **「シラバス作成時における自己チェックリスト」により各自責任をもってシラバス原稿をチェックしてください。**

なお，提出された原稿は，１，２，３年生分は教務委員会，４，５年生分はＰＩＥ委員会において、主につぎの内容についてチェックします。

□　科目名が正しく記述されているか
□　学年，期別，授業時間，単位数が正しく記述されているか（１～３年）
□　学年，期別，授業形態，単位数，授業時間が正しく記述されているか(４，５年)
□　学習・教育到達目標が適切に記載されているか
□　評価基準が明確に記述されているか
□　授業内容が学習・教育到達目標に一致しているか
□　評価方法・評価基準が明確に記述されているか
□　定められた様式で記述されているか
□　学修単位科目については、自己学習の内容が明記されているか

（出典　学生課資料）

資料５－２－②－３の続き

１・２・３年用（前期・後期同一系統科目用）シラバス様式の留意事項

１．「科目名」は，前期科目，後期科目ごとに邦文名と英文名を記入する。研究室はＡ棟，Ｂ棟，Ｓ棟，Ｔ棟○階(部屋番号)と記入する。

２．「概要」欄には前期・後期それぞれに学習する内容を記述する。
「到達目標」欄にはそれぞれ前期・後期の到達目標を箇条書きで記述する。（合計で５項目以下）

３．学習・教育到達目標は準学士課程の学習・教育到達目標（別添）で科目に該当するものを記載する（２つまで）。なお、この際，別添の「新カリ科目系統図_ABC フロー図_2008_12_08」を参照して，科目の流れとして４年以上のどの科目に接続されるかによって適切に（Ａ）～（Ｉ）を記載のこと。また，（Ａ）～（Ｉ）の文字を記載するだけでなく，該当する文章も記載する。
（４年以上の科目は、専攻科への科目の流れとして、つぎのＵＲＬに記載されています）
http://www.maizuru-ct.ac.jp/gakkoshokai/system/index.html

４．授業計画は週ごとに内容を記入し，到達目標欄には週ごとの内容に対応する到達目標の番号を記入する。授業で教科書を用いる場合は参照ページを記入する。なお，教科書を用いない場合には教科書参照ページ欄は削除する。

５．実験・実習など，週ごとの説明がなじまない科目については，複数の週にまとめて記入する。

６．「成績の評価方法・評価基準」は，前期科目および後期科目における試験の予定，レポートなどの提出物の予定，成績の評価法など，第三者が見てわかりやすく記入する。（３学年までの実験・実習・実技等を除く科目は，当該学期において原則として**中間・期末の２回の定期試験を実施すること**となっておりますので留意してください。）また，到達目標に基づき，成績の評価基準が具体的に分かるように記述する。

７．「科目の位置付け」は，別添の新カリ科目系統図＿ＡＢＣフロー図の必要ページを参照して，関連科目の流れがわかるように記入する。

８．「備考」は，受講上の注意などについて記入する。

９．複数で授業を担当する場合は，担当者間でまとめて提出する。

４・５年前期・後期同一系統科目用（履修単位科目用）シラバス様式の留意事項

１．「科目名」は，前期科目，後期科目ごとに邦文名と英文名を記入する。

２．「期別・授業形態・単位数」について
期別は，前期，後期と記入する。
授業形態は，講義，演習，実験，実習と記入する。
単位数は，開設コマ数に応じ記入する。

３．研究室は，Ａ棟，Ｂ棟，Ｓ棟，Ｔ棟○階(部屋番号)と記入する。

４．「授業目的」「Course Objectives」は，前期、後期の学習内容・教育目標について記入する。

５．「到達目標」「Outcomes/Aims」は，前期・後期に区分し目標とする個別の学力レベルが分かるように合計５項目以上箇条書きで記述する。

（出典　学生課資料）

資料５－２－②－３の続き

６．「学習・教育到達目標」は，
　下記ＵＲＬにある「専攻科への科目の流れ」を参照のうえ，準学士課程の学習・教育到達目標（Ａ）～（Ｉ）のどれに当てはまるかを記入し，該当する文章も転記する。（下記ＵＲＬ記載の学習・教育到達目標とシラバス原稿の学習・教育到達目標が合致しているかを充分に確認してください）。
　http://www.maizuru-ct.ac.jp/gakkoshokai/system/index.html

７．「キーワード」は，できる限り欧文名も記入する。

８．「授業時間」は，開講期間内で授業として実施する時間を記入する。例えば講義科目で，半期に９０分の授業を毎週実施する場合，2時間(90分)×15週＝30単位時間（22.5時間）として表記してください（括弧内の数字は実時間）。

９．「授業方法」は，具体的な授業の進め方，何に役立つかなど具体的に記述する。

10．「履修上の注意」は，履修にあたっての注意事項等を記入する。

11．「学習方法」は，自宅での予習・復習・宿題の進め方，レポートなどの提出物の出し方など具体的に記述する。

12．「定期試験の実施方法」は，前期・後期における試験の実施方法，持ち込み可能なものなどを具体的に記述する。

13．「成績の評価方法・評価基準」は，前期・後期における定期試験，レポート，演習問題の解答等の配点など，成績の評価法が第３者にも分かるようにできるかぎり具体的に記述する。また“出欠状況”や“平素の学習態度”は含めない。また，到達目標に基づき，成績の評価基準が具体的に分かるように記述する。

14．「科目の位置付け」は，前述ＵＲＬにある「専攻科への科目への流れ」を参照して，学習の流れが分かるように (1)先行して履修すべき科目，(2)後で履修する関連科目，(3)同時に履修する関連科目について記入する。

15．「教科書・教材等」は，授業において使用する教科書，教材等について記入する。

16．「参考書・参照URL等」は，授業あるいは学生の自習において参考となる参考書・参照URL等を記入する。（参考書については，購入可能なもの，本校図書館で閲覧可能なもの等となるよう配慮してください）

17．「授業計画」は，レジュメに従って週ごとの内容を記入する。到達目標欄には週ごとの内容に対応する到達目標の番号を記入する。授業で教科書を用いる場合は参照ページを記入する。なお，教科書を用いない場合には教科書参照ページ欄は削除する。実験・実習など週ごとの説明がなじまない科目については，複数の週にまとめて記入する。

18．「学生へのメッセージ」は，学生の勉学に対する学習意欲を増進するように記入する。

・５年用（学修単位科目用）シラバス様式の留意事項

１．「科目名」は，邦文名と英文名を記入する。

２．「期別・授業形態・単位数」について
　期別は，前期，後期，通年と記入する。
　授業形態は，講義，演習，実験，実習と記入する。
　単位数は，授業形態と開設コマ数に応じ記入する。

（出典　学生課資料）

資料５－２－②－３の続き

３．研究室は，Ａ棟，Ｂ棟，Ｓ棟，Ｔ棟○階(部屋番号)と記入する。
４．授業形態と単位数に応じた授業時間と自己学習の時間およびその合計としての標準総学習時間を記入する。
この際，**９０分を２時間**として取り扱ってください。
学修単位科目の１単位とは，大学設置基準に準じ，授業と自己学習を合わせて４５時間の学修内容のことをいい，それぞれの授業形態について受講生の１単位あたりの学習時間はつぎのようになります。
講義：　授業（１５時間）＋自己学習（３０時間）＝標準４５時間
演習：　授業（３０時間）＋自己学習（１５時間）＝標準４５時間
実験，実習：授業（４５時間）＋自己学習（　０時間）＝標準４５時間
５．「授業目的」「Course Objectives」は，学習内容・教育目標について記入する。
６．「到達目標」「Outcomes/Aims」は，目標とする個別の学力レベルが分かるように５項目以上箇条書きで記述する。
７．「学習・教育到達目標」は，下記ＵＲＬにある「専攻科への科目の流れ」（各学科の４年）を参照のうえ，準学士課程の学習・教育到達目標（A）～（Ｉ）のどれに当てはまるかを記入し，該当する文章も転記する。（下記ＵＲＬ記載の学習・教育到達目標とシラバス原稿の学習・教育到達目標が合致しているかを充分に確認してください）。
http://www.maizuru-ct.ac.jp/gakkoshokai/system/index.html
８．「キーワード」は，できる限り欧文名も記入する。
９．「授業時間」は，開講期間内で授業として実施する時間を記入する。例えば講義科目で，半期に９０分の授業を毎週実施する場合，2時間(90分)×15週＝30単位時間（22.5時間）として表記してください（括弧内の数字は実時間）。
10．「授業方法」は，具体的な授業の進め方，何に役立つかなど具体的に記述する。
11．「履修上の注意」は，履修にあたっての注意事項等を記入する。
12．「学習方法」は，自己学習を促し，自己学習時間の使い方について学生に理解させるため，自己学習の指針（予習・復習・宿題の進め方，レポートなどの提出物の出し方など）を具体的に記述する。
13．「定期試験の実施方法」は，試験の実施方法，持ち込み可能なものなどを具体的に記述する。
14．「評価方法」は，定期試験，レポート，演習問題の解答，自己学習の成果物等の配点など，成績の評価法が第３者にも分かるようにできる限り具体的に記述する。また“出欠状況”や“平素の学習態度”は含めない。どうしても含める場合は，その評価基準と評価方法が明確に分かるように記述する。
15．「科目の位置付け」は，前述ＵＲＬにある「専攻科への科目への流れ」を参照して，学習の流れが分かるように (1)先行して履修すべき科目，(2)後で履修する関連科目，(3)同時に履修する関連科目について記入する。
16．「教科書・教材等」は，授業において使用する教科書，教材等について記入する。
17．「参考書・参照URL等」は，授業あるいは学生の自習において参考となる参考書・参照URL等を記入する。（参考書については，購入可能なもの，本校図書館で閲覧可能なもの等となるよう配慮してください）

（出典　学生課資料）

資料５－２－②－３の続き

３．研究室は，Ａ棟，Ｂ棟，Ｓ棟，Ｔ棟○階(部屋番号)と記入する。
４．授業形態と単位数に応じた授業時間と自己学習の時間およびその合計としての標準総学習時間を記入する。
　この際，**９０分を２時間**として取り扱ってください。
学修単位科目の１単位とは，大学設置基準に準じ，授業と自己学習を合わせて４５時間の学修内容のことをいい，それぞれの授業形態について受講生の１単位あたりの学習時間はつぎのようになります。
　講義：　授業（１５時間）＋自己学習（３０時間）＝標準４５時間
　演習：　授業（３０時間）＋自己学習（１５時間）＝標準４５時間
　実験，実習：授業（４５時間）＋自己学習（　０時間）＝標準４５時間
５．「授業目的」「Course Objectives」は，学習内容・教育目標について記入する。
６．「到達目標」「Outcomes/Aims」は，目標とする個別の学力レベルが分かるように５項目以上箇条書きで記述する。
７．「学習・教育到達目標」は，下記ＵＲＬにある「専攻科への科目の流れ」（各学科の４年）を参照のうえ，準学士課程の学習・教育到達目標（Ａ)～(Ｉ)のどれに当てはまるかを記入し，該当する文章も転記する。（下記ＵＲＬ記載の学習・教育到達目標とシラバス原稿の学習・教育到達目標が合致しているかを充分に確認してください）。
http://www.maizuru-ct.ac.jp/gakkoshokai/system/index.html
８．「キーワード」は，できる限り欧文名も記入する。
９．「授業時間」は，開講期間内で授業として実施する時間を記入する。例えば講義科目で，半期に９０分の授業を毎週実施する場合，2時間(90分)×15週＝30単位時間（22.5時間）として表記してください（括弧内の数字は実時間）。
10．「授業方法」は，具体的な授業の進め方，何に役立つかなど具体的に記述する。
11．「履修上の注意」は，履修にあたっての注意事項等を記入する。
12．「学習方法」は，自己学習を促し，自己学習時間の使い方について学生に理解させるため，自己学習の指針（予習・復習・宿題の進め方，レポートなどの提出物の出し方など）を具体的に記述する。
13．「定期試験の実施方法」は，試験の実施方法，持ち込み可能なものなどを具体的に記述する。
14．「評価方法」は，定期試験，レポート，演習問題の解答，自己学習の成果物等の配点など，成績の評価法が第３者にも分かるようにできる限り具体的に記述する。また“出欠状況”や“平素の学習態度”は含めない。どうしても含める場合は，その評価基準と評価方法が明確に分かるように記述する。
15．「科目の位置付け」は，前述ＵＲＬにある「専攻科への科目への流れ」を参照して，学習の流れが分かるように (1)先行して履修すべき科目，(2)後で履修する関連科目，(3)同時に履修する関連科目について記入する。
16．「教科書・教材等」は，授業において使用する教科書，教材等について記入する。
17．「参考書・参照URL等」は，授業あるいは学生の自習において参考となる参考書・参照URL等を記入する。（参考書については，購入可能なもの，本校図書館で閲覧可能なもの等となるよう配慮してください）

（出典　学生課資料）

資料５－２－②－４

H25年度本科4・5年科目　シラバスチェックシート

分類	授業科目名	学年学期	必修選択の別	単位数	学習・教育到達目標 (A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	(I) 4年生の科目のみ該当	担当者	シラバスチェック項目 1 科目名が正しく記述されているか？	2 学年・前期・後期・単位数・必修選択が正しく記述されているか？	3 到達目標が明確に記述されているか？	4 学習・教育到達目標が正しく記述されているか？	5 授業内容が学習・教育到達目標に一致しているか？	6 評価方法・評価基準が明確に記述されているか？	7 定められた様式に従って記述されているか？	8 学修単位科目については自己学習の内容が明記されているか？	9 具体的な指摘事項・備考等
人文・社会科学	総合英語ⅣA	4前	必修	1					◎					児玉・三川									
	総合英語ⅣB	4後		1					◎														
	実践英会話Ⅰ	4前		1					◎														
	総合英語ⅤA	5前		1					◎														
	総合英語ⅤB	5後		1					◎														
	実践英会話Ⅱ	5後		1					◎														
	法学Ⅰ	4前	3単位以上修得	1					◎														
	法学Ⅱ	4後		1					◎														
	哲学	4後		1					◎														
	経済学	4前		1					◎														
	国語国文Ⅰ	4前		1					◎														
	ドイツ語Ⅰ			1					◎														
	中国語Ⅰ			1					◎														
	心と癒しⅠ			1					◎														
	金融工学Ⅰ			1					◎														
	国語国文Ⅱ	4後		1					◎														
	ドイツ語Ⅱ			1					◎														
	中国語Ⅱ			1					◎														
	心と癒しⅡ			1					◎														
	金融工学Ⅱ			1					◎														
	ドイツ文化論Ⅰ	5前		1					◎														
	韓国語Ⅰ			1					◎														
	現代社会と宗教Ⅰ			1					◎														
	現代日本の政治Ⅰ			1					◎														
	現代日本の経済と法Ⅰ			1					◎														
	ドイツ文化論Ⅱ	5後		1					◎														
	韓国語Ⅱ			1					◎														
	現代社会と宗教Ⅱ			1					◎														
	現代日本の政治Ⅱ			1					◎														
	現代日本の経済と法Ⅱ			1					◎														
	日本語C	4前	（留学生）	1					◎														
	日本語D	4後		1					◎														
	日本語E	5前		1					◎														
	日本語F	5後		1					◎														

分類	授業科目名	学年学期	必修選択の別	単位数	学習・教育到達目標 (A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)	(I) 4年生の科目のみ該当	担当者	シラバスチェック項目 1 科目名が正しく記述されているか？	2 学年・前期・後期・単位数・必修選択が正しく記述されているか？	3 到達目標が明確に記述されているか？	4 学習・教育到達目標が正しく記述されているか？	5 授業内容が学習・教育到達目標に一致しているか？	6 評価方法・評価基準が明確に記述されているか？	7 定められた様式に従って記述されているか？	8 学修単位科目については自己学習の内容が明記されているか？	9 具体的な指摘事項・備考等
数学・自然科学・情報技術	物理ⅢA	4前	2単位修得	1	◎									奥村昌・背戸柳									
	物理ⅢB			1	◎																		
	化学ⅢA			1	◎								○										
	物理ⅢC	4後		1	◎																		
	物理ⅢD			1	◎																		
	化学ⅢB			1	◎								○										
	応用数学ⅠA	4前	必修	1	◎																		
	応用数学ⅠB	4後	必修	1	◎																		
	応用数学ⅡA	4前	必修	1	◎																		
	応用数学ⅡB	4後	必修	1	◎																		
	電子物理Ⅰ	5前	2単位修得	1	◎																		
	シミュレーション工学Ⅰ			1								◎											
	情報学Ⅰ			1								◎											
	建設振動学			1		◎						○											
	電子物理Ⅱ	5後		1	◎																		
	シミュレーション工学Ⅱ			1								◎											
	情報学Ⅱ			1								◎											
	耐震工学			1		◎																	
専門共通	システム工学Ⅰ	4前	1単位修得	1			◎							金森									
	ネットワーク論Ⅰ			1								◎											
	数値計算法Ⅰ			1								◎											
	環境工学ⅠA			1						◎													
	システム工学Ⅱ	4後	1単位修得	1			◎																
	ネットワーク論Ⅱ			1								◎											
	数値計算法Ⅱ			1								◎											
	環境工学ⅠB			1						◎													
	計測概論Ⅰ	4前	1単位修得	1	◎																		
	電気機器Ⅰ			1		◎																	
	水力学Ⅱ			1		◎																	
	建築論Ⅰ			1		◎																	
	計測概論Ⅱ	4後	1単位修得	1	◎																		
	電気機器Ⅱ			1		◎																	
	ロボット工学Ⅰ			1		◎																	
	数値解析Ⅰ			1								◎											
	マリンエンジニアリングⅠ	5前	1単位修得	1		◎																	
	電磁気計測Ⅰ			1		◎																	
	画像処理Ⅰ			1								◎											
	応用測量学Ⅰ			1		◎																	
	マリンエンジニアリングⅡ	5後	1単位修得	1		◎																	
	電磁気計測Ⅱ			1		◎																	
	画像処理Ⅱ			1								◎											
	建築論Ⅱ			1		◎																	

（出典　学生課資料）

資料５－２－②－５

アンケート実施時期	クラス	学期	科目名	必須・選択の別	所属学科	担当者	回答人数
平成22年度前期	１－３	前期	日本史	選択	人文科学部門	三川　譲二	55

アンケート集計結果

各質問に対する各回答の数を示しています。科目平均点とは一番左の選択肢から順に5,4,3,2,1点として算出した平均点です。全体平均点とはアンケート回答の全教員分の総計について同様に算出した平均点です。
なお、(*)のついているA2とC1の質問については、平均点が高いほど良いというわけではありませんのでご注意ください。

質問	回答					科目平均点	全体平均点
A1　この授業の内容には興味が持てましたか？	とても興味が持てた	興味が持てた	普通	あまり興味が持てなかった	まったく興味が持てなかった	3.62	3.48
	5（9.1%）	25（45.5%）	24（43.6%）	1（1.8%）	0（0.0%）		
A2(*)　教科書やプリントなど、教材の難易度は適当でしたか？	難しすぎる	やや難しい	ちょうど良い	やや、やさしい	やさしすぎる	3.22	3.48
	0（0.0%）	13（23.6%）	41（74.5%）	1（1.8%）	0（0.0%）		
A3　シラバスに記述されている授業内容や方法は参考になりましたか？	とても参考になった	参考になった	普通	あまり参考にならなかった	まったく参考にならなかった	3.36	3.18
	4（7.3%）	21（38.2%）	23（41.8%）	5（9.1%）	2（3.6%）		
B1　よく準備された授業でしたか？	とても良く準備されていた	準備されていた	どちらとも言えない	あまり準備されていなかった	まったく準備されていなかった	3.69	3.67
	4（7.3%）	34（61.8%）	13（23.6%）	4（7.3%）	0（0.0%）		
B2　先生の教える態度に熱意や情熱が感じられましたか？	とても熱意が感じられた	熱意が感じられた	普通	あまり熱意を感じなかった	まったく熱意を感じなかった	3.89	3.63
	11（20.0%）	28（50.9%）	15（27.3%）	1（1.8%）	0（0.0%）		
C1(*)　授業の進む速さは適切でしたか？	速すぎる	やや速い	ちょうど良い	やや遅い	遅すぎる	3.15	3.35
	3（5.5%）	8（14.5%）	38（69.1%）	6（10.9%）	0（0.0%）		
C2　先生の声は聞き取りやすかったですか？	とても聞き取りやすかった	聞き取りやすかった	普通	聞き取りにくかった	まったく聞き取れなかった	3.51	3.52
	10（18.2%）	20（36.4%）	14（25.5%）	10（18.2%）	1（1.8%）		
C3　板書などの使用は適切でしたか？	とても効果的であった	効果的であった	どちらとも言えない	あまり効果的ではなかった	まったく効果的ではなかった	3.53	3.43
	7（12.7%）	25（45.5%）	13（23.6%）	10（18.2%）	0（0.0%）		
C4　先生の説明はわかりやすかったですか？	説明はとてもわかりやすかった	説明はわかりやすかった	普通	ややわかりにくかった	まったくわかりにくかった	3.71	3.33
	9（16.4%）	23（41.8%）	21（38.2%）	2（3.6%）	0（0.0%）		
C5　先生は学生の理解度を考えて授業を進めていましたか？	とてもよく学生の理解度を考えていた	学生の理解度を考えていた	どちらとも言えない	あまり学生の理解度を考えていなかった	まったく学生の理解度を考えていなかった	3.62	3.35
	5（9.1%）	26（47.3%）	22（40.0%）	2（3.6%）	0（0.0%）		
D1　授業の予習および復習（宿題を含む）にはどのくらい時間をかけましたか？（週平均）	60分以上	30分以上60分未満	10分以上30分未満	10分未満	まったくしなかった	2.67	2.80
	3（5.5%）	12（21.8%）	14（25.5%）	16（29.1%）	10（18.2%）		
D2　授業中、講義をしっかり聞き、授業に積極的に取り組みましたか？	かなり積極的に取り組んだ	積極的に取り組んだ	どちらとも言えない	あまり積極的に取り組まなかった	まったく積極的でなかった	3.71	3.41
	7（12.7%）	29（52.7%）	15（27.3%）	4（7.3%）	0（0.0%）		
D3　授業内容は理解できましたか？	とても良く理解できた	理解できた	どちらとも言えない	あまり理解できなかった	まったく理解できなかった	3.78	3.35
	7（12.7%）	32（58.2%）	13（23.6%）	3（5.5%）	0（0.0%）		

課題分析

授業への興味，教材の難易度，シラバス，授業準備，授業への熱意，授業のスピード，授業の分かり易さ，授業の理解度などは普通以上だったので，安堵した。声が聞き取りにくさや板書の分かりにくさについては，自由アンケートでは反対の記述もあるが，傾聴に値すると思う。
予習・復習も含めた授業への取組の低さについては，改善策が必要だと思われる。

今後の改善策

概ね好評を得たポイントについては，それを維持し，声の聞き取りにくさや板書の分かりにくさなどについては，もう一度自己点検し，問題が明白になった時点で，改善策を考えようと思う。それまでは注意深くしたい。学生の授業への取組みの低さについては，自主的なレポートや発表等の課題を義務付けるなどして，何とか改善したい。

次のシートに自由記述回答もついていますので、そちらも参照してお書きください。

（出典　総務課資料）

資料５－２－②－６

平成 22 年度授業アンケートの結果ならびに課題分析と改善策

昨年度よりアンケートの設問を修正して 2 年目にあたる。昨年度と今年度の全体平均点を並べてみると以下のようになる。

設問	平成 21 年度	平成 22 年度
A 1 平均	3.53	3.48
A 2 平均	3.47	3.48
A 3 平均	3.22	3.18
B 1 平均	3.78	3.67
B 2 平均	3.78	3.63
C 1 平均	3.34	3.35
C 2 平均	3.61	3.52
C 3 平均	3.53	3.43
C 4 平均	3.41	3.33
C 5 平均	3.44	3.35
D 1 平均	2.79	2.80
D 2 平均	3.50	3.41
D 3 平均	3.42	3.35
A 1 平均	3.53	3.48
A 2 平均	3.47	3.48

昨年度と今年度を比較してみると、全体として、ほとんど差がなく、本校の現状をよく反映していると考えられる。

比較的評価の高い項目のひとつ、B1 の「よく準備された授業でしたか」が 3.67 であり、各先生が授業を工夫しているものと思われる。

B2 の「先生の態度に熱意が感じられましたか」が 3.63 であった。B2 の設問は、声の大きさや印象に左右されやすく、おとなしい先生は低い点数になりがちである。こうした、学生の主観を問う問題が、本当に教師の力量や授業の内容を反映したものかどうかは検討の余地はあろう。比較的高いレベルに授業を設定しながらも、懇切丁寧な解説が、「熱意」として評価されている授業もあるが、客観的な設問の方が教師にとって参考にしやすいのは確かであろう。

これら 2 つの項目と比べると、C4「先生の説明は分りやすかったですか」が 3.33 であった。また C5「学生の理解度を考えて授業を進めていましたか」も 3.35 とあまり高くない。見かけの情熱ほどは説明がうまく通じていない、あるいは教師の熱意がやや空回りする状況も想像される。

しかし、分りやすい授業が最高の授業かという問題もある。なぜなら、学生

（出典　評価委員会（ＦＤ・ＩＣＴ部会）資料）

資料５－２－②－６の続き

の理解度を優先させれば、進度が遅くなる、あるいは内容が易しくなるという可能性もある。当然、シラバス通りにいかないこともある。ここのバランスのとり方は難しい。テストの直前数時間の勉強で単位がとれるような科目は、学生にとっては「分りやすく」、いい授業かもしれないが、それでは学生が卒業してから社会の中で生き抜く上での最低学力も保証しかねるであろう。将来を考えれば、学生にとっては、レベル的に「やや難しい」が、努力すれば理解可能な授業が最もよいものであるのは確かである。

しかし、学生の側の問題もある。あいかわらず家庭学習の時間が短く、D1 の平均値が 2.8 で、これは 30 分未満ということになる。ここからすると家庭学習が不足している学生が大半であり、その理解度に合わせてしまえば、授業内容の水準が下がる可能性があり、努力を怠った学生が説明を理解できないのは当然と考えることもできよう。

もちろん教員へのフィードバックは重要であり、個々の教員の授業法研鑽は必要と思われる。しかし現状の数値からすれば、全体としては、飛躍的な向上は考えられないし、またそこに無用なリソースをつぎ込んでも。むしろ学生たちの家庭学習を動機づけしてゆくことが、授業改善の近道ではないのかと思われる。

FD_ICT 部会長
吉永進一

（出典　評価委員会（ＦＤ・ＩＣＴ部会）資料）

（分析結果とその根拠理由）

シラバスは，本校の教育課程の編成の趣旨に沿って作成されている。シラバスには，授業内容や到達目標，成績の評価方法と基準等が明示され，チェックシートによる点検等編集作業を経て，刊行されている。また，シラバスが授業を受けるにあたって活用されていることは学生による授業アンケートから確認できる。

観点５－２－③：　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また、インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）

本校では，本科の学習・教育到達目標（C）に「修得した知識を統合し，製品やシステムを考案できる。」を掲げ，創造性を育む教育を重視し，各学科ともに，実験・実習科目を中心に，創造性の育成のためのプログラムを系統的に用意し，最終的に「卒業研究」「卒業研究・卒業設計」で創造性教育の集大成を行っている（資料５－２－③－１～６）。　インターンシップは，高等教育機関や企業等で専門分野における知識・技術･業務に触れながら実務能力を深めることを目的に，第４～５学年において実施している。インターンシップの成績評価にあたっては，報告書及び報告会での発表の点数に加え，実施機関の評価が勘案される（資料５－２－③－７～12）。

資料５－２－③－１

表1 学習・教育到達目標に到達するための授業科目の流れ（H25年度開講科目）

（電情系：電気情報工学科、電制系：電子制御工学科、機械系：機械工学科、建設系：建設システム工学科（2コース制））

学習・教育目標	学科系	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次	
		専門	一般　専門共通	専門	一般　専門共通	専門	一般　専門共通	専門	一般　専門共通	専門	一般　専門共通
(C) 修得した知識を統合し，製品やシステムを考案できる。	電情系		アート&デザインⅠ(◎) アート&デザインⅡ(◎)					工学基礎研究(◎) 創造工学◎	システム工学Ⅰ(◎) システム工学Ⅱ(◎) インターンシップ(◎) 校外学修(◎)	卒業研究(◎)	インターンシップ(◎) 校外学修(◎)
	電制系							創造設計プロジェクト(◎)		CAD演習ⅡA(○) CAD演習ⅡB(◎) CAD演習ⅡC(◎) 卒業研究(◎)	
	機械系			創造演習(◎)				設計製図Ⅲ(◎) 創造設計製作(◎)		設計製図Ⅳ(◎) 設計工学(◎) 卒業研究(◎)	
	建設系	建設製図Ⅰ(◎)		建設製図Ⅱ(◎)		建設製図制作(◎)		建設設計製図Ⅰ(◎)		建設設計製図Ⅱ(◎) 卒業研究・卒業設計(◎)	

（出典　学生課資料）

資料５－２－③－２

科　目　名	学　年	期別・授業時間・単位数	教員名　西山　等，篠原　正浩，
創造演習 Development Project Study	2	前期・２単位時間/週・１単位	研究室 [redacted] 内線電話 [redacted] e-mail: [redacted]

【概要】

修得した知識を統合して製品やシステムを開発・設計する作業を模擬的に経験することにより、創造的能力とプロジェクト活動におけるチーム運営能力を養う。特に後半では「防災ものづくり教育」として，災害時の乗り物の創造的な設計・製作演習を行う。

【到達目標】

1．製品やシステム開発の創造的な思考ができる。
2．課題を発見し解決策を検討することができる。
3．プロジェクトチームにおける役割を果たせる。
4．成果を出すPDCA活動(Plan, Do, Check, Action)ができる。
5．成果を効果的に発表できる。

【学習・教育到達目標】

（C）修得した知識を統合し，製品やシステムを考案できる。
（I）責任を自覚し，互いに協力し合い，チームの目的達成に貢献できる。

【教科書，参考書等】

教科書：　使用しない
必要に応じて，プリント等を配付する

【授業計画】

期別	週	内　容	到達目標	教科書参照ページ
前期	第１週	シラバス内容の説明，創造とは，ブレーンストーミング演習（1）	1	
	第２週	ブレーンストーミング演習（2），思考関連図	1，3	
	第３週	製作課題１（滞空時間の長い飛行物体）の実施計画，ブレーンストーミング	3，4	
	第４週	思考関連図，思考展開図，構想図	2，4	
	第５週	作品製作，計測	3，4	
	第６週	競技会，レポート作成	2，4	
	第７週	発表会	5	
	第８週	製作課題２（災害時の乗り物；綱渡りやじろべえ）の実施計画	1	
	第９週	ブレーンストーミング，思考関連図，思考展開図，構想図	2，3	
	第10週	概要設計	3，4	
	第11週	詳細設計	3，4	
	第12週	作品製作・計測・評価	2，3	
	第13週	競技会	2，4	
	第14週	レポート作成	2，4	
	第15週	発表会	5	
		到達度確認		
後期	第１週			
	第２週			
	第３週			
	第４週			
	第５週			
	第６週			
	第７週			
	第８週	★後期中間試験		
	第９週			
	第10週			
	第11週			
	第12週			
	第13週			
	第14週			
	第15週			
		★後期期末試験		

【成績の評価方法・評価基準】

製作課題１，製作課題２のそれぞれについて，レポート（80%）および発表会（20%）内容を評価し，その平均値を評価点とする。評価基準は，到達目標に基づき，問題発見・解決能力，独創性，分析力，表現力，プレゼン能力などについて段階的に達成度を評価する。

【科目の位置付け】

先に履修する関連科目

後で履修する関連科目
創造設計製作

【備考】

（出典　平成２５年度シラバス）

資料５－２－③－３

科　　目　　名	学 年	期別・授業形態・単位数	教 員 名　電気情報工学科　全教員 研 究 室 内線電話 e-mail:
創造工学 Synectics	4	前期・実験実習・１単位	
履修単位科目			

【授業目的】

創造工学(シネクティクス)とは，”多様なメンバーから成る小グループの自由な討論によって問題の発見や解決を図る方法”である。ＰＢＬ(Program-based Learning)，つまり課題解決型教育法を取り入れた実習を通して創造性の育成，電気系・情報系分野に関連した基礎知識の総合的強化を目指す。

【Course Objectives】

Synectics means a method to find and solve problems by means of free discussions on a small group that is composed of variously-skilled members. Fundamental knowledge based on the electric and computer engineering is brushed up in this PBL (Program-based Learning) practicum.

【到達目標】	【Outcomes/Aims】
１．課題解決の手法を身に付ける。 ２．工学の知識を応用することができる。 ３．課題の特定や，新しい価値の発見ができる。 ４．課題解決のためのﾁｰﾑﾜｰｸ力・協調性を身に付ける。 ５．必要とされる技術や情報を合理的に見通せる。 ６．効果的なプレゼンテーションが行える。	Students will be able to: 1. Solve problems actively in any case. 2. Apply technical knowledge. 3. Find a key to solve problems and find a new value. 4. Collaborate with each other. 5. Understand the necessary techniques or information. 6. Make attractive presentations.

【学習・教育到達目標】

（C）修得した知識を統合し，製品やシステムを考案できる。
（G）課題の提案・報告などを適切にまとめ，発表できる。
（I）責任を自覚し，互いに協力し合い，チームの目的達成に貢献できる。

【キーワード】	【授業時間】
PBL (Program Based Learning)，知識総括型学習，知識の総復習・強固化	2 時間（90 分）×15 週=30 単位時間（22.5 時間）

【授業方法】	【学習方法】
授業はグループ学習を主体とする。チームに分かれて，与えられた電気情報分野の装置の製作課題に取り組む。チームごとに計画の立案，製作，製作物のプレゼンテーションを行う。また個人ごとに報告書を作成する。プレゼンテーションはポスター発表形式とする。	数名のチームに分かれ，自主的にかつメンバーが協力して設計・製作活動を行う。製作時間，製作費等に制限を設けるので，メンバー間のコミュニケーションを密にし，役割分担された効率的な調査や学習を行うこと。

【履修上の注意】

全員実習服を着用すること。必要な物品(素材)の持ち込みは，教員の許可を得ること。

【定期試験の実施方法】

定期試験は行わず，グループ発表，報告書，教員評価書にて成績評価を行う。

【成績の評価方法・評価基準】

到達目標に対する到達度を評価基準とする。製作物とプレゼンテーション(40 点)，個人の報告書(40 点)，教員評価書(20 点)により評価する。

共通の製作課題，製作時間，製作費のもとでの製作物と，そのプレゼンテーションに対して，チームとしての活動に重点を置いた評価を行う。また個人の報告書により，個人のチームへの貢献度を評価する。教員評価書においては，普段の活動を到達目標の項目に照らして評価する。

【科目の位置付け】

1. 先行して履修すべき科目，項目

電気情報工学科目全般

2. 後で履修する関連科目

工学基礎研究　卒業研究

3. 同時に履修する関連科目

電気情報工学科目全般

（出典　平成２５年度シラバス）

資料５－２－③－３の続き

【教科書・教材等】
教科書：　なし

【参考書・参照 URL 等】
参考書：

【授業計画】

期別	週	内　　容	到達目標
前期	第 1 週	グループ分け(数名程度) 課題と活動方法の説明	
	第 2 週	【第 2～11 週】 計画性自体が評価基準であるため，プレゼンの日時以外の計画は，合理性や納期，目標に基づいてグループが自ら立てる。	1 ～ 5
	第 3 週		
	第 4 週		
	第 5 週		
	第 6 週		
	第 7 週		
	第 8 週		
	第 9 週		
	第 10 週		
	第 11 週		
	第 12 週	プレゼンテーション（製作物とポスターの展示）	6
	第 13 週	【第 13～15 週】　　報告書作成	1 ～ 5
	第 14 週		
	第 15 週		

【平成 25 年度の製作課題】
○製作物　電流または電圧の測定装置
○製作における制限，課題
・指定する IC のうち必ず 1 つを使用すること。
・仮想顧客を想定した機能が付加されていること。
例）自動測定機能，精密測定，特別な表示機能など
・製作費に上限を設ける。ただしパソコンなどの学校にある装置は製作費に含めない。
・製作過程において、製作物は電気情報工学実験室から持ち出さないこと。

【製作物とプレゼンテーションの評価】
○製作物を展示し，A1 サイズポスター2 枚によるポスター発表を行う。
○教員がポスター発表を聞き，製作発表評価書により評価する。

【報告書】
報告書作成要領に従い作成すること。

【教員評価書】
普段の授業態度を，教員評価書により評価。

【学生へのメッセージ】
本授業の目的は，創造活動の中で，高専の講義で得た知識を駆使して問題を解決するプロセスを体験させることによって，知識の強固化・活性化を図ることにあります。このため，プレゼンテーション能力や問題発見・解決能力，協調性という点を重視しますので，この点をよく認識して，シネクティックスに臨みましょう。

（出典　平成２５年度シラバス）

資料５－２－③－４

科　　目　　名	学 年	期別・授業時間・単位数	教員名　仲川力、町田秀和 研究室 [redacted] 内線電話 [redacted] e-mail: [redacted]
創造設計プロジェクト Creative design project	4	後期・4単位時間/週・2単位	
履修単位科目			

【授業目的】

1．ロボットコンテストの要求を把握し、スケジュールを立てる。　2．グループ内討議、資料調査に基づきアイデアをまとめる。
3．機構設計製作、組込マイコン開発、戦略構築、そしてそれらをまとめるリーダーの四つの役割を分担する。コストを管理する。
4．新規性・特許調査を行い、自チームの特色をプレゼンテーションする。　5．コンテストにおいて、立てた戦略がどうなるかを体感する。
6．他チームも含めて、ロボットを観察し、どうすれば性能を発揮できるかの知見を得る。

【Course Objectives】

1. The demand of the robot contest is understood.　2. The team brings the idea together and maps out a schedule.
3. The patent and novelty are investigated.
4. The leader allots the role for mechanism , embedded micro computer , and strategy construction and cost management.
5. Every one obtain the finding whether the performance being able　to be demonstrated in the contest.

【到達目標】	【Outcomes/Aims】
1．ロボットコンテストの要求を把握する。	1. Students understand the demand of the Robot-contest.
2．アイデアをまとめ、役割を分担する。	2. Students bring the idea and the roles.
3．各部の開発を計画的に行う。	3. It develops on premeditation.
4．新規性・特許性を調査し、特色を発表する。	4. Students investigate the patent and novelty.
5．どうすれば性能を発揮できるかの知見を得る。	5. Students finding whether the performance well done.

【学習・教育到達目標】（C）修得した知識を統合し、製品やシステムを考案できる。（G）課題の提案・報告などを適切にまとめ、発表できる。（I）責任を自覚し、互いに協力し合い、チームの目的達成に貢献できる。

【キーワード】	【授業時間】
ロボットコンテスト、マイコン開発、機械加工、機構設計、戦略構築、コスト管理、新技術への挑戦 robot contest , embedded micro computer sysytem , machining , design , strategy construction , cost management, challenge to new technology	4 時間（90 分）×15 週=60 単位時間（45 時間）

【授業方法】

１チーム４名、合計 10 チームに編成する。そして年度毎に新しく考案されるロボットコンテスト課題の要求を把握し、チーム内討議、資料調査に基づきアイデアをまとめる。ここで、新規性・特許調査を行い、自チームの特色をプレゼンテーションする。

機構設計製作、組込マイコン開発、戦略構築、そしてそれらをまとめるリーダーの四つの役割を分担し、それぞれの開発方法の説明を受け、計画的に開発を進める。

コンテストは予選および決勝リーグ戦で行い、性能発揮のための知見を得る。

【学習方法】

1．事前に、種々のロボットコンテストを調査し、参加するための心構えをしておく。
2．競技課題説明書(ルールブック)を詳しく検討し、チーム内討議、資料調査に基づきアイデアをまとめる。
3．役割分担を明確にし、それぞれ担当の開発方法を良く把握し、計画的に開発を進める。
4．新規性・特許性を調査して特色を発表し、コンテストにおいては、どうすれば性能を発揮できるかの知見を得る。

【履修上の注意】

工具、グラフ用紙、電卓を持参すること。
電子工作の作業が多いので慎重さを要する。

【定期試験の実施方法】

定期試験は実施しない。毎回の作業報告および必要部品の請求などは、moodle を介して行う。基本的に、各担当部門毎に図面等の提出物を揃える。また、各チームの特色をアピールするプレゼンテーションを行う。コンテストで得られた知見をレポートに明記する。

【成績の評価方法・評価基準】

成績の評価方法は、毎回の作業報告(30%)、各担当部門の提出物(40%)、プレゼンテーション(30%)に基づく。その評価は、プロジェクトを成功に導くための、各チーム内の貢献具合が到達目標に合致しているかを基準とする。

【科目の位置付け】

1．先行して履修すべき科目
電子回路、計算機工学、情報処理

2．後で履修する関連科目
電子計測実験、電子回路 V、CAD 演習 II

3．同時に履修する関連科目
制御工学

（出典　平成２５年度シラバス）

資料５－２－③－４の続き

【教科書・教材等】
適宜、指導書を配布する。また、moodle からも配布する。

【参考書・参照 URL 等】
いまからはじめる NC 工作、眞柄賢一、オーム社、いまからはじめる電子工作、町田秀和、オーム社
2008 年度の様子　http://www.maizuru-ct.ac.jp/control/machida/4spbl2008/

【授業計画】

期別	週	内容	達成目標	教科書参照ページ
後期	第 1 週	ガイダンス：ルール説明会、開発装置、材料の説明/配布、スケジューリング	1	A
	第 2 週	フィールド仮組立、ルール検討会、基本アイデアディスカッション、特許調査	1	A
	第 3 週	パンチングボード、ビスナットによるプロトタイピング	4	B
	第 4 週	機構設計、機械系 CAD 設計開始	2	B
	第 5 週	電子回路設計、ソフトウェア・プログラミング開始	3	C
	第 6 週	作業継続	3	D
	第 7 週	作業継続	3	A
	第 8 週	作業継続	3	A～D
	第 9 週	作業継続	3	A～D
	第 10 週	作業継続	4	A
	第 11 週	作業継続	3	A～D
	第 12 週	作業継続	3	A
	第 13 週	作業継続	5	A
	第 14 週	コンテスト：予選、決勝リーグ	5	A
	第 15 週	プレゼンテーション、反省会、来年度のルール検討	5	A

指導書は、競技課題などの紙媒体の他、マイコン開発資料などは moodle から入手できるようになっている。

【学生へのメッセージ】
ロボットコンテストは 20 年を超える歴史を持ち、すっかり恒例イベントとして定着した。これに参加するためには、競技課題に上手く対応した画期的なアイデアを思いつくことがまずはじめに来る。次に、そのアイデアを実現するためには、どのような材料や部品があるのか、また機構、電子回路、プログラムなどなどの定番の開発を計画的にこなしていかねばならない。そして、コンテストにおいてはコンテストにおいては、どうすれば性能を発揮できるかの知見を得られれば勝ち抜いて栄冠を得られる。また、コスト管理や新規性・特許性を調査して特色を発表することも、会社での新製品開発のための貴重なシミュレーションとなる。
思い通りに自在に動作するロボットを構築できるよう、環境を整えるので思う存分に戦って欲しい。

（出典　平成２５年度シラバス）

資料５－２－③－５

科　目　名	学 年	期別・授業形態・単位数	教員名　尾上・加登 研究室 [redacted] 内線電話 [redacted] e-mail: [redacted]
建設設計製図Ⅰ Construction design drafting	4	前期・演習・2 単位	
学修単位科目	授業（30 時間）＋ 自己学習（60 時間）＝標準 90 時間の学習時間		

この科目は、実社会で有用なテーマを課題として問題を提起し、具体的な問題設定、問題解決に向けたアイデア創出・計画立案・実行・実現、評価、発表等を通じて創造性を育成する科目である。
与えられた問題や課題を分析して、問題解決のための方策を立案し、計算、解析、設計や製作を行う問題解決能力が要求される授業である。学生自ら資料収集や各種の情報に基づいて問題解決のための方策や手段を考案し、設計製図や作品製作を行い、最終的に成果物を提出する。設計・製作を通じて建築物の機能、寸法、空間構成、製図法、模型製作などを学ぶ。また、人間と都市との関係性、景観、地域文化・歴史との関連性に関しても学ぶ。

【Course Objectives】
Students will study :
1 practical problem-solving skill for useful and effective problems in Architectonics.
2 various creative and effective designs through some information.
3 how to make a creative design and accomplish a new project form their own good ideas.

【到達目標】	【Outcomes/Aims】
1．問題解決策、設計や製作の計画を立てることができる。 2．問題点解決や製作課題に必要な資料や情報を収集することができる。 3．問題点の解決や製作課題に向かって段階ごとの計画を遂行することができる。 4．問題点の解決や製作課題に向かって取り組むスケジュール管理を行うことができる。 5．問題点の解決や課題の製作が実現することができる。	Students will be able to: 1 plan some countermeasures against practical problems and some methods for projects. 2 obtain some useful and effective materials and information for each problem or project. 3 perform each practical plan of problem or project. 4 check each plan of problem or project. 5 finally solve each practical problem and accomplish each project.

【学習・教育到達目標】
（C）修得した知識を統合し、製品やシステムを考案できる。　（H）コンピュータを技術の実践に活用でき。
（I）責任を自覚し、互いに協力し合い、チームの目的達成に貢献できる。

【キーワード】	【授業時間】
問題、課題、設計製図、計画、実行 Problem, project, cad design, plan, practice	2 時間（90 分）□15 回=30 単位時間（22.5 時間）

【授業方法】	【学習方法】
与えられた問題解決や課題製作に当たる。最後に、問題解決結果や課題製作についての PowerPoint による発表会や実演展示会等を行	1．問題解決や課題製作のための情報収集を行う。 2．問題点の解決や製作課題に向かって段階ごとの計画を遂行する。 3．問題点の解決や課題の製作が実現する。

【履修上の注意】
毎授業には電卓を持参すること。
本科目は学修単位科目であり、授業での学習と授業外での自己学習で成り立つものである。

【定期試験の実施方法】
第 15 週目に発表会を行い、定期試験に代える。

【成績の評価方法・評価基準】
発表に対して、教員が評価を行い、それらの合計と自己学習の成果をもっての総合成績とする。資料をまとめた報告書、設計、製図、模型製作、提案書作成についての到達度を評価基準とする。

【科目の位置付け】
1．先行して履修すべき科目
建設製図Ⅰ
建設製図Ⅱ
測量実習
都市計画
建設製図製作

2．後で履修する関連科目

3．同時に履修する関連科目

（出典　平成２５年度シラバス）

資料５－２－③－５の続き

【教科書・教材等】
教科書：特になし
教材　：特になし

【参考書・参照 URL 等】
参考書：　特になし

【授業計画】

期別・回		内　　容	到達目標	教科書参照ページ
前期	第１回	シラバスの説明、問題および課題の提起 演習課題　資料収集	1	
	第２回	問題解決策、設計や製作の計画を立てる 演習課題　資料収集	1	
	第３回	問題解決策、設計や製作の計画を立てる（問題・課題の絞込み） 演習課題　エスキース	2	
	第４回	問題点解決や製作課題に必要な資料や情報を収集・調査・検討 演習課題　エスキース	2	
	第５回	問題点の解決や製作課題に向かって計画を遂行する 演習課題　作図	3	
	第６回	問題点の解決や製作課題に向かって計画を遂行する 演習課題　作図	3	
	第７回	問題点の解決や製作課題に向かって計画を遂行する 演習課題　発表準備	3	
	第８回	問題点の解決や製作課題に向かって計画を遂行する 演習課題　作図	3	
	第９回	問題点の解決や製作課題に向かって計画を遂行する 演習課題　修正	3	
	第10回	問題点の対応策や課題製作を遂行する 演習課題　作図	4	
	第11回	問題点の対応策や課題製作を遂行する 演習課題　作図	4	
	第12回	問題点の対応策や課題製作を遂行する 演習課題　模型製作	5	
	第13回	問題点の対応策や課題製作を遂行する 演習課題　模型製作	5	
	第14回	問題点の対応策や課題製作を遂行する 演習課題　発表準備	5	
	第15回	発表・展示	5	
		★前期期末試験（発表会）		
		制作物返却，到達度確認		

【学生へのメッセージ】
　これまで勉強してきた専門知識を利用して、問題解決や課題製作を行う授業で、教員はアドバイスをするだけで何も教えないので、学生自らが問題を分析し解決策や計画を立てて、計算、解析、設計や製作を実行することになる。
君たちの溢れるアイデアを結集して、これまでに無い成果や作品を創出しよう。

（出典　平成２５年度シラバス）

資料５－２－③－６

科　　目　　名	学 年	期別・授業形態・単位数	教 員 名　学級担任 研 究 室 内線電話 e-mail:
インターンシップ Internship 履修単位科目	4 または 5	原則として夏季休業期間中・ 実習・ １または２単位	

【授業目的】
協定先の海外を含む高等教育機関，企業等における一定期間の実習または研修や就業体験を通じて，専門分野における知識・技術･業務に触れながら実務能力を深め，新たな学習意欲を高めることを目的とする。

【Course Objectives】
Through employment experiences for a fixed period in a company, a public corporation or an organization of a local self-governing body (or a country), students study the manners as member of society, a sense of responsibility over work, an engineer's role and technical importance. Moreover, students raise their occupational onsciousness and can tackle study with a strong awareness for a future employment

【到達目標】
１．社会人としてのマナーや仕事に対する責任感を学ぶ。
２．自らのマナーや責任感を向上することができる。
３．「ものつくり」の技術の大切さを説明できる。
４．進路意識を高め，就職等の対策を立てることができる。
５．今後の勉学の動機付けを見出すことができる。

【Outcomes/Aims】
Students will be able to achieve the following:
1. study the manners as a member of society , a sense of responsibility over work,
2. improve their manners and sense of responsibility,
3. explain the importance of the technology of the making of things,
4. raise the consciousness to employment and plan a measure of job hunting,
5. find out the motivation of future study.

【学習・教育到達目標】
（C）修得した知識を統合し，製品やシステムを考案できる。

【キーワード】
インターンシップ，ものつくり，工場実習
internship, making of things, factory practice

【授業時間】
８時間×５日以上＝40 時間以上（1 単位の場合）
８時間×10 日以上＝80 時間以上（２単位の場合）

【授業方法】
１．原則として，夏期休業中に５日間以上または１０日間以上，交流協定校・企業等に出向いて研修をする。
２．受講申し込みは，「インターンシップ履修に関する規程」に従い「申込書」と「誓約書」を学級担任に提出する。
３．研修終了後は，「インターンシップ実施証明書」を学級担任に提出する。

【学習方法】
１．研修プログラムは，受け入れ機関が指定する場合と，事前打ち合わせをする場合がある。
２．経費については，打ち合わせ先に一任する（日当あり／なし，交通費あり／なし，宿舎あり／なし）。
３．傷害保険に加入する。
４．インターンシップ報告会の資料作成のための自己学習を義務づける。

【履修上の注意】
本校学生として恥ずかしくない態度で臨むこと，また，学習の一環であることを認識し取り組むこと。

【定期試験の実施方法】
なし

【成績の評価方法・評価基準】
１．学生が提出したインターンシップ報告書
２．インターンシップ受け入れ先から発行された実施証明書
３．インターンシップ報告会における発表
について、規程に従って学科長は成績評価を行い，教務委員会にて審議し、合否を判定する。

【科目の位置付け】
１．先行して履修すべき科目
２．後で履修する関連科目
３．同時に履修する関連科目

（出典　平成２５年度シラバス）

資料５－２－③－６の続き

【教科書・教材等】
教科書：
教材　：

【参考書・参照 URL 等】
参考書：

【授業計画】

週	内　　容	到達目標	教科書参照ページ
	原則として，夏期休業中の５日間以上または１０日間以上，協定先の海外を含む高等教育機関，企業，公団，地方自治体，国の機関等に出向き，受け入れ側から提供されるテーマに基づいて実習・研修を行う。	１－５	

【学生へのメッセージ】
インターンシップは技術者教育の一環として，学校で学んだ知識・技術を，協定先の海外を含む高等教育機関，企業等で実際に実習等を体験するものである。
体験を通して，今どのような技術が社会で必要とされているのか，そのためには何を学ぶべきか，また，実際に「ものつくり」の技や学術研究の一端に触れ，同時に自分の技術的・研究的センスを発見する絶好の機会である。
さらには，将来に向けて，進路意識を高め就職・進学対策の一助と位置づけ，取り組んでくれることを期待する。

（出典　平成２５年度シラバス）

資料５－２－③－７

インターンシップ流れ

時期	内　　容	対応
4月下旬	学生課教務係（以下「教務係」という。）から学級担任（専攻長）を通じて本科4・5年、専攻科1年の学生に対して、インターンシップ履修希望の有無を照会する。	教務係→学級担任（専攻長）→本科4・5年、専攻科1・2年学生
	学生は、インターンシップ実施希望の有無、実施を希望する場合は派遣希望先（高等教育機関、企業等）を教務係にて保管する資料を閲覧のうえ選定する。学級担任は、過年度生に対して、再認定申請するか否かの確認を行う。	本科4・5年、専攻科1・2年学生→学級担任（専攻長）
5月上旬	学級担任（専攻長）は、学生が選定したインターンシップ受入れ先を教務主事と協議のうえ決定し、教務係へ「インターンシップ希望調査回答票」を作成・提出する。学級担任（専攻長）は、回投票提出までに希望派遣先に受入可否等の打診を行うことができる。	学級担任（専攻長）→教務係
5月中旬	教務係は、「インターンシップ希望調査回答票」をもとに関係する派遣希望先（高等教育機関・企業等）に受入れの可否を照会し、受入れ内定の可否が決定する。教務係は、その結果を教務主事、学級担任（専攻長）に通知する。	教務係→派遣希望先→教務係→学級担任（専攻長）・教務主事→本科4・5年、専攻科1・2年学生
	学生は受入可能一覧より希望先を学級担任（専攻長）に提出しする。希望先が他の学生と重なる場合、最終希望先は学級担任（専攻長）間の調整を経て決定される。学級担任がすでに希望派遣先とやり取りをしている場合は、当該学級担任（専攻長）の受け持つ学生が優先される。	本科4・5年、専攻科1・2年学生→学級担任（専攻長）→本科4・5年、専攻科1・2年学生
6月	希望先が決まった学生は、「インターンシップ申込書」を学級担任（専攻長）を経由して教務係に提出し、実習先に送付する。	本科4・5年、専攻科1・2年学生→学級担任（専攻長）→教務係→実習先
7月	受入れの内定が決まった学生は、傷害保険等の加入確認及び説明会に出席する。 （傷害保険等に加入しない者及び説明会に欠席した者はインターンシップに参加させない。）	教務主事・教務係
	（学生は、内定企業からの連絡を待ち、必要に応じてインターンシップ開始までに準備等を行う。）	
	原則として夏季休業期間中を利用して、本科学生は5日以上、専攻科生は10日以上にわたりインターンシップを実施する。	本科4・5年、専攻科1・2年学生
9月	インターンシップ終了後、速やかに「インターンシップ報告書」及び「インターンシップ実施証明書」を学級担任（専攻長）を経由して教務係に提出する。	本科4・5年、専攻科1・2年学生→学級担任（専攻長）→教務係
	学級担任（専攻長）は、当該年度当該学科等のインターンシップがすべて終了次第速やかにインターンシップ報告会を実施し、学科長（専攻科長）から実施結果を教務係に提出する。	学級担任（専攻長）→学科長（専攻科長）→教務係

（出典　学生課資料）

資料５－２－③－８

舞鶴工業高等専門学校インターンシップの履修等に関する規程

（趣旨）

第１条　この規程は，舞鶴工業高等専門学校学則第１４条第９項及び第４３条第４項の規定に基づき，インターンシップの履修等に関し，必要な事項を定める。

（目的）

第２条　本校が開設するインターンシップは，交流協定書又は覚書（以下「協定書等」という。）に基づく協定先の海外を含む高等教育機関（以下「協定先」という。）における実習又は研修や，企業等の就業体験を通じて専門分野における知識・技術・業務に触れながら実務能力を深め，学生の新たな学習意欲を高めることを目的とする。

（実施機関）

第３条　学生がインターンシップを受ける協定先，国若しくは地方公共団体の機関又は企業等の法人(以下「実施機関」という。）は，当該学科長（専攻科生にあっては当該専攻長），学級担任及び教務主事と協議の上，校長が選定する。

（実施時期及び実施期間）

第４条　インターンシップの実施時期は，原則として夏季休業期間中とし，実施期間は，準学士課程生にあっては５日以上，専攻科生にあっては１０日以上とする。

（申込書の提出）

第５条　インターンシップの履修を受けようとする学生（以下　「インターンシップ生」という。）及びその保護者は，インターンシップ申込書（第１号様式）に必要事項を記入の上，学級担任(専攻科生にあっては専攻長。以下同じ。)を経て校長及び実施機関に提出しなければならない。

２　校長が必要と認めた場合には，前項の申込書は，実施機関の指定する申込書等に替えることができるものとする。

（履修心得）

第６条　インターンシップ生は，本校並びに実施機関の定める諸規則及び実施機関の責任者の指示に従って就業を体験するものとする。

（実施証明書の提出）

第７条　インターンシップ生は，インターンシップ実施後，速やかにインターンシップ実施証明書（第２号様式）を学級担任を経て学生課教務係へ提出するものとする。

（成績評価）

第８条　インターンシップの成績評価は，学科長等から提出されたインターンシップ成績評価（第４号様式。以下「成績評価」という。）に基づき，次の各号に掲げる表を総合して行う。

（１）　実施機関による評価

実施機関が作成したインターンシップ実施証明書を成績評価に定める方法により評価を行い，学級担任が成績評価に記載する。

(2)　インターンシップ報告書に対する評価

インターンシップ生が作成したインターンシップ報告書について，成績評価に定める方法により評価を行い，学級担任が成績評価に記載する。

（３）　インターンシップ報告会における評価

学級担任は，当該年度当該学科等のインターンシップがすべて終了次第速やかにインターンシップ報告会(以下「報告会」という。）を専門学科所属の教員(専攻科にあっては専攻科担当教員)の中から少なくとも３名以上による評価者を構成のうえ実施するものとする。

なお，報告会は，インターンシップ生１人当たり発表５分，質疑応答３分を標準とする。

また，学科長(又は専攻長)は，報告の実施結果を成績評価に定める方法により評

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料５－２－③－８の続き

価のうえ速やかに学生課教務係に提出するものとする。

（単位の認定）

第９条　単位の認定は，教務委員会（専攻科生にあっては専攻科委員会）の議を経て校長が行う。

２　インターンシップの単位数は，実施期間が５日～９日の場合を１単位，１０日以上の場合を２単位とする。

ただし，認定された年度の翌年度以降において当該学年に留められた場合は，１０月末までにインターンシップ単位再認定申請書（第３号様式）により願い出ることにより，再履修する学年の単位として認定される。なお，当該年度にインターンシップを再履修する場合は，前年度以前に認定された単位は無効となる。

３　インターンシップを履修できる学年は，準学士課程では４年及び５年としてそれぞれ２単位までとする。また，専攻科課程では１年又は２年としていずれか２単位までとする。

（保険及び経費）

第 10 条　インターンシップの実施に要する経費は，原則としてインターンシップ生の負担とし，傷害保険に加入するものとする。

（成績評価表等の保存）

第 11 条　学科長等から提出された成績評価は，学生課教務係において５年間保管する。

（雑則）

第 12 条　この規程に定めるもののほか，インターンシップの実施に必要な事項は，別に定める。

（事務）

第 13 条　インターンシップの事務は，学生課教務係において処理する。

附　則

この規程は，平成１９年１０月２日から施行し，平成１９年４月１日から適用する。

附　則

この規程は，平成２０年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成２２年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成２４年１０月９日から施行し，平成２４年４月１日から適用する。

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料５－２－③－９

インターンシップ報告書

平成　24年　9月　19日

舞鶴工業高等専門学校長　　殿

電気情報　工学科(専攻)　4　年

氏　名　[redacted]

下記のとおりインターンシップが修了しましたので報告します。

実習先	株式会社　jig.jp　開発センター
実習先の所在地	福井県鯖江市新横江 2-3-4 めがね会館　7階
実習期間	平成　24年　8月　20日　　～　9月　7日　　19日間
実習目的	会社で行われている業務(アプリケーション開発)を実際に行い、自身のプログラミングスキルの向上を目指す。また、自身の進路選択の判断材料とする。
実習内容	Web アプリケーション開発の一連の作業（アイデア出し、企画、設計、要件定義、プログラミング、引き継ぎのための資料作成）を３人１チームで行った。言語は HTML5、JavaScript、CSS などを用い、自分は主に PHP を介してデータベースと通信を行う JavaScript のメソッドの実装を行った。
実習成果	開発したアプリケーションはなんとか完成し、成果報告会にて発表することができた。開発作業によって目的としていたプログラミングスキルの向上も成し得たが、それよりもチームでの開発手法を学ぶことができたことが大きな成果に感じられた。また、インターン生として集められた 12 人はいずれもプログラミング好きな高専４年生であり、チーム開発や共同生活を通じて仲良くなることができた。
感想	アプリケーション開発自体は普段から行なっていることだが、全国から集まった高専生と開発することは今までに無く、貴重な体験をすることができた。また、懇親会や鯖江市散策など開発以外の企画や、インターン生との共同生活など、毎日を楽しく過ごすことができた。

（出典　学生課資料）

資料５－２－③－９の続き

インターンシップ報告書

平成　24年　9月　24日

舞鶴工業高等専門学校長　　殿

建設システム 工学科（専攻） 4年

氏 名 [redacted]

下記のとおりインターンシップが修了しましたので報告します。

実習先	舞鶴市役所
実習先の所在地	舞鶴市字北吸１０４４番地
実習期間	平成　２４年　８月　２７日　～　８月　３１日　５日間
実習目的	私が社会に出ていくときに必要になるものは何なのか、また、自分に足りないものは何なのか、実際に仕事を体験して学ぶこと。
実習内容	都市計画課で行われている業務の一部を実際に体験しました。 ・公園の管理について ・まちづくりに対してのアンケート作成 ・屋外広告物の調査 ・計画図面の作成　等
実習成果	私の今、勉強している内容が実際に社会に出ていくときにどのように役に立つかなど、具体的に知ることが出来ました。CAD を用いた作業などでは、図面を正確に、素早く仕上げる力が必要であるし、さらに、他の人に自分の意見を伝えることなど、幅広い範囲で勉強が必要であると知ることが出来ました。
感想	知らないことがたくさんあると気づいた五日間でしたが、得たこともたくさんありました。社会に出る前に、社会人としての仕事や責任の重さなどを感じることができた五日間だったと思います。自分の今持っている知識をさらに明確なものにすることは今後の課題であると感じました。緊張感のある中で、自分の力を発揮することはとても難しく、大変なことですが、日々の生活の中で、慣れることができるように練習していきたいと思います。

（出典　学生課資料）

資料５－２－③－10

（第２号様式）

インターンシップ実施証明書

<table>
<tr><td>学籍番号</td><td colspan="2"></td><td colspan="3"></td></tr>
<tr><td>機関名</td><td colspan="2">舞鶴工業高等専門学校</td><td>学科（専攻）・学年</td><td colspan="2">工学科
・第　　学年
システム専攻</td></tr>
<tr><td>氏　名</td><td colspan="2"></td><td>実施期間</td><td colspan="2">年　月　日
～
年　月　日　（実働　　日間）</td></tr>
<tr><td>実施機関</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td>テーマ</td><td colspan="5"></td></tr>
<tr><td rowspan="4">実施結果</td><td>評　価</td><td colspan="4">□優れている　□良　好　□普　通　□やや劣る　□劣る</td></tr>
<tr><td>実習態度
について
総合所見</td><td colspan="4"></td></tr>
<tr><td rowspan="2">出欠状況
（日　数）</td><td>出　勤</td><td>欠　勤</td><td>遅　刻</td><td>早　退</td></tr>
<tr><td>日</td><td>日</td><td>日</td><td>日</td></tr>
<tr><td>備　考</td><td colspan="5"></td></tr>
</table>

年　　月　　日

上記のとおり実務経験を実施したことを証明いたします。

実施機関名　：

責任者氏名　：　　印

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料５－２－③－11

（第４号様式）

年　　月

教　務　主　事　殿
専　攻　科　長　殿

学科（専攻）長　　印

インターンシップ成績評価

標記の件について，下記のとおり成績評価を行いましたので報告します。

記

発表番号	学生氏名	評価項目			評価点	総合評価	備考
		実施機関		5　4　3　2　1			
		報告書		5　4　3　2　1			
		報告会	プレゼンテーション	評価者平均			
			インターンシップ内容	評価者平均			
		実施機関		5　4　3　2　1			
		報告書		5　4　3　2　1			
		報告会	プレゼンテーション	評価者平均			
			インターンシップ内容	評価者平均			
		実施機関		5　4　3　2　1			
		報告書		5　4　3　2　1			
		報告会	プレゼンテーション	評価者平均			
			インターンシップ内容	評価者平均			
		実施機関		5　4　3　2　1			
		報告書		5　4　3　2　1			
		報告会	プレゼンテーション	評価者平均			
			インターンシップ内容	評価点平均			
		実施機関		5　4　3　2　1			
		報告書		5　4　3　2　1			
		報告会	プレゼンテーション	評価者平均			
			インターンシップ内容	評価者平均			

（報告会評価者）

発表番号	学生氏名	評価者氏名	プレゼンテーション		インターンシップ内容		備考
			評価	評価点	評価	評価点	
			a　b　c　d		a　b　c　d		
			a　b　c　d		a　b　c　d		
			a　b　c　d		a　b　c　d		
			a　b　c　d		a　b　c　d		
			a　b　c　d		a　b　c　d		
			a　b　c　d		a　b　c　d		
			a　b　c　d		a　b　c　d		
			a　b　c　d		a　b　c　d		
			a　b　c　d		a　b　c　d		
			a　b　c　d		a　b　c　d		
			a　b　c　d		a　b　c　d		
			a　b　c　d		a　b　c　d		
			a　b　c　d		a　b　c　d		
			a　b　c　d		a　b　c　d		
			a　b　c　d		a　b　c　d		
			a　b　c　d		a　b　c　d		

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料５－２－③－11 の続き

１．評価項目及び評価点について

（実施機関）　５．優れている　４．良好　３．普通　２．やや劣る　１．劣る

（報告書）
１：次の a～d のいずれも満たしていない
２：次の a～d のうち，１つを満たしている
３：次の a～d のうち，２つを満たしている
４：次の a～d のうち，３つを満たしている
５：次の a～d のうち，４つを満たしている

a　従事したテーマの社会的，工学的，技術的意味を理解し，適切に説明している。
b　テーマの目的達成のための手法，手段を理解し，成果とのつながりを理解している。
　〔作業目的，プロセス，成果（結論）を理解し，これらを説明している。〕
c　インターンシップとして取組む姿勢が技術者としてふさわし内容とレベルを有している。
d　インターンシップを通じて，インターンシップの具体的な成果が示されている。
　〔学生の適正，何か得るべきものがあった，自分の進路に対する何らかの情報が得られた等の内容となっている。〕

（ﾌﾟﾚｾﾞﾝﾃｰｼｮﾝ）
１：次の a～d のいずれも満たしていない
２：次の a～d のうち，１つを満たしている
３：次の a～d のうち，２つを満たしている
４：次の a～d のうち，３つを満たしている
５：次の a～d のうち，４つを満たしている

a　発表資料（形式，構成等）が適切に仕上がっている。
b　発表ははっきりした口調，堂々とした態度で，発表時間が守られている。
c　従事したテーマを説明する図表等は分かりやすく，効果的に使われている。（プレゼン技術）
d　従事したテーマの目的，内容，結果等が良くまとまっている。（組み立て，ストーリー）

（ｲﾝﾀｰﾝｼｯﾌﾟ内容）
１：次の a～d のいずれも満たしていない
２：次の a～d のうち，１つを満たしている
３：次の a～d のうち，２つを満たしている
４：次の a～d のうち，３つを満たしている
５：次の a～d のうち，４つを満たしている

a　従事したテーマの社会的，工学的，技術的意味を理解し，適切に説明できる。
b　目的達成のための手法，手段を理解し，成果とのつながりを理解している。
　〔従事したテーマの目的，プロセス，成果（結論）を理解し，これらを説明できる。〕
c　質問の意味を的確に理解し，適切な回答ができる。
d　インターンシップとして取組む姿勢が，技術者としてふさわしい内容とレベルを有している。

２．評価方法及び総合評価について

（実施機関）の評価点【満点 5】，（報告書）の評価点【満点 5】及び（報告会）の評価点【満点 10】を合計点【満点 20】とし，これを 100 点法に換算して評価する。

舞鶴工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則第３条第２号の規定に従い，Ａ＋～Ｆ評価を行う。
100～90：Ａ＋　89～80：Ａ　79～70：Ｂ　69～60：Ｃ　59～0：Ｆ
なお，（報告会）は専門学科所属の少なくとも３名以上の評価者をもって実施し，評価点は３名以上の評価者の平均点とする。

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，創造性を育む教育を重視しており，各学科の実験・実習科目において，創造性を育むプログラムが系統的に組み込まれている。また，インターンシップは高等教育機関や企業等の実務体験を通じて学習意欲を高めることを目的として，第４～５学年で実施している。

以上のことから，本校では，創造性を育む教育方法の工夫を行っており，インターンシップの活用も図られている。

観点５－３－①：　教育課程の編成において、一般教育の充実や特別活動の実施等、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。また、教育の目的に照らして、課外活動等において、豊かな人間性の涵養が図られるよう配慮されているか。

（観点に係る状況）

本校では，準学士課程の学習・教育到達目標（Ｅ）に「技術者に必要な人間性，国際性，協調性及び英語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける。」を掲げ，人文系科目の充実，全学年での「保健体育」の授業の実施，特別活動（１～３年）の工夫等により豊かな人間性の涵養を図っている（資料５－３－①－１～３）。その他，や各種の学校行事，学生会活動も，豊かな人間性の涵養に資するものとなっている（（資料５－３－①－４～11）。クラブ活動等には全教員が顧問として配置され，ここでも人間性が磨かれている（資料５－３－①－12）。

資料５－３－①－１

表1 学習・教育到達目標に到達するための授業科目の流れ（H25年度開講科目）

（電情系：電気情報工学科、電制系：電子制御工学科、機械系：機械工学科、建設系：建設システム工学科（2コース制））

学習・教育目標	学科系	1年次		2年次		3年次		4年次		5年次	
		専門	一般_専門共通	専門	一般_専門共通	専門	一般_専門共通	専門	一般_専門共通	専門	一般_専門共通
(E) 技術者に必要な人間性、国際性、協調性及び英語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける	電情系		総合英語ⅠA(◎) 総合英語ⅠB(◎) 英会話ⅠA(◎) 英会話ⅠB(◎) 現代文Ⅰ(◎) 現代文Ⅱ(◎) 古文Ⅰ(◎) 古文Ⅱ(◎) アート＆デザインⅠ(◎) アート＆デザインⅡ(◎) 日本史(◎) 地理(◎) 保健体育Ⅰ(◎)		総合英語ⅡA(◎) 総合英語ⅡB(◎) 英会話ⅡA(◎) 英会話ⅡB(◎) 総合国語ⅠA(◎) 総合国語ⅠB(◎) 世界史Ⅰ(◎) 世界史Ⅱ(◎) 保健体育Ⅱ(◎)	インターフェースⅠ(◎) インターフェースⅡ(◎)	総合英語ⅢA(◎) 総合英語ⅢB(◎) 総合国語ⅡA(◎) 総合国語ⅡB(◎) 人間論Ⅰ(◎) 人間論Ⅱ(◎) 日本語A（留学生）(◎) 日本語B（留学生）(◎) 保健体育Ⅲ(◎)		国語国文Ⅰ(◎) ドイツ語Ⅰ(◎) 中国語Ⅰ(◎) 心と癒しⅠ(◎) 金融工学Ⅰ(◎) 国語国文Ⅱ(◎) ドイツ語Ⅱ(◎) 中国語Ⅱ(◎) 心と癒しⅡ(◎) 金融工学Ⅱ(◎) 総合英語ⅣA(◎) 総合英語ⅣB(◎) 実践英会話Ⅰ(◎) 経済学(◎) 哲学(◎) 法学Ⅰ(◎) 法学Ⅱ(◎) 日本語C(◎) 日本語D(◎)		韓国語Ⅰ(◎) 現代社会と宗教Ⅰ(◎) 現代日本の政治Ⅰ(◎) 現代日本の経済と法Ⅰ(◎) ドイツ文化論Ⅰ(◎) 韓国語Ⅱ(◎) 現代社会と宗教Ⅱ(◎) 現代日本の政治Ⅱ(◎) 現代日本の経済と法Ⅱ(◎) 総合英語VA(◎) 総合英語VB(◎) 実践英会話Ⅱ(◎) 日本語E(◎) 日本語F(◎)
	電制系									技術英語Ⅰ(◎) 技術英語Ⅱ(◎)	
	機械系									工業英語(◎)	
	建設系										

（出典　学生課資料）

資料５－３－①－２

科　目　名	学 年	期別・授業形態・単位数	教員名　小野　伸一郎，梅垣　浩二 研究室 [redacted] 内線電話 [redacted] e-mail: [redacted]
保健体育Ⅴ Physical Education Ⅴ	5	通年・実習・２単位	
履修単位科目			

【授業目的】

生涯にわたる健康維持のために，1.継続的な運動・スポーツ実践の重要性を理解する，2.運動・スポーツの安全な実施方法を身につける．3.自主的な運動・スポーツの実践を通じて運動・スポーツに親しむ態度を体得する．

【Course Objectives】

The purposes of this physical education class are as follows: 1.to understand consequences of doing sports and exercises for one's own health during lifetime, 2.to obtain safe manners of doing sports and exercises should be done, 3.to foster a sense of enjoyment in the participation of sports activities and exercises.

【到達目標】	【Outcomes/Aims】
１．一定以上の運動量を確保した活動が実践できる ２．能力に応じた適切な目標が設定できる ３．安全を第一として，ルールやマナーによって秩序付けられた活動ができる ４．競争や挑戦,仲間とのふれあいを楽しむことができる ５．体を動かす中で，その感覚を意識することができる	Students will be able to: 1. do moderate to slightly strenuous exercise, 2. adjust this intensity and duration of exercise, 3. institute local rules to resolve individual talent diff. 4. compare and enjoy with others in sports activities, 5. feel skills how to control their own body in mind.

【学習・教育到達目標】

（E）技術者に必要な人間性，国際性，協調性及び英語による基本的なコミュニケーション能力を身につける．

【キーワード】	【授業時間】
体力トレーニング，運動生理学，ニュースポーツ Physical fitness training, Exercise Physiology, New sports	2時間（90分）×30週＝60単位時間（45時間）

【授業方法】	【学習方法】
前後期を通じて，学生それぞれの興味や特性に応じて種目を選択し，グループを作ってその種目に取り組む授業を展開する． また各時間の最初に，体力づくりとしてサーキットトレーニングやランニングを行う．	実技科目であるので，健康に十分留意して授業に参加する． 授業では，自主的かつ積極的な運動・スポーツの実践を行う． 授業以外にも週３－４日の運動・スポーツの実践をこころがける．

【履修上の注意】

ジャージ等に着替えること
体育館内では，専用の室内シューズを履くこと
屋外では，運動に適したシューズを履くこと

【定期試験の実施方法】

定期試験は行わない．授業中の自主的・積極的な活動状況，および後期末のレポートによって評価する．

【成績の評価方法・評価基準】

以下の観点からみて，到達目標の到達度を評価する．
・ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ：ｸﾞﾙｰﾌﾟやﾁｰﾑをまとめる，ｹﾞｰﾑを運営する
・協調性：ゲームや練習に協力して取り組む
・技能：個人技能や集団技能を高められる
・意欲：運動強度や技術などに関して目標がもてる
・知識・理解：健康保持・体力増進の一般的知識がわかる

【科目の位置付け】

１．先行して履修すべき科目
保健体育１，同Ⅱ，同Ⅲ，同Ⅳ

２．後で履修する関連科目

３．同時に履修する関連科目

（出典　平成２５年度シラバス）

資料５－３－①－２の続き

【教科書・教材等】
教科書：　近畿地区高等専門学校体育研究会編「保健体育概論」（晃洋書房）
教材　：　必要に応じて資料を配布する

【参考書・参照 URL 等】
必要に応じて提示する

【授業計画】

期別	週	内　容	到達目標	教科書参照ページ
前期	第１週	シラバス内容の説明，種目選択によるグループ学習	１―５	
	第２週	種目選択によるグループ学習		
	第３週	〃		
	第４週	〃		
	第５週	〃		
	第６週	〃		
	第７週	〃		
	第８週	★前期中間試験		
	第９週	種目選択によるグループ学習	１―５	
	第10週	〃		
	第11週	〃		
	第12週	〃		
	第13週	〃		
	第14週	〃		
	第15週	〃		
		★前期期末試験		
		前期期末試験返却，到達度確認		
後期	第１週	種目選択によるグループ学習	１―５	
	第２週	〃		
	第３週	〃		
	第４週	〃		
	第５週	〃		
	第６週	〃		
	第７週	〃		
	第８週	★後期中間試験		
	第９週	種目選択によるグループ学習	１―５	
	第10週	〃		
	第11週	〃		
	第12週	〃		
	第13週	〃		
	第14週	〃		
	第15週	〃		
		★後期期末試験		
		後期期末試験返却，到達度確認		

【学生へのメッセージ】
本校では４・５年生になると，半分以上の学生が月１～２回程度しか運動しないか，あるいはほとんど運動しない状態です．今後このような状態が続くようでは，将来の健康や体力（行動体力だけでなく防衛体力も含めて）の低下，生活習慣病の若年化，医療費の増大など，さまざまな問題が引き起こされます．それらを解決するための基礎的知識や教養として，保健体育は不可欠です．
「種目選択によるグループ学習」とは，これまでのスポーツ経験や各個人の興味・関心を活かして，フットサル・サッカー・ソフトバレーボール・卓球・バドミントン・バスケットボール・ショートテニス・テニス・ジョギング・ウォーキング・ウエイトトレーニング・水泳・ゴルフ・フライングディスク・ソフトボール・軟式野球などから種目を選択し，種目ごとにグループを作り，自主的に取り組むことを行います．強制されることなく，これから社会へ出てから取り組む運動・スポーツの形態だと言えるでしょう．まさしく高専体育の総まとめです．
しかし何より，体育の授業を通して，勉強でのストレスを解消し，仲間との交流を図り，日々の生活での活力が取り戻せるようにしましょう．

（出典　平成２５年度シラバス）

資料５－３－①－３

舞鶴工業高等専門学校

特別活動実施記録

平成　２３　年　４　月	３　年　Ｍ　組

担任署名 [redacted]	副担任署名

実施日	実施内容
11日	・提出物確認（緊急連絡先、単位確認表、追認願） ・クラス委員、留学生チューターの選出 ・内科検診、奨学金の連絡 ・アルバイト、悪徳商法における注意事項 ・奨学金の連絡 ・交通安全講習会の連絡 ・東北大地震被災地でのボランティア活動について ・豊橋技術科学大学の説明会
18日	・豊橋技術科学大学の説明会の再連絡 ・交通安全講習会の再連絡 ・奨学金の連絡（京都府民、滋賀県民）
25日	・追試験願提出の再連絡 ・交通安全講習会の再連絡 ・スポーツフェスタ参加種目の決定 ・奨学金等の連絡 ・無断欠席、無断欠課学生への登校指導 ・個人面談
日	
日	

提出先：教務係→教務主事→教務係に１年間分保管

確認印欄

教務係	教務主事
[redacted]	[redacted]

（出典　学生課資料）

資料５－３－①－３の続き

舞鶴工業高等専門学校

特別活動実施記録

平成　２４年　６月	１年　１組

担任署名 [redacted]	副担任署名 [redacted]

実施日	実施内容
８日	【環境美化活動】第二体育館・１番から10番までの学生 （４日(月)から８日(金)までは、前期中間テスト期間）
11日	【プリント配布・指導】新聞の読み方とメディア・リテラシーについて解説
18日	【先週の解説を具体例のニュースで確認】配布記事「男女共同参画週間」　○男女格差９８位・定位置にしていいのか(2011/11/14 高知新聞)　○「超裕福な専業主婦」ロムニー夫人論争 米大統領選(2012/04/17 朝日＋2012/04/19 産経) 【配布】「避難経路図」と「放射能汚染から身を守るために」【注意】夏風邪（すでに欠席者３名出ている）【連絡】歯科検診の実施日の変更
25日	【注意】日本学生支援機構奨学金・採用者説明会への出席 【防災訓練】

提出先：教務係→教務主事→教務係に１年間分保管

確認印欄

教務係	教務主事
[redacted]	[redacted]

（出典　学生課資料）

資料５－３－①－４

平成２５年度
舞鶴工業高等専門学校
新入生合宿研修
生　活　の　し　お　り

若 狭 の 美 し く も 厳 し い
大 自 然 の 中 で 試 し て み よ う ！

国立若狭湾青少年自然の家	
〒917－0198	福井県小浜市田烏区大浜
	TEL　0770－54－3100（代表）
	FAX　0770－54－3023

（出典　学生課資料）

資料５－３－①－４の続き

平成25年度 新入生合宿研修実施要項

1. 目　的　　集団生活における友情，互助，寛容等の精神を学び，教職員と寝食を共にすることにより，相互信頼と規律遵守の態度を身に付けることを目的とする。

2. 期　日　　平成25年4月11日(木)～ 4月12日(金)

3. 場　所　　国立若狭湾青少年自然の家(小浜市田烏区大浜)

4. 対　象　　新入生全員

5. 日　程　　別紙のとおり

6. 費　用　　学生負担 3，060円（食事代･うるしだるま実施経費）
（荒天の場合3,260円　若狭塗り箸材料費追加）
（研修旅行積立金から支出予定）

7. 引　率　　校長、学生主事，学生委員，学級担任，副担任，
学生支援係職員(計17名)

8. 服　装　　往復路とも体育の服装とし，靴は運動靴（ズック靴）とする。
（合宿先も同様）

9. 携行品　　体育館シューズ（スリッパ不可），洗面具，石けん，タオル，ハンドクラフト用の雑巾またはタオル，着替え（下着類･トレーニングウェアの上下），セーター(ジャンパー)，寝間着，健康保険証の写し，
帽子（ひも付など風でとばされにくいもの），ビニールカッパ，ノート，筆記具，使い慣れた常備薬（必要がある者のみ），その他

10. その他　　(1) 合宿場所への飲食物の持ち込みは厳禁する。
(2) 携行品(特に運動靴)には必ず**名前を書いておくこと。**
(3) 乗り物酔い（バス･船）をする者は，あらかじめ学生支援係まで申し出るとともに，各自で酔い止めの薬を用意しておくこと。
(4) 小雨でもカッター漕艇は実施するので、必ず雨具（ビニールカッパ）と着替えを用意すること。

（出典　学生課資料）

資料５－３－①－５

H19～23 年度海外研修旅行の各学科の行先

年度	H19 年度 9 月 12－15 日 (E のみ 8/22－25)		H20 年度 11 月 18－20		H21 年度 11 月 17－20 日		H22 年度 11 月 16－19 日		H23 年度 11 月 15－18 日		H24 年度 11 月 13－17 日	
	行先、見学先	担当	行先、見学先	担当	行先、見学先	担当	行先、見学先	担当	行先、見学先	担当	行先、見学先	担当
機械	タイ キングモンクット工科大学 イスズ、ヤンマー、トヨタ		中国 大連市立職業技術学院 大連経済開発区		韓国 高麗大学 ヒュンダイ自動車		台湾 国立高雄第一科技大学 双葉電子		韓国 漢陽大学 (A コース)浦項工科大学、浦項製鉄所 (B コース)前川製作所		ベトナム ハノイ交通通信大学 エンケイベトナム (タンロン工業団地)	
電気	韓国 高麗大学 なし		台湾 国立高雄第一科技大学 高雄高速鉄道		タイ キングモンクット工科大学 日進製作所		ベトナム ハノイ交通通信大学 タンロン工業団地		台湾 高雄第一科技大学 (A コース)双葉電子 (B コース)ソフト園区		韓国 高麗大学 富士ゼロックスコリア仁川工場	
制御	中国 大連市立職業技術学院 なし		鹿島建設 タイ キングモンクット工科大学 日進製作所		台湾 国立高雄第一科技大学 アルバック		韓国 高麗大学 前川製作所		ベトナム ハノイ交通通信大学 サンコールテクノロジー		台湾 高雄第一科技大学 ULVAC アルバック	
建設	台湾 国立高雄第一科技大学 なし		韓国 高麗大学 仁川(インチョン)大橋現場		ベトナム ハノイ交通通信大学 東急建設ニャッタン橋		ベトナム ハノイ建設大学 東急建設ニャッタン橋		ベトナム ハノイ建設大学 東急建設ニャッタン橋		タイ キングモンクット工科大学 東急建設 MRTA 工事現場、チャオプラヤ川船上視察	

（出典　学生課資料）

資料５－３－①－５の続き

建設システム工学科　タイ
平成 24 年 11 月 13 日(火)～17 日(土)

タイ・バンコク研修旅行引率記

4 年建設システム工学科　担任　三輪　浩

建設システム工学科は 11 月 13 日(火)から 17 日(土)までタイのバンコクに行きました。交流協定校のキングモンクット工科大学（King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang）へ表敬訪問し，東急建設のバンコク地下鉄（パープルライン）の建設現場を見学しました。また，チャオプラヤ川の船上視察，王宮等のタイ伝統建築物の見学も行いました。連日 30 度を優に超す気温でしたが，学生たちは積極的に行動し，有意義な研修旅行となりました。

キングモンクット工科大学では Suwansawat 学部長を始めとする教職員の方々と本校での短期滞在経験のある学生たちの歓迎を受け，両校および訪問者の紹介，教育研究施設の見学，昼食をとりながらの学生交流などを行い，お互いの親交を深めることができました。とくに，大門君，出口君，西尾君の 3 名は，プロジェクターを用いて京都と舞鶴高専の紹介を英語で行うという重要な任務を果たしてくれました。地下鉄の建設現場見学では，事務所での事前説明の後，工事現場に移動しました。事務所と現場での質疑応答では多くの学生が積極的に質問し，担任として嬉しく思いました。異国の地で働くことの困難さと充実感，先進国としての国際貢献の重要性，国情による工事内容の違いを学んでくれたと思います。なお，副所長が，業務文書は全て英語なので読解力と理解力が非常に重要であると強調されていたのは印象的でした。

土木・建築分野の学生としての知見をより深める観点から，チャオプラヤ川とタイ伝統建築物の視察も行いました。昨年のモンスーン期に大洪水が発生し，甚大な被害につながったチャオプラヤ川ですが，バンコクの主要な交通路の一つでもあります。日本とはかなり趣を異にする河川であり，周辺の状況や橋梁施設を約２２km にわたって船上から観ることができました。王宮やワットプラケオ，ワットアルン，ワットポーなどの伝統建築物は，とくに建築を専攻する学生に強い印象を与えたと思います。これらの視察では現地ガイドのラットさんの説明に，学生たちは熱心に聞き入っていました。

以上の他に，生活環境，食文化，交通事情など数日の滞在でも日本とは異なった状況に多くの学生が強い印象を持ったようです。これらも含め，今回の経験を何らかの形で将来に生かしてくれることを願っています。最後になりましたが，お世話になったキングモンクット工科大学の教職員と学生の皆様，東急建設パープルライン建設現場の皆様に厚く御礼申し上げます。

（出典　『学校だより』Ｖｏｌ．１２２）

資料５－３－①－５の続き

タイ研修旅行記

４年建設システム工学科 [redacted]

今回の研修旅行では様々な体験をしました。

一つ目はタイのキングモンクット工科大学での研修です。校内見学中に見た学生の雰囲気も明るくて，私達と同じように自由な学生生活を楽しんでいるように感じました。また実験室で見たことのない実験器具もある反面，高専にあるような水理実験装置も見られ，またコンクリート供試体のせん断面を見た時には少しホッとしました。ただ，実際の大学生の方たちには緊張して話しかけられず残念でした。

二つ目はタイの伝統建築の観光に行きました。王宮・エメラルド寺院にはただ圧倒されるばかりでした。金色がベースになってその中に赤，青，緑，白などのカラフルなモザイクがはめ込まれ，見ているだけで気分が高揚してきました。特に，太陽の光を浴びて立っている金色の構造物は荘厳の一言に尽きます。さすが国で最も偉い人の住居。正直居るだけで緊張して，住むという実感がわきません。

タイの街並みは車がピンク色だったり，道路の分離帯に花が植えられていたり全体的に華やかな雰囲気で，それがこの王宮の雰囲気と似ていると感じました。日本にこの王宮があったらきっと違和感があるでしょう。ここにタイらしい文化を感じました。また，王宮には西洋風の少し変わった建物もありました。ガイドさんの説明によると多文化が取り入れられた建造物も存在するそうです。青と白のシンプルな色遣いで模様は花みたいでとてもかわいかったです。このほかにも涅槃寺，大理石寺院，黄金物寺院などを見学しに行きました。どのお寺にも金に輝く仏像があり，日本の寺とはまた違った美しさをみることができました。

三つ目は東急建設パープルライン工事現場を見学し，実際に職場の人にお話を聞きました。国によって違う感覚や文化を踏まえると外国人の人達と一緒に作業することの大変さを聞き，もし自分だったらどうするかを考えさせられました。将来のためになるお話しが聞けてよかったです。

この研修旅行で日本とは違う文化，気候，建物を少し知ることができました。今回訪れたバンコクではタイの首都であるぶん，高層ビルや高速道路があって日本と似た街並みのように感じました。またタイに行く機会があれば民族固有の文化ともっと触れ合いたいです。

（出典　『学校だより』Ｖｏｌ．１２２）

資料５－３－①－６

平成 25 年度第１回の境美化清掃実施要項

【目　　的】
本活動は，環境に対する関心や意識を高め，本校の学習環境の整備を図ることを目的に，構内及びその周辺部の清掃を行う．

【日　　時】
本　科　　平成 25 年 6 月 7 日（金）12:50　：ホームルームに集合
専攻科　　平成 25 年 6 月 7 日（金）16:10　：専攻科棟玄関に集合

【清掃場所】
別紙のとおり

【対　　象】
各クラスの人員を 4 つに分け，4 回の定期試験終了後にクラスの 4 分の 1 の者だけが掃除を行う（すべての学生は，年１回は清掃を担当する）．また，専攻科生は全員参加する．

【実施方法】
担当学生は，上記日時にホームルーム（専攻科生にあっては専攻科棟玄関）に集合し，学級担任・専攻長の点呼を受ける．担任・専攻長からの連絡及び注意を受けた後，清掃担当学生は，学生支援係で清掃道具を受け取り，指定された区域を清掃する．主な作業は，ゴミ拾い，空き缶回収廃棄物回収，屋内清掃等である．清掃終了後，ゴミを集積場（クラブハウス北側）へ運び，分別する．借用した掃除道具は集積場に返却する（雨天の場合は学生支援係に返却）．

【指導体制】
本部は集積場（クラブハウス北側）とする．本活動は学生委員会・学級担任・事務部が主体となって実施する．

【雨 天 時】（本科）
本部を学生支援係に設置する．清掃場所は各クラスのホームルームとし，雑巾がけを含む念入りな清掃を行う．ホームルームの清掃道具だけでは足りない場合，学生支援係で清掃道具を受け取る．

【そ の 他】
当行事は，皆勤賞・精勤賞の対象となり，行事への不参加者は「1 時間の欠席」として取り扱われ，入寮選考の減点対象とする．
また車両許可を受けている学生については，車両許可の停止や取り消しをする場合がある．

（出典　学生課資料）

資料５－３－①－６の続き

清掃区域分担図

（出典　学生課資料）

資料５－３－①－６の続き

清掃区域割当表〔学生及び教員〕

番号	区　域	学年・クラス	清掃指導担当教員	控え
1	学寮南東側の道路角	2-1	[redacted]	[redacted]
2	学寮南側市道	2-2		
3	C棟・専攻科棟・プール南側市道	2-3		
4	B棟・第１駐車場南側市道	2-4		
5	自転車・ﾊﾞｲｸ駐輪場	5M		
6	第1駐車場	4M		
7	第1グラウンド内	―		
8	野球場北側市道	3M		
9	本館北側市道	5E		
10	寮北側市道	4E		
11	第２グラウンド東	3E		
12	第２グラウンド内	―		―
13	学寮内	―		―
14	図書館･専攻科棟付近	5S		
15	クラブボックス周辺	4S		
16	合宿研修所・制御棟・実習工場付近	3S		[redacted]
17	本館付近	5C		
18	第１体育館付近	4C		
19	第１体育館内部	3C		
20	第２体育館内部	1-1		
21	視聴覚教室	1-2		
22	第２合併教室	1-3		
23	ゴミ集積場分別	1-4		
24	専攻科棟内（非常階段含）	専攻科		
◎	本部:クラブハウス北側（23 付近）		[redacted]	

○:責任者

総括責任者：[redacted]　運営責任者：[redacted]

◎ 当日ご都合の悪い方は，適宜，控えの教員と交代してください．その際，交代されたことを学生支援係にご一報下さい．
◎ 雨天時は，ホームルームの念入りな清掃とします．

（出典　学生課資料）

資料５－３－①－７

第 42回校内マラソン大会実施要項

学生主事 [redacted]

1．目　的　　心身を鍛練するとともにスポーツ精神の涵養を図る。
2．期　日　　平成２３年１１月９日（水）
　　＜実施可否決定＞　午前７時（小雨決行：雨天の場合は、中止して平常授業）
　　＜競技開始時刻＞　午前９時３０分
3．集　合　　午前８時５０分　本校陸上競技場
　　＜開会式＞
　　クラス担任は午前９時までに学生の出欠確認を行う。
　　開会式（校長挨拶、ラジオ体操、注意事項説明）
4．マラソンコース（別紙）
　【ショートコース（男子女子、約 9Km）】
　本校→杉山口→塩汲峠→鎌倉「折返点」→塩汲峠→→杉山口→本校
5．コース監察指導場所（別紙）
6．表彰・賞品
(1)ショートコース（男子・女子）各１位、及びクラス大賞（全学年中参加率第１位クラス）にはトロフィを授与する。
(2)ショートコース（男子）1～20 位、ショートコース（女子）1～5 位には賞状及び賞品、ショートコース（男子）21～100 位、ショートコース（女子）6～10 位には賞品を授与する。
(3)クラス大賞及びクラス賞（クラス大賞を除く各学年中参加率第１位のクラス）には賞状を授与する。
(4)午前 11 時頃から、第１体育館前にて表彰式を行う。
7．大会運営上の注意事項
(1) 本大会は本校における特別教育活動の一環として実施されている趣旨に照らし、４時間（４コマ）分の授業に相当するものとみなし、その出欠を皆勤賞・精勤賞の評価の対象とする。
(2) 道路上は左側通行を厳守すること。
(3) 折返点では、「手の甲」にマジックインキでチェックを受けること。
(4) 決勝点に入った走者は、次の要領で係員の指示に従うこと。
　イ．自己の順位を示す順位カードを受け取る。
　ロ．順位カードにクラス、氏名を記入し記録席に提出する。
　ハ．折返点で受けたチェックを見せる。
(5) 走者は 12 時までにゴールすること。なお、12 時以後は決勝点での記録は行わない。また、人員点呼のため本部は 12 時 15 分まで設置する。
(6) 特別な理由で出走できない学生は、１０月２６日（水）までにクラス担任へ申し出ること。
(7) 学校医の判断により出走不可となった者は出走できない。（出走し入賞しても除外する）
(8) 出走する学生は、健康チェック表（別紙）を参考にして、当日朝自己の健康状態をチェックし、体調が悪いと判断される時は、出走せず、点呼時にその旨を担任に申し出ること。
(9)出走後、走行中に体調が悪くなった場合は、無理をせず、走行を中止し、監察指導に当たっている教員の救護を受けること。
(10)見学者は体育館前に集合し、点呼の上、決勝審判・記録等作業分担の指示を受け、マラソン大会終了後に（時間は当日連絡）２回目の点呼を受けること。（点呼２回で出席とする）
(11)各クラスの体育委員（出走者は除く）は体育館前に集合し、点呼の上、決勝審判・記録等作業分担の指示を受けること。
(12)ショートコース折返点付近に給水ポイントを設ける。使用済みの紙コップは、必ず学校が用意したごみ箱に捨てること。
(13)貴重品は預からないので、持って来ないようにすること。

（出典　学生課資料）

資料５－３－①－７の続き

８．実施体制

本　部	[redacted]	先導車S 先導車L 最後尾車 救　護 救護車 給　水 記録等 トラック 写　真	[redacted]

９．監察指導の留意事項

（１）監察指導は、番号指示か所付近において学生の安全上適宜御指導願います。

（２）コースは折返しになっておりますので、往復の監察指導をお願いします。

（３）監察指導場所の変更は、当事者間で調整願います。ただし、変更する場合は必ず学生主事又は学生支援係まで御連絡ください。

（４）学生からシャツ類などを預かった場合には、誰の持ち物かを必ず確認のうえ、本部席へ持ってきてください。

（５）監察指導に黄・紅・白の手旗が必要な場合は、本部に用意していますので持って行ってください。（黄→徐行、赤→止まれ、白→進め）

（６）ショートコース（男子･女子）折返点を担当される方は、マジック等の道具を持って行っていただきますようお願いします。

（７）ジュース類の空き缶や給水用紙コップ等は、道端に捨てないよう御指導願います。ショート折返点、給水ポイント付近、塩汲峠、笹部口、グランド出入り口付近を担当の方には、ゴミ用のポリ袋をお預けしています。

（８）天候によっては寒い時もありますので防寒具等はご準備願います。

（出典　学生課資料）

資料５－３－①－８

学生対象講演会・講習会一覧（学生支援係関係）　平成21年度～24年度

年　度		21	22	23	24
交通安全講習会	期日	4月20・22日	4月21・26日	4月25・26日	4月23日・26日
	場所	視聴覚教室	視聴覚教室	視聴覚教室	視聴覚教室
	講師	[redacted]			
	対象	ﾊﾞｲｸ・車両持込予定者	ﾊﾞｲｸ・車両持込予定者	ﾊﾞｲｸ・車両持込予定者	ﾊﾞｲｸ・車両持込予定者
	参加人数	302	314	289	281
リーダーシップセミナー（高専祭関係）	期日	実施せず	9月28日	実施せず	実施せず
	場所		商工観光センター		
	講師		[redacted]		
	対象		高専祭実行委員会		
	参加人数		41		
リーダーシップセミナー	期日	学寮関係	6月11日～12日	学寮関係	6月15日～16日
	場所		京都府立青少年海洋センター		高浜町営国民宿舎 城山荘
	講師		[redacted]		なし
	対象		ｸﾗﾌﾞｷｬﾌﾟﾃﾝ・学生会役員		ｸﾗﾌﾞｷｬﾌﾟﾃﾝ・学生会役員
	参加人数		42		36
薬物乱用防止講習会	期日	7月13日	7月12日	7月25日	7月24日
	場所	視聴覚教室	視聴覚教室	視聴覚教室	視聴覚教室
	講師	[redacted]			
	対象	3年	3年	3年	3年
	参加人数	162	164	138	152
人権講演会	期日	12月14日	12月13日	1月23日	1月21日
	場所	視聴覚教室	視聴覚教室	視聴覚教室	視聴覚教室
	講師	[redacted]			
	テーマ	太平洋戦争と人権	デートDVってなあに	太平洋戦争と人権	太平洋戦争とシベリア抑留
	対象	1年	1年	1年	1年
	参加人数	169	167	162	161
HIV感染防止講演会	期日	2月1日	2月7日	1月30日	2月4日
	場所	視聴覚教室	視聴覚教室	視聴覚教室	視聴覚教室
	講師	[redacted]			
	対象	2年生	2年生	2年生	2年生
	参加人数	165	163	157	160
教養講演会	期日	1月25日	1月31日	2月6日	1月28日
	場所	視聴覚教室	視聴覚教室	視聴覚教室	視聴覚教室
	講師	[redacted]			
	対象	3年	3年	3年	3年
	参加人数	160	160	149	144

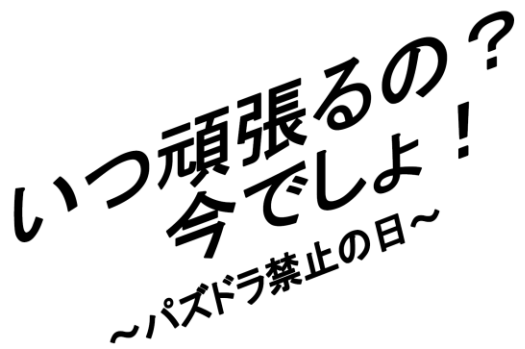
（出典　学生課資料）

資料５－３－①－９

平成 25 年度　スポーツフェスタ　プログラム

日　　程　平成 25 年　5 月 15 日(水)　　集合時間　午前 8 時 45 分　　場　　所　第一グラウンド

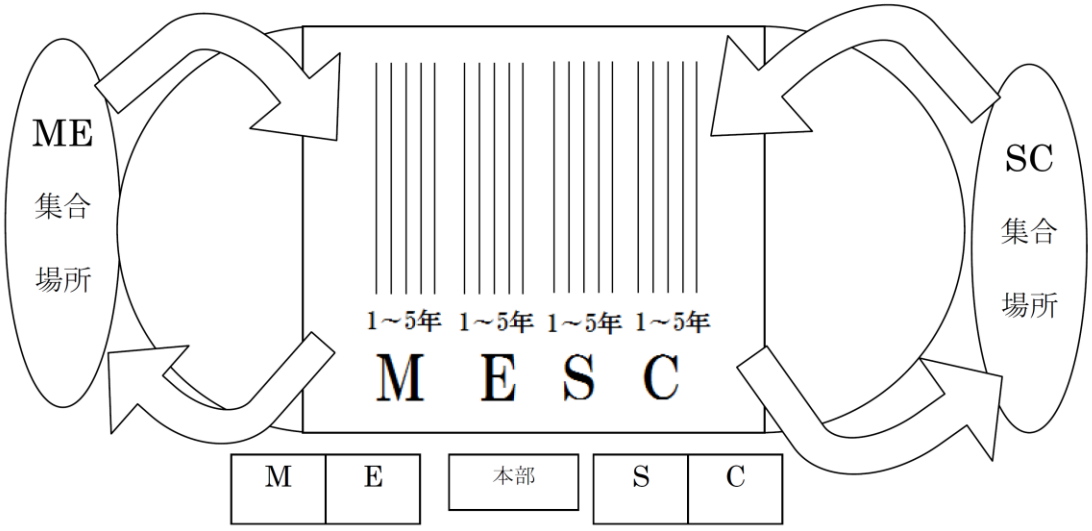
１、開会式　(9：00～)
２、競技(午前の部)
　大縄跳び　(9：30～)
　女子会リレー　(10：10～)
　綱引き　(10：40～)
　クラブ対抗しっぽとり　(11：10～)
３、昼休み　(12：00～12：50)
４、競技(午後の部)
　クラブ対抗リレー　(13：00～)
　障害物走　(13：50～)
　学科対抗リレー　(14：20～)
５、閉会式　(14：50～)



※本競技とは別にサブ競技も行っています。

ルール　ルール等はスポーツフェスタ実施要項に定めた通りとする

諸注意
・開会式と閉会式、点呼のときは、以下の通り並んで下さい
・自分の出場しない競技のときは、各学科テントや木陰で応援･観覧して下さい
・競技の前に本部から放送があるので、指示に従って集合場所へ集まってください
・点呼を開会式、閉会式でとります
・閉会式後、はちまきは回収ボックスに入れるか体育委員に渡してください



――――――――――――――――――――――――――――――切取り線――――――――――――――――――――――――――――――

学年　　組　　氏名

体育系１位：
文化系１位：

（出典　学生課資料）

燃えよ！燃え尽きろ！そして燃えうつれ！
～めざせ全員参加～
全学年全クラス対抗 球技大会
10月17日(水) 8時45分～16時30分

■ 集合時間・場所

午前8時45分 第一グラウンド（雨天時：第一体育館）

（南側から1-1,1-2,…,5Cの順に各クラス2列で整列してください。）

■ 実施競技・会場

競技名	通常時の会場	雨天時の会場
バスケットボール	第一体育館玄関側	第一体育館玄関側
ソフトバレーボール	第一体育館ステージ側	第二体育館玄関側
フットサル	第二体育館	第一体育館ステージ側
ソフトボール （雨天時：ドッヂボール）	A会場：野球場 B会場：第一グラウンド北側 C会場：第一グラウンド南側 D会場：第二グラウンド	第二体育館奥

※ 各競技の詳細な時間は別に掲示しますので、そちらを参照してください。

※ 自分が出場しないときは、自分のクラスの他の競技の応援をしましょう。

■ 大会の日程

8:45～ 9:10	点呼・開会式 ※
	移動
9:20～ 9:30	ルール説明
9:30～12:15	各競技
	お昼休み
13:00～13:20	点呼・途中結果発表 ※
	移動
13:30～16:00	各競技
	移動
16:10～16:30	閉会式 ※

※ 点呼・開会式・途中結果発表・閉会式は、第一グラウンド（雨天時：第一体育館）で行います。

（出典　学生課資料）

資料５－３－①－11

第47回 高専祭 Rip it up

2012 高専祭

第47回高専祭実行委員長
[redacted]年建設システム工学科 [redacted]

『高専祭』というワードを聞いて舞鶴高専の学生が思い浮かべる事は様々です。ある人は長い休みだと思い、ある人は寝れない日が来ると思う。またある人は退屈でつまらない日々だと思えば、一生の思い出だと思う人もいます。

1年生から思い返せば高専祭は『ZERO』から高専祭を作りあげ『COLER』で色づけをし『NEXT』で次の世代に渡し『奏』でさらに良いモノになるよう磨き上げ今年の『Rip it up』で伝統にとらわれない新たな高専祭にするという目標でした。毎年それぞれ全く違ったテーマでしたが1年生から5年生まで一つの物語のように繋がっています。『Rip it up』の意味は『破り捨てろ』、『ぶち壊せ』という意味です。僕の中で一番に『Rip it up』したかったものは『高専祭に対する負のイメージ』でした。

正直に言うと低学年の頃は高専祭に対し楽しい印象は多くはなかったです。しかし学年が上がるにつれ、高専祭に深く接するにつれ、自分の中では楽しい思い出がたくさんできていきました。その楽しさをもっと多くの学生に伝えるのが高専祭実行委員長の重要な役目だったと思います。

今年の高専祭は僕が見てきた中で、1番天候に恵まれ、1番来場者数が多く、1番活気や笑顔に包まれていた最高の高専祭だったと思います。普通の学校ではできない作品や展示物を作り上げる部、高専祭を円滑に運営するためにサポートする部、高専祭を盛り上げるために露店や出し物に携わった部や学生達、それぞれの頑張りで最高の高専祭を作り上げることができました。今年高専祭に参加した学生の中で『高専祭、来年も参加したい』とか『来年はもっとすごいモノ作りたい』と思ってもらえれば実行委員長として少しは仕事ができたのではないかと思います。

最後になりましたが第47回高専祭にご協力してくださった皆様に心から感謝しています。一生の思い出をありがとうございました。

今年の高専祭は僕が見てきた中で、1番天候に恵まれ、1番来場者数が多く、1番活気や笑顔に包まれていた最高の高専祭だったと思います。

（出典　『学校だより』Ｖｏｌ．１２２）

資料５－３－①－11 の続き

Eプロジェクト　校長賞受賞！

Eプロ部　総部長
■年電気情報工学科 ■■■

第47回高専祭お疲れ様でした。今年の電気情報工学科プロジェクト（Eプロジェクト）は例年にない水を使ったウォーターアートをはじめ，半田ごてを使わないキットのテクノ手芸，高専祭準備期間から本祭中までメンバーで撮りまわった高専時計，Kinectカメラを利用したKinectマリオを展示させてもらいました。準備から頑張った学生の皆をはじめ，お越しいただいた皆様や応援していただいた皆様に改めて御礼を申し上げます。

高専祭準備期間では，ウォーターアートをどうやって綺麗にみせるのか，どうやってお越しいただいた皆様に文字を認識しやすくするのか etc.……準備している中で多くの課題が出てきました。次々と出てくる課題を舞鶴高専で学習した知識を応用したり，皆様の協力のもと，何とか皆様に楽しんでいただける作品を完成させることができました。

メンバーだけでなく作品の制作に関わっていただいた皆様，来場していただいた皆様のお陰で3年連続の校長賞をいただくことができました。素晴らしい機会に素晴らしいメンバーと一緒に作品を製作できたのは感謝感激です。

来年も互いに協力し合い，より良い高専祭，よりよい作品を製作していただくことを期待しています。

Sプロジェクト　後援会長賞受賞！

Sプロ部　総部長
■年電子制御工学科 ■■■

今回，後援会長賞をいただき本当に嬉しく思います。Sプロは毎年電子制御工学科をPRするような作品を作っています。今年のSプロでは手や物体の動きに合わせてLEDが光ったり映像を映し出すものなど，参加型の作品をメインに展示させてもらいました。最初何を作るか決めるとき，僕が慣れていないこともあり手こずりましたが他のメンバーの支えもあって作業を進めることができました。その他にも色々手助けしてもらうことも多かったので，とても感謝しています。

今回展示を行う上で気を配ったのは作品の配置や入口です。LEDを使用した作品が中心となるため教室を暗くする必要があったので，全体的に暗幕を張っていました。そこで暗幕で閉め切るのではなく外からでもよく見え，お客さんが入りやすいようにセッティングしました。

みんなで頑張った甲斐あってか，当日は年齢問わず興味を持っていただくことができました。特に子供たちに好評で，とても楽しそうに遊んでいたのでとても嬉しかったです。

今年このメンバーで高専祭を終えることができて本当に良かったです。来年も力を合わせ，何より楽しんで高専祭を迎えてほしいと思います。

（出典　『学校だより』Ｖｏｌ．１２２）

資料５－３－①－12

平成25年度 クラブ顧問一覧表

太字はチーフ顧問

部	顧問名
陸上競技	[redacted]
男子バスケットボール	
女子バスケットボール	
男子バレーボール	
女子バレーボール	
ソフトテニス	
卓球	
柔道	
剣道	
サッカー	
硬式野球	
ハンドボール	
バドミントン	
水泳	
テニス	
ローイング	

部	顧問名
弓道	[redacted]
空手道	
フリークライミング	
自動車	
アマチュア無線	
吹奏楽	
プログラマーズコミュニティ	
創造技術研究会	
華道	
デザコン	
軽音楽	

同好会	顧問名
ストリートバスケット	[redacted]
フットサル	
ボランティア	
文学研究会	
鉄道研究会	
ESS	
マルチメディアリサーチ	
シビックデザイン	
合気道	
パフォーマンス	
ピタゴラ	
雪上スポーツ	

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校の教育課程においては，人文系科目の充実，保健体育の重視，特別活動の工夫により豊かな人間性の涵養を図っている。また，各種の学校行事，課外活動においても，人間性を豊かにする取り組みを行っている。本校教育においては，その目的に照らして，人間性の涵養がはかれるよう十分な配慮を行っている。

観点５－４－①：　成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、進級認定、卒業認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

成績評価，単位認定，進級及び卒業認定については，規則が定められている。進級・修了・卒業に直接関わる「追試験」「再試験」についても，学生向けの指示文書で内容が説明されている（資料５－４－①－１）。答案の返却と到達度の確認は定期試験後に行われ，成績に関する異議申し立てにも対応している。進級および卒業認定は，全教員による会議で行われている（学年末成績一覧表および学年末不合格科目一覧については，訪問調査時に提示可能）。成績評価等の規則は，学生便覧及び年度当初のガイダンスで周知を図っている（資料５－４－①－２）。

資料５－４－①－１

舞鶴工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則（準学士課程）

昭和44年４月１日　施行
平成25年３月１日　最終改正

第１章　総則

（目的）

第１条　この規則は，舞鶴工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第15条に規定する学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定等について定めることを目的とする。

第４章　学年の課程の修了，進級並びに卒業の認定

（定義）

第１１条　学則別表第1及び第2に規定する各学年修了時又は卒業時に修得すべき単位の総数を，学年修了単位数又は卒業単位数という。

２　学年修了単位数又は卒業単位数を満たす，それぞれの学年で修得すべき単位の総数を，年間必要単位数という。

３　単位の修得は，各科目の学年評価が60点以上であることをもって認定する。

４　各学年修了時又は卒業時に必ず修得すべき科目を必修科目という。

５　学則別表第1及び第2中の科目群で定める当該学年までに修得すべき単位の数を科目群必修単位数という。

（進級認定）

第１１条の２　校長は，教員会議の議を経て，次の各号の要件をすべて満たした者を，各学年の課程を修了したものと認定し，進級させる。

(1)　学年修了単位数を満たしていること。

(2)　当該学年までの必修科目の単位をすべて修得していること。

(3)　当該学年までの科目群必修単位数をすべて満たしていること。

２　学年評価において59点以下の科目について第10条の再試験が行われた場合には，再試験の成績に基づく再評価を用いて，前項により進級認定を行うことができる。

（出典　平成２５年度学生便覧）

資料５－４－①－１の続き

（留年）

第１２条　次の各号のいずれかに該当する者は，進級を認めず，原学年に留める。

(1)　学年修了単位数に対して不足単位が7単位以上の者。

(2)　当該学年までの必修科目の未修得単位数と科目群必修単位数の不足単位数との合計が7単位以上の者

(3)　必修科目又は科目群必修単位数を満たす科目の欠席時間数がその授業科目における出席すべき総時間数の３分の１を超える者

ただし，超過した理由が病気又はけがで，かつ医師の診断書の提出があった場合は，教員会議の議を経て，当号本文の適用を除外することがある。

(4)　欠席日数が年間授業日数の３分の１を超える者

(5)　特別活動の欠席時数が年間総時数の３分の１を超える者

(6)　実験実習科目がＦ評価の者

２　原学年にとどめられた者は，所定の科目を再履修するものとする。同一学年に引き続き2回留年となる者は，以後の在学を認めない。ただし，休学した者についてはこの限りではない。

３　欠席日数が年間授業日数の3分の1を超えた後，休学願を提出した者については，第１項第4号を適用する。

（仮進級）

第１３条　校長は，教員会議の議を経て，第11条の2及び第12条に該当しない者の仮進級の可否を決定する。

（仮進級の特例）

第１３条の２　校長は，前項により仮進級した者のうち，特別の事情がある場合，不足単位を次年度履修した科目によって振り替え，前年度修了を認めることがある。

（再試験の特例）

第１４条　校長は，特別の事情がある場合，第3学年でかつ不足単位数が6単位を超えて10単位以内の者に限り教員会議の議を経て，第10条に定める再試験の実施を認めることがある。

（卒業認定）

第１５条　校長は，教員会議の議を経て，次の各号の要件をすべて満たした者を，本校全学年の課程を修了したものと認定し，卒業させる。

(1)　卒業単位数を満たしていること。

(2)　必修科目の単位をすべて修得していること。

(3)　科目群必修単位数をすべて満たしていること。

（出典　平成２５年度学生便覧）

資料５－４－①－１の続き

追試験について（準学士課程）

舞鶴工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則第９条の追試験は，下記の（１）から（６）の理由による場合に限り実施されるので，該当する学生は学級担任又は教科担当教員に申し出て指示を受けること。

なお，欠席(単位)時間数が出席すべき総(単位)時間数の１／３を超える場合は追試験を受けることは出来ない。

ただし，超過した理由が病気又はけがである場合は（医師の診断書の提出が必要），教員会議の議を経て，追試験の受験を認めることがある。その際の受験の可否の基準については，「留年に係る規定の一部適用除外のガイドラインについて」を準用する。

また，当該年度の教科担当教員が廃止科目等によりいない場合は，学科長(部門長)に相談すること。

(1) 病気又はけがによる場合，ただし医師の診断書の提出が必要である。
(2) 公欠扱いにされた場合
(3) 忌引きの場合
(4) 過年度又は前期に未修得である場合
　追試験を希望する学生は担任と相談の上，手続きを行うこと。
　なお，受付け期間は，過年度の未修得科目については４月，当該年度の前期未修得科目については当該年度１０月とする。
(5) 実験実習科目は，科目によって「履修科目追試験受験願」を受け付けず追試験を実施しない場合がある。
(6) その他校長の承認した場合

再試験について（準学士課程）

舞鶴工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則第１０条の再試験は，下記の（１）から（３）の理由による場合に限り実施されるので，該当する学生は学級担任又は教科担当教員に申し出て指示を受けること。

(1) 再試験は，再試験を希望する時点の当該学年修了後退学を予定している場合，または再試験を希望する時点で学年が５年生であって，学年修了または卒業するのに必要な単位数に対して，不足単位数が６単位以内の学生に限り，校長によって許可されることがある。なお，３年修了については，不足単位数が１０単位以内の者とする。
(2) 再試験が可能な科目は，欠席(単位)時間数が出席すべき総(単位)時間数の３分の１を超えない科目であり，過年度未修得科目については，翌年度に「履修科目追試験受験願」が提出されていること。
　ただし，欠席(単位)時間数が出席すべき総(単位)時間数の３分の１を超えた理由が病気又はけがである場合は（医師の診断書の提出が必要），教員会議の議を経て，再試験の受験を認めることがある。その際の受験の可否の基準については，「留年に係る規定の一部適用除外のガイドラインについて」を準用する。
(3) その他校長の承認した場合

（出典　平成２５年度学生便覧）

資料５－４－①－２

平成２５年４月

学生の皆さんへ

教務主事

平成２５年度教務制度についての留意事項

平成２５年度の教務制度について，次の点についてとくに留意してください。

記

（１）未修得の必修科目等の単位の扱いの適用範囲は２年間分です。

「修了及び卒業認定規則」が改正されてから２年目を迎えました。１年生を除いて進級認定における未修得の必修科目等の単位の扱いの適用範囲は，平成２４年度と平成２５年度の２年間にわたります。つまり，この２年間の必修科目の未修得単位数と科目群必修単位数の不足単位数の合計が７単位以上になると留年となります。

留年を回避するためには，学年修了単位数を満たし，本年度の必修科目等の単位を修得するだけでなく，平成２４年度の必修科目等で未修得のものを追試験で合格しておくことが不可欠です。

５年生については，卒業単位数を満たし，かつ全ての必修科目等の単位を修得しなければ卒業できません。

なお，本年度必修科目等が欠席不可になっても留年となります。これについても注意してください。

（２）９０分授業になります。

９０分授業が導入されることになりました。授業時間帯はすでに案内している通りです。９０分連続授業により，履修単位科目は２単位時間，学修単位科目は２時間の授業として扱われることが可能となりました。

ただし，９０分授業の導入に当たっては，演習問題課題の設定，ホームワークの付与，Moodle やｅラーニングの活用等による教育の質の保証や学習効果についての適切な配慮が求められています。

学生の皆さんは，授業に集中するとともに自己学習に積極的に取り組みましょう。

（３）中間試験が授業の一環として実施されます。

中間試験が授業の一環として実施されることになりました。中間試験は，１週間分の２分の１の授業時間数としてカウントされます。

また，後期にも試験返却等到達度確認期間が設定されます。前期，後期ともに同期間内の授業も，１週間分の２分の１の授業時間としてカウントされます。

中間試験はもとより試験返却等到達度確認期間内の授業には必ず出席しなければなりません。

以上

（出典　学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

成績評価等に係る詳細な規則を定め，学生に周知を図っている。答案の返却と到達度の確認が行われ，成績に関する異議申し立てにも対応している。進級・卒業認定会議は慎重かつ厳格な運営を行っている。

以上のことから，成績評価・単位認定規定や進級・卒業認定規定が組織として策定され，成績評価，単位認定，進級認定，卒業認定が適切に実施されている。

＜専攻科課程＞

観点５－５－①：　教育の目的に照らして、準学士課程の教育との連携、及び準学士課程の教育からの発展等を考慮した教育課程となっているか。

（観点に係る状況）

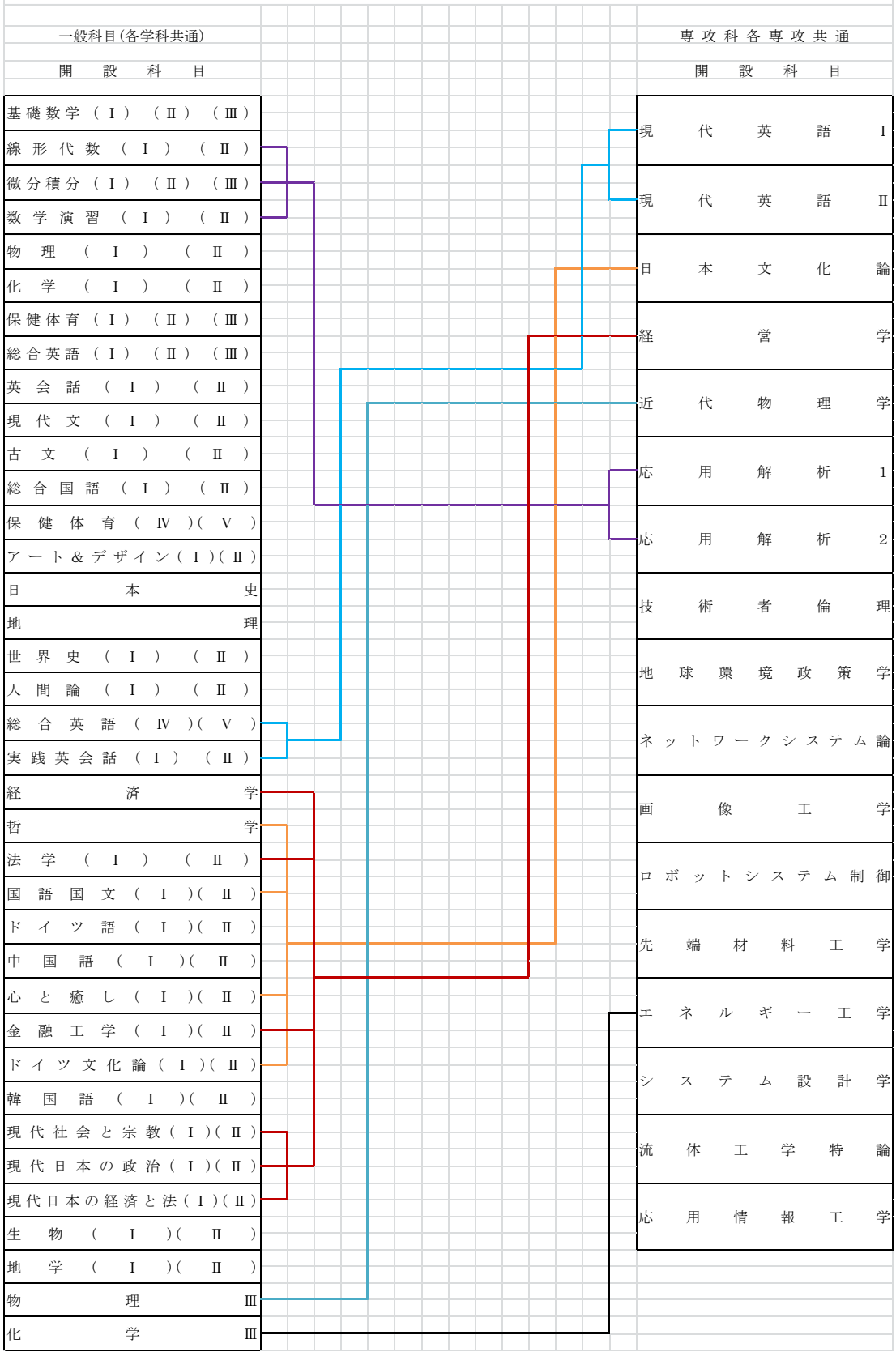
資料５－５－①－１～５に示す準学士課程の科目と専攻科課程の科目関連図に示すように準学士課程との連携を考慮した教育課程となっている。

例えば英語教育では準学士課程の学習の成果を基に専攻科課程で英語を学習することで英語力がスキルアップできるように連携を図っている。

本校では，４学科が設置されており各学科と専攻科のカリキュラムの連携が図られている。また，本校では，準学士課程と専攻科課程による「生産・情報基礎工学教育プログラム」（資料５－５－①－６）により連携を密にしている。

資料５－５－①－１

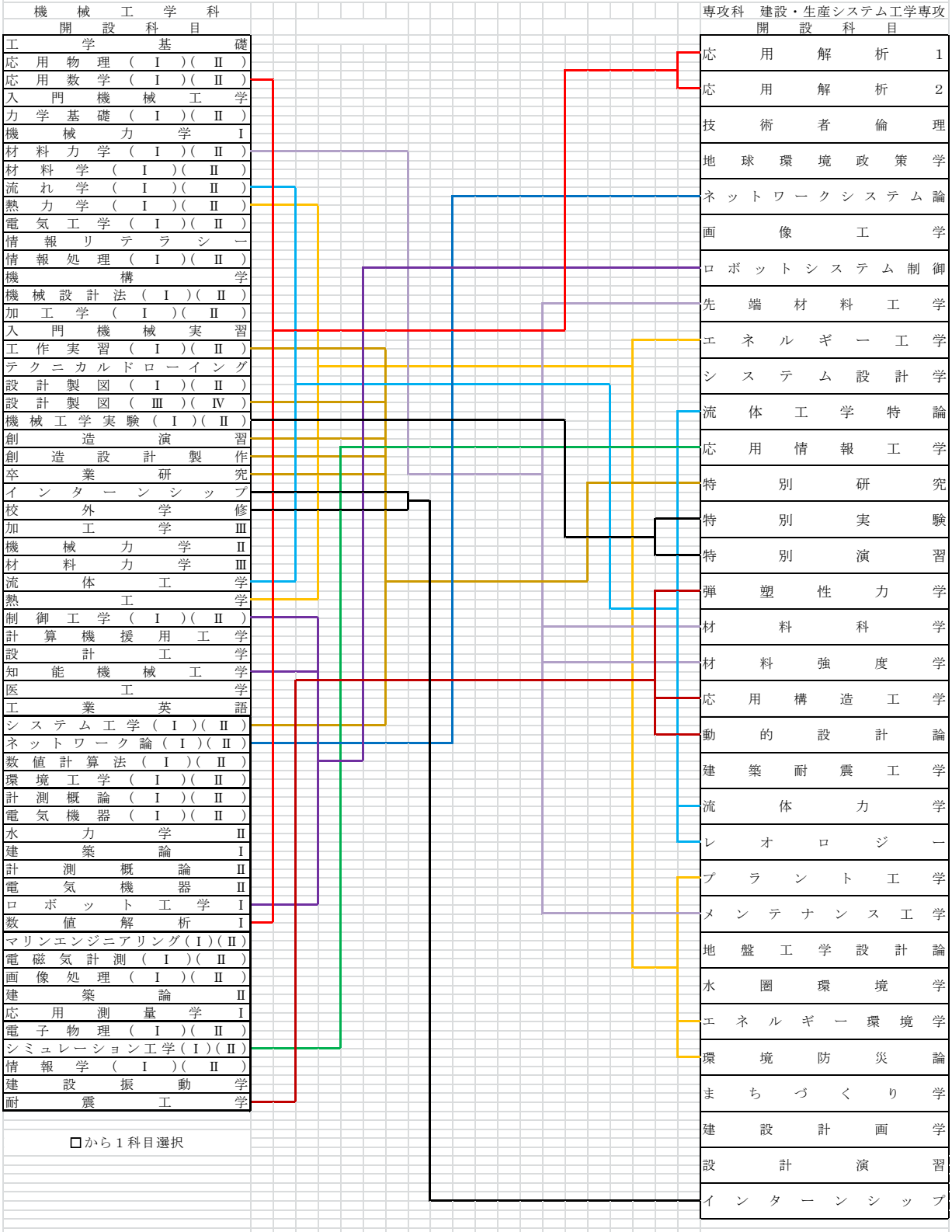
専攻科の基礎となる学科等の関連図



（出典　平成２４年度総務課資料）

資料５－５－①－２

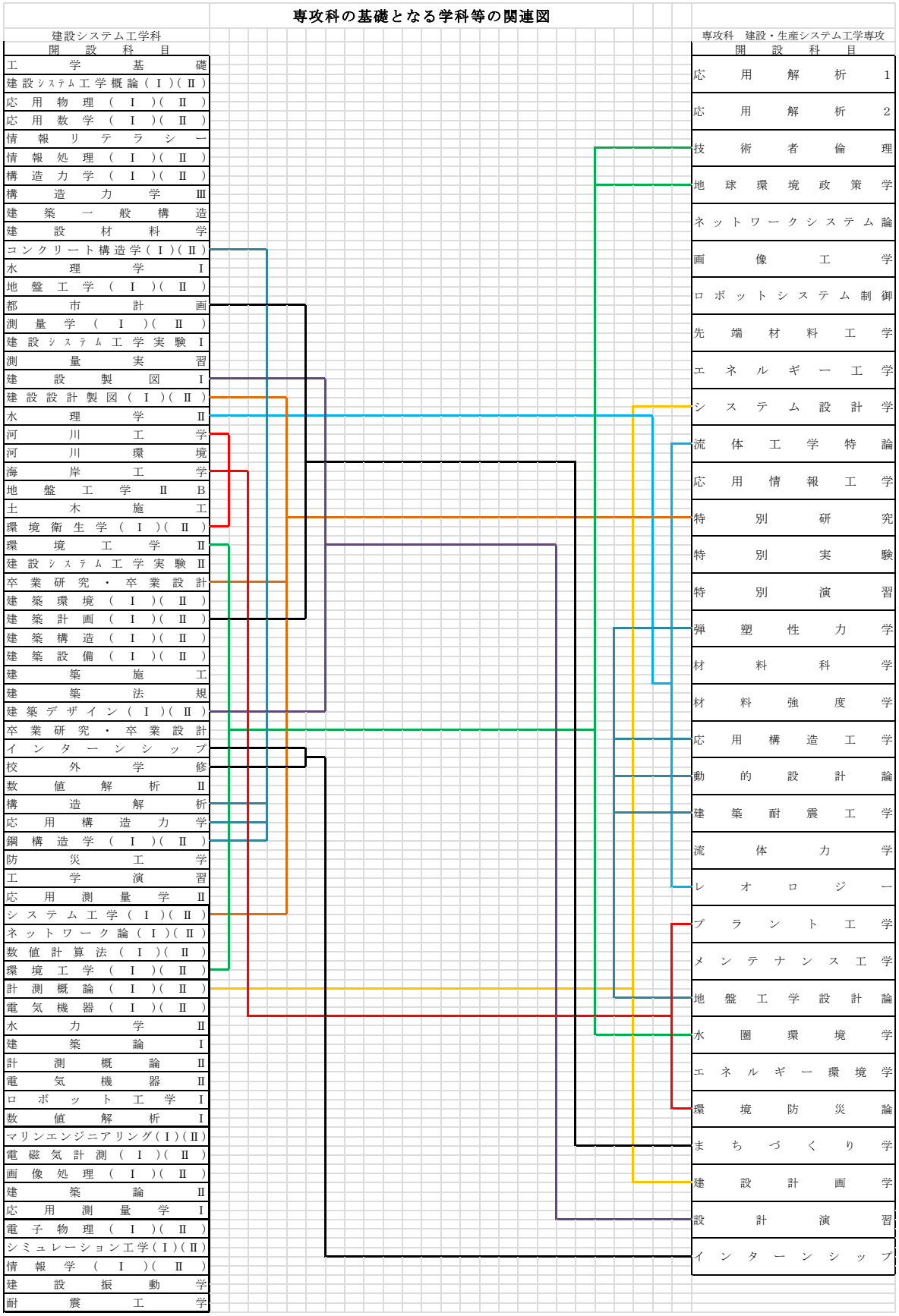
専攻科の基礎となる学科等の関連図



（出典　平成２４年度総務課資料）

資料５－５－①－３

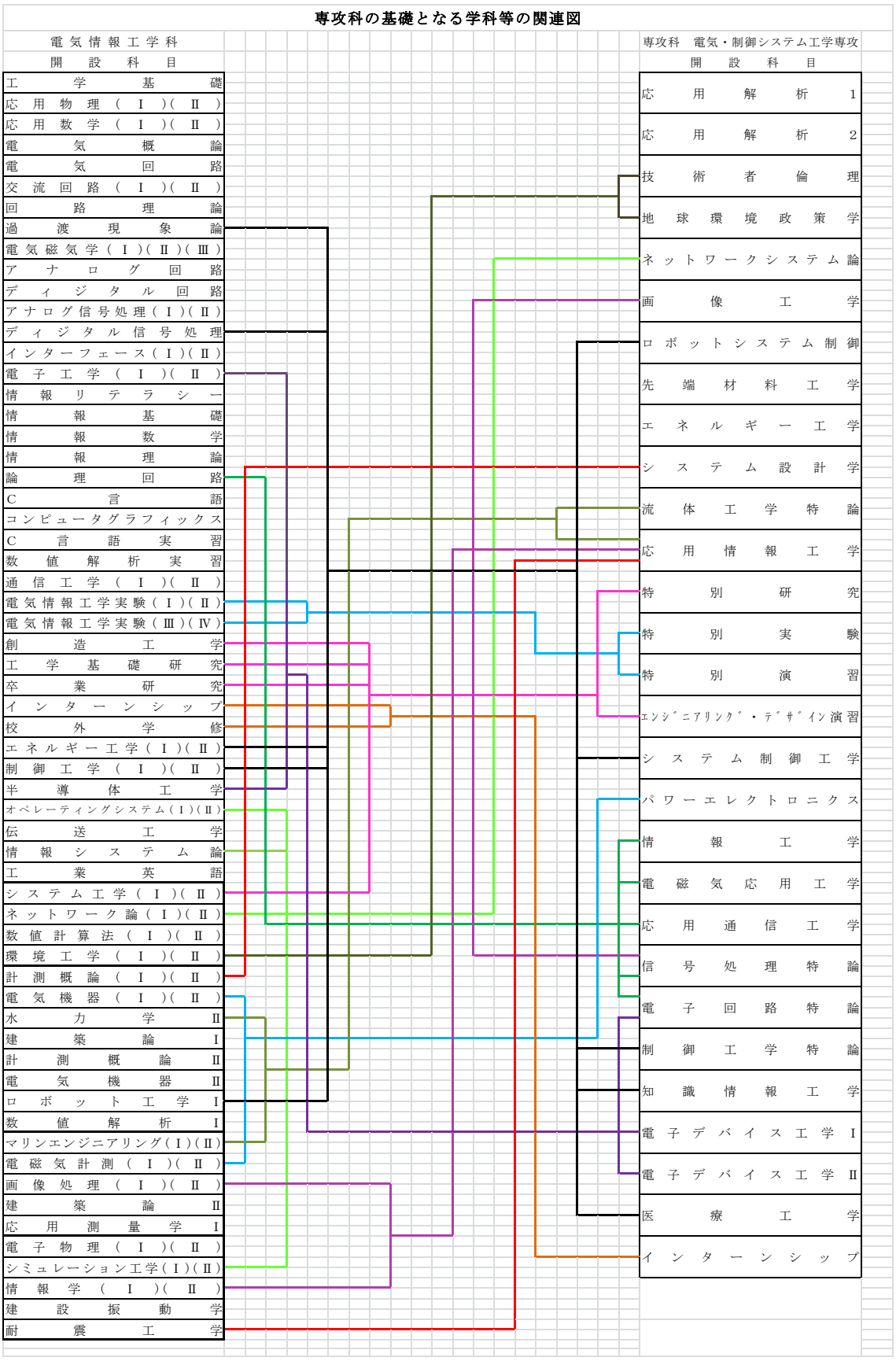
専攻科の基礎となる学科等の関連図



（出典　平成２４年度総務課資料）

資料５－５－①－４

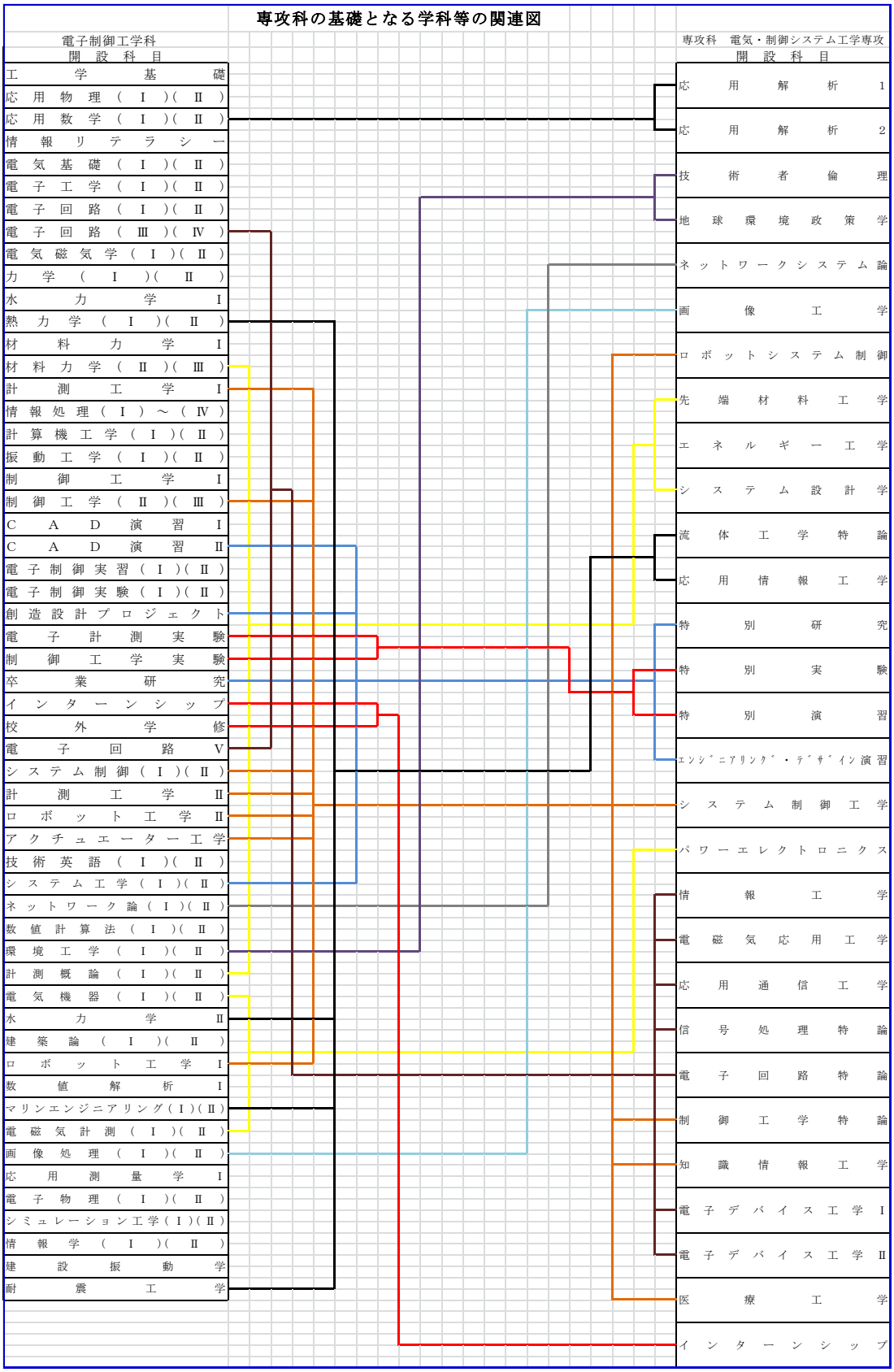
専攻科の基礎となる学科等の関連図



（出典　平成２４年度総務課資料）

資料５－５－①－５

専攻科の基礎となる学科等の関連図



（出典　平成２４年度総務課資料）

資料５－５－①－６

「生産・情報基礎工学」教育プログラムについて

本校では、国際的に通じる、より良い教育を進めるために「生産・情報基礎工学」教育プログラムを設けています。そのために以下のような学習・教育目標を定めています。

＜学習・教育目標＞

(A) 自然科学と工学の基礎を幅広く修得し、それを応用することができる。

(B) 専門分野の基礎知識を修得し、それを実際の技術の問題に応用することができる。

(C) 修得した知識を統合して、社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発する創造的能力と意欲を有する。

(D) 実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる。

(E) 豊かな人間性、国際性、協調性および英語によるコミュニケーション能力を身につける。

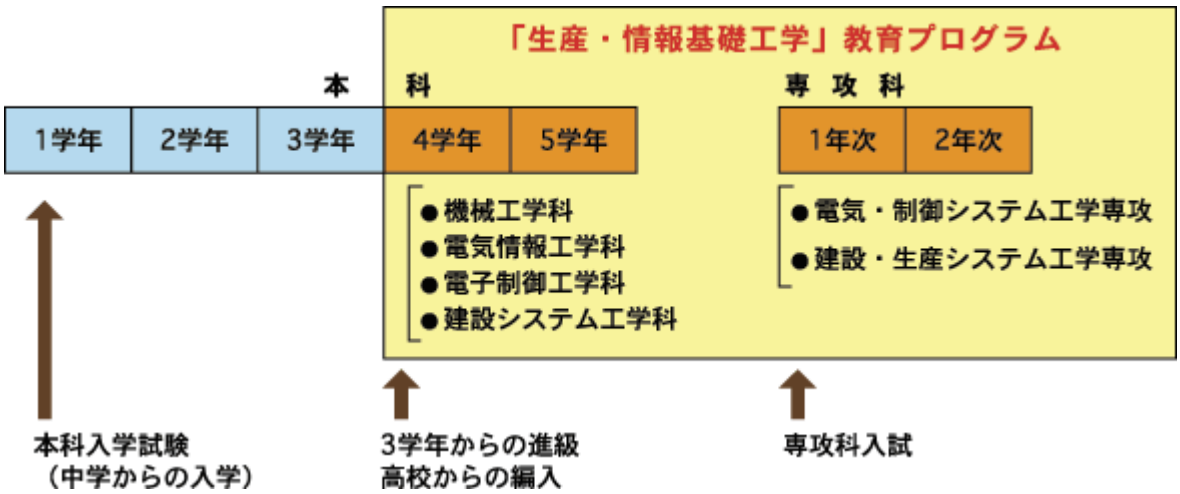
(F) 技術が持つ地球的、社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し、説明することができる。

(G) 課題の提案・報告などを効果的に記述し、説明することができる。

(H) コンピュータをはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる。

＜本教育プログラムの構成＞

本教育プログラムは、本科 4、5 学年と専攻科 1、2 年次で構成される 4 年間の教育プログラムで、本科 4 学科と専攻科を 1 つにまとめたものです。「生産・情報基礎工学」教育プログラムの構成は下図の通りです。



「生産・情報基礎工学」という名前は、〝ＩＴ成熟時代に即した「ものづくり」〟教育を目ざしているという意味です。このプログラムのもと、カリキュラムは、工学基礎教育を基盤として、学生それぞれが目指す得意分野（専門）を学習していくように設計されています。また、幅広い工学の基礎を学べるように、いずれの学年においても専門共通科目を設定し、どの得意分野（専門）からも異分野の専門科目を学べるようにしています。

（出典　舞鶴工業高等専門学校ウェブページ）

資料５－５－①－６の続き

４年間の教育プログラムで取得できる総単位数およびその学習時間数はつぎのとおりです。

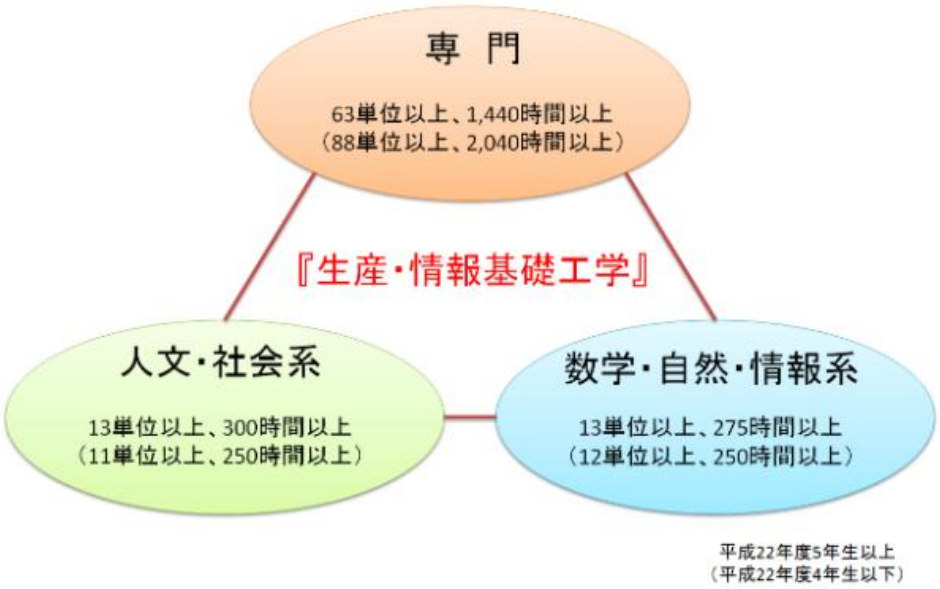
（平成 22 年度 5 年生以上）

総取得単位数	総学習時間（時間）
133 以上	2,590　以上

（平成 22 年度 4 年生以下）

総取得単位数	総学習時間（時間）
127 以上	2,745　以上

この内容を分類するとともに、本教育プログラムの科目構成のイメージを示しますと下図のように表せます。図中の単位は修得単位で、時間は学習時間を示しています。



また、上図の専門科目は基礎工学と専門工学に分けられています。

（出典　舞鶴工業高等専門学校ウェブページ）

（分析結果とその根拠理由）
専攻科課程の科目は，準学士課程の科目との連続性を十分考慮して開設されており，専攻科の教育課程は，準学士課程の教育との連携を十分考慮した教育課程となっている。

観点５－５－②：　教育の目的に照らして、授業科目が適切に配置され、教育課程が体系的に編成されているか。また、授業の内容が、全体として教育課程の編成の趣旨に沿って、教育の目的を達成するために適切なものとなっているか。

（観点に係る状況）
専攻科の目的を資料５－５－②－１に，専攻科修了者像を資料５－５－②－２に，専攻科の教育方針及び教育体制を５－５－②－３に示す。専攻科は高度な専門知識と技術の教授及び学生の研究を指導することを目的とし，その目的に沿った専攻科修了者像が示され専攻科の教育方針と専攻科の教育体制が定められている。

５－５－②－４は各専攻の教育方針を示す。最新の技術教育と研究指導を行っており,体系化された教育課程を資料５－５－②－５，６に示す。

資料５－５－②－１

学則　第４０条

専攻科は，高等専門学校の基礎の上に，精深な程度において工業に関する高度な専門的知識及び技術を教授し，その研究を指導することを目的とする。

（出典　平成２４年度・専攻科学習の手引）

資料５－５－②－２

専攻科修了者像
専攻科では，次のような資質を備えた人材を育てようとしています。
（１）実践的な技術者として，幅広い工学の基礎と深い専門領域の学識を修得し，これらをエンジニアリングの実務と技術革新に活用できる。
（２）技術開発力のある技術者として，課題の発見とその解決に取り組む探求能力，粘り強いチャレンジ精神と独創力を身につける。
（３）２１世紀の地球人として，多面的な視点から社会の様々な問題に関心を持ち，そのあり方を問うことのできる素養と国際感覚を身につける。
（４）職業人として，人間性豊かな調和のとれた思考力と，それに基づく実行力を備え，自ら考え行動できる。

（出典　平成２４年度・専攻科学習の手引）

資料５－５－②－３

【専攻科教育方針】
専攻科の修了生が、産業社会において科学技術の研究・開発者として様々な分野で活躍するための実践的技術者教育を行います。先進の科学技術が提示する様々な問題提起に対処し、課題の解決に意欲的に挑戦する内外の学生に広く門戸を開放しています。

【専攻科教育体制】
『電気・制御システム工学専攻』（2年制）は、本科の「電気情報工学科」と「電子制御工学科」を基盤とし、『建設・生産システム工学専攻』（2年制）は、本科の「建設システム工学科」と「機械工学科」を基盤としています。

（出典　舞鶴工業高等専門学校ウェブページ）

資料５－５－②－４

【各専攻の教育方針】

【電気・制御システム工学専攻】

工業技術の進展により、情報技術と自動化技術は、有機的に融合して発展を遂げようとしています。本専攻では、本科（電気情報工学科、電子制御工学科）いずれかの課程で修得した基礎学力を基盤に、ソフトウェア、通信、電子回路、制御技術及びメカトロニクス等に関連する最新の技術教育を行います。

（職業／活躍できる分野）

電気機器、運輸、通信及び情報システム分野で実力を発揮できる設計・開発・管理能力を備えた電気・制御システム技術者の育成を目指します。

【建設・生産システム工学専攻】

産業生産システムの多様化などに伴い、開発・設計段階でもコンポーネント技術やサブシステム技術に関する幅広い知識が不可欠となっています。本専攻では、本科（建設システム工学科、機械工学科）いずれかの課程で修得した基礎学力を基盤に、先端材料、水圏環境、動的設計及びシステム設計等の技術教育を行います。

（職業／活躍できる分野）

都市建設システム及び機械生産システム等の分野で実力を発揮できる、独創性豊かな研究開発型の技術者の育成を目指します。

（出典　舞鶴工業高等専門学校ウェブページ）

資料５－５－②－５

【電気・制御システム工学専攻の教育課程】

6. 専攻科の学年別配当単位数

電気・制御システム工学専攻教育課程表

（平成２４年度入学者に適用）

区分			授業科目	単位数	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	備考
一般科目	一般	◎	現代英語Ⅰ	2	2				
			現代英語Ⅱ	2		2			
			日本文化論	2				2	
			経営学	2		2			
			近代物理学	2			2		
			一般科目開設単位計	10	2	4	2	2	
	一般科目　修得単位			６単位以上					
専門科目	専門共通科目	◎	応用解析１	2	2				
		◎	応用解析２	2		2			
		◎	技術者倫理	2			2		
		◎	地球環境政策学	2			2		
			ネットワークシステム論	2			2		
			画像工学	2		2			
			ロボットシステム制御	2			2		
			先端材料工学	2	2				
			エネルギー工学	2	2				
			システム設計学	2		2			
			流体工学特論	2		2			
			応用情報工学	2	2				
			専門共通科目開設単位計	24	8	8	8	0	
	専門共通科目　修得単位			１８単位以上					
	専門専攻科目	◎	特別研究	14	3	3	4	4	
		◎	特別実験	4	2	2			
		◎	特別演習	2			2		
		◎	ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ・ﾃﾞｻﾞｲﾝ演習	2				2	
		◎	システム制御工学	2	2				
		◎	パワーエレクトロニクス	2			2		
			情報工学	2	2				
			電磁気応用工学	2		2			
			応用通信工学	2	2				
			信号処理特論	2		2			
			電子回路特論	2	2				
			制御工学特論	2		2			
			知識情報工学	2			2		
			電子デバイス工学Ⅰ	2		2			
			電子デバイス工学Ⅱ	2			2		
			医療工学	2				2	
			インターンシップ	2	(2)				
			専門専攻科目開設単位計	48	13(2)	13(2)	12(2)	8(2)	
	専門専攻科目　修得単位			３８単位以上					
	専門科目開設単位計			72	21(2)	21(2)	20(2)	8(2)	
	専門科目　修得単位			５６単位以上					
一般・専門科目開設単位合計				82	23(2)	25(2)	22(2)	10(2)	
一般・専門科目　修得単位　合計				６２単位以上					

(注)　◎印は必修科目

(注)　一般科目にあっては，1年に4単位以上、2年に2単位以上修得することが望ましい。

（出典　平成２４年度専攻科学習の手引）

資料５－５－②－６

【建設・生産システム工学専攻の教育課程】

建設・生産システム工学専攻教育課程表

（平成２４年度入学者に適用）

区分			授業科目	単位数	１年		２年		備考
					前期	後期	前期	後期	
一般科目	一般	◎	現代英語Ⅰ	2	2				
			現代英語Ⅱ	2		2			
			日本文化論	2				2	
			経営学	2		2			
			近代物理学	2			2		
			一般科目開設単位計	10	2	4	2	2	
			一般科目　修得単位	６単位以上					
専門科目	専門共通科目	◎	応用解析１	2	2				
		◎	応用解析２	2		2			
		◎	技術者倫理	2			2		
		◎	地球環境政策学	2			2		
			ネットワークシステム論	2			2		
			画像工学	2		2			
			ロボットシステム制御	2			2		
			先端材料工学	2	2				
			エネルギー工学	2	2				
			システム設計学	2		2			
			流体工学特論	2		2			
			応用情報工学	2	2				
			専門共通科目開設単位計	24	8	8	8	0	
			専門共通科目　修得単位	１８単位以上					
	専門専攻科目	◎	特別研究	14	3	3	4	4	
		◎	特別実験	4	2	2			
		◎	特別演習	2			2		
		◎	ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞ・ﾃﾞｻﾞｲﾝ演習	2				2	
		◎	弾塑性力学	2	2				
		◎	材料科学	2	2				
			材料強度学	2	2				
			応用構造工学	2		2			
			動的設計論	2		2			
			建築耐震工学	2		2			
			流体力学	2	2				
			レオロジー	2			2		
			プラント工学	2			2		
			メンテナンス工学	2		2			
			地盤工学設計論	2			2		
			水圏環境学	2	2				
			エネルギー環境学	2		2			
			環境防災論	2	2				
			まちづくり学	2		2			
			建設計画学	2				2	
			設計演習	2				2	
			インターンシップ	2	(2)				
			専門専攻科目開設単位計	58	17(2)	17(2)	12(2)	10(2)	
			専門専攻科目　修得単位	３８単位以上					
			専門科目開設単位計	82	25(2)	25(2)	16(2)	14(2)	
			専門科目　修得単位	５６単位以上					
一般・専門科目開設単位合計				92	27(2)	29(2)	18(2)	16(2)	
一般・専門科目　修得単位　合計				６２単位以上					

（出典　平成２４年度専攻科学習の手引）

（分析結果とその根拠理由）
専攻科の教育の目的及び修了者像に照らして，専攻毎の専門分野の科目，共通専門の科目及び一般科目が適切に配置されている。したがって，教育課程の体系性が確保されており，全体として教育課程の編成の趣旨に沿って，教育の目的を達成するために適切なものになっている。

観点５－５－③：　教育課程の編成又は授業科目の内容において、学生の多様なニーズ、学術の発展の動向、社会からの要請等に配慮しているか。

（観点に係る状況）
資料５－５－③－１に示すように，厳選した必修科目を設定した上で学生のニーズに対応できるよう幅広い選択科目を設定している。

専攻科１年生については，学生のニーズから一般科目に英語関連科目と専門科目に学生の多様性を考慮した科目を設定している。また，専攻科で設定していない科目の履修の一例として，資料５－５－③－２，３に大学における単位の専攻科認定申請書を示す。

２名の専攻長は，専攻科生の担任として学生のニーズや要望を収集している。また，海外の大学との国際交流協定が締結され，国際性を養う教育の基盤が整備されている。社会からの要請に対応し資料５－５－③－４，５に示す「インターンシップ」を実施している。

資料５－５－③－１

（第３条関係）

平成　　年　　月　　日

平成２４年度　履　修　届

舞鶴工業高等専門学校長　殿

電気・制御システム工学専攻　　１年

学籍番号　　氏名

区分		授業科目	単位数	記入欄 前期	記入欄 後期	担当教員	備考
一般科目		◎　現　代　英　語　Ⅰ	2	○			
		現　代　英　語　Ⅱ	2				
		経　　営　　学	2				
		単　位　数　小　計					
専門科目	専門共通科目	◎　応　用　解　析　1	2	○			
		◎　応　用　解　析　2	2		○		
		画　　像　　工　　学	2				
		先　端　材　料　工　学	2				
		エ　ネ　ル　ギ　ー　工　学	2				
		シ　ス　テ　ム　設　計　学	2				
		流　体　工　学　特　論	2				
		応　用　情　報　工　学	2				
		単　位　数　小　計					
	専門専攻科目	◎　特　別　研　究	6	○	○		前期3,後期3
		◎　特　別　実　験	4	○	○		前期2,後期2
		◎　システム制　御　工　学	2	○			
		情　　報　　工　　学	2				
		電　磁　気　応　用　工　学	2				
		応　用　通　信　工　学	2				
		信　号　処　理　特　論	2				
		電　子　回　路　特　論	2				
		制　御　工　学　特　論	2				
		電子ﾃﾞﾊﾞｲｽ工学Ⅰ	2				
		インターンシップ	2				
		単　位　数　小　計					
単　位　数　合　計							

（注）１．◎印は必修科目

２．先端材料工学は必ず履修すること。

（出典　平成２４年度専攻科学習の手引）

資料５－５－③－２

（大学における単位の認定）

第９条　大学において修得した単位は，１０単位（一般科目２単位以内，専門共通科目４単位以内，専門専攻科目８単位以内）を超えない範囲で，専攻科における授業科目とみなし，その単位を認定することができる。

（出典　平成２４年度専攻科学習の手引）

資料５－５－③－３

大学における単位の専攻科認定申請書

平成　　年　　月　　日

舞鶴工業高等専門学校長　殿

平成　　年度入学

システム工学専攻

氏名

大学において下記の科目を単位取得したので，専攻科の単位として認定いただきますよう成績証明書を添付し，申請します。

記

区分	授業科目名	単位数	取得大学名	備考
一般科目				
専門共通科目				
専門専攻科目				
単位合計				

※認定出来る単位数は１０単位までとする。

（出典　平成２４年度専攻科学習の手引）

資料５－５－③－４

平成24年度　インターンシップ履修者一覧

平成２４年度

専攻名	学年	氏名	実習先	期間	備考
電気・制御システム工学専攻	[redacted]		日本原子力研究開発機構　大洗研究開発センター	9/18～9/28	
電気・制御システム工学専攻			中国成都工業学院	9/9～9/15	海外
電気・制御システム工学専攻			中国成都工業学院	9/9～9/15	海外
電気・制御システム工学専攻			中国成都工業学院	9/9～9/15	海外
建設・生産システム工学専攻			前川製作所（釜山）	8/13～8/28	海外
建設・生産システム工学専攻			ブラザー工業（高雄）	8/14～8/28	海外
建設・生産システム工学専攻			ブラザー工業（高雄）	8/14～8/28	海外
建設・生産システム工学専攻			高雄第一科技大学	8/20～9/6	海外

平成23年度　インターンシップ履修者一覧

平成２３年度

専攻名	学年	氏名	実習先	期間	備考
電気・制御システム工学専攻	[redacted]		ナルックス株式会社	8/22～9/2	
建設・生産システム工学専攻			株式会社鴻池組	9/5～9/16	
電気・制御システム工学専攻			マレーシア工科大学	8/9～8/26	海外
建設・生産システム工学専攻			台湾国立高雄第一科技大学	8/9～8/26	海外
建設・生産システム工学専攻			株式会社前川製作所（昌原工場）	8/9～8/26	海外

（出典　学生課資料）

資料５－５－③－５

科　　目　　名	学年	期別・授業形態・単位数	教員名　電気・制御システム工学専攻長 研究室 内線電話 e-mail:
インターンシップ Internshp	１または２	原則として夏季・実習・２単位	
	授業（　時間）＋自己学習（　時間）＝標準　時間の学習時間		

【授業目的】
協定先の海外を含む高等教育機関，企業等における一定期間の実習または研修や就業体験を通じて，専門分野における知識・技術・業務に触れながら実務能力を深め，新たな学習意欲を高めることを目的とする。

【Course Objectives】
Through employment experiences for a fixed period in a company, a public corporation or an organization of a local self-governing body (or a country), students study the manners as member of society, a sense of responsibility over work, an engineer's role and technical importance. Moreover, students raise their occupational onsciousness and can tackle study with a strong awareness for a future employment

【到達目標】
１．社会人としてのマナーや仕事に対する責任感を学ぶ。
２．自らのマナーや責任感を向上することができる。
３．「ものつくり」の技術の大切さを説明できる。
４．進路意識を高め，就職等の対策を立てることができる。
５．今後の勉学の動機付けを見出すことができる。

【Outcomes/Aims】
Students will be able to achieve the following:
1. study the manners as a member of society , a sense of responsibility over work,
2. improve their manners and sense of responsibility,
3. explain the importance of the technology of the making of things,
4. raise the consciousness to employment and plan a measure of job hunting,
5. find out the motivation of future study.

【学習・教育目標】
(C) 習得した知識を統合して、社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発する創造的能力と意欲を有する。

【キーワード】
インターンシップ，ものつくり，工場実習
internship, making of things, factory practice

【授業時間】
８時間×10日＝80時間

【授業方法】
１．原則として，夏期休業中に１０日間以上，交流協定校・企業等に出向いて研修をする。
２．受講申し込みは，「インターンシップ履修に関する規定」に従い「申込書」と「誓約書」を専攻長に提出する。
３．研修終了後は，「インターンシップ実施証明書」を専攻長に提出する。

【学習方法】
１．研修プログラムは，受け入れ機関が指定する場合と，事前打ち合わせをする場合がある。
２．経費については，打ち合わせ先に一任する（日当あり／なし，交通費あり／なし，宿舎あり／なし）。
３．傷害保険に加入する。
４．インターンシップ報告会の資料作成のための自己学習を義務づける。

【履修上の注意】
本校学生として恥ずかしくない態度で臨むこと，また，学習の一環であることを認識し取り組むこと。

【定期試験の実施方法】
なし

【成績の評価方法・評価基準】
１．学生が提出したインターンシップ報告書
２．インターンシップ受け入れ先から発行された実施証明書
３．インターンシップ報告会における発表
到達目標と上の１～３をもとに、専攻科委員会にて審議し、合否を判定する。

【科目の位置付け】
１．先行して履修すべき科目

２．後で履修する関連科目

３．同時に履修する関連科目

(出典　平成２４年度専攻科学習の手引)

（分析結果とその根拠理由）

適切な選択必修制，大学で取得した単位の認定，専攻長が専攻科生担任として学生のニーズ対応，国際交流協定及びインターンシップの実施により，学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に配慮した編成となっている。

観点５－６－①：　教育の目的に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態のバランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされているか。

（観点に係る状況）

資料５－５－②－５及び資料５－５－②－６は，両専攻の教育課程表を示す。専攻科では，講義科目の学習時間が427.5時間，演習が90時間，特別実験が135時間及び特別研究が472.5時間設定されており，講義科目が全体の38%,演習が８%，実験が12%，研究が42%である。演習・実験・研究の授業内容を資料５－６－①－１～３に示す。専攻科学生に対しては，英語能力の向上を目的としてＴＯＥＩＣ試験を受験させている（資料５－６－①－４）。

学習指導法の工夫に関するアンケート結果を資料５－６－①－５に示す。オリジナル教材の開発，自著のテキストの使用及び本科における学科の異なりによる学習内容の再を考慮した授業形態の工夫がなされている。

資料５－６－①－１

科　　目　　名	学 年	期別・授業形態・単位数	教 員 名　【授業内容の欄に記載】 研 究 室 内線電話 e-mail:
特別演習 Seminar & Special Practice	2	必　修 前期・演習・２単位	
	標準 60 時間の学習時間		

【授業目的】
1 専門分野における研究開発に携わるための一般的な能力を育成する。
2 専門分野における特別な演習及び技術英文や話題性のある原書講読を通じて，基礎的能力を育成する。
3 演習内容を的確に記述し報告書にまとめ上げる能力を育成する。
【Course Objectives】Students will acquire the following:
1 General faculty for engineers or researchers in their special fields
2 Fundamental faculty for engineers or researchers through special practices and reading special engineering topics
3 Skills for writing reports on engineering practices precisely

【到達目標】	【Outcomes/Aims】Students will be able to:
1 半導体プロセス技術を理解し，関連する英語文献を読み理解できる。 2 画像処理関係の英語の専門用語を習得し，画像処理関係の英語の専門書を読み理解できる。 3 FDTD法の基礎が理解でき、簡単なプログラムを組むことができる。	1 Understand techniques of semiconductor process and to read the related English references. 2 Read and understand English books concerning image processing. 3 Understand the basics of FDTD analysis and make a program to solve simple problems,

【学習・教育目標】
（ Ｄ ）実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる。
（ Ｇ ）課題の提案・報告などを効果的に記述し，説明することができる。

【キーワード】	【授業時間】
演習，半導体プロセス技術，画像処理，FDTD 法 Practice, Techniques of semiconductor process, Image processing, FDTD analysis	４時間×15 週＝60 時間

【授業方法】	【学習方法】
幅広い横断的なテーマを通じて授業を行う。技術英文法，原書講読，論文講読を通じて，関連する先端的なトピックスを紹介しつつ演習を行う。５週毎に各担当教員が得意とする分野について担当する。テーマ毎に内容をリポートにまとめて提出する。	授業に臨む態度として，積極的・主体的に演習に取り組むことが必要である。テーマに関して担当教員と積極的にディスカッションを行い，学生と担当教員との双方向のコミュニケーションが十分とれるようにする。学習成果を的確に記述しリポートにまとめる。

【履修上の注意】

【定期試験の実施方法】
定期試験は行わず，演習課題に関するリポートの提出を義務づける。

【成績の評価方法・評価基準】
提出されたリポートの内容，演習の成果などを総合的に勘案し，担当教員毎に評価する。これらの平均を求め60%以上の達成度をもって合格とする。

【科目の位置付け】

1. 先行して履修すべき科目，項目
画像工学関連科目，電子デバイス関連科目，
数学関連科目，英語関連科目，電子回路関連科目，
電気物理関連科目，特別実験

2. 後で履修する関連科目
なし

3. 同時に履修する関連科目
特別研究

【教科書・教材等】
演習テーマ毎に各担当教員が指導書を配布する。

（出典　平成２４年度専攻科学習の手引）

資料５－６－①－１の続き

【参考書・参照 URL 等】

【授業内容】
専攻科棟講義室 C303 にて演習を行う。

第 1 週－第 5 週　原書輪読（担当教員：清原）　**達成目標** 1
- 第 1 週　半導体プロセス技術に関連する英語文献を輪読 (1)
- 第 2 週　半導体プロセス技術に関連する英語文献を輪読 (2)
- 第 3 週　半導体プロセス技術に関連する英語文献を輪読 (3)
- 第 4 週　半導体プロセス技術に関連する英語文献を輪読 (4)
- 第 5 週　半導体プロセス技術に関連する英語文献を輪読 (5)

第 6 週－第 10 週　原書輪読（担当教員：芦澤）　達成目標 2
- 第 6 週　JPEG Still Image Data Compression Standard (1)
- 第 7 週　JPEG Still Image Data Compression Standard (2)
- 第 8 週　JPEG Still Image Data Compression Standard (3)
- 第 9 週　JPEG Still Image Data Compression Standard (4)
- 第 10 週　オフィスアワー，必要に応じて担当教員とディスカッション

第 11 週－第 15 週　原書輪読（担当教員：丹下）　**達成目標** 3
- 第 11 週　Computational electromagnetics (1)
- 第 12 週　Computational electromagnetics (2)
- 第 13 週　Computational electromagnetics (3)
- 第 14 週　Computational electromagnetics (4)
- 第 15 週　Computational electromagnetics (5)

【学生へのメッセージ】
演習を通じて，主体的，積極的に課題に取り組む姿勢を身につけてほしい。国際化がますます進む中で，技術者・研究者として，英語の専門書や論文の読解力は益々重要になってきている。本演習では担当教員が得意とする分野のトピックスを英文の原書または論文を通じて学ぶことができるので，専門用語を修得できるとともに，専門書や論文の読み方を修得することができる。どのような着想で研究が進められ，どのような過程を経て結果に結び付いたのかなど，問題意識を持って取り組むとおもしろいと思う。また，半導体プロセス技術，画像処理，FDTD 法などの最先端の話題が紹介される。技術者あるいは研究者としての素養を体得すると共に，必要に応じて自ら原書や英語論文を読むことができるように，英語文献の基礎的読解力をぜひ身につけて欲しい。

（出典　平成２４年度専攻科学習の手引）

資料５－６－①－２

科　　目　　名	学 年	期別・授業形態・単位数	教 員 名　【授業内容の欄に記載】 研 究 室 内線電話 e-mail:
特別実験 Advanced Experiments	1	必　修 通年・実験・４単位	
	標準 180 時間の学習時間		

【授業目的】

1 専門分野における研究開発に携わるための基礎的能力を育成する。
2 基礎となる工学現象に関する事項について実験データに基づいて論考する能力を育成する。
3 実験内容を的確に記述し報告書にまとめ上げる能力を育成する。

【Course Objectives】Students will acquire:
1 Skills for successful making achievement of experiments and the basic faculty for engineers or researchers in their special field
2 The faculty for deliberations regarding engineering problems based on experimental data
3 Skills for writing reports on engineering experiments precisely

【到達目標】	【Outcomes/Aims】Students will be able to:
1 マニュアルを参照して，機器やシステムの操作，データの収集ができる。 2 実験データの意味を咀嚼でき，理論と実験結果の両面から考察し結論を導き出せる。 3 実験結果を的確に記述できリポートを作成できる。 4 実験に臨む心構え，実験中の態度・姿勢を体得している。	1 Operate equipment and experimental systems referring the directions and to obtain the experimental data. 2 Consider the meanings of the physical data and to derive conclusions theoretically and experimentally. 3 Write reports on experiments correctly and precisely. 4 Successfully complete preparations and acquire appropriate way of thinking for conducting experiments.

【学習・教育目標】

（ Ｄ ）実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる。
（ Ｇ ）課題の提案・報告などを効果的に記述し，説明することができる。

【キーワード】	【授業時間】
実験，工学現象，シミュレーション，実験システム，装置，リポート， Experiment, Engineering phenomena, Simulation, Experimental system, Equipment, Report	６時間×30 週＝180 時間

【授業方法】

第１回目はオリエンテーションを行い，実験テーマ，実験室の場所，班分けなどについて説明する。前期４テーマ，後期４テーマの実験を行う。各テーマの実験は３週間で完了する。テーマ毎にそれぞれの担当教員が指導し，オムニバス形式で実施する。実験を実施しない時間はオフィスアワーとし，学生と担当教員が実験結果について議論する。

【学習方法】

１．実験に先立ち，実験テーマの概要，関連する基礎的事項を調べ，実験の目的や目指す内容をよく理解する。
２．実験方法の説明をよく聴き，実験手順をしっかり理解する。レポートで何を報告しなければならないかを把握する。
３．実験中は真剣に鋭く現象を観察する。実験データの物理的意味をよく考える。
４．十分考察し，自分自身の結論を導き出すこと。リポート作成においては，報告内容を的確に記述する。

【履修上の注意】

【定期試験の実施方法】

定期試験は行わず，各実験テーマのリポートの提出を義務づける。各テーマで与えられた演習課題もリポートに含まれる。

【成績の評価方法・評価基準】

テーマ毎のリポートを担当教員が評価する。各テーマの評価を平均して，60%以上の達成度をもって合格とする。

実験の無断欠席は原則として不合格（60 点未満）とする。正当な理由で欠席した場合に限り補講を行う。

【カリキュラムの位置付け】

1. 先行して履修すべき科目，項目

制御工学関連科目，情報処理関連科目，エネルギー工学，電気電子回路関連科目，振動工学，論理回路，電気磁気学関連科目，ロボット工学，通信工学 I

2. 後で履修する関連科目

制御工学関連科目，パワーエレクトロニクス，技術者倫理，ディジタル信号処理，ロボットシステム制御，特別演習，特別研究

3. 同時に履修する関連科目

システム制御工学，ディジタル電子回路，応用情報工学，応用通信工学，アナログ電子回路，電子デバイス工学，電子計測工学，電磁気応用工学，特別研究

（出典　平成２４年度専攻科学習の手引）

資料５－６－①－２の続き

【教科書・教材等】
実験テーマ毎に，担当教員が指導書を配布する。

【授業内容】
達成目標は、各テーマにおいて１～４が対応する。
（前期）　実験室番号のｱﾙﾌｧﾍﾞｯﾄ　A：本館、C：専攻科棟

第１週　オリエンテーション（シラバスの説明など）
第２週－第４週　PLC による FA 制御実験実習（担当：石川、[redacted]）
　第２週　シーケンス制御の基礎実習
　第３週　PLC ラダープログラムによる回路設計
　第４週　PLC による FA 制御実験
第５週－第７週　太陽ｴﾈﾙｷﾞｰ利用に関する実験（担当：中川、[redacted]）
　第５週　太陽光発電の説明，太陽光発電設備データ解析あるいは実験のテーマ決定
　第６週　太陽光発電設備ﾃﾞｰﾀ解析あるいは実験
　第７週　グループディスカッションおよび考察
第８週－第 10 週　２軸ロボットの運動制御実験（担当：南，[redacted]）
　第８週　ロボットのモデリングと角度制御実験
　第９週　２軸ロボットの運動学解析と軌道制御シミュレーション
第 10 週　２軸ロボットの軌道制御実験，実験結果の整理と考察
第 11 週－第 13 週　マイクロ波回路の実験（担当：新池、[redacted]）
　第 11 週　導波管伝送の原理，ガンダイオードの発振，減衰器の取り扱い，周波数の測定，管内波長の測定
　第 12 週　負荷インピーダンスの測定，ホーンアンテナの放射指向性測定
　第 13 週　スミス図表の取り扱い，アンテナ指向性の演習，リポートの取りまとめ
第 14 週－第 15 週　オフィスアワー，必要に応じて担当教員とディスカッション

（後期）

第 16 週－第 18 週　圧電振動子の動作解析（担当：金山、[redacted]）
　第 16 週　等価回路理論の説明と各種コンデンサの測定
　第 17 週　圧電振動子の特性測定
　第 18 週　各種コンデンサの分解調査
第 19 週－第 21 週　磁気浮上システムの制御系設計と実験（担当：金森、[redacted]）
　第 19 週　線形化および制御系設計，Matlab/Simulink によるシミュレーション実験
　第 20 週　鉄球の磁気浮上位置決め制御実験
　第 21 週　実験データの整理，理論の再認識と結果の考察，リポート課題の演習
第 22 週－第 24 週　データ圧縮/復号実験（担当：片山、[redacted]）
　第 22 週　データ圧縮/復号方法の説明とプログラム理解
　第 23 週　ハフマン符号を用いた圧縮/復号実験
　第 24 週　ZL77 符号を用いた圧縮/復号実験，実験結果の整理及び考察
第 25 週－第 27 週　進化的計算手法を用いた各種最適化問題の解法（担当：伊藤稔、[redacted]）
　第 25 週　進化的計算手法とプログラムへの実装方法の理解
　第 26 週　進化的計算手法を用いた実数値最適化
　第 27 週　進化的計算手法を用いた組合せ最適化
第 28 週－第 30 週　オフィスアワー，必要に応じて担当教員とディスカッション

【学生へのメッセージ】
将来，技術者あるいは研究者として，実験によって何か新しい真理を見出そうとする場合や，開発した技術や商品を実験的に検証しようとする場面など，実験に直面することが多くあると思う。実験は一般的に費用がかかり，時間と労力も必要となる。したがって，実験の目的を果たせるように，細心の注意と十分な準備が必要である。また，実験データは貴重なものであり大切にしなければならない。場合によっては知的財産ともなり得るほどである。そのため，実験においては，正確さ，鋭い観察力，適切なデータ整理・分析・解析が必要であり，データを最大限有効に活用する能力が要求される。本実験を通じて，将来必要なこれらの基礎的素養を体得してほしい。

さらに，実験は報告書にまとめ報告を終えて初めて完了する。実験を行うことと報告書の提出は１セットであり，報告書の提出無くして実験が完了することはあり得ない。報告書にまとめることにより，知的財産として保管できるだけでなく，同じ実験を繰り返す必要が無くなり，成果を第三者と共有することができ，実験結果を一層価値あるものとすることができる。よりよいリポートが書けるように努力してほしい。

（出典　平成２４年度専攻科学習の手引）

資料５－６－①－３

科　　目　　名	学 年	期別・授業形態・単位数	教 員 名　【授業内容の欄に記載】 研 究 室 内線電話 e-mail:
特別研究 Graduation Thesis Research	1	必　修 通年・研究・６単位	
	標準 300 時間の学習時間		

【授業目的】

1 研究を通じて，専門分野に関する研究開発に携わるために必要な基礎的能力を育成する．
2 専門分野における研究テーマを遂行し，工学現象を論考すると共に，そこから結論を引き出す能力を育成する．
3 研究内容を的確に記述し，特別研究論文として効果的にまとめる能力を育成する．

【Course Objectives】Students will acquire:

1 Basic faculty for engineers or researchers in research training in their special field
2 Fundamental faculty for achieving research results for example, conducting work, considering physical meanings of phenomena, and drawing conclusions and so on
3 Skills for writing dissertations on research themes precisely and effectively

【到達目標】	【Outcomes/Aims】Students will be able to:
1 研究テーマに関連する参考文献を調査できる． 2 学習や参考文献で得られた既存の知識や技術をもとに，独創的な改善あるいは拡張ができる． 3 ｱｲﾃﾞｱを実現するための実践力を身につけている． 4 結果を学術的に考察し，結論を導くことができる． 5 研究成果を的確に記述し論文としてまとめることができる． 6 研究成果を効果的に説明ならびに発表することができる． 7 指導教員とディスカッションができ，テーマを遂行するための意志決定ができる．	1 Read and understand references for the research theme. 2 Extend or improve a known theory or a technical method originally based on their own knowledge. 3 Master practical techniques to carry out their own ideas or projects. 4 Consider physical meanings of results and to derive conclusions from them. 5 Write dissertations concerning research themes precisely and effectively. 6 Present research topics effectively. 7 Have cogent discussions with their supervisor and make decisions about tasks for research.

【学習・教育目標】

（ C ）修得した知識を統合して，社会に貢献できる製品やシステム設計・開発する創造能力と意欲を有する。
（ G ）課題の提案・報告などを効果的に記述し，説明することができる。

【キーワード】	【授業時間】
研究，研究論文，文献調査，独創性，研究計画，意志決定 Research, Dissertation, Examination of references, Originality, Research planning, Making a decision	10 時間×30 週＝300 時間

【授業方法】	【学習方法】
第１回目の授業でオリエンテーション及び各指導教員の研究テーマの説明を行う．第 2 回目の授業で学生の希望を考慮して配属を決定する．第３回目から各研究室へ行き研究を行う．指導教員の得意とする分野のテーマについて，指導教員と相談しながら研究テーマを遂行する．	研究は学生自ら興味と問題意識を持ち，積極的・主体的に取り組むものである．テーマに関して指導教員と積極的にディスカッションを行い，学生と指導教員との双方向のコミュニケーションが十分とれるようにする．困ったときは指導教員に相談し指示を受ける．結果が出たら物理的な意味合いをよく考えると共に，適宜指導教員に報告する．
【履修上の注意】	**【カリキュラムの位置付け】** **1. 先行して履修すべき科目，項目** 授業科目全般 **2. 後で履修する関連科目** 授業科目全般 **3. 同時に履修する関連科目** 授業科目全般
【定期試験の実施方法】 定期試験は行わず，10 月と 3 月に中間発表及び研究概要の提出を義務付ける．年度末に特別研究リポートの提出を義務付ける．	
【成績の評価方法・評価基準】 提出された研究概要と２回の中間発表の内容，特別研究レポートを総合的に勘案し，評価する．	

（出典　平成２４年度専攻科学習の手引）

資料５－６－①－３の続き

【研究テーマ（テーマ例一覧）】

・高次元映像情報の圧縮に関する研究（指導教員：芦澤）
　研究内容：医療分野における３次元 CT などのボリュームデータの高効率かつ高速な圧縮アルゴリズムの開発を行う。
・CR-39飛跡検出器の応答解析（指導教員：石川）
　研究内容：宇宙放射線検出器CR-39の高速読み取り等を含めた応答解析研究を行う。
・進化的多目的最適化に関する研究（指導教員：伊藤稔）
　研究内容：進化的計算手法を用いた多目的最適化問題における効率的な意思決定方法の開発を行う。
・膜タンパク質遺伝子の情報解析（指導教員：井上）
　研究内容：情報科学手法により，生物の膨大な全遺伝情報から，創薬，環境資源に有用な膜タンパク質遺伝子を入手する。
・表面プラズモン共鳴吸収に関する研究（指導教員：内海）
　研究内容：金属複合膜による表面プラズモン共鳴吸収特性の測定と評価，およびその応用技術の開発を行う。
・CO_2削減を狙ったエネルギー環境機器の設計・開発（指導教員：奥村）
　研究内容：新エネルギーを取り込み，CO_2地中埋め込みを考慮した発電法やバイオマス燃焼法のシステム設計を行なう。
・画像処理を用いた運動強度の計測（指導教員：片山）
　研究内容：走者を撮影した映像を画像処理することで，走者の運動強度を計測する方法を研究する。
・制御入力の飽和を考慮したロボットシステムのアンチワインドアップ制御に関する研究（指導教員：金森）
　研究内容：制御入力の制限のために生じる入力飽和を考慮して，垂直多関節ロボットの制御手法を確立する。
・圧電素子を用いた粘度センサに関する研究（指導教員：金山）
　研究内容：圧電振動子を用いた粘度センサについて研究を行う。
・劣駆動ロボットの非線形制御に関する研究（指導教員：川田）
　研究内容：劣駆動ロボットを対象とし，非線形性を積極的に考慮した高性能な制御の実現を検討する。
・室温ナノインプリント法によるダイヤモンドのナノ加工に関する研究（指導教員：清原）
　研究内容：本研究で開発したナノインプリント法を用いて，ダイヤモンド機能性マイクロ・ナノデバイスを作製する。
・ソフトコンピューティングに関する研究（指導教員：新池）
　研究内容：学習，モデリング，予測，最適化などに有効性の高いソフトコンピューティングに関する研究を行う。
・電子状態計算による物性評価（指導教員：竹澤）
　研究内容：デバイス材料等の物性評価・開発を，ミクロな視点に基づく計算機シミュレーションにより実行する。
・金属体微粒子を用いた癌温熱治療装置に関する研究（指導教員：丹下）
　研究内容：擬似生体に金属体微粒子を埋め込むことにより，局所加温の可能性の検討を行う。
・脳機能評価システムの開発に関する研究（指導教員：中川）
　研究内容：NIRSと連携して脳機能の活性度を評価する，統合的なシステムを開発し，実用化を目指す。
・人工筋肉を用いた歩行ロボットに関する研究（指導教員：仲川）
　研究内容：本研究では受動歩行に人工筋肉を搭載し，人間の動作に近い歩行ロボットの製作と実験を行う。
・テーラー渦とキャビティ流れの相互作用に関する研究（指導教員：野間）
　研究内容：キャビティ部を有する回転二重円筒間流れを可視化し，キャビティ部形状の違いによる流動特性の変化について調べる。
・昇圧チョッパの新しい回路方式の研究（指導教員：平地）
　研究内容：従来の昇圧チョッパより損失が少なく，かつ高速応答が可能な回路方式の実験とシミュレーションを行う。
・カラー画像の鮮明化に関する研究（指導教員：舩木）
　研究内容：カラー画像にγ補正を施し，ハイライトや影を潰さないように鮮明化することを目的とする。
・PLLモータ速度制御系への繰り返し制御器の導入による回転ムラ軽減に関する研究（指導教員：町田）
　研究内容：PLLと繰り返し制御をFPGA実現し、超高精度なモータの回転速度制御を目指す。
・量子化制御に関する研究（指導教員：南）
　研究内容：連続と離散が混在するシステムを操るための制御理論の構築とその実システムへの応用を目指す。

---------- 備考 ----------
以上、テーマ例を示したが、これ以外にも多数用意している。詳細はオリエンテーション時に各指導教員が説明する。

（出典　平成２４年度専攻科学習の手引）

資料５－６－①－４

平成２４年度英語デー実施要領

１．目的

本校学生の英語力を向上させるための授業の一環として、英語学習の成果及び英語によるコミュニケーション能力を評価するため「英語デー」を実施する。この要領は、「英語デー」の実施に関して、必要な事項を次のとおり定めるものとする。

２．実施日時

平成２４年１０月１６日（火）午前

３．実施内容、対象者、実施時間、実施場所

実施内容		対象者	実施時間	実施場所
英語試験	Ａ．Ｃ．Ｅ．	本科学生（１～２年)	9:30～11:30	各クラスルーム
	ＴＯＥＩＣ	本科学生（３年～５年) ＊専攻科学生	9:30～12:00	各クラスルーム ※専攻科学生は第２合併教室

４．準備と実施スケジュール及び担当教員

準備　１０月１０日（水）１６：４５～（多目的室）

A.C.E.及びTOEIC試験枚数の確認と仕分け作業

担当：荒川、松井、宮崎操、吉永、ケイ、宮野、竹澤、南

当日　１０月１６日（火）

８時４０分　運営担当教員　多目的会議室に集合　資材と機器の点検 担当：荒川、松井、宮崎操、吉永、ケイ、宮野、竹澤、南	
本科学生（１、２年）＊	本科学生（３～５年）・専攻科学生

（出典　平成２４年度英語デー実施要領）

資料５－６－①－５

表１　教材の工夫事例

科目名	教員名	内　　容
日本文化論	村上	全国の大学・短大・高専用に作成した自著を教科書として使用している。また、要点を纏めたレジュメ等も必要に応じ適宜配布しながら，講義に活用している。
応用通信工学	新池	電気工学科と電子制御工学科では学習内容が異なるため，本科との連携を配慮して自主教材を使用している。
ロボットシステム制御	金森	本科との連携を考慮して，要点を纏めた自著のテキストを作成し配布している。

表２　情報機器の活用事例

科目名	教員名	内容
システム 制御工学	川田	最初の３週のみ，プロジェクタを利用して最先端の事例を紹介している。
応用情報工学 動的設計論 特別実験	高谷	資料やプログラム，演習課題等をウエブ上で配信している。
材料加工学	生水	材料加工の先端技術の紹介にパワーポイントを用いている。
特別実験	西山	表計算ソフトMS-Excelを用いた表計算流体力学の数値実験を行っている。
特別実験	森尾	地盤データ（ボーリングデータ）を与え，地震時の液状化に対する危険度ＦＩをEXCELにより計算させている。

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

以上のように，教育の目的に照らして，講義，演習，実験等の授業形態のバランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法の工夫がなされている。

観点５－６－②：　教育課程の編成の趣旨に沿って、シラバスが作成され、事前に行う準備学習、教育方法や内容、達成目標と評価方法の明示等、内容が適切に整備され、活用されているか。

（観点に係る状況）

教育目標の趣旨に沿って，シラバスが作成されている。講義科目のシラバスの一例を資料５－６－②－１に示す。シラバスには，科目の指導教員に関する情報が記載され，学生の質問等に学内外からできるようにしている。また，授業方法，学生に対するメッセージや評価方法等が詳細に書かれている。

シラバスは毎年改善され，授業アンケートではシラバスが概ね利用されている結果が得られている（資料５－６－②－２，資料５－６－②－３）。平成２２年度の外部評価を経て，授業アンケートの質問を４項目に精選し，回答者ごとの自由記述欄の設置を柱とする授業アンケートシステムが構築された（資料５－６－②－３）。

資料５－６－②－１

科　目　名	学　年	期別・授業形態・単位数	教員名　新池　一弘 研究室 内線電話 e-mail: [redacted]
応用通信工学 Applied Communication Engineering	1	前期・講義・2単位	
授業（30時間）＋自己学習（60時間）＝標準90時間の学習時間			

【授業目的】

移動体通信に必要なアンテナと電波伝搬の基礎概念について学習する。マクセルの方程式を用いて電磁波の放射，伝搬機構について学習する。アンテナの構造，特性について学びアンテナの設計・製作を行う。微積分，ベクトル解析の基本的な事柄を理解しておけば電磁波解析は理解できるよう，演習を交えて授業を進める。

【Course Objectives】

We will learn about the antennas required for the communications and the electromagnetic wave propagation phenomenon using Maxwell's equations. The first lectures focus on the structure and characteristics of the several basic antennas. As preparation for this subject, it is desirable that students have some knowledge of the elementary electromagnetic theory, transmission lines and basic vector analysis.

【到達目標】

1．マクセルの方程式が説明できること。
2．ベクトル波動方程式が説明できること。
3．アンテナの利得計算ができること。
4．平面波の伝搬特性を理解し，面波の反射と屈折が理解できること。
5．屈折率，反射係数が求められること。

【Outcomes/Aims】

Students will be able to:
1. explain Maxwell's equations,
2. explain vector wave equations,
3. calculate the gain constant of antennas,
4. understand the propagation characteristics of the plane wave and reflection from plane boundary,
5. understand calculate reflection rates.

【学習・教育目標】

（B）専門分野の基礎知識を修得し，それを実際の技術の問題に応用することができる。

【キーワード】

マクセルの方程式，電波工学，アンテナ，電波伝搬
Maxwell's equation, Radio wave engineering, Antennas, Electromagnetic wave propagation.

【授業時間】

2時間×15週＝30時間

【授業方法】

講義中心の授業を行うとともにPBLを導入する。その展開の中では，すでに修得しているべき基本事項について復習しながら，基本事項の整理を行う。電磁誘導，アンペールの法則など電磁気学の基本を理解すること，ベクトルの基本演算など無線工学の重要なところを学習する。また，実際にアンテナの設計・製作も行いレポート課題があるので，授業中理解できるよう学習する。

【学習方法】

応用通信工学の理解を深め，応用力を養うために，単元毎に課す演習課題等を自己学習として義務付け，その回答を指定日時までに提出してもらう。そのため毎回の授業の前後には，予習・復習として4時間程度の自己学習を行うこと。

【履修上の注意】

関数電卓を使用することがあるので持参すること。本科目は授業での学習と授業外での自己学習で成り立つものである。

【定期試験の実施方法】

通常の定期試験を実施する。

【成績の評価方法・評価基準】

定期試験の結果（70%）と授業時に課す自己学習としての課題等習課題等の提出物の評価（30%）を考慮して総合成績とする。到達目標に基づき，マクセルの方程式，ベクトル波動方程式，アンテナの利得計算，平面波の伝搬特性など，各項目の理解についての達成度を評価基準とする。

【科目の位置付け】

1．**先行して履修すべき科目**
電磁気学，通信工学
2．**後で履修する関連科目**
特別演習
3．**同時に履修する関連科目**
特別実験

（出典　平成２４年度専攻科学習の手引）

資料５－６－②－１の続き

【教科書・教材等】
教科書：なし（自作プリントを配布する）
教材　：池澤俊治著「電波工学概説」（森北出版）

【参考書・参照 URL 等】
参考書：小林常人　「無線従事者用　空中線系と電波伝搬」上巻

【授業計画】

週	内　　容	到達目標	教科書参照ページ
第１週	シラバス内容の説明，微小ダイポールからの電波放射。	1	
第２週	微小ダイポールからの電波放射	1	
第３週	接地空中線と半波ダイポールアンテナ	2	
第４週	接地空中線と半波ダイポールアンテナ	2	
第５週	接地空中線と半波ダイポールアンテナ	2	
第６週	アンテナと電力	3	
第７週	アンテナと電力	3	
第８週	ループアンテナとパラボラアンテナ	4	
第９週	ループアンテナとパラボラアンテナ	4	
第10週	アンテナと給電線との整合	4	
第11週	アンテナと給電線との整合	5	
第12週	電波伝搬	5	
第13週	種々のアンテナ	3	
第14週	種々のアンテナ	3	
	★定期試験		
第15週	試験の返却，まとめ		

【自己学習】

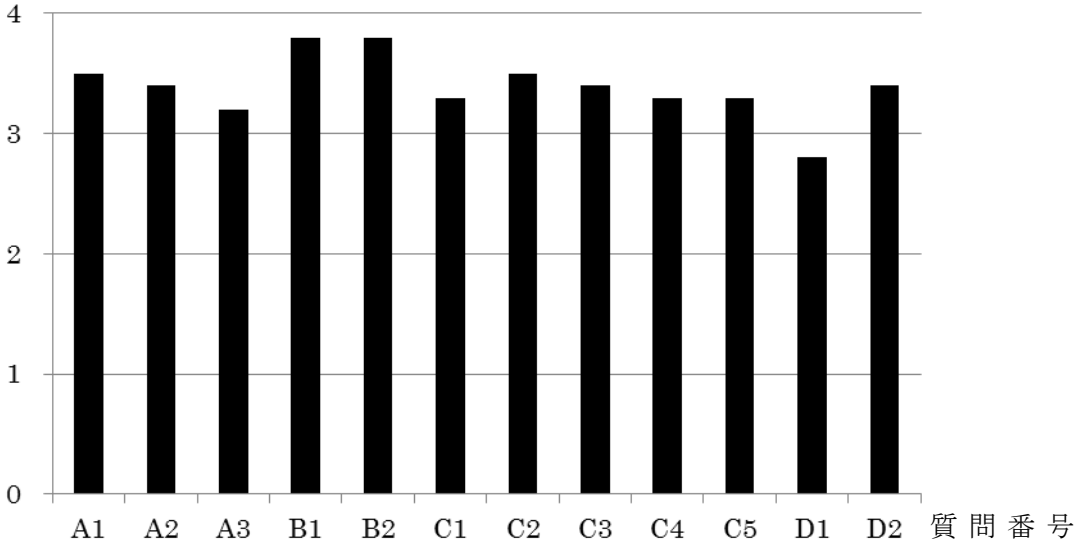
週	内　　容
第１週	演習課題プリント１
第２週	演習課題プリント２
第３週	演習課題プリント３
第４週	演習課題プリント４
第５週	演習課題プリント５
第６週	演習課題プリント６
第７週	演習課題プリント７
第８週	演習課題プリント８
第９週	演習課題プリント９
第10週	演習課題プリント 10
第11週	演習課題プリント 11
第12週	演習課題プリント 12
第13週	演習課題プリント 13
第14週	演習課題プリント 14
第15週	復習プリント

【学生へのメッセージ】
移動体通信はこれからますます重要な通信技術としてその利用が見込まれている。 新しいモバイル通信のデバイスも開発されている。アンテナの開発と電波伝搬の解析技術はますます大切な技術になっている。このような無線通信技術の基本特性を理解することは，今後ますます重要となる。これまで学んだ電磁気学，交流回路理論，ベクトル解析の基本を復習しながら授業を進めることによりアンテナ・電波伝搬の重要な概念を学んでください。学生時代，基礎理論を確実に身につけておくことはこれから特に重要になります。

（出典　平成２４年度専攻科学習の手引）

資料５－６－②－２

Ａ３：「シラバスの記述されている授業内容や方法は参考になりましたか」の設問に対して，全学生の平均値が３を上回っており，平成16年度の授業アンケート結果より向上が見られた。しかし，Ｄ１：「授業の予習および復習（宿題を含む）にはどのくらい時間をかけましたか（週平均）」については平均を下回っており，学生は学寮または家庭において学習にあまり時間をかけていないという結果になっている。



（注）縦軸の評価点は，以下に示す５段階評価に基づき項目ごとに
全得点を有効回答数で割って求めたものである。

Ａ１　この授業の内容は興味を持てましたか？
５：とても興味が持てた　４：興味が持てた　３：普通
２：あまり興味が持てなかった　１：全く興味が持てなかった

Ａ２　教科書やプリントなど，教材の難易度は適当でしたか？
５：難しすぎる　４：やや難しい　３：ちょうど良い
２：やや，やさしい　１：やさしすぎる

Ａ３　シラバスに記されている授業内容や方法は参考になりましたか？
５：とても参考になった　４：参考になった　３：普通
２：あまり参考にならなかった　１：まったく参考にならなかった

Ｂ１　良く準備された授業でしたか？
５：とても良く準備されていた　４：準備されていた　３：どちらともいえない
２：あまり準備されていなかった　１：まったく準備されていなかった

Ｂ２　先生の教える態度に熱意や情熱が感じられましたか？
５：とても熱意が感じられた　４：熱意が感じられた　３：普通
２：あまり熱意が感じられなかった　１：まったく熱意が感じられなかった

（出典　平成２１年度授業アンケート結果の報告）

資料５－６－②－３

平成 22 年度授業アンケートの結果

設問	平成 21 年度	平成 22 年度
Ａ１平均	3.53	3.48
Ａ２平均	3.47	3.48
Ａ３平均	3.22	3.18
Ｂ１平均	3.78	3.67
Ｂ２平均	3.78	3.63
Ｃ１平均	3.34	3.35
Ｃ２平均	3.61	3.52
Ｃ３平均	3.53	3.43
Ｃ４平均	3.41	3.33
Ｃ５平均	3.44	3.35
Ｄ１平均	2.79	2.80
Ｄ２平均	3.50	3.41
Ｄ３平均	3.42	3.35

資料５－６－②－３の続き

平成 23 年度授業アンケートの結果

アンケート実施時期
平成23年度

アンケート集計結果（全科目）
・各質問に対する各解答の数と割合を示しています。
・各質問に対する各解答の数と割合を示しています。
・講義系科目、実験/実習系科目のそれぞれ全科目についての結果を示しています。

講義系科目（全406科目）

質問	解答		
この授業の内容や進め方は適切でしたか？	適切であった	どちらとも言えない	不適切であった
	10867 (82.4%)	4936 (28.9%)	1496 (8.7%)
良く準備された授業でしたか？	準備されていた	どちらとも言えない	準備されていなかった
	10936 (83.7%)	5018 (29.2%)	1212 (7.1%)
先生の説明はわかりやすかったですか？	わかりやすかった	どちらとも言えない	わかりにくかった
	9185 (63.8%)	5498 (32.2%)	2403 (14.1%)
あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか？	取り組んだ	どちらとも言えない	取り組まなかった
	10273 (80.1%)	5446 (31.9%)	1361 (8.0%)

実験/実習系科目（全75科目）

質問	解答		
この授業の内容や進め方は適切でしたか？	適切であった	どちらとも言えない	不適切であった
	2411 (76.4%)	669 (20.9%)	36 (2.7%)
良く準備された授業でしたか？	準備されていた	どちらとも言えない	準備されていなかった
	2455 (76.1%)	698 (21.3%)	120 (3.7%)
先生の説明はわかりやすかったですか？	わかりやすかった	どちらとも言えない	わかりにくかった
	2143 (67.9%)	830 (26.3%)	181 (5.7%)
あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか？	取り組んだ	どちらとも言えない	取り組まなかった
	2662 (61.2%)	525 (16.5%)	58 (2.2%)

（出典　平成２３年度授業アンケート結果の報告）

（分析結果とその根拠理由）
教育課程の編成の趣旨に沿ってシラバスが作成されている。内容が適切に整備され専攻科生全員に配布されている。学生のシラバスの活用についても概ね利用されている。

観点５－６－③：　創造性を育む教育方法の工夫が図られているか。また、インターンシップの活用が図られているか。

（観点に係る状況）
創造性は，授業や特別研究におけるＰＢＬ的なテーマに取り組むことにより涵養される。例えば，電気・制御システム工学専攻１年の「応用通信工学」において，ＰＢＬを意識したアンテナ回路の考案から設計・製作までの一連の開発作業がグループで行われている（資料５－６－②－１）。
建設・生産システム工学専攻１年の「レオロジー」において，学生各自が設定したテーマのもと，授業時間外において調査・検討・実験・考察を行わせ，授業期間内の最後の２週でプレゼンテーションと質疑応答を行っている（資料５－６－③－１）。
「インターンシップ」を実施しており（資料５－５－③－４，５），単位認定は資料５－６－③－２に示すとおり，多面的な評価に基づいて行っている。平成２４年度より専攻科２年生に対し「エンジニアリング・デザイン演習」の授業を行い，実践的かつ高度な内容で創造性及び協調性を育む教育を行っている（資料５－６－③－３，５－６－③－４）。

資料５－６－③－１

科　目　名	学 年	期別・授業形態・単位数	教員名　西山　等 研究室 [redacted] 内線電話 [redacted] e-mail: [redacted]
レオロジー Rheology	2	前期・講義・２単位	
	授業（30時間）＋ 自己学習（60時間）＝標準90時間の学習時間		

【授業目的】

レオロジーの学習の主たる目的は，種々の物質の複雑な流動や変形の力学的挙動を現象論的に解明し，その成果を工業に応用し，技術の革新や製品の性能の向上に役立てることにある。

【Course Objectives】

The purpose of the study of rheology is to clarify the action of flow and deformation in fluids and to apply the results to industrial considerations.

【到達目標】

１．レオロジーの基礎事項が理解できる。
２．レオロジーの簡単なモデルが解析できる。
３．簡単な動的粘弾性が解析できる。
４．べき乗則流体の円管流れの基礎式が理解できる。
５．身近なレオロジーを調査し，効果的に発表できる。

【Outcomes/Aims】

Students will be able to:
1. understand basic contents of rheology.
2. analyze the simple model of rheology.
3. analyze the simple dynamic-viscoelasticity.
4. understand the fundamental equations of pipe flow for power-law fluid.
5. research for a familiar thing, and present the results to the class effectively.

【学習・教育目標】

（B）専門分野の基礎知識を修得し，それを実際の技術の問題に応用することができる。

【キーワード】

変形，流動，非ニュートン流体，バイオレオロジー
Deformation, Flow, Non-Newtonian fluid, Bio-Rheology

【授業時間】

２時間×15週＝30時間

【授業方法】

講義を中心に授業を進める。レオロジーの対象分野は多岐にわたり，力学的取り扱いもかなり複雑となる。したがって，授業では，焦点を絞ってできるかぎりわかりやすく内容を説明する。

【学習方法】

レオロジーの理解のためには，弾塑性力学や流体力学の知識がある程度必要となる。したがって，これらの科目を充分に復習して，授業にのぞんでほしい。また，理解を深めるためにレポート課題を課し，また，自己学習として，各自が設定したレオロジーに関するテーマについて調査・検討し，その内容についてレポート提出とともに口頭発表を課す。

【履修上の注意】

開講期間終盤の２週で各自が設定した日常生活に関連するレオロジーについての口頭発表を課す。自分がどのような問題に取り組むかを早めに考えておくこと。

【定期試験の実施方法】

試験は実施しない。

【成績の評価方法・評価基準】

成績の評価方法は，自己学習課題１・２・３のレポート(75%)，および自己学習課題３の口頭発表(25%)についてについて評価し，これらの合計を総合成績とする。到達目標に基づき，提出されたレポート，口頭発表の内容について，基本的な理解力，応用的，実践的な展開能力などを評価基準とする。

【科目の位置付け】

１．先行して履修すべき科目
弾塑性力学，流体力学，
材料科学

２．後で履修する関連科目

３．同時に履修する関連科目

（出典　平成２４年度専攻科シラバス）

資料５－６－③－１の続き

【教科書・教材等】
教科書：使用しない。
教材　：必要に応じて資料を配付する。

【参考書・参照 URL 等】
参考書：例えば　村上謙吉著「やさしいレオロジー」（産業図書）

【授業計画】

週	内　　容	到達目標	教科書参照ページ
第１週	シラバス内容の説明，レオロジーの歴史と対象	1	
第２週	レオロジーの概念	1	
第３週	時間に無関係な力学的挙動とモデリング	1，2	
第４週	時間に関係する力学的挙動とモデリング	1，2	
第５週	遅延時間，緩和時間	1	
第６週	履歴に関係する力学的挙動	1	
第７週	粘度の測定	1	
第８週	動的粘弾性測定	3	
第９週	非ニュートン流体の円管内流れ	4	
第10週	〃	4	
第11週	溶液，サスペンションのレオロジー	1	
第12週	血液の粘度，赤血球の変形能	1	
第13週	口頭発表（日常生活に関連するレオロジーの話題）	5	
第14週	〃	5	
第15週	学習内容のまとめ		

【自己学習】

週	内　　容
第１週 第２週 第３週 第４週 第５週	〔自己学習課題１〕第１週～5 週におけるレポート課題 （力学的挙動とモデリング，遅延時間，緩和時間など）
第６週 第７週 第８週	〔自己学習課題２〕第６週～10 週におけるレポート課題 （粘度測定，動的粘弾性測定など）
第９週 第10週 第11週 第12週 第13週 第14週 第15週	〔自己学習課題３〕日常生活に関連するレオロジーの課題研究の実施 レポート提出，口頭発表

【学生へのメッセージ】
レオロジーとは，物質の変形と流動を取り扱う科学であって，その対象となる物質は，弾性固体や粘性流体など単純な物質にかぎることなく，我々が日々遭遇して一般に存在するすべての物質を含んでいる。レオロジーの語源が万物流転にある。自然界のあらゆるものは変化し，永久に止まるものはない。何事にも興味をもって，自分自身のポテンシャルを日々高めていこう。

（出典　平成２４年度専攻科シラバス）

資料５－６－③－２

舞鶴工業高等専門学校インターンシップ成績評価実施要領

（目的）

第１　この実施要領は，舞鶴工業高等専門学校インターンシップの履修に関する規程（以下「規程」という。）第９条の規定に基づき，インターンシップの成績評価に関し，必要な事項を定める。

（成績評価）

第２　インターンシップの成績評価は，次の各号に掲げる評価を総合して行う。

（１）インターンシップ受け入れ先の評価

（２）インターンシップ報告書に対する評価

（３）インターンシップ報告会における評価

（インターンシップ受け入れ先の評価）

第３　前項（１）に掲げるインターンシップ受け入れ先の評価とは，インターンシップ実施証明書（規程第３号様式）に記載されている受け入れ先企業が行った５段階評価を，インターンシップ成績評価表（第１号様式。以下「成績評価表」という。）に定める方法により再評価したものをいい，担任又は専攻科長(以下「担任等」という。)が実施し，成績評価表に記載する。

（インターンシップ報告書に対する評価）

第４　第２項（２）に掲げるインターンシップ報告書に対する評価とは，インターンシップの履修に当たり，学生に提出を義務付けたインターンシップ報告書について，担任等が成績評価表に定める方法により評価したものをいい，担任等が成績評価表に記載する。

（インターンシップ報告会）

第５　学科長又は専攻科のインターンシップ担当教員（以下「学科長等」という。）は，当該学科等で行うインターンシップ報告会（以下「報告会」という。）についての計画を定め，インターンシップ報告会実施計画書（第２号様式）を夏季休業終了日までに学生課教務係に提出しなければならない。

２　報告会は，専門学科所属の教員又は専攻科担当教員の中から少なくとも３名が評価者となり，夏季休業終了後１ヶ月以内に実施するものとする。

３　報告会は，インターンシップを履修した学生（以下「実習生」という。）一人当たり発表５分，質疑応答３分を標準として実施する。

（報告会における評価）

第６　第２項（３）に掲げるインターンシップ報告会における評価とは，学科等が実施する報告会における実習生の発表内容について，インターンシップ報告会評価表（第３号様式。以下「報告会評価表」という。）に定める方法により評価したものをいう。

２　学科長等は，報告会の実施後速やかに成績評価表に報告会における評価を記載し，報告会評価表及びインターンシップ成績評価書（第４号様式。以下「成績評価書」という。）とともに，学生課教務係に提出するものとする。

（成績の認定）

第７　インターンシップの成績は，学科長等から提出された成績評価表，報告会評価表及び成績評価書に基づき，教務委員会又は専攻科委員会の議を経て，校長が認定する。

（成績評価表等の保存）

第８　学科長等から提出された成績評価表，報告会評価表及び成績評価書は，学生課教務係において５年間保管する。

附　則

この実施要領は，平成１８年４月１日から施行する。

（出典　平成２４年度舞鶴高専公文書サーバー）

資料５－６－③－３

平成２４年度エンジニアリング・デザイン演習シラバス

科　　目　　名	学 年	期別・授業形態・単位数	教 員 名　【授業計画の欄に記載】 研 究 室 内線電話 e-mail:
エンジニアリング・デザイン演習 Engineering Design Practice	2	必　修 後期・演習・２単位	
	標準 60 時間の学習時間		

【授業目的】

エンジニアリングデザインとは顧客からの要求に応じて製品やシステムを開発する一連のプロセスを意味する。したがってこの演習では仕様の策定から設計，製造，検査を経て出荷にいたるまでの一連の流れを学習する。演習は主にそれぞれの分野の専門家である企業技術者に実施いただき，現場での体験に基づいた実践的な知識を身につけることができる。

【Course Objectives】

Engineering design means the series of process to develop products or systems according to the request of customer. Therefore, in this practice students will study the chain of jobs from decision of specification, design, manufacturing, inspection and to shipping. The practice will be constructed by company engineers who are the specialists of each process. As a result, students will be able to acquire the practical knowledge based on the experiences in the engineering spot.

【到達目標】

1 エンジニアリングデザインとはどのようなものか理解できている。
2 仕様の策定から出荷までの一連の流れを理解できている。
3 マーケティングとそれに基づいた仕様の策定手法を理解し，実施できる。
4 仕様に基づいた製品設計の手法を理解し，実施できる。
5 設計通り間違いなく製造するために必要な重要事項を理解できている。
6 品質管理を行うために必要な重要事項を理解できている。
7 出荷業務とアフターサービスの重要性を理解できている。

【Outcomes/Aims】Students will be able to:

1 Understand the meaning of engineering design
2 Understand the series of jobs from preparation of specification to shipment of products.
3 Understand and carry out the marketing and the decision of specification which is suited to marketing results.
4 Understand and carry out the design of products which is suited to specification.
5 Understand the important items of manufacturing for the production with no mistake.
6 Understand the important items of quality control.
7 Understand the importance of shipping and after service.

【学習・教育目標】

(C)修得した知識を統合して，社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発する創造的能力と意欲を有する。
(G)課題の提案・報告などを効果的に記述し，説明することができる。

【キーワード】

エンジニアリングデザイン，マーケティング，仕様，設計，製造，品質管理，出荷
Engineering design, Marketing, Specification, Design, Production, Quality control, Shipping

【授業時間】

４時間×15 週＝60 時間

【授業方法】

主として企業のベテラン技術者である講師が講義と演習を行う。必要に応じて教員がサポートする。製品やシステムを開発する一連のプロセスを学習し，演習を通じて疑似体験する。

【学習方法】

積極的・主体的に演習に取り組むことが重要である。テーマに関して講師と積極的にディスカッションを行い，学生と講師の双方向のコミュニケーションが十分とれるようにする。

【履修上の注意】

【定期試験の実施方法】

実施しない。

【成績の評価方法・評価基準】

授業への参画の程度，演習の充実の程度，課題レポートから評価する。定期試験は行わない。
課題レポートでは，次の観点で評価する。

・ 現状分析を行い，問題点を明確にして，より良い解決案を立案することができるか。
・「もの作り」において各工学分野や履修科目との関連を把握し，意匠的考え方を基礎にして，現代社会の状況を的確に捉えた認識ができるかどうか。

【科目の位置付け】

1. 先行して履修すべき科目
授業科目全般

2. 後で履修する関連科目

3. 同時に履修する関連科目
授業科目全般

（出典　平成２４年度舞鶴高専専攻科シラバス）

資料５－６－③－３の続き

平成２４年度エンジニアリング・デザイン演習シラバス

【教科書・教材等】
演習テーマ毎に必要に応じて資料を配布する。

【参考書・参照 URL 等】

【授業計画】

週	内　　容	達成目標	教科書参照ページ
第１週	シラバス内容の説明。エンジニアリングデザインとは。授業の進め方の説明。	１，２	
第２週	マーケティングの目的と手法	3	
第３週	仕様作成の目的と方法	3	
第４週	設計の要点と実習(1)	4	
第５週	設計の要点と実習(2)	4	
第６週	原価計算の必要性と方法	1	
第７週	製造に必要な重要事項の学習と疑似体験(1)	5	
第８週	製造に必要な重要事項の学習と疑似体験(2)	5	
第９週	出荷検査の注意事項	6	
第10週	品質管理の重要性(1)	6	
第11週	品質管理の重要性(2)	6	
第12週	出荷業務の概要	7	
第13週	アフターサービスの役割と重要性	7	
第14週	アフターサービスの役割と重要性	7	
第15週	総合的復習。質疑。	１，２	
	担当教員：(電気情報) 新池，平地，(電子制御) 奥村，町田，石川 講師：企業技術者 演習場所：専攻科棟大講義室 C304		

【学生へのメッセージ】
学校の授業では主に製品やシステムの設計に役立つ知識を学習し，卒業研究では製品設計を疑似体験することになる。しかし企業での製品開発の一連のプロセスには仕様の策定から製品の出荷まで設計以外に重要な課題が多数存在する。この演習ではこの一連のプロセス，即ちエンジニアリングデザインを企業で実務に携わっている一流の技術者から直接学習するという貴重な体験を得ることができる。授業では講義と演習が行われるが，積極的・主体的に取り組んでほしい。企業技術者とのディスカッションを通じてエンジニアリングデザインの理解を深めてほしい。

（出典　平成２４年度舞鶴高専専攻科シラバス）

資料５－６－③－４

エンジニアリング・デザイン演習教育計画

日程	テーマ	内容
10月15日 舞鶴高専 13:00	全体	メーカーの仕事とは 製品化～工場出荷までの流れ（ものづくりプロセス） 工場の仕組み、各部門の役割り
10月22日 舞鶴高専 13:00	開発・設計	テーマ: 製品開発のプロセスを学ぶ ～売れる商品づくりの第一歩～ 内容: ・企画 ・要求と仕様 ・開発・設計 ・実験
10月29日 舞鶴高専 13:00	開発・設計	開発・設計における課題と対策（ﾘｻｲｸﾙ、ｺｽﾄ、ﾒﾝﾃﾅﾝｽ性など） 知的財産とは
11月5日 舞鶴高専 13:00	品質	製品評価ポイント QCDを作りこむための方法
11月12日 堀場製作所 10:30	全体	10:30　堀場製作所到着 10:30～11:00　挨拶、概要説明 11:.00～12:00　工場見学 12:00～13:00　昼食 13:00～15:00　もの作り実習 15:00～15:30　総括
11月19日 舞鶴高専 13:00	生産	コンカレント開発。生産プロセスデザイン ものづくり手法、L/T、C/Tの考え方
11月26日 舞鶴高専 13:00	生産	生産開始～初期流動管理 レイアウト、改善手法 グローバル化
12月3日 舞鶴高専 13:00	全体	全体発表と質疑応答

（出典　エンジニアリング・デザイン演習教育計画資料）

（分析結果とその根拠理由）

特別研究及び各授業科目の工夫により創造性が育まれるようになっており，「インターンシップ」も活用されている。

観点５－７－①：　教育の目的に照らして、教養教育や研究指導が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

専攻科の教養教育科目である「日本文化論」は，我が国の精神風土を学ぶ科目であり，資料５－７－①－１は到達目標を示す。その他の教養科目としては，経営学及び近代物理学が挙げられる（資料５－７－①－２，資料５－７－①－３）。

資料５－７－①－４は，特別研究のテーマの説明から配属までのスケジュールを示す。資料５－７－①－５は，研究発表会のプログラムを示し，特別研究論文の評価は，主査と数名の副査により行う。資料５－７－①－６に，専攻科生による学会発表等の実績を示す。

資料５－７－①－１

科　　目　　名	学 年	期別・授業形態・単位数	教 員 名　村上　美登志 研 究 室 [redacted] 内線電話 [redacted] e-mail: [redacted]
日本文化論 Views on Japanese culture	2	後期　２時間　２単位	
授業（３０ 時間）＋ 自己学習（６０時間）＝標準９０時間の学習時間			

【授業目的】

本講義は、日本の民俗学を機軸にして、我が国の精神風土を考察する。まず、手続きとして、民俗学の父と称される柳田國男と、民俗学の母と呼ばれる折口信夫の学問を紹介しつつ、その本質に迫る。

次に、我々は一体何処から来て、何処へ行くのかといった根源的な問いにも触れながら、日本の文化を考える。

【Course Objectives】

This course of lectures addresses Japan's unique psychological milieu from the view point of Japanese folklore. Firstly, the studies of Mr. K.Y., known as the father of Japanese folklore, and prof. S.O., known as the godfather of Japanese folklore, will be introduced, and from that basis a consideration of the fundamental essence of Japanese folklore will be elucidated.

Consequently, a critical reconsideration of Japanese culture, its origins and future path, will be presented.

【到達目標】	【Outcomes/Aims】
1．民俗学と民族学の違いを理解することが出来る。	1. Students will be able to understand the differences between folklore studies and ethnology.
2．ハレとケの日本古来の精神風土を理解し、説明することが出来る。	2. Students will be able to understand the traditional mentality of Japanese people based on hare (ceremonial) and ke (ordinary).
3．昔話と伝説の違いを理解し、説明することが出来る。	3. Students will be able to know and explain the difference between tales and legends.
4．歴史学論と民俗学論の違いを理解することが出来る。	4. Students will be able to understand the differences between criticism of historical studies and that of folklore studies.
5．日本古来の伝統的文化と習俗等について深い理解を得ることが出来る。	5. Students will be able to deeply understand traditional culture as well as customs and practices in Japan.

【学習・教育目標】

（E）　豊かな人間性、国際性、協調性及び英語によるコミュニケーション能力を身につける。

【キーワード】

民俗学　Folklore　／　柳田國男　Kunio Yanagita　／　折口信夫　Shinobu Orikuchi　／　ハレとケ　Hare & Ke

【授業時間】

100 分×15 週=25 時間

【授業方法】

講義を中心に、民俗学関係の映像・レジュメ・パワーポイント等を交えながら授業を進めてゆく。

質疑は自由にその場でしてもらってよく、こちらからも学生諸君の疑問や考えを問う。また、講義外の自己学習を必要とする。

【学習方法】

1．柳田國男、折口信夫関係の本を読む。

2．自分の出身地や地域にある民俗・習俗に目を向け、観察する。

また、そこで生じた疑問点等は、講義中に質問し、理解を深める。

【履修上の注意】

適めてレジュメ・資料等を配布することがあるので、忘れず持参されたい。それらは、自己学習のヒント並びに、道案内をなすものでもある。

【定期試験の実施方法】

講義中等に指示した課題に関わる課題レポートの提出を以て試験に代える。

【成績の評価方法・評価基準】

定期試験に代わる単位レポート（上記記載の日本文化等を取り上げ、考察したもの、７０％）等の提出、並びに自己学習の成果（口頭発表等、３０％）を以て単位認定を行なう。

【科目の位置付け】

１．先行して履修すべき科目

古　文Ⅰ・Ⅱ
現代文Ⅰ・Ⅱ
総合国語ⅠA・B、ⅡA・B
国語国文Ⅰ・Ⅱ

２．後で履修する関連科目

３．同時に履修する関連科目

語学関係

（出典　平成２４年度専攻科シラバス）

資料５－７－①－１の続き

【教科書・教材等】

教科書：村上　美登志　『琉球の伝承文化を歩く１』（三弥井書店）
その他、講義中に使用するレジュメ（副・補助教材）等は、こちらで用意する。

【参考書・参照 URL 等】

本講義に関わる参考文献等の一部を略記しておくので、参覧されたい。

村上　美登志『中世文学の諸相とその時代』（和泉書院）
〃　『中世文学の諸相とその時代Ⅱ』（和泉書院）
〃　『曽我物語の作品宇宙』（至文堂）
〃　『沖縄・糸満の昔話』（沖縄糸満市教育委員会）
〃　『昔話研究と資料』第１７号（三弥井書店）
〃　『若狭会古・若狭の散歩道』第１集・第２集（若狭の散歩道編集委員会）
〃　『日本民話集』第１０巻(作品社)
〃　『講座日本の伝承文学』第４巻（三弥井書店）
〃　『唱導文学研究』第１集～第４集（三弥井書店）
〃　『日本文学研究大成　義経記・曽我物語』(国書刊行会)
〃　『和漢比較文学叢書』第１５巻（汲古書院）
〃　『日本文学の原風景』(三弥井書店)
〃　『和製類書集』月報（国書刊行会）
〃　『幸若舞曲研究』第８巻～９巻、別巻（三弥井書店）
〃　『伝承文化の展望』(三弥井書店)
〃　『華南日本研究叢書 No１—中日比較文學比較文化研究』(中國廣州・中山大學出版社)
〃　記録映画「糸崎の佛舞—古と今をつなぐ—」(福井市教育委員会・福井映像文化センター)
〃　『中日民俗文化國際學術検討会論文集』(中國・云南大學出版社)
〃　『軍記物語の窓』第１集、第３集（和泉書院）
〃　『説話論集—説話と旅』第１７集（清文堂出版）
〃　『平家物語大事典』(東京書籍)

【授業計画】

週	内　容	到達目標	教科書参照ページ
第１週	〈シラバス内容の説明〉　《民俗学ガイダンス》		
第２週	民俗学とは何か　柳田民俗学と折口民俗学	1	１３～２５
第３週	民俗学と民族学　学問の違いを正しく理解する。	1	２６～９９
第４週	ハレとケ　日本人の古来からの思想、精神風土を学ぶ。	2	
第５週	民俗学の方法—昔話の場合—	4	
第６週	琉球の昔話①　〔映像・音声テープ・パワーポイント等を交えながら	3	
第７週	琉球の昔話②　講義を進めてゆく〕	3	１～１４
第８週	琉球の昔話③　☆日本語の古層を留める琉球語に触れる。	3	１５～２７
第９週	琉球の昔話④　☆そのバリエーションとパターンを学ぶ。	3	２８～３８
第 10 週	琉球の昔話⑤　☆地域との関わりの中で、昔話や文化が育まれ	3	７３～８８
第 11 週	伝承文化の研究態度　てきたことを理解し、現代との比較を通して、	4	１１４～１２０
第 12 週	歴史的関心と社会的関心　考察をより深める。☆『万葉集』『今昔物語集』	4	
第 13 週	民俗学の現代性　表層文化と基層文化　『源氏物語』『平家物語』等も	5	
第 14 週	民間伝承と資料の活用　言語感覚　取り上げ、具体的に日本独自の精神風土を考察する。	5	
第 15 週	《「日本文化論」講義総まとめ》	5	
	★定期試験		
	定期（単位レポート）試験返却・到達度確認		

【学生へのメッセージ】

受け身の講義に終始するのではなく、諸君達の活発な意見・質疑等を期待する。

世界を知る前に、まず日本の精神文化史・精神風土等を理解出来なければ本当の教養を得たとは決していえない。重要講義の認識をもって学習して欲しい。

（出典　平成24年度専攻科シラバス）

資料５－７－①－２

科　　目　　名	学 年	期別・授業形態・単位数	教 員 名 [redacted] 研 究 室 内線電話 e-mail:
経営学 Business Administration	1	後期・講義・２単位	
授業（ 30 時間）＋ 自己学習（ 60 時間）＝標準 90 時間の学習時間			

【授業目的】
経営学とは、経済活動の中心にある企業を対象とする学問である。したがって、組織論や戦略論のほかに、経済学、会計学、法学、統計学、経営工学等、他の多くの学問領域と関連がある。授業ではまず、企業とは何か、経営学とは何かという基本的な問いからスタートし、組織と戦略の基礎理論の理解を通して、企業の国際化や研究開発活動への取り組みなどについて考える。

【Course Objectives】
The purpose of learning business administration is to consider the activities of a company in the market by understanding the basic theories of organization and of strategy.

【到達目標】
1. 個人行動や小集団固有の現象を見る組織行動論が理解できる。
2. 社会集団としての組織の構造やデザインを見る組織理論が理解できる。
3. 戦略論の基礎が理解できる。

【Outcomes/Aims】
Students will be able to understand the followings:
1.organizational behavior
2.organization theory
3.strategy

【学習・教育目標】
（E）豊かな人間性，国際性，協調性及び英語によるコミュニケーション能力を身につける。

【キーワード】
モチベーション、リーダーシップ、組織構造、組織デザイン、戦略
motivation, leadership, organization structure, organization design, strategy

【授業時間】
２時間×15 週＝30 時間

【授業方法】
組織に関する問題や企業の戦略を理解するために必要な組織行動論、組織理論、戦略論の基礎を学習する。授業では、新聞記事や DVD なども使用し、身近な事例を取り上げながら説明する。一方的な講義ではなく、対話式授業として進行したいので、活発な発言・質問・議論への参加を期待する。また課題報告も義務付ける。

【学習方法】
事前にテキストの関連部分を読んでおくことが望ましい。経営の現実的な理解を深めるために、経済関連の新聞記事を読む習慣を身につけることをお勧めする。また、応用力を養うため、毎回、教科書や配布資料に関連する課題に関して 4 時間程度の自己学習を義務付け、次回の授業時に報告してもらう。

【履修上の注意】
本科目は授業での学習と授業外での自己学習で成り立つものである。

【定期試験の実施方法】
試験は学年末に 1 回実施する。試験時間は 50 分、持ち込みは不可とする。

【成績の評価方法・評価基準】
成績は、年 1 回の定期試験（60%）、レポートの提出と発表、毎回の授業毎に課す自己学習としての課題等の内容（40%）を総合して評価する。到達目標に基づき、組織行動論、組織構造論、戦略論の概要など、各項目の理解についての達成度を評価基準とする。

【科目の位置付け】
１．先行して履修すべき科目

２．後で履修する関連科目

３．同時に履修する関連科目

（出典　平成２４年度専攻科シラバス）

資料５－７－①－２の続き

【教科書・教材等】
教科書：　榊原清則『経営学入門[上][下]』日経文庫 853、2002 年
教材　：　必要に応じて資料を配布する。

【参考書・参照 URL 等】
参考書：青島矢一・加藤俊彦『競争戦略論』東洋経済新報社、2003
金井壽宏『組織行動の考え方』東洋経済新報社、2004

【授業計画】

週	内　　容	到達目標	教科書参照ページ
第１週	シラバス内容の説明		
第２週	企業とは	1	上 3～48
第３週	個人行動、集団活動（１）	1	上 49～74
第４週	個人行動、集団活動（２）	1	上 49～74
第５週	リーダーシップと管理者行動	1	上 75～97
第６週	組織構造	2	上 99～127
第７週	組織のデザイン	2	上 127～142
第８週	戦略論の基礎、資源戦略論	3	上 143～171
第９週	競争戦略論	3	上 171～189
第 10 週	ドメイン戦略論	3	上 190～215
第 11 週	企業成長のための戦略と組織	3	下 11～35
第 12 週	国際化のための戦略と組織	3	下 37～62
第 13 週	社内ベンチャーの戦略と組織	3	下 63～96
第 14 週	研究開発の戦略と組織	3	下 97～136
第 15 週	まとめ		配布資料
	★定期試験		
	定期試験返却・到達度確認		

【学生へのメッセージ】
予備知識は必要ありません。経営学を楽しく学びましょう。なお、経営学の授業ではあまり触れることができない企業に関連するテーマに関して参考文献を挙げておきますので、個別のテーマに関心がある場合は、各自、読んでみてください。
オペレーションズ・マネジメントに関しては、藤本隆宏『生産マネジメント入門Ⅰ』日本経済新聞社、2001
財務分析に関しては、桜井久勝『財務諸表分析第４版』中央経済社、2010

（出典　平成24年度専攻科シラバス）

資料５－７－①－３

科　目　名	学 年	期別・授業形態・単位数	教員名　上杉　智子 研究室 [redacted] 内線電話 [redacted] e-mail: [redacted]
近代物理学 Modern Physics	2	前期・講義・2単位	
授業（30時間）＋ 自己学習（90時間）＝標準90時間の学習時間			

【授業目的】

量子論の基礎を学び，井戸型ポテンシャル，調和振動子，中心力場のもとでの粒子の運動等について，波動関数とエネルギー固有値の計算方法を学習する。また，粒子のエネルギー準位と遷移，放射線の放出について学習し，放射線についての理解を深める。

【Course Objectives】The aim of this course is:

1. to understand the basis of quantum theory.
2. to understand the meaning of the wave function.
3. to understand the energy level of atom and the basis of radiation physics.

【到達目標】

1．前期量子論について説明できる。
2．簡単な問題について，シュレーディンガー方程式を解き，波動関数と固有値を求めることができる。
3．波動関数と物理量の関係が説明できる。
4．放射線について説明ができる。

【Outcomes/Aims】

Students will be able to:

1. explain the old quantum theory and the structure of atom,
2. solve the Schroedinger equation of the simple system,
3. explain the relationship between the wave function and the observable.
4. understand the basis of radiation physics.

【学習・教育目標】

(A) 自然科学と工学の基礎を幅広く修得し，それを応用することができる。

【キーワード】

解析力学，量子論，波動関数，井戸型ポテンシャル，調和振動子，放射線。
analytical mechanics, quantum theory, wave function, square well potential, harmonic oscillator, radioactive ray

【授業時間】

2時間×15週＝ 30時間

【授業方法】

講義を中心に授業を進める。また，必要に応じて演習課題等のレポート課題を与える。レポート課題については期限を守り，必ず提出すること。

【学習方法】

講義内容はノートにとり，演習課題は必ず解くこと。ノートと演習問題を利用して，講義内容を良く復習し，理解を深めること。

必要な予備知識について予告した場合は，それらについて充分に予習を行い，次回の講義に備えること。

【履修上の注意】

本科目は授業での学習と授業外での自己学習で成り立つものである。

【定期試験の実施方法】

定期試験を実施する。時間は50分とする。持ち込みについては授業中に指示する。

【成績の評価方法・評価基準】

定期試験の成績（60%），課題のレポートの評価（40%）の合計をもって総合成績とする。

【科目の位置付け】

1．先行して履修すべき科目
　物理ⅢA，物理ⅢC

2．後で履修する関連科目

3．同時に履修する関連科目

（出典　平成２４年度専攻科シラバス）

資料５－７－①－３の続き

【教科書・教材等】
教科書：無し
教材　：必要に応じて資料を配布する。

【参考書・参照 URL 等】
参考書：小出昭一郎「量子力学 1」（裳華房），朝永振一郎「量子力学」（みすず書房）他

【授業計画】

週	内　　容	到達目標	教科書参照ページ
第 1 週	シラバス説明，古典解析力学の復習	1	
第 2 週	量子力学の誕生	1	
第 3 週	シュレーディンガー方程式と波動関数	2	
第 4 週	無限に高い井戸型ポテンシャルの問題	2	
第 5 週	有限の高さの井戸型ポテンシャルの問題	2	
第 6 週	トンネル効果	2	
第 7 週	調和振動子の問題	2	
第 8 週	中心力場のもとでの粒子の問題	2	
第 9 週	水素原子の波動関数とエネルギー	2	
第 10 週	演習問題	2	
第 11 週	物理量と演算子	3	
第 12 週	固有関数の完全性	3	
第 13 週	定常状態のエネルギー準位と遷移	3	
第 14 週	放射線の放出	4	
第 15 週	放射線の測定	4	
	★定期試験		
	定期試験返却，到達度確認，学習内容のまとめ		

【学生へのメッセージ】

前期量子論について復習した後，様々なエレクトロニクスに利用されている量子力学について学習する。これまでに本科の物理で学習した量子力学の内容をさらに深く学び，物理量との関係についても理解を深めていく。また，異なるエネルギー準位への遷移と放射線の放出にはじまり，放射線の基礎についても学習する。

（出典　平成24年度専攻科シラバス）

資料５－７－①－４

From: 平地克也
Sent: Monday, March 26, 2012 8:44 AM
To: seigyo-staff@maizuru-ct.ac.jp ; denki-staff@maizuru-ct.ac.jp
Subject: [denki-staff:01292] 1ESの研究室配属決定の日程

denki-staff殿、seigyo-staff殿
ES専攻長の平地です。

1ESの研究室配属の決定は次のように行う予定です。
・４月１０日（火）５～８限 教員による研究室説明
・４月１２日（木）３～６限 学生の研究室訪問
・４月１２日（木）７、８限 研究室配属決定

「教員による研究室説明」は例年通り１人１０分でスライドなどで説明して下さい。
説明を必要としない方や説明の時間帯に希望のある方は連絡下さい。４月２日（月）までにお願いします。
４月１０日はＳ科の卒研テーマ説明会とＥ科の創造工学説明会がありますが、バッティングしないように配慮します。

「学生の研究室訪問」は学生に自由に教官室を訪問させますので説明してあげて下さい。

また、研究室配属について特に希望のある方（担当できない、など）は連絡下さい。

（出典　平成２４年度専攻長による配布資料）

資料５－７－①－５

電気・制御システム工学専攻１年生

平成 24 年度　特別研究発表会プログラム

- 日時　平成 24 年 10 月 11 日（木）11:00～15:00
- 会場　大会議室（本館４階）
- 発表：１０分、質疑応答：５分
  （８分：予鈴　１鈴、10 分：発表終了　２鈴、15 分：質疑終了　３鈴以上）

11:00　ES 専攻長　連絡事項

発表時間	学生氏名	研　究　題　目	研究室
座長：川田			
11:00-11:15	[redacted]	PDMSモールド室温硬化ナノインプリント法による酸化マスクパターンの形成	清原
11:15-11:30		NIRS連動型脳機能検査における時系列解析指標の検討	中川
11:30-11:45		電力変換装置のディジタル制御の研究	平地
11:45-12:00		癌温熱治療を目的とした矩形空洞共振器の電磁界解析 －電磁界モードの検討－	丹下
12:00-13:00	昼　　食		
座長：清原			
13:00-13:15	[redacted]	μCP法を用いた超微細有機ELの作製プロセスの開発	石川
13:15-13:30		放射線可視化プラスチックの教育利用に向けた検討	石川
13:30-13:45		マイクロブログにおける評判分析システムの研究	伊藤
13:45-14:00		多目的粒子群最適化を用いた座席配置決定手法	新池
14:00-14:15		DC/DCコンバータの倍電流整流回路の改善	平地
14:15-14:30		室温硬化インプリント-リフトオフ法によるDLCナノエミッタの開発	清原
14:30-14:45		超高精細画像に対する領域適応符号化	芦澤
14:45-15:00		PSOを用いたアーム型倒立振子の非線形制御	川田

会場の準備＆清掃：全　員
タイムキーパ・照明係：午前（櫻井・辻）
　　午後（池垣・上藤）

（出典　平成２４年度専攻長による配布資料）

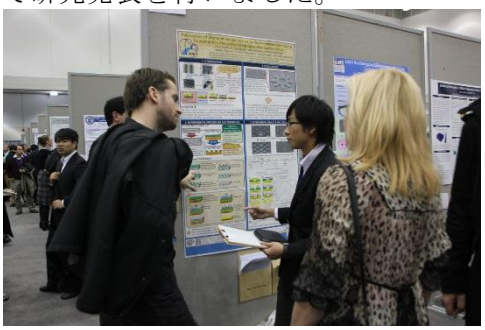
資料５－７－①－６

２．専攻科学生の学会発表

今年度は電気・制御システム工学専攻 1 年生および 2 年生 14 名と建設・生産システム工学専攻 1 年生および 2 年生 10 名の学生が，国内および海外の学会で研究発表を行いました。

17th Asian Symposium on Ecotechnology, Toyama

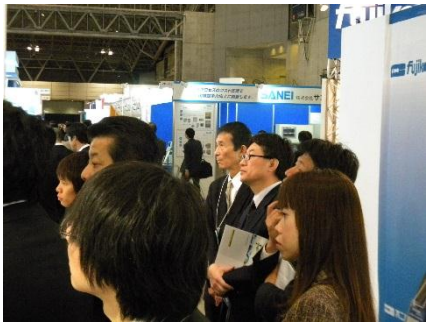
土木学会第 66 回年次学術講演会（愛媛）



2011 MRS Fall Meeting & Exhibit, Boston (USA)

５．セミコンジャパン高専企画への出展

12 月 7 日（水）～9 日（金）千葉県幕張メッセで開催されたセミコンジャパン企画，THE 高専



に出展しました。

THE 高専セミコンジャパン出展風景

（出典　舞鶴高専年報・第９号・2012年４月）

（分析結果とその根拠理由）

学生の要望や興味を十分考慮した教養教育が行われ，特別研究における研究テーマ選択ができるように配慮されている。主査・副査による特別研究論文の評価，及び学会等や舞鶴市内での発表が実施されており，専攻科で修学するにふさわしい研究指導が行われている。

観点５－８－①：　成績評価・単位認定規定や修了認定規定が組織として策定され、学生に周知されているか。また、これらの規定に従って、成績評価、単位認定、修了認定が適切に実施されているか。

（観点に係る状況）

成績の評価と単位認定，修了に係る要件は「専攻科学習の手引」（資料５－８－①－１）に記載され，学生に周知されている。また，専攻科の修了は，舞鶴工業高等専門学校学則第４７条で定められている（資料５－８－①－２）。

資料５－８－①－３は上記(6)の別に定める達成度評価基準を示す。資料５－８－①－４は，修了認定が行われた専攻科委員会の資料であり，規程に基づいて専攻科課程の修了が認定されている。

資料５－８－①－１

舞鶴工業高等専門学校専攻科の単位の修得に関する規程

（趣旨）

第１条　舞鶴工業高等専門学校学則第４７条第３項の規定に基づき，専攻科の修了に必要な単位の修得については，この規程の定めるところによる。

（授業）

第２条　授業は，講義，演習，実験，及び実習のいずれか，又はこれらの併用により行うものとする。

２　授業科目の単位の計算方法は，授業時間及び授業時間外に必要な学習をあわせて４５時間とし，次の基準により単位数を計算するものとする。

(1)　講義については，教室内毎週１時間１５週をもって１単位とする。

(2)　演習については，教室内毎週２時間１５週をもって１単位とする。

(3)　実験，実習については，教室内毎週３時間１５週をもって１単位とする。

（履修方法）

第３条　授業科目の履修に当たっては，前期科目については４月末日，後期科目については１０月末までに，別に定める履修届を提出しなければならない。

（試験）

第４条　試験は定期試験，追試験及び再試験とする。

２　定期試験は，各学期末に一定期間定めて実施する。

３　追試験は，病気その他やむを得ない理由により，定期試験を受けられなかった者に対して実施する。

４　再試験は，特別事情があるとき，運営会議の議を経て実施することができる。

（成績評価）

第５条　成績は，授業科目ごとに第４条に規定する試験の成績及び平素の学習状況等を総合して評価する。

２　成績の評価は，次の区分による。

評　定	A＋	A	B	C	F
評　点	100～ 90	89～ 80	79 ～ 70	69 ～ 60	59 ～ 0

（単位の認定）

第６条　前条第２項の規定に基づき，Ａ＋ ，Ａ，Ｂ及びＣに評価された科目については，当該授業科目の単位を修得したものと認定する。

（出典　平成２４年度専攻科学習の手引）

資料５－８－①－１の続き

（再履修）

第７条　単位認定されなかった授業科目は，別に定める「再履修願い」を提出し，次年度において再履修すれことができる。ただし，当該年度終了予定の学生が再履修できる授業科目は前期科目のみとする。

（修了に必要な単位）

第８条　専攻科の修了に必要な単位は６２単位以上とし，一般科目にあっては６単位以上，専門共通科目にあっては１８単位以上，専門専攻科目にあっては３８単位以上修得するものとする。

（大学における単位の認定）

第９条　大学において修得した単位は，１０単位（一般科目２単位以内，専門共通科目４単位以内，専門専攻科目８単位以内 ）を超えない範囲で，専攻科における授業科目とみなし，その単位を認定することができる。

（雑則）

第１０条　この規程に定めるもののほか，専攻科の授業科目の履修に関し必要な事項は，別に定める。

附　則

この規程は，平成１２年４月１日から施行する。

附　則

１　この規程は，平成１３年４月１日から施行する。

２　平成１２年度に入学した者に係る大学において修得した単位の認定については，改正後の第９条の規定にかかわらず，従前の１６単位まで認定することができる。

附　則

この規程は，平成１６年１２月７日から施行する。

附　則

この規程は，平成１８年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成１９年４月１日から施行する。

附　則

この規程は，平成２３年４月１日から施行する。

（出典　平成２４年度専攻科学習の手引）

資料５－８－①－２

舞鶴工業高等専門学校学則

第４７条　　専攻科に２年以上在学し，所定の授業科目を履修し，６２単位以上を修得し，舞鶴工
業高等 専門 学校生 産・ 情報基礎 工学教育プロ グラムの修 了要件のうち，(1) 学位取得の 項目を
除く(2)～(6)を満たした者について，修了を認定する。
２　　校長は，修了を認定した者に対し，所定の修了証書を授与する。
３　　第１項に規定する単位の修得については，別に定める。
（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

「生産・情報基礎工学」教育プログラム修了要件

「生産・情報基礎工学」教育プログラムの修了には以下の要件 1～6 を満たす必要があります。
修了者には修了証明が授与されます。

1. 学士の学位を取得していること。
2. 本教育プログラムの授業科目を 124 単位以上取得していること。
3. 専攻科において所定の授業科目を履修し，62 単位以上を取得していること。
4. 授業時間数が総計 1600 時間以上であること。
5. 人文科学・社会科学等（語学教育を含む）の授業時間が 250 時間以上，数学，自然科学，情報技術の授業時間が 250 時間以上，および専門分野の授業時間が 900 時間以上であること。
6. 別に定める到達度評価基準に合格していること。

（出典　舞鶴工業高等専門学校ウェブページ
http://www.maizuru-ct.ac.jp/01about-school/jabee.html）

資料５－８－①－３

表3　各学習・教育目標の達成度評価対象とその評価方法及び評価基準

学習・教育目標	達成度評価対象	各対象の評価方法と評価基準	総合評価方法及び評価基準
(A)自然科学と工学の基礎を幅広く修得し，それを応用することができる。	表６において学習教育目標の(A)を主たる目標(◎,○)とする科目を評価の対象とする。	左の対象科目のうち，11 科目以上を取得すること。	(1)専攻科の修了要件を満たし (2)左記全てを満足し，かし (3)大学評価・学位授与機構の審査・試験に合格すること。
(B)専門分野の基礎知識を修得し，それを応用することができる。	表６において学習教育目標の(B)を主たる目標(◎,○)とする科目を評価の対象とする。	左の対象科目のうち，13 科目以上を取得すること。	
(C)修得した知識を統合して，社会に貢献できる製品やシステム設計・開　発する創造的能力と意欲	表６において学習教育目標の(C)を主たる目標(◎,○)とする科目を評価の対象とする。	左の対象科目のうち，３科目以上を取得すること。	
(D)実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる。	表６において学習教育目標の(D)を主たる目標(◎,○)とする科目を評価の対象とする。	左の対象科目のうち，２科目以上を取得すること。	
(E)豊かな人間性，国際性，協調性及び英語によるコミュニケーション能力を身につける。	表６において学習教育目標の(E)を主たる目標(◎,○)とする科目を評価の対象とする。	左の対象科目のうち，７科目以上を取得すること。	
(F)技術が持つ地球的，社会的影響の重要性を理解し，倫理的責任を自覚することができる。	表６において学習教育目標の(F)を主たる目標(◎,○)とする科目を評価の対象とする。	左の対象科目のうち，１科目以上を取得すること。	
(G)課題の提案や報告などを効果的に記述し，説明することができる。	表６において学習教育目標の(G)を主たる目標(◎,○)とする科目を評価の対象とする。	左の対象科目のうち，３科目以上を取得すること。	
(H)コンピュータをはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる。	表６において学習教育目標の(H)を主たる目標(◎,○)とする科目を評価の対象とする。	左の対象科目のうち，４科目以上を取得すること。	

※ 各学生の学習・教育目標達成度を修得単位及び認定プログラム単位を入力して確認するパソコンソフトを準備しています。
具体的には　本校のＨＰ(学校紹介　→　ＪＡＢＥＥ　→　評価表のダウンロード)　にアクセスしてください。

(出典　平成２４年度専攻科学習の手引)

資料５－８－①－４

平成２３年度　第９回専攻科・第３回 PIE 合同委員会議事概要

日　　時　　平成２４年２月７日（火）１６：５０～１９：００

場　　所　　中会議室

出 席 者　　【専攻科委員会】

[redacted]

【PIE 委員会】

[redacted]

欠 席 者　[redacted] 各委員

議　　題

（協議事項）

１．専攻科２年生の単位認定について

奥村 PIE 委員長より「平成２３年度特別研究成績報告書一覧」に基づき説明がなされた。特別研究を履修した電気・制御システム工学専攻１０名と建設・生産システム工学専攻１１名のうち，特別研究発表に欠席した電気・制御システム工学専攻１名を除く全員の合計点が，いずれも成績が６０点以上，実施時間が４５０時間以上であるため，単位認定を行う旨提案があり審議の結果，異議無く承認された。

また，「生産・情報基礎工学」教育プログラムの修了認定についても，学位取得が確認された時点で，上記１名を除く全員に単位認定を行う旨の提案があり，異議なく承認された。また，学位取得の結果について問題があった場合は，再度委員会を開催することが併せて承認された。

次に，「認定単位成績一覧表」に基づき，各専攻とも電気・制御システム工学専攻１名を除いて，必修科目の単位が不足している者については，２月１４日開催予定の運営会議の議を経て，再試験を実施するとの提案があり，審議の結果，異議なく承認された。

なお，教科担当教員へは，運営会議の議決のあった後，通知することとなった。

２．教育プログラム規程の改善について

奥村PIE委員長よりPIE資料「生産・情報基礎工学教育プログラム履修規程」の第７条(２)において授業科目を１２４単位以上に改正しているが，「生産・情報基礎工学」教育プログラムについては，総取得単位数が１３３単位以上となっている点について矛盾があり，現実に即した規程に改正する必要があるとの提案を受けた旨報告があり，２月下旬に再度PIE委員会を開催することで承認された。

――――　ここからPIE委員単独の教員は退席　――――

（出典　平成２３年度専攻科委員会議事概要）

資料５－８－①－４の続き

以下，専攻科委員会

１．専攻科２年生の修了認定について

新池委員長より，専攻科２年生の修了認定について，２月１４日の運営会議で「応用解析」の再試験実施を提案し，２３日の臨時教員会議に修了判定を協議してもらうことが再確認された。

２．舞鶴高専平成２３年度年度計画のフォローアップの件について

委員長より，企画室から検討を依頼されている第２期中期計画について，各学科からの意見集約について説明がなされた。各部門・学科の意見集約に基づき協議の結果，第２期中期計画中には建設システム工学科建築コースから専攻科に進学した学生が修了していないので，各学科が独立した専攻を設けることには無理があり，第２期中期計画以降の検討課題とすることとなり，企画室に報告することで承認された。

３．修了式における専攻科生の表彰者の件について

このことについて，平田専攻長からES専攻□副総代出者，井坂専攻長からCM専攻□[redacted]者の推薦があり，異議なく承認された。また，CM専攻にあっては，現在調整中であるため，篠原専攻長に一任することで了承された。学生の褒賞［学術活動］については，専攻長が人選することとなった。

４．専攻科論文の評価シートの件について

このことについて，委員長より説明があり，資料の「特別研究論文の評価基準について(案)」を提出することで承認された。

５．専攻科１年生特別研究報告書の件について

このことについて，委員長より説明があり，平成２３年度のシラバスに記載されているレポートを提出させることが了承された。また，レポートの内容については，指導教員に委ねることとし，事務的な通知はしないということで了承された。

６．専攻科の入試日程について

このことについて，委員長より説明があり以下のとおりで了承された。

専攻科特別選抜□□□□編入学試験と同時に開催するか否かも含め入試委員会で検討することが了承された。

学力選抜［前期］□□□７月１６日(祝・月)

学力選抜［後期］□□□１０月１３日(土)

特別研究発表日等は，学年暦が決定後検討することとなった。

７．専攻科入試問題のホームページへの掲載について

このことについて，委員長より説明があり，再チェックの有無，再チェックにおける出題ミス発見時の対応，試験問題の著作権等に関する意見が出されたが，入試委員会で審議した後，公開することが承認された。公開については，専攻科長より各部門・各学科に連絡することとなった。尚，未使用の問題の取り扱いについては，機構本部宮崎入試係長に確認したところ，掲載しなくてもよいとの回答を得た。

（出典　平成２３年度専攻科委員会議事概要）

（分析結果とその根拠理由）

「専攻科の単位の修得に関する規程」は十分学生に周知されている。成績評価と単位認定，修了

認定について本規程で明確に定められており，組織的に修了が認定されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

＜準学士課程＞

本校の教育課程で，特筆すべきは，１つは「教育方針」の第１の「実験・実習，演習，ものつくりを重視する」ことであり，いま１つは「教育方針」の第４に言う「豊かな教養と国際性を育む」ことである。前者については，第１学年に「工学基礎」を開設して学際的な観点を基礎におき，各学科ともに，それ以降，学年進行に応じて順次実験実習科目を学ばせ，その中で実践性と創造性を育んでいる。後者については，全学年への外国人講師の授業配置，「英語デー」の実施（１・２年生はA. C. E.，３年生以上はＴＯＥＩＣを全員受験），ＴＯＥＩＣや英検などの語学検定による単位認定，e-learningによるＴＯＥＩＣ演習，ＣＡＬＬ教室の整備などを実施している。加えて，４・５年生では，中国語や韓国語，ドイツ語などを開設し，幅広く国際性を養っている。

＜専攻科課程＞

準学士課程４年生，５年生と専攻科課程から構成されている「生産・情報基礎工学教育プログラム」を設置して準学士課程と専攻科課程の連携を密にしている。学生の多様なニーズや社会からの要請等に対応するため，専攻長は専攻科生の担任として学生のニーズや要望を適確に把握している。また，海外の大学との国際交流協定が締結され，国際性を養う教育の基盤が整備されている。英語コミュニケーション能力向上のため「英語デー」を設けている。研究指導では，原則として複数教員指導体制をとっており，学会発表等学校外での研究発表を実施しており，研究指導が適切かつ良好に行われている。

（改善を要する点）

＜準学士課程＞　該当なし。

＜専攻科課程＞　該当なし

（３）基準５の自己評価の概要

＜準学士課程＞

本校は，教育理念と教育方針に基づき，教育目的と学習・教育到達目標を定め，これに沿って授業科目を学年ごとに体系的にかつ適切に配置している。学生の多様なニーズを「授業アンケート」や校長とのフリートーキングなどにより把握し，ものつくりの現状や先端技術の動向，社会からの要請を各学科の特別講演会や１年生の「工学基礎」などを通して把握させている。また，共通選択科目（４年生以上）の開設により現代の技術・科学の複合・融合化に対応し，外国語教育の充実により現代日本の国際化に対応している。

教育課程においては，講義，演習，実験，実習を適切に組み合わせている。シラバスは，本校の教育課程の編成の趣旨に沿って適切に作成され，チェックシートによる点検等編集作業を経て，刊行され，学生が授業を受けるにあたって活用されている。

本校では，創造性を育む教育を重視しており，各学科の実験・実習科目を中心に創造性を育むプログラムが系統的に用意されている。インターンシップは，第４～５学年で実施され，活用されている。

教育課程においては，人文系科目や保健体育を重視し，特別活動を工夫し，豊かな人間性の涵養を図っている。各種の学校行事，課外活動においても，人間性を豊かにする取り組みを行っている。

成績評価等に係る詳細な規則を定め，学生に周知を図っている。進級・卒業認定については，慎重かつ厳格な運営を行っている。

＜専攻科課程＞

準学士課程との連携を密にした教育課程となっており「生産・情報基礎工学教育プログラム」を設置している。教育の目的及び修了者像に照らして学習・教育目標が設定され，適切に科目が配置され，体系性が確保されている。選択必修制，大学の単位の認定，単位互換協定，インターンシップの活用，国際交流協定により，学生の様々なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請に対応している。講義，演習，実験，研究の授業形態のバランスが教育の目的に照らして適切であり，学習指導法の工夫がなされている。特別研究及び各授業科目の工夫により，創造性が育まれ，インターンシップが活用されている。教育課程の編成の趣旨に沿ってシラバスが作成され，その内容は適切であり，学生の活用も概ね良好であるが，更なる改善を必要とする。研究指導においては，学生の興味を配慮して研究テーマを設定し，原則として複数教員による指導体制としている。成績評価，単位の認定，修了認定は，「専攻科の単位の修得に関する規程」に明確に定められ，学生に周知されている。単位の認定及び修了の認定は，この規程に基づいて組織的に適切に行われている。

基準６　教育の成果

（１）観点ごとの分析

観点６－１－①：　高等専門学校として，その教育の目的に沿った形で，課程に応じて，学生が卒業（修了）時に身に付ける学力や資質・能力，養成しようとする人材像等について，その達成状況を把握・評価するための適切な取組が行われているか。

（観点に係る状況）

＜準学士課程＞

進級と卒業については，学則第１５条と，「舞鶴工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則（準学士課程）」の第４章「学年の課程の修了，進級並びに卒業の認定」（資料６－１－①－１）に定めている。進級と卒業に必要な単位，各科目の必修と選択の別は，学則別表１，２（資料６－１－①－２）に定めている。「学習・教育到達目標」に対応させ，各科目の必修と選択の別は適切に設定されている。本校の教育の目的に対応する準学士課程の「学習・教育到達目標」は基準１に示した通りであり，これを資料６－１－①－３に再掲する。また「学習・教育到達目標」の各項目に対応する科目も資料６－１－①－３に同時に示す。「学習・教育到達目標」のそれぞれの項目に対応する科目の評価を総合し，「学習・教育到達目標」の項目ごとの達成状況が確認できる。「学習・教育到達目標」の項目（Ｆ）を除き，学年ごとに適切に科目が割り振られている。項目（Ｆ）に対応する科目については，建設システム工学科では個別の授業科目が配置されている。建設システム工学科以外の学科においては，項目（Ｆ）に割り振られている科目が少ないが，複数の科目において授業の一部として項目（Ｆ）に対応する教育が行われている。

準学士課程は学年制であるため，学年末の全教員が出席する教員会議において，達成状況を把握・評価し，進級と卒業を認定している。また年度途中の各定期試験後に，クラス担任教員は学業成績一覧表（資料６－１－①－５と同様）により，各学生の達成状況を把握している。平成２４年度の進級と卒業の認定にかかわる教員会議の議事録を資料６－１－①－４に示す。各クラスの担任教員が，クラスの学生について，個別に進級要件を満たすかどうかを確認するためのクラス別学業成績一覧表を資料６－１－①－５に示す。規則に定める進級要件を満たすことにより，学生は学年の修了に必要な学力や資質・能力を身に付けたと判断され，教員会議において全教員同意のもと進級が認定される。進級要件を満たさない学生については，資料６－１－①－６に示す学業成績表により達成状況をさらに評価し，規則に基づき仮進級の可否を決定する。

準学士課程においては，全学年の修了をもって，学生は「学習・教育到達目標」の全ての項目を達成し，本校が卒業時に要求する学力や資質・能力を身に付け，養成しようとしている人材にふさわしいと判断され，教員会議において全教員同意のもと卒業が認定される。卒業の認定における学業成績一覧表を資料６－１－①－７に示す。

＜専攻科課程＞

修了については，学則第４７条（資料６－１－①－８）と，「舞鶴工業高等専門学校生産・情報基礎工学教育プログラム履修規定」の第７条（２）～（６）（資料６－１－①－９）に定めている。修了に必要な単位，各科目の必修と選択の別は，学則別表３（資料６－１－①－10）に定めている。「学習・教育到達目標」に対応させ，各科目の必修と選択の別は適切に設定されている。本校の教育

の目的に対応する専攻科課程の「学習・教育到達目標」は基準１に示した通りであり，これを資料６－１－①－11に再掲する。またこれら「学習・教育到達目標」の各項目に対応する科目も同時に資料６－１－①－11に示す。「学習・教育到達目標」の各項目に適切に科目が割り振られている。「学習・教育到達目標」のそれぞれの項目に対応する科目の評価を総合し，「学習・教育到達目標」の項目ごとの達成状況が確認できる。

専攻科課程は単位制であるため，各科目担当教員がシラバスに示す評価基準により単位認定を行い，在学期間中における単位の認定状況等（資料６－１－①－12）が修了要件を満たしているかどうかを専攻科委員会で確認している。学年末の全教員が出席する教員会議において，学生の達成状況を把握・評価し，修了を認定している。平成２４年度の修了の認定にかかわる教員会議の議事録は資料６－１－①－４に示した通りである。学生が個別に修了要件を満たすかどうかを確認するための専攻科修了要件判定表を資料６－１－①－13に示す。規則に定める単位の取得等の修了要件を満たすことにより，学生は「学習・教育到達目標」の全ての項目を達成し，専攻科の修了に必要な学力や資質・能力を身に付け，養成しようとしている人材にふさわしいと判断され，教員会議において全教員同意のもと修了が認定される。

※基準６における資料について

全学科や全学年にかかわる資料は，一部の学科や学年について抜粋した。その他の学科，学年に関する資料，完全な表は，訪問調査時に参照可能とする。

資料６－１－①－１

舞鶴工業高等専門学校学業成績の評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則（準学士課程）

第４章　学年の課程の修了，進級並びに卒業の認定

（定義）

第１１条　学則別表第1及び第2に規定する各学年修了時又は卒業時に修得すべき単位の総数を，学年修了単位数又は卒業単位数という。

２　学年修了単位数又は卒業単位数を満たす，それぞれの学年で修得すべき単位の総数を，年間必要単位という。

３　単位の修得は，各科目の学年評価が60点以上であることをもって認定する。

４　各学年修了時又は卒業時に必ず修得すべき科目を必修科目という。

５　学則別表第1及び第2中の科目群で定める当該学年までに修得すべき単位の数を科目群必修単位数という。

（進級認定）

第１１条の２　校長は，教員会議の議を経て，次の各号の要件をすべて満たした者を，各学年の課程を修了したものと認定し，進級させる。

(1)　学年修了単位数を満たしていること。

(2)　当該学年までの必修科目の単位をすべて修得していること。

(3)　当該学年までの科目群必修単位数をすべて満たしていること。

２　学年評価において59点以下の科目について第10条の再試験が行われた場合には，再試験の成績に基づく再評価を用いて，前項により進級認定を行うことができる。

（留年）

第１２条　次の各号のいずれかに該当する者は，進級を認めず，原学年に留める。

(1)　学年修了単位数に対して不足単位が7単位以上の者。

(2)　当該学年までの必修科目の未修得単位数と科目群必修単位数の不足単位数との合計が7単位以上の者

(3)　必修科目又は科目群必修単位数を満たす科目の欠席時間数がその授業科目における出席すべき総時間数の３分の１を超える者

ただし，超過した理由が病気又はけがで，かつ医師の診断書の提出があった場合は，教員会議の議を経て，当号本文の適用を除外することがある。

(4)　欠席日数が年間授業日数の３分の１を超える者

(5)　特別活動の欠席時数が年間総時数の３分の１を超える者

(6)　実験実習科目がＦ評価の者

２　原学年にとどめられた者は，所定の科目を再履修するものとする。同一学年に引き続き2回留年となる者は，以後の在学を認めない。ただし，休学した者についてはこの限りではない。

３　欠席日数が年間授業日数の3分の1を超えた後，休学願を提出した者は，については，第１項第4号を適用する。

（仮進級）

第１３条　校長は，教員会議の議を経て，第11条の2及び第12条に該当しない者の仮進級の可否を決定する。

（仮進級の特例）

第１３条の２　校長は，前項により仮進級した者のうち，特別の事情がある場合，不足単位を次年度履修した科目によって振り替え，前年度修了を認めることがある。

（再試験の特例）

第１４条　校長は，特別の事情がある場合，第3学年でかつ不足単位数が6単位を超えて10単位以内の者に限り教員会議の議を経て，第10条に定める再試験の実施を認めることがある。

（卒業認定）

第１５条　校長は，教員会議の議を経て，次の各号の要件をすべて満たした者を，本校全学年の課程を修了したものと認定し，卒業させる。

(1)　卒業単位数を満たしていること。

(2)　必修科目の単位をすべて修得していること。

(3)　科目群必修単位数をすべて満たしていること。

（退学予定者の修了及び単位認定）

第１５条の２　学年末に退学が予定される者又は学年途中で退学する者の修了及び単位認定については，舞鶴工業高等専門学校学業成績評価並びに学年の課程の修了及び卒業の認定に関する規則の内規（準学士課程）で別に定める。

（準用規定）

第１６条　第13条，第14条及び第15条の認定においては，第11条の2第2項の規定を準用する。

（補則）

第１７条　この規則の実施について必要な事項は，別に定める。

（出典　平成２５年度　学生便覧）

資料６―１―①－２

学則別表１

別表１
一般科目（各学科共通）　　（平成25年度第１，２学年に適用）

授業科目		単位数	１年 前期	１年 後期	２年 前期	２年 後期	３年 前期	３年 後期	４年 前期	４年 後期	５年 前期	５年 後期	備考
基礎数学	I	3	3										全科目修得すること
基礎数学	II	3		3									
基礎数学	III	2			2								
線形代数	I	1			1								
線形代数	II	1				1							
微分積分	I	2				2							
微分積分	II	3					3						
微分積分	III	3						3					
数学演習	I A	1	1										
数学演習	I B	1		1									
数学演習	II	1				1							
物理	I A	1	1										
物理	I B	1		1									
物理	II A	1			1								
物理	II B	1				1							
化学	I A	1	1										
化学	I B	1		1									
化学	II A	1			1								
化学	II B	1				1							
保健体育	I	2		2									
保健体育	II	2			2								
保健体育	III	2					2						
総合英語	I A	2	2										第１学年で４単位以上，第２学年までで１０単位以上，第３学年までで１４単位以上修得すること
総合英語	I B	2		2									
総合英語	II A	2			2								
総合英語	II B	2				2							
総合英語	III A	2					2						
総合英語	III B	2						2					
英会話	I A	1	1										
英会話	I B	1		1									
英会話	II A	1			1								
英会話	II B	1				1							
現代文	I	1	1										第１学年で２単位以上，第２学年までで４単位以上，第３学年までで６単位以上修得すること
現代文	II	1		1									
古文	I	1	1										
古文	II	1		1									
総合国語	I A	1			1								
総合国語	I B	1				1							
総合国語	II A	1					1						
総合国語	II B	1						1					
保健体育	IV	2							2				選択科目
保健体育	V	2									2		
アート＆デザイン	I	1	1										
アート＆デザイン	II	1		1									
日本史		1	1										第２学年までで２単位以上，第３学年までで４単位以上修得すること
地理		1		1									
世界史	I	1			1								
世界史	II	1				1							
人間論	I	1					1						
人間論	II	1						1					
総合英語	IV A	1							1				第４学年で４単位以上，第５学年までで９単位以上修得すること
総合英語	IV B	1								1			
総合英語	V A	1									1		
総合英語	V B	1										1	
実践英会話	I	1							1				
実践英会話	II	1										1	
経済学		1							1				
哲学		1								1			
法学	I	1							1				
法学	II	1								1			
並列開講科目	国語国文 I	1											
	ドイツ語 I	1											
	中国語 I	1							1				
	心と癒し I	1											
	金融工学 I	1											
	国語国文 II	1											
	ドイツ語 II	1											
	中国語 II	1								1			
	心と癒し II	1											
	金融工学 II	1											
	ドイツ文化論 I	1											
	韓国語 I	1											
	現代社会と宗教 I	1									1		
	現代日本の政治 I	1											
	現代日本の経済と法 I	1											
	ドイツ文化論 II	1											
	韓国語 II	1											
	現代社会と宗教 II	1										1	
	現代日本の政治 II	1											
	現代日本の経済と法 II	1											
	生物 I	1			1								選択科目
	地学 I	1											
	生物 II	1				1							
	地学 II	1											
	物理 III A	1											第４学年で２単位修得すること
	物理 III B	1							1				
	化学 III A	1											
	物理 III C	1								1			
	物理 III D	1											
	化学 III B	1											
一般科目開講単位合計		89	28		25		16		13		7		75単位以上修得すること（専門科目と合計で167単位以上修得すること。ただし，本校が認める資格認定の授業科目の単位数を含めることができる。）

１年，２年，３年及び４年修了時において，専門科目と合計して，それぞれ３２単位，６４単位，９６単位及び１３０単位以上修得すること。卒業時には専門科目と合計で１６７単位以上修得すること。ただし，本校が認める資格認定の授業科目の単位数を含めることができる。

（出典　平成２５年度　学生便覧）

資料６―１―①－２の続き

学則別表２

別表第２
専門科目(機械工学科)　　(平成25年度１～４学年に適用)

授業科目	単位数	1年 前期	1年 後期	2年 前期	2年 後期	3年 前期	3年 後期	4年 前期	4年 後期	5年 前期	5年 後期	備考
＊工学基礎	2	2										全科目修得すること
応用物理Ⅰ	1					1						
応用物理Ⅱ	1						1					
応用数学ⅠA	1							1				
応用数学ⅠB	1								1			
応用数学ⅡA	1							1				
応用数学ⅡB	1								1			
入門機械工学	1	1										
力学基礎Ⅰ	1				1							
力学基礎Ⅱ	1					1						
機械力学Ⅰ	1								1			
材料力学ⅠA	1					1						
材料力学ⅠB	1						1					
材料力学ⅡA	1							1				
材料力学ⅡB	1								1			
材料学Ⅰ	1					1						
材料学Ⅱ	1						1					
流れ学Ⅰ	1							1				
流れ学Ⅱ	1								1			
熱力学Ⅰ	1							1				
熱力学Ⅱ	1								1			
電気工学Ⅰ	1								1			
電気工学Ⅱ	1								1			
情報リテラシー	1	1										
情報処理ⅠA	1			1								
情報処理ⅠB	1				1							
情報処理Ⅱ	1						1					
機構学	1						1					
機械設計法Ⅰ	1					1						
機械設計法Ⅱ	1						1					
加工学Ⅰ	1				1							
加工学Ⅱ	1					1						
＊入門機械実習	1		1									
＊工作実習Ⅰ	2			2								
＊工作実習Ⅱ	4					4						
＊テクニカルドローイング	1		1									
＊設計製図ⅠA	1			1								
＊設計製図ⅠB	1				1							
＊設計製図ⅡA	1					1						
＊設計製図ⅡB	1						1					
＊設計製図Ⅲ	2								2			
＊設計製図Ⅳ	2									2		
＊機械工学実験Ⅰ	2							2				
＊機械工学実験Ⅱ	2									2		
創造演習	1			1								
＊創造設計製作	3							3				
卒業研究	12									12		
インターンシップ	1～4							1～2		1～2		選択科目　企業・高等教育機関それぞれ２単位まで
校外学修												
加工学Ⅲ	1									1		７単位以上修得すること
機械力学Ⅱ	1									1		
材料力学Ⅲ	1										1	
流体工学	1										1	
熱工学	1									1		
制御工学Ⅰ	1										1	
制御工学Ⅱ	1										1	
計算機援用工学	1										1	
設計工学	1										1	
知能機械工学	1										1	
医工学	1										1	
工業英語	1										1	
小計	82～85	6		9		18		21～22		29～30		
専門共通選択科目開講単位小計	8	0		0		0		4		4		専門共通選択科目は，別表２の２に示す
専門科目開講単位合計	90～93	6		9		18		25～26		33～34		84単位以上修得すること(一般科目と合計で167単位以上修得すること。ただし，本校が認める資格認定の授業科目の単位数を含めることができる。)
一般科目開講単位合計	89	28		25		16		13		7		
合計	179～182	34		34		34		38～39		40～41		

１年，２年，３年及び４年修了時において，一般科目と合計して，それぞれ３２単位，６４単位，９６単位及び１３０単位以上修得すること。卒業時には一般科目と合計で１６７単位以上修得すること。
ただし，本校が認める資格認定の授業科目の単位数を含めることができる。
＊印は実験実習科目を示し，当該学年で修得出来なかった場合は進級できない。

（出典　平成２５年度　学生便覧）

資料６—１—①－３

シラバスの表１（準学士課程分）

表1　学習・教育到達目標に到達するための授業科目の流れ（H25年度開講科目）
（電情系：電気情報工学科、電制系：電子制御工学科、機械系：機械工学科、建設系：建設システム工学科（2コース制））

学習・教育目標	学科系	1年次 専門	1年次 一般、専門共通	2年次 専門	2年次 一般、専門共通	3年次 専門	3年次 一般、専門共通	4年次 専門	4年次 一般、専門共通	5年次 専門	5年次 一般、専門共通
(A) 自然科学と工学の基礎を身につける。	電情系	電気概論(◎) 電気回路(◎) 情報基礎(◎)	基礎数学Ⅰ(◎) 基礎数学Ⅱ(◎) 数学演習ⅠA(◎) 数学演習ⅠB(◎) 物理ⅠA(◎) 物理ⅠB(◎) 化学ⅠA(◎) 化学ⅠB(◎) 情報リテラシー(◎)	交流回路Ⅰ(◎) 交流回路Ⅱ(◎) C言語(◎)	基礎数学Ⅲ(◎) 線形代数Ⅰ(◎) 線形代数Ⅱ(◎) 微分積分Ⅰ(◎) 数学演習Ⅱ(◎) 物理ⅡA(◎) 物理ⅡB(◎) 化学ⅡA(◎) 化学ⅡB(◎) 生物Ⅰ(◎) 生物Ⅱ(◎) 地学Ⅰ(◎) 地学Ⅱ(◎)	回路理論(◎) 電気磁気学Ⅰ(◎) 電気磁気学Ⅱ(◎) アナログ回路(◎) ディジタル回路(◎) アナログ信号処理Ⅰ(◎) アナログ信号処理Ⅱ(◎) インターフェースⅠ(◎) インターフェースⅡ(◎) 情報理論(◎)	微分積分Ⅱ(◎) 微分積分Ⅲ(◎) 応用物理Ⅰ(◎) 応用物理Ⅱ(◎)	電気磁気学Ⅲ(◎)	応用数学ⅠA(◎) 応用数学ⅠB(◎) 応用数学ⅡA(◎) 応用数学ⅡB(◎) 計測概論Ⅰ(◎) 計測概論Ⅱ(◎) 物理ⅢA(◎) 物理ⅢB(◎) 化学ⅢA(◎) 物理ⅢC(◎) 物理ⅢD(◎) 化学ⅢB(◎)		電子物理Ⅰ(◎) 電子物理Ⅱ(◎)
	電制系	電気基礎Ⅰ(◎) 電気基礎Ⅱ(◎)		電子工学Ⅰ(◎) 電子工学Ⅱ(◎) 力学Ⅰ(◎)		電子回路Ⅰ(◎) 電子回路Ⅱ(◎) 力学Ⅱ(◎) 水力学Ⅰ(◎) 材料力学Ⅰ(◎)		電気磁気学Ⅰ(◎) 電気磁気学Ⅱ(◎) 材料力学Ⅱ(◎) 材料力学Ⅲ(◎) 振動工学Ⅰ(◎)		振動工学Ⅱ(◎)	
	機械系	入門機械工学(◎) テクニカルドローイング(◎)		力学基礎Ⅰ(◎)		力学基礎Ⅱ(◎) 材料力学ⅠA(◎) 材料力学ⅠB(◎) 材料学Ⅰ(◎) 材料学Ⅱ(◎) 機構学(◎) 機械設計法Ⅰ(◎) 機械設計法Ⅱ(◎) 加工学Ⅱ(◎) 設計製図ⅡA(◎) 設計製図ⅡB(◎)		機械力学Ⅰ(◎)		医工学(◎) 機械力学Ⅱ(◎) 計算機援用工学(◎)	
	建設系			設計製図ⅠA(◎) 設計製図ⅠB(◎)		情報処理Ⅰ(◎) 建築一般構造(◎) 建設材料学(◎) 水理学ⅠA(◎) 水理学ⅠB(◎)		構造力学ⅢA(◎) 構造力学ⅢB(◎)			
(B) 専門分野の基礎知識を修得し、技術の実践に応用できる。	電情系	電気回路(◎)	工学基礎(◎) 情報リテラシー(◎)	交流回路Ⅰ(◎) 交流回路Ⅱ(◎) 情報数学(◎) C言語(◎)		回路理論(◎) 電気磁気学Ⅰ(◎) 電気磁気学Ⅱ(◎) アナログ回路(◎) ディジタル回路(◎) アナログ信号処理Ⅰ(◎) アナログ信号処理Ⅱ(◎) C言語実習(◎)	応用物理Ⅰ（機械工学科のみ）(◎) 応用物理Ⅱ（機械工学科のみ）(◎)	過渡現象論(◎) ディジタル信号処理(○) 電子工学Ⅰ(◎) 電子工学Ⅱ(◎) 論理回路(◎) 通信工学Ⅰ(◎) 通信工学Ⅱ(◎)	水力学Ⅱ(◎) 電気機器Ⅰ(◎) 電気機器Ⅱ(◎) ロボット工学Ⅰ(◎) 建築論Ⅰ(◎)	制御工学Ⅰ(◎) 制御工学Ⅱ(◎) 半導体工学(◎) エネルギー工学Ⅰ(◎) エネルギー工学Ⅱ(◎) 伝送工学(◎) 卒業研究(○)	マリンエンジニアリングⅠ(◎) マリンエンジニアリングⅡ(◎) 電磁気計測Ⅰ(◎) 電磁気計測Ⅱ(◎) 建設振動学(◎) 耐震工学(◎) 建築論Ⅱ(◎) 応用測量学Ⅰ(◎)
	電制系	電気基礎Ⅰ(◎) 電気基礎Ⅱ(◎)		電子工学Ⅰ(◎) 電子工学Ⅱ(◎)		電子回路Ⅰ(◎) 電子回路Ⅱ(◎) 熱力学Ⅰ(◎) 計算機工学Ⅰ(◎) 計算機工学Ⅱ(◎) 制御工学Ⅰ(◎)		電子回路Ⅲ(◎) 電子回路Ⅳ(◎) 制御工学Ⅱ(◎) 制御工学Ⅲ(◎) 熱力学Ⅱ(◎) 計測工学Ⅰ(◎)		電子回路Ⅴ(◎) システム制御Ⅰ(◎) システム制御Ⅱ(◎) 計測工学Ⅱ(◎) ロボット工学Ⅱ(◎) アクチュエータ工学(◎) 卒業研究(○)	
	機械系	テクニカルドローイング(◎)		加工学Ⅰ(◎) 工作実習Ⅰ(◎) 設計製図ⅠA(◎) 設計製図ⅠB(◎)		力学基礎Ⅱ(◎) 材料学Ⅰ(◎) 材料学Ⅱ(◎) 機構学(◎) 加工学Ⅱ(◎) 工作実習Ⅱ(◎) 設計製図ⅡA(◎) 設計製図ⅡB(◎)		流れ学Ⅰ(◎) 流れ学Ⅱ(◎) 材料力学ⅡA(◎) 材料力学ⅡB(◎) 電気工学Ⅰ(◎) 電気工学Ⅱ(◎) 熱力学Ⅰ(◎) 熱力学Ⅱ(◎)		制御工学Ⅰ(◎) 制御工学Ⅱ(◎) 材料力学Ⅲ(◎) 知能機械工学(◎) 流体工学(◎) 熱工学(◎) 加工学Ⅲ(◎) 卒業研究(○)	
	建設系	建設システム工学概論Ⅰ(◎) 建設システム工学概論Ⅱ(◎)		構造力学ⅠA(◎) 構造力学ⅠB(◎) 測量学Ⅰ(◎) 測量学Ⅱ(◎) 測量実習(◎)		構造力学ⅡA(◎) 構造力学ⅡB(◎) 建築一般構造(◎) 建設材料学(◎) 水理学ⅠA(◎) 水理学ⅠB(◎) 地盤工学ⅠA(◎) 地盤工学ⅠB(◎) 都市計画(◎)		コンクリート構造学Ⅰ(◎) コンクリート構造学Ⅱ(◎) 地盤工学ⅡA(◎)		構造解析(◎) 応用構造力学(◎) 鋼構造学Ⅰ(◎) 鋼構造学Ⅱ(◎) 防災工学(◎) 工学演習(◎) 応用測量学Ⅱ(○) 卒業研究・卒業設計(○)	
	（都市環境コース）							水理学ⅡA(◎) 水理学ⅡB(◎) 地盤工学ⅡB(◎) 環境衛生学Ⅰ(◎) 環境衛生学Ⅱ(◎) 土木施工Ⅰ(◎)		河川工学(◎) 河川環境(◎) 海岸工学(◎) 土木施工Ⅱ(◎)	
	（建築コース）							建築環境Ⅰ(◎) 建築環境Ⅱ(◎) 建築施工(◎) 建築計画Ⅰ(◎) 建築計画Ⅱ(◎) 建築構造Ⅰ(◎)		建築構造Ⅱ(◎) 建築設備Ⅰ(◎) 建築設備Ⅱ(◎)	
(C) 修得した知識を統合し、製品やシステムを考案できる。	電情系		アート&デザインⅠ(◎) アート&デザインⅡ(◎)					工学基礎研究(◎) 創造工学(◎)	システム工学Ⅰ(◎) システム工学Ⅱ(◎) インターンシップ(◎) 校外学修(◎)	卒業研究(◎)	インターンシップ(◎) 校外学修(◎)
	電制系							創造設計プロジェクト(◎)		CAD演習ⅡA(○) CAD演習ⅡB(◎) CAD演習ⅡC(◎) 卒業研究(◎)	
	機械系			創造演習(◎)				設計製図Ⅲ(◎) 創造設計製作(◎)		設計製図Ⅳ(◎) 設計工学(◎) 卒業研究(◎)	
	建設系	建設製図Ⅰ(◎)		建設製図Ⅱ(◎)		建設製図制作(◎)		建設設計製図Ⅰ(◎)		建設設計製図Ⅱ(◎) 卒業研究・卒業設計(◎)	

（出典　平成２５年度　シラバス）

資料６―１―①－３の続き

シラバスの表１（準学士課程分）

学習・教育目標	学科系	1年次 専門	1年次 一般・専門共通	2年次 専門	2年次 一般・専門共通	3年次 専門	3年次 一般・専門共通	4年次 専門	4年次 一般・専門共通	5年次 専門	5年次 一般・専門共通
(D) 実験・実習・演習により現象の理解を深め、実践力を身につける。	電情系		物理ⅠA(◎) 物理ⅠB(◎) 化学ⅠA(◎) 化学ⅠB(◎)	電気情報工学実験Ⅰ A(◎) 電気情報工学実験Ⅰ B(◎)	化学ⅡA(◎) 化学ⅡB(◎)	C言語実習(◎) 数値解析実習(◎) 電気情報工学実験Ⅱ A(◎) 電気情報工学実験Ⅱ B(◎)		電気情報工学実験ⅢA(◎) 電気情報工学実験ⅢB(◎)		電気情報工学実験ⅣA(◎) 電気情報工学実験ⅣB(◎) 卒業研究(○)	
	電制系			電子制御実習Ⅰ(◎) 電子制御実習Ⅱ(◎)		電子制御実習Ⅰ(◎) 電子制御実習Ⅱ(◎)		電子計測実験(◎)		制御工学実験(◎) 卒業研究(○)	
	機械系	入門機械実習(◎)		工作実習Ⅰ(◎)		情報処理Ⅱ(◎) 工作実習Ⅱ(◎) 設計製図ⅡA(◎) 設計製図ⅡB(◎)		機械工学実験Ⅰ(◎)		機械工学実験Ⅲ(◎) 卒業研究(○)	
	建設系	建設製図Ⅰ(◎)	測量実習(◎) 建設製図Ⅱ(◎)			建設システム工学実験Ⅰ A(◎) 建設システム工学実験Ⅰ B(◎) 建設製図制作(◎)				卒業研究・卒業設計(○)	
	(都市環境コース)							建設システム工学実験Ⅱ A(◎) 建設システム工学実験Ⅱ B(◎)			
	(建築コース)							建築デザインⅠ(◎)		建築デザインⅡ(◎)	
(E) 技術者に必要な人間性、国際性、協調性及び英語による基礎的な運用能力を身につける。	電情系		総合英語ⅠA(◎) 総合英語ⅠB(◎) 英会話ⅠA(◎) 英会話ⅠB(◎) 現代文Ⅰ(◎) 古文Ⅰ(◎) 古文Ⅱ(◎) アート&デザインⅠ(◎) アート&デザインⅡ(◎) 日本史(◎) 地理(◎) 保健体育Ⅰ(◎)		総合英語ⅡA(◎) 総合英語ⅡB(◎) 英会話ⅡA(◎) 英会話ⅡB(◎) 総合国語ⅠA(◎) 総合国語ⅠB(◎) 人間論Ⅰ(◎) 世界史Ⅰ(◎) 世界史Ⅱ(◎) 保健体育Ⅱ(◎)	インターフェースⅠ(◎) インターフェースⅡ(◎)	総合英語ⅢA(◎) 総合英語ⅢB(◎) 総合国語ⅡA(◎) 総合国語ⅡB(◎) 人間論Ⅱ(◎) 日本語A(留学生)(◎) 日本語B(留学生)(◎) 保健体育Ⅲ(◎)	工業外国語(◎) 国語国文Ⅰ(◎) ドイツ語Ⅰ(◎) 中国語Ⅰ(◎) 金融工学Ⅰ(◎) 心と癒しⅠ(◎) 総合英語ⅣA(◎) 総合英語ⅣB(◎) 実践英会話Ⅰ(◎) 経済学(◎) 哲学(◎) 法学Ⅰ(◎) 日本語C(◎) 日本語D(◎)	工業英語Ⅰ(◎) 技術英語Ⅰ(◎) 技術英語Ⅱ(◎)	ドイツ文化論Ⅰ(◎) 韓国語Ⅰ(◎) 現代社会と宗教Ⅰ(◎) 現代日本の政治Ⅰ(◎) 現代日本の経済と法Ⅰ(◎) ドイツ文化論Ⅱ(◎) 韓国語Ⅱ(◎) 現代社会と宗教Ⅱ(◎) 現代日本の政治Ⅱ(◎) 現代日本の経済と法Ⅱ(◎) 総合英語ⅤA(◎) 総合英語ⅤB(◎) 実践英会話Ⅱ(◎) 日本語E(◎) 日本語F(◎)
	機械系										
	建設系										
(F) 技術が自然や社会に与える影響を理解し、技術者としての倫理観を身につける。	電情系							環境工学ⅠA(◎) 環境工学ⅠB(◎)			
	電制系										
	機械系	建設システム工学概論Ⅰ(◎)									
	建設系	建設システム工学概論Ⅱ(◎)								環境工学ⅡA(◎) 環境工学ⅡB(◎)	
	(都市環境コース)										
	(建築コース)									建築法規(◎)	
(G) 課題の提案・報告などを適切にまとめ、発表できる。	電情系			電気情報工学実験Ⅰ A(◎) 電気情報工学実験Ⅰ B(◎)				電気情報工学実験ⅢA(○) 電気情報工学実験ⅢB(○)		電気情報工学実験ⅣA(○) 電気情報工学実験ⅣB(○)	
	電制系							創造工学(○) 工学基礎解数(○) 創造設計プロ(○) 電子計測実験(○)		卒業研究(○) 制御工学実験(○) 卒業研究(○)	
	機械系							機械工学実験(○)		機械工学実験Ⅲ(○)	
	建設系					建設製図制作(◎)				卒業研究・卒業設計(○)	
	(都市環境コース)							建設システム工学実験Ⅱ A(○) 建設システム工学実験Ⅱ B(○)			
	(建築コース)										
(H) コンピュータを技術の実践に活用できる。	電情系			コンピュータグラフィックス(◎)		数値解析実習(◎)		ディジタル信号処理(◎) 論理回路(○)		ネットワーク論(◎) オペレーティングシステムⅠ(◎) 情報解析Ⅰ(◎)	画像処理Ⅰ(◎) 画像処理Ⅱ(◎) 情報学Ⅰ(◎)
	電制系	情報処理Ⅰ(◎)		情報処理Ⅱ(◎) 情報処理Ⅲ(◎)		情報処理Ⅳ(◎) CAD演習ⅠA(◎) CAD演習ⅠB(◎)		数値解析Ⅰ(○) CAD演習ⅡA(○) 数値計算法Ⅰ(◎)		CAD演習ⅡB(○)	情報学Ⅱ(◎) シミュレーションエ学Ⅰ(◎) シミュレーションエ学Ⅱ(◎)
	機械系			情報処理ⅠA(◎)				設計製図Ⅲ(○)		設計製図Ⅳ(◎)	建設振動学(○)
	建設系			情報処理ⅠB(◎)				建設設計製図Ⅰ(◎) 情報処理Ⅱ(◎)		建設設計製図Ⅱ(◎) 数値解析Ⅰ(◎) 構造解析(○) 応用測量学Ⅱ(◎)	
	(都市環境コース)										
	(建築コース)							建築デザインⅠ(○)		建築デザインⅡ(○)	
(I) 責任を自覚し、互いに協力し合い、チームの目的達成に貢献できる。	電情系		物理ⅠA(◎) 物理ⅠB(◎) 工学基礎(◎)		物理ⅡA(◎) 物理ⅡB(◎)	電気情報工学実験ⅡA(◎) 電気情報工学実験ⅡB(◎)		創造工学(◎) 電気情報工学実験ⅢA(○) 電気情報工学実験ⅢB(○)	化学ⅢA(○) 化学ⅢB(○)	電気情報工学実験ⅣA(○) 電気情報工学実験ⅣB(○)	現代日本の政治Ⅰ(○) 現代日本の政治Ⅱ(○) 現代日本の経済と法Ⅰ(○)
	電制系					電子制御実験Ⅱ(◎)		電子計測実験(○) 創造設計プロジェクト(◎)		制御工学実験Ⅱ(○)	現代日本の経済と法Ⅱ(○)
	機械系	入門機械実習(◎)	創造実習(◎)			工作実習Ⅱ(◎)		機械工学実験Ⅰ(◎)		機械工学実験Ⅱ(◎)	
	建設系		測量実習(◎)			建設システム工学実験ⅠA(◎) 建設システム工学実験ⅠB(◎) 建設製図制作(◎)		建設設計製図Ⅰ(◎)			
	(都市環境コース)							建設システム工学実験ⅡA(◎) 建設システム工学実験ⅡB(◎)			
	(建築コース)										

（出典　平成２５年度　シラバス）

資料６―１―①－４

教員会議議事概要

日　時　　平成２５年3月１４日（木）１６：００～１８：３０

場　所　　大会議室

Ⅰ．議題

①進級認定について……（回収資料）

教務主事より，成績不良者を除く 388 名の進級を認定することについて説明があり，異議無く了承された。

続いて成績不良者についての報告に移り，不足単位数が 6 単位以下の学生については，仮進級させることが異議無く了承された。不足単位数が 7 単位以上の学生については，規則に従い，学生の意向に応じて留年あるいは退学とすることが審議の結果了承された。

進級認定に直接関係ないが，卒業判定の際に必要となる必修科目の不足単位を資料に掲載して欲しいとの意見があった。

②専攻科入学者選抜における合格判定基準の改正について……(資料 1)

専攻科長より，資料に基づいて説明があり原案のとおり了承された。

【以下省略】

（出典　総務課総務係資料）

資料６―１―①－５

クラス別学業成績一覧表

※訪問調査時に閲覧可能とする。

（出典　学生課教務係資料）

資料６―１―①－６

学業成績不良者一覧表

※訪問調査時に閲覧可能とする。

（出典　学生課教務係資料）

資料６―１―①－７

卒業の認定における学業成績一覧表

※訪問調査時に閲覧可能とする。

（出典　学生課教務係資料）

資料６―１―①－８

学則第４７条

（修了）

第４７条　専攻科に２年以上在学し，所定の授業科目を履修し，６２単位以上を修得し，舞鶴工業高等専門学校生産・情報基礎工学教育プログラムの修了要件のうち，(1)学位取得の項目を除く(2)～(6)を満たした者について，修了を認定する。

２　校長は，修了を認定した者に対し，所定の修了証書を授与する。

３　第１項に規定する単位の修得については，別に定める。

（出典　平成２５年度　学生便覧）

資料６―１―①－９

「舞鶴工業高等専門学校生産・情報基礎工学教育プログラム履修規定」の

第７条（２）～（６）

（修了要件）

第７条　本教育プログラムの修了要件は次の各号とし，全てを満たした者に修了証書を授与する。

(2) 本教育プログラムの授業科目を124単位以上を取得していること。

(3) 専攻科において所定の授業科目を履修し，62単位以上を取得していること。

(4) 授業時間数が総計1600時間以上であること。

(5) 人文科学，社会科学等（語学教育を含む）の授業時間が250時間以上，数学，自然科学，情報技術の授業時間が250時間以上，および専門分野の授業時間が900時間以上であること。

(6) 別に定める達成度評価基準に合格していること。

（出典　平成２５年度　学生便覧）

資料６―１―①－10

学則別表３

別表第３

１．一般科目及び専門共通科目（各専攻共通）　　平成24年度以降入学者に適用

授業科目名	単位数	学年別配当		備考
		１年次	２年次	
現代英語Ⅰ	2	2		必修
現代英語Ⅱ	2	2		
日本文化論	2		2	
経営学	2	2		
近代物理学	2		2	
一般科目開設単位計	10	6	4	
一般科目修得単位		6単位以上		
応用解析１	2	2		必修
応用解析２	2	2		必修
技術者倫理	2		2	必修
地球環境政策学	2		2	必修
ネットワークシステム論	2		2	
画像工学	2	2		
ロボットシステム制御	2		2	
先端材料工学	2	2		
エネルギー工学	2	2		
システム設計学	2	2		
流体工学特論	2	2		
応用情報工学	2	2		
専門共通科目開設単位計	24	16	8	
専門共通科目修得単位		18単位以上		
開設単位計	34	22	12	
修得単位計		18単位以上		

２．電気・制御システム工学専攻（専門専攻科目）

授業科目名	単位数	学年別配当		備考
		１年次	２年次	
特別研究	14	6	8	必修
特別実験	4	4		必修
特別演習	2		2	必修
エンジニアリング・デザイン演習	2		2	必修
システム制御工学	2	2		必修
パワーエレクトロニクス	2		2	必修
情報工学	2	2		
電磁気応用工学	2	2		
応用通信工学	2	2		
信号処理特論	2	2		
電子回路特論	2	2		
制御工学特論	2	2		
知識情報工学	2		2	
電子デバイス工学Ⅰ	2	2		
電子デバイス工学Ⅱ	2	2		
医療工学	2		2	
インターンシップ	2	2		
専門専攻科目開設単位計	48	28	20	
専門専攻科目取得単位計		38単位以上		

３．建設・生産システム工学専攻（専門専攻科目）

授業科目名	単位数	学年別配当		備考
		１年次	２年次	
特別研究	14	6	8	必修
特別実験	4	4		必修
特別演習	2		2	必修
エンジニアリング・デザイン演習	2		2	必修
弾塑性力学	2	2		必修
材料科学	2	2		必修
材料強度学	2	2		
応用構造工学	2	2		
動的設計論	2	2		
建築耐震工学	2	2		
流体力学	2	2		
レオロジー	2		2	
プラント工学	2		2	
メンテナンス工学	2	2		
地盤工学設計論	2		2	
水圏環境学	2	2		
エネルギー環境学	2	2		
環境防災論	2	2		
まちづくり学	2	2		
建設計画学	2		2	
設計演習	2		2	
インターンシップ	2	2		
専門専攻科目開設単位計	58	34	24	
専門専攻科目取得単位計		38単位以上		

（出典　平成２５年度　学生便覧）

資料６―１―①－11

シラバスの表１（専攻科課程分）

表1　学習・教育到達到達目標に到達するための授業科目の流れ

学習・教育目標	学科系	専　1年次		専　2年次	
		専門	一般，専門共通	専門	一般，専門共通
(A) 自然科学と工学の基礎を幅広く修得し，それを応用することができる	電情系 電制系		応用解析 1(◎) 応用解析 2(◎)		近代物理学(◎)
	機械系 建設系	流体力学(◎)	先端材料工学(◎) システム設計学(◎) エネルギー工学(◎)	建設計画学（◎）	
(B) 専門分野の基礎知識を修得し，それを実務の技術の問題に応用することができる	電情系 電制系	情報工学(◎) システム制御工学(◎) 応用通信工学(◎) 電子回路特論(◎) 制御工学特論(◎) 電子デバイス工学Ⅰ(◎) 電磁気応用工学(◎) 信号処理特論(◎) 特別研究（〇）	応用情報工学(〇) 流体工学特論(◎)	パワーエレクトロニクス(◎) 知識情報工学(◎) 電子デバイス工学Ⅱ(◎) 医療工学（◎） 特別研究（〇）	ロボットシステム制御(◎)
	機械系 建設系	応用構造工学(◎) 動的設計論(◎) 材料科学(◎) 弾塑性力学(◎) 環境防災論(◎) エネルギー環境学(◎) 材料強度学(◎) メンテナンス工学(◎) まちづくり学(◎) 建築耐震工学(◎) 特別研究（〇）		地盤工学設計論(◎) レオロジー(◎) プラント工学（◎） 特別研究（〇）	
(C) 修得した知識を統合して，社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発する創造的能力と意欲を有する	電情系 電制系	特別研究(◎)	インターンシップ(◎)	特別研究(◎) ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ演習（◎）	インターンシップ(◎)
	機械系 建設系	特別研究（◎） まちづくり学(〇)		特別研究(◎) ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ演習（◎） 設計演習（◎）	
(D)実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる	電情系 電制系	特別実験(◎) 特別研究（〇）		特別演習(◎) 特別研究（〇）	
	機械系 建設系	特別実験（◎） 特別研究（〇）		特別演習（◎） 特別研究（〇）	
(E) 豊かな人間性，国際性，協調性および英語によるコミュニケーション能力を身につける	電情系 電制系		現代英語Ⅰ(◎) 現代英語Ⅱ(◎) 経営学(◎)		日本文化論（◎）
	機械系 建設系				
(F) 技術が持つ地球的，社会的影響の重要性を理解し，倫理的責任を理解し，説明することができる	電情系 電制系				技術者倫理(◎) 地球環境政策学（◎）
	機械系 建設系	水圏環境学(◎)			
(G) 課題の提案・報告などを効果的に記述し，説明することができる	電情系 電制系	特別実験(〇) 特別研究(〇)		特別演習(〇) ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ演習（〇） 特別研究(〇)	
	機械系 建設系	特別実験(〇) 特別研究(〇)		特別演習(〇) ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ演習（〇） 特別研究(〇)	
(H) コンピュータをはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる	電情系 電制系	信号処理特論（〇）	画像工学(◎) 応用情報工学(◎)		ネットワークシステム論(◎)
	機械系 建設系	建築耐震工学（〇） 応用構造工学（〇）		設計演習（〇）	
(I) 責任を自覚し，互いに理解・協力し合い，チームの目的達成のために能力を発揮できる	電情計 電制系			ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ演習（◎）	
	機械系 建設系			ｴﾝｼﾞﾆｱﾘﾝｸﾞﾃﾞｻﾞｲﾝ演習（◎）	

（出典　平成２５年度　シラバス）

資料６―１―①－12

専攻科認定単位成績一覧表

※訪問調査時に閲覧可能とする。

（出典　学生課教務係）

（分析結果とその根拠理由）

「学習・教育到達目標」に対する到達度は，進級，卒業，修了の時点で要求されるレベルとして，進級，卒業，修了に関する規則（取得単位に関する条件，各科目の必修と選択の別など）に定められている。この規則を適切に運用し，進級，卒業，修了の認定を行っているので，学生は進級，卒業，修了時に，それぞれの段階で養成しようとしている人材としてふさわしい学力や資質・能力を身に付けていることが保証される。したがって本校では学生の教育達成状況の把握・評価が適切に実施されている。

観点６－１－②：　各学年や卒業（修了）時等において学生が身に付ける学力や資質・能力について，学校としてその達成状況を評価した結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

＜準学士課程＞

(1)単位修得状況

単位修得率を資料６－１－②－１に示す。必修科目においては，最低でも90%以上の高い値である。

(2)成績評価の分布

平均点の推移を資料６－１－②－２に示す。平均点は最低でも70点以上である。

(3)進級，留年・休学・退学の状況

進級・卒業率を資料６－１－②－３に，休学・退学率を資料６－１－②－４に示す。進級率は最低でも90%程度である。卒業率はほぼ100%である。休学・退学率は数%の割合である。

(4)資格取得の状況

資格取得状況を資料６－１－②－５に示す。資格取得に伴う単位認定の申請が行われた資格のみを示している。単位認定の対象とならない資格や，単位認定の申請が行われなかった資格は，資料に含まれていない。

(5)卒業研究の内容・水準の状況

学生の一部は学協会等において研究成果を発表しており，その水準の高さを示している。資料６－１－②－６に学会発表の一例を示す。

(6)外国語能力の育成に関する達成状況

全学生を対象に，第１，２学年の学生はA. C. E.を，第３～５学年の学生はＴＯＥＩＣを受験させ，毎年英語の学習達成度を確認している。資料６－１－②－７にA. C. E.とＴＯＥＩＣの受験結果の概略を示す。ＴＯＥＩＣのスコアから，学年とともに英語能力が向上していることがわかる。また「通常会話で最低限のコミュニケーションができる。」と評価されるレベルにまで達している。

(7) 国立高等専門学校機構が実施する学習達成度試験の受験状況

第３学年の学生は，国立高等専門学校機構が実施する，数学と物理の学習達成度試験を受験している。その受験結果の概略を資料６－１－②－８に示す。数学においては全国の高等専門学校の平均点に対し，88.7%の得点であった。同様に物理については，平成２２年度が109.6%，平成２３年度が94.5%の得点であった。

＜専攻科課程＞

(1)単位修得状況

単位修得率を資料６－１－②－９に示す。必修科目においては，約95%以上の高い値である。

(2)成績評価の分布

平均点の推移を資料６－１－②－10に示す。平均点は最低でも70点以上である。

(3)修了・休学・退学の状況

修了率を資料６―１―②－11に，休学・退学率を資料６－１－②－12に示す。規定の年限で修了できない学生が各年度で平均して数名存在する。休学，退学者はともに学年で１名程度である。

(4)特別研究の内容・水準の状況，学位取得の状況

特別研究の論文の一部は「学修レポート」としてまとめ，大学評価・学位授与機構に提出し，審査を受け，ほぼ全ての学生が学位を取得している。学位取得状況を資料６－１－②－13に示す。学生の多くは学協会等において研究成果を発表しており，その水準の高さを示している。資料６－１－②－14に学会発表の一例を示す。

(5)外国語能力の育成に関する達成状況

ＴＯＥＩＣを毎年受験し，英語の学習達成度を確認している。資料６－１－②－７にＴＯＥＩＣの受験結果の概略を示す。前学年より英語能力が向上していることがわかる。また「通常会話で最低限のコミュニケーションができる。」と評価されるレベルにまで達している。

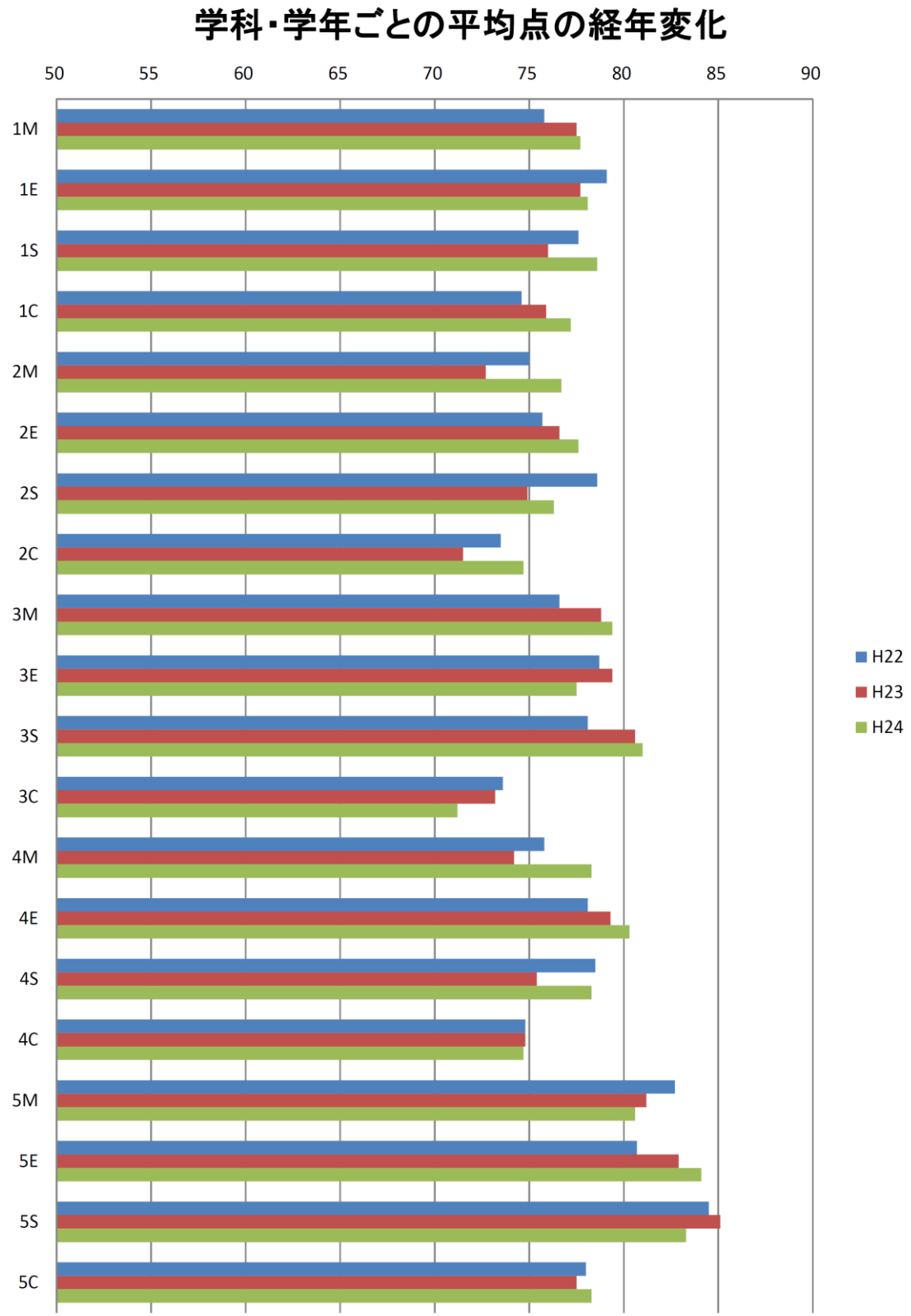
資料６－１－②－１

学年別の単位修得率の経年変化（準学士課程）

年度	第１学年		第２学年		第３学年		第４学年		第５学年		全学年	
	必修(%)	選択(%)	必修(%)	選択(%)	必修(%)	選択(%)	必修(%)	選択(%)	必修(%)	選択(%)	必修(%)	選択(%)
H24	95.5	96.4	93.2	90.0	94.1	85.0	91.5	77.7	97.8	69.3	94.4	81.4
H23	94.5	95.7	89.3	92.5	93.8	90.0	87.0	78.8	99.8	88.4	92.6	87.7
H22	96.0	97.5	95.3	97.5	89.7	85.0	91.3	77.4	100.0	84.0	93.1	83.6
平均	95.3	96.5	92.6	93.3	92.5	86.7	89.9	78.0	99.2	80.6	93.4	84.2

（出典　学生課教務係資料）

資料６－１－②－２



※数字は学年を，アルファベットは学科を示す。（M：機械工学科，E：電気情報工学科，S：電子制御工学科，C：建設システム工学科）（準学士課程）

（出典　学生課教務係資料）

資料資料６－１－②－３

学年別の進級・留年率の経年変化（準学士課程）

年度	第１学年			第２学年			第３学年		
	進級率(%)(※)	仮進級率(%)	留年率(%)	進級率(%)(※)	仮進級率(%)	留年率(%)	進級率(%)(※)	仮進級率(%)	留年率(%)
H24	92.4	22.2	7.0	91.3	35.8	5.8	82.8	26.4	12.9
H23	96.5	18.0	2.9	92.4	15.9	6.5	93.3	7.4	4.3
H22	98.2	17.2	1.2	92.6	8.0	6.7	91.3	15.5	5.6
H21	91.2	14.6	7.6	93.5	17.3	4.8	96.2	11.9	2.5
H20	95.8	16.2	1.8	93.5	7.7	4.2	91.5	4.5	3.4
平均	94.8	17.6	4.1	92.7	16.9	5.6	91.0	13.1	5.7

年度	第４学年			第５学年		第１～４学年の平均		
	進級率(%)(※)	仮進級率(%)	留年率(%)	卒業率(%)	留年率(%)	進級率(%)(※)	仮進級率(%)	留年率(%)
H24	89.9	42.3	5.4	95.6	3.6	89.1	31.7	7.8
H23	88.5	14.7	8.3	98.7	1.3	92.7	11.2	5.5
H22	89.5	6.4	4.7	98.7	0.0	92.9	11.8	4.6
H21	88.2	7.1	7.1	98.0	0.7	92.3	12.7	5.5
H20	93.3	10.4	10.4	97.3	0.7	93.5	9.7	3.4
平均	89.9	16.2	16.2	97.7	1.3	92.1	15.4	5.4

※進級率には仮進級者を含む

年度途中に修了退学や休学する学生は進級認定の対象とならないため割合に含まれない。したがって進級率と留年率の合計は 100%にならない。

（出典　学生課教務係資料）

資料６－１－②－４

学年別の退学者数，退学率の経年変化（準学士課程）

年度	第１学年		第２学年		第３学年		第４学年		第５学年		全学年	
	退学者数	退学率(%)	退学者数	退学率(%)	退学者数	退学率(%)	退学者数	退学率(%)	退学者数	退学率(%)	退学者数	退学率(%)
H24	6/171	3.5	5/174	2.9	16/164	9.8	5/169	3.0	1/139	0.7	33/817	4.0
H23	3/171	1.8	12/176	6.8	4/163	2.5	7/159	4.4	2/159	1.3	28/828	3.4
H22	3/171	1.8	2/163	1.2	10/165	6.1	8/175	4.6	1/151	0.7	24/825	2.9
H21	5/171	2.9	4/169	2.4	6/164	3.7	6/174	3.4	2/152	1.3	23/830	2.8
H20	5/169	3.0	4/170	2.4	10/177	5.6	4/164	2.4	1/148	0.7	24/828	2.9
平均	4.4	2.6	5.4	3.2	9.2	5.5	6.0	3.6	1.4	0.9	26.4	3.2

退学者数：　(人数)／(在籍者数)

学年別の休学者数，休学率の経年変化（準学士課程）

年度	第１学年		第２学年		第３学年		第４学年		第５学年		全学年	
	休学者数	休学率(%)	休学者数	休学率(%)	休学者数	休学率(%)	休学者数	休学率(%)	休学者数	休学率(%)	休学者数	休学率(%)
H24	1/171	0.6	5/174	2.9	5/164	3.0	8/169	4.7	1/139	0.7	20/817	2.4
H23	1/171	0.6	3/176	1.7	4/163	2.5	6/159	3.8	0/159	0.0	14/828	1.7
H22	2/171	1.2	1/163	0.6	3/165	1.8	7/175	4.0	1/151	0.7	14/825	1.7
H21	2/171	1.2	3/169	1.8	2/164	1.2	9/174	5.2	2/152	1.3	18/830	2.2
H20	1/169	0.6	2/170	1.2	4/177	2.3	5/164	3.0	2/148	1.4	14/828	1.7
平均	1.4	0.8	2.8	1.6	3.4	2.0	7.0	4.2	1.2	0.8	16	1.9

休学者数：　(人数)／(在籍者数)

（出典　学生課教務係資料）

資料６－１－②－５

年度ごとの資格取得状況（準学士課程）

	技能審査の名称・資格等	英検				TOEIC				合計（人）
	級・SCORE	1級	準1級	2級	準2級	850以上	700以上	500以上	400以上	
年度	単位数 / 学年・クラス	6	4	3	2	6	4	3	2	
平成18年度	4M	申請者なし						1		1
	4E								5	5
	4S								1	1
	4C									0
	4年合計					0	0	1	6	7
	5M					1			3	4
	5E							1	4	5
	5S							1		1
	5C									0
	5年合計					1	0	2	7	10
	総計	0	0	0	0	1	0	3	13	17
平成19年度	4M	申請者なし							2	2
	4E								2	2
	4S								3	3
	4C								1	1
	4年合計					0	0	0	8	8
	5M	申請者なし						2	3	5
	5E								1	1
	5S					1			1	2
	5C									0
	5年合計					1	0	2	5	8
	総計	0	0	0	0	1	0	2	13	16
平成20年度	4M	申請者なし								0
	4E									0
	4S									0
	4C									0
	4年合計					0	0	0	0	0
	5M	申請者なし				1			1	2
	5E									0
	5S							2	1	3
	5C									0
	5年合計					1	0	2	2	5
	総計	0	0	0	0	1	0	2	2	5
平成21年度	4M				1	1	2	1	1	6
	4E				1					1
	4S								2	2
	4C									0
	4年合計	0	0	0	2	1	2	1	3	9
	5M							1	3	4
	5E							1		1
	5S								3	3
	5C									0
	5年合計	0	0	0	0	0	0	2	6	8
	総計	0	0	0	2	1	2	3	9	17
平成22年度	4M								2	2
	4E				1				1	2
	4S								3	3
	4C				2			1	2	5
	4年合計	0	0	0	3	0	0	1	8	12
	5M						1	1	2	4
	5E									0
	5S								1	1
	5C								1	1
	5年合計	0	0	0	0	0	1	1	4	6
	総計	0	0	0	3	0	1	2	12	18
平成23年度	4M								1	1
	4E				2				5	7
	4S								2	2
	4C						1		2	3
	4年合計	0	0	0	2	0	1	0	10	13
	5M							1	1	2
	5E								1	1
	5S							2	1	3
	5C							1		1
	5年合計	0	0	0	0	0	0	4	3	7
	総計	0	0	0	2	0	1	4	13	20
平成24年度	4M									0
	4E								2	2
	4S									0
	4C									0
	4年合計	0	0	0	0	0	0	0	2	2
	5M									0
	5E							1		1
	5S									0
	5C									0
	5年合計	0	0	0	0	0	0	1	0	1
	総計	0	0	0	0	0	0	1	2	3

（出典　学生課教務係資料）

資料６－１－②－６

準学士課程学生による学会発表の例

準学士課程（平成 24 年度・発表件数 21 件）

題目	学会名・講演会名など	発表年月
微細粒鋼の薄板曲げ疲労特性に関する研究	日本機械学会北陸信越支部学生会第 42 回学生員卒業研究発表講演会論文集	2013 年 8 月予定
デザイン性を考慮する構造設計アプローチ	日本機械学会第 25 回計算力学講演会	2012 年 10 月
非対称制御ハーフブリッジ型 DC/DC コンバータの動作解析	パワーエレクトロニクス学会第 196 回定例研究会	2012 年 12 月
電気泳動法を用いた微粒子配列制御	第 20 回電気学会関西支部高専卒業研究発表会	2013 年 3 月
放射線教育のためのプラスチック板を用いた可視化計測技術の検討	日本高専学会第 18 回年会	2012 年 8 月
分散型電源システムの分散協調制御	日本機械学会　第 10 回最適化シンポジウム	2012 年 12 月
由良川河口砂州の動態観測と侵食規模の推定	平成 24 年度土木学会関西支部年次学術講演会	2012 年 6 月
由良川河口地形の変動特性と侵食規模の推定	第 67 回土木学会年次学術講演会	2012 年 9 月

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

資料６－１－②－７

英語　A. C. E. とＴＯＥＩＣの受験結果

第 1，2 学年はＡ．Ｃ．Ｅ．(900 点満点)，第 3～専攻科 2 学年はＴＯＥＩＣ

年度＼学年		1 年	2 年	3 年	4 年	5 年	専攻科 1 年	専攻科 2 年
H24	平均点	415	426	276	313	329	380	364
	最高点	528	805	475	465	575	580	525
H23	平均点	415	419	282	299	292	360	371
	最高点	594	537	490	515	565	575	465
H22	平均点	410	426	280	291	319	332	306
	最高点	720	637	745	475	775	475	425
H21	平均点	393	402	278	305	319	295	398
	最高点	533	781	433	730	775	440	625
H20	平均点	397	409	293	291	322	341	308
	最高点	698	525	510	510	545	550	435

A. C. E.　　：　460(英検 3 級程度)，420(英検 4 級程度)

ＴＯＥＩＣ　：　220～470 通常会話で最低限のコミュニケーションができる。

（出典　人文科学部門資料）

平成24年度 国立高等専門学校機構実施 学習達成度試験の受験結果 （数学）

（各分野における平均点、標準偏差を、全国平均、近畿地区平均とともに示す。平均点については、全国平均より低い点数を強調表示し、標準偏差については、全国平均より大きいものを強調表示している。）

学校名	分野 / 学科名	数と式の計算		方程式・不等式		関数とグラフ		場合の数と数列	
		平均点	標準偏差	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差
全国統計		40.6	10	34.9	10.2	18.8	12	29	11.3
地区別統計	近畿地区	43.3	8.1	36.9	9.4	20.8	12.5	30.8	10.6
舞鶴工業		38.7	11.3	32.5	11.2	15.7	12.5	27.2	11.2
舞鶴工業	機械工学科	40.8	11.9	33.4	11.7	16.9	12.7	30.1	10.7
舞鶴工業	電子制御工学科	40	9.9	30.7	11.4	17.7	13.3	28.7	12.5
舞鶴工業	電気情報工学科	42.9	7.7	38.2	8.4	19.9	11.5	29.3	9.4
舞鶴工業	建設システム工学科	31.3	11.6	28.7	10.4	8.6	9	20.9	8.9

学校名	分野 / 学科名	平面ベクトルの性質		微分・積分の計算		微分・積分の応用		空間ベクトル、行列の計算	
		平均点	標準偏差	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差	平均点	標準偏差
全国統計		26.8	11.2	27.7	14	17.5	12.1	20.4	13.2
地区別統計	近畿地区	29.5	10.6	31.8	12.7	20.4	12.4	22.2	13.7
舞鶴工業		23	11.8	25.5	14.6	16.2	11.1	12.6	11.8
舞鶴工業	機械工学科	24.1	10.9	26.9	13.2	15	9	12	10.6
舞鶴工業	電子制御工学科	23.5	13.7	23.8	16.8	16	13	12	12.7
舞鶴工業	電気情報工学科	26.5	10.9	32.2	12.4	19.7	11.4	17.9	13.8
舞鶴工業	建設システム工学科	18.6	9.8	20.1	12.2	14.6	9.3	8.9	7.6

（出典　自然科学部門資料）

資料６－１－②－８の続き

平成23年度 国立高等専門学校機構実施 学習達成度試験の受験結果　（物理）

平成 24 年 5 月 25 日

H23 年度 学習到達度試験（物理）の結果について

[redacted]

学習到達度試験（物理）の出題領域は８領域に分かれている。学校又は学科単位で８領域中５領域以上を指定して受験することになっており，舞鶴高専では６領域（①速度・加速度・変位，②力のつりあいと運動方程式，③力学的エネルギー・衝突，⑤熱，⑥波動，⑦電気）を指定した。本校が選択していない２領域は，④円運動・万有引力・単振動および⑧磁気である。

平均点

本校の６領域合計点（300 点満点）の平均点を 400 点満点に換算し，全国平均：127.9 と比較

全体：120.9

M：114.8　S：132.5　E：135.3　C：102.0

得点分布

全国と本校(400 点満点換算)の得点の分布(縦軸は人数，全国平均に規格化，%と考えてよい，横軸は得点)は，右上のグラフのようになり，今年度については，200 点以上の高得点の学生の割合は，全国と同程度であることが分かる。本校の平均点は，全国平均の 94.5%であり，大差はない。

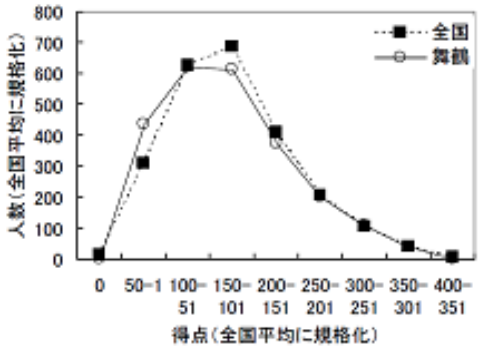
本校の分布グラフは全国に比べて，ピークがやや低く低得点側に偏移している。その原因は建設の得点分布にあることが右中の本校学科別の得点分布から分かる。電気と制御は全国とほぼ同様，機械はほぼ同様であるがピークが先鋭化している。建設はほぼ同様であるがピークが低得点側に偏移している。

11 月に実施した校内模擬試験と１月の到達度試験の相関性を検討した。右下の得点分布は校内模擬試験の結果を到達度試験の結果と規格化して比べたものである。到達度試験に比べ，校内模擬試験は高得点側に凹凸があり，高得点側に偏移しているが，分布は概ね同形である。したがって，校内模擬試験の結果と到達度試験の結果は同一傾向を示すと考えてよい。

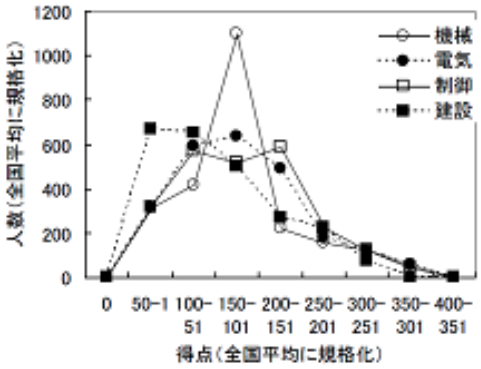
両試験の問題の難易度は同程度であるが，校内模擬試験が高得点側に偏移するのは，実施前に出題範囲となる問題集を配布し，試験結果を３年の応用物理の成績に加味すると学習の動機付けをしている効果と考えられる。

到達度試験の全国平均に対する本校平均の割合は，H19 年度 83.1%，H20 年度 91.2%，H21 年度 89.7%，H22 年度 109.6%，H23 年度 94.5%と推移している。入学時の学生の学力が年度によって異なるため，単純に教育の効果を比較することはできないが，物理の学力は概ね上昇していると考えられる。

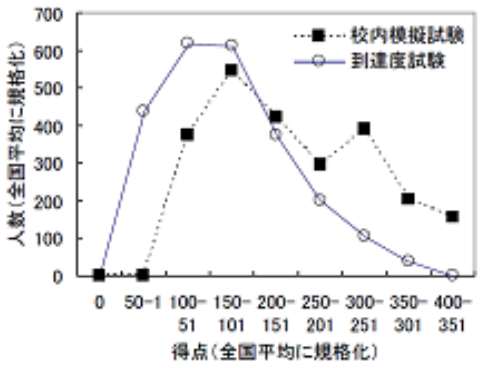
平成23年度 物理到達度試験結果　得点分布



平成23年度 物理到達度試験結果　得点分布



平成23年度　到達度試験と校内模擬試験の比較



（出典　　自然科学部門資料）

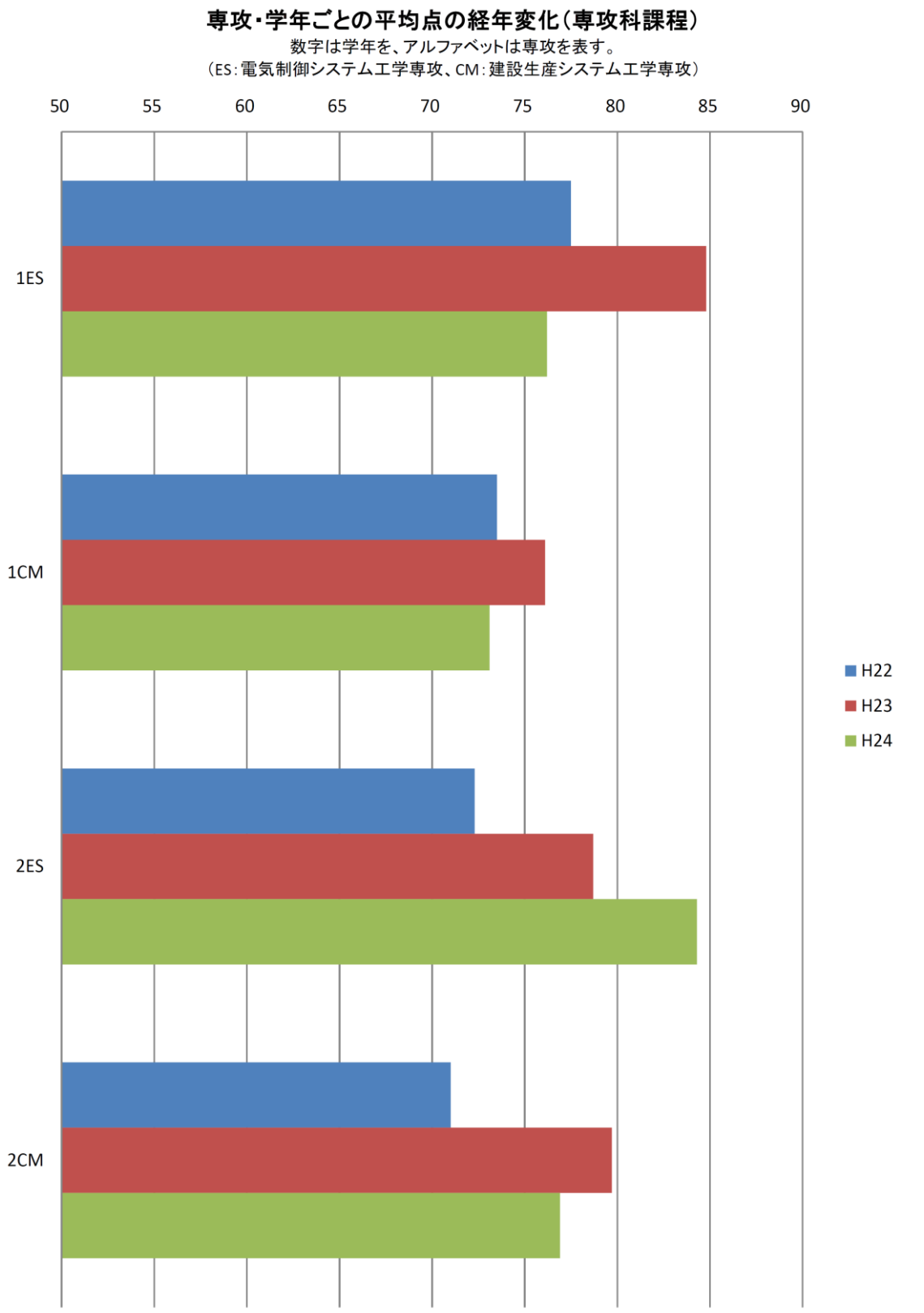
資料６－１－②－９

学年別の単位修得率の経年変化（専攻科課程）

年度	第１学年		第２学年		全学年	
	必修 (%)	選択 (%)	必修 (%)	選択 (%)	必修 (%)	選択 (%)
H24	98.8	60.2	96.5	27.8	97.6	54.6
H23	97.6	72.5	95.0	46.8	96.0	65.9
H22	95.6	65.8	94.5	32.6	93.9	58.8
平均	97.3	66.2	95.3	35.7	95.8	59.8

（出典　学生課教務係資料）

資料６－１－②－10



（出典　　学生課教務係資料）

資料６－１－②－11

専攻科課程の規定年限での修了率

平成19年度入学者			平成20年度修了者			修了率	備考	
ES	CM	計	ES	CM	計		退学者	修了者(過年)
13	11	24	10	9	19	79.17%	3 (ES 2,CM 1)	2 (H21年修了 ES 1,CM 1)

平成20年度入学者			平成21年度修了者			修了率	備考	
ES	CM	計	ES	CM	計		退学者	修了者(過年)
12	13	25	10	11	21	84.00%	3 (ES 2,CM 1)	1 (H22年修了 CM 1)

平成21年度入学者			平成22年度修了者			修了率	備考	
ES	CM	計	ES	CM	計		退学者	修了者(過年)
10	8	18	8	6	14	77.78%	3 (ES 2,CM 1)	1 (H23年修了 CM 1)

平成22年度入学者			平成23年度修了者			修了率	備考	
ES	CM	計	ES	CM	計		退学者	修了者(過年)
9	12	21	9	11	20	95.24%	1 (CM 1)	

平成23年度入学者			平成24年度修了者			修了率	備考	
ES	CM	計	ES	CM	計		退学者	修了者(過年)
10	8	18	10	7	17	94.44%		1 (H25年修了予定　CM 1)

ES:電気制御システム工学専攻、CM:建設生産システム工学専攻

(出典　学生課教務係資料)

資料６－１－②－12

学年別の退学者数，退学率の経年変化（専攻科課程）

年度	第１学年		第２学年		全学年	
	退学者数	退学率(%)	退学者数	退学率(%)	退学者数	退学率(%)
H24	0/20	0.0	0/18	0.0	0/38	0.0
H23	0/18	0.0	1/22	4.5	1/40	2.5
H22	3/23	13.0	3/20	15.0	6/43	14.0
H21	1/18	5.6	0/28	0.0	1/46	2.2
H20	0/27	0.0	1/22	4.5	1/49	2.0
平均	0.8人	3.8	1.0人	4.5	1.8人	4.2

退学者数：　(人数)／(在籍者数)

学年別の休学者数，休学率の経年変化（専攻科課程）

年度	第１学年		第２学年		全学年	
	休学者数	休学率(%)	休学者数	休学率(%)	休学者数	休学率(%)
H24	0/20	0.0	0/18	0.0	0/38	0.0
H23	0/18	0.0	0/22	0.0	0/40	0.0
H22	1/23	4.3	3/20	15.0	4/43	9.3
H21	1/18	5.6	4/28	14.3	5/46	10.9
H20	0/27	0.0	0/22	0.0	0/49	0.0
平均	0.4人	1.9	1.4人	6.4	1.8人	4.2

休学者数：　(人数)／(在籍者数)

(出典　学生課教務係資料)

資料６－１－②－13

平成20年～24年度専攻科修了生の学位取得状況

専　攻　名	平成20年度		
	修了生	学位試験合格	JABEE修了
電気・制御システム工学専攻	11	11	11
建設・生産システム工学専攻	9	9	8
合　計	20	20	19
専　攻　名	平成21年度		
電気・制御システム工学専攻	11	11	11
建設・生産システム工学専攻	12	12	12
合　計	23	23	23
専　攻　名	平成22年度		
電気・制御システム工学専攻	8	8	8
建設・生産システム工学専攻	7	7	7
合　計	15	15	15
専　攻　名	平成23年度		
電気・制御システム工学専攻	9	9	9
建設・生産システム工学専攻	11+1(※)	11+1(※)	11+1(※)
合　計	21	21	21
専　攻　名	平成24年度		
電気・制御システム工学専攻	10	10	10
建設・生産システム工学専攻	7	6	6
合　計	17	16	16

(※) +1 は、H23.9.27修了者

（出典　学生課教務係資料）

資料６－１－②－14

専攻科課程学生による学会発表の例

専攻科課程（平成 24 年度・発表件数 36 件）

題目	学会名・講演会名など	発表年月
エアリフトポンプの揚固性能の高効率化	日本機械学会 2012 年度年次大会	2012 年 9 月
浮体式洋上風車の抗力の数値シミュレーション	日本機械学会 2012 年度年次大会	2012 年 9 月
遺伝アルゴリズムを用いた座席配置決定手法	教育システム情報学会 2012 年度第 4 回研究会	2012 年 11 月
プッシュプル型 DC/DC コンバータの偏磁現象について	パワーエレクトロニクス学会	2012 年 4 月
室温硬化ナノインプリントーリフトオフ法によるアルミニウムマスクパターンの形成	ナノ学会第 10 回大会	2012 年 6 月
２リンク三叉ヘビロボットの推進制御実験	第 56 回システム制御情報学会研究発表講演会	2012 年 5 月
東舞鶴商店街における空き店舗活用の実践	第 18 回高専シンポジューム in 仙台	2013 年 1 月
室内における距離感と予想される響きの長さの関係	日本建築学会大会学術講演	2012 年 9 月

（出典　舞鶴高専年報・第10号・2013年4月）

（分析結果とその根拠理由）

単位修得率，授業科目平均点，進級率，修了率，学位取得試験合格率，学協会発表件数などは十分高い数値を示している。ほとんどの学生は要求される学力を，準学士課程の各学年または専攻科課程で身に付けており，教育の成果，効果が認められる。

観点６－１－③：　教育の目的において意図している養成しようとする人材像等について，就職や進学といった卒業（修了）後の進路の状況等の実績や成果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

平成２４年度までの準学士課程卒業生は６０８８名，専攻科課程修了生は２５９名である。最近の進学と就職の比は大体４：６（進学：就職）である。準学士，専攻科課程の進路状況を，資料６－１－③－１，資料６－１－③－２にそれぞれ示す。

就職に関しては資料６－１－③－１，資料６－１－③－２に示すように，準学士課程，専攻科課程

の求人倍率はそれぞれ２０倍，８５倍であり，非常に高い。就職希望者のほぼ全員が就職を果たしている。就職先は資料６－１－③－３～６に示すように，各学科，専攻の専門分野を中心とした製造業と，時代の要請を反映して情報処理・サービス業が多く，近隣地域をはじめ近畿地区の企業が多くなっている。資料６－１－③－７，資料６－１－③－８に就職先名称を示す。就職先における業務は，観点６－１－⑤の卒業（修了）生のアンケート回答にもあるように，設計・開発・研究，製造機器やシステムのメンテナンス・サービス，技術営業などである。

進学先は資料６－１－③－９，資料６－１－③－10に示すとおりである。準学士課程を卒業した学生の進学先は本校専攻科や国公立大学を中心とした大学の工学部であり，専攻科の修了生の進学先は国公立大学を中心とした大学院である。進学希望者のほぼ全員が進学を果たしている。

資料６－１－③－１

卒業者の進路状況（準学士課程・平成２２～２４年度卒業者）

年度	学科		卒業者数	就職希望者数	就職者数	進学希望者数	進学者数	その他	求人会社数（社）	求人数	求人倍率（倍）
H24	機械		３６	１８	１８	１８	１８	０	４６５	４９３	２７．４
	電気情報		３２	１８	１８	１４	１４	０	４８０	４８９	２７．２
	電子制御		３０	１５	１５	１５	１５	０	４２８	４３９	２９．３
	建設システム	都市環境	１３	６	６	７	７	０	２７５	２７９	４６．５
		建築	２０	１５	１５	５	４	０	２６６	２７４	１８．３
	合計		１３１	７２	７２	５９	５８	０	1914	1974	２７．４
H23	機械		４４	３２	３２	１２	１２	０	４２７	４３７	１３．７
	電気情報		３７	２１	２１	１６	１６	０	４４１	４５７	２１．８
	電子制御		３１	１４	１４	１７	１７	０	４１３	４１６	２９．７
	建設システム	都市環境	２２	１２	１２	１０	１０	０	２０４	２０９	１７．４
		建築	２２	１２	１２	１０	１０	０	１９８	２０１	１６．８
	合計		１５６	９１	９１	６５	６５	０	1683	1720	１８．９
H22	機械		４３	２９	２９	１４	１３	０	４０４	４２４	１４．６
	電気情報		３２	１７	１７	１５	１５	０	４１３	４３０	２５．２
	電子制御		４１	２６	２６	１５	１５	０	３８７	３９４	１５．１
	建設システム		３３	２２	２２	１１	１０	０	１９７	２０７	９．４
	合計		１４９	９４	９４	５５	５３	０	1401	1455	１５．４
合計			４３６	２５７	２５７	１７９	１７６	０	4998	5149	２０．０

（出典　学生課学生支援係資料）

資料６－１－③－２

修了者の進路状況（専攻科課程・平成２２～２４年度修了者）

年度	専攻	修了者数	就職希望者数	就職者数	進学希望者数	進学者数	その他	求人会社数（社）	求人数	求人倍率（倍）
H24	電気・制御	１０	7	7	3	3	0	４１５	４２２	６０．３
	建設・生産（機械系）	5	3	3	1	1	1	３８２	３８７	129.0
	建設・生産（土木・建築系）	2	2	2	0	0	0	２５４	２６３	131.5
	合計	１７	１２	１２	4	4	1	1051	1072	８９．３
H23	電気・制御	9	3	3	6	6	0	３４２	３４５	115.0
	建設・生産（機械系）	9	7	7	2	2	0	３２０	３２２	４６．０
	建設・生産（土木・建築系）	2	2	2	0	0	0	１７３	１７７	８８．５
	合計	２０	１２	１２	8	8	0	８３５	８４４	７０．３
H22	電気・制御	8	4	4	4	4	0	３２５	３３２	８３．０
	建設・生産	7	4	4	3	3	0	４４７	４７１	117.8
	合計	１５	8	8	7	7	0	７７２	８０３	100.4
合計		５２	３２	３２	１９	１９	1	2658	2719	８５．０

（出典　学生課学生支援係資料）

資料６－１－③－３

卒業者の就職先業種（準学士課程・平成２２～２４年度卒業者）

年度	学科		建設	食品	繊維	出版・印刷	化学	鉄鋼・金属	機械	電気機器	輸送用機械	精密機器	電力・ガス	その他製造	情報通信	運輸・通信	不動産賃貸	生活・娯楽	学術・サービス	その他サービス	官公庁	合計
H24	機械		0	2	0	0	3	0	2	4	3	0	0	0	1	0	0	0	0	2	1	18
			0.0	11.1	0.0	0.0	16.7	0.0	11.0	22.2	16.7	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	0.0	0.0	0.0	11.1	5.6	100.0
	電気情報		1	0	0	1	1	0	3	3	0	2	1	0	4	0	0	0	1	0	1	18
			5.6	0.0	0.0	5.6	5.6	0.0	16.7	16.7	0.0	11.1	5.6	0.0	22.2	0.0	0.0	0.0	5.6	0.0	5.6	100.0
	電子制御		0	0	0	0	2	0	2	2	2	3	1	0	0	0	0	0	2	1	0	15
			0.0	0.0	0.0	0.0	13.3	0.0	13.3	13.3	13.3	20.0	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	13.3	6.7	0.0	100.0
	建設	都市	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	6
			66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
		建築	8	0	0	0	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	2	15
			53.3	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	6.7	6.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	6.7	0.0	6.7	0.0	13.3	100.0
	合計		13	2	0	1	7	0	8	10	5	5	3	0	5	1	1	0	4	3	4	72
			18.1	2.8	0.0	1.4	9.7	0.0	11.1	13.9	6.9	6.9	4.2	0.0	6.9	1.4	1.4	0.0	5.6	4.2	5.6	100.0
H23	機械		1	1	0	0	3	0	12	3	3	2	1	1	1	1	0	0	1	0	2	32
			3.1	3.1	0.0	0.0	9.4	0.0	37.5	9.4	9.4	6.3	3.1	3.1	3.1	3.1	0.0	0.0	3.1	0.0	6.3	100.0
	電気情報		2	1	1	0	3	0	5	4	0	1	0	1	2	0	0	0	0	1	0	21
			7.5	4.8	4.8	0.0	14.3	0.0	23.8	19.0	0.0	4.8	0.0	4.8	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0	4.8	0.0	100.0
	電子制御		0	0	0	0	0	0	3	3	0	5	0	0	0	0	0	0	1	2	0	14
			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	21.4	21.4	0.0	35.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	7.1	14.2	0.0	100.0
	建設	都市	5	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	0	0	1	1	1	12
			33.3	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0	0.0	8.3	8.3	8.3	100.0
		建築	7	0	0	0	1	0	1	1	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	0	12
			58.3	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	8.3	8.3	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	0.0	100.0
	合計		15	3	1	0	7	0	21	11	3	8	2	2	3	4	0	0	4	4	3	91
			16.5	3.3	1.1	0.0	7.7	0.0	23.1	12.1	3.3	8.8	2.2	2.2	3.3	4.4	0.0	0.0	4.4	4.4	3.3	100.0
H22	機械		0	2	0	0	4	1	7	3	4	2	0	1	2	0	0	0	0	2	1	29
			0.0	6.9	0.0	0.0	13.8	3.4	24.1	10.3	13.8	6.9	0.0	3.4	6.9	0.0	0.0	0.0	0.0	6.9	3.4	100.0
	電気情報		0	1	0	0	0	1	2	4	0	1	3	0	4	0	0	0	0	0	1	17
			0.0	5.9	0.0	0.0	0.0	5.9	11.8	23.5	0.0	5.9	17.6	0.0	23.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	5.9	100.0
	電子制御		0	1	0	0	1	0	4	4	1	4	1	3	1	2	0	1	0	1	2	26
			0.0	3.8	0.0	0.0	3.8	0.0	15.4	15.4	3.8	15.4	3.8	11.5	3.8	7.7	0.0	3.8	0.0	3.8	7.7	100.0
	建設ｼｽﾃﾑ		9	2	0	0	0	0	0	1	0	0	1	1	0	3	0	0	0	1	4	22
			9.6	6.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.5	0.0	0.0	4.5	4.5	0.0	13.6	0.0	0.0	0.0	4.5	18.2	100.0
	合計		9	6	0	0	5	2	13	12	5	7	5	5	7	5	0	1	0	4	8	94
			9.6	6.4	0.0	0.0	5.3	2.1	13.8	12.8	5.3	7.4	5.3	5.3	7.4	5.3	0.0	1.1	0.0	4.3	8.5	100.0
合計			37	11	1	1	19	2	42	33	13	20	10	7	15	10	1	1	8	11	15	257
			14.4	4.3	0.4	0.4	7.4	0.8	16.3	12.8	5.1	7.8	3.9	2.7	5.8	3.9	0.4	0.4	3.1	4.3	5.8	100.0

※上段の数字は人数，下段の数字は割合(%)を示す。

（出典　学生課学生支援係資料）

資料６－１－③－４

修了者の就職先業種（専攻科課程・平成２２～２４年度修了者）

年度	学科		建設	食料品・飲料	化学・石油・石炭	機械	電気機器	輸送用機械	精密機器	電力・ガス	情報通信業	運輸・通信	学術サービス	その他サービス	官公庁	合計
H24	電気・制御		0	0	2	0	4	0	1	0	0	0	0	0	0	7
			0.0	0.0	28.6	0.0	57.1	0.0	14.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	建設・生産	機械系	0	1	0	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	3
			0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
		土木建築系	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	2
			0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	50.0	100.0
	合計		0	1	2	0	4	1	2	0	0	0	1	0	1	１２
			0.0	8.3	16.7	0.0	33.3	8.3	16.7	0.0	0.0	0.0	8.3	0.0	8.3	100.0
H23	電気・制御		0	0	0	1	1	0	0	0	1	0	0	0	0	3
			0.0	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	建設・生産	機械系	0	0	1	3	1	1	1	0	0	0	0	0	0	7
			0.0	0.0	14.2	42.8	14.2	14.2	14.2	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
		土木建築系	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2
			50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	50.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	合計		1	0	1	4	2	1	1	0	1	1	0	0	0	１２
			8.3	0.0	8.3	33.3	16.6	8.3	8.3	0.0	8.3	8.3	0.0	0.0	0.0	100.0
H22	電気・制御		0	0	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	0	4
			0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	建設・生産		0	0	0	2	1	0	1	0	0	0	0	0	0	4
			0.0	0.0	0.0	50.0	25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	合計		0	0	0	2	2	1	1	1	1	0	0	0	0	8
			0.0	0.0	0.0	25.0	25.0	12.5	12.5	12.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
合計			1	1	3	6	8	3	4	1	2	1	1	0	1	３２
			3.1	3.1	9.4	18.8	25.0	9.4	12.5	3.1	6.3	3.1	3.1	0.0	3.1	100.0

※上段の数字は人数，下段の数字は割合(%)を示す。

（出典　学生課学生支援係資料）

資料６－１－③－５

卒業者の就職先所在地（準学士課程・平成２２～２４年度卒業者）

年度	学科		京都府	大阪府	兵庫県	滋賀県	中京地域	京浜地域	その他	合計
H24	機械		3	6	4	0	0	3	2	１８
			16.7	33.3	22.2	0.0	0.0	16.7	22.2	100.0
	電気情報		5	5	2	0	1	5	0	１８
			27.8	27.8	11.1	0.0	5.6	27.8	0.0	100.0
	電子制御		6	3	1	2	1	2	0	１５
			40.0	20.0	6.7	13.3	6.7	13.3	0.0	100.0
	建設	都市	2	2	0	0	0	2	0	6
			33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	100.0
		建築	2	4	2	0	1	5	1	１５
			13.3	26.7	13.3	0.0	6.7	33.3	6.7	100.0
	合計		１８	２０	9	2	3	１７	3	７２
			25.0	27.8	12.5	2.8	4.2	23.6	4.2	100.0
H23	機械		7	5	5	2	3	7	3	３２
			21.9	15.6	15.6	6.3	9.4	21.9	9.4	100.0
	電気情報		5	6	2	3	1	3	1	２１
			23.8	28.6	9.5	14.3	4.8	14.3	4.8	100.0
	電子制御		6	1	3	0	0	2	2	１４
			42.8	7.1	21.4	0.0	0.0	14.2	14.2	100.0
	建設	都市	4	6	0	0	1	1	0	１２
			33.3	50.0	0.0	0.0	8.3	8.3	0.0	100.0
		建築	2	6	0	0	0	4	0	１２
			16.6	50.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	100.0
	合計		２４	２４	１０	5	5	１７	6	９１
			26.4	26.4	11.0	5.5	5.5	18.7	6.6	100.0
H22	機械		9	2	4	2	1	7	4	２９
			31.0	6.9	13.8	6.9	3.4	24.1	13.8	100.0
	電気情報		5	5	1	0	1	4	1	１７
			29.4	29.4	5.9	0.0	5.9	23.5	5.9	100.0
	電子制御		8	5	2	4	1	5	1	２６
			30.8	19.2	7.7	15.4	3.8	19.2	3.8	100.0
	建設ｼｽﾃﾑ		5	１１	0	0	1	5	0	２２
			22.7	50.0	0.0	0.0	4.5	22.7	0.0	100.0
	合計		２７	２３	7	6	4	２１	6	９４
			28.7	24.5	7.4	6.4	4.3	22.3	6.4	100.0
合計			６９	６７	２６	１３	１２	５５	１５	257
			26.8	26.1	10.1	5.1	4.7	21.4	5.8	100.0

※上段の数字は人数，下段の数字は割合(%)を示す。

（出典　学生課学生支援係資料）

資料６－１－③－６

修了者の就職先所在地（専攻科課程・平成２２～２４年度修了者）

年度	学科		京都府	大阪府	兵庫県	滋賀県	中京地域	京浜地域	その他	合計
H24	電気・制御		2	2	0	2	0	1	0	7
			28.6	28.6	0.0	28.6	0.0	14.3	0.0	100.0
	建設・生産	機械系	1	1	1	0	0	0	0	3
			33.3	33.3	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
		土木建築系	2	0	0	0	0	0	0	2
			100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	合計		5	3	1	2	0	1	0	１２
			41.7	25.0	8.3	16.7	0.0	8.3	0.0	100.0
H23	電気・制御		2	1	0	0	0	0	0	3
			66.6	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	建設・生産	機械系	5	2	0	0	0	0	0	7
			71.4	28.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
		土木建築系	1	1	0	0	0	0	0	2
			50.0	50.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	合計		8	4	0	0	0	0	0	１２
			66.6	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
H22	電気・制御		0	1	1	0	0	2	0	4
			0.0	25.0	25.0	0.0	0.0	50.0	0.0	100.0
	建設・生産		1	0	1	0	0	1	1	4
			25.0	0.0	25.0	0.0	0.0	25.0	25.0	100.0
	合計		1	1	2	0	0	3	1	8
			12.5	12.5	25.0	0.0	0.0	37.5	12.5	100.0
合計			１４	8	3	2	0	4	1	３２
			43.8	25.0	9.4	6.3	0.0	12.5	3.1	100.0

※上段の数字は人数，下段の数字は割合(%)を示す。

（出典　学生課学生支援係資料）

資料６－１－③－７

卒業者の就職先（準学士課程・平成２２～２４年度卒業者）

年度	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	建設ｼｽﾃﾑ工学科
H24	伊藤ハム㈱，㈱ＮＴＴネオメイト，㈱ＮＴＴファシリティーズ関西，㈱カネカ，川崎重工業㈱，キヤノン㈱，神戸グリコ㈱，㈱ジェイエムエンジニアリング，武田薬品工業㈱，ダイキン工業㈱，日信工業㈱，パナソニック㈱ＡＶＣネットワークス社，日立建機日本㈱，富士発條㈱，㈱堀場製作所，舞鶴市，㈱マツダＥ＆Ｔ，三菱ガス化学㈱	ＮＥＣフィールディング㈱，㈱ＮＨＫアイテック，㈱ＮＴＴネオメイト，大阪シーリング印刷㈱，㈱かんでんエンジニアリング，京セラコミュニケーションシステム㈱，（独）国立印刷局コマツ　大阪工場，サンエー電機㈱，ダイキン工業㈱，中部電力㈱，東洋電機㈱，ニチコン亀岡㈱，㈱堀場エステック，㈱堀場製作所，三菱電機㈱神戸製作所，三菱電機システムサービス㈱，㈱吉野工業所	オプテックス㈱，関西電力㈱，㈱カンセツ，㈱京都製作所，㈱大日本精機，中央発條㈱，ＴＯＷＡ㈱，日新イオン機器㈱，日新電機㈱，日本電気硝子㈱，㈱日立ビルシステム，三菱電機㈱神戸製作所，三菱電機システムサービス㈱，明光精器㈱，ユニチカ㈱	あおみ建設㈱，出光興産㈱，㈱ＮＴＴファシリティーズ，㈱岡野組，大阪ガス㈱，鹿島クレス㈱，金下建設㈱，㈱川嶋建設，ケイコン㈱，㈱鴻池組，三神工業㈱，大鉄工業㈱，高浜町，㈱竹中工務店，津市役所，西日本高速道路ファシリティーズ㈱，西日本旅客鉄道㈱，前田道路㈱，三菱地所コミュニティ㈱，吉村建設工業㈱，若築建設㈱
H23	出光興産㈱，王子製紙㈱神崎工場，岡山市，㈱カシフジ，関西電力㈱，（独）国立印刷局，㈱小松製作所　大阪工場，サントリープロダクツ㈱，島津メクテム㈱，新日本工機㈱，ダイキン工業㈱，太平工業㈱，武田薬品工業㈱，東海旅客鉄道㈱，東芝エレベータ㈱，トヨタテクニカルディベロップメント㈱，日東精工㈱，日本オーチス・エレベータ㈱，㈱ニコン，パナソニックセミコンダクターディスクリートデバイス㈱，パナソニック㈱ホームアプライアンス社，㈱堀場製作所，㈱堀場テクノサービス，㈱マツダE&T，三菱ガス化学㈱，三菱重工業㈱神戸造船所，三菱重工業㈱高砂研究所，三菱重工業㈱高砂製作所，三菱電機㈱，通信機製作所，㈱森精機製作所，㈱モリタ製作所，ユニバーサル造船㈱，舞鶴事業所	㈱ＮＴＴネオメイト，㈱NTTPC コミュニケーションズ，㈱カンセツ，㈱かんでんエンジニアリング，関電プラント㈱，京セラＳＬＣテクノロジー㈱，KB ツヅキ㈱，太陽精機㈱，㈱ツムラ，日新電機㈱，日東精工㈱，日本たばこ産業㈱関西工場，日本電気硝子㈱，パナソニック㈱AVCネットワークス社，パナソニック電工㈱栗東工場，ヒエン電工㈱，㈱ベルテックス，三菱ガス化学㈱，三菱電機㈱伊丹製作所，三菱電機㈱神戸製作所/電力システム製作所，三菱電機システムサービス㈱	オムロン㈱，㈱京都製作所，クロイ電機㈱，㈱三社電機製作所，㈱GS ユアサ，神鋼テクノ㈱，東芝メディカルシステムズ㈱，ＴＯＷＡ㈱，ニチコン亀岡㈱，パナソニックエレクトロニックデバイスジャパン㈱若狭ディビジョン，パナソニック電工施設照明㈱，㈱日立ビルシステム，三菱電機㈱神戸製作所/電力システム製作所，三菱電機システムサービス㈱	㈱アトラス，㈱ＮＴＴファシリティーズ，金下建設㈱，大阪ガス㈱，㈱大阪防水建設社，鹿島クレス㈱，鹿島クレス㈱，㈱環境総合テクノス，ケイコン㈱，㈱鴻池組，㈱三晃空調，サントリープロダクツ㈱，㈱資生堂，㈱錢高組，大鉄工業㈱，大鉄工業㈱，㈱大都測研，東海旅客鉄道㈱，西日本高速道路ファシリティーズ㈱，西日本旅客鉄道㈱，西日本旅客鉄道㈱，非破壊検査㈱，㈱吹上技研コンサルタント，舞鶴市
H22	㈱NTT ネオメイト，カルビー㈱，川崎重工業㈱，㈱カンセツ，キヤノン㈱，京都市消防職員，太陽機械工業㈱，武田薬品工業㈱，中外製薬工業㈱，ＴＯＷＡ㈱，トヨタテクニカルディベロップメント㈱，日本たばこ産業㈱，日本電産シバウラ㈱，日本電子㈱，パナソニックセミコンダクターディスクリートデバイス㈱，㈱微生物化学研究所，㈱日立エンジニアリング・アンドサービス，㈱堀場製作所，三菱ガス化学㈱，三菱重工業㈱工作機械事業部，三菱重工業㈱神戸造船所，三菱重工業㈱高砂研究所，三菱電機㈱通信機製作所，㈱モリタ製作所，ヤンマー農機製造㈱，横河フィールドエンジニアリングサービス㈱，㈱リコー，レンゴー㈱，ＹＫＫ㈱黒部事業所	㈱イシダ，ＮＴＴコムウェア西日本㈱，㈱ＮＴＴドコモ，㈱ＮＴＴネオメイト，㈱ＮＴＴファシリティーズ関西，関西電力㈱，㈱ＧＳユアサ，自衛隊，玉乃光酒造㈱，中部電力㈱，東芝メディカルシステムズ㈱，日本原子力発電㈱，パナソニック電工施設照明㈱，㈱富士通マーケティング，富士電機システムズ㈱，冨士発條㈱，㈱堀場エステック	朝日レントゲン工業㈱，㈱エーライツ，㈱ＮＴＴネオメイト，関西電子ビーム㈱，㈱カンセツ，京セラＳＬＣテクノロジー㈱，自衛隊，滋賀医科大学職員，ダイキン工業㈱，㈱大日本精機，㈱ダイヘン，太陽機械工業㈱，東海旅客鉄道㈱，西日本旅客鉄道㈱，㈱日進製作所，日新電機㈱，日本原子力発電㈱，パナソニックエレクトロニックデバイスジャパン㈱回路部品ディビジョン但馬，パナソニック電工㈱栗東工場，ヒエン電工㈱，兵庫パルプ工業㈱，冨士電機システムズ㈱，三井製糖㈱，三菱電機ビルテクノサービス㈱，㈱吉野工業所　滋賀工場，レンゴー㈱	ＮＴＴインフラネット㈱，大阪ガス㈱，㈱大阪防水建設社，㈱鹿島クレス，五洋建設㈱，サントリーホールディングス㈱，サンレイ空調㈱，㈱錢高組，大鉄工業㈱，㈱田中工務店，東海旅客鉄道㈱，西日本高速道路㈱，西日本旅客鉄道㈱，日本たばこ産業㈱，福知山市，防衛省，舞鶴市，りんかい日産建設㈱，㈱レールテック

（出典　学生課学生支援係資料）

資料６－１－③－８

修了者の就職先（専攻科課程・平成２２～２４年度修了者）

年度	電気・制御システム工学専攻	建設・生産システム工学専攻
H24	オプテックス（株） （株）カネカ （株）ＧＳユアサ パナソニック（株）アプライアンス社 富士電機（株） ユニチカ（株） ローム（株）	オリエンタル白石（株） 京都府 トーラク（株） 西日本旅客鉄道（株） 日立造船（株） （株）堀場エステック
H23	朝日レントゲン工業（株） （株）ＮＴＴネオメイト （株）堀場アドバンスドテクノ	（株）関西土木技術センター （株）カネカ （株）京都製作所 （株）GS ユアサ 西日本旅客鉄道（株） （株）日進製作所 日立造船（株） （株）堀場製作所 ユニバーサル造船（株）舞鶴事業所
H22	NTT コムウェア西日本㈱ 川崎重工業㈱ 日本原子力発電㈱ 富士電機システムズ㈱	極東開発工業㈱ ㈱日進製作所 三浦工業㈱ 三菱電機エンジニアリング㈱

（出典　学生課学生支援係資料）

資料６－１－③－９

卒業者の進学先（準学士課程・平成２２～２４年度卒業者）

年度	機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	建設ｼｽﾃﾑ工学科
H24	岐阜大学(工学部機械ｼｽﾃﾑ工学科)1名 福井大学(工学部機械工学科)2名 豊橋技術科学大学(機械工学課程)4名 三重大学(工学部機械工学科)2名 島根大学(総合理工学部材料プロセス工学科)1名 徳島大学(工学部機械工学科)1名 九州工業大学(工学部機械知能工学科)2名 立命館大学(理工学部機械工学科)1名 舞鶴工業高等専門学校専攻科(建設・生産ｼｽﾃﾑ専攻)4名 【合計１８名】	千葉大学(工学部電気電子工学科)2名 長岡技術科学大学(電気電子情報工学課程)1名 岐阜大学(工学部応用情報学科)1名 豊橋技術科学大学(情報・知能工学課程)2名 豊橋技術科学大学(電気・電子情報工学課程)3名 京都工芸繊維大学(設計工学域電子ｼｽﾃﾑ工学課程)1名 広島大学(第二類科学文化教育系)1名 島根大学(総合理工学部数学科)1名 立命館大学(理工学部電気電子工学科)1名 舞鶴工業高等専門学校専攻科(電気・制御ｼｽﾃﾑ専攻)1名 【合計１４名】	新潟大学(工学部福祉人間工学科)1名 長岡技術科学大学(電気電子情報工学課程)1名 金沢大学(理工学域機械工学類知能機械コース)1名 福井大学(工学部電気・電子工学科)1名 福井大学(工学部知能ｼｽﾃﾑ工学科)1名 豊橋技術科学大学(電気・電子情報工学課程)1名 三重大学(工学部機械工学科)1名 神戸大学(工学部情報知能工学科)1名 九州工業大学(情報工学部電子情報工学科)1名 舞鶴工業高等専門学校専攻科(電気・制御ｼｽﾃﾑ専攻)6名 【合計１５名】	横浜国立大学(理工学部建築都市学科)1名 信州大学(工学部土木工学科)1名 金沢大学(理工学域環境デザイン学類環境・防災コース)2名 岐阜大学(工学部社会基盤工学科)1名 福井大学(工学部建築建設工学科)2名 和歌山大学(ｼｽﾃﾑ工学部環境ｼｽﾃﾑ学科)1名 立命館大学(理工学部都市ｼｽﾃﾑ工学科)1名 舞鶴工業高等専門学校専攻科(建設・生産ｼｽﾃﾑ専攻)2名 【合計１１名】
H23	電気通信大学(情報理工学部知能機械工学科)1名 静岡大学(工学部機械工学科)1名 豊橋技術科学大学(機械工学課程)2名 京都工芸繊維大学(工芸科学部設計工学域機械ｼｽﾃﾑ工学課程)1名 大阪大学(工学部応用理工学科機械工学科目)1名 岡山大学(工学部機械工学科)1名 徳島大学(工学部機械工学科)1名 愛媛大学(工学部機械工学科)1名 舞鶴工業高等専門学校専攻科(建設・生産ｼｽﾃﾑ専攻)3名 【合計１２名】	福井大学(工学部情報･メディア工学科)1名 豊橋技術科学大学(情報･知能工学課程)4名 豊橋技術科学大学(電気･電子情報工学課程)1名 京都工芸繊維大学(工芸科学部設計工学域情報工学課程)1名 京都工芸繊維大学(工芸科学部設計工学域電子ｼｽﾃﾑ工学課程)1名 和歌山大学(ｼｽﾃﾑ工学科情報通信ｼｽﾃﾑ学科)1名 広島大学(工学部第二類（電気･電子･ｼｽﾃﾑ･情報系）)1名 立命館大学(理工学部)1名 舞鶴工業高等専門学校専攻科(電気・制御ｼｽﾃﾑ専攻)5名 【合計１６名】	長岡技術科学大学(電気電子情報工学課程)1名 長岡技術科学大学(経営情報ｼｽﾃﾑ工学課程)2名 豊橋技術科学大学(機械工学課程)2名 三重大学(工学部電気電子工学科)1名 京都工芸繊維大学(工芸科学部設計工学域電子ｼｽﾃﾑ工学課程)1名 和歌山大学(ｼｽﾃﾑ工学科光メカトロニクス学科)1名 九州工業大学(情報工学部機械情報工学科)1名 舞鶴工業高等専門学校専攻科(電気・制御ｼｽﾃﾑ専攻)7名 近畿大学工業高等専門学校専攻科(生産ｼｽﾃﾑ工学専攻　電気電子工学)1名 【合計１７名】	千葉大学(工学部都市環境ｼｽﾃﾑ学科)1名 長岡技術科学大学(建設工学課程)2名 長岡技術科学大学(環境ｼｽﾃﾑ工学課程)1名 金沢大学(理工学域環境デザイン学類)1名 福井大学(工学部建築建設工学科)2名 豊橋技術科学大学(建築･都市ｼｽﾃﾑ学課程)3名 豊橋技術科学大学(環境･生命工学課程)1名 三重大学(生物資源学部共生環境学科)1名 大阪大学(工学部地球総合工学科　社会基盤工学科目)1名 和歌山大学(ｼｽﾃﾑ工学科環境ｼｽﾃﾑ学科)1名 舞鶴工業高等専門学校専攻科(建設・生産ｼｽﾃﾑ専攻)5名 近畿大学工業高等専門学校専攻科(生産ｼｽﾃﾑ工学専攻　土木工学)1名 【合計２０名】
H22	電気通信大学(情報理工学部知能機械工学科)1名 群馬大学(工学部情報工学科)1名 金沢大学(理工学域機械工学類　人間機械コース)1名 豊橋技術科学大学(機械ｼｽﾃﾑ工学課程)1名 京都工芸繊維大学(工芸科学部設計工学域機械ｼｽﾃﾑ工学課程)1名 大阪大学(基礎工学部ｼｽﾃﾑ科学科　機械科学コース)1名 山口大学(工学部機械工学科)2名 舞鶴工業高等専門学校専攻科(建設・生産ｼｽﾃﾑ専攻)5名 【合計１３名】	東北大学(工学部情報知能ｼｽﾃﾑ総合学科)1名 筑波大学(理工学群社会工学類)1名 豊橋技術科学大学(情報工学課程)3名 京都工芸繊維大学(工芸科学部設計工学域電子ｼｽﾃﾑ工学課程)1名 大阪大学(工学部電気情報工学科電気電子工学科目)1名 和歌山大学(ｼｽﾃﾑ工学部情報通信ｼｽﾃﾑ学科)1名 広島大学(工学部電気･電子･ｼｽﾃﾑ･情報系)1名 舞鶴工業高等専門学校専攻科(電気・制御ｼｽﾃﾑ専攻)6名 【合計１５名】	長岡技術科学大学(電気電子情報工学課程)3名 豊橋技術科学大学(情報工学課程)2名 豊橋技術科学大学(生産ｼｽﾃﾑ工学課程)1名 豊橋技術科学大学(電気電子工学課程)1名 京都工芸繊維大学(工芸科学部設計工学域機械ｼｽﾃﾑ工学課程)1名 岡山大学(工学部ｼｽﾃﾑ工学科)1名 九州工業大学(情報工学部ｼｽﾃﾑ創成情報工学科)1名 立命館大学(理工学部機械工学科)1名 舞鶴工業高等専門学校専攻科(電気・制御ｼｽﾃﾑ専攻)4名 【合計１５名】	長岡技術科学大学(建設工学課程)1名 金沢大学(理工学域環境デザイン学類　都市デザインコース)1名 岐阜大学(工学部社会基礎工学科)1名 豊橋技術科学大学(建設工学課程)1名 京都工芸繊維大学(工芸科学部造形科学域造形工学課程)1名 市立高崎経済大学(地域政策学部)1名 京都府立大学(生命環境学部環境情報学科)1名 舞鶴工業高等専門学校専攻科(建設・生産ｼｽﾃﾑ専攻)3名 【合計１０名】

（出典　学生課教務係資料）

資料６－１－③－１０

修了者の進学先（専攻科課程・平成２２～２４年度修了者）

年度	電気・制御システム工学専攻	建設・生産システム工学専攻
H24	北陸先端科学技術大学院大学(ﾏﾃﾘｱﾙｻｲｴﾝｽ研究科) 豊橋技術科学大学大学院(工学研究科) 奈良先端科学技術大学院大学(物質創成科学研究科) 【合計３名】	大阪大学大学院(基礎工学研究科) 【合計１名】
H23	福井大学大学院(工学研究科) 豊橋技術科学大学大学院(工学研究科) 大阪大学大学院(工学研究科) 奈良先端科学技術大学院大学(情報科学研究科)(2名) 神戸大学大学院(海事科学研究科) 【合計６名】	京都工芸繊維大学大学院(工芸科学研究科) 大阪大学大学院(工学研究科) 【合計２名】
H22	長岡技術科学大学大学院(工学研究科) 豊橋技術科学大学大学院(工学研究科) 奈良先端科学技術大学院大学(物質創成科学研究科) 神戸大学大学院(海事科学研究科) 【合計４名】	豊橋技術科学大学大学院(工学研究科)（2名） 京都工芸繊維大学大学院(工芸科学研究科) 【合計３名】

（出典　学生課教務係資料）

（分析結果とその根拠理由）

就職率はほぼ100％を維持しており，求人倍率も非常に高い。本校卒業（修了）生の能力が高く評価されていることがわかる。また出身学科の専門性が生かされる企業等に就職している。要職にあったり国際的な業務に携わったりする卒業（修了）生もおり，豊かな人間性・国際性を備えた実践的・創造的技術者が育成されていることがわかる。

進学に関してもその希望者のほぼ全員が専攻科入学，大学編入学，大学院入学を果たしている。進学先は，より専門性を高められる教育機関になっている。推薦入学を認められる学生も多く，本校の専門分野教育の成果が評価されていることがわかる。

観点６－１－④：　学生が行う学習達成度評価等，学生からの意見聴取の結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

準学士課程の５年生と専攻科課程修了予定者に対し，本校の教育理念，教育方針に基づいた学習・

教育到達目標に関する達成度評価アンケートを実施している。資料６－１－④－１，資料６－１－④－２にアンケートの質問項目を，資料６－１－④－３，資料６－１－④－４にアンケートの集計結果を示す。

学習・教育到達目標に対して，「十分達成した」と「だいたい達成した」の割合の合計は78.9％である。課程別では，専攻科課程が88.3％，準学士課程が77.7％である。

準学士課程と専攻科課程において関連している学習・教育到達目標「（E）技術者に必要な人間性，国際性，協調性及び英語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける」と「（E）豊かな人間性，国際性，協調性，及び英語によるコミュニケーション能力を身につける」について，学生の達成度評価が若干低い。「あまり達成できなかった」と「全く達成できなかった」の割合の合計は，おおよそ30％である。平成２４年度の専攻科課程学生の達成度評価は特に低く，「あまり達成できなかった」と「全く達成できなかった」の割合の合計は50％である。

資料６―１―④－１

学習の達成度評価に関するアンケート（準学士課程５年生）

本アンケートは，舞鶴工業高等専門学校の学習達成度評価のための基礎データになるものです。個人的なデータ，回答を直接的に外部に公表することはありませんのでご協力よろしくお願いします。なお，回答に際しては，本科５年間の課程を修了した時点において予測できる学習達度について，アンケート用紙の各設問に回答して下さい。

＜本校の教育理念＞

広く工学の基礎と教養を身につけ，問題発見・解決能力，創造力を有し，地域・社会の発展に寄与できる国際感覚豊かな実践的開発型技術者を育成する。

＜教育方針＞

Ⅰ　実験・実習，演習，ものつくりを重視する。
Ⅱ　基礎に立ち返って考えさせる。
Ⅲ　自ら学ぼうとする意欲を育てる。
Ⅳ　豊かな教養と国際性を育む。

＜学習・教育到達目標＞（準学士課程）

（A）　自然科学と工学の基礎を身につける。
（B）　専門分野の基礎知識を修得し，技術の実践に応用できる。
（C）　修得した知識を統合し，製品やシステムを考案できる。
（D）　実験・実習・演習により現象の理解を深め，実践力を身につける。
（E）　技術者に必要な人間性，国際性，協調性及び英語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける。
（F）　技術が自然や社会に与える影響を理解し，技術者としての倫理観を身につける。
（G）　課題の提案・報告などを適切にまとめ，発表できる。
（H）　コンピュータを技術の実践に活用できる。
（I）　責任を自覚し，互いに協力し合い，チームの目的達成に貢献できる。
ただし，（Ｉ）は平成２５年度準学士課程第１～４学年に適用する。

＜アンケート＞

（A）「自然科学と工学の基礎を身につける」という学習・教育到達目標を，どの程度達成できましたか？
［1］十分達成した。〔2］だいたい達成した。［3］あまり達成できなかった。［4］全く達成できなかった。

（B）「専門分野の基礎知識を修得し，技術の実践に応用できる」という学習・教育到達目標を，どの程度達成できましたか？
［1］十分達成した。〔2］だいたい達成した。［3］あまり達成できなかった。［4］全く達成できなかった。

（C）「修得した知識を統合し，製品やシステムを考案できる」という学習・教育到達目標を，どの程度達成できましたか？
［1］十分達成した。〔2］だいたい達成した。［3］あまり達成できなかった。［4］全く達成できなかった。

（D）「実験・実習・演習により現象の理解を深め，実践力を身につける」という学習・教育到達目標を，どの程度達成できましたか？
［1］十分達成した。〔2］だいたい達成した。［3］あまり達成できなかった。［4］全く達成できなかった。

（E）「技術者に必要な人間性，国際性，協調性及び英語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける」という学習・教育到達目標を，どの程度達成できましたか？
［1］十分達成した。〔2］だいたい達成した。［3］あまり達成できなかった。［4］全く達成できなかった。

（F）「技術が自然や社会に与える影響を理解し，技術者としての倫理観を身につける」という学習・教育到達目標を，どの程度達成できましたか？
［1］十分達成した。〔2］だいたい達成した。［3］あまり達成できなかった。［4］全く達成できなかった。

（G）「課題の提案・報告などを適切にまとめ，発表できる」という学習・教育到達目標を，どの程度達成できましたか？
［1］十分達成した。〔2］だいたい達成した。［3］あまり達成できなかった。［4］全く達成できなかった。

（H）「コンピュータを技術の実践に活用できる」という学習・教育到達目標を，どの程度達成できましたか？
［1］十分達成した。〔2］だいたい達成した。［3］あまり達成できなかった。［4］全く達成できなかった。

（出典　評価委員会　教育評価アンケート）

資料６―１―④－２

学習の達成度評価に関するアンケート（専攻科課程修了予定学生）

本アンケートは，舞鶴工業高等専門学校の学習達成度評価のための基礎データになるものです。個人的なデータ，回答を直接的に外部に公表することはありませんのでご協力よろしくお願いします。なお，回答に際しては，専攻科課程を修了した時点において予測できる学習達度について，アンケート用紙の各設問に対して回答して下さい。

＜本校の教育理念＞

広く工学の基礎と教養を身につけ，問題発見・解決能力，創造力を有し，地域・社会の発展に寄与できる国際感覚豊かな実践的開発型技術者を育成する。

＜教育方針＞

Ⅰ　実験・実習，演習，ものつくりを重視する。
Ⅱ　基礎に立ち返って考えさせる。
Ⅲ　自ら学ぼうとする意欲を育てる。
Ⅳ　豊かな教養と国際性を育む。

＜学習・教育到達目標＞（専攻科課程）

（A）　自然科学と工学の基礎を幅広く修得し，それを応用することができる
（B）　専門分野の基礎知識を修得し，それを実際の技術の問題に応用することができる
（C）　修得した知識を統合して，社会に貢献できる製品やシステム設計・開発する創造的能力と意欲を有する
（D）　実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる
（E）　豊かな人間性，国際性，協調性，及び英語によるコミュニケーション能力を身につける
（F）　技術が持つ地球的，社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し，説明することができる
（G）　課題の提案や報告などを効果的に記述し，説明することができる
（H）　コンピュータをはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる
（I）　責任を自覚し，互いに理解・協力し合い，チームの目的達成のために能力を発揮できる
ただし，（Ｉ）は平成２７年度入学者から適用する。

＜アンケート＞

（A）「自然科学と工学の基礎を幅広く修得し，それを応用することができる」という学習・教育到達目標を，どの程度達成できましたか？
［1］十分達成した。［2］だいたい達成した。［3］あまり達成できなかった。［4］全く達成できなかった。

（B）「専門分野の基礎知識を修得し，それを実際の技術の問題に応用することができる」という学習・教育到達目標を，どの程度達成できましたか？
［1］十分達成した。［2］だいたい達成した。［3］あまり達成できなかった。［4］全く達成できなかった。

（C）「修得した知識を統合して，社会に貢献できる製品やシステム設計・開発する創造的能力と意欲を有する」という学習・教育到達目標を，どの程度達成できましたか？
［1］十分達成した。［2］だいたい達成した。［3］あまり達成できなかった。［4］全く達成できなかった。

（D）「実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる」という学習・教育到達目標を，どの程度達成できましたか？
［1］十分達成した。［2］だいたい達成した。［3］あまり達成できなかった。［4］全く達成できなかった。

（E）「豊かな人間性，国際性，協調性，及び英語によるコミュニケーション能力を身につける」という学習・教育到達目標を，どの程度達成できましたか？
［1］十分達成した。［2］だいたい達成した。［3］あまり達成できなかった。［4］全く達成できなかった。

（F）「技術が持つ地球的，社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し，説明することができる」という学習・教育到達目標を，どの程度達成できましたか？
［1］十分達成した。［2］だいたい達成した。［3］あまり達成できなかった。［4］全く達成できなかった。

（G）「課題の提案や報告などを効果的に記述し，説明することができる」という学習・教育到達目標を，どの程度達成できましたか？
［1］十分達成した。［2］だいたい達成した。［3］あまり達成できなかった。［4］全く達成できなかった。

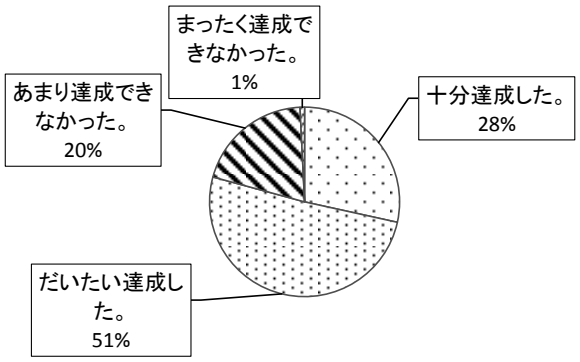
（H）「コンピュータをはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる」という学習・教育到達目標を，どの程度達成できましたか？
［1］十分達成した。［2］だいたい達成した。［3］あまり達成できなかった。［4］全く達成できなかった。

（出典　評価委員会　教育評価アンケート）

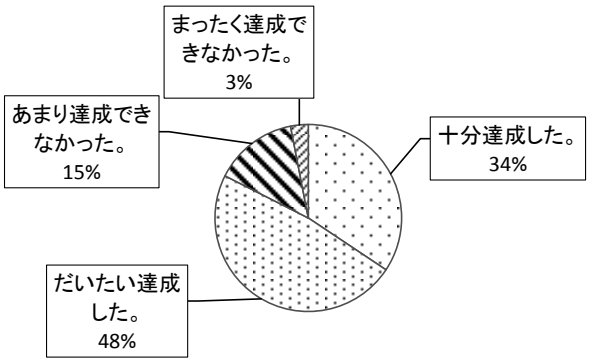
資料６―１―④－３

学習の達成度評価に関するアンケート集計結果（平成 24 年度　準学士課程５年生）

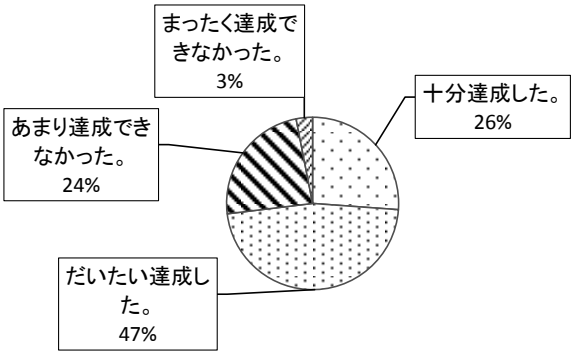
1.「自然科学と工学の基礎を身につける」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？



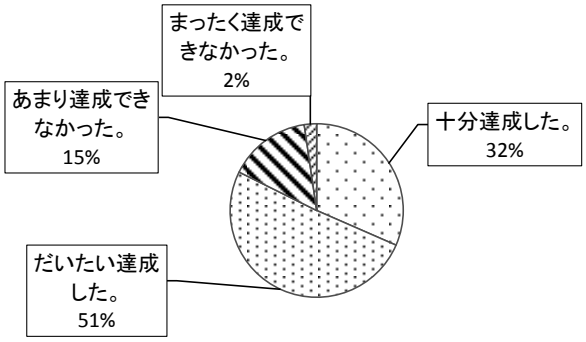
2.「専門分野の基礎知識を修得し，技術の実践に応用できる」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？



3.「修得した知識を統合し，製品やシステムを考案できる」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？



4.「実験・実習・演習により現象の理解を深め，実践力を身につける」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？

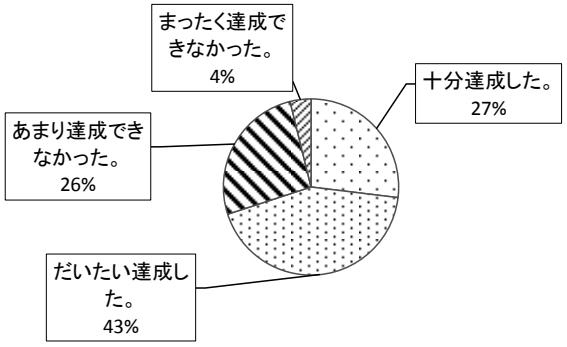


（出典　評価委員会　教育評価アンケート）

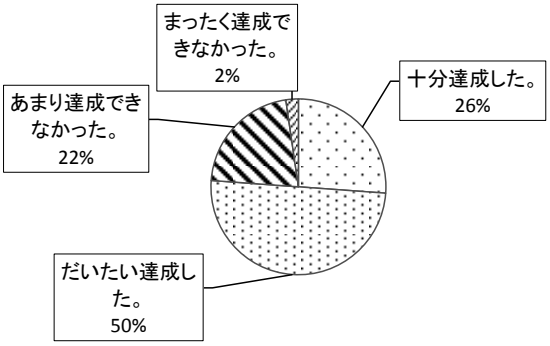
資料６―１―④－３の続き

学習の達成度評価に関するアンケート集計結果（平成 24 年度　準学士課程５年生）

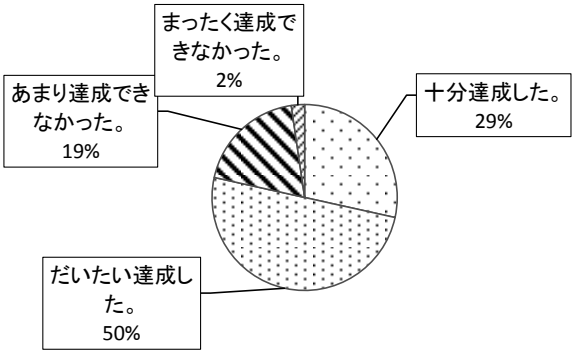
５.「技術者に必要な人間性，国際性，協調性及び英語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？



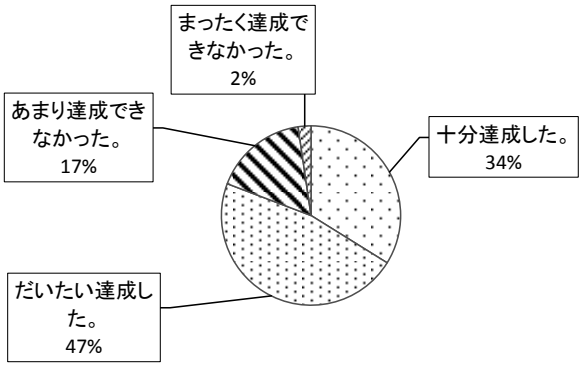
６.「技術が自然や社会に与える影響を理解し，技術者としての倫理観を身につける」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？



７.「課題の提案・報告などを適切にまとめ，発表できる」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？



８.「コンピュータを技術の実践に活用できる」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？

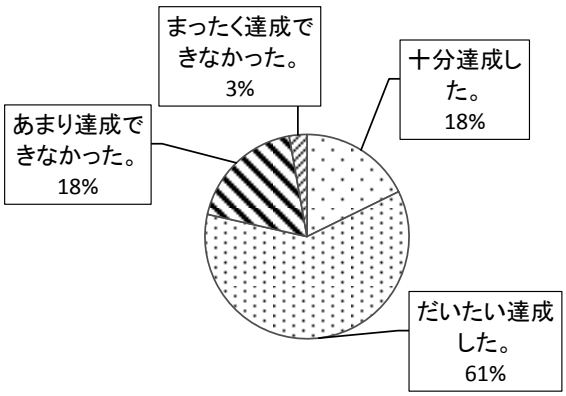


（出典　評価委員会　教育評価アンケート）

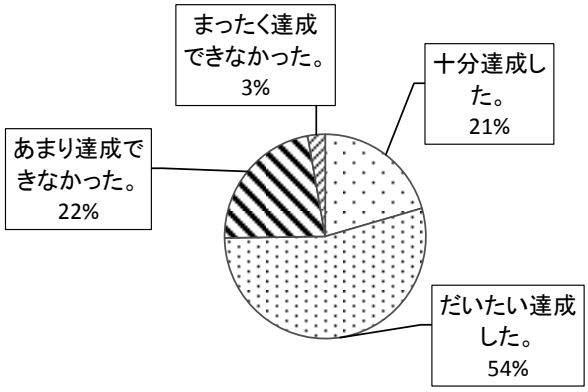
資料６―１―④－３の続き

学習の達成度評価に関するアンケート集計結果（平成 23 年度　準学士課程５年生）

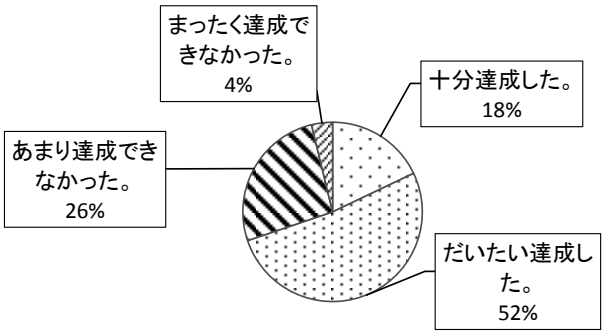
1.「自然科学と工学の基礎を身につける」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？



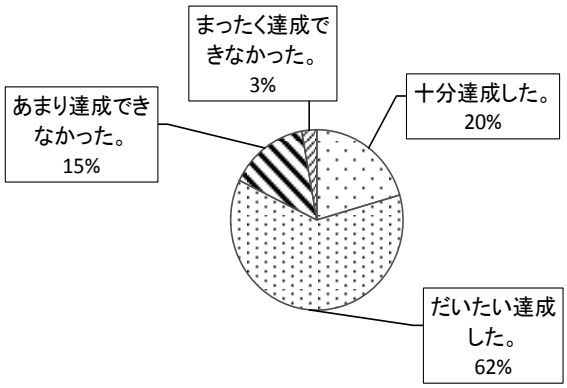
2.「専門分野の基礎知識を修得し，技術の実践に応用できる」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？



3.「修得した知識を統合し，製品やシステムを考案できる」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？



4.「実験・実習・演習により現象の理解を深め，実践力を身につける」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？

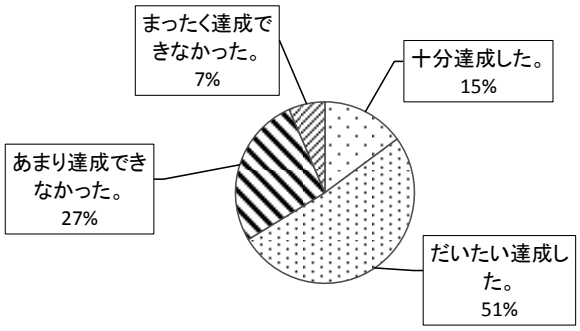


（出典　評価委員会　教育評価アンケート）

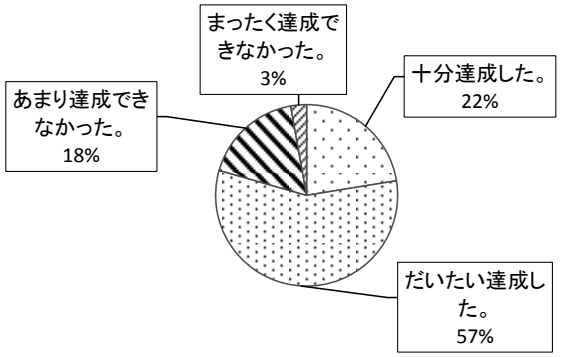
資料６―１―④－３の続き

学習の達成度評価に関するアンケート集計結果（平成 23 年度　準学士課程５年生）

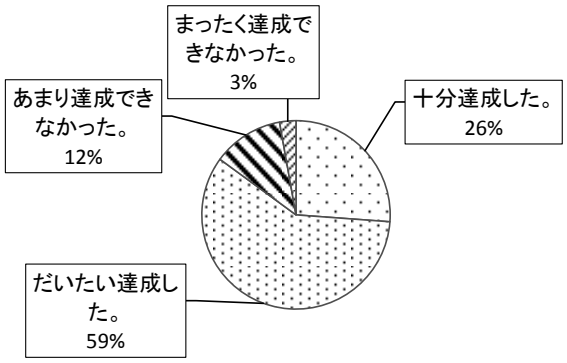
5.「技術者に必要な人間性，国際性，協調性及び英語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？



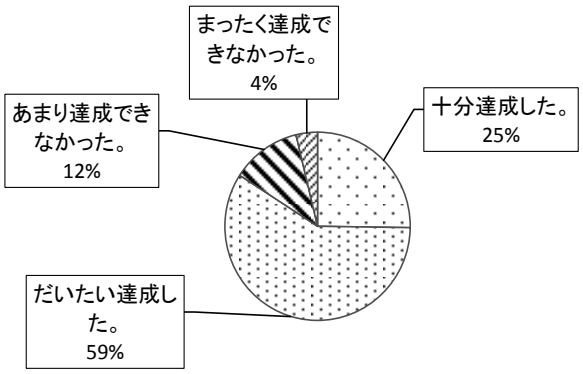
6.「技術が自然や社会に与える影響を理解し，技術者としての倫理観を身につける」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？



7.「課題の提案・報告などを適切にまとめ，発表できる」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？



8.「コンピュータを技術の実践に活用できる」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？

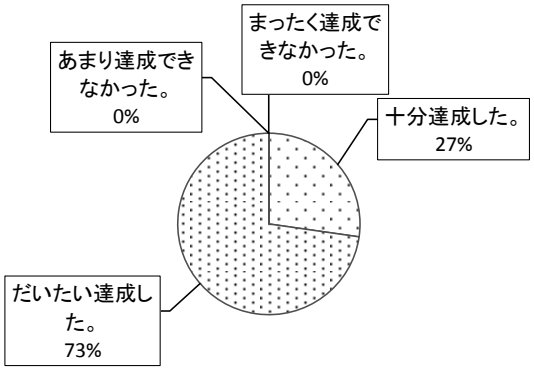


（出典　評価委員会　教育評価アンケート）

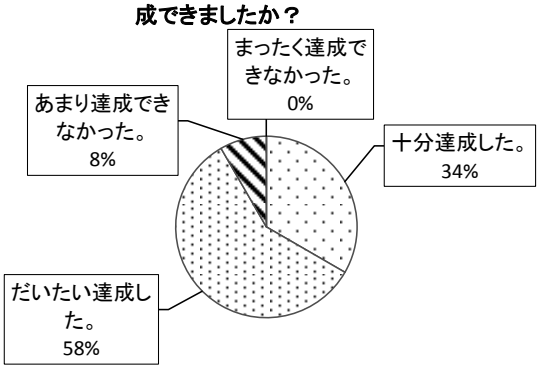
資料６―１―④－４

学習の達成度評価に関するアンケート集計結果（平成 24 年度　専攻科課程修了予定者）

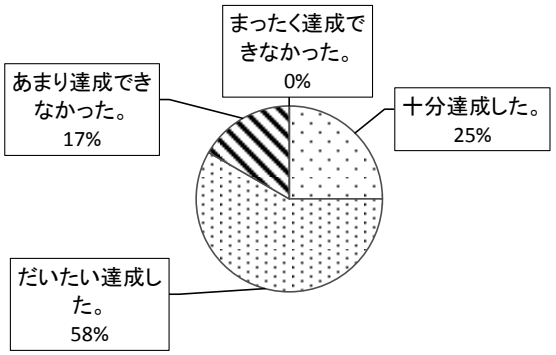
1.「自然科学と工学の基礎を幅広く習得し，それを応用することができる」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？



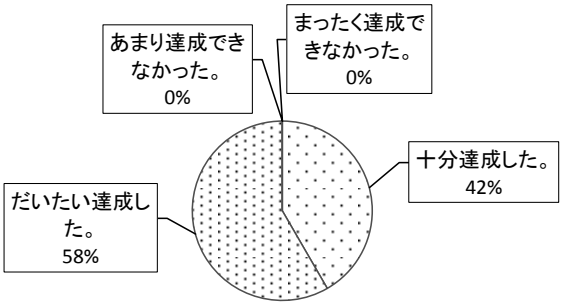
2.「専門分野の基礎知識を修得し，それを実際の技術の問題に応用することができる」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？



3.「修得した知識を統合して，社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発する創造的能力と意欲を有する」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？



4.「実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？

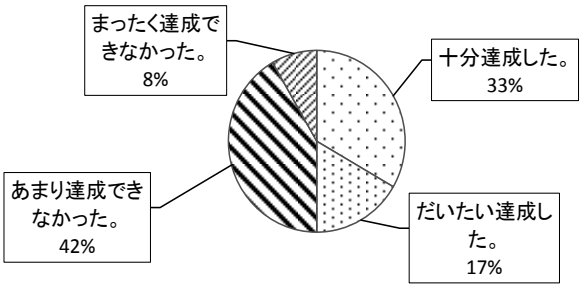


（出典　評価委員会　教育評価アンケート）

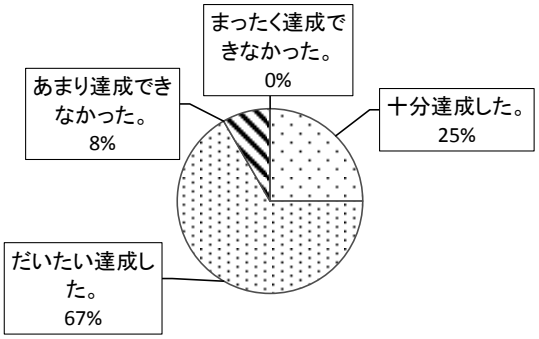
資料６―１―④－４の続き

学習の達成度評価に関するアンケート集計結果（平成 24 年度　専攻科課程修了予定者）

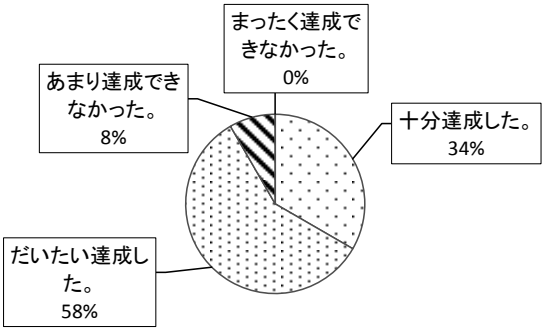
5.「豊かな人間性，国際性，協調性及び英語によるコミュニケーション能力を身につける」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？



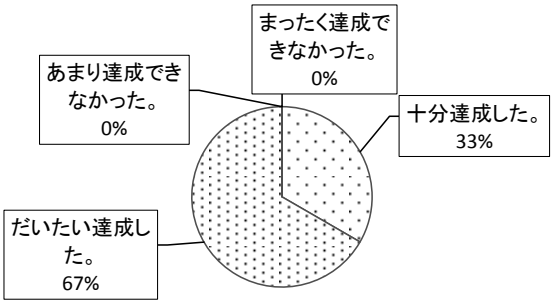
6.「技術が持つ地球的，社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し，説明することができる」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？



7.「課題の提案・報告などを効果的に記述し，説明することができる」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？



8.「コンピュータをはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？

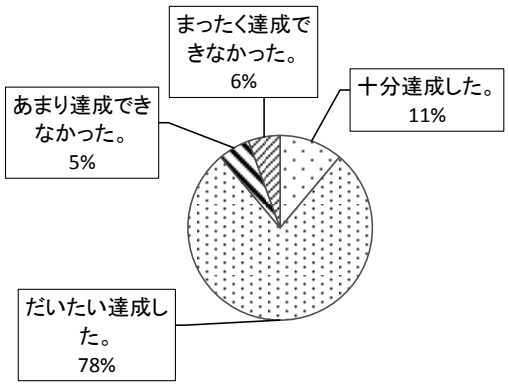


（出典　評価委員会　教育評価アンケート）

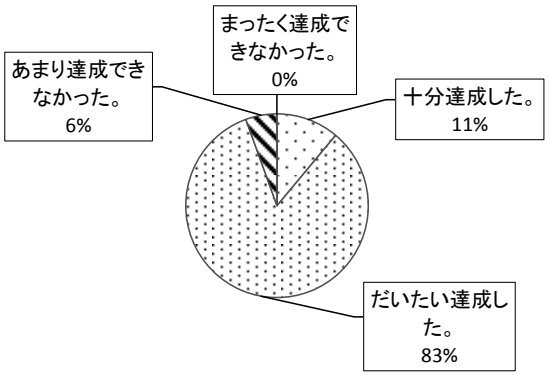
資料６―１―④－４の続き

学習の達成度評価に関するアンケート集計結果（平成 23 年度　専攻科課程修了予定者）

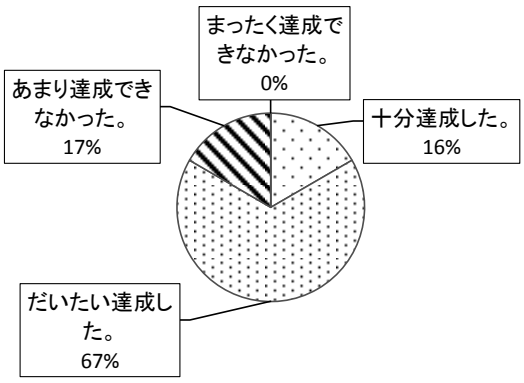
1.「自然科学と工学の基礎を幅広く習得し，それを応用することができる」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？



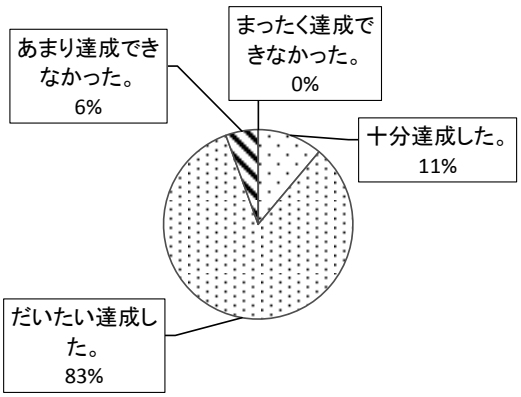
2.「専門分野の基礎知識を修得し，それを実際の技術の問題に応用することができる」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？



3.「修得した知識を統合して，社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発する創造的能力と意欲を有する」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？



4.「実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？

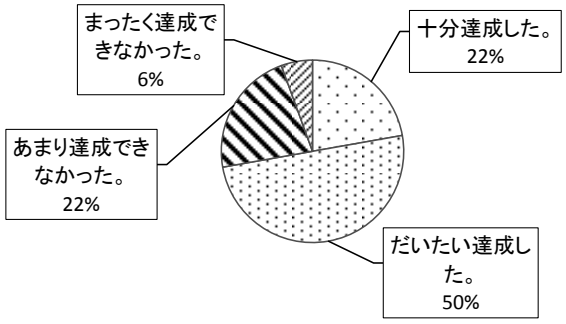


（出典　評価委員会　教育評価アンケート）

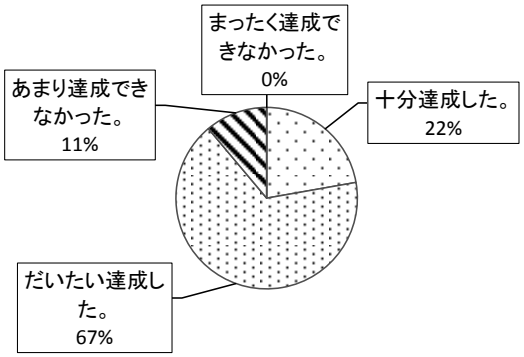
資料６―１―④－４の続き

学習の達成度評価に関するアンケート集計結果（平成 23 年度　専攻科課程修了予定者）

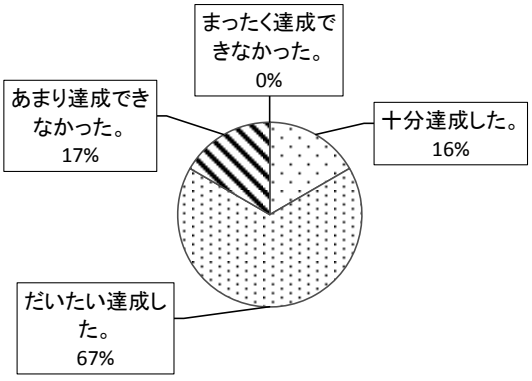
5.「豊かな人間性，国際性，協調性及び英語によるコミュニケーション能力を身につける」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？



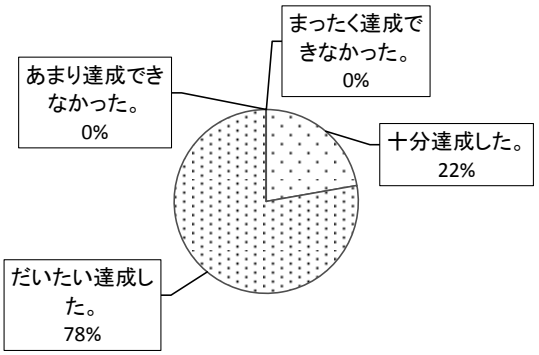
6.「技術が持つ地球的，社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し，説明することができる」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？



7.「課題の提案・報告などを効果的に記述し，説明することができる」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？



8.「コンピュータをはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる」という学習・教育目標を，どの程度達成できましたか？



（出典　評価委員会　教育評価アンケート）

（分析結果とその根拠理由）

準学士課程と専攻科課程における同様な学習・教育到達目標（Ｅ）の学生の達成度評価が低い理由は，A. C. E. またはＴＯＥＩＣの受験により学生が自身の英語能力を把握しているためだと考えられる。対応として，外国人教師による英会話授業の増加，英語教科の必修化など，英語教育のカリキュラム改正が行われた。また英語デーの設置，英語プレゼンテーションコンテストの実施，英語eラーニングシステムの更新により，英語及び英語によるコミュニケーション能力に関する教育を充実させている。さらに海外の５大学（教育機関）と学術交流協定を締結し，海外研修旅行，海外インターンシップの実施を通じて，国際性の涵養とコミュニケーション能力の育成に努めている。

国際交流と英語教育については，平成２１年度評価報告書「外部評価に基づいた内部点検評価」において詳細に報告されている。

観点６－１－⑤：　卒業（修了）生や進路先等の関係者から，卒業（修了）生が在学時に身に付けた学力や資質・能力や，卒業（修了）後の成果等に関する意見を聴取する等の取組を実施しているか。また，その結果から判断して，教育の成果や効果が上がっているか。

（観点に係る状況）

平成２４年度に，卒業（修了）生及び就職先に対して，在学中に身に付ける学力や資質・能力，卒業後の成果等に関するアンケート調査を実施した。アンケートは定期的に実施しており，前回は平成２０年度の実施であった。（今後は正確に３年ごとのアンケート実施が計画されている。）平成２４年度のアンケートの，対象，実施時期，回答数を資料６－１－⑤－１に示す。

資料６－１－⑤－２に集計結果の要約を示す。資料６－１－⑤－３，資料６－１－⑤－４に，卒業（修了）生，就職先に対するアンケートの詳細な集計結果を示す。

資料６―１―⑤－１

アンケート対象：(1)昭和62，63年度，平成10，16，17年度本科卒業生
(2)平成16，17年度専攻科修了生
(3)平成19～23年度の本科卒業生および専攻科修了生
の就職先企業(人事担当者)

アンケート期間：　平成24年5月28日～7月10日
(郵便によるアンケート依頼およびweb回答)

回答数（率）：　卒業生・修了生83／686人（12%），企業52／223社（23%）

参考　　：　平成20年度　卒業生・修了生167／646人（26%），企業89／230社（39%）

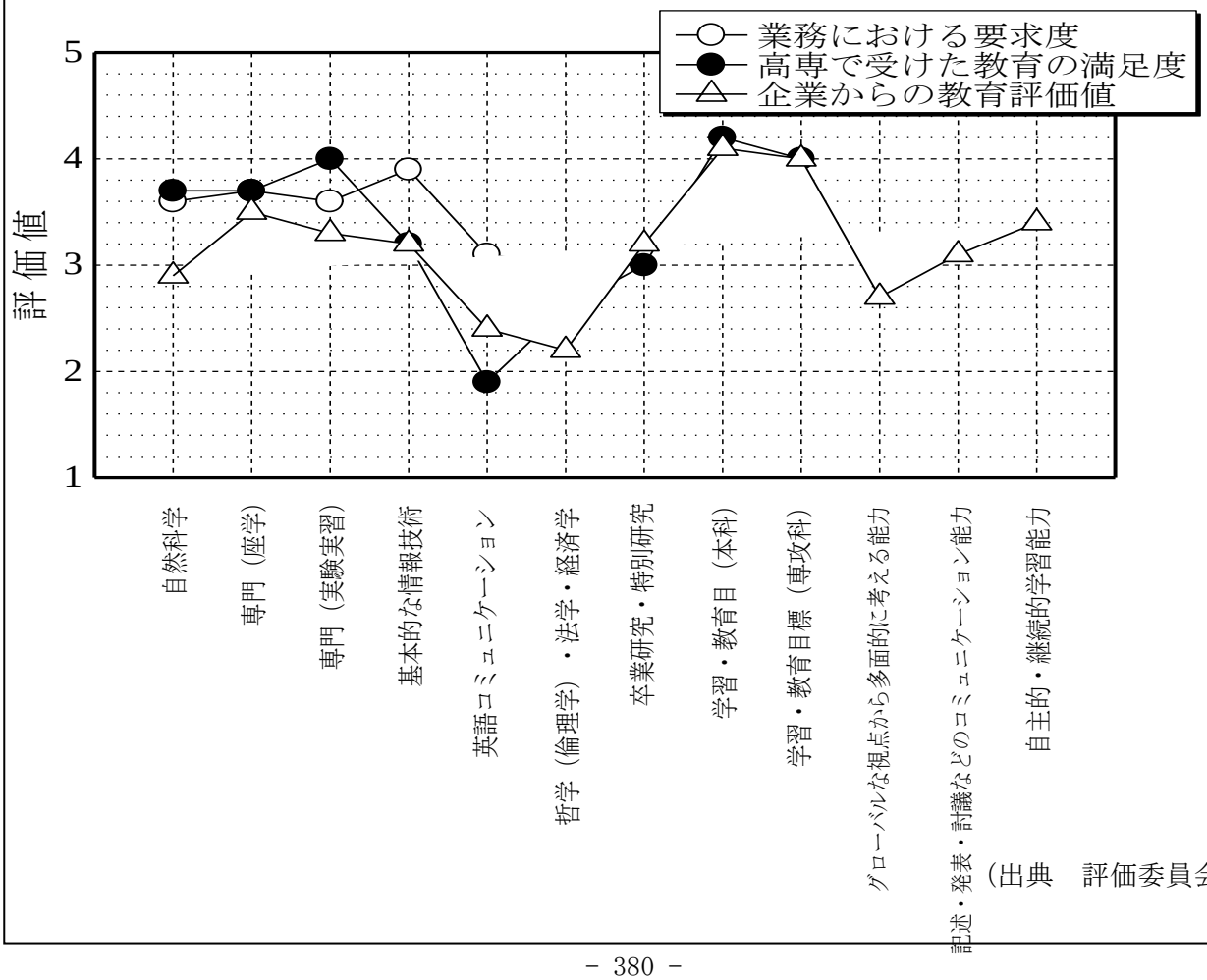
（出典　評価委員会資料）

資料６―１―⑤－２

平成２４年度「本科卒業者・専攻科修了者による教育評価アンケート」と，
平成２４年度「企業による舞鶴工業高等専門学校の教育評価アンケート」の集計結果の要約

評価項目(本校の教育)についての，卒業(修了)生の現在の業務における要求度と現在の業務を遂行する上での満足度と，評価項目(本校の教育)についての就職先の卒業(修了)生に対する評価値を示す。数値は５段階評価であり，要求度，満足度，評価値が高いほど大きい。

評　価　項　目	卒業・修了生の業務における要求度	卒業・修了生が本校で受けた教育の満足度	企業の本校の教育に対する評価値
1. 自然科学（数学・物理・化学など）	3.6	3.7	2.9
2. 専門知識（座学系）	3.7	3.7	3.5
3. 専門知識（実験・実習系）	3.6	4.0	3.3
4. 基本的な情報技術	3.9	3.2	3.2
5. 英語によるコミュニケーション	3.1	1.9	2.4
6. 哲学(倫理学)・法学・経済学など	3.0	2.6	2.2
7. 卒業研究・特別研究	―	3.0	3.2
8. 学習・教育到達目標（本科）	―	4.2	4.1
9. 学習・教育到達目標（専攻科）	―	4.0	4.0
10. グローバルな視点から多面的に考える能力	―	―	2.7
11. 記述・発表・討議などのコミュニケーション能力	―	―	3.1
12. 自主的・継続的学習能力	―	―	3.4



（出典　評価委員会）

資料６－１－⑤－３

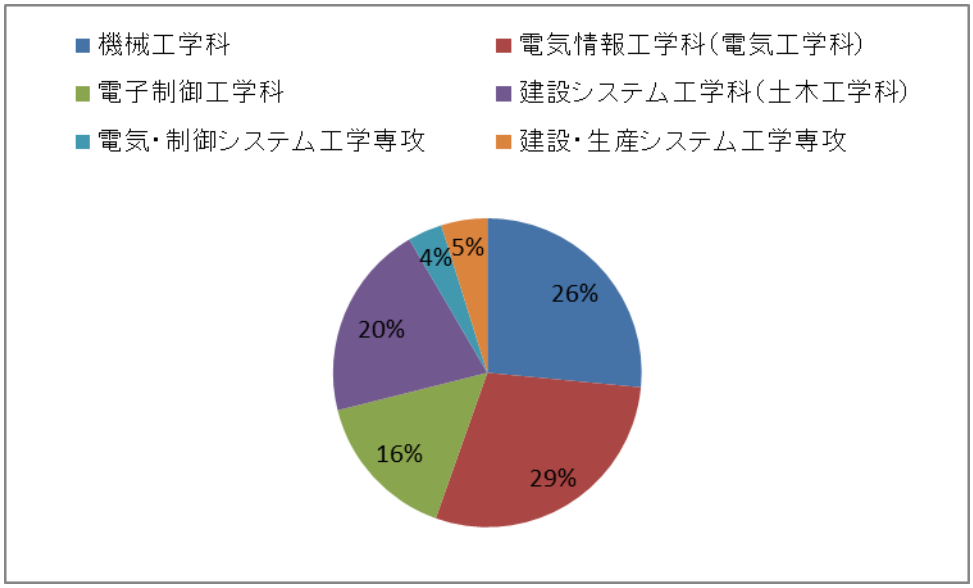
平成２４年度「本科卒業者・専攻科修了者による教育評価アンケート」集計結果

１．個人基礎データに関する質問

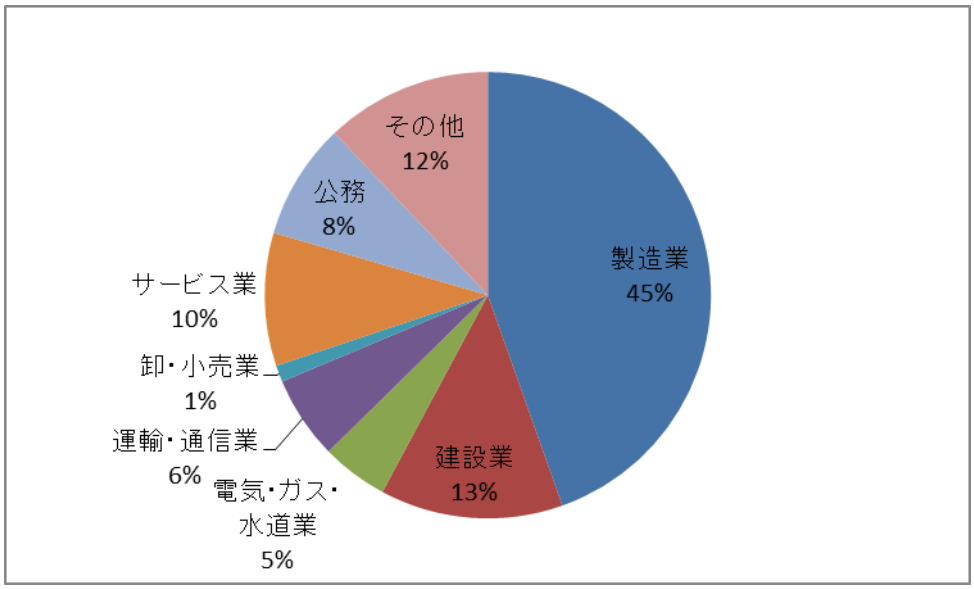
問１．　あなたの年齢を[　　]内に記入して下さい。

[33.9歳]　（平均）

問２．　出身学科を回答して下さい。



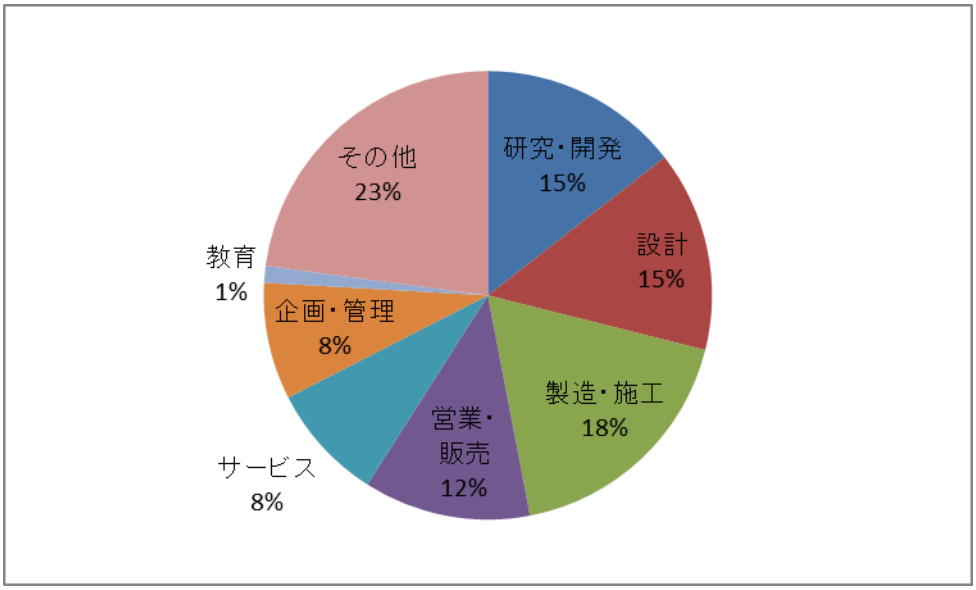
問３．　あなたの現在の勤務先（自営も含む）の業種は何ですか？



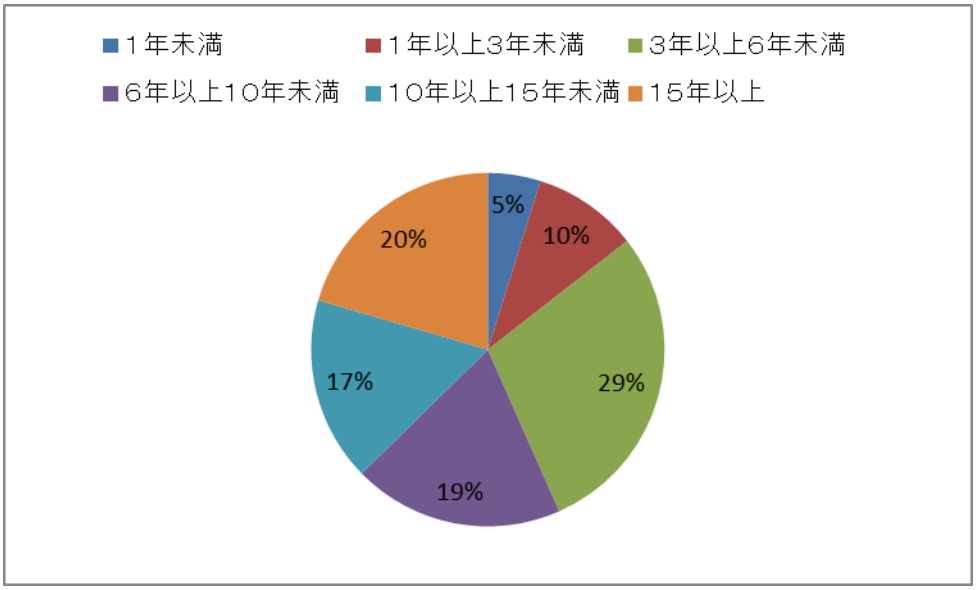
（出典　評価委員会資料）

資料６－１－⑤－３の続き

問４．　あなたの現在の職種は何ですか？



問５．あなたの現在の職種の経験年数を回答して下さい。



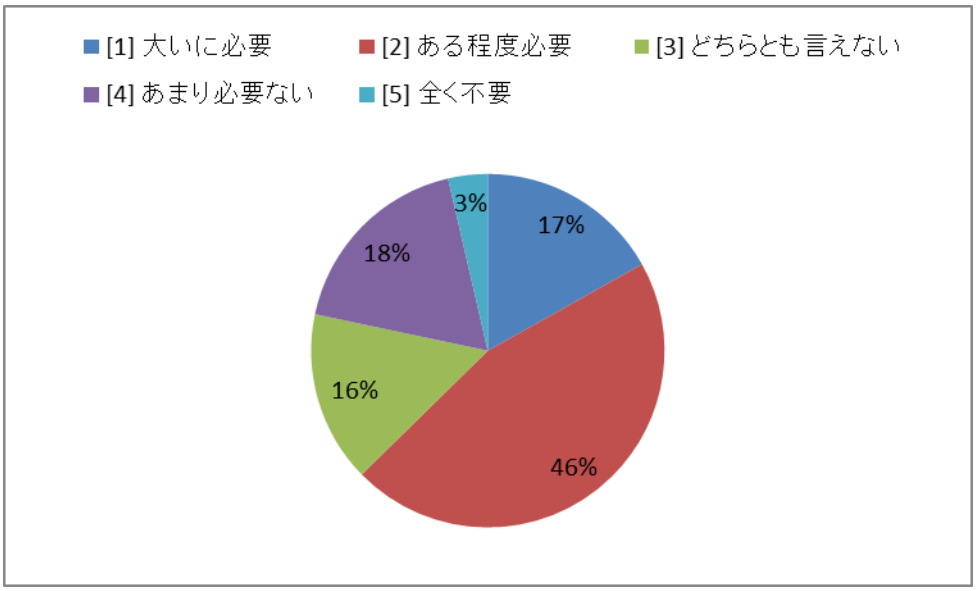
（出典　評価委員会資料）

資料６―１―⑤－３の続き

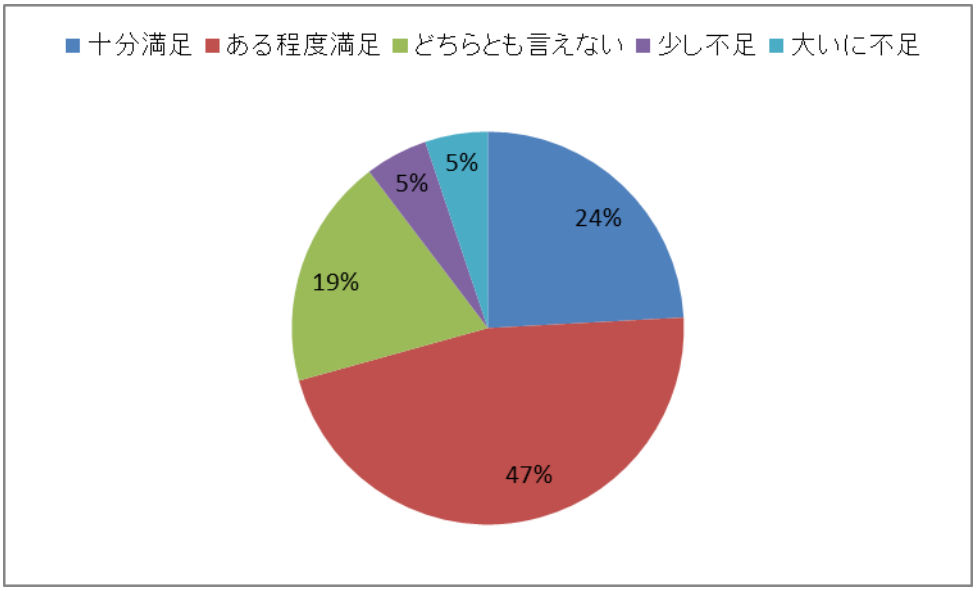
２．業務に必要な知識，高専で学んだ知識に関する質問

Ａ「自然科学（数学，物理，化学など）に関する知識とそれを応用する能力」について，お尋ねします。

問６．　あなたの現在の業務では，これらが必要とされますか。



問７．　業務を遂行するうえで，高専で受けたこれらの教育は十分でしたか。
（問６で[1] または[2]と回答した場合にお答え下さい。）

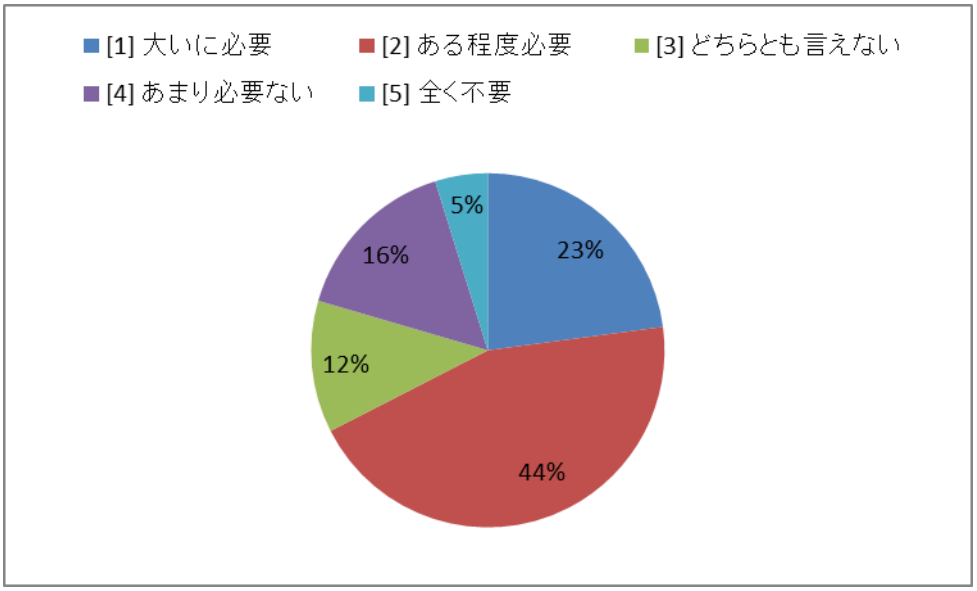


（出典　評価委員会資料）

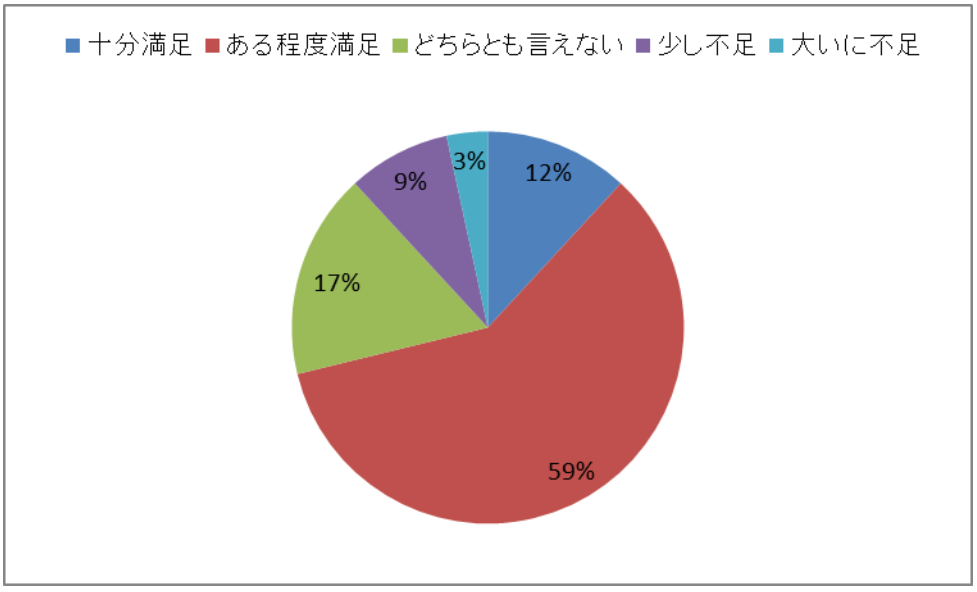
資料６－１－⑤－３の続き

Ｂ「高専で学んだ専門分野に関する知識（講義系科目）とそれを応用する能力」について，お尋ねします。

問８．　あなたの現在の業務では，これらが必要とされますか。



問９．　業務を遂行するうえで，高専で受けたこれらの教育は十分でしたか。
（問８で[1] または[2]と回答した場合にお答え下さい。）

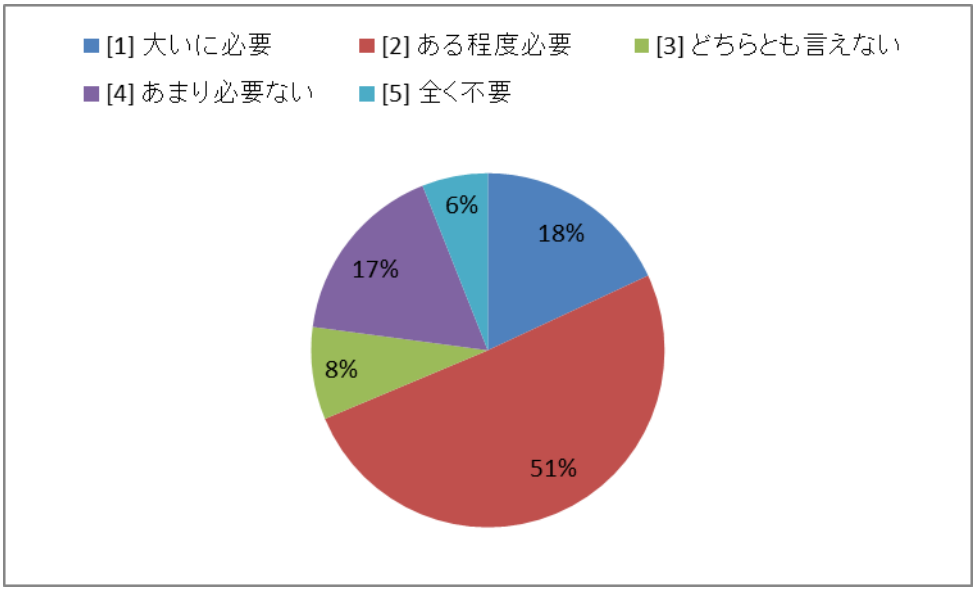


（出典　評価委員会資料）

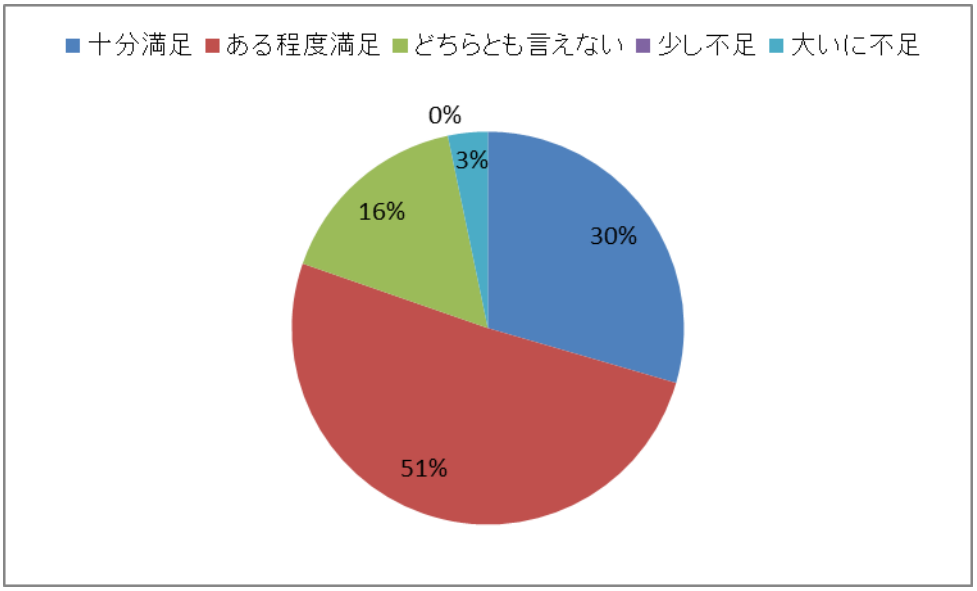
資料６－１－⑤－３の続き

Ｃ「高専で学んだ専門分野に関する知識（実験・実習系科目）とそれを応用する能力」について，お尋ねします。

問１０．　あなたの現在の業務では，これらが必要とされますか。



問１１．　業務を遂行するうえで，高専で受けたこれらの教育は十分でしたか。
（問１０で[1] または[2]と回答した場合にお答え下さい。）

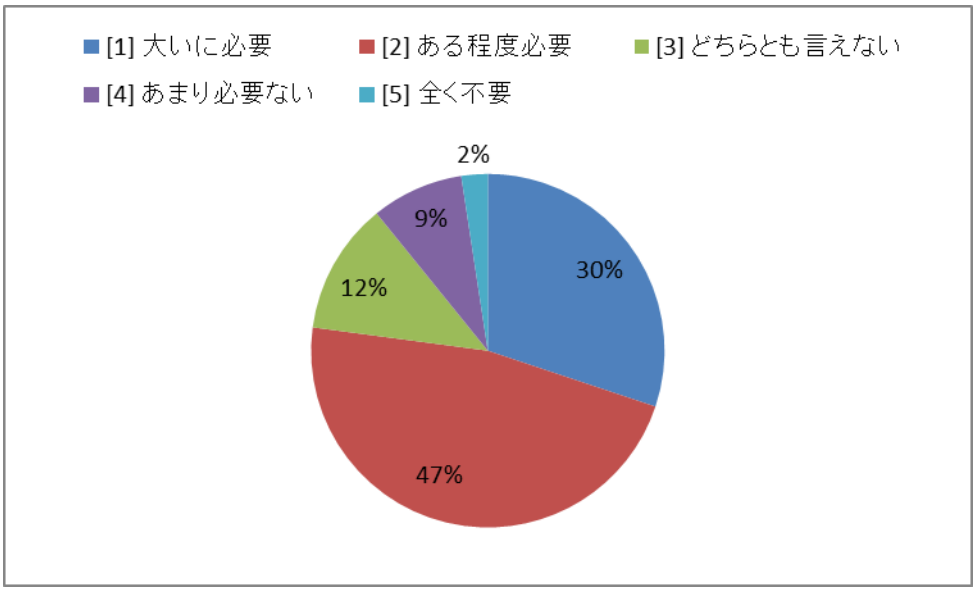


（出典　評価委員会資料）

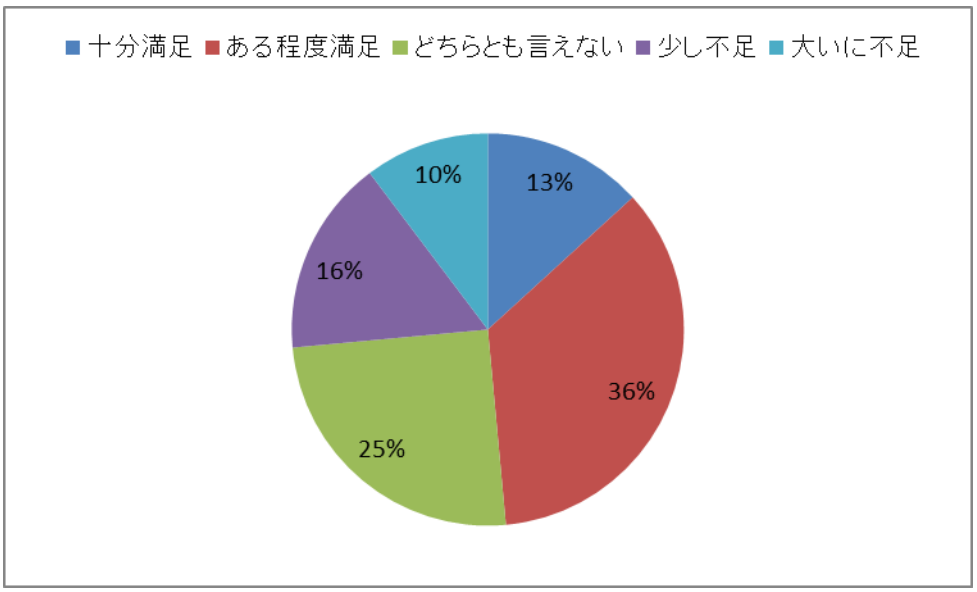
資料６－１－⑤－３の続き

Ｄ「基本的な情報技術に関する知識とそれを応用する能力」について，お尋ねします。

問１２．あなたの現在の業務では，これらが必要とされますか。



問１３．業務を遂行するうえで，高専で受けたこれらの教育は十分でしたか。
（問１２で[1] または[2]と回答した場合にお答え下さい。）

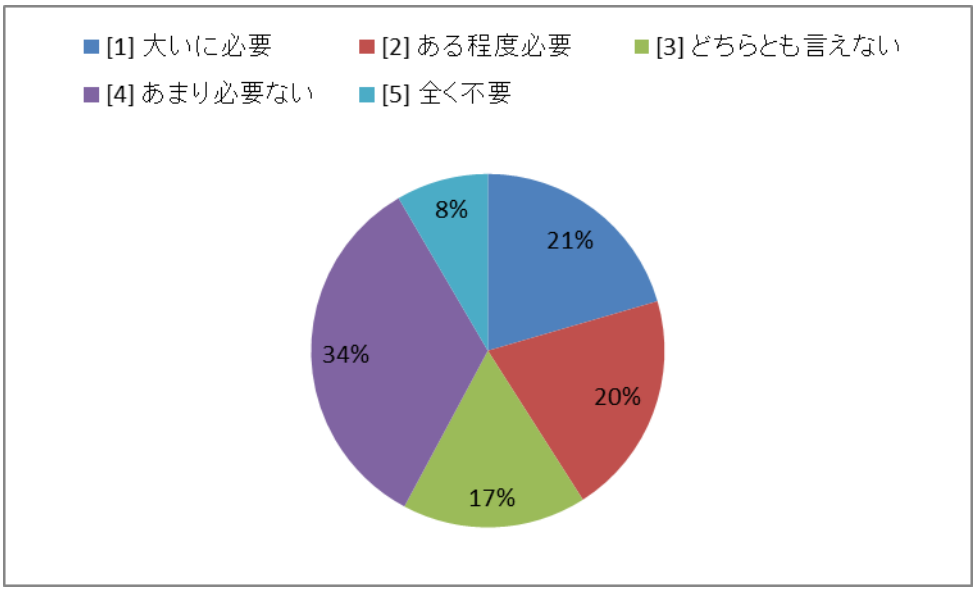


（出典　評価委員会資料）

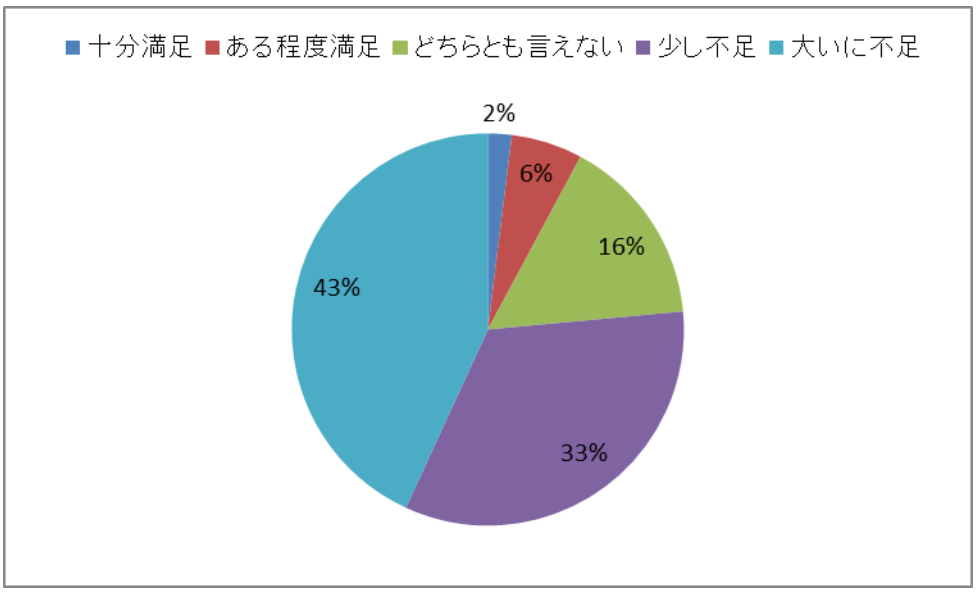
資料６－１－⑤－３の続き

Ｅ「英語に関する知識と英語によるコミュニケーション能力」について，お尋ねします。

問１４．あなたの現在の業務では，これらが必要とされますか。



問１５．業務を遂行するうえで，高専で受けたこれらの教育は十分でしたか。
（問１４で[1] または[2]と回答した場合にお答え下さい。）

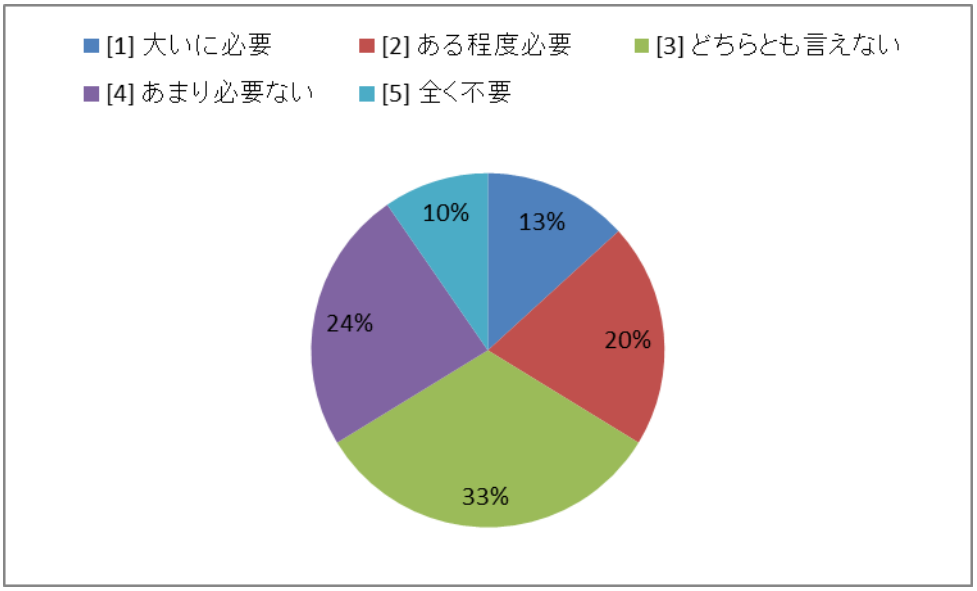


（出典　評価委員会資料）

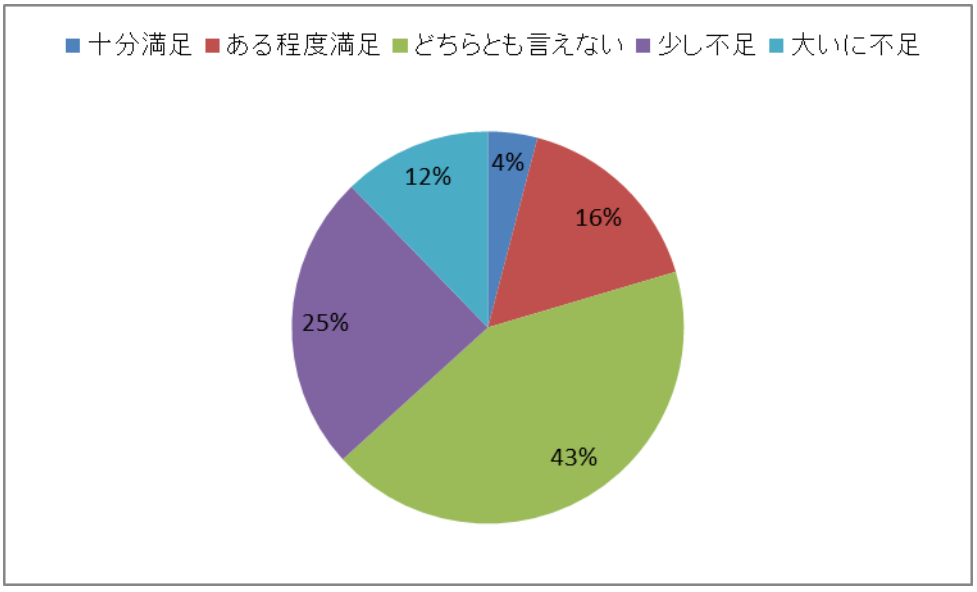
資料６－１－⑤－３の続き

Ｆ「いわゆる一般教養科目（技術者倫理，哲学，法学，経済学など）の知識とそれを応用する能力」について，お尋ねします。

問１６．あなたの現在の業務では，これらが必要とされますか。



問１７．業務を遂行するうえで，高専で受けたこれらの教育は十分でしたか。
（問１６で[1] または[2]と回答した場合にお答え下さい。）

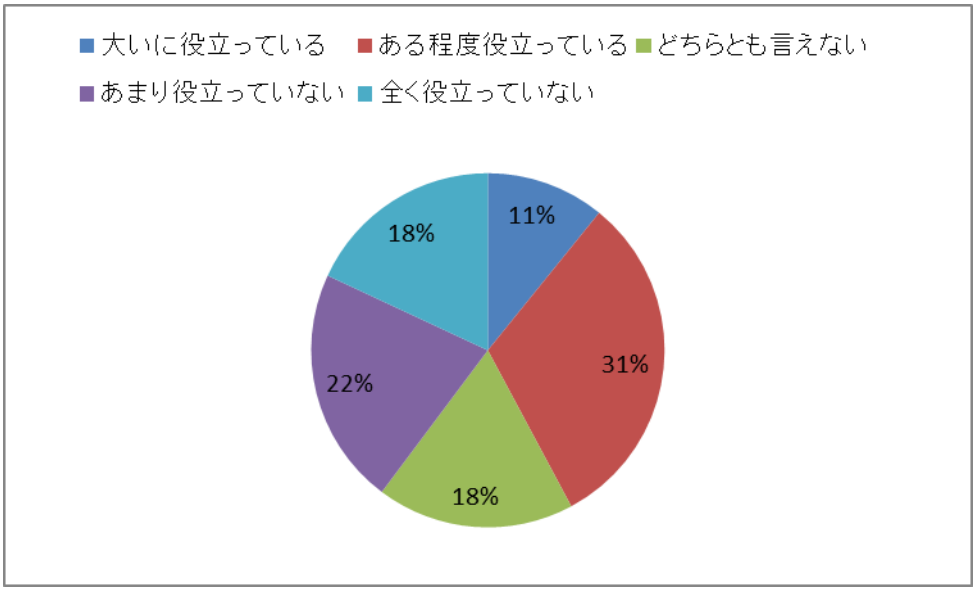


（出典　評価委員会資料）

資料６－１－⑤－３の続き

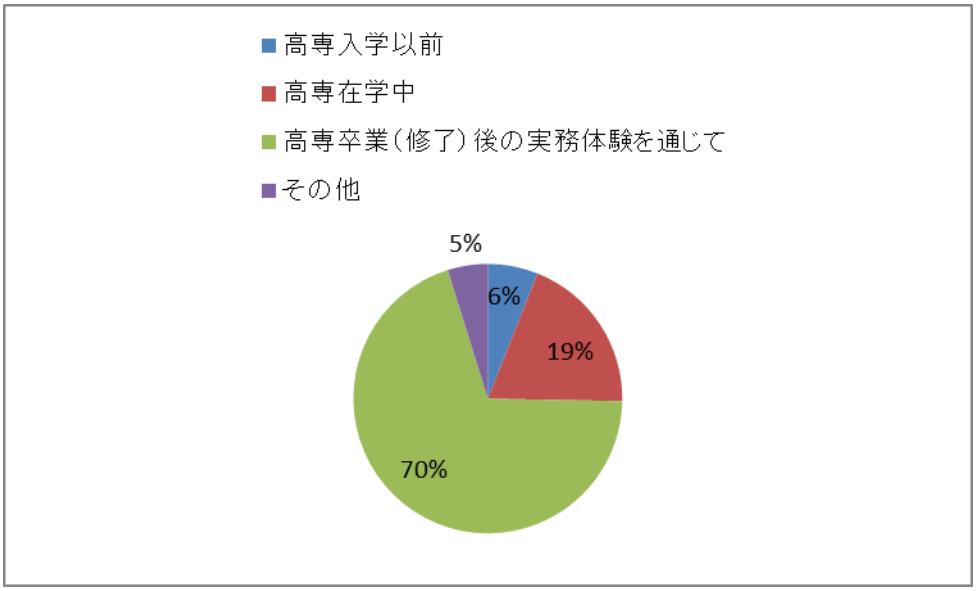
Ｇ「卒業研究」・「特別研究」についてお尋ねします。

問１８．５年生・専攻科生で実施した卒業研究・特別研究の経験は，あなたの職務を遂行する上で役立っていますか。



３．技術者意識に関する質問

問１９．技術者として，「工学技術のもつ地球的，社会的影響力の重要性」を十分理解されていることとは思いますが，これを認識され始めたのはいつ頃ですか。

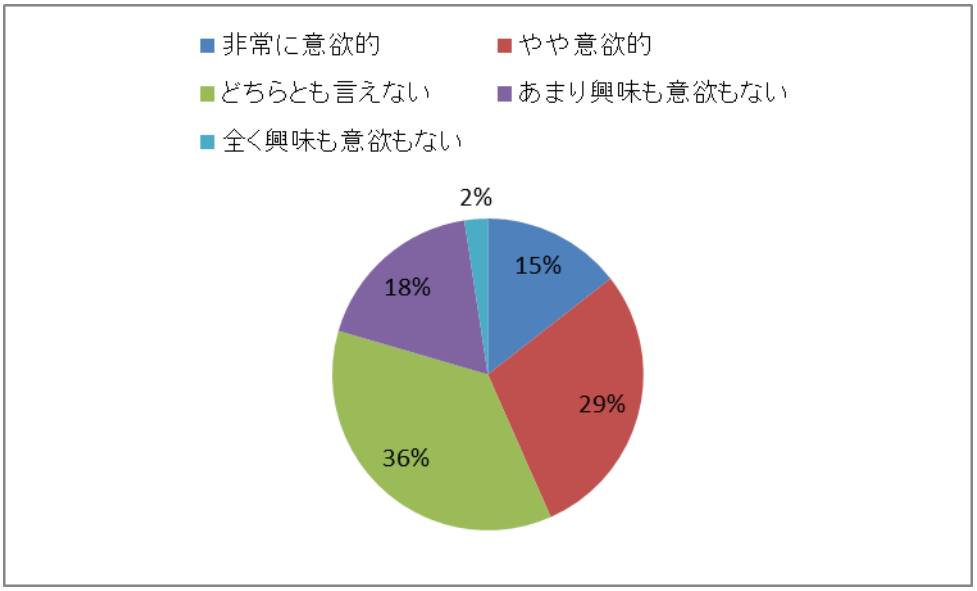


（出典　評価委員会資料）

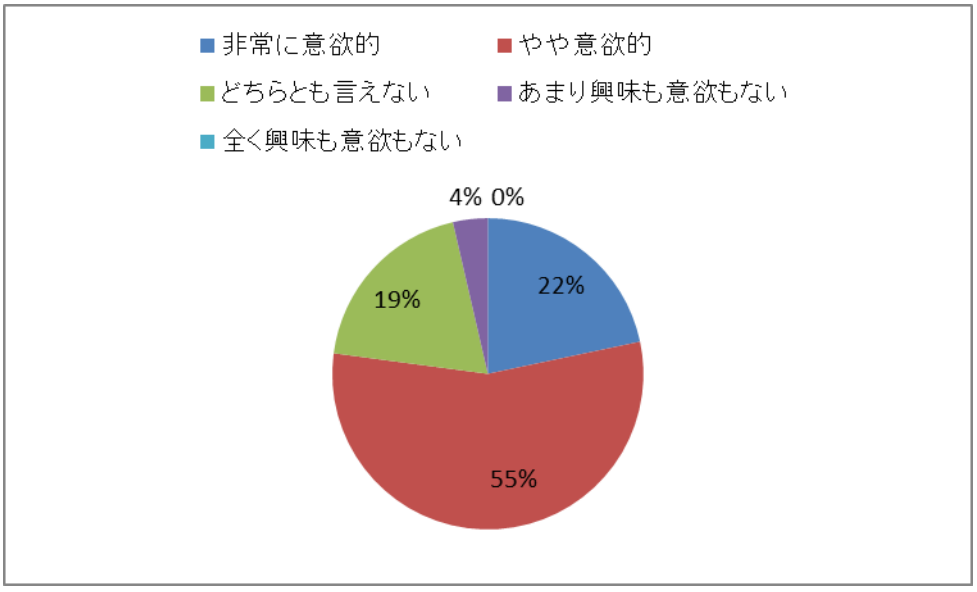
資料６－１－⑤－３の続き

問２０．技術者として，「工学の発展に常に興味をもち，生涯学び続ける意欲」が大切であるとよく言われますが，ご自身をどのように評価されますか。

①本科・専攻科の卒業・修了時の評価



②現時点での評価



（出典　評価委員会資料）

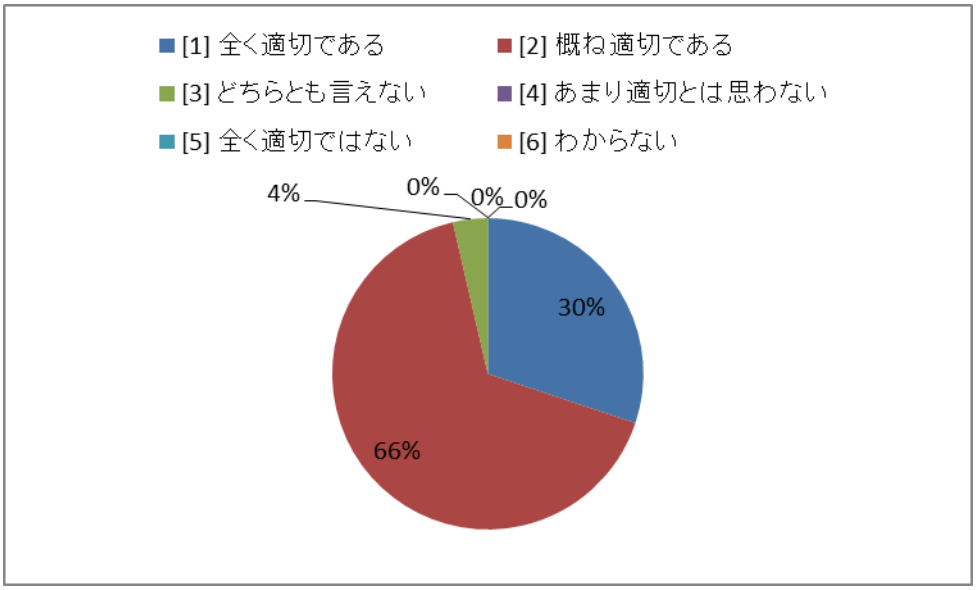
資料６―１―⑤－３の続き

４．学習・教育到達目標について

問２１．本校では，本科の学習・教育到達目標として以下を設定しています。

A) 自然科学と工学の基礎を身につける
B) 専門分野の基礎知識を修得し，技術の実践に応用できる
C) 修得した知識を統合し，製品やシステムを考案できる
D) 実験・実習・演習により現象の理解を深め，実践力を身につける
E) 技術者に必要な人間性，国際性，協調性及び英語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける
F) 技術が自然や社会に与える影響を理解し，技術者としての倫理観を身につける
G) 課題の提案・報告などを適切にまとめ，発表できる
H) コンピュータを技術の実践に活用できる

これらは適切と思われますか？



問２２．前問で[4]または[5]と回答された場合，その理由をお書きください。

記述なし。

（出典　評価委員会資料）

資料６―１―⑤－３の続き

問２３．本校では，専攻科の学習・教育到達目標として以下を設定しています。

A)自然科学と工学の基礎を幅広く修得し，それを応用することができる

B)専門分野の基礎知識を修得し，それを実際の技術の問題に応用することができる

C)修得した知識を統合して，社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発する創造的能力と意欲を有する

D)実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる

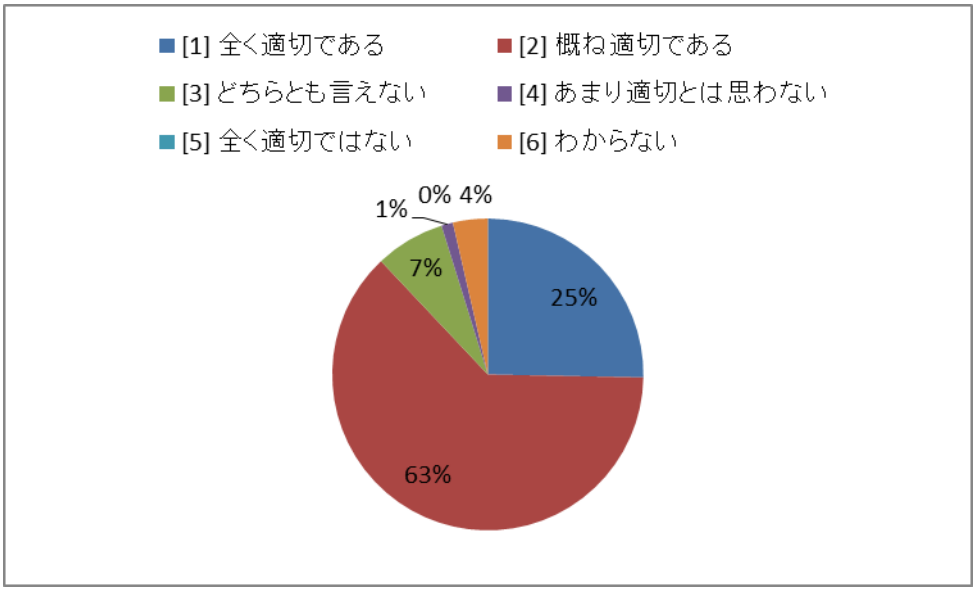
E) 豊かな人間性，国際性，協調性及び英語によるコミュニケーション能力を身につける

F) 技術が持つ地球的，社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し，説明することができる

G) 課題の提案・報告などを効果的に記述し，説明することができる

H) コンピュータをはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる

これらは適切と思われますか？



問２４．前問で[4]または[5]と回答された場合，その理由をお書きください。

○卒業後の実務にほとんど必要と感じるから

（出典　評価委員会資料）

資料６―１―⑤－３の続き

５．「自立した技術者像」について

問２５．本校では「育成しようとする自立した技術者像」を定めようとしています。「自立した技術者像」のイメージがありましたらお書きください。

○営業も行える設計・製造者であること
○自ら学び，こだわりを持って課題に取り組む姿勢があること
〝自ら思い立ち，主体的に行動できる人〟
私が高専生の頃は授業を“受身”で“こなす”ことが多かったのではないかと今では反省していますが，　高専祭や卒業研究終盤では自分の役割がはっきりと認識できたことで，主体的に動けたと感じます。社会に出ると，自分は何がやりたいのか，主体的に行動できているのかを常に問われます。中学を卒業した後という若いときから，主体的に行動できる習慣（環境）があれば，学生は自ら伸びていくものだと感じます。
○技術を習得するまえに，社会や環境に貢献できる製品やサービスを実現するゴールを思い描き，そのゴールに向けて技術がどのように貢献できるか想像し，そのゴールを実現するために，他者と円滑なコミュニケーションが取れるような人物像。上記は，技術的知識や経験を蓄積する以前に最も身に着けておくべきスキルであり，これらが身に付き，且つ技術的知識や経験を蓄積した技術者が「自立した技術者像」であると考えます。
○常に疑問を持ち探究心のある人
○自ら課題，解決する手段を見出し，解決方法を論理的，且つ合理的に情報を必要とする人に報告ができる技術者
○課題・Issue を自ら発見し，それを解決する努力ができる。
○専門と認識する業種に関する深遠な知識体系，未体験の業種であっても自己の持てるモノを活かしていこうとする貪欲さ，それらで一定以上のラインを目指せる技能をもつ（探求する）者
○会社の方向性に自分の知識を合わせられるあるいは合わせる努力を常に続ける
○スティーブ・ジョブス
○現在の社会情勢，身の回り（会社/教育現場）の状況を見据えて，問題提起，課題の抽出，課題の解決までを自ら積極的に考え行動する技術者が，自立した技術者像と考えます。
○年齢を問わず常に向上心を持ち勤務する会社や社会に貢献できる技術を吸収するとともに，これまでの経験を生かし次の時代を担う人材を育成する技術者
○向上心を持ち絶えず疑問を持つ。自分自身で創造する。
○自分で調べ，自分で考え，周りの意見を聞き，自分で納得し，自分で行動する。
○自分で考え問題解決できる技術者
○対課題力，対人力，対自己力を備える人物，また向上心を持ち実践し続ける人物。
○よく学び，よく考え，実践する
○私が高専に入学した当時からエンジニアに最も必要なものは「創造力」であると，つぶさに聞かされていたように記憶しています。確かに，様々なモノを創りだす力とそれを下支えする正確な理論はエンジニアにとって必須のものであると思います。しかし，昭和から平成に変わり数十年「いいモノさえ作れば必ず売れる」といった時代はとっくの昔に終焉を迎えています。今の時代のエンジニアに必要な資質として「創造力」だけでなく，製品の最終購入者の何を望んでいるのかを敏感に感じ取れる「想像力」をあわせて考える必要があるのではないでしょうか。Creativity と Imaginality のどちらに偏ることもなく，あたかも両輪のように使いこなせるエンジニアというのが，今，求められている姿だと思います。
○目的，解決の方法・手段，結果が自分で導き出せる。
○私は産業ロボットに携わる仕事をしており現在営業職ですが，会社に入社した段階では技術員としてでした。技術としての知識として，物理や数学に関してある程度知識がある方が，他の技術員よりも理解が早く仕事効率がよかった気がします。しかし，営業となると知識だけでなくコミュニケーション能力や資料作成能力，またはシステム全般を管理しなければならないので結局は多くの能力を必要とされます。昔ながらの職人気質な技術者も立派であると思いますが，グローバルな技術者となると多くの知識，経験を持っている者が必要とされると思います。社会に出てこれらを学ぶようになりましたが，学生時代に少しでも気づけるのとでは将来大きな差がでてくると感じます。
○コスト，品質，納期という制限が常に付きまとっています。この制約条件の中で，最大のパフォーマンスを発揮する。
○勤続経験によって社会や地域に求められる技術者は異なる。キャリアパスなどを考慮すればよいと考えます。たとえば，勤続5年や10年までは精確な技術は必要ですが，要所では判断を上席に仰ぐ必要があります。勤続年数が長くなると技術だけでなく，管理能力を求められます。部下を受け持つと育成能力も問われます。
○ものごとの本質を正しく理解できる，また，なぜそうなのかを自分の言葉で正しく論理的に伝えられる技術者。生涯学ぶ姿勢を持つ技術者。
○自発的な論理追求を怠らない
○リスクを把握し，対処できる。十分な知識があり，根拠に基づいた説明ができる。関係者と信頼関係を築くことができる。
○英語力，新しいアイデアを出せる力，強い意志力を持ち，エネルギッシュである（エネルギッシュという点は成果を残されている方に共通する特徴だと思います）。
○自ら考え実践することができる
○既成の枠にとらわれない，新しい発想ができる。悩みにぶちあたっても解決する糸口を持っている（何を調べたら良いのかが分かる，頼れる仲間がいる，相談しあえる）。
○今の自分に必要な知識・情報を適切なツールを使いすばやく収集し，読解できる。また，優れたコミュニケーション能力により自分の得た知識を周囲に発信することが出来て，自分の所属する組織全体の技術を底上げできる。
○問題点を洗い出し，自ら考え実践し，効果の確認ができる。常にあきらめないこと！挑戦をつづけること！
○自ら発信し，回りの意見を聞きながら，責任を持ち最後まで実行する。
○前例のない課題等に自ら考え答えを出す。
○企画・立案から設計・施工・保守運用まで一元管理にて実施する体制
○失敗をおそれず，何事にもチャレンジする強い気持ちを持ち，人のしない事に挑戦する勇気を持った技術者。

（出典　評価委員会資料）

資料６―１―⑤－３の続き

６．学科構成・学科名称等について

問２６．本校には，本科に「機械工学科」「電気情報工学科」「電子制御工学科」「建設システム工学科」の4学科と，専攻科に「電気・制御システム工学専攻」「建設・生産システム工学専攻」の２専攻が設置されています。これからも社会から求められる実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成する高等教育機関として，引き続き教育の内容や質の向上に努めていきたいと考えています。つきましては，現在の学科構成・学科名称等につきましてご意見・ご要望等ございましたら以下にお書きください。

〇名称はあまり変えないほうが良いと思います。
〇機械・電気・情報・電子制御はかなり関連に密接した工学であるといえる。機械＋電気，さらに＋電子制御，さらに＋情報技術という発展をしていると思う。それぞれに特化した人材を育成することが目的ではなく，全てを薄く広くでも把握できる中で，特に強みとするものを学科として定義するのが良い。
〇ソフトウェアに特化した学科が現在はあるのか分かりませんが，必要かと思います。
〇高専に入学を考える生徒や保護者が誤解しない名称にする必要がある。「建設システム工学科」という名称では土木分野と建築分野のどちらが主であるかを明確に理解できないため，変更が必要であると考えます。
〇私の在学から卒業時までのわずかの間，ちょうどインターネットが普及しはじめ，情報処理技術が急速に高度化した時代と重なります。私自身は機械工学科の卒業のため，他の学科の詳細な学習内容までしりませんが，１年生時に学習した情報処理技術が，卒業までに急速に陳腐化していったことにショックを覚えております。これからの時代も情報処理技術はどの工業分野でも間違いなく進化が続きます。各学科の垣根を越えて共通の学習単位として，最新の情報処理技術を学べる仕組みがあれば，きっと卒業後に役に立つと思います。
〇中学在学中に学科を決めたのがなんとなくのイメージしかなかった為，将来のイメージがはっきりしていなかった。私は現在，原子力発電所において勤務しているが，概ね分野としては電気・計装・機械・建築に分けられており，私自身は計装分野で仕事をしているが，高専で教わった内容で関係するのが電気の知識少々となっている。計装分野に特化した学科があればよかったのにと思ったことはある。
〇昨今の IT 技術の進化を鑑みると，情報処理のみの専攻が必要と考えます。
〇現在の学科構成・学科名称等についてはそのままでよいが，カリキュラムについてはできるだけ幅広い知識を得られるよう組んでいただきたい。
〇構成・名称等をむやみに変えるべきではない
〇随分前から言われているとは思いますが，IT 業種の広がりはやはり見逃せないものですし，情報技術者の資格を取るための知識等を教示する部門があってもよいのでは
〇最後の土木工学科の学生としては，土木工学が建設システムとなった事に少し寂しさを感じています。
〇電気情報工学と電子制御工学の違いが，名称だけからはよくわからない。ただし，名称というよりも，その時代時代で学ぶ内容は異なってくるので，電気だ機械だ土木だと考えずに，柔軟に組み合わせて学べるシステムにしてはどうか。
〇機械工学科⇒機械システム工学科
最近は，メカ設計だけ出来てもダメで，最終的にはシステムエンジニアを目指すべきだと思います。そうすると，メカ設計者でも，電気・ソフトを含めたシステム全般を理解しておく必要があるので，システムを付けておいたほうがよいと思いました。

７．その他

舞鶴高専の教育等に対するご意見・ご要望等ございましたら，以下にお書きください。

〇教育は押し付けでは成り得ない。学生自身の学びたいという欲望，興味をどのように持たせ，引き出すかによって，自主的に学んでいくものである。それをサポートする体制をしっかり持つようにして頂き，特に学生には広く視野を持たせる経験を与えることが肝要。工場見学，社会人（OB など）を招いての意見交換会，学会など，学生にいろいろな場所での学習機会・経験を与えて欲しいと思います。
〇工業を中心とした製造業(ものづくり)は，今後益々厳しくなります。グローバルに活躍人材，新しいことに挑戦していく人材の育成をお願いします。
〇在学中はとにかく，どこで使える知識か解らないまま勉強していた記憶がある。入学前にどういった分野で使える知識か解っていれば，学科も決めやすかったと思う。
〇物理，数学をより充実させる
〇外国語は読解ができればよいと感じる
〇豊橋・長岡技術科学大学との連携　→　一貫したカリキュラムを考えて欲しい
〇情報リテラシー・セキュリティポリシーの教育
〇在学中に JABEE という言葉をよく聞いていたが，何かに役立ったということが全くない。
〇私の個人的な考えなのでズレていれば恐縮ですが…高専という学校は過去に我が国が工業立国を目指したころ，不足するエンジニアを早急に育成するために専門機関として作られた仕組みであると認識しています。言葉は多少悪くなりますが，いち早く即戦力となる人材を社会に向けて出荷するための養成機関であったと。しかしながら時代も移り変わり，設立当初とは社会情勢も大きく変わる昨今，モノつくりの現場でいち早く使える人間が欲しい，という社会のニーズはとても希薄になっていると思います。高専の５年間一貫教育，若くに親元を離れ育む自立心，若い仲間と長く寝食を共にすることで磨かれる感性。これらについては個人的にとても素晴らしいことと思いますし，私自身，とてもいい教育を受けたと常に舞鶴高専卒業生であることに誇りを持っています。旧態依然とすることなく，この特殊な教育環境を使い，今の時代のニーズに合わせて，素晴らしい若者を育んでいっていただきたいと思います。本校をこれから巣立つまだ顔も見ぬ後輩たちと，社会の現場で手を取り合える日に期待をしつつ，私は社会で自身のビジネスに邁進してまいりたいと思います。

（出典　評価委員会資料）

資料６―１―⑤－３の続き

〇教育という概念が先生方にまったく浸透していない。学びの喜びを伝える努力をいていない。生徒の立場としては研究者の前に教育者たれ！！という思いが在学中からずっとあった。自主性の名の素にほったらかしの感じがあった。
〇高専生は，大学生にない「人間力」をもっと磨くようにしてください。以前は，どこの客先に行っても「高専生にハズレはない」とコメント頂きましたが，最近そんな意見を余り聞かなくなりました・・・。社会に出て，大学（院）出身者と競争しようと思うと，もっと違う色を出す必要があると思っています。即戦力を育てても，数年で並ばれます・・・　なので，センスや人間力はそう簡単に成熟しないと思いますので，そのあたりの力を伸ばしてあげてください。
〇舞鶴に限らず高専全般について本来の存在目的はすでに終り，もはや高専卒程度の工学知識レベルはエマージング諸国でのレベルとなる。今後，情報ネットワーク分野など大学での習得よりも，より早く社会に出て実践で身に着けるほうが早く確実な分野に向けて下地の良い若手の育成を期待したい。インターネット・情報ネットワークの職種においては大卒でのスタートよりも高専卒の若いうちからのスタートのほうがアドバンテージが大きい。
〇社会では最前線の場に送り込まれる機会が多いので，語学やコミュニケーション力，プレゼンテーション力の育成が必要かと考えます。
〇学生が主体的に行動できるような環境づくりに期待します。0 から目標を掲げて行動するというのは，全員が全員できるわけではないので，きっかけを与えてくれるようなイベント，活動を通して少しずつ学生が成長できればいいなと思います。昨今では高専から大学へ進学する割合が多くなっていますが，社会ではこの他の人とは違う経験をしてきた事実が大きな武器となります。（私がそうでした。）高専の社会的役割は日々変わってきていますので，是非とも頑張っていただきたいと思います。
〇卒業して10年以上経ち，在学中にお世話になった先生方が定年退官されたと同窓会誌で見るたびに寂しさを感じると共に先生方から学んだ事を生かせているのかなと自問しております。卒業してからも学校と関わりが持てるような取り組みがあればと思います。
〇学ぶ技術が社会の中でどういった役割を果たすのかを認識できるようになるのが学習意欲の向上につながると思う。
〇高専卒業後，大学及び大学院を経て，現在の職種に就いた。業務に役に立った知識は，高専で学んだ（大学でも復習したが・・）ことで十分であった。特に，実習，実験での経験は非常に役立ち，応用力として身に付きました。これからも質の高い教育を実践お願いします。
〇業界や実務の話題を取り込んだ講義があれば良かった。
〇基礎的な技術的知識や経験の取得はもちろんのこと，人間力（想像力，好奇心，協調性　等）を身に着けるためにも，是非とも全寮制の制度は必要だと思います。自身が舞鶴高専を卒業し，最も価値あることだと感じたことは，1 年から 5 年までを寮で過ごし，指導寮生なども務めさせていただき，そこで培った他者（上級生，下級生）とのコミュニケーションや集団で必要とされる協調性や集団に対しての発言力だと思っています。また，国内・海外企業へのインターンシップ制度なども推進し，国際社会で通用する人材育成を強化してほしいと願います。
〇自明のことですが，就職した後の知識・技術を得るための母体つくりも重要ですが，PDCA サイクル，マンツーマンインターフェースについても教示していただければ（そこに引っかかった経験がありますので）。後は，色々な流れで会社の法務・経営企画に携わることもあろうかと思いますので，法学，経済学も油断なく修めていくようご教示くだされば。
〇基礎科目をおろそかにしない教育の継続をお願いします。
〇ホームページのデザインがあまりよくないですね。いい学校なのにもったいないです。欧米の大学のサイトのようにシンプルでかつ知的さを感じさせるようなホームページを希望します。
〇高専卒業生は，頭でっかちでなく，現場作業も嫌がらずにやる（それが当たり前だと思っている）ところがあると思います。大学生とはバイタリティが違うというところを見せてもらいたいです。今後の卒業生にも大いに期待をしています。
〇専門知識は重要。でも「広く浅く」だとあまり益が無い。電気情報工学科は電気と情報に分けたほうがいいのでは？今のままではどっちの専門知識も不十分に思う。学科を増やせないなら片方だけにしてもいい。つまり「ウチは電気工学科です。情報を専攻したいなら他高専を受験してください」とする(逆でもいいけど)。ほんとはもっと狭く深くしてもいいと思うのですが・・・
〇社会に出ると様々な公的資格を要求(会社又は立場から)されますので，在学中の一連の就学内容に資格取得を考慮頂ければと思います。
〇一言で言うと「コミュニケーション能力」がないとこれから厳しいと思います。職人に生きる方は別ですが。OB として応援しています。
〇私がお世話になったのはもう 20 年以上も前です。当時，土木工学科にて測量実習，各種実験等で充実した専門教育を受けた記憶があります。現在建設業関係に従事し，十分に役立ち感謝しております。しかしながらご承知かと思いますが，社会においてはコンピューターを用いた技術が必要不可欠となっております。現在の教育内容を存じておりませんが，従来からの外業的教育を継承しつつ，情報処理関係（CAD 製図，測量処理等）を充実させると良いと考えます。
〇意見・要望等は特にわかりませんが，自分自身が舞鶴高専で学んだことを述べさせて頂きます。現在の仕事での具体的な技術・知識は，卒業後に実践によって身につけましたが，その下地となる発想や着眼点は，講義及び実習を通して学ばせて頂いたと感じています。また「3」の技術者としての意識の部分では，幼稚な私たちに対し，折に触れ繰り返し根気よく伝えて頂いたことが，今になって有り難く感じています。実社会での経験も豊富な先生方が多くおられ，学問はもちろんのこと，講義の合間や雑談の中で印象に残った言葉は，その後実際に社会にでて仕事を始めてから，度々ヒントとなり，支えとなっています。そして，これはほとんどの卒業生が口にすることのように思いますが，仕事を十分に進めて行く上で必要不可欠な協調性や交渉力は，在校中に随分と鍛えられたと思います。学生時代は余り勉強をしなかったので，知識と技術を身につけるのに非常に恵まれた環境にいて，十分な時間もあったというのに，もったいないことをしたと，自覚の足りなかった自分を悔いています。
〇開校時の理念，自由と責任　を忘れずに，いつまでも自由な校風のままであり続けてほしい。
〇企業では考える力，実践する力，話す力が必要だと思います。そういった人材育成を希望します。
〇機械工学科の卒業生ですが，現在の職務において高専のときに機械言語を学んでいればよかったと後悔しています。
〇記憶が正しければ当時のカリキュラムには殆ど組み込まれていなかったと思います。この点に関してはどういった職種に就くかによっても大きく変わってくるので何ともいえません。ただ私的な意見ではありますが，高専卒業後すぐに就職するのであれば，各科だけの専門的な技術・知識だけを深めるのでは無く”広く浅く”色んなことを学習したほうが技術者として今後色んな可能性もつことが出来ると思います。ずーっと同じ職場，職種なんて方のほうが珍しいと思います。社会に出てから新しいことに 0 からチャレンジするのは非常にタフなことです。

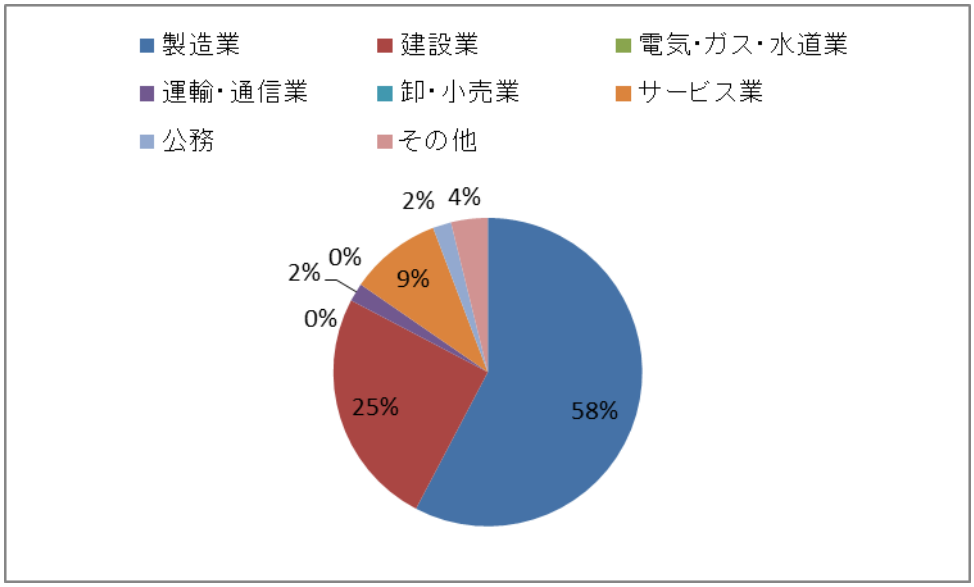
（出典　評価委員会資料）

資料６－１－⑤－４

平成２４年度「企業による舞鶴工業高等専門学校の教育評価アンケート」集計結果

１．基礎データに関する質問

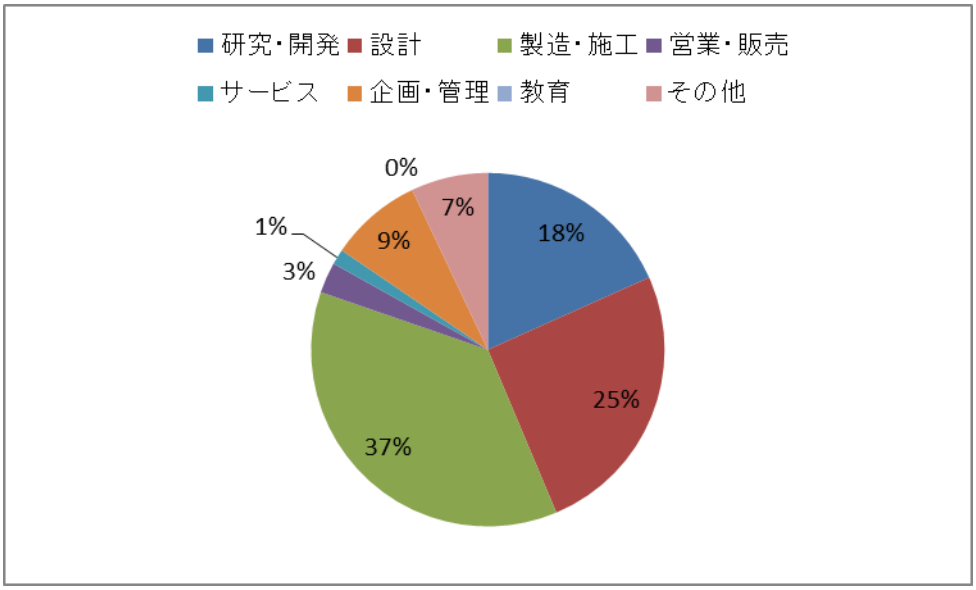
問１．　貴社の業種をお答え下さい。



問２．　貴社に在籍の①社員数，②高専卒の社員数，③舞鶴高専本科卒業者数，④舞鶴高専専攻科修了者数，　⑤最近５年間に入社した舞鶴高専本科卒業者数をお答え下さい（概数で結構です），⑥最近５年間に入社した舞鶴高専専攻科修了者数をお答え下さい（概数で結構です）。

平均　①　1934.9　人　②　86.4　人　③　5.6　人　④　1.1　人
⑤　1.7　人　⑥　0.5　人

問３．　最近５年間に入社した舞鶴高専本科卒業者・専攻科修了者の配属職種をお答え下さい（複数の卒業者がおり，配属職種が異なる場合には該当職種をすべてお答え下さい）。

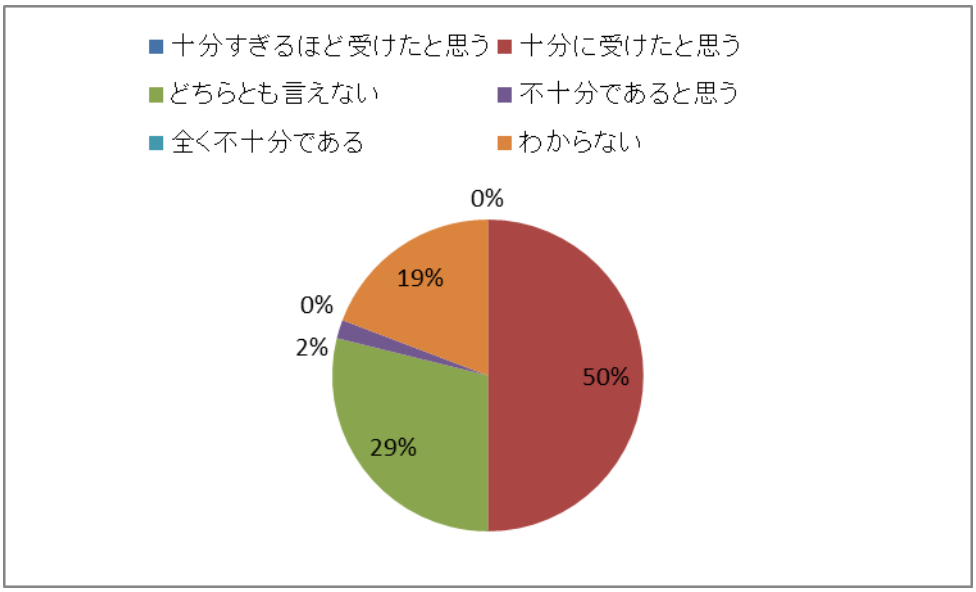


（出典　評価委員会資料）

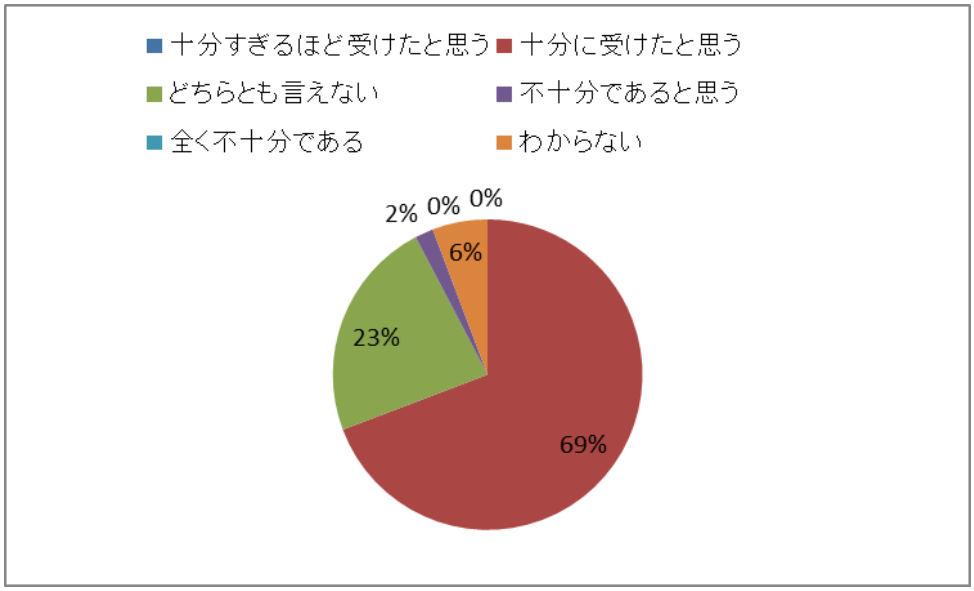
資料６―１―⑤－４の続き

２．　最近５年間に入社した舞鶴高専本科卒業者・専攻科修了者（以下，評価対象者）が舞鶴高専で受けた教育の評価に関する質問

問４．　自然科学（数学，物理，化学など）の知識やそれを応用する能力に関して，評価対象者は舞鶴高専においてこれらの教育を十分に受けたと思われますか。



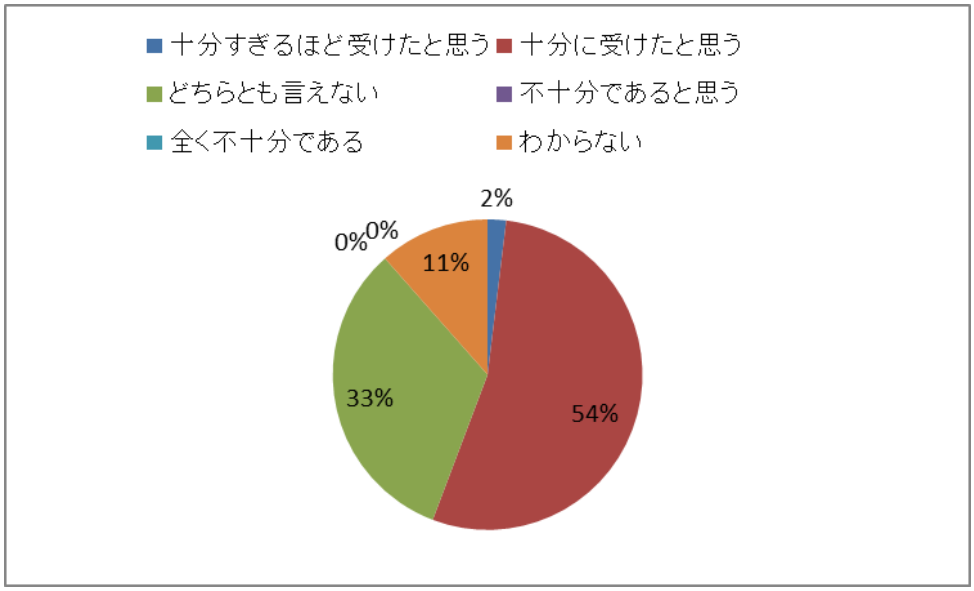
問５．　専門分野の知識（基礎学力）や，それを応用する能力に関して，評価対象者は舞鶴高専において，これら教育を十分に受けたと思われますか。



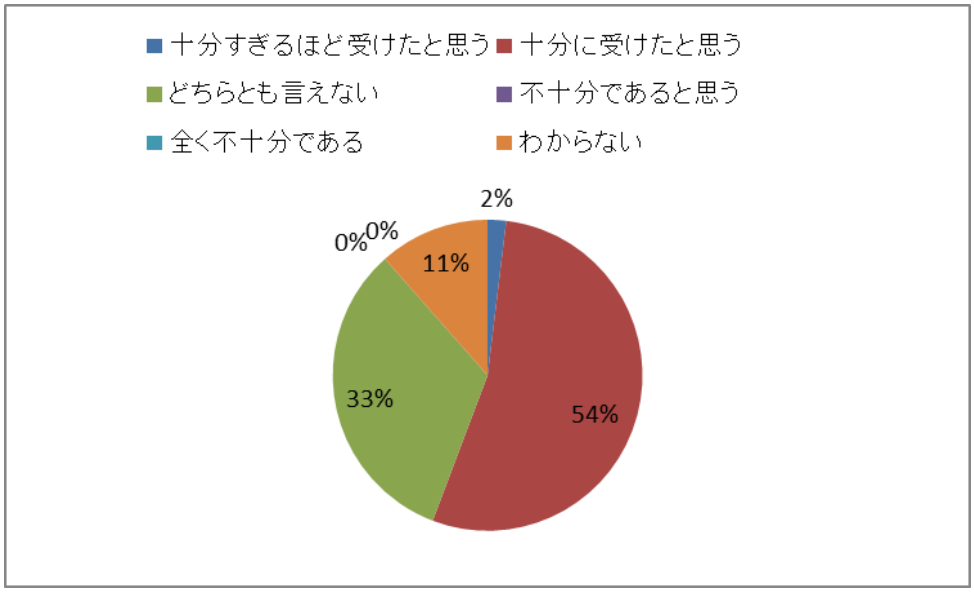
（出典　評価委員会資料）

資料６－１－⑤－４の続き

問６．　専門分野の知識（基礎技術）やそれを応用する能力に関して，評価対象者は舞鶴高専において，これらの教育を十分に受けたと思われますか。



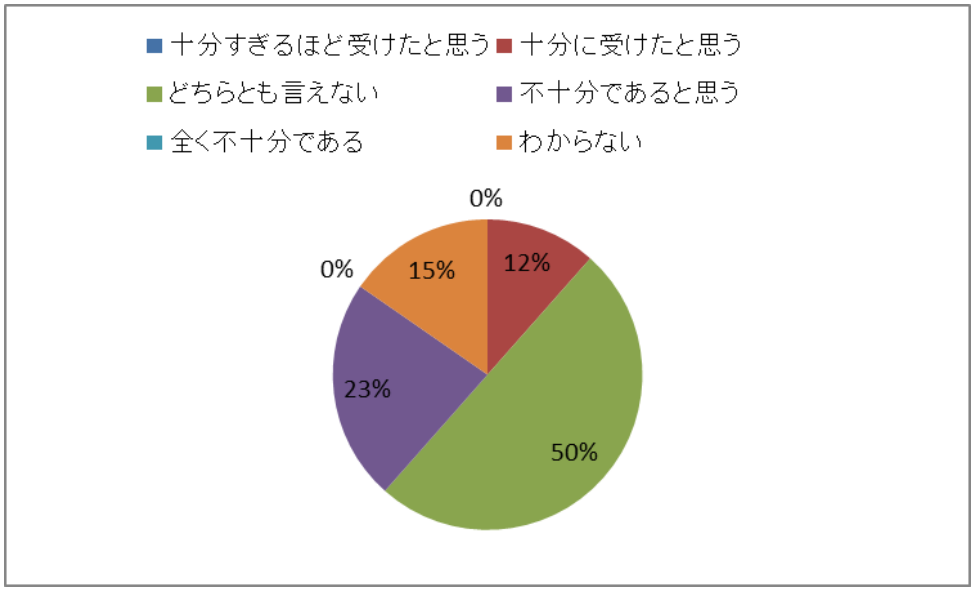
問７．　基本的な情報技術に関する知識やそれを応用する能力に関して，評価対象者は舞鶴高専において，これらの教育を十分に受けたと思われますか。



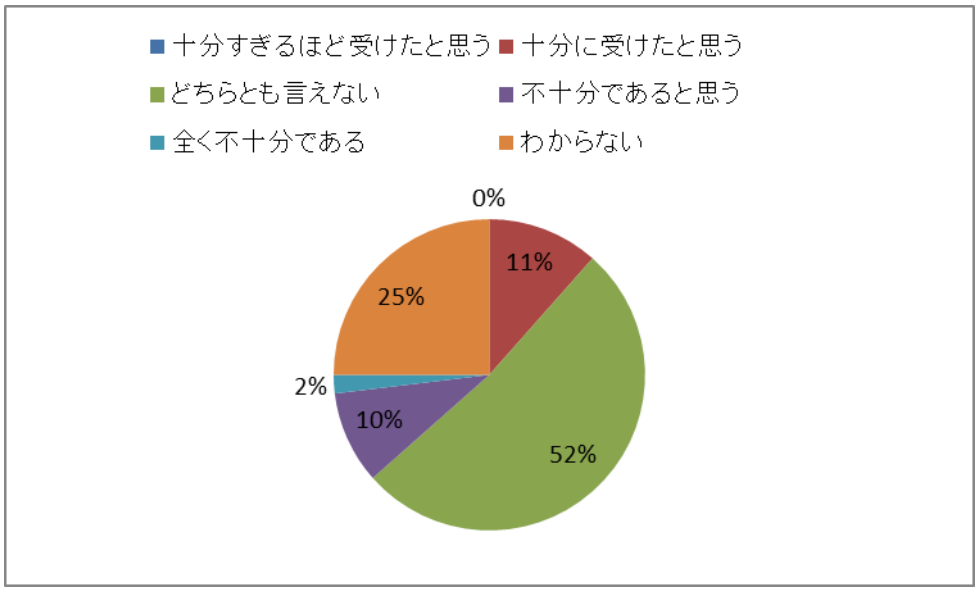
（出典　評価委員会資料）

資料６－１－⑤－４の続き

問８．　英語に関する知識や，英語によるコミュニケーション能力に関して，評価対象者は舞鶴高専において，これらの教育を十分に受けたと思われますか。



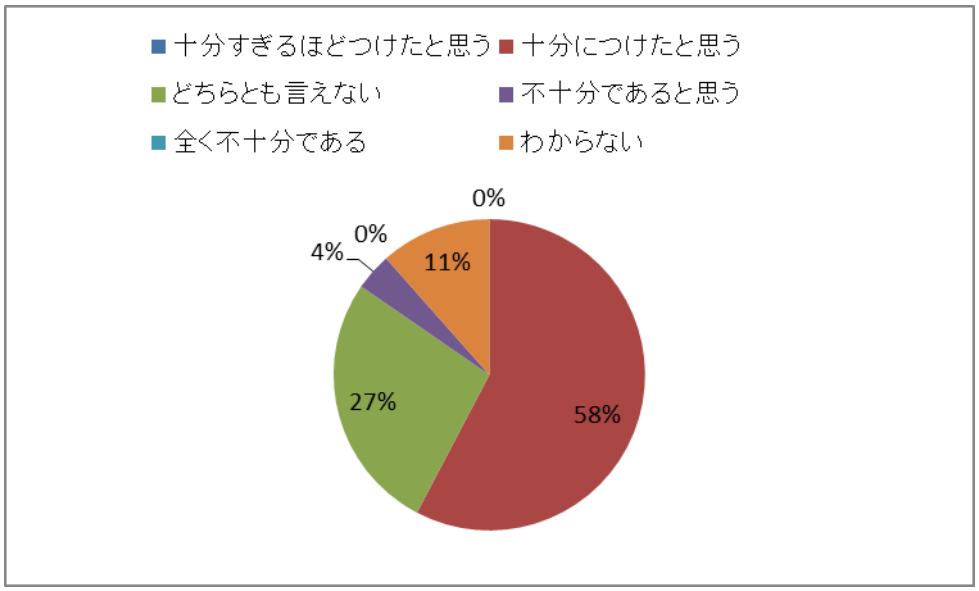
問９．　経済学，法学，倫理学などの知識や，それを応用する能力に関して，評価対象者は舞鶴高専において，これらの教育を十分に受けたと思われますか。



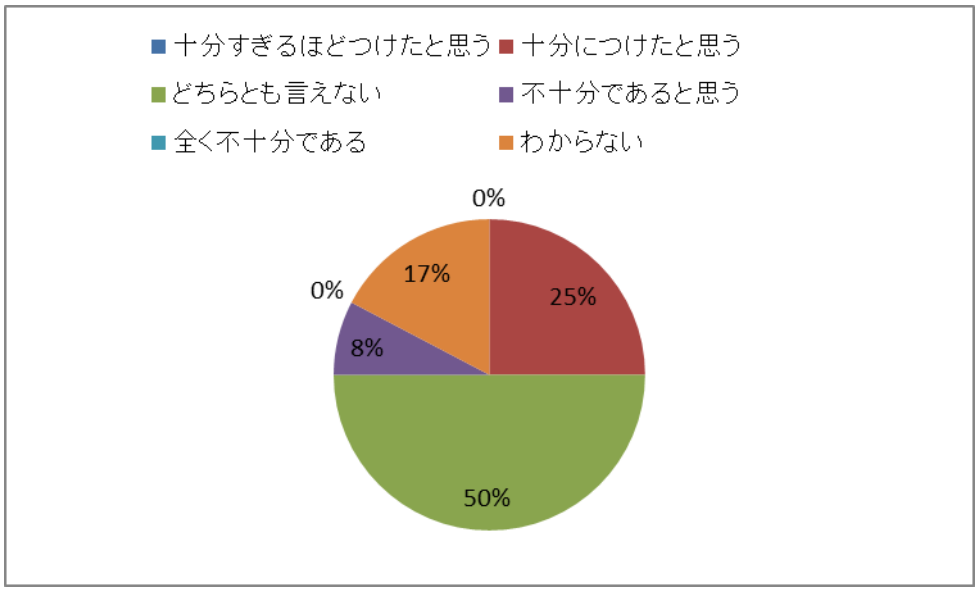
（出典　評価委員会資料）

資料６－１－⑤－４の続き

問１０．　評価対象者は，舞鶴高専での卒業研究・特別研究などを通じて課題を探求する能力や，課題を解決する能力を十分に身につけたと思われますか。



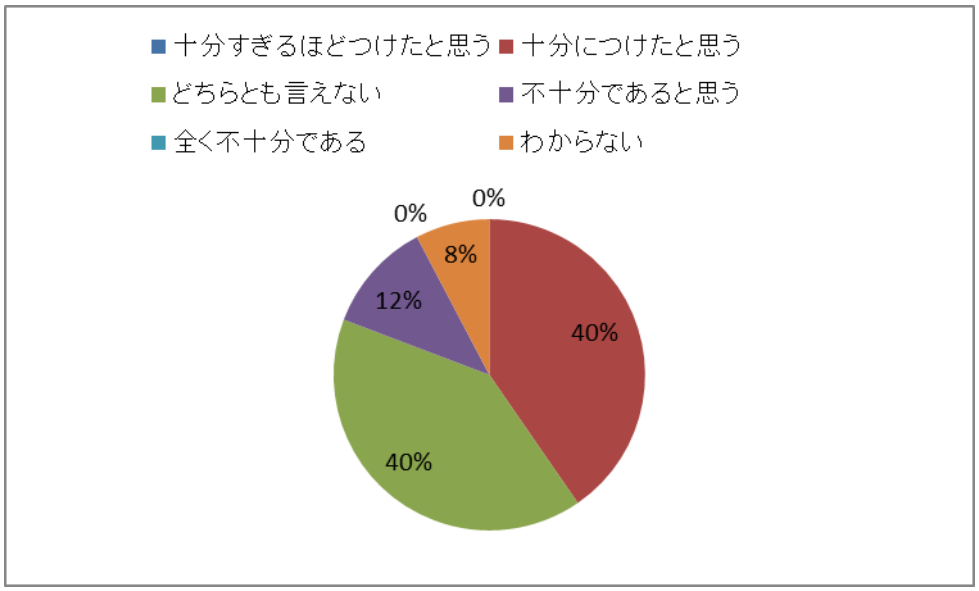
問１１．　評価対象者は，舞鶴高専において，グローバルな視点から多面的に物事を考える能力とその素養を身につけたと思われますか。



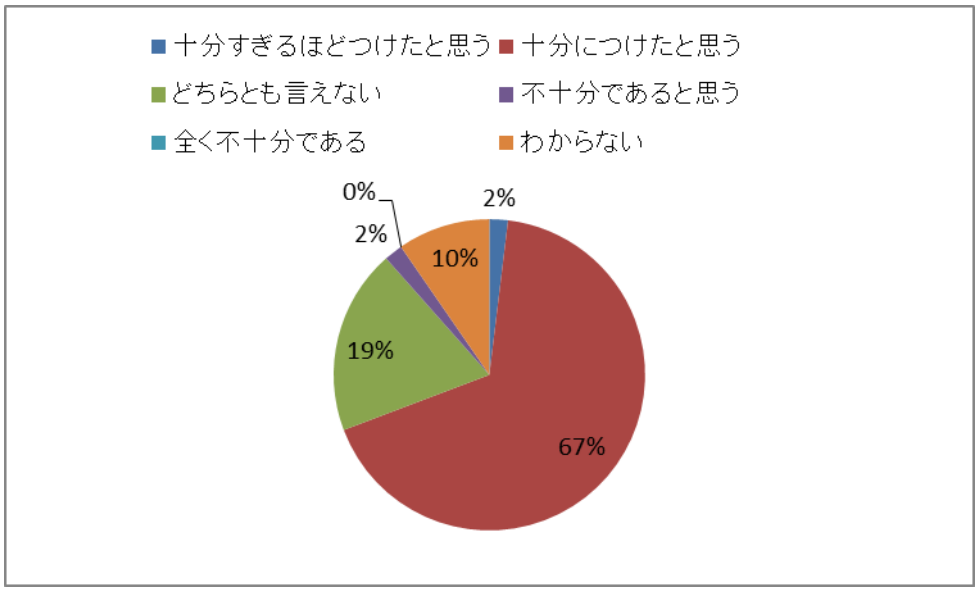
（出典　評価委員会資料）

資料６－１－⑤－４の続き

問１２．　評価対象者は，舞鶴高専において，論理的な記述力，口頭発表力，討議などのコミュニケーション能力を身につけたと思われますか。



問１３．　評価対象者は，舞鶴高専において，自主的，継続的に学習できる能力を身につけたと思われますか。



（出典　評価委員会資料）

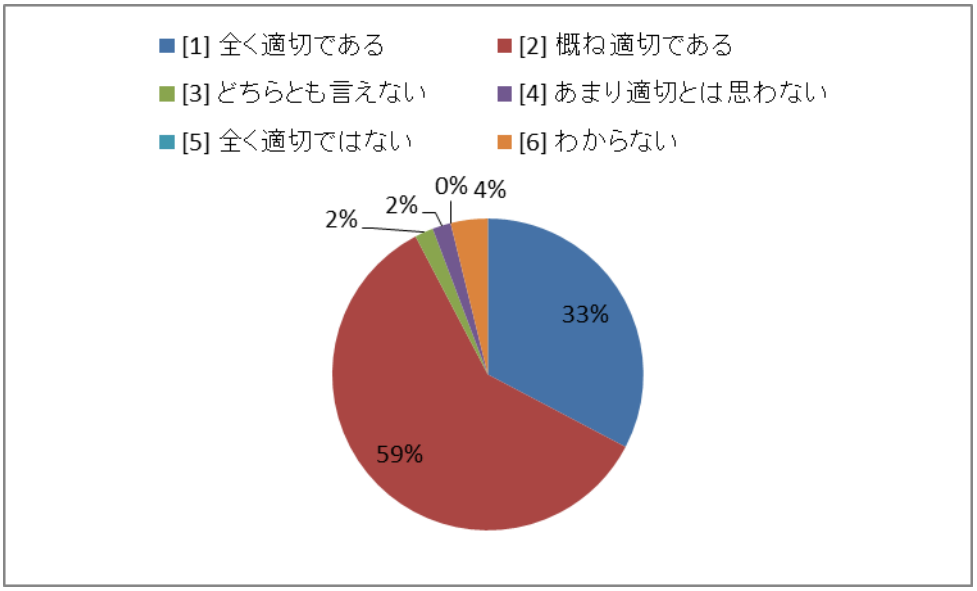
資料６―１―⑤－４の続き

３．学習・教育到達目標について

問１４．　本科の学習・教育到達目標として以下を設定しています。

A) 自然科学と工学の基礎を身につける
B) 専門分野の基礎知識を修得し，技術の実践に応用できる
C) 修得した知識を統合し，製品やシステムを考案できる
D) 実験・実習・演習により現象の理解を深め，実践力を身につける
E) 技術者に必要な人間性，国際性，協調性及び英語による基礎的なコミュニケーション能力を身につける
F) 技術が自然や社会に与える影響を理解し，技術者としての倫理観を身につける
G) 課題の提案・報告などを適切にまとめ，発表できる
H) コンピュータを技術の実践に活用できる

これらは適切と思われますか？



問１５．　前問で[4]または[5]と回答された場合，その理由をお書きください。

○語学力(特に英語)の習得が足りない

（出典　評価委員会資料）

資料６―１―⑤－４の続き

問１６．　専攻科の学習・教育到達目標として以下を設定しています。

A) 自然科学と工学の基礎を幅広く修得し，それを応用することができる

B) 専門分野の基礎知識を修得し，それを実際の技術の問題に応用することができる

C) 修得した知識を統合して，社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発する創造的能力と意欲を有する

D) 実験・実習・演習を通じて現象を分析・解析することができる

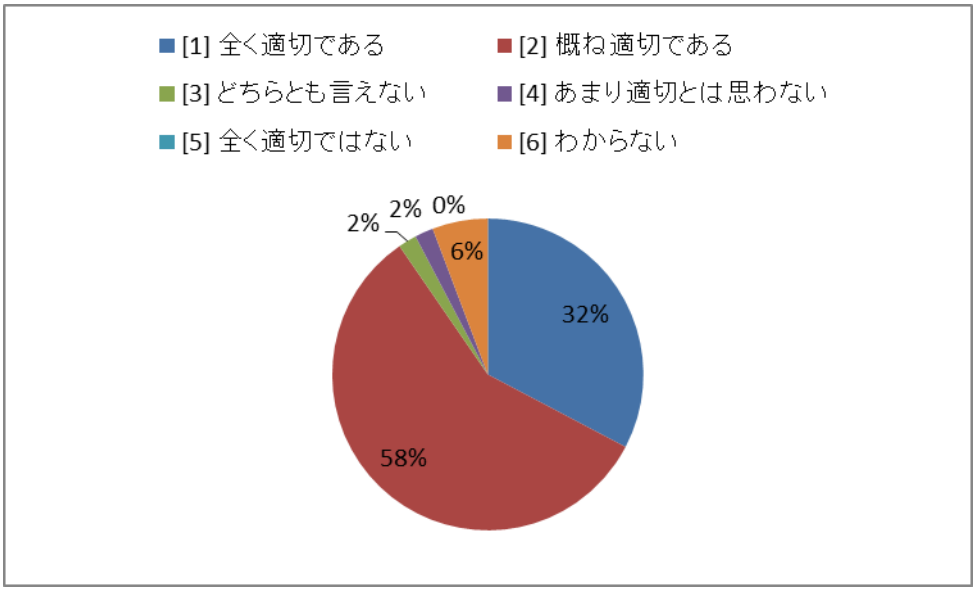
E) 豊かな人間性，国際性，協調性及び英語によるコミュニケーション能力を身につける

F) 技術が持つ地球的，社会的影響の重要性と技術者の倫理的責任を理解し，説明することができる

G)課題の提案・報告などを効果的に記述し，説明することができる

H)ｺﾝﾋﾟｭｰﾀをはじめ実践に必要なスキルと最新の工学ツールを活用することができる

これらは適切と思われますか？



問１７．　前問で[4]または[5]と回答された場合，その理由をお書きください。

○語学力(特に英語)の習得が足りない

（出典　評価委員会資料）

資料６―１―⑤－４の続き

４．求めておられる「自立した技術者像」について

問１８．　本校では「育成しようとする自立した技術者像」を定めようとしています。求めておられる「自立した技術者像」のイメージがありましたらお書きください。

〇弊社では「人間力」「現場力」を社員に求めています。
≪人間力≫
礼儀正しい，感謝の気持ち，整理整頓＆清潔，謙虚な気持ち，チャレンジする
≪現場力≫
緊急対応力，労務差配力，改善提案力，意思疎通力，センサー力，共同・段取力
〇常に一歩進んだ品質・技術を目指し，能動的に技術力向上に取り組み，それを後の世代に継承していく技術者。
〇豊富な経験と現場力を有して顧客から信頼され，責任感のあるリーダーとして自己研鑽により能力を高めていける能動的な人。※孤立ではない。
〇弊社では生産技術者としての活躍を期待している。『顕在化している技術課題を，自らが解決するだけでなく，潜在化している技術課題を，自らが設定し，解決に導く。』そんな技術者であって欲しい。
〇担当分野だけでなく，多面的に物事を判断できる
〇「担当工事における知識・技術の取得を基礎」として「コミュニケーション」が取れ，「提案力」を身に着けることを主眼としている。
〇問題に対し指示を待つのではなく，自らの意思で粘り強く取り組み，最後まであきらめない技術者
〇工学の基礎とそれを応用する力，また教養を身につけ，どのような職務についたとしても，その業務に必要とされる技能を短期に習得することができる。社内外において，円滑な人間関係を築くことができる。困難に直面した時にも，的確に問題解決策を見いだすことができる。
〇何事にもチャレンジングで失敗しても，くじけない強固な精神を持っている技術者
〇まずは疑問を持つ力を持った技術者であり，探究心と論理的考察とともに技術課題に取り組むような技術者を求めています。
〇自らの専門としている分野以外のことでも何にでも興味を持ち(好奇心が旺盛)，自ら考え，行動し，明るく周りを巻き込むことができる人物
〇仕事に対して自発的に取組み完結に向け行動できる人物
〇技術者として求められる知識・技能のみならず，コミュニケーション能力の高い技術者であり，何にでも興味を持つ，探究心の強い技術者を求めております。
〇貴校が掲げられている学習・基本目標の内容を兼ね備えておられる技術者であれば十分社会に通用する技術者と考えます。あとは，色々な分野の方との接触もあることから，協調性があることが重要と考えます。
〇自ら課題を発見しようとする姿勢と能力。「やってみます」という態度。固定観念にとらわれない柔軟な発想。
〇疑問や興味に対する探究心をもち，人をうまく巻き込む能力を発揮できる人材
〇何事においても受動的ではなく，能動的に考え・取り組むことが出来る。また，どんな困難な状況であっても，やり遂げる責任感と精神を合わせ持つ人材。
〇守：最初は既存の技術を吸収できる能力　破：既存の技術を脱却できる能力　離：新しい物を作り出す能力
それぞれ 10 年スパンで進化して欲しい。
〇幅広い知識・技術を保持すると共に，特定分野の専門性を有するような技術者。（いわゆる「T型」技術者）
〇企業や組織が目指している技術に対して，自身で課題や問題点を洗い出し，自己成長ができる方。お客様の要望を汲み取り，臨機応変に対応できる方。
〇新しいモノを生み出す力のある人。助け合うことのできる人。責任感と使命感を持てる人。努力を惜しまない人。
〇明るく元気で，何事にも根気よく取り組む姿勢のある人。社交的・協調的でコミュニケーションの取れる人，リーダーシップを取れる人。ものづくりが好きで，製品に対する好奇心・探究心のある人。英語に対して苦手意識が強くない人。
〇常に疑問・興味の意識を強く持ち，自ら進んで勉学に励む姿勢のある人物を求めています。特に，興味は持つが，途中で投げ出してしまう人物では困る。即ち，興味以上に，疑問を強く持ち，前向きに且つ，明るさを兼ね備えた人物は，自立した技術者になるのでは。また，企業側の求める人物では。同じ失敗を繰り返されれば困るが，失敗を恐れず，特に失敗を素直に認め，速報告できる人物。最後には，各方面の人の教えを素直に聞くことができ，明るい人物。
〇高い当事者意識と熱意をもって仕事に取り組む。広い視野とスピード感をもって仕事に取り組む。
〇高い志と独自の視点，さらには強烈な目標達成意欲を持ち，現場・顧客視点で高い価値を提供し続けることができる人材

（出典　評価委員会資料）

資料６―１―⑤－４の続き

５．学科構成・学科名称等について

問１９．　本校には，本科に「機械工学科」「電気情報工学科」「電子制御工学科」「建設システム工学科」の4学科と，専攻科に「電気・制御システム工学専攻」「建設・生産システム工学専攻」の２専攻が設置されています。これからも社会から求められる実践的かつ専門的な知識及び技術を有する創造的な人材を育成する高等教育機関として，引き続き教育の内容や質の向上に努めていきたいと考えています。つきましては，現在の学科構成・学科名称等につきましてご意見・ご要望等ございましたら以下にお書きください。

〇化学系･材料系の学科があると，教育の幅がより広がると思います。
〇高専，大学を含め学科名から｢土木｣の文字が消えつつあることは寂しいことと感じています。
〇電気情報工と電子制御工の各学科において，ハード面とソフト面のすみわけを望みます。

６．その他

舞鶴高専の教育等に対するご意見・ご要望等ございましたら，以下にお書きください。

〇対象者１名は，平成２４年４月入社の新入社員です。１０月１日まで研修中のため，御校教育の効果の確認は，現時点では不可能です。
〇御校の生徒だけに限ったことではございませんが，近年の新卒者は，こちらからの問い掛けや，話し掛けたことに返事等ができない方が多いです。学科や科目のスキルアップも結構ですが，学生達が将来社会に出られた時の社会的ルールの教育も必要ではないでしょうか。
〇学校での勉強は，社会ですぐに役に立ち，学校での勉強がよく出来たから社会での良い人材とは限らないと考えます。人に好かれ，常に素直で前向きな人物を専門教育を通じ育てていただければと考えます。学校では，当然専門的な勉強をするでしょうが，社会では，壁や，疑問等を，どの切り口から勉強し，解決するかが必要で，「勉強の仕方」を習得した人物こそ成長すると考えます。併せて，コミュニーションが自然ととれる人物を育てていただければと思います。社会に出てからが勝負で，出来る人物（技術者）は社会に出てから作られていくと考えます。
〇①英語教育の拡充　：目標を設定し，資格取得を目指す（TOEIC 等）
　②論理的な思考能力及び，発表能力　：バックデータに基づいたロジカルな話し方
　以上２点の教育拡充のご検討をお願いします。
〇貴校卒業生が本年度（平成２４年４月１日入社）初めて入社され非常に期待しているところです。技術者としの基本並びに人間性として非常に高いものを兼ね備えており，貴校での学生生活の中で築かれてきたものと思います。また，貴校来春卒業予定者の採用内定も出ており，引き続き期待しております。
〇何事にもおいても前向きに積極的に取り組み，投げ出さず，やり遂げる事の出来る人間を育成して下さい。
〇在学中に，公的資格を取得するよう推奨する指導があると良かった（本人談）。会社においては，資格を有することが，本人の処遇 UP につながる。同期入社の会社内専門学校卒のメンバー（在学中に資格取得実績アリ）に比べ，ハンデを感じる部分があると思う。
〇今後とも宜しくお願いいたします。
〇舞鶴高専に対してということでは特にありません。一般論としての私見ですが技術の幅と深さこのどちらに進むかは本人の資質だと考えますがどちらにでも進みうる骨格を学べたら学生は幸せだと考えます。
〇弊社へ入社いただいた貴校卒業生は，会社の期待に十分応えられる資質と姿勢を示してくれており，頼もしく感じております。
〇専門的な知識・資格等は入社してからでも充分に習得可能である。一番大事な事は元気・やる気・根気だと思う。
〇問４～問１３の設問に関しては当然ながら個人差があると考えています。また，身につけた能力が貴校における教育によるものか否か，判断が難しいところもあるかと考えます。しかしながら，貴校の卒業生の能力については一定程度高い評価をしておりますので，付言しておきたいと思います。また，京都府北部に立地する数少ない高等教育機関である貴校には，人材輩出という点において大いに期待しておりますので，引き続き教育内容の充実にご尽力いただくようお願いします。

（出典　評価委員会資料）

（分析結果とその根拠理由）

「１．自然科学」，「2．専門知識（座学系）」および「3．専門知識（実験・実習系）」においては，業務における要求度，高専での教育の満足度ともに比較的高い評価値を示している。一方「4．基本的な情報技術」は，業務における要求度は比較的高いが，高専での教育の満足度はやや低い結果となっている。時代の流れを考慮した改善が必要である。「5．英語によるコミュニケーション」は業務における要求度に対して，高専で受けた教育の満足度は全評価項目の中で最も低い結果となっており，企業からの教育評価値も低い。この傾向は平成20年度のアンケート結果とほぼ同じであり，更なる改善が必要であることを示唆している。またこの傾向は，「6．哲学（倫理学）・法学・経済学など」においてもほぼ同様であり改善の必要がある。「7．卒業研究・特別研究」では，卒業生・修了生の満足度および企業からの教育評価値はあまり高くない。今回初めてアンケートを行った「8．学習・教育到達目標（本科）」，「9．学習・教育到達目標（専攻科）」は，卒業生・修了生および企業より高い評価値が得られており，本校の学習・教育到達目標の妥当性が示されたものと考えられる。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

就職が厳しい状況であっても就職率はほぼ100％を維持しており，求人倍率は専攻科課程の修了生に対し85倍，準学士課程卒業生に対し20倍と非常に高い。進学を希望する学生もほぼ全員が大学編入学，専攻科入学，大学院入学を果たしている。進学先はほとんどが国公立大学であり，推薦での入学を果たす学生も多い。これら進路状況から，就職先，進学先の本校卒業生，修了生に対する評価が高いことがわかる。卒業（修了）生や就職先を対象とした，本校卒業（修了）生の学力や資質・能力などについてのアンケートにおいても，本校における教育に対する評価は，英語によるコミュニケーション能力を除けば良好である。

専攻科課程の学生による学習・教育到達目標に対する達成度評価においては，約９割の学生が達成したと回答している。専攻科課程の多くの学生が研究成果の学会発表を行っている。専攻科課程の学生は高い目的意識を持って学習し，本校における教育が効果的でその成果が高いことがわかる。

（改善を要する点）

英語によるコミュニケーション能力の育成が課題である。学生自身の達成度評価，就職先の卒業（修了）生に対する評価ともに，英語によるコミュニケーション能力については低いため，改善が望まれる。

（３）基準６の自己評価の概要

教育目的に沿って「学習・教育到達目標」が定められ，また「学習・教育到達目標」の各項目に対応する科目が適切に設定されている。進級，卒業，修了の時点で，「学習・教育到達目標」に対する到達度が要求するレベルに合わせて，進級，卒業，修了に関する規則を定めている。この規則を適切に運用し，進級，卒業，修了の認定を行っているので，学生は進級，卒業，修了時に，それぞれの段階で本校が養成しようとしている人材としてふさわしい学力や資質・能力を身に付けていることが保証される。したがって本校においては，「学習・教育到達目標」に対する達成状況を把握，評価するための取組が適切に行われている。

単位修得率，授業科目平均点，進級率，修了率，学位取得試験合格率，学協会の発表件数などは十分高い数値を示している。ほとんどの学生は要求される学力を，準学士課程の各学年または専攻科課程で身に付けており，教育の成果，効果が認められる。

就職率はほぼ100％を維持しており，求人倍率も非常に高く，本校卒業（修了）生の能力が高く評価されていることがわかる。進学に関してもその希望者のほぼ全員が専攻科入学，大学編入学，大学院入学を果たしている。進学先はより専門性を高められる教育機関になっている。推薦入学を認められる学生も多く，本校の専門分野教育の成果が評価されていることがわかる。

学生が行う達成度評価において，英語によるコミュニケーション能力に関する達成度評価が，他の評価項目と比較すると低い。英語eラーニングシステムの更新など，英語教育の充実や改革は継続されている。その他の項目は十分に高い評価であるので，学生が行う評価からも教育の成果がうかがえる。

卒業（修了）生や進路先への，学生が在学中に身に付ける学力や資質・能力に関するアンケート調査は平成２０年度に引き続き平成２４年度にも実施している。ここでも学生が行う達成度評価と同様に英語によるコミュニケーション能力に関する評価が他の調査項目と比較すると低い。その他の項目は中間的な評価かそれより高い評価を得ているので，卒業（修了）生や進路先による評価からも，教育の成果や効果が概ね上がっていると考えられる。

基準７　学生支援等

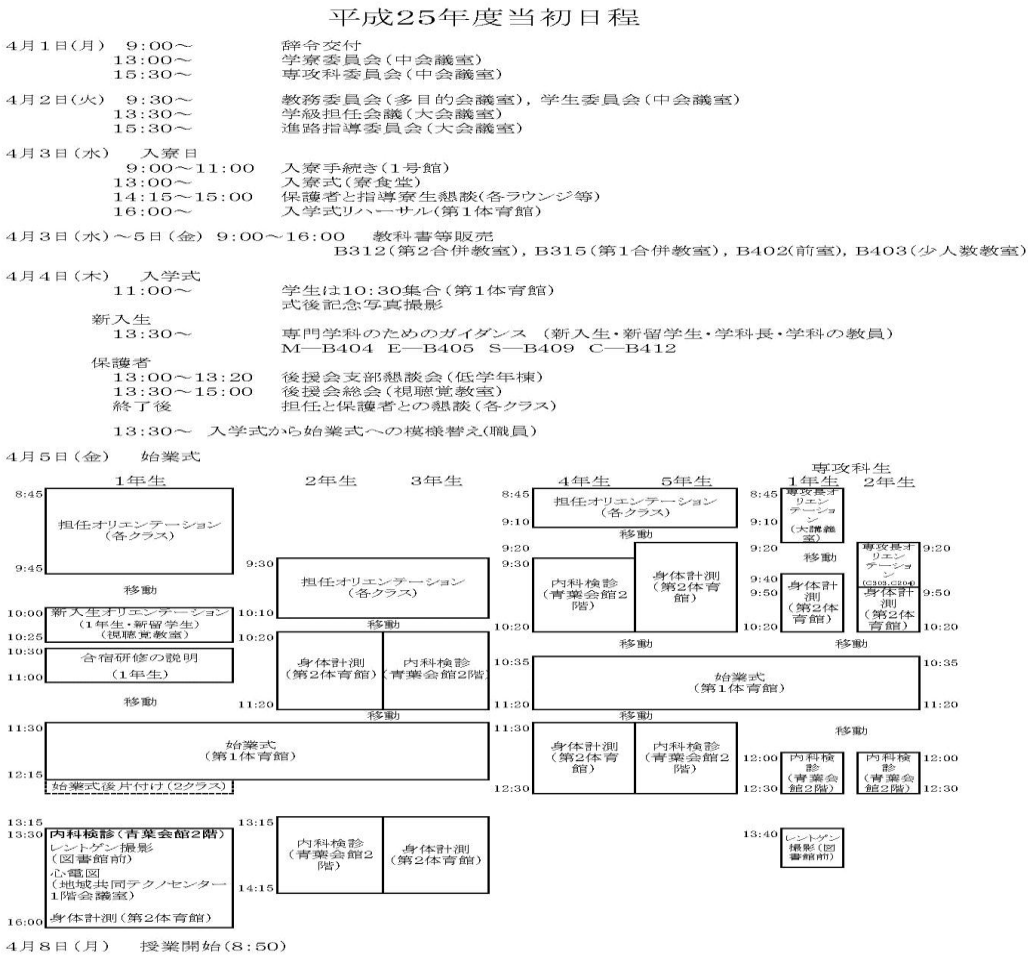
（１） 観点ごとの分析

観点７－１－①：　学習を進める上でのガイダンスが整備され，適切に実施されているか。また，学生の自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

学習を進める上でのガイダンスとして，オリエンテーションやホームルームが整備され実施されている。入学式当日には新入生に対して「専門学科のためのガイダンス」，始業式当日には新入生に対して「新入生オリエンテーション」と２年生以上に対して「担任オリエンテーション」が実施されている（資料７―１―①―１）。また新入生合宿研修では新１年生に対して「学生生活の手引き」（資料７―１―①―２）を配布して説明している。

資料７―１―①―１



（出典　学生課教務掛資料）

資料７―１―①―２

目　　次

第１章　学生生活を始めるに当たって

１．１　新しく入学してきた皆さんへの最初のアドバイス・・・・・・・・・・・・・１

第２章　技術者に求められていること

２．１　人間としての常識・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・３
２．２　一般的なエチケット・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・４
２．３　エンジニアとしての心構え・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・５

第３章　高専での学習の方法

３．１　ノートの作り方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・６
３．２　授業の受け方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・８
３．３　試験前の勉強・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・９
３．４　レポートの作り方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１１
３．５　効果的な勉強法・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・１３

（出典 学生生活の手引き）

準学士課程の学生に対しては，選択科目の履修にあたって「並列開講・専門共通選択科目の履修手続」（資料７―１―①―３）の配布による説明や，担任による修得単位の確認（資料７―１―①―４），特別活動としてのホームルーム，４年生に対する生産・情報基礎工学教育プログラム（ＪＡＢＥＥ）説明会（資料７―１―①―５）などが実施されている。

資料７―１―①―３

並列開講・専門共通選択科目の履修手続きについて

各学年で開設されている科目は，原則として全科目履修することになります。しかし，同一時間帯に複数科目開設されている場合，以下に従って履修手続きをしてください。

１．受講願及び変更願の提出について

（１）「同時に開講される科目内容概略」を見て，次年度で取るべき履修科目の単位数を考慮して，自分が履修したいと思う科目を決める。
（２）履修したい科目（履修希望科目）が決定したら，配付した並列開講・専門共通選択科目受講願（以下「受講願」という。）の用紙に記入し，学生課教務係に提出すること。（一般科目・人文系は前・後期（Ⅰ・Ⅱ）セット受講とし，第２希望まで記入すること。）
　なお，履修希望科目を変更したい場合は，並列開講・専門共通選択科目変更願（以下「変更願」という。）を学生課教務係に提出すること。ただし，定員を超えるときは変更願を受理しない場合がある。
（３）受講願の提出期限は平成２５年２月１日（金）である。
　また，変更願の提出期限は，前・後期授業開始後２週間以内である。
（４）受講願及び変更願を提出しなかった者は，当該科目を受講することはできない。
（５）各科目の定員は，原則として４０名である。

２．受講者の決定は，次のようにして決める。

（１）受講希望者が定員を超えていないときは，原則として受講希望者全員を当該科目の受講者とする。ただし，受講希望者数が著しく少ない場合は，当該科目担当教員と協議の上，開講の有無を決める。
（２）受講希望者数が定員を超えたときは，当該科目担当教員と協議の上，受講者を決める。
（３）並列開講科目の受講者が決定したときは，受講者名簿を学生掲示板に掲示する。（４月１日以降）

３．受講科目の確認
　受講者決定後は，履修科目一覧（控）に各自記入し，常に受講状況を確認しながら学習を進めてください。

―1―

（出典　学生課教務係資料）

資料７―１―①―３の続き

同時に開講される科目内容概略

（注）講師は非常勤講師を示す。

一般科目

４年

●国語国文Ⅰ・Ⅱ（前期・後期）　村上教員（１単位）

開講当初の４月～６月にかけては，就職・進学に直結した履歴書・自己紹介文・小論文等の指導に本講を当てる。それ以降は，「悪文の診断と治療」と題して，過去３年間の総復習を兼ねた実践的な文章トレーニングを行う。なお，教科書を用いず，適宜プリント等をこちらで用意し，読本等については講義中に指示する。（前期を受講していなければ，後期の受講資格無し）

●ドイツ語Ⅰ（前期）　石澤講師（１単位）

親しみやすい内容の教科書に沿って，発音規則からスタートし，ドイツ語初級文法の基礎を学習していく。その過程で日常会話の表現やドイツの文化・制度などもあわせて学び，ドイツという国に興味を持ってもらうとともに，ドイツ文化の総合的理解の第一歩となることを目指す。

ドイツ語Ⅱ（後期）　石澤講師（１単位）

ドイツ語Ⅰで身につけた基礎の上に，より高度な文法規則を学習していく。文法事項の説明の際には英語との比較等を行うので，英文法の再確認にもなることと思う。この先の独習も可能になるように，初級文法全体の習得を目指す。

●中国語Ⅰ（前期）　藤井講師（１単位）

世界の言語の中で最大の使用人口を誇る中国語。ここでは中国全土で広く使われる，北京語を基にした“普通話”を学ぶ。ピンイン・声調・簡体字等，中国語（普通話）の基礎からスタートする。

中国語Ⅱ（後期）　藤井講師（１単位）

中国語Ⅰで学習した基礎の上に，簡単な聴きとりや会話・作文等の応用を加えていく。テキストの内容だけにとどまらず，今の中国の文化や社会を知ることで，中国人や中国語に対する興味を持ち，楽しく中国語の基礎を身に付けていってほしい。（中国語Ⅰを履修している。もしくは中国語の基礎を学習済みである。）

●心と癒しⅠ（宗教の根源）（前期）　垂谷教員（１単位）

近代以降，既成宗教を含め伝統的価値観が十分に機能し難くなり，各人のアイデンティティ形成も困難になっている。現代において，かけがえのない「いのち」の回復が可能であるのかの問いを「宗教と心理」の関係として考察する。Ⅰでは，現代の時代状況，宗教学・心理学・哲学の歴史的背景を辿りながら，理論的に考える。（受講者は授業に主体的に取り組むこと。）

心と癒しⅡ（宗教と心理）（後期）　垂谷教員（１単位）

前期授業Ⅰの理論的考察を踏まえて，後期Ⅱにおいては，宗教の実践や心理療法の複数の具体例を見ていきながら，文化流行としての新宗教やポップ心理学の問題性・危険性を考え，むしろ，太古からのシャーマニズムを参考にしながら，現代における各人の「いのち」の回復の可能性を探ってみたい。（受講者は授業に主体的に取り組むこと。）

―5―

（出典 学生課教務係資料）

資料７―１―①―４

平成２５年度修得単位確認票

平成２４年度までに修得した単位数の合計を記入して，担任まで提出してください。

１年生からの単位数は，平成２４年度の学生便覧の別表１，２又はシラバスに載っていますから，参照してください。

本年度のカリキュラムで修得しなければならない単位数は，２５年度の学生便覧を参照してください。

学年　　組　　番　　氏名

一般科目の合計	
専門科目の合計	
合計	
平成２５年度末までに	
修得すべき単位数	

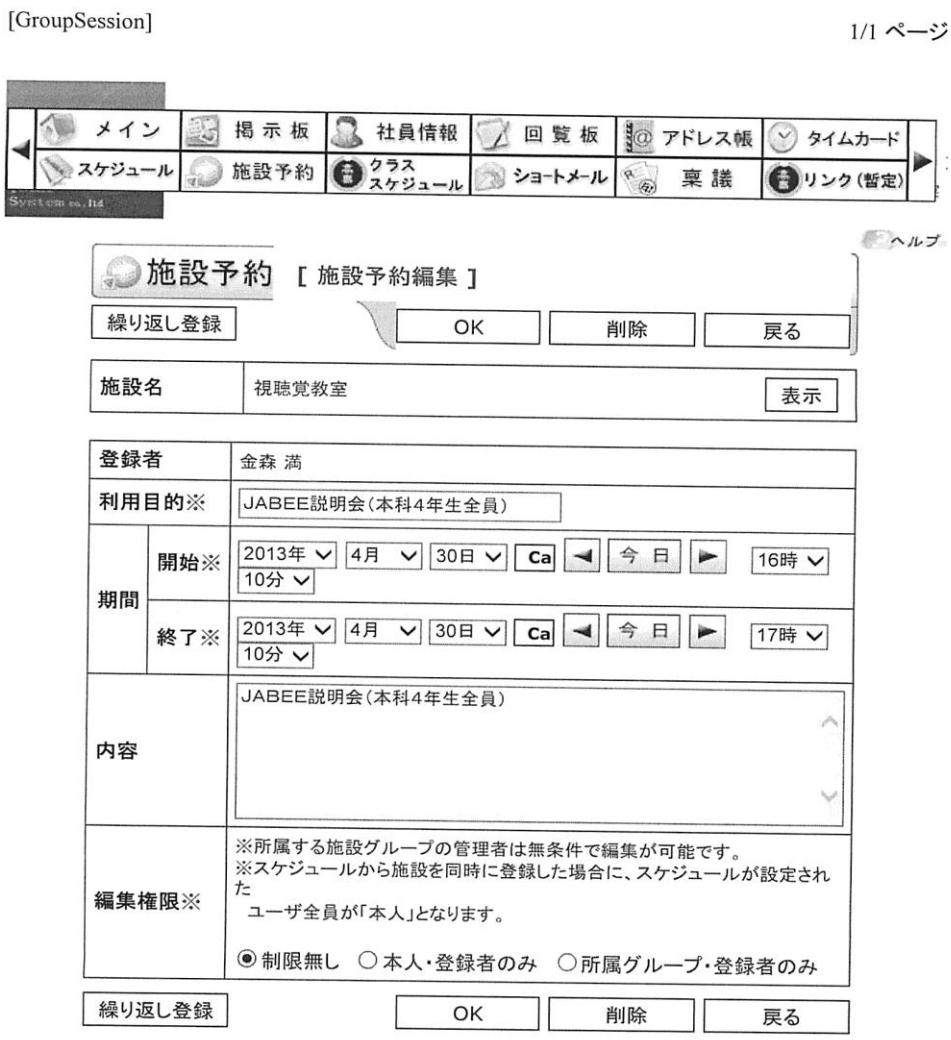
平成２５年度修得単位確認票

学年　　組　　番　　氏名

一般科目の合計	
専門科目の合計	
合計	
平成２５年度末までに	
修得すべき単位数	

（出典 学生課教務係資料）

資料７―１―①―５



（出典 グループセッション）

専攻科生に対しては，１年次に「専攻科新入生オリエンテーション」（資料７―１―①―６）や生産・情報基礎工学教育プログラム到達度確認表（資料７―１―①―７）の説明会，さらに２年次に学位申請説明会（資料７―１―①―８）が実施されている。

資料７―１―①―６

平成２５年度新入生オリエンテーションについて

標記のオリエンテーションを下記のとおり行いますので，出席してください。

記

【入学生】

１．日　時　　平成２５年４月５日（金）　８：４５～９：１５
２．場　所　　専攻科棟３Ｆ大講義室
３．内　容　　専攻科長挨拶　　８：４５～８：５０
事務からの連絡　　８：５５～９：００
各専攻説明（専攻長）　９：００～９：１５
大講義室　　電気・制御
セミナー室(C-203)　建設・機械

【２年生】

１．日　時　　平成２５年４月５日（金）　９：２０～９：４５
２．場　所　　ＥＳ　　専攻科棟３Ｆ　講義室　（Ｃ－３０３）
ＣＭ　　専攻科棟２Ｆ　セミナー室　（Ｃ－２０３）
３．内　容　　専攻長挨拶・事務連絡等　時間適宜
専攻科長挨拶　（先にES専攻で、あとでCM専攻）

（出典　学生課資料）

資料７―１―①―６の続き

5 April 2013

専攻科新入生オリエンテーション資料

ES 専攻長　野間 正泰

◎今日の予定

・ 8:45～ 9:15　新入生オリエンテーション
・ 9:20～13:30　女子：内科検診，身体計測，レントゲン撮影
　　（地域共同テクノセンター１Ｆ，第２体育館，図書館前，青葉会館２Ｆ）
・ 9:40～14:00　男子：内科検診，身体計測，レントゲン撮影
　　（地域共同テクノセンター１Ｆ，第２体育館，図書館前，青葉会館２Ｆ）
・10:35～11:20　始業式（第１体育館）

◎研究室配属等

・４月　８日（月）授業開始
・４月　９日（火）５～８限　教員による特別研究内容の説明（3F 講義室）
・４月１１日（木）３～６限　学生の研究室訪問
・４月１１日（木）７，８限　研究室配属決定（14:25 に 3F 講義室に集合）

◎専攻長からの連絡方法

・各種連絡は，主に携帯電話の Mail または通話により行う．

◎掃除当番

○日常の掃除（専攻科棟３Ｆ全体）
４月 河南，５月 朝日，６月 奥西，７月 郷橋，８月 小阪，９月 谷口，10 月 元川，
11 月 中村，12 月 小室，１月 河南，２月 朝日，３月 奥西

○環境美化時の掃除
全員参加すること．

◎特別実験

・配付資料を参照すること．

◎その他

・ES 研究室（C-301）を使いたい者は学生課課長補佐または教務係から鍵の貸与を受けること．
・４月 16 日（火）履修届の提出期限．
・４月 23 日（火）12:45～大講義室にて JABEE 説明会あり．全員参加すること．
・その他の予定は，掲示板を確認すること．

以上

（出典 学生課資料）

資料７―１―①―７

生産・情報基礎工学プログラム達成度確認シート

一覧表2012_4_03（H24年度4年生用）

分類		授業科目名	学年学期	必修選択の別	評価	単位数	時間数	授業時間							学習教育目標に対する関与の強度							
								学習内容の区分														
										専門分野												
										基礎工学												
								人文・社会科学	数学・自然科学・情報技術	設計・システム 1群	情報・論理	材料・バイ	力学 4群	社会技術 5群	専門工学	(A)	(B)	(C)	(D)	(E)	(F)	(G)	(H)
人文・社会科学	本科	総合英語ⅣA	1前	必修		1	25.0	25.0												◎			
		総合英語ⅣB	1後			1	25.0	25.0												◎			
		実践英会話Ⅰ	1前			1	25.0	25.0												◎			
		総合英語ⅤA	2前			1	25.0	25.0												◎			
		総合英語ⅤB	2後			1	25.0	25.0												◎			
		実践英会話Ⅱ	2後			1	25.0	25.0												◎			
		法学Ⅰ	1前	3単位以上修得		1	25.0	25.0												◎			
		法学Ⅱ	1後			1	25.0	25.0												◎			
		哲学	1後			1	25.0	25.0												◎			
		経済学	1前			1	25.0	25.0												◎			
		国語国文Ⅰ	1前			1	25.0	25.0												◎			
		ドイツ語Ⅰ				1	25.0	25.0												◎			
		中国語Ⅰ				1	25.0	25.0												◎			
		心と癒しⅠ				1	25.0	25.0												◎			
		金融工学Ⅰ				1	25.0	25.0												◎			
		国語国文Ⅱ	1後			1	25.0	25.0												◎			
		ドイツ語Ⅱ				1	25.0	25.0												◎			
		中国語Ⅱ				1	25.0	25.0												◎			
		心と癒しⅡ				1	25.0	25.0												◎			
		金融工学Ⅱ				1	25.0	25.0												◎			
		ドイツ文化論Ⅰ	2前			1	25.0	25.0												◎			
		韓国語Ⅰ				1	25.0	25.0												◎			
		現代社会と宗教Ⅰ				1	25.0	25.0												◎			
		現代日本の政治Ⅰ				1	25.0	25.0												◎			
		現代日本の経済と法Ⅰ				1	25.0	25.0												◎			
		ドイツ文化論Ⅱ	2後			1	25.0	25.0												◎			
		韓国語Ⅱ				1	25.0	25.0												◎			
		現代社会と宗教Ⅱ				1	25.0	25.0												◎			
		現代日本の政治Ⅱ				1	25.0	25.0												◎			
		現代日本の経済と法Ⅱ				1	25.0	25.0												◎			
		日本語C	1前	生（留学		1	25.0	25.0												◎			
		日本語D	1後			1	25.0	25.0												◎			
		日本語E	2前			1	25.0	25.0												◎			
		日本語F	2後			1	25.0	25.0												◎			
	専攻科	現代英語Ⅰ	3前	必修		2	25.0	25.0												◎			
		現代英語Ⅱ	3後	選択		2	25.0	25.0												◎			
		日本文化論	4後	選択		2	25.0	25.0												◎			
		経営学	3後	選択		2	25.0	25.0												◎			
	人文・社会科学合計																						
数学・自然科学・情報技術	本科	物理ⅢA	1前	2単位修得		1	25.0		25.0							◎							
		物理ⅢB				1	25.0		25.0							◎							
		化学ⅢA				1	25.0		25.0							◎							
		物理ⅢC	1後			1	25.0		25.0							◎							
		物理ⅢD				1	25.0		25.0							◎							
		化学ⅢB				1	25.0		25.0							◎							
		応用数学ⅠA	1前	必修		1	25.0		25.0							◎							
		応用数学ⅠB	1後	必修		1	25.0		25.0							◎							
		応用数学ⅡA	1前	必修		1	25.0		25.0							◎							
		応用数学ⅡB	1後	必修		1	25.0		25.0							◎							
		電子物理Ⅰ	2前	2単位修得		1	25.0		25.0							◎							
		シミュレーション工学Ⅰ				1	25.0		25.0														◎
		情報学Ⅰ				1	25.0		25.0														◎
		耐震工学A				1	25.0		25.0								◎						○
		電子物理Ⅱ	2後			1	25.0		25.0							◎							
		シミュレーション工学Ⅱ				1	25.0		25.0														◎
		情報学Ⅱ				1	25.0		25.0														◎
		耐震工学B				1	25.0		25.0								◎						
	専攻科	近代物理学	4前	選択		2	25.0		25.0							◎							
		応用解析1	3前	必修		2	25.0		25.0							◎							
		応用解析2	3後	必修		2	25.0		25.0							◎							
	数学・自然科学・情報技術合計																						
専門共通系	本科	システム工学Ⅰ	1前	1単位修得		1	25.0			25.0								◎					
		ネットワーク論Ⅰ				1	25.0				25.0												◎
		数値計算法Ⅰ				1	25.0				25.0												◎
		療規工学A				1	25.0								25.0						◎		
		システム工学Ⅱ	1後	1単位修得		1	25.0			25.0								◎					
		ネットワーク論Ⅱ				1	25.0				25.0												◎
		数値計算法Ⅱ				1	25.0				25.0												◎
		療規工学B				1	25.0								25.0						◎		
		計測概論Ⅰ	1前	1単位修得		1	25.0					25.0					◎						
		電気機器Ⅰ				1	25.0			25.0								◎					
		水力学Ⅱ				1	25.0						25.0					◎					
		数値解析				1	25.0				25.0												◎
		計測概論Ⅱ	1後	1単位修得		1	25.0					25.0					◎						
		電気機器Ⅱ				1	25.0			25.0								◎					
		ロボット工学Ⅰ				1	25.0						25.0					◎					
		工業外国語				1	25.0				25.0									◎			
		マリンエンジニアリングⅠ	2前	1単位修得		1	25.0								25.0			◎					
		電磁気計測Ⅰ				1	25.0									25.0		◎					
		画像処理Ⅰ				1	25.0				25.0												◎
		計画学A				1	25.0									25.0		◎					
		マリンエンジニアリングⅡ	2後	1単位修得		1	25.0								25.0			◎					
		電磁気計測Ⅱ				1	25.0									25.0		◎					
		画像処理Ⅱ				1	25.0				25.0												◎
		計画学B				1	25.0									25.0		◎					
	専攻科	システム設計学	3後	10単位以上修得		2	25.0			25.0							◎						
		応用情報工学	3前			2	25.0				25.0							○					◎
		ネットワークシステム論	4前			2	25.0				25.0												◎
		画像工学	3後			2	25.0				25.0												◎
		流体工学特論	3後			2	25.0						25.0					◎					
		先端材料工学	3前			2	25.0					25.0					◎						
		ロボットシステム制御	4前			2	25.0						25.0					◎					
		エネルギー工学	3前			2	25.0						25.0				◎						
		地球環境政策学	4前	必修		2	25.0								25.0						◎		
		技術者倫理	4前	必修		2	25.0								25.0						◎		

（出典　学生課資料）

資料７―１―①―８

（伺）

学位申請説明会の開催について

標記説明会を下記のとおり開催してよろしいか伺います。

記

実　施　日　　平成２４年５月３１日（木）１３：００～

場　　所　　専攻科棟大講義室

対　象　者　　専攻科２年生　（ES 専攻１０名　CM 専攻８名）

説　明　者　　新池専攻科長

専攻科生への配付資料

１．平成２４年度学位授与申請書類
２．新しい学士への途「学位授与申請案内」
３．「学士」をめざす方へ
４．機構から授与される学位を広く理解していただくために
５．学位申請の小論文試験報告書
６．大学における単位の専攻科認定の申請について
（該当者がないので配布省略）
７．住所変更届　（申請後、住所を変更する場合）

（出典　学生課資料）

学生が自主的学習を進める上での相談・助言を行う体制として，オフィスアワー（資料７―１―①―９）が設定されている．準学士課程では担任（1年生ではさらに副担任）（資料７―１―①―１０）が置かれ，専攻科では担任にあたる専攻長が置かれている。

資料７―１―①―９

平成24年度 オフィスアワー

オフィスアワー							
		場所	月	火	水	木	金
人文科学部門	三川 譲二	B-309	15:45～17:00				15:45～17:00
	村上美登志	B-301	15:45～17:00		14:50～16:30		
	松井 信義	B-305	15:45～17:00		14:50～16:30		
	荒川 吉孝	A-301				16:50～18:15	15:45～17:00
	垂谷 茂弘	B-307			16:50～18:15	16:50～18:15	
	田村 修一	B-303		16:50～18:15			15:45～17:00
	宮崎 操	B-306		15:00～17:30		16:50～17:30	
	吉永 進一	B-304		16:50～18:15	16:50～18:15		
	ジョナサン	A-303	15:45～17:00			14:50～16:30	
	児玉 圭司	A-302		16:50～18:15		14:50～16:30	
		場所	月	火	水	木	金
自然科学部門	宮野 敏男	A-210	15:00～17:00			15:00～17:00	
	背戸柳 実	A-214	15:00～17:00				
	小野伸一郎	B-302					
	亀谷 睦	A-212		15:00～17:00		15:00～17:00	
	宮崎 昭仁	T2	15:00～17:00				
	梅垣 浩二	A-207				15:00～16:00	
	小松 幸恵	A-213	16:00～17:00	16:50～18:00		15:00～18:00	
	上杉 智子	A-203		15:00～17:00	15:00～17:00		
	奥村 昌司	A-211		15:00～17:00		15:00～17:00	
	岡田 浩嗣	A-209	15:00～18:30	17:00～18:30	17:00～18:30	17:00～18:30	17:00～18:30
		場所	月	火	水	木	金
機械工学科	生水 雅之	A-114			16:40～18:30		
	西山 等	A-308				16:40～17:15	16:40～17:15
	谷川 博哉	A-304	14:50～17:15				
	篠原 正浩	A-305				16:40～18:30	
	鈴木 立人	制御棟1		16:40～18:30			
	山田耕一郎	A-307			16:40～18:30		
	豊田 香	A-313	14:50～16:30				16:40～17:15
	小林 洋平	A-311	16:40～17:15	16:40～17:15			
	野毛 宏文	A-204	17:30～18:30				17:30～18:30
	村上 信太郎	A-310	17:30～18:30				17:30～18:30
	室巻 孝郎	A-205		17:30～18:30		17:30～18:30	
		場所	月	火	水	木	金
電気情報工学科	新池 一弘	A-324		16:40～18:30		16:40～18:30	
	平地 克也	A-321			16:40～	16:40～	
	金山 光一	A-206		16:40～		16:40～	
	中川 重康	A-105	16:40～			16:40～	
	片山 英昭	A-323	16:40～		16:40～		
	竹澤 智樹	A-315		16:40～		16:40～	
	舩木 英岳	A-314		16:40～17:30		16:40～17:30	
	内海 淳志	A-105	16:40～17:30	16:40～17:30			
	芦澤 恵太	A-317		16:40～	16:40～		
	丹下 裕	A-312		16:40～		16:40～	
		場所	月	火	水	木	金
電子制御工学科	金森 満	A-322	16:40～17:30			17:30～	
	野間 正泰	制御棟2	15:00～17:00				
	奥村 幸彦	A-316	15:40～16:30		16:40～17:30		
	川田 昌克	A-202			15:00～17:30		
	町田 秀和	A-220			16:40～17:30		16:40～17:30
	仲川 力	制御棟3		17:30～			15:40～16:30
	清原 修二	A-320	16:40～17:30				16:40～17:30
	伊藤 稔	A-318		17:30～		16:40～17:30	
	石川 一平	A-309		16:40～17:30		17:30～	
	南 裕樹	A-201		16:40～17:30		16:40～17:30	
		場所	月	火	水	木	金
建設システム工学科	森尾 敏	A-306		16:50～17:30		16:50～17:30	
	三輪 浩	A-222		16:50～17:30		16:50～17:30	
	高谷 富也	A-216			16:50～17:30		16:50～17:30
	玉田 和也	A-217	16:50～17:30		16:50～17:30		
	尾上 亮介	A-208		16:50～17:30		16:50～17:30	
	四蔵 茂雄	X回折		16:50～17:30	16:50～17:30		
	宮元 健次	A-218		16:50～17:30			16:50～17:30
	加登 文学	A-215	16:50～17:30				16:50～17:30
	徳永 泰伸	A-221	16:50～17:30			16:50～17:30	
	坂本 英輔	A-219	16:50～17:30				16:50～17:30

※会議や出張等で不在の場合があります．
※上記時間外でも対応できる場合がありますので，各先生に相談してください．

（出典 学生課資料）

資料７－１－①－１０

[平成 25 年度用]　学生の身柄引き取りについて

舞鶴署から、学生の身柄引き取りの依頼があった場合には、まず、学生の所属学年・クラス・氏名及び寮生、下宿生、自宅生の別を御確認くださるようお願いいたします。

1. 午後 10 時までは

① 寮生については、寮監に身柄引き取りをお願いしておりますので、A寮監[内線[redacted]]に連絡をお願いいたします。

② 自宅通学の学生については、身柄引き取りは保護者に行っていただくことになっておりますので、その旨を相手方にお伝え下さい。

③ 下宿生については、担任教員に身柄引き取りをお願いしておりますので、下記のクラス担任へ御連絡ください。担任が不在の場合、背戸柳（090-[redacted]）または田村（[redacted]）岡田（090-[redacted]）山田（[redacted]）内海（090-[redacted]）川田（090-[redacted]）玉田（080-[redacted]）まで御連絡ください。

専攻科生については、専攻長不在の場合は専攻科長：金森（090-[redacted]）まで御連絡ください。

	M（1）	E（2）	S（3）	C（4）
1年生担任	松井　信義 080-[redacted]	小野　伸一郎 [redacted]	荒川　吉孝 [redacted]	宮野　敏男 090-[redacted]
1年生副担任	内海　淳志 090-[redacted]	宮元　健次 090-[redacted]	奥村　幸彦 [redacted]	西山　等 [redacted]
2年生担任	垂谷　茂弘 [redacted]	上杉　智子 090-[redacted]	田村　修一 [redacted]	宮崎　昭仁 070-[redacted]
3年生担任	小林　洋平 [redacted]	片山　英昭 [redacted]	町田　秀和 090-[redacted]	坂本　英輔 090-[redacted]
4年生担任	生水　雅之 090-[redacted]	芦澤　恵太 090-[redacted]	石川　一平 090-[redacted]	徳永　泰伸 090-[redacted]
5年生担任	野毛　宏文 090-[redacted]	丹下　裕 080-[redacted]	伊藤　稔 090-[redacted]	三輪　浩 [redacted]
専攻長	電気・制御 システム専攻	野間　正泰 [redacted]	建設・生産 システム専攻	谷川　博哉 [redacted]

2. 午後 10 時～翌朝 5 時までは

原則として、学生の身柄引き取りには行かないことになっていますので、本科生の場合は、背戸柳（[redacted]）または新池（090-[redacted]）まで、専攻科の学生の場合は金森（090-[redacted]）まで御連絡ください。

3. 市外の警察署などへは

学生の身柄引き取りは、保護者に行っていただくことになっていますので、その旨お伝えください。

4. 重大かつ緊急を要する場合

臨機応変の措置をとってください。

以上、お手数をおかけして申し訳ありませんが、よろしくお願いします。

[学生主事・寮務主事・学生課長]

身柄引き取りの際は、タクシーをご利用ください。チケットは、A寮監室（時間内は学生課）に備えてありますが、ない場合は、料金を一時お立て替えいただき、翌日領収書を呈示して学生支援係へ請求してください。

（出典 学生課資料）

（分析結果とその根拠理由）

学習を進める上での支援は，新入生合宿研修で高専での勉強法の指導が行われている。在学生に対しては，未修得単位の追試験や個別の達成度の自己評価による確認指導など細部にわたって配慮されている。個々の学生に対する学習支援として，オフィスアワーが設定されている。

以上のことから，学生全体に対して，あるいは個々の学生に対して，自主的に学習を進める上で必要とされるガイダンスや相談・助言を行う支援体制が整備され，適切に実施・機能していると判断される。

観点７－１－②：　自主的学習環境及び厚生施設，コミュニケーションスペース等のキャンパス生活環境等が整備され，効果的に利用されているか。

（観点に係る状況）

自主的に学習が進められる環境として，図書館（資料７―１―②―１），情報科学センターが整備されている。また放課後に教室が開放され，教員研究室の前の廊下には机と椅子と間仕切りが設置されており，自主学習スペースあるいはフリースペースとして学生に頻繁に利用されている。

資料７―１―②―１

平成 24 年度　図書館利用状況

月	開館日数	入館者数	貸出冊数	貸出視聴覚資料数
4	２３	１，１４８	５９０	１０
5	２４	２，８９４	７８０	１８
6	２６	２，１０６	６９８	８
7	２６	３，５９３	６６８	１７
8	１２	１，４１１	２３１	１８
9	２０	４０１	２５１	１１
10	２６	１，０１０	６７０	１９
11	２６	１，６４２	５６９	１５
12	２２	１，２７６	７４０	１６
1	２１	１，１９６	６８１	１４
2	２４	２，０７４	５６５	１９
3	１２	１０６	１２９	８
合　計	２６２	１８，８５７	６，５７２	１７３

（出典　学術情報係資料）

図書館の利用規定や開館日及び開館時間は平成２５年度学生便覧１０２頁やウェブページ（資料７―１―②―２）に掲載されている。館内には学習に必要な和洋書約８万８千冊（ウェブページ）を所蔵し，閲覧室（７０席）で自由に閲覧できる。平成２４年度の図書館利用者数・貸出冊

数は６，５７２冊（資料７―１―②―１）である。

資料７―１―②―２

開室日

日曜日・国民の祝祭日・年末年始（１２月２８日～１月４日）を除く毎日。

開室時間

月曜日～金曜日　8:30～21:00

土 曜 日　　13:00～18:00

臨時開閉室及び開室時間の変更

臨時開閉室するとき、又は開室時間を変更するときは、その都度掲示します。

（出典　本校ウェブページ）

情報科学センターの利用細則が平成２５年度学生便覧１０９頁に掲載されている．情報科学センター，マルチメディア室（図書館３階），図書館閲覧室に，それぞれパソコンが４７台，４６台，６台設置され，全学生の利用が可能である。

福利厚生施設として，青葉会館の１階に学生食堂と売店が営業している（資料７―１―②―３）。

コミュニケーションスペースとしては，教員研究室の前のフリースペース，学生昇降口（自販機とイス・テーブルを設置），低学年棟前広場（長椅子を設置），専攻科棟リフレッシュコーナーなどが整備され，効果的に利用されている。

資料７―１―②―３

食堂及び売店について

学生及び教職員の福利厚生の用に供するため，下記の施設を設けています。

1　学生食堂

営業品目　　日替り定食，カレーライス，丼物，麺類等

営業時間　　平日の午前 11 時 30 分　～　午後 1 時 30 分

2　売店

営業品目　　文房具類，パン，牛乳等

営業時間　　平日の午前 8 時 30 分　～　午後 4 時 50 分（平常授業日）

平常授業日でない日及び金曜日は，午後 4 時まで

（出典　平成２５年度学生便覧）

（分析結果とその根拠理由）

放課後や休日に，学生が自主的に学習できる，あるいは学生がコミュニケーションを図れる環境として，図書館・情報科学センター・教室・青葉会館・本館廊下フリースペースや専攻科棟リフレッシュコーナーなどが整備されている。利用実績からも，効果的に利用されていると判断できる。

以上のことから，自主的学習環境やキャンパス生活環境は，整備され効果的に利用されていると判断できる。

観点７－１－③：　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されているか。また，資格試験や検定試験の受講，外国留学のための支援体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

学習支援に関する学生のニーズを把握する制度としては，学生による授業評価アンケートにおける自由記述（資料７―１―③―１），年に１回実施される授業公開における学生からの意見（資料７―１―③―２），校長とのフリートーキング（資料７―１―③―３）がある。

資料７―１―③―１

クラス	自由記述
	前　　期
１年(共)	どの授業もわかりやすかったです
	ペースがはやっかた！！！
	テスト合格点を下げてほしい
	全体的にいい授業でした。後期もこのままお願いします。
	先生も個性的で楽しい先生が多いし、とてもいい先生ばかりでうれしいです。前期はあんまり成績が良くなかったので、後期は頑張りたいです。
	全体的にん楽しい授業でした
	休憩をとってくれない人がいた
	強いて言えば、通学生に全く親和的でないのはいかがなものか。
	後　　期
１－１	1年間楽しかった。
	特に化学は面白かった
	少し進め方が早いきがした
	化学が分かりにくかった。
	ほとんどが分かりやすかったので良かったです。
	科学が全然わからなかった。
	テストの日程をもっと早く提示してほしい。
１－２	
１－３	先生によってテストの難易度がちがいすぎる
	とても分かりやすかった。
１－４	化学をちゃんとしてほしい。
	もう少し授業時間を長くしてもよろしいかと。

（出典　評価委員会（ＦＤ・ＩＣＴ部会）資料）

資料７－１－③－２

授業公開報告書

授業科目	化学ⅢＢ （環境科学）	４学年　選択クラス	
教員名	[redacted]	実施日	24年 12月 13日
評価者（所属等）	主査 [redacted]		

評価者の見解

評価者の見解のまとめ．

・化学に接する機会が少ない高専に於いては貴重な授業になっている事や担当教員の思いが，学生たちに上手く伝わっていない様で残念であった．

・プロジェクターを使用していたが，活字が小さい上に照明が明るく，後ろの方では見え難かったので，座席配置なども含め工夫した方が良い．

・声が聞き取り難かったので，マイクを使用した方が良い．

・実習のある事が明示されていなかった．

・学生は実験の充実を望んでいるので，実験回数の増加やグループ分けなどの工夫をされてはどうか．

・学生との会話があまりないように思われた．学生の理解度を確かめるような学生への問い掛けをしてみてはどうか．

・企業の事例紹介，悪例や改善例を紹介してみてはどうか．

授業担当教員とのヒアリング結果

・教科書を，東日本大震災や舞鶴の事が書かれているものに変更した．

・今までは20人前後のクラスだったので，実験も結構できたが，60人ものクラスになったので難しくなった．（実験室の定員は48人．）

・今年は実験の予算もつかなかった．実験助手がいないのも問題である．

・演習問題は作成していない．

限られた予算，講義時間ではあるが，学生との意思疎通を図り，理解度を少しでも向上させるような演習・レポート・実験等を検討されては如何か．

学生とのヒアリング結果

下記のような意見が出た．

・実験を充実して欲しい．

・話が聞き取り難い．

・演習をやって欲しい．

・フィールドワークの方法，試験の内容を考えて欲しい．

・社会との関連なども話して欲しい．

興味を持って学んでいる学生ばかりではないが，ほぼ全員が実験や実習を多くして欲しいと希望している．実験や実習が増えれば，より魅力的な授業になるのでは？

（出典 授業公開報告書）

資料７―１―③―３

校長と学生とのフリートーキング議事概要

日時：平成２４年６月２０日（水）１６：４５～１８：３０
場所：大会議室
出席：太田校長、学生会、各クラス代表、池澤教務係員（議事概要作成）

議題

①　受講態度や遅刻などをより厳しく評価すべきである。
⇒【回答】遅刻への評価を過度に厳しくするのではなく、学生自ら遅刻しないよう早く登校してほしい。

②　今年は学校をより良くするために何をする予定か。
（関連質問：就任してからどのようなことをやってきたか）
⇒【回答】新入生にたくさん来てもらえるよう、入試倍率をあげることに取り組んでいる。また外部からの資金を得られるよう取り組んでいる。

③　体育館をどこの部活も使用していない日を体育館の開放日にできないか。
（理由：クラブで割り当てられた日時でも実際使っていない場合があるため、別のクラブも使えるようにすれば、有効活用できる。個人・少人数で使用したい学生もいる。）
⇒【回答】使用時間の割り当てについては、学生主事・学生会と相談してはどうか。また、個人への貸し出しは行っていない。

④　先月、寮に部外者が入ってきたという問題があったが、部外者が侵入してきたときの対策は一体どのようになっているのか。
⇒【回答】危機管理委員会を開いて対応を決めている。夜間でも委員同士で連絡がとれる体制を取っている。

⑤　全国の高専との交流はどのようになっているのか。もっと活発に交流がしたい。
⇒【回答】高専同士の交流は、全国高専体育大会のほかプロコン、デザコン、ロボコンなどがあり普通の大学よりもさかんである。また、高専生現役・OB らによる「高専カンファレンス」という独自のイベントもある。現在はネットが発達しているので、学生が主体的に交流を図ってほしい。

⑥　ロボコンなど高専を代表する活動の応援が今一つだが、校長はどの様に思っているのか。（ロボコン部員でものピットクルーでない部員は寮で加点されない）
⇒【回答】寮の加点については寮務主事と相談する。

⑦　１年間に学校にはいってきたお金の使い道について教えてほしい

1 / 3

（出典　学生課資料）

資格・検定試験に関しては，本校では実用英語技能検定とＴＯＥＩＣやA. C. E. に対して，支援が行われている。いずれの試験も本校を試験会場として実施されていて，特にＴＯＥＩＣの受験検定料は学校から補助がなされており，A. C. E. を含めて全学生に毎年受験させている（資料７－１－③－４）。また技能検定等合格に係る単位認定に関する規定があり，ＴＯＥＩＣはスコアによって単位が認定されている。（平成２５年度学生便覧８７頁）

資料７－１－③－４

英 語 デ ー

１０月１６日（火）午前

	1,2年	3,4,5年、専攻科生
実施試験	A.C.E.試験	TOEIC 試験
時間	９時３０分　集合 ９時４０分　書類記入 １０時　試験開始 １１時３０分　試験終了	９時３０分　集合 ９時４０分　書類記入 １０時　試験開始 １２時　試験終了
場所	各クラスルーム ※専攻科生は第２合併教室	

注意

１　座席は定期試験のように**出席番号順**に着席のこと。

２　B,HB の**鉛筆、シャープペン**、プラスチック消しゴムを持参のこと（マークシートなので**ボールペンは不可**）。

３　午後に授業はありませんが、補講などが入る場合もありますので掲示に注意してください。

（出典 学生課教務係資料）

外国留学のための支援体制のひとつとして，海外６大学（タイ・バンコクのキングモンクット工科大学ラックラバン校 King Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang，韓国・ソウルの高麗大学 Korea University，台湾・高雄の高雄第一科技大学，ベトナム・ハノイの交通運輸大学，ベトナム・ハノイのハノイ建設大学，中国・大連の大連職業技術学院）と学術交流協定が締結（資料７―１―③―５）され，海外留学の基盤が整備されている。

また，４年生の海外研修旅行，５年生と専攻科１年生の海外インターンシップ，タイからの短期留学生の受け入れ（平成２５年３月６日臨時運営会議資料１２）など，海外の大学や企業と本校の学生や教員との交流も海外留学のための支援基盤となっている。

資料７―１―③―５

学術交流協定書

AGREEMENT FOR COOPERATION
BETWEEN
UNIVERSITY OF TRANSPORT AND COMMUNICATIONS
AND
MAIZURU NATIONAL COLLEGE OF TECHNOLOGY

1. University of Transport and Communications and Maizuru National College of Technology, in desiring to develop academic exchange and cooperation in teaching and research for the advancement and dissemination of learning, agree as follows:
   A. To endeavor to effect visits from one institution to the other by members of the academic staff for the purpose of participating in joint teaching, joint research, joint conferences and joint cultural programs.
   B. To offer qualified students of one institution admission to the undergraduate programs of the other.
   C. To encourage the exchange of scientific materials, publications and information.
   D. To prepare, when necessary, additional working programs detailing specific forms and contents of cooperation.
2. The institutions agree to provide exchange faculty members with proper academic status at the host institution, research facilities, access to the libraries, and other assistance and advice when necessary.
3. The institutions acknowledge that the visit of staff and faculty members and the admission of qualified students will be subject to the entry and visa regulations of Japan and Vietnam and to the institutional requirements with respect to staff appointment and student admission.
4. The institutions understand that any additional financial arrangements will have to be negotiated and will depend on the availability of funds.
5. The institutions agree to offer to each other regularly information and material about academic offerings and requirements for exchange students.
6. The Agreement shall remain in effect for an initial period of five years. Thereafter, except for any notice to terminate it, it shall be automatically renewed. However, it is accepted that either party may end this agreement any time by mutual consent or with six months notice.

For this purpose, the responsible parties will be the Rector of University of Transport and Communications and the President of Maizuru National College of Technology.

Signed on behalf of:
University of Transport and Communications

Tran Dac Su
Rector
University of Transport and Communications

Date: 03/03/08

Signed on behalf of:
Maizuru National College of Technology

Koichi Ono
President
Maizuru National College of Technology

Date: March 3, 2008

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校では，授業評価アンケートの自由記述，授業公開における学生からの意見，校長とのフリートーキングなどを通じて，学生のニーズを把握している。以上のことから，学生支援に関する学生のニーズの把握は，適切に実施されていると判断できる。

また実用英語技能検定やＴＩＥＩＣやA. C. E. の団体特別受験制度を活用しており，英語における資格試験や検定試験受講の支援体制が整備され機能している。外国留学のための支援基盤として海外６大学との学術交流協定が締結され学生間や教員間の交流が行われている。その他にも４年生の海外研修旅行，５年生と専攻科１年生の海外インターンシップを実施している。

以上のことから，資格試験や検定試験受験，外国留学のための支援体制は，整備され，機能していると判断できる。

観点７－１－④：　特別な学習支援が必要と考えられる学生へ学習支援体制が整備されているか。また，必要に応じて学習支援が行われているか。

（観点に係る状況）

留学生には指導教員とチューターが割当てられている（資料７―１―④―１）。そしてチューター報告書（資料７―１―④―２）に示すような学習支援が行われている。また留学生に対する授業科目「日本語」や，専門教科の特別補習（担当各学科教員）が開講されている（資料７―１―④―３）。

資料７―１―④―１

平成２５年度外国人留学生名簿

25. 4. 1

入学年度	国籍	氏　名	性別	学年	所属学科	年齢	生年月日	備考
22	[redacted]	[redacted]	男	5	[redacted]	25		国費留学生　指導教員　：三輪　浩
23	[redacted]	[redacted]	女	5	[redacted]	20		国費留学生　指導教員　：丹下　裕
23	[redacted]	[redacted]	男	5	[redacted]	21		国費留学生　指導教員　：三輪　浩
23	[redacted]	[redacted]	男	5	[redacted]	21		ﾏﾚｰｼｱ政府派遣　指導教員　：野毛宏文
23	[redacted]	[redacted]	男	5	[redacted]	21		ﾏﾚｰｼｱ政府派遣　指導教員　：野毛宏文
24	[redacted]	[redacted]	男	4	[redacted]	20		国費留学生　指導教員　：石川一平 チューター [redacted]
25	[redacted]	[redacted]	男	3	[redacted]	21		国費留学生　指導教員　：町田秀和 チューター [redacted]
25	[redacted]	[redacted]	男	3	[redacted]	19		ﾏﾚｰｼｱ政府派遣　指導教員　：坂本英輔 チューター [redacted]

（出典　学生課資料）

資料７－１－④－２

別紙様式第3号

業務実施確認表（チューター用）

2012 年 11 月

協力者氏名（チューター）[redacted] 印

日	実施時間	時間数	業務内容	協力者印（チューター）	確認者印（指導教員）	日	実施時間	時間数	業務内容	協力者印（チューター）	確認者印（指導教員）
1	～					18	～				
2	～					19	～				
3	～					20	～				
4	～					21	15:00 ～ 16:00	1	実験補助		石川
5	～					22	20:00 ～ 23:00	3	レポート補助・採点補助		石川
6	20:00 ～ 22:00	2	レポート補助	[redacted]	石川	23	～				
7	～					24	～				
8	～					25	21:00 ～ 23:00	2	レポート補助		石川
9	21:00 ～ 23:00	2	レポート補助	[redacted]	石川	26	～				
10	～					27	～				
11	21:00 ～ 22:00	1	レポート補助 採点補助	[redacted]	石川	28	～				
12	～					29	21:00 ～ 23:00	2	レポート補助	[redacted]	石川
13	～					30	～				
14	21:00 ～ 23:00	2	レポート補助	[redacted]	石川	31	～				
15	～					合計時間数	15 時間				
16	～					時間単価	[redacted] 円				
17	～					支払額	[redacted] 円				

上記の内容について、相違ないことを確認しました。

2012 年12月7日　（実施責任者）（指導教員）所属・職名・氏名 電子制御工学科 講師 石川 一平 石川

実施完了チェック

（注1）必要があるときは、各欄の配置を著しく変更することなく所要の変更を加えることその他所要の調整を加えることができる。
（注2）業務実施確認表は事務部において管理すること。また、実施完了チェックは、実施責任者が所属する学科・課以外の教職員が確認し押印又は署名すること。

（出典　学生課資料）

資料７―１―④―３

（様式３）

平成 24 年 5 月 24 日

教 務 主 事 殿

転科生等対象の補習報告書

下記のとおり、（転科生 / 外国人留学生 / 編入学生）を対象とした補習の実施が終了しましたので報告いたします。　（○をつけて下さい）

電子制御工学科・学科長　奥村 幸彦

補習対象者氏名	[redacted]　氏名 [redacted]　（複数名記入可）		
補習科目名	電子工学Ⅰ（現：電気基礎Ⅱ）	単位数	1　単位
補習担当者名	電子制御工学科　氏 名　石川 一平		
補習実施場所	A309 石川研究室		
補習時期	平成 24 年 4 月 19 日 ～平成 24 年 5 月 24 日 不定期　火曜日、木曜日　16：40 ～ 18：20 総回数（ 3 ）回　（1回100分）		
補習報告	三角関数の基礎、交流回路（周期、実効値など） 交流回路の計算（R, L, C直並列回路、共振回路）		
水準達成	(可)　・　否　（○をつけて下さい）		
備　考			

（注）転科生の場合は，単位数及び水準達成の記入は不要である。

（出典　学生課資料）

編入学生には，入学前に入学説明会が行われ（資料７―１―④―４），入学後には補習体制が整備されている。また転科生に対しても補習措置が整備され実施されている。（資料７―１―④―５，平成２５年３月６日臨時運営会議資料８「平成２４年度の編入学生及び留学生等の補習一覧」）。

発達障害のある学生に対しては，随時特別支援教育連絡協議会を開催して，学習支援について協議され対応策が講じられる。場合によってはチューターを付けることもある（資料７－１－④－６，平成２４年度第１回特別支援教育連絡協議会議事概要）。

資料７―１―④―４

（伺）

平成２４年度編入学生入学説明会の開催について

平成２４年度編入学予定者に対して，学習上の心構え等の指導を行うため，下記により入学説明会を開催してよろしいか伺います。

なお，出身高等学校長及び入学予定者に対し別紙（１），（２）のとおり案内してよろしいか，併せて伺います。

記

１．日　時	平成２３年１２月２６日（月）１３：００～		
２．場　所	中会議室（本館棟２階）		
３．日　程	13:00～13:30	入学に対する心構え	教務主事
	13:30～13:50	入寮説明	寮務主事
	13:50～14:10	学科別説明（学科毎に分かれて）	
		学習に対する心構え	各学科長
	上記終了後～	希望があれば学寮見学	
	解散		

（送付資料）　学生便覧，シラバス，寮生活のしおり，履修の手引，入寮希望の照会

（出典　学生課資料）

資料７―１―④―５

編入学生及び留学生等の補習一覧

クラス	氏　名	補習科目	単位数	合　計	備　考
４Ｍ	[redacted]	材料力学ＩＡ	1	5	編入学生
		材料力学ＩＢ	1		
		微分積分Ⅱ	3		
４Ｅ	[redacted]	ディジタル回路	1	6	編入学生
		アナログ信号処理Ⅰ	1		
		インターフェースⅠ	1		
		微分積分Ⅱ	3		
４Ｓ	[redacted]	制御工学Ⅰ	1	6	編入学生
		情報処理Ⅰ	1		
		情報処理Ⅱ	1		
		微分積分Ⅱ	3		
３Ｓ	[redacted]	電子工学Ⅰ	1	4	留学生
		電子工学Ⅱ	1		
		微分積分Ⅰ	2		
2-4(E)	[redacted]	電気回路	1	2	転入学生
		情報基礎	1		
2-4(M)	[redacted]	入門機械実習	0	0	転科生
2-2(E)	[redacted]	電気回路	0	0	転科生
		情報基礎	0		

（出典　運営会議資料）

資料７―１―④―６

平成２４年度　第１回　特別支援教育連絡協議会議事概要

日時：平成２５年1月２４日（木）１６：４５～１８：４５
場所：中会議室
出席者：三川教務主事，高谷寮務主事，（学科長）M谷川，E片山，S奥村，C尾上
（担任）２－１村上，３M生水，３S石川，４E丹下，４S伊藤，
田村，小松，中島学生課長，松宮教務係長，清水看護師

概要：はじめに、教務主事から報告が２件あった。
・１年生に、発達障害にかかる要特別支援対象学生であるが，保護者が特別支援を受けることをためらっている学生がいる。
・２－１の学生３名（　、　、　の三君）に対する支援だが、専攻科ＴＡによる学習支援の効果が芳しくないので、１月に入ってから、数学を伊藤先生（非常勤、金曜日に２時間）に、物理を河野先生（非常勤、火曜日に２時間）にお願いしている。

１．要支援学生の状況について
支援が必要と思われる学生について、各担任から別紙の表のような報告があった。

２．チーム支援について
・２－１　　君（C）、　君（M）、　君（E）
担任の村上、小松、三川および学科教員（M　谷川、E竹澤、C高谷）でチーム支援をする。チームの長を小松教員が務める。

君（C）に関して、専門科目についての情報はない。
君（M）は、専門科目は問題ない。一般科目が問題。
君（E）については、学科でレポートの支援を行っている。

・３M
すでに、実習工場の方々などでチーム支援にはなっているが、今後も、担任の生水、谷川、三川でチーム支援をする。チームの長を谷川教員が務める。
・４S
チーム支援を考える。（担任の伊藤、三川と学科長から推薦されたSの教員一人）
（Sの教員については，後日奥村幸彦学科長が務め，チームの長を兼任するとの報告が教務主事にあった。また，専攻科２年生にＴＡを依頼することを検討することになった。）

３．その他
・特別支援の対象学生の追試験について
１２月１７日付けで、「要特別支援学生の学習支援について（お願い）」という文章を出し、

（出典　学生課教務資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校において特別な学習支援が必要な者とは，留学生，編入学生，転科生，発達障害のある学生である。留学生に対しては，指導教員やチューターによるサポートの下，日本語や専門科目の指導が行われている。また編入学生や転科生に対しては補習体制が整備され実施されている。発達障害のある学生にはチューターを付ける場合もある。

以上のことから，特別な学習支援が必要な者に対する学習支援体制は整備され，機能している。

観点７－１－⑤：　学生の部活動，サークル活動，自治会活動等の課外活動に対する支援体制が整備され，適切な責任体制の下に機能しているか。

（観点に係る状況）

学生会への支援は学生支援係および学生委員会が担当し，その責任の下，学生会規則（平成２５年度学生便覧151頁），学生会規約，学生会組織図（平成２５年度学生便覧166頁）に基づいて課外活動を行っている。

部・同好会は複数の教員が顧問となり，その責任の下課外活動を行っている。顧問一覧表を資料７―１―⑤―１に示す。顧問会議が年に１回開催されており，その議事項目を資料７―１―⑤―２に示す。対外試合引率費とクラブ活動費は主として後援会からの寄付金から支出されており（資料７―１―⑤―３）クラブ活動を支援している。また体育大会派遣等の補助基準は資料７―１―⑤―４の様に定められ，機能している。

資料７―１―⑤―１

平成25年度　クラブ顧問一覧表

太字はチーフ顧問

部	顧問名
陸上競技	[redacted]
男子バスケットボール	
女子バスケットボール	
男子バレーボール	
女子バレーボール	
ソフトテニス	
卓球	
柔道	
剣道	
サッカー	
硬式野球	
ハンドボール	
バドミントン	
水泳	
テニス	
ローイング	

部	顧問名
弓道	[redacted]
空手道	
フリークライミング	
自動車	
アマチュア無線	
吹奏楽	
プログラマーズコミュニティ	
創造技術研究会	
華道	
デザコン	
軽音楽	

同好会	顧問名
ストリートバスケット	[redacted]
フットサル	
ボランティア	
文学研究会	
鉄道研究会	
ESS	
マルチメディアリサーチ	
シビックデザイン	
合気道	
パフォーマンス	
ピタゴラ	
雪上スポーツ	

（出典　学生課資料）

資料７―１―⑤―２

平成２５年度　第 １ 回 顧 問 会 議

平成 25 年　月　日（　）16:15～
於　大会議室

１．報告事項

(1) 課外活動指導上の諸手続きについて・・・・・・・・・・・・・資料１

(2) 後援会クラブ活動費の使用について・・・・・・・・・・・・・資料２

(3) 第５０回近畿地区高専体育大会日程表について・・・・・・・資料３

(4) 第４８回全国高専体育大会日程表について・・・・・・・・・資料４

２．協議事項

(1) 平成 24 年度クラブ活動費決算について・・・・・・・・・・資料５

(2) 平成 25 年度クラブ活動費予算案について・・・・・・・・・資料６

３．その他

（出典　平成２５年度顧問会議資料）

資料７―１―⑤―３

平成24年度クラブ活動費支出状況

2013/3/31 現在

サークル名	クラブ活動費		
	予算額	支出額	残額
陸上競技			
男子バスケットボール			
女子バスケットボール			
男子バレーボール			
女子バレーボール			
ソフトテニス			
卓球			
柔道			
剣道			
サッカー			
硬式野球			
ハンドボール			
バドミントン			
水泳			
テニス			
空手道			
ローイング			
弓道			
フリークライミング			
自動車			
アマチュア無線			
吹奏楽			
創造技術研究会			
華道			
デザコン			
軽音楽			
プログラマーズ・コミュニティ			
ストリート・バスケット			
フットサル			
ボランティア			
文学研究会			
鉄道研究会			
ＥＳＳ			
ﾏﾙﾁﾒﾃﾞｨｱﾘｻｰﾁ			
ｼﾞｯｸﾃﾞｻﾞｲﾝ			
合気道同好会			
パフォーマンス同好会			
ピタゴラ同好会			
雪上スポーツ同好会			
共通経費			
予備費			
合計			

（出典　平成２５年度顧問会議資料）

資料７－１－⑤－４

学生の体育大会派遣費等の補助基準

学生の，体育大会等に参加する補助については，次に定めるところによる。

１　補助の対象となる大会等

(1) 学校体育団体又は文化団体（高等専門学校や高等学校で組織された連盟や協会等をいう。）が主催し，都道府県若しくはそれ以上の地域を単位として開催される次の大会及び演奏会

① 近畿地区高等専門学校体育大会
② 近畿・東海・北陸・信越地区高等専門学校弓道大会
③ 近畿地区高等専門学校空手道親善試合
④ 近畿地区高等専門学校吹奏楽合同演奏会
⑤ 全国高等専門学校プログラミングコンテスト
⑥ アイデア対決全国高等専門学校ロボットコンテスト地区大会
⑦ 全国高等専門学校将棋大会
⑧ 全国高等学校野球選手権京都大会
⑨ ホンダエコマイレッジチャレンジ
⑩ 全国高等専門学校デザインコンペティション

(2) 上記の地区予選大会で選抜されたチーム又は個人が参加する全国大会

(3) (1)に準じ，特に会長が認めたもの。

２　上記１の(1)の①～⑩並びに(3)にかかる派遣は，原則として学校が認めた団体とし，各大会等の実施要項等に参加が認められたチーム数又は人数の範囲内とする。

３　上記⑤の全国高等専門学校プログラミングコンテスト，⑥のアイデア対決全国高等専門学校ロボットコンテスト及び下記４（人員の項）にかかわらず，次のとおりとする。

(1) 全国高等専門学校プログラミングコンテスト
本選出場が認められたチームであって，募集要項に基づいて登録された学生について補助する。

(2) アイデア対決全国高等専門学校ロボットコンテスト
募集要項に基づいて登録された学生で，主催者負担のない学生について補助する。

（出典　平成２５年度顧問会議資料）

（分析結果とその根拠理由）

課外活動に対する支援は，全ての教員が顧問等を分担し人的側面から効果的に実施されている。また学生の大会参加等における経済的支援については，学校と後援会による支援体制が整備され機能している。

以上のことから，課外活動に対する支援体制は整備され機能している。

観点７－２－①：　学生の生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制が整備され，機能しているか。

（観点に係る状況）

学生の生活面に係わる指導・相談・助言を行う体制として，教員と看護師からなる学生相談室が設置されている（資料７－２－①－１）。また相談室は本館１階の保健室の隣に配置されており，週に２回のカウンセリングと，月に１回の専門医（[redacted]）による相談も実施されている。

その他に，パートナーシップ，交通安全講習会，各種講演会（人権講演会，薬物乱用防止講演会，エイズ防止についての講演会）が毎年計画され実施されている（資料７－２－①－２）。

学生食堂と売店に関する学生の要望を，「青葉会館食堂についてのフリートーキング」，「青葉会館売店についてのフリートーキング」としてそれぞれ年２回実施し，それぞれの業者に伝えて学生福利施設の改善につなげている（資料７－２－①－３）。

資料７－２－①－１

学生相談室について

学生生活を送る上で，勉強のこと，進路のこと，寮生活のこと，友達のこと，異性のこと，心のこと，体のこと，その他にもいろんな悩みな出てくることがあるでしょう。

そんな時は気軽に学生相談室を利用してください。

専門カウンセラーによる相談は，原則予約制ですが，予約の入っていないときはその場で相談を受けることもできます。

予約方法

① パソコンや携帯電話のメールから申込む。
申し込みの際には，下記の項目を可能な範囲で入力のうえ，タイトルを『相談予約』として送信してください。

氏名・学年・クラス・返信先メールアドレス（申込時の送信元と同一の場合は省略可）・電話番号・相談内容（簡単に）・希望日時・希望相談員

送信先：[redacted]
相談が[redacted]絡します。

② 保健室の看護師に直接申し込みに行く。

③ 小松教員研究室（本館Ａ－213）前に設置されている「学生相談申込票投函箱」に，必要事項を記載のうえ学生相談申込票を投函する。

【専門カウンセラー】
○臨床心理士１名　毎週木曜日　13時00分～17時20分
○精神科医師１名　月１回月曜日　15時00分～16時30分
場所：学生相談室（Ａ－102　保健室横）
※　来校日については，学生昇降口，保健室の掲示板及び学生相談室のホームページを見てください。

（出典 平成２５年度学生便覧）

資料７―２―①―１の続き

学生相談室

学生相談室長　　篠原　正浩

今年度の学生相談室の活動の中で特筆すべきこととしては，１．スクールカウンセラーの増員，２．保健室の機能の強化，３．各種研修会への参加があげられる。以下に詳細を示す。

１．スクールカウンセラーの増員

今年も対人関係や勉強上の問題で，様々な相談が学生相談室に寄せられた。今まではスクールカウンセラー2 名で相談にあたってきたが，精神科の國澤医師は月１回の担当で，実質は毎週木曜日に担当していただいている，臨床心理士の[redacted]カウンセラーにカウンセリングの大部分をお願いしており，十分な相談体制であったとは言えなかった。学生相談室ではこれまでにもスクールカウンセラーの配置体制の強化を求めてきたが，本年 10 月より新たに臨床心理士の[redacted]氏に来ていただくことになった。これで，月１回（月曜日）の精神科医[redacted]医師）と週２回の臨床心理士（火曜日に[redacted]カウンセラー，木曜日に[redacted]カウンセラー）の３名で相談にあたれることになり，若干の体制強化が図れた。

２．保健室の機能の強化

近年保健室という場所は，中学校などにおいて「駆け込み寺」的な存在となっており，本校でも特段用事が無くても，休み時間などにちょっと保健室に来て愚痴をこぼすように思いを吐き出していく学生がまま見られる。

悩みや相談事のある学生は，時間の予約をしてからカウンセラーに相談をするシステムになっているが，学生の中には，この予約をするという手続きのハードルが高く，相談できないものも少なくない。そこで，そのような学生たちの声を少しでもピックアップできるように，臨床心理士の先生に昼休みに保健室にいてもらって，清水看護師と一緒になって話を聞いてもらうことで，学生の悩みの解消に少しでも役立てるのではないかと考えた。その結果，ある程度の数の学生が保健室で話を聞いてもらうだけで，満足できているようで，それなりの効果は出ているようである。

しかし，保健室は検診などのルーティンワークとなる業務に加え，怪我・病気などの突発的な事象に対応しなければならず，負担がかなり大きくなっている。この点をいかに解消するかが課題となっている。

３．各種研修会への参加

学生相談に関する研鑽を積むため，また他校との学生相談に関する情報交換のため，下記に示すような各種研究会，協議会に参加した。

名　称	日　時	場　所
近畿学生相談研究会（KSCA）第 140 回例会	6/23（土）	龍谷大学
近畿学生相談研究会（KSCA）第 141 回例会	9/6（木）	関西学院大学
第９回全国国立高等専門学校メンタルヘルス研究集会	11/1（木）～2（金）	国立オリンピック記念青少年総合センター
平成 24 年度近畿地区高等専門学校カウンセリング連絡協議会	11/30（金）	ホテルアウィーナ大阪
平成 24 年度学生相談・メンタルヘルス研修会	12/13（木）～15（土）	大阪府立労働センターエル・おおさか

（出典　舞鶴高専年報・第 10 号・2013 年４月）

資料７－２－①－２

学生対象講演会・講習会一覧（学生支援係関係）　平成23・24年度

年　度		23	24
交通安全講習会	期日	4月25・26日	4月23日・26日
	場所	視聴覚教室	視聴覚教室
	講師	[redacted]	[redacted]
	対象	ﾊﾞｲｸ・車両持込予定者	ﾊﾞｲｸ・車両持込予定者
	参加学生数	289	281
リーダーシップセミナー　（高専祭関係）	期日	実施せず	実施せず
	場所		
	講師		
	対象		
	参加学生数		
リーダーシップセミナー	期日	学寮関係	6月15日～16日
	場所		高浜町営国民宿舎 城山荘
	講師		なし
	対象		ｸﾗﾌﾞｷｬﾌﾟﾃﾝ・学生会役員
	参加学生数		36
薬物乱用防止講習会	期日	7月25日	7月24日
	場所	視聴覚教室	視聴覚教室
	講師	[redacted]	[redacted]
	対象	3年	3年
	参加学生数	138	152
人権講演会	期日	1月23日	1月21日
	場所	視聴覚教室	視聴覚教室
	講師	[redacted]	[redacted]
	テーマ	太平洋戦争と人権	太平洋戦争とシベリア抑留
	対象	1年	1年
	参加学生数	162	161
HIV感染防止講演会	期日	1月30日	2月4日
	場所	視聴覚教室	視聴覚教室
	講師	[redacted]	[redacted]
	対象	2年生	2年生
	参加学生数	157	160
教養講演会	期日	2月6日	1月28日
	場所	視聴覚教室	視聴覚教室
	講師	[redacted]	[redacted]
	対象	3年	3年
	参加学生数	149	144

（出典　学生課学生支援係資料）

資料７―２―①―３

青葉会館売店についてのフリートーキング

開催日　2012/6/27
場所　中会議室
時間　17:00～

Ⅰ．討議の概要

1. 売店に追加して欲しい商品について
2. 売店に置いてあるいらないと感じた商品
3. 売店のサービスについて改善して欲しい点
4. 学生から売店への質問
5. 次のフリートーキングに向けて

Ⅱ．討議の詳細

1. 売店に追加して欲しい商品について

アンケートで得られた意見は入荷するときの参考にするとの回答を頂いた。現在の売れ行きと照らし合わせて、商品を入荷する。採用されやすいものとして、以下の物が挙げられる。

・需要が高いもの
・季節に左右されずに売れる商品

議題で挙げられた中で、取り扱いの難しいとされた商品を挙げる

取り扱いが難しい商品

商品名	理由
ジョア	取り扱い会社の関係で不可能
健康飲料	需要が見込めない
湿布	同上
トルコアイス	同上
食用の氷	同上　代案としてアイスボックスが挙げられた
1000mlのパックジュース	飲みきれないと思われる
肉まん等	季節が限られる商品である
ハーゲンダッツ	値段が高いので買って貰えるか分からない
マカロン、ケーキ	純粋スイーツのため、日持ちが短いので難しい
弁当	以前、置いていたが売れなかった
制汗スプレー	種類が多い

（出典 学生会資料）

学生の経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制として，授業料免除や奨学金，寄宿料免除制度に応募するため学級担任などが推薦・面談を行うシステムが整備されている。これらの制度は，学生便覧（平成２５年度 135-141 頁）に掲載されている。授業料免除者数や奨学生数は，年報に記載されている（資料７―２―①―４）。

資料７―２―①―４

奨学生数（平成 25 年 1 月現在）

奨学金の種類		奨学生数							
		1年	2年	3年	4年	5年	専1年	専2年	計
日本学生支援機構奨学金	第一種	10	22	17	25	32	3	5	114
	第二種	対象外			5	5			10
京都府高等学校等修学資金		3	1	2	3	4	対象外		13
その他 府県奨学金		3	7	1	4	2			17
市町村奨学金				1	2				3
法人等の奨学金			3		3	1			7

授業料免除者数

区分		免除者数				
		4年	5年	専1年	専2年	計
前期	全額免除	16	6	1		23
	半額免除	3	8	2	1	14
後期	全額免除	11	7	2	1	21
	半額免除	2	6	1	1	10

入学料免除者数 …… 申請者なし
入学料徴収猶予者数 …… 申請者なし

授業料免除における特別措置　対象者数
（高等学校就学支援金受給者については、支給後の本人負担額を免除）

免除者数　前期…3 年生 1 名（全額免除）
後期…2 年生 1 名、3 年生 1 名（ともに全額免除）

卓越した学生に対する授業料免除
免除者数　後期…4 年生 2 名（全額免除）

平成 24 年度高等学校就学支援金　受給者数（加算該当者は平成 24 年 7 月分以降申請者）

	1年	2年	3年	計
受給者数	171	171	147	489
2倍加算該当者	15	23	21	59
1.5倍加算該当者	9	13	12	34
特例措置該当者	1	4	2	7

（出典　舞鶴高専年報・第 10 号・2013 年 4 月）

（分析結果とその根拠理由）

学生の経済面に関する支援は，授業料の免除や徴収猶予および寄宿料免除や奨学金制度などが整備され，多くの学生に利用されている。学生の生活面に関する支援として学生相談室とカウンセラーを配置している。

以上のことから，学生生活や経済面に係わる指導・相談・助言を行う体制は整備され機能している。

観点７－２－②：　特別な支援が必要と考えられる学生への生活支援等を適切に行うことのできる状況にあるか。また必要に応じて，生活支援等が行われているか。

（観点に係る状況）

全学生に対して，本校に募集のある各種奨学金が掲示板やウェブページ，担任を通して周知されている（資料７―２―②―１）。

留学生に対して，病気や災害など健康を害する事態が生じた場合の支援として，災害共済給付契約や国民健康保険への加入，日本学生支援機構の外国人留学生医療費補助制度などの指導が行われている（資料７―２―②―２）。留学生は全員学生寮で生活しており，食習慣の違いにも配慮されており，学寮補食室の充実が図られている。

身体障害のある学生がいる場合への対応として，校内においてエレベータの設置やバリアフリー対策，図書館や学生寮へのスロープ設置等がなされている。また障害者用トイレが本館２階と学生寮に設置されている。

資料７―２―②―１

平成 25 年度分

奨学金名	申請締切	備考（申請資格等）
日本学生支援機構奨学金 緊急採用・応急採用	家計急変の事由発生から 12 月以内	詳細については日本学生支援機構ホームページを参照してください
京都府高等学校等修学資金 ・新入生 ・在学生	(1) 4 月募集 5 月 15 日（水） (2) 随時申請 申請翌月から貸与	親権者または未成年後見人が京都府内に居住していること等
滋賀県奨学資金	(2) 随時申請 申請翌月から貸与	本人または保護者が滋賀県内に居住していること等
兵庫県高等学校教育振興会奨学資金	(1) 4 月募集 5 月 20 日（月） (2) 随時申請	申請者の生計を主として維持する方（保護者等）が兵庫県内に住所を有して

（出典 本校ウェブページ）

資料７－２－②－２

種類の給付を受けることができますから，忘れないように申請してください。

（１）奨学金（国費外国人留学生）

該当する留学生は，東京日本語教育センターで日本語予備教育を受けている時の郵便局の奨学金口座の記号番号をそのまま引き継いでいますので自動的にその口座に入ります。（４月に来校後現住所変更手続きが必要）

ただし、毎月月初に在籍確認を行いますので学生課で手続きをしてください。手続き終了後、日本学生支援機構の振込日に支給されます。

ただし、その月の初日から末日までの全期間、日本にいない場合は、その月の奨学金は支給されません。（月額１１７,０００円）

（２）帰国旅費（国費外国人留学生）

留学期間（奨学金支給期間）を終了し、所定の期日までに帰国する国費外国人留学生に対して、本人の申請に基づき帰国旅費が支給されます。

（航空券を交付）

＊「帰国旅費の辞退」

・ 帰国旅費の支給を申請しない者

（「辞退」には留学期間途中において国費外国人留学生の身分を辞退する場合や、留学期間を終了した月に帰国を希望しない場合等を含む）

９．その他

○　アルバイト

「留学」は、就労活動を行うことが認められない在留資格のため、アルバイトとしての就労活動を行うことを希望する場合は、事前に法務大臣から資格外活動の許可を受ける必要があります。学生課で相談してください。

○　二輪（バイク）・四輪の使用について

事故等の対応ができかねるので、二輪（バイク）・四輪の使用は認めていません。

（出典　留学生のしおり）

（分析結果とその根拠理由）

生活面で特別な支援が必要な学生，特に留学生の生活は，学生課や学寮委員会の支援によって支えられている。

以上のことから，生活面に関して特別な支援が必要とされる者への支援は，必要に応じて適切に行われていると判断できる。

観点７－２－③：　学生寮が整備されている場合には，学生の生活及び勉学の場として有効に機能しているか。

（観点に係る状況）

本校では学生寮が整備されている。平成２５年４月の学生寮現員は542名（資料７―２―③―１）である。

学生寮では生活の場としての学生寮のさまざまな規則（学寮規則，学寮日課表，寮生会規約・組織図，寮生会消防隊及び避難要領）（資料 平成２５年度学生便覧167頁）が定められている。さらに「寮生活のしおり」には，実際の寮生活上の注意点が詳細に記されている。

学生寮が生活および勉学の場として有効に機能するように，日課表（資料７―２―③―２）が定められている。施設面では，各棟各階に共用スペースとしての談話室（ラウンジ）の設置や無線LANが整備されている。

欠課や欠席の多い寮生に対する指導は，寮務係職員による毎朝の巡回や，教員による試験１週間前の低学年生の登校指導として行われている。また，寮生の安全確認のため，朝と夜に在寮点呼が行われている。（資料７―２―③―２）

学寮食堂に関する学生の要望を，給食検討委員会（学寮食堂についてのフリートーキング）として実施して，食堂業者に伝え寮食の改善につなげている。

資料７－２－③－１

校　長	寮務主事	事務部長	学　生　課		
			課長	寮　務　係	教　務　係
	教務主事				
			課長補佐	学生支援係	学術情報係
	学生主事				

平成25年4月1日

平成25年4月　寮生数

学生課寮務係

本科		機械		電気情報		電子制御		建設システム		合計	男女別
1年	1組	8	8	11	10	8	7	12	10	39	35
					1		1		2		4
	2組	9	9	9	8	9	8	10	8	37	33
					1		1		2		4
	3組	12	12	9	8	7	7	8	5	36	32
					1				3		4
	4組	8	7	11	10	9	9	10	8	38	34
			1		1				2		4
	小計	37	36	40	36	33	31	40	31	**150**	**134**
			1		4		2		9		**16**
2年	1組	9	9	9	8	9	9	8	6	35	32
					1				2		3
	2組	9	9	9	9	8	7	10	8	36	33
							1		2		3
	3組	5	5	8	8	11	11	11	9	35	33
									2		2
	4組	8	8	7	7	8	7	10	9	33	31
							1		1		2
	小計	31	31	33	32	36	34	39	32	**139**	**129**
			0		1		2		7		**10**
3年		22　0	21	18　0	14	26　(1)	26　(1)	18　(1)	12　(1)	**84　(2)**	**73　(2)**
			1		4				6		**11　0**
4年		16　0	15	21　0	20	30　(1)	30　(1)	19　0	16	**86　(1)**	**81　(1)**
			1		1				3		**5　0**
5年		20　(2)	20　(2)	26　(1)	22	17　0	15	16　(2)	13　(2)	**79　(5)**	**70　(4)**
					4　(1)		2		3		**9　(1)**
学科計		126　(2)	123　(2)	138　(1)	124	142　(2)	136　(2)	132　(3)	104　(3)	**538　(8)**	**487　(7)**
			3		14　(1)		6		28		**51　(1)**

前月異動者

なし

専攻科	電気・制御		建設・生産		合計	男女別
1年	2	2	2	2	4	4
						0
2年	0		0		0	0
						0
小計	2	2	2	2	4	4
		0		0		0

合計	総数	留学生数（内数）	男子寮生数	男子留学生数
			女子寮生数	女子留学生数
	542	**(8)**	**491**	**(7)**
			51	**(1)**

※　（）は留学生数を内数で示す
男女別は上段を男子、下段を女子とする

行　事　予　定　等

○ 4月2日　開寮
○ 4月3日　入寮式
○ 4月4日　入学式
○ 4月5日　始業式
○ 4月7日　新入寮生歓迎球技大会
○ 4月8日　授業開始
○ 4月11・12日　新入生合宿研修
○ 4月26日　創立記念日

（出典 学生課寮務係資料）

資料７―２―③―２

２．日常生活

（１）日　課

毎日の生活が規則正しく行われるように、下記のとおり日課が定められています。

日　課			月 ～ 木	金（休日の前日）	土	日（祝日）	摘　要
週番起床			７：００		―		
全員起床			７：１０		８：００		寝具をベッドの上に整理整頓する。
洗面・清掃			７：１５～７：３０		８：００～８：１０		各廊下など自主的に清掃する。週番は清掃状況を点検する。
点呼	男子	低学年	７：３０～７：４５		―		食堂に整列、朝礼。週番は点呼結果を寮監に報告する。
		高学年					自室前で週番の点呼を受ける。週番は点呼結果を寮監に報告する。
	女子						自室前で週番の点呼を受ける。週番は点呼結果を寮監に報告する。
朝　食			７：５０～８：４０		８：１５～９：００		食堂で時間内に喫食する。
登　校			８：４０		―		各階の週番は登校を督促する。
昼　食			１１：５０～１２：４０		１２：００～１３：００		朝食に同じ。
夕　食			１８：００～１９：１５		１７：３０～１８：４５		〃
入浴			１８：００～２１：００				２１：００までに終了すること。
自習時間			20:00～22:00	―		20:00～22:00	雑談、テレビ等一切の騒音を禁止する。
点呼	女子		２１：３０	―		２１：３０	自室前で週番の点呼を受ける。週番は点呼結果を寮監に報告する。
	男子	低学年	２２：００	―		２２：００	自室前で週番の点呼を受ける。週番は点呼結果を寮監に報告する。
		高学年					食堂で週番の点呼を受ける。週番は点呼結果を寮監に報告する。
門限	女子		２１：３０				門限以後の外出は認めない。
	男子		２２：００				
消灯就寝			２３：００				定期試験前には、２３：００以降学習のために電気スタンドの使用を認める場合がある。

備考　◇自室での点呼及び週番巡回時には必ず自室にいること。
　　◇週番の引き継ぎは、水曜日の夜の点呼（男子寮 22:00, 女子寮 21:30）前に行う。

（出典　寮生活のしおり）

（分析結果とその根拠理由）

学寮が生活及び勉学の場として機能するように，入寮時の説明会や日常生活における在寮点呼，消灯後の巡回，始業前の巡回や登校指導など，さまざまな配慮がなされている。また自習や談話ができる共用スペースの整備や，学寮におけるインターネット利用の利便性を高める無線ＬＡＮが整備されている。

以上のことから，学寮は生活及び勉学の場として有効に機能していると判断できる。

観点７－２－④：　就職や進学等の進路指導を行う体制が整備され，機能しているか。

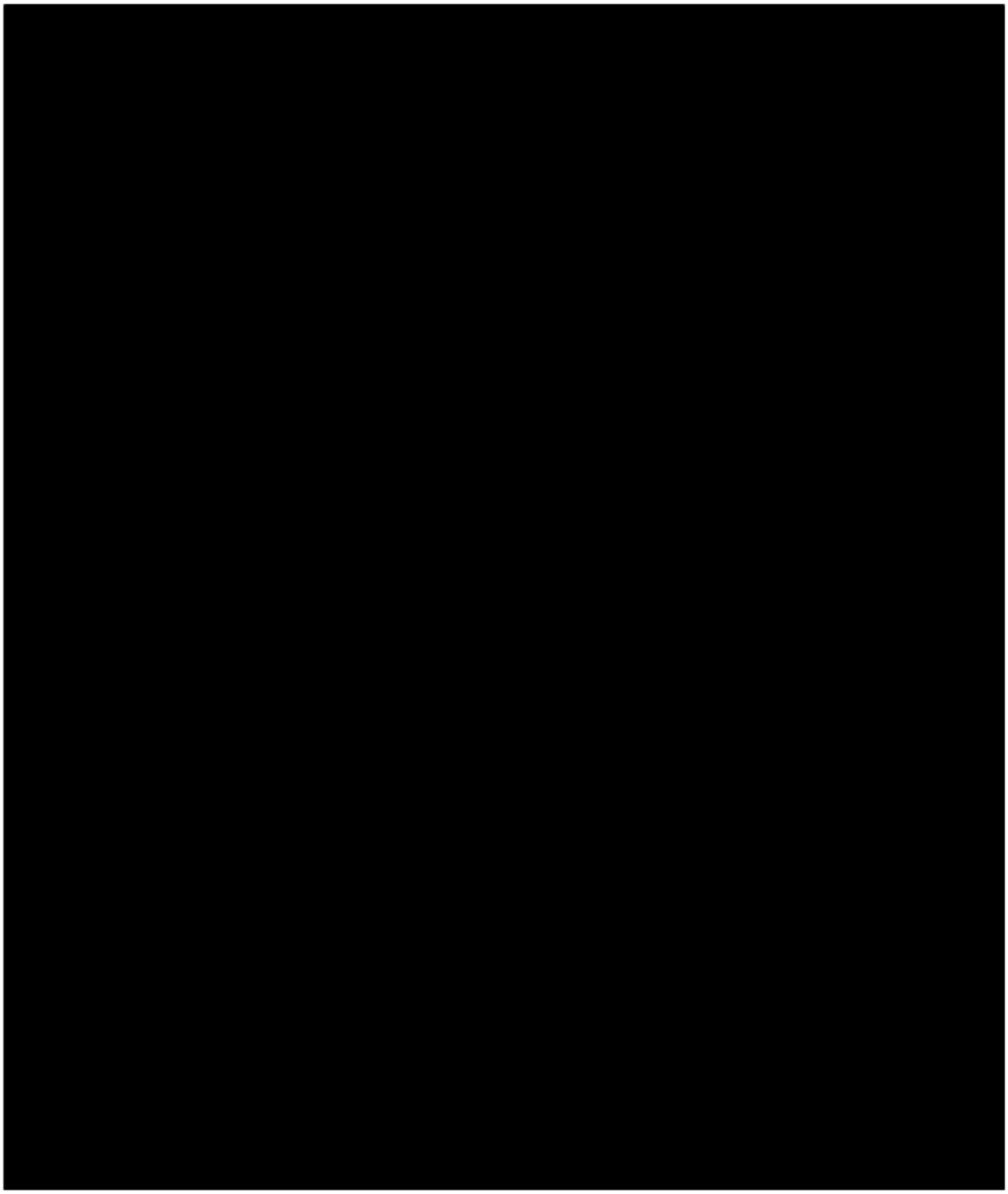
（観点に係る状況）

進路指導委員会が，準学士課程４年生と専攻科１年生を対象として９月に就職・進路ガイダンスを，１１月に面接講習を行い，１２月には本校において合同企業・大学説明会が実施されている（資料７―２―④―１）。さらに３月には担任または専攻長と保護者・学生の三者懇談会を実施している（資料７―２―④―２）。その他，就職希望者向けにインターンシップを８月初旬から９月初旬まで（資料７―２―④―３），進学希望者向けの大学説明会を４月頃から行っている（資料７―２―④―４）。

大学編入の資料は本館２階の進路指導室に設置され学生が閲覧できるようになっており（資料７―２―④―５），会社案内の資料は各学科５年担任の研究室近くに設置されている。就職状況や進学状況は資料７―２―④―６に示す通りである。

資料７―２―④―１

2013/5/3



1

（出典 進路指導委員会資料）

資料７―２―④―２

２）進路に関する三者懇談会のご案内

下記の日時に，進路活動に係る三者懇談会（教員・学生・保護者の面談）を行います．

日時　：平成 25 年 3 月 16 日（土），17 日（日）9:00-17:00
対応者：機械工学科 4 年生　　野毛
　　電気情報工学科 4 年生　　丹下
　　電子制御工学科 4 年生　　伊藤
　　建設システム工学科 4 年生　三輪
　　電気・制御システム工学専攻 1 年生　平地
　　建設・生産システム工学専攻 1 年生　山田（機械系），玉田（建設系）
場所　：各教員の研究室

つきましては，後日，各担任（専攻科の場合は進路担当教員）がご子息，ご息女を通じて，日程調整を行いますので，ご協力の程，よろしくお願いいたします．なお，上記の日時に都合がつかない場合，別の日の面談が可能ですので，各担任とご相談ください．

敬具

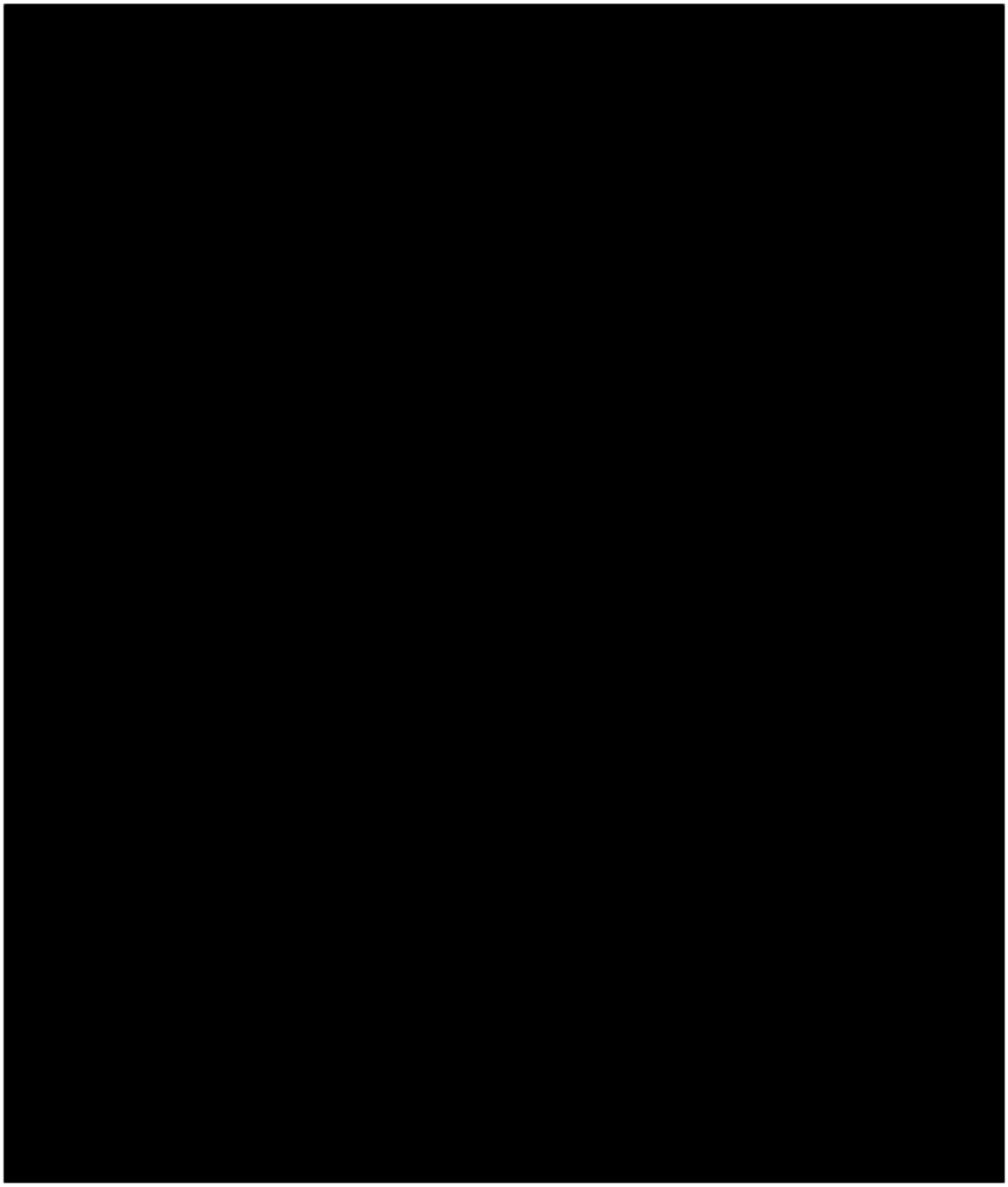
【送付一覧】
・誓約書
・就職指導ガイドライン
・進学指導ガイドライン
・進路アンケート
・H24 年度進路活動状況／H23 年度進路先／過去 7 年間の進学先
・H24 年度／H23 年度求人企業一覧

2/2

（出典　進路指導委員会資料）

資料７―２―④―３

2013/5/3

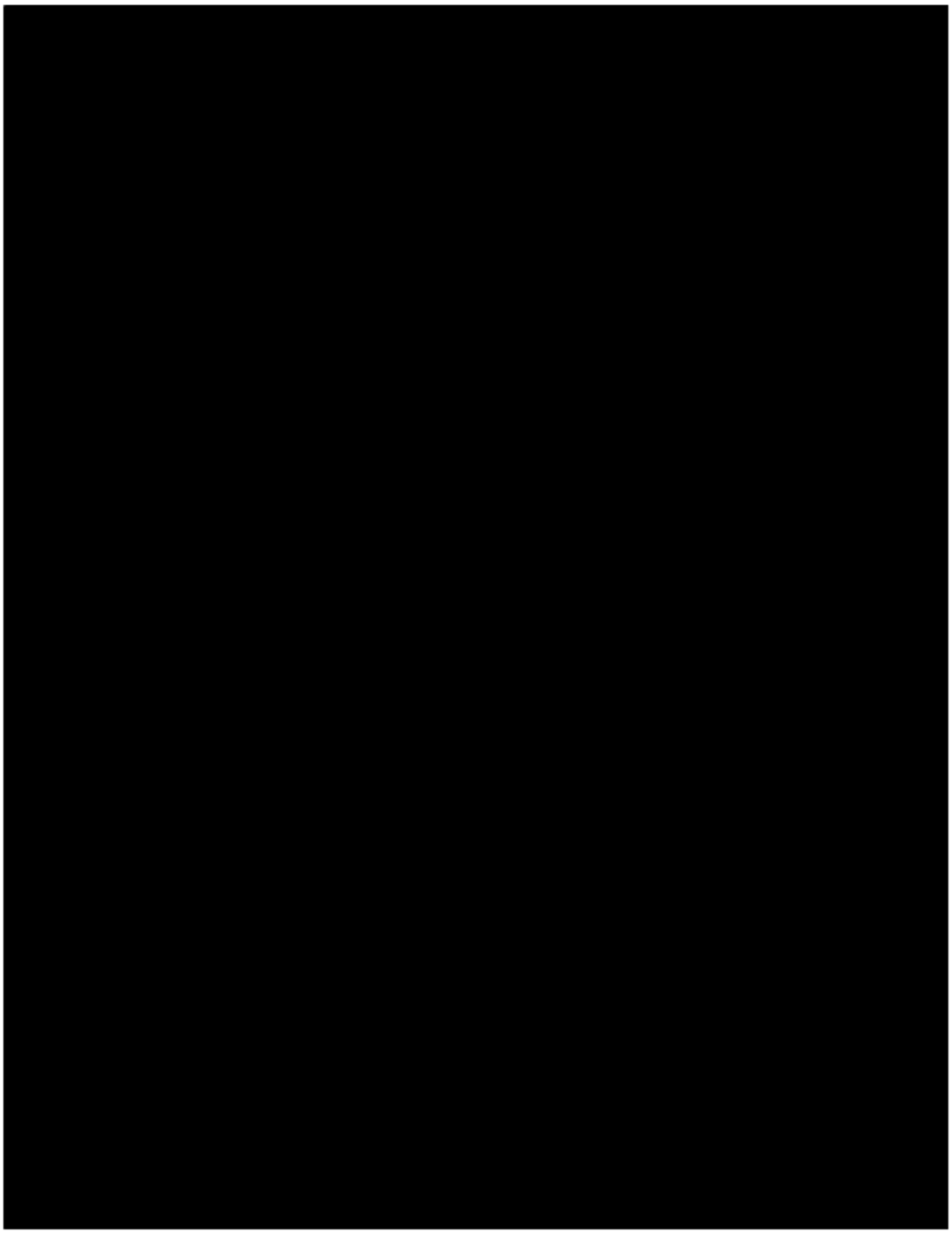


9

（出典　進路指導委員会資料）

資料７―２―④―４

2013/5/3



（出典　進路指導委員会資料）

資料７―２―④―５

2013/5/3

[redacted]

[redacted]

10

（出典 進路指導委員会資料）

資料７―２―④―６

過去７年間の進学先

	進学先（本科生）	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	合計
国立	室蘭工業大学		2						2
	東北大学		1			1			2
	筑波大学	1		1	1	1			4
	群馬大学					1			1
	宇都宮大学			1			1		2
	千葉大学				1		1	2	4
	東京工業大学		1						1
	電気通信大学					1	1		2
	横浜国立大学							1	1
	長岡技術科学大学	4	5	1	11	4	6	2	33
	富山大学		1						1
	金沢大学	2	1		2	2	1	3	11
	福井大学	2	5	5			3	6	21
	山梨大学	1	2						3
	信州大学	1	2	1				1	5
	新潟大学							1	1
	岐阜大学	5	5	5	3	1		3	22
	静岡大学						1		1
	豊橋技術科学大学	10	11	12	7	9	13	10	72
	三重大学		2	1	1		2	3	9
	京都大学			1					1
	京都工芸繊維大学	3	2	4	4	4	4	1	22
	大阪大学	1	3	1	3	2	2		12
	奈良女子大学	1							1
	神戸大学	2		1				1	4
	和歌山大学	1	4	3		1	3	1	13
	鳥取大学				1				1
	岡山大学	3				1	1		5
	広島大学		1		1	1	1	1	5
	島根大学							2	2
	山口大学		1		1	2		1	5
	徳島大学	1	3	1			1	1	7
	香川大学	1							1
	愛媛大学		1	1			1		3
	九州工業大学	3	3	1	2	1	1	3	14
	熊本大学		1						1
	大分大学		1						1
公立	高崎経済大学					1			1
	首都大学東京				1				1
	滋賀県立大学			1					1
	京都府立大学				1	1			2
私立	同志社大学		1	1	1				3
	立命館大学	2	2	2	2	1	1	3	13
	関西大学	3							3
	創価大学			1					1
	湊川短期大学			1					1
専攻科	舞鶴高専専攻科	23	24	17	21	18	19	13	135
	木更津高専専攻科	1							1
	鳥羽商船高専専攻科		1	1					2
	明石高専専攻科	1							1
	近大高専専攻科	1					2		3
合計		73	86	64	64	53	65	59	405

	進学先（専攻科生）	2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	合計
国立	長岡技術科学大学大学院	1			1	1			3
	北陸先端科学技術大学院大学							1	1
	金沢大学大学院		1	1	1				3
	福井大学大学院		1				1		2
	岐阜大学大学院		1						1
	豊橋技術科学大学大学院	1	1	1	1	3	1	1	9
	京都工芸繊維大学大学院	1	2	4	1	1	1		10
	大阪大学大学院		1		1		2	1	5
	奈良先端科学技術大学院大学		1		2	1	2	1	7
	神戸大学大学院					1	1		2
	九州工業大学大学院	2		1					3
私立	早稲田大学大学院		2						2
	立命館大学大学院	2							2
国外	University of Saskatchewan（カナダ）	1							1
合計		8	10	7	7	7	8	4	51

（出典 進路指導委員会資料）

資料７―２―④―６続き

H24 年度 (2012 年度) 進路活動状況

2012/12/06 現在

【 就 職 】

本科

機械工学科	電気情報工学科	電子制御工学科	建設システム工学科（都市環境）	建設システム工学科（建築）
[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]	[redacted]

専攻科

電気・制御システム工学専攻	建設・生産システム工学専攻（機械系）	建設・生産システム工学専攻（建設系）
[redacted]	[redacted]	[redacted]

※（推薦）：推薦応募による就考，（自由）：自由応募による就考，（公）：公務員試験による就考

1 / 5

（出典 進路指導委員会資料）

（分析結果とその根拠理由）

進路指導委員会は，各学科の４年と５年の担任や専攻長と協力し，就職や進学のガイダンスと年１回の合同企業・大学説明会を実施し，それらを基に三者懇談会を経て，就職の斡旋や進学の助言・指導を行っている。また大学編入，会社案内の資料も進路相談室において学生が自由に閲覧できるように配慮されている。

以上のことから，就職や進学などの進路指導を行う体制は整備され，機能している。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

国際コミュニケーション英語能力向上を図る支援としてTOEIC，A. C. E. E受験料を補助し，全学生が毎年受験させている点，海外６大学（タイのKing Mongkut's Institute of Technology Ladkrabang，韓国のKorea University，台湾の高雄第一科技大学，ベトナムの交通運輸大学，ベトナムのハノイ土木大学，中国の大連職業技術学院）との交流協定を締結し，学生の国際的視野が拡大できるよう支援している点，海外インターンシップを実施している点，毎年１２月頃に合同企業・大学説明会を本校で開催するなど，就職や進学の指導をきめ細かく実施している点などが優れている。

（改善を要する点）

特になし。

（３）基準７の自己評価の概要

学生が学習を進める上でのガイダンスとして，入学・編入学時のオリエンテーション，選択科目の履修説明や修得単位数の確認指導，生産・情報基礎工学プログラムの説明会やそのプログラム到達度確認の指導，学位申請説明会（専攻科生対象）が実施されている。また学習を進める上での個別相談や助言として，オフィスアワーや担任・副担任による個別指導が実施されている。学生の自主的学習スペースとして，図書館・情報科学センター・教室・本館廊下のフリースペースなどが整備されている。学生が学習を進める上で感じている支援ニーズは，校長とのフリートーキング，学生による授業評価アンケート，公開授業の学生からの意見などを通して把握されている。資格試験や検定試験を受験する上での支援は，実用英語技能検定とＴＯＥＩＣに関して行われている。ＴＯＥＩＣではスコアに応じて単位が認定され，その受験料は一部学校から補助され，全学生が受験するようになっている。学習を進める上で特別な支援が必要な学生は，本校では留学生，編入学生，転科生，発達障害のある学生である。留学生には，指導教員とチューターが支援にあたり，日本語の授業と専門教科の補習授業が実施されている。編入学生と転科生には，専門教科の補習授業が実施されている。発達障害のある学生にはチューターを付ける場合もある。課外活動に対する支援として，全教員がクラブ顧問を分担して支援している。

生活面に係わる支援としては，指導・相談・助言を行う学生相談室が設置されており、学生の経済面に係わる支援として授業料や寄宿料の免除や徴収猶予及び奨学金の制度が整備されている。生活する上で特別な支援が必要な学生は本校では留学生であり，国民健康保険への加入や日本学生支援機構

の外国人留学生医療費補助制度の利用などが指導されている。また、福利厚生施設として青葉会館１階に学生食堂と売店が設置されている。学生寮が生活及び勉学の場として機能するような支援体制として，安全確認のための在寮点呼，消灯後の巡回，始業前の巡回，試験前の低学年生登校指導などが行われている。

就職や進学などの進路指導を行う体制として，進路指導委員会が各学科４年と５年の担任及び専攻長で組織され，毎年複数回のガイダンスと１回の合同企業・大学説明会と三者懇談会が実施されている。

基準８　施設・設備

（１）観点ごとの分析

観点８－１－①：　学校において編成された教育研究組織の運営及び教育課程の実現にふさわしい施設・設備が整備され、適切な安全管理の下に有効に活用されているか。また、施設・設備のバリアフリー化や環境面への配慮がなされているか。

（観点に係る状況）

校地および敷地内の各施設の配置状況は以下の通りである（資料８－１－①－１，２）。

資料８－１－①－１

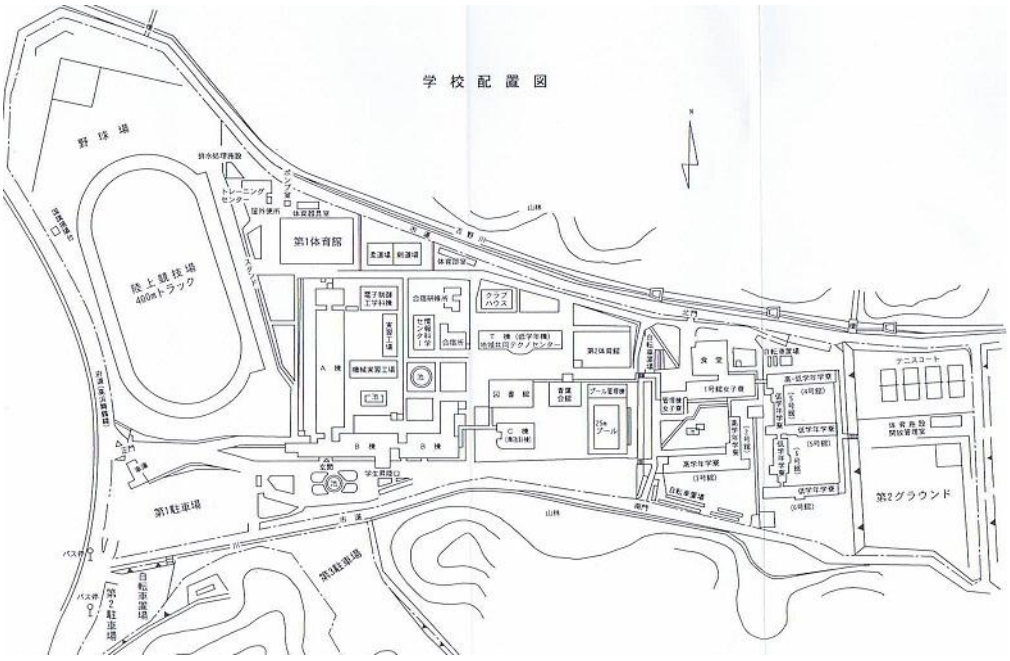
校地内訳

総　面　積	内　　訳　［m^2］	
126,695 m^2	校舎敷地	49,674
	学寮敷地	23,555
	運動場敷地	47,993
	実験実習地	754
	艇庫敷地	453
	職員宿舎（浜）	666
	職員宿舎（行永）	3,600

（出典　平成２４年度 学校概要）

資料８－１－①－２

施設配置図



（出典　平成２４年度 学生便覧）

教育課程に必要な施設として，管理部および一般教科棟，専攻科棟，各学科棟，共通講義棟，地域共同テクノセンターを含む低学年棟，情報科学センター，機械工学科実習工場，図書館，第１・第２体育館，グラウンド，福利厚生施設の青葉会館，合宿所等が整備されている（資料８－１－①－３～６）。

資料８－１－①－３

校舎の整備状況

名　　称	構　造	総面積［m^2］	完成年（改修年）
管理部および 一般教科棟	ＲＣ－４	3,719	昭和 41 年 （平成 14 年）
専攻科棟	ＲＣ－３	991	平成 14 年
機械工学科棟	ＲＣ－３	3,039	昭和 42 年 （平成 14 年）
電気情報工学科棟	ＲＣ－３	1,448	昭和 42 年 （平成 14 年）
電子制御工学科棟	ＲＣ－３	785	平成５年
建設システム工学科棟	ＲＣ－４	2,554	昭和 46 年 （平成 15 年）
共通講義棟	ＲＣ－３	670	昭和 56 年 （平成 14 年）
低学年棟	ＲＣ－４	1,854	平成 12 年

（出典　平成２４年度 学校概要）

資料８－１－①－４

主要施設の整備状況

名　　称	構　造	総面積［m^2］	完　成　年
地域共同テクノセンター	ＲＣ－４	1,854	平成 12 年
情報科学センター	ＲＣ－１	300	昭和 49 年
機械工学科実習工場	Ｓ－１	673	昭和 42 年
図書館	ＲＣ－３	1,653	昭和 48 年

（出典　平成２４年度 学校概要）

資料８－１－①－５

体育施設の整備状況

名　　称	構　　造　／　摘　　要	総面積［m^2］	完成年
第１体育館	Ｓ－１／ステージ・アリーナ	1,719	昭和 42 年
第２体育館	Ｓ－１／アリーナ	906	昭和 55 年
武道館	Ｓ－１／剣道場・柔道場	531	昭和 44 年
体育器具庫	Ｂ－１	59	昭和 42 年
トレーニングセンター	Ｓ－１	129	昭和 52 年
体育施設開放管理室	ＲＣ－１／ﾐｰﾃｨﾝｸﾞﾙｰﾑ・更衣室など	128	昭和 56 年
プール	ステンレス　２５ｍ　７コース	付属室 129	平成 6 年
陸上競技場	４００ｍトラック　８コース 夜間照明有	21,000	－
野球場	両翼８５ｍ　内野夜間照明有	10,000	－
第２グラウンド	ソフトボール場　１面　夜間照明有	7,000	－
テニスコート	クレイ２面・全天候２面　夜間照明有	2,600	－

（出典　平成２４年度 学校概要）

資料８－１－①－６

福利厚生施設等の整備状況

名　　称	構　　造　／　摘　　要	総面積［m^2］	完成年
青葉会館	ＲＣ－２／食堂・学生相談室など	699	昭和 57 年
合宿所	Ｓ－１／宿泊施設	215	昭和 42 年
クラブハウス	Ｓ－１	200	昭和 51 年
艇庫	Ｓ－１	92	昭和 51 年

（出典　平成２４年度 学校概要）

教員研究室および教室には冷暖房機器を完備し教育・研究に快適な環境を提供している（資料８－１－①－７，８）。また，教室・講義室には液晶プロジェクター・スクリーンや視聴覚機器を配備し，視聴覚教育・情報教育が可能な学習環境を整えており，資料８－１－①－８に見られるようにそれぞれの教室・講義室は有効に活用されている。

資料８－１－①－７

教員研究室の整備状況

学　科　等	教員数［人］	部屋数［室］	総面積［m^2］	空調の有無
人文科学部門	10	10	192	有
自然科学部門	10	10	234	有
機械工学科	11	11	335	有
電気情報工学科	11	11	488	有
電子制御工学科	9	10	257	有
建設システム工学科	10	10	260	有
専攻科	0	2	81	有

（出典　総務課資料）

資料８－１－①－８

教室・講義室の整備状況

部屋名称	部屋数［室］	面積［m^2］	収容数［人］	使用時間＊	設　　備　　等
クラスルーム	20	79	45～55	210	空調有，液晶プロジェクター・スクリーン，ビデオデッキ，ＯＨＰ台（４Ｍ・４Ｃ）
少人数教室	7	47～63	30	4～10	空調有
日本語教室	1	47	12	2	空調有
第一合併教室	1	132	146		空調有，液晶プロジェクター・スクリーン
第二合併教室	1	126	80	14	液晶プロジェクター・スクリーン，ビデオデッキ，ＯＨＰ,テレビ，空調有
視聴覚教室	1	217	216	10	液晶プロジェクター・スクリーン，ビデオデッキ，テレビ，空調有
専攻科講義室	3	38～81	15～35	5～10	液晶プロジェクター･スクリーン，空調有

＊週あたりの平均の使用時間［時間／週］

（出典　学生課資料）

実験･実習，演習，ものつくりを重視する」教育方針のもと，ＬＬ教室，物理実験室，化学実験室をはじめ，非破壊実験室，基礎電気実験室，ロボット工学実験室，水工学実験室，流れ学実験室，熱工学実験室，実習工場等，多様な実験室が整備され，有効利用されている（資料８－１－①－９，１０）。平成２１年度には高性能な走査型電子顕微鏡が導入され，実習工場には最新鋭の工作機械が多数導入された。平成２２年度には新規に風洞が導入され，より高度な実験・実習・演習が可能となった。実験室等の空調に関しては，夏季２８℃・冬季２０℃とする指導のもと，一定時間が経過すると自動的に電源が切れるよう集中管理されている。

資料８－１－①－９

実験・実習・演習室等の整備状況

学　科　等	部屋数［室］	総面積［m^2］	時間＊	摘　　要
人文科学部門	1	132	13	ＬＬ教室
自然科学部門	2	194	19	物理実験室，化学実験室
機械工学科	5	1068	※	熱工学実験室，材料金相学実験室，非破壊実験室， CAD 実習室，機械実習工場
電気情報工学科	6	780	※	計算機実習室，情報通信実験室，基礎電気実験室， 情報工学実験室，自然エネルギー実験室，電気工学実験室
電子制御工学科	9	806	※	プラズマ解析実験室，実験機材室，制御応用実験室， 計測応用実験室，電子デバイス実験室， ロボット工学実験室，メカトロニクス実験室， 電子制御実験室，CAD/CAM 実験室
建設システム工学科	5	523	※	水工学実験室，構造実験室，コンクリート材料実験室， 地盤工学実験室，環境工学実験室
専攻科	7	321	36	電気通信実験室，水圏環境実験室，材料実験室， 振動実験室，情報処理実験室，制御システム実験室， 情報演習室
情報科学センター	1	300	12.5	情報処理室
マルチメディア室	1	112	7	情報科学センター分室（マルチメディア室）
地域共同 テクノセンター	3	162	―	情報システム開発支援室，構造解析システム支援室， 試作室
共通実験室	13	1264	※	A115，A116，A223，A228，A325，A326，A327，A328，A329， B313，B406，B407，B410

＊ 週あたりの平均の使用時間

※ 詳細は資料８－１－①－１０

（出典　総務課資料）

資料８－１－①－９に示された実験・実習・演習室における各学科の授業科目は資料８－１－①－１０に示す通りである。

資料８－１－①－１０

機械工学科 実験室使用状況

実験室名	科目名等	時間＊	合計＊
機械実習工場	入門機械実習	1	10
	工作実習 I	2	
	工作実習 II	4	
	創造設計製作	3	
共通実験室 A-115	機械工学実験 I･II	4	4
共通実験室 A-326	機械工学実験 I･II	4	4
ＣＡＤ実習室	テクニカルドローイング	1	14
	情報処理 IA･IB	2	
	設計製図 IA･IB	2	
	情報処理 IIA･IIB	2	
	設計製図 III	2	
	創造設計製作	3	
	設計製図 IV	2	
材料・金相学実験室	機械工学実験Ⅰ・Ⅱ	4	4
非破壊実験室	機械工学実験Ⅰ・Ⅱ	4	4
熱工学実験室	機械工学実験Ⅰ・Ⅱ	4	4

建設システム工学科 実験室使用状況

実験室名	科目名等	時間＊	合計＊
水工学実験室	建設システム工学実験Ⅲ	2	2
構造実験室	建設システム工学実験ⅠA・B	2	2
コンクリート材料実験室	建設システム工学実験ⅠA・B	2	2
地盤工学実験室	建設システム工学実験ⅠA	2	4
	建設システム工学実験ⅠB	2	
環境工学実験室	建設システム工学実験Ⅳ	2	2
建築 CAD 室　A-411	建設設計製図ⅡB	2	8
	建設設計製図ⅡA	2	
	建築デザインⅠ	2	
	建築デザインⅡ	2	

＊週あたりの使用時間

（出典　平成２４年度シラバスおよび実績）

資料８－１－①－１０の続き

電気情報工学科 実験室使用状況

実験室名	科目名等	時間＊	合計＊
電気工学実験室 A-224	電気概論	2	１８
	電気情報工学実験ⅠA・ⅠB	4	
	電気情報工学実験ⅡA・ⅡB	4	
	電気情報工学実験ⅢA・ⅢB	4	
	電気情報工学実験ⅣA・ⅣB	4	
情報通信実験室 A-107	電気情報工学実験ⅠA・ⅠB	4	２２
	電気情報工学実験ⅡA・ⅡB	4	
	電気情報工学実験ⅢA・ⅢB	4	
	電気情報工学実験ⅣA・ⅣB	4	
	専攻科特別実験	6	
計算機実習室 A-106	電気情報工学実験ⅡA・ⅡB	4	8
	電気情報工学実験ⅣA・ⅣB	4	
自然エネルギー実験室 A-105	創造工学	3	6
	工学基礎研究	3	
共通実験室 A-325	創造工学	1	2
	工学基礎研究	1	
電気通信実験室 C-103	特別実験	6	6
情報演習室 C-204	パワーエレクトロニクス	1	3
	電磁気応用工学	2	
マルチメディアセンター演習室	シミュレーション工学Ⅰ	2	4
	シミュレーション工学Ⅱ	2	
情報科学センター演習室	インターフェースⅡ	2	１０
	デジタル信号処理	2	
	工学基礎	2	
	コンピュータグラフィックス	2	
	ネットワーク論Ⅰ・Ⅱ	2	

＊週あたりの使用時間

（出典　平成２４年度シラバスおよび実績）

資料８－１－①－１０の続き

電子制御工学科 実験室使用状況

実験室名	科目名等	時間＊	合計(＊)
機械実習工場	電子制御実習Ⅰ(前)	4	8
	電子制御実習Ⅱ(後)	4	
ＣＡＤ/ＣＡＭ	工学基礎Ｓ（前・後）	2	48
	情報処理Ⅱ(前)	2	
	情報処理Ⅲ(後)	2	
	電子制御実験Ⅰ(前)	4	
	電子制御実験Ⅱ(後)	4	
	情報処理Ⅳ(前)	2	
	CAD 演習ⅠA	2	
	創造設計プロジェクト（後）	4	
	数値計算法Ⅰ(前)	2	
	数値計算法Ⅱ(後)	2	
	電子計測実験(前)	4	
	画像処理(前)	2	
	CAD 演習ⅡA（前）	2	
	CAD 演習ⅡB（前）	2	
	CAD 演習ⅡC（後）	2	
	制御工学実験（後）	4	
	情報学Ⅰ（前）	2	
	情報学Ⅱ（後）	4	
情報科学センター	情報処理Ⅰ（後）	2	6
	情報リテラシー（前）	2	
	CAD 演習ⅠB(後)	2	
電子制御実験室	電子制御実験Ⅰ（前）	4	12
	電子制御実験Ⅱ（後）	4	
	創造設計プロジェクト（後）	4	
	電子計測実験(前)	4	
制御応用実験室	電子制御実験Ⅰ（前）	4	20
	電子制御実験Ⅱ(後)	4	
	創造設計プロジェクト（後）	4	
	電子計測実験(前)	4	
	制御工学実験（後）	4	
テクノセンター	制御工学実験（後）	4	4

＊　週あたりの使用時間　　（出典　平成２４年度シラバスおよび実績）

特に，資料８－１－①－９，１０で示した共通実験室は，教育研究の展開に柔軟に対応して使用することができる。その使用要領を資料８－１－①－１１のように定め，教育研究活動を効率的に推進している。

資料８－１－①－１１

○舞鶴工業高等専門学校共通実験室使用要領

（趣旨）

第１条　この要領は，舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育研究活動の推進及び質の向上に資することを目的に，共通実験室の効率的な管理及び有効活用を図るため，共通実験室の使用に関し必要な事項を定める。

（使用資格）

第２条　共通実験室を使用できる者は，本校の教職員，学生及び共同研究等に参画する者で，次の各号のいずれかに該当するものとする。

（１）本校の教職員が独創的教育研究を実施するための施設がない場合

（２）複数の学科の教職員が共同で教育研究を実施するための施設がない場合

（３）民間との共同研究及び受託研究等を実施するための施設がない場合

（４）本校の教職員の監督の下，学生が研究を実施する施設がない場合

（５）その他校長が本校の教育研究活動の推進及び質の向上に資すると認めた場合

（使用期間）

第３条　共通実験室の使用期間は，原則として１会計年度内とする。ただし，毎年度審査を受けることにより、３会計年度を限度として延長することができる。

２　共通実験室の使用開始時期は，４月とする。

３　前２項の規定にかかわらず，校長が特別な事由があると認めた場合は，この限りではない。

（使用・延長使用申込み）

第４条　第２条に定める使用資格を有する者（以下「使用資格者」という。）が共通実験室の使用又は延長使用を希望する場合は，使用申込書又は延長使用申込書（別紙様式）により，使用資格者の代表者（本校の教職員に限る。）が，毎年１月末日までに校長に申し込まなければならない。

２　共通実験室及び設備等に変更を加える必要がある場合は，前項の申込書記載の際に当該変更内容について，書類を作成し申込書に添付しなければならない。

３　第１項に定める申込みの受付は，総務課財務係において行う。

（使用決定）

第５条　舞鶴工業高等専門学校施設整備計画専門部会（以下「専門部会」という。）は，前条による使用申込みがあった場合，第２条に規定する使用資格及び申込書の記載内容を確認の上，舞鶴工業高等専門学校将来計画検討委員会（以下「委員会」という。）に報告しなければならない。

２　委員会は，全校の報告を受け，共通実験室の使用について審議し，その審議結果を校長に報告しなければならない。

３　校長は委員会の審議を参考に，使用の可否について決定し，別紙様式第３により通知するものとする。

（使用の取消し）

第６条　校長は，次の各号のいずれかに該当すると認められる場合には，第５条第３項による使用決

（７－26－１）

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

教育・研究を進める上での打ち合わせや会議に対しては，会議の規模・内容に応じた会議室が，また学生に進路指導を行う施設として進路指導相談室が整備され，有効に活用されている（資料８－１－①－１２）。

資料８－１－①－１２

会議室等使用状況

部　屋　名　称	収容人数［人］	総面積［m^2］	使用時間＊
大会議室	70	177	20
中会議室	20	63	35
多目的会議室	10	63	35
進路指導相談室	12	32	38

＊月あたりの平均の使用時間

（出典　総務課資料）

以上，本校では教育課程を実現できる施設・設備が整備され，有効に活用されており，これらの施設の管理は舞鶴工業高等専門学校施設管理規則（資料８－１－①－１３）に従って行われている。

資料８－１－①－１３

○舞鶴工業高等専門学校施設管理規則

（趣旨）

第１条　この規則は，舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）に所属する建物及び土地並びにこれらの附属設備（以下「施設」という。）における秩序の維持並びに安全保持及び使用等（以下「管理」という。）の適正を期し，本校の教育，研究の円滑な運営を確保することを目的とする。

２　施設の管理については，独立行政法人国立高等専門学校機構不動産管理規則（平成１６年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第３８号。以下「規則」という。）及びこれに基づく特別の定めのある場合を除くほか，この規則の定めるところによる。

（総括管理者等）

第２条　校長は総括管理者として，本校所属の施設の管理を総括する。

２　事務部長は総括管理補助者として校長を補佐し，施設の管理に関する事務の総括について企画及びその実施の任にあたる。

（管理者等）

第３条　総務課長は管理者，学生課長は管理補助者として，事務部長の指揮監督のもと，本校に所属する施設の管理に関する事務を処理する。

２　管理者及び管理補助者（以下「管理者等」という。）が，出張，疾病，その他の用務により不在の場合は事務部長又はあらかじめ事務部長の指定する職員（以下「代理管理者等」という。）が管理者等に替わってその事務を代行するものとする。

（管理事務補助者）

第４条　事務部長（事務部長不在の場合は，管理者等（第３条第２項に定める代理管理者等を含む。以下同じ。）は，施設の管理上特に必要があると認めるときは，校長の承認を得て，本校所属の職員に施設の管理に関する事務補助の執行にあたらせることができる。

２　前項の指定を受けた職員は，管理者等の指揮のもとにこれを補助するものとする。

（施設使用者の義務）

第５条　本校の施設の使用を許可された者は，本校の規程等を遵守するとともに，総括管理者等（総括管理補助者，管理者等，代理管理者等，管理事務補助者を含む。）において，施設の管理上必要

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

また，近年の施設･設備の整備により，老朽化した施設の改修が行われ（資料８－１－①－１４），さらに，エレベーター，校舎入り口スロープ，障害者用トイレの設置など，バリアフリー化を図っている（資料８－１－①－１５）。

資料８－１－①－１４

施設整備状況

年　度	教育・研究施設
平成 23 年	寄宿舎３号館１階談話室等内装改修工事 寄宿舎３号館１階談話室等電気設備改修 寄宿舎３号館１階談話室等機械設備改修 寄宿舎自動火災報知設備改修 寄宿舎６号館寮室等錠取替 福利厚生施設２階多目的室改修 福利厚生施設２階多目的室電気設備改修 福利厚生施設２階多目的室空調設備改修 校舎渡り廊下整備工事
平成 22 年	本館棟 B－403 号室等エアコン取設 野球場バックネット改修工事 機械実習工場 CAD/CAM 実習室ケーブルラック等取設 寄宿舎４号館等寮室床改修工事 建設システム工学科棟１階実験室空調機取設工事
平成 21 年	第２体育館等耐震改修工事 図書館耐震改修工事
平成 20 年	電子制御工学科棟屋上防水改修工事 寄宿舎寮室等内装改修工事 寄宿舎１号館寮食堂屋上防水改修工事
平成 19 年	柔道場屋根改修工事 寄宿舎４・５号館耐震改修工事 第１体育館等耐震改修工事 校舎等身障者対策工事
平成 18 年	校内身障者対策工事 寄宿舎６号館便所改修工事 寄宿舎６号館便所改修機械設備工事 寄宿舎５号館便所等改修工事 寄宿舎５号館便所等改修機械設備工事 寄宿舎４号館便所等改修工事

（出典　総務課施設係資料）

資料８－１－①－１５

施設整備状況

舞鶴工業高等専門学校　身障者対策一覧

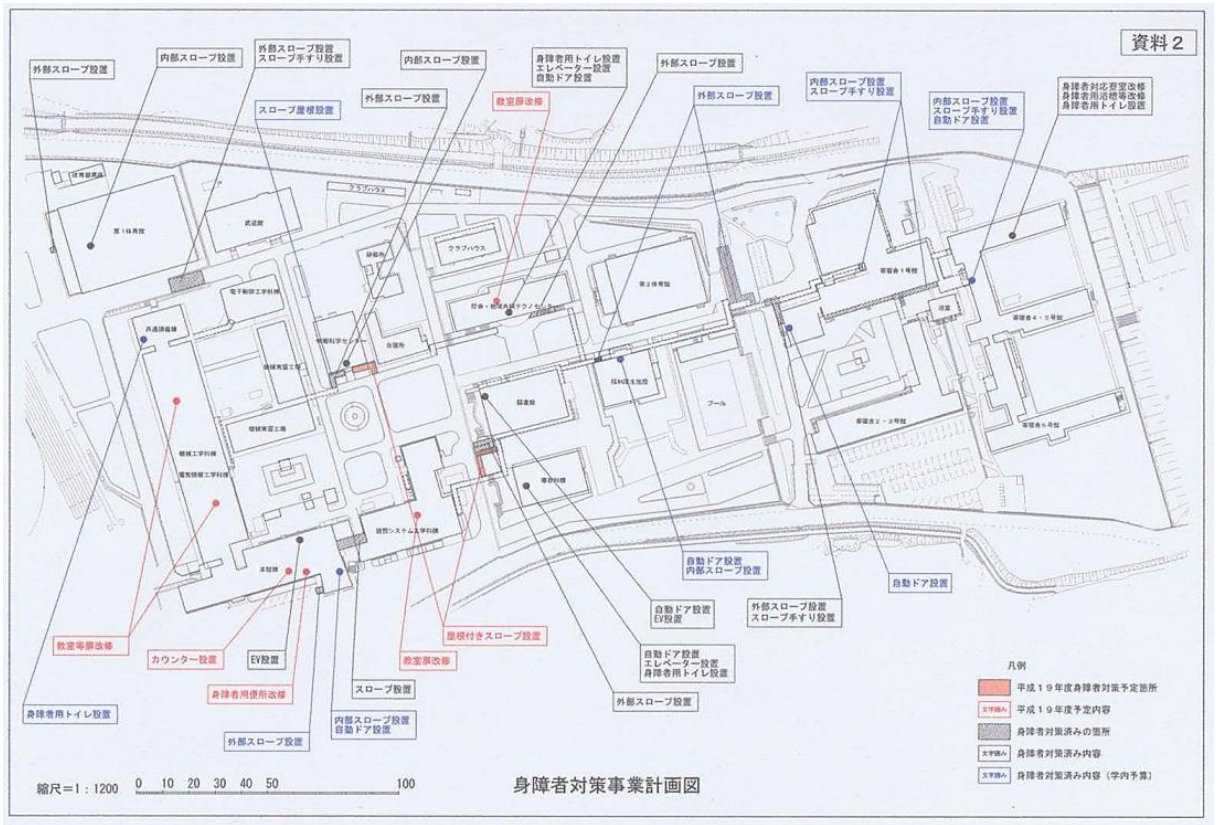
（千円）

建物名称等	対応策	文教施設整備費	営繕（18年度）	学内予算	要求金額（19年度）
本館棟	エレベーター設置	13,000			
	自動ドア			1,000	
	内部スロープ			200	
	外部スロープ			500	
	身障者トイレ改修				1,460
	学生課カウンター設置				130
建設システム工学科棟	扉改修				700
	外部スロープ		200		
機械工学科棟 電気情報工学科棟	扉改修（2箇所）				1,390
共通講義棟	身障者トイレ改修			1,500	
第1体育館	内部スロープ設置	500	500		
	外部スロープ・スロープ手すり設置	1,500	1500		
情報科学センター	スロープ設置		600		
	外部スロープ及び屋根設置				3,370
専攻科棟	自動ドア設置	500			
	エレベーター設置	13,000			
	身障者トイレ設置	2,000			
図書館	自動ドア設置	600			
	エレベーター設置	13,000			
	外部スロープ設置	2,000			
	スロープ屋根設置				3,930
福利厚生施設	自動ドア設置			600	
	内部スロープ設置			200	
	外部スロープ設置			500	
校舎・地域共同 テクノセンター	エレベーター設置	13,000			
	身障者トイレ設置	2,000			
	自動ドア設置	600			
	外部スロープ設置	500			
	扉改修				630
寄宿舎1号館	自動ドア設置（4箇所）			2,400	
	通路スロープ・手すり設置			800	
	外部スロープ・手すり設置			500	
寄宿舎4・5号館	自動ドア設置			600	
	内部スロープ・手すり設置			500	
	身障者対応寮室改修		3,000		
	身障者対応浴槽・トイレ設置		5,000		
校舎・寄宿舎間スロープ	屋外スロープ・屋根・照明			4,200	
計		*62,200*	*10,800*	*13,500*	*11,610*

（出典　総務課施設係資料）

資料８－１－①－１５の続き

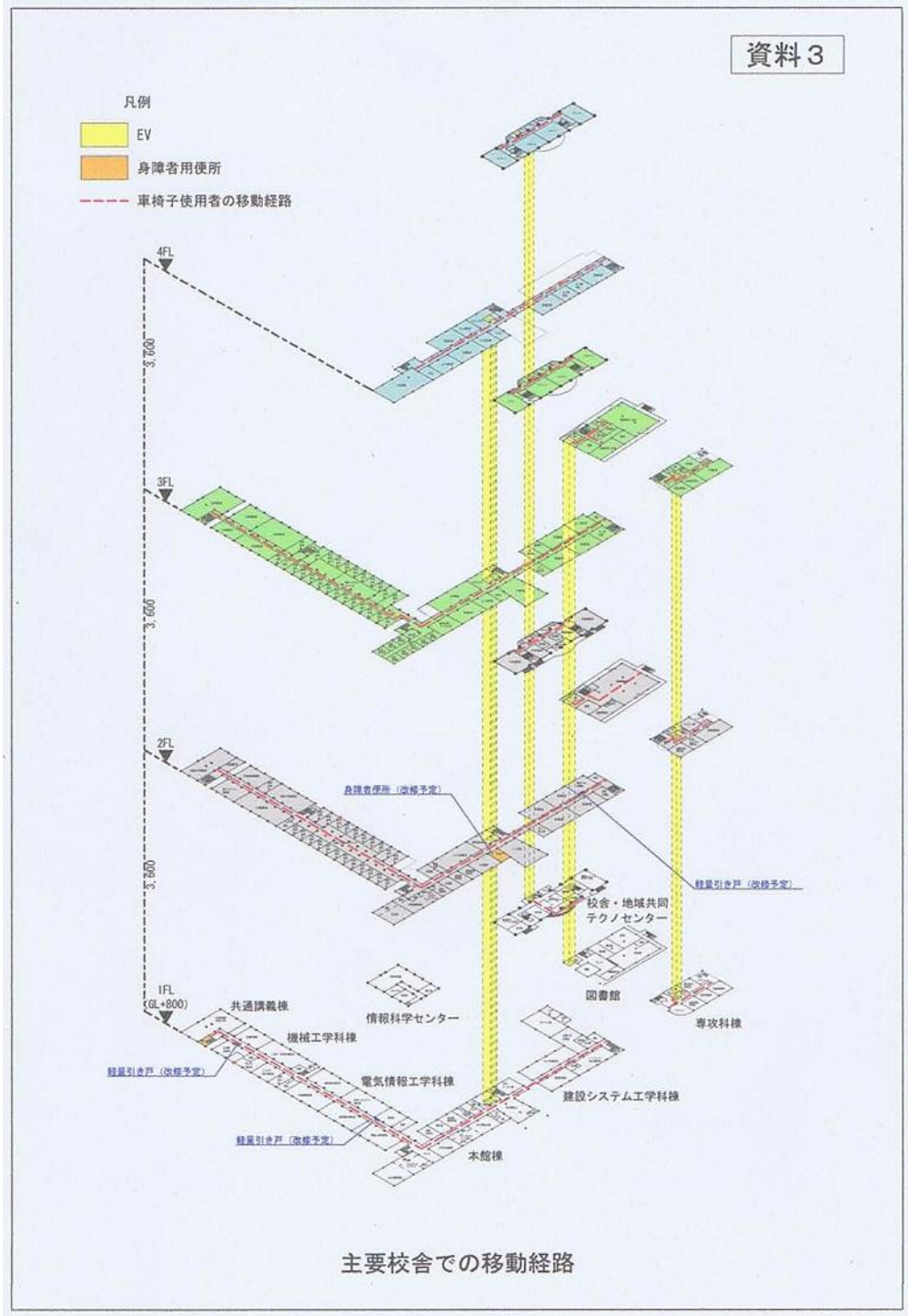
施設整備状況



（出典　総務課施設係資料）

資料８－１－①－１５の続き

施設整備状況

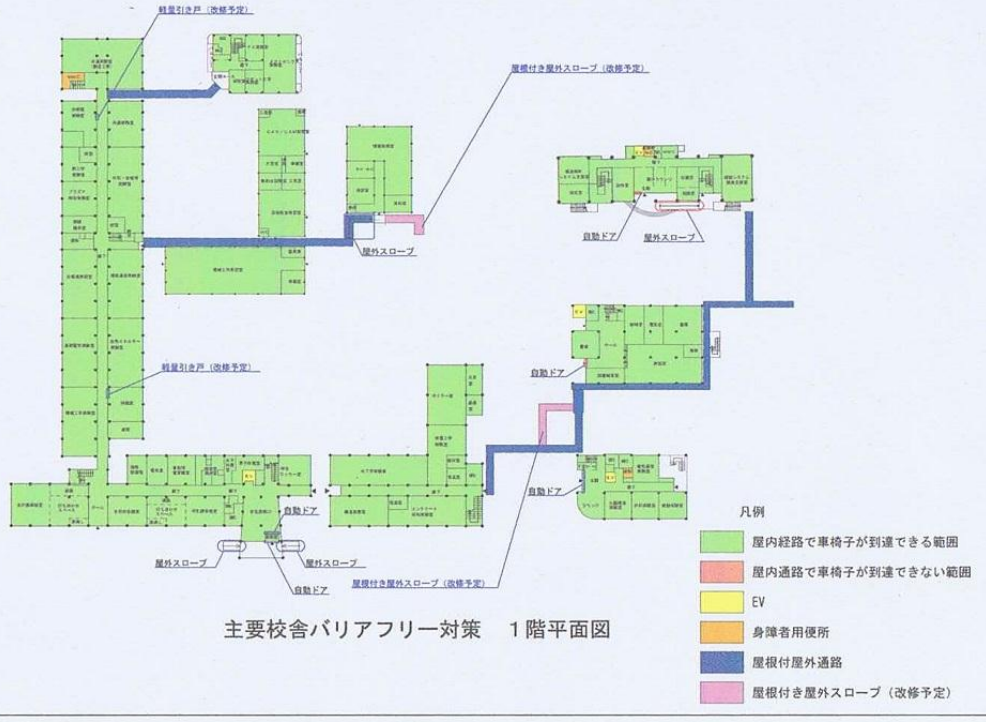


（出典　総務課施設係資料）

資料８－１－①－１５の続き

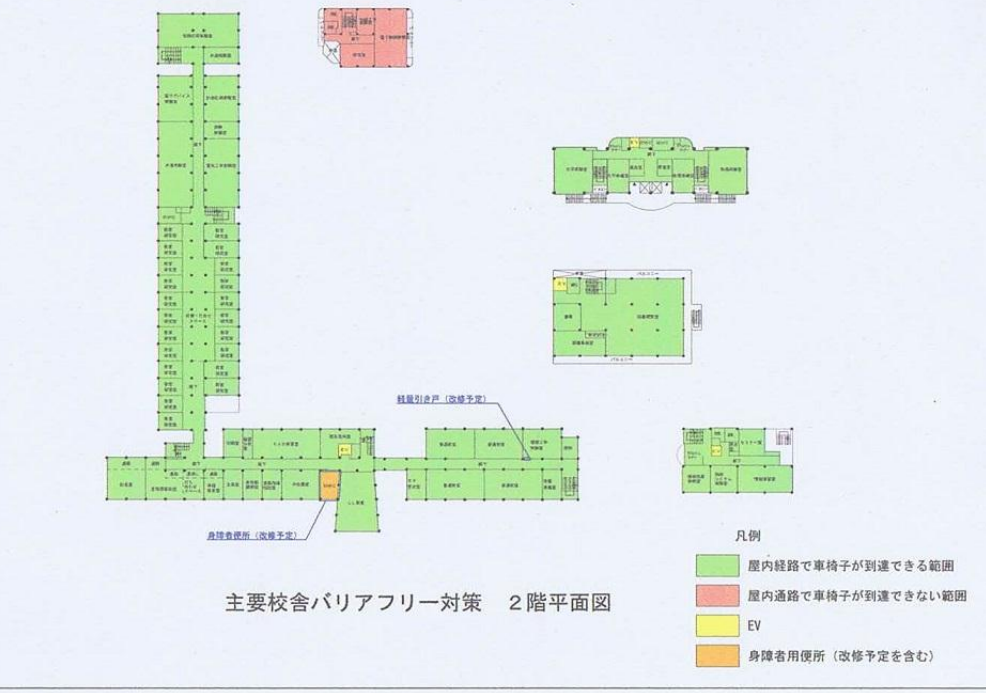
施設整備状況

資料４－１



主要校舎バリアフリー対策　１階平面図

資料４－２



主要校舎バリアフリー対策　２階平面図

（出典　総務課施設係資料）

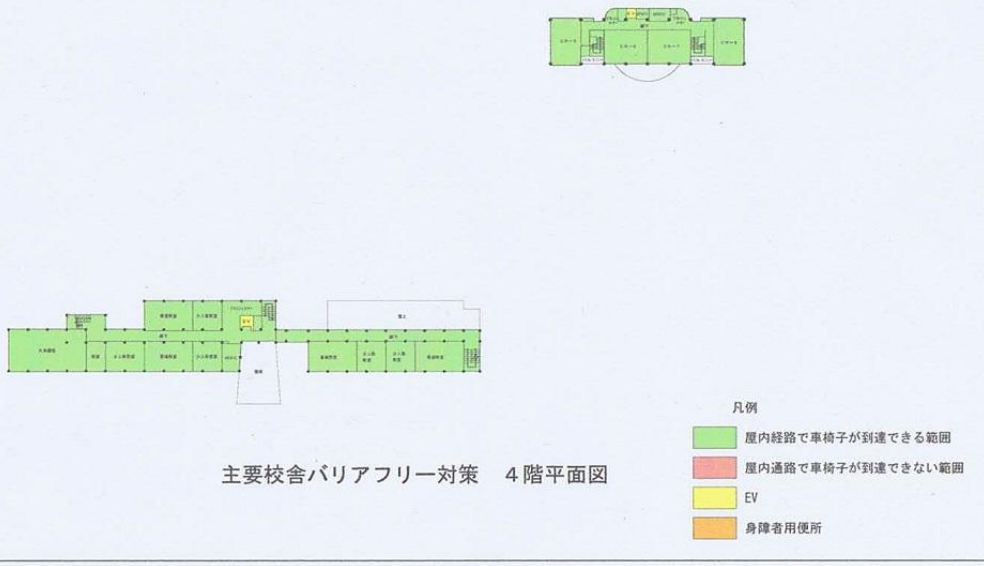
資料８－１－①－１５の続き

施設整備状況

資料４－３

主要校舎バリアフリー対策　３階平面図

資料４－４



主要校舎バリアフリー対策　４階平面図

（出典　総務課施設係資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校の施設･設備は，高等専門学校設置基準第２２条～２４条に定められた要件を満たしている。本校の教育課程を実現する施設・設備が整備されており，これらは高等専門学校設置基準第２５条～２７条に定められた要件を満たしている。教室・実験室等は適切な管理体制の下で安全かつ有効に活用されている。キャンパスのバリアフリー化や，空調の集中管理等，環境面への配慮もなされている。

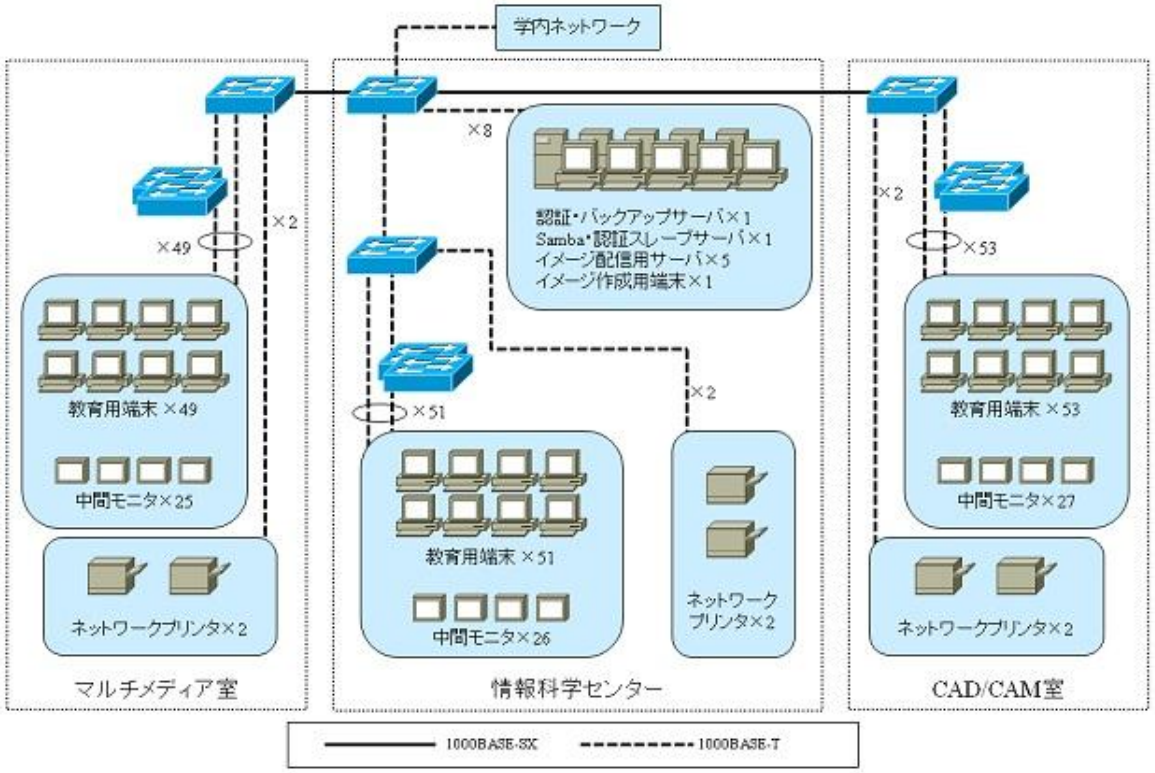
観点８－１－②：　教育内容、方法や学生のニーズを満たすＩＣＴ環境が十分なセキュリティ管理の下に適切に整備され、有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

平成１６年度にネットワークおよびネットワーク機器を更新し，平成２１年度には再度の更新を行った。現在は，高速光ネットワークをベースとする Gigabit LAN システムが敷設されており，教員研究室，事務室，学寮などからインターネットの利用が可能である。情報科学に関する教育研究の推進及び学外との技術交流の中心的役割を担う，校内の情報科学センターには，一斉教育用に51台の教育用端末が設置されている他，図書館のマルチメディア室に49台，制御棟 CAD/CAM 教室に53台が設置され，プログラミング教育や卒業研究，課外活動などに利用されている（資料８－１－②－１）。

資料８－１－②－１

校内 LAN システム



（出典　情報科学センターウェブページ）

資料８－１－②－１の続き

情報科学センター演習室

図書館棟マルチメディア室

制御棟 CAD/CAM 室

マルチメディアスタジオ
（マルチメディア教材作成用）

（出典　情報科学センターウェブページ）

その他，専攻科棟に31台，機械工学科 CAD 室に50台，建設システム工学科 CAD 室に27台，電気情報工学科に25台，テクノセンターコンピュータ室に15台，図書館の情報検索用に８台が設置されネットワークに接続されている。

平成１７年度にネットワークを学寮に拡大し，学寮サブネットを敷設し学生が寮内から情報科学センターで構築されているネットワークを利用できるようにした。さらに寮生の要望に応え，教員と学生との共同作業により無線 LAN の自力構築を行った結果，各寮室からのネットワーク利用が可能となった。平成２０年度には各クラスの教室に無線 LAN のアクセスポイントを設置して，自学自習等に有効に活用している。また，京都デジタル疏水ネットワークを通じて，京都大学学術情報メディアセンターに接続し，インターネットに参加している。電子メール，WWW などのインターネットサービスの利用が可能で，国内外の研究機関，研究者と情報交換が可能である。学校の情報もWWW（http://www.maizuru-ct.ac.jp/）により公開している。

情報ネットワークおよび情報科学センターの管理・運営には情報科学センター規程を定めている（資料８－１－②－２）。情報科学センターの組織図を資料８－１－②－３に示す。各部門における管理運営・業務内容は資料８－１－②－４に示す通りである。情報科学センターの管理・運営の状況については，情報科学センター年報に掲載し公表している（資料８－１－②－５）。

資料８－１－②－２

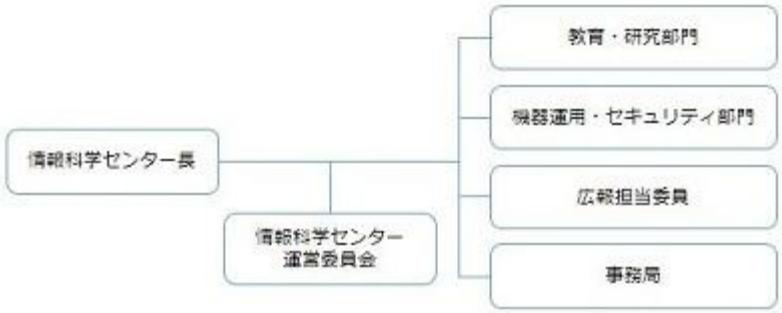
○舞鶴工業高等専門学校情報科学センター規程

（趣旨）
第１条　舞鶴工業高等専門学校教員組織規程（平成１８年４月１日施行）第２条第２項の規定に基づき，舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）情報科学センター（以下「センター」という。）に関し，この規程を定める。
（目的）
第２条　センターは，本校における情報科学教育及び研究の推進並びに学外との情報科学に関する技術交流を行うことを目的とする。
（センターの組織）
第３条　センターに，情報科学センター長（以下「センター長」という。），研究・教育部門及び機器運用・セキュリティ部門を置く。
２　センター長は，本校の教授又は准教授のうちから校長が任命する。
３　センター長は，校長の命を受け，センターの業務を掌理する。
４　研究・教育部門及び機器運用・セキュリティ部門に部門主任及び部門員を置く。
５　部門主任は，本校の教授又は准教授のうちからセンター長の推薦に基づき校長が任命する。
６　部門主任は，センター長の命を受け，部門の業務を掌理する。
（センターの業務）
第４条　センターは，次の各号に掲げる業務を行う。
(1) 情報科学に関する教育研究の推進に関すること。
(2) 情報科学に関する共同研究の推進に関すること。
(3) 情報ネットワークに関する企画・立案及び管理運営に関すること。
(4) その他センターに関すること。
（センター長等の任期）
第５条　センター長の任期は２年，部門主任及び部門員の任期は１年とし，再任を妨げない。ただし，センター長，部門主任及び部門員に欠員が生じた場合の後任者の任期は，前任者の　残任期間とする。

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料８－１－②－３

情報科学センター組織



（出典　情報科学センターウェブページ）

資料８－１－②－４

各部門および広報担当における事業内容

(1)教育・研究部門

1. 学内、学外（国際・民間・研究機関・公共団体等）共同研究の企画・立案及び実施。
2. 技術交流にかかる講演会の開催。
3. 年報の発行に関すること。
4. 情報処理教育に関する企画・立案及び連絡調整。
5. 一般社会人（小・中・高生含む）向けの公開講座及び講演会等の開設
6. その他情報科学にかかる研究及び情報処理教育に関すること。

(2)機器運用・セキュリティ部門

1. 情報関連機器の整備、運用に関する企画・立案。
2. 校内ネットワークの管理に関すること。
3. 校外とのネットワーク接続に関すること。
4. 情報関連機器の運用に関する協力助言（講習会の実施等）。
5. 校内セキュリティに関すること。
6. その他情報関連機器の管理・整備・運用に関すること。

(3)広報担当委員

1. 年報その他刊行物の発行に関すること。
2. その他情報科学にかかる広報に関すること。

（出典　情報科学センターウェブページ）

資料８－１－②－５

機器運用・セキュリティ部門報告

仲川　力[1]・能勢 嘉朗[2]

１．はじめに

今年度，機器運用・セキュリティ部門では新規機材の導入やシステムの変更はほとんどなく，システムのメンテナンスやトラブルの対処を中心に活動を行ってきた．以下，平成23年度機器運用・セキュリティ部門が中心に行った活動の主だったものについて報告する．

２．教育用電算機システム

平成21年度に導入した教育用電算機システムは順調に稼働している．トラブルとしては，平成23年5月CAD/CAM教室の端末1台が故障し修理(マザーボート・メモリを交換)した．ディスクイメージの操作として，いくつかの授業や催し物に必要なアプリケーションをインストールした．このようにいくつかのソフトウェアを追加しているので，仮想ディスクの容量が限界に達しつつある．

３．サーバ室、演習室の整備とトラブル

平成22年4月の火災以来，情報科学センターのサーバ室にはサーバラックはあったが，端末やサーバラックに入れないサーバやネットワーク機器を置く設備がなかった．そこでサーバラックの横に物置棚を設置，サーバラックに収まらない機器を設置できるように整備した．

平成23年5月に情報科学センターの演習室で雨漏りが発生した．情報科学センターの屋根の排水溝が詰まり，屋上に大量の水が溜まっていたことが原因であった．このトラブルによって演習室の端末2台が雨漏りの水を被って使用できなくなったので修理に出すと共に代替機と入れ替えて授業に影響ないように対処した．また，サーバ室で天井の照明器具から水滴が滴っている状態が確認された．“雨漏り”が疑われたが，実際には照明器具にエアコンの冷気が直接当たり水滴が生じてそれがサーバ室の床に落ちていたのが原因であった．照明器具を取り換えることによって解決した．

４．ファイヤーウォールの更新

本原稿執筆時点では行われていないが，今年度中にファイヤーウォールを更新する予定である．現在のファイヤーウォールであるFortiGate300Aは，平成22年4月の小火で被災してススを被ったが，破損は免れたのでそのまま動作させてきた．今回の調達はこれまでと異なり，機構一括によるものである．導入予定の機器は同じメーカのFotiGate300Cなので設定運用には問題ないと考えられる．学年末休業中に設置を行う予定である．

５．おわりに

最近，昼に夜に外部とのインターネット接続が遅くなりしばしば苦情が出ている．ネットワーク関連機

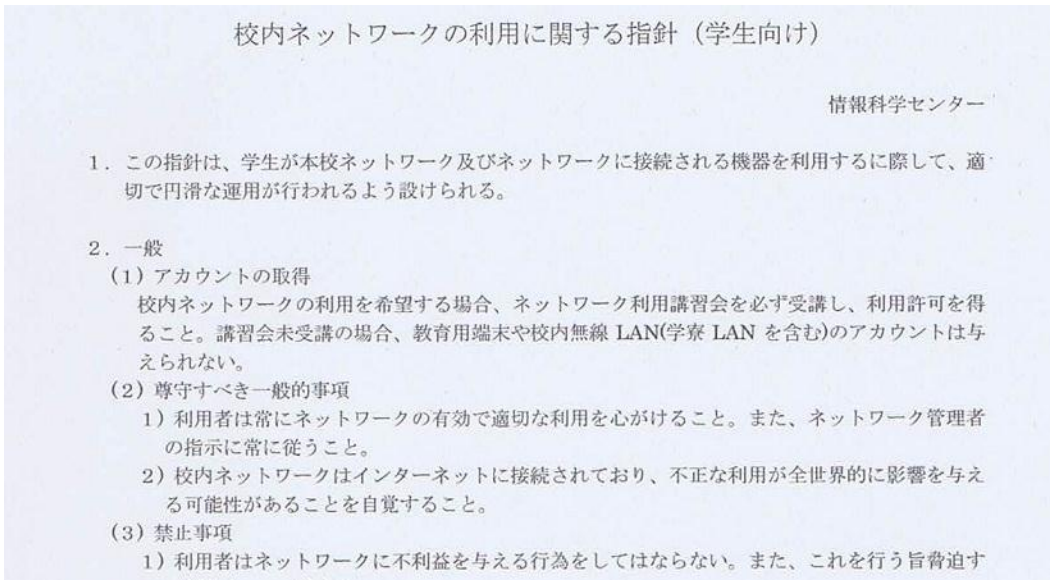
[1]舞鶴工業高等専門学校　情報科学センター　機器運用・セキュリティ部門
[2]舞鶴工業高等専門学校　教育研究支援センター

（出典　情報科学センター年報 No.40，2012年，３月）

ネットワークのセキュリティ管理は，情報科学センターの管理・運営組織に設置している機器運用・セキュリティ部門を中心に行っており，ファイアウォールを用い，不正進入対策としてのプロキシ認証，ウィルス対策を講じるとともに，不適切なウェブサイトへのアクセスを禁止している。また，ユーザのアカウントはLDAP(Lightweight Directory Access Protocol)により一括管理し，ユーザのファイルも教育用SAMBAによって共有・管理している。

学生の情報科学センター利用については，「校内ネットワークの利用に関する指針（学生向け）」を定め，年度当初の利用講習会で利用に関する手続きや規則，情報セキュリティについて周知を図っている（資料８－１－②－６，７）。

資料８－１－②－６



校内ネットワークの利用に関する指針（学生向け）

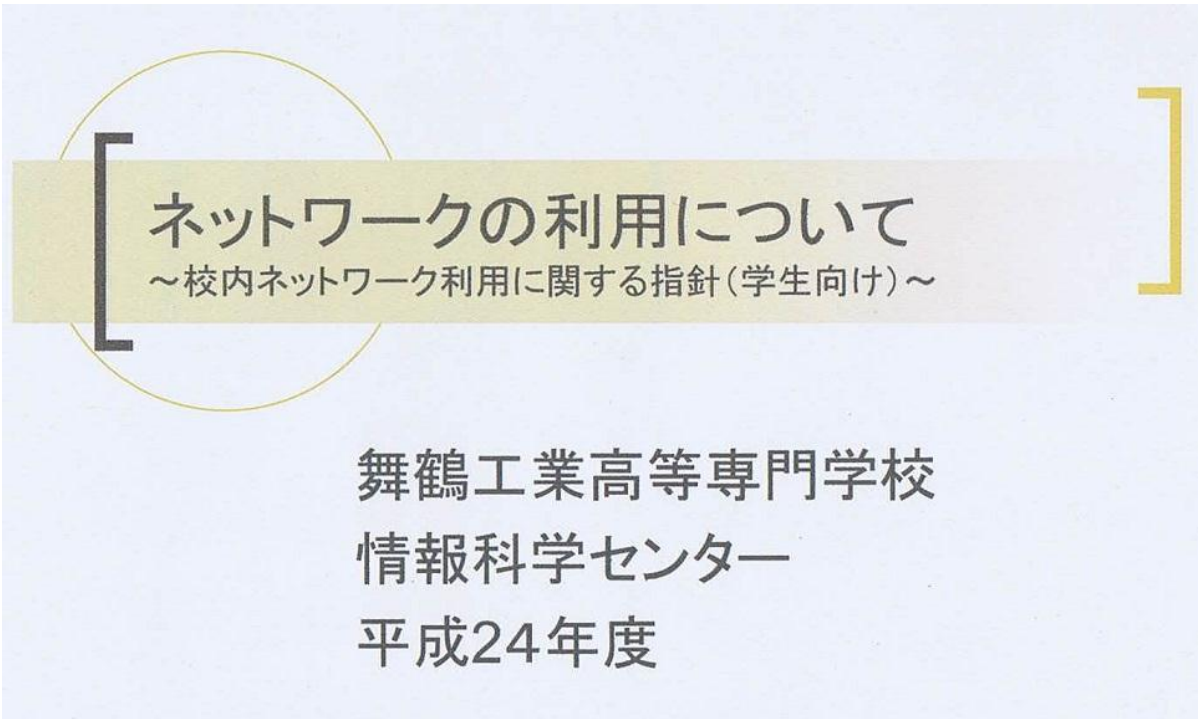
情報科学センター

1．この指針は、学生が本校ネットワーク及びネットワークに接続される機器を利用するに際して、適切で円滑な運用が行われるよう設けられる。

2．一般
（1）アカウントの取得
校内ネットワークの利用を希望する場合、ネットワーク利用講習会を必ず受講し、利用許可を得ること。講習会未受講の場合、教育用端末や校内無線 LAN(学寮 LAN を含む)のアカウントは与えられない。
（2）尊守すべき一般的事項
1）利用者は常にネットワークの有効で適切な利用を心がけること。また、ネットワーク管理者の指示に常に従うこと。
2）校内ネットワークはインターネットに接続されており、不正な利用が全世界的に影響を与える可能性があることを自覚すること。
（3）禁止事項
1）利用者はネットワークに不利益を与える行為をしてはならない。また、これを行う旨脅迫す

（出典　情報科学センター資料）

資料８－１－②－７



（出典　情報科学センター資料）

学生の情報科学センター利用に関しては，資料８－１－②－８のような手続きを取らせて管理している。同様に，ネットワークの利用に関しては，ネットワーク利用願，学寮サブネットへの接続申請書を提出させ管理している（資料８－１－②－９）。

資料８－１－②－８

情報科学センター等利用申請書

舞鶴工業高等専門学校
情報科学センター長　殿

	新規・続継の別	新規・継続

	所　属	職　名	連絡先(TEL)	氏　名
利用申請者				

舞鶴工業高等専門学校情報科学センター規程に基づきセンター等を利用したいので申請します。

	所　属	職名(学年)	連絡先(TEL)	氏　名
共同利用者（学生）				
課題名				
利用の概略等（目的・方法・処理）				
利用期間	平成　年　月　日から　平成　年　月　日まで			
使用端末機の種別及び機種名	□利用者所属の端末機　□センター内端末機 □その他： 機種名：			

注）各氏名欄は，必ず本人が自署してください。

上記の利用申請を承認します。

承認年月日	
平成　年　月　日	舞鶴工業高等専門学校 情報科学センター長　㊞

（出典　平成２４年度 学生便覧）

資料８－１－②－９

ネットワーク利用願

舞鶴工業高等専門学校
情報科学センター長 殿

	学　科	学年	学籍番号	氏　名
利 用 者	工学科			

注）氏名欄は，必ず本人が自署してください。

舞鶴工業高等専門学校情報科学センター規程に基づき，情報科学センターネットワークを利用したいので申し込みます。利用に当たっては，センター利用細則を遵守するとともに，ネットワーク利用モラルに欠けるような行為は一切致しません。

講習受講年月日：平成　　年　　月　　日

講習担当教員印：

------ 切 り 取 り ------

＿＿＿＿＿工学科（学籍番号：　　）　氏名＿＿＿＿＿＿＿＿

上記学生について，ネットワークの利用を許可します。

［利用細則を遵守しない場合，又は本校の学生としての品位を著しく損なう行為を行ったと情報科学センター運営委員会が判断した場合には，ネットワーク利用許可を取り消すこともあり得る。］

平成　　年　　月　　日

利用期限：平成　　年３月31日

舞鶴工業高等専門学校情報科学センター長印：

（出典　平成２４年度 学生便覧）

教職員に対しては，「校内ネットワークを用いた情報発信に関する指針（教職員向け）」（資料８－１－②－１０）を定めており，本校のネットワークは，授業等の教育，教員の研究，国内外の教育研究機関や研究者との情報交換等に有効に活用されている。

資料８－１－②－１０

校内ネットワークを用いた情報発信に関する指針(教職員向け)

この指針は、本校ネットワークシステムの有効で適切な利用を図り、もって教育・研究あるいはこれらに関する業務が円滑に行われるよう設けられる。

学内でのサーバについて

1. サーバの立ち上げ・管理は、教官・技官・事務官が行う。学生が立ち上げ・管理しているサーバの基幹LANへの接続は認めない。
2. サーバを立ち上げるときは、事前に情報科学センターに、指定の様式に従って申請する。
3. 卒研などで学生にネットワークシステムおよびサーバ等を構築させるときには、必ず基幹LANと分離する。
4. サブネット(特にルータ管理:プロキシー、ファイアウォールを含む)を管理するもの(サブネット管理者)は、サブネット内で発生するあらゆる障害について責任を負うものとする。サブネット管理者は、教官・技官・事務官のいずれかである。
5. ここでいうサーバとは、http、メール、ニュース、ftp、gopher、archie、メーリングリスト、チャット、プロキシー、ファイアウォール、ルータなど、学内ネットワーク上でサービスを提供する可能性のある、あらゆるサーバのことである。

ホームページによる情報発信について

ホームページによる情報発信については、次に挙げる一般的注意を守ること

1. 本校の良俗を乱すような発信をしない。
2. 特定の個人や団体を誹謗・中傷しない。
3. 著作権・肖像権を侵害しない。
4. プライバシーを侵害しない。
5. 違法行為を行わない。
6. 商業行為を行わない。

組織・教職員からの発信についての共通事項

1. 全ての情報発信は、舞鶴高専トップページあるいは所属組織のページからリンクする。
2. 舞鶴高専トップページからのリンクは、必ずセンター管理側で行う。
3. 各トップページには、情報発信責任者の氏名・所属・E-mailアドレスを明らかにする。
4. ホームページは、センターが管理している予め定められたディレクトリに置く。
5. ホームページのファイル名は、センター指定の書式とする。
6. 内容の更新を適宜行う。

組織からの発信

1. 発信したい組織は、ホームページの管理者をセンターに報告する。
2. 組織の管理者は、与えられたアカウントでWebサーバにログインし、そのホームディレクトリ内にホームページを作成する。
3. 与えられたアカウントのパスワードは、不正利用のないよう、管理者が管理するものとする。
4. 作成されたホームページは、その組織の責任において、問題点がないようチェックする。
5. ホームページの内容については、ホームページ管理者が責任を負うものとする。

[各学科からの発信]

1. トップページは、必ずindex.htmlというファイル名にする。

[各学科以外の組織(委員会、事務部など)からの発信]

1. センター管理側は、Webサーバ上にその組織用のアカウントおよびホームディレクトリを作成し、ページの管理・運営は、そのアカウントとホームディレクトリを通じて行う。

[センター側が管理していない独立したWebサーバからの発信]

1. 独立したWebサーバによる情報発信をするには、センター管理側に申請し、許可を得なければならない。
2. そのサーバから発信される情報については、そのサーバ管理者が全責任を負うものとする。

教職員からの発信

教官・技官・事務官が発信する内容は、発信者が全責任を負うものとする。

[学生の発信についての教官の指導]

1. 学生(個人・クラブなどの団体)が発信する場合は、担当指導教官の下でのみ行うものとする。
2. 学生(個人・クラブなどの団体)が発信する内容については、担当指導教官の責任において指導・監督を行い、問題が生じたときは削除等の運営上必要な処置をとるものとする。ホームページを変更する場合も同様とする。

[教官からの発信]

1. 各教官のホームページは、上記の各学科のホームページが置かれている予め定められたディレクトリ下に置くこと。
2. 各教官のトップページは、その教官の名前に".html"という拡張子を付けるか、各教官毎にディレクトリに分けて、そのディレクトリ内でindex.htmlとする。

（出典　情報科学センター資料）

また，本校の情報ネットワーク施設･設備が十分有効に活用されている例として，「高専間教育素材共有システム」，「数学ｅラーニング」，「物理ｅラーニング」，「ｅラーニング創造性教育コース」，「Moodle」等の利用も挙げられる。特に Moodle については，平成２１年度以降，講義資料の配布や講義の補足に活用されている他，授業アンケートや達成度評価に用いられている。授業アンケートは平成２３年度から全科目について実施され，Moodle の双方向性を生かした取り組みとしてファカルティデベロップメントに役立てられている。

（分析結果とその根拠理由）

本校の情報ネットワーク施設･設備は，高等専門学校設置基準第23条２に定められた要件を満たしている。情報ネットワークは，十分なセキュリティの下で管理・運営されている。したがって，情報ネットワーク施設･設備，情報ネットワークの管理・運営業務，セキュリティシステムは整備されている。学生の情報ネットワーク利用については，講習会の実施，所定の手続き申請，情報発信の指針を定める他，授業での情報倫理教育により，不正利用の防止を図っている。

観点８－２－①：　図書、学術雑誌、視聴覚資料その他の教育研究上必要な資料が系統的に収集、整理されており、有効に活用されているか。

（観点に係る状況）

本校の図書館の蔵書数は８万７千冊を超え，自然科学・工学関係が多く全体の約半分を占めている。蔵書の中でも，幅広い教養の涵養をめざして，哲学，歴史，文学等各分野の充実にも力を注いでいる。図書資料および視聴覚資料の概要は資料８－２－①－１～３に示す通りである。

資料８－２－①－１

人文科学系蔵書内訳

	哲　学	歴　史	社会科学	芸　術	言　語	文　学	合　計
和 書	3,833	5,596	6,538	3,189	3,054	9,844	32,054
洋 書	272	94	454	53	1,801	1,125	3,799
合 計	4,105	5,690	6,992	3,242	4,855	10,969	35,853

（出典　学生課学術情報係資料）

資料８－２－①－２

自然科学・工学系蔵書内訳

	自然科学	総記	工学・技術	産業	合計
和 書	12,408	12,826	21,646	758	47,638
洋 書	2,435	176	1,713	13	4,337
合 計	14,843	13,002	23,359	771	51,975

（出典　学生課学術情報係資料）

資料８－２－①－３

視聴覚資料内訳

	人文科学系資料	自然科学系資料	工学系資料	合計
VHS	155	64	42	261
LD	154	0	11	165
DVD	456	66	61	583
合計	765	130	114	1,009

（出典　学生課学術情報係資料）

図書資料の選定は，教員による選定，ブックハンティングによる学生の選定，図書館投書箱による学生の希望図書の選定などによって行っている。学生の選定した図書については，図書館運営委員の教員によって検討した上で受け入れている。図書資料の選定状況については資料８－２－①－４に示す通りである。その内訳は資料８－２－①－５に示す通りである。また，視聴覚資料の受入状況は資料８－２－①－６に示す通りである。

資料８－２－①－４

受入図書選定状況訳

	教職員選定	学生購入希望	ブック ハンティング	その他	合　計
平成 21 年度	1,930	36	156	118	2,240
平成 22 年度	1,061	48	186	37	1,332
平成 23 年度	771	56	194	118	1,139
平成 24 年度	702	93	208	118	1,121

（出典　学生課学術情報係資料）

資料８－２－①－５

図書受入状況

	総　記		人文科学系図書		自然科学系図書		工学系図書		合　計	
	和書	洋書	和書	洋書	和書	洋書	和書	洋書	和書	洋書
平成 21 年度	376	2	347	613	176	0	693	33	1,592	648
平成 22 年度	411	0	406	9	176	5	321	4	1,314	18
平成 23 年度	393	1	333	66	137	5	276	7	1,139	79
平成 24 年度	334	0	298	0	111	0	373	5	1,116	5

（出典　学生課学術情報係資料）

資料８－２－①－６

視聴覚資料受入状況

	人文科学系資料			自然科学系資料			工学系資料			合計
	VHS	LD	DVD	VHS	LD	DVD	VHS	LD	DVD	
平成 21 年度			32			1			8	41
平成 22 年度			10			6			4	20
平成 23 年度			23			0			6	29
平成 24 年度			1			55			9	65

（出典　学生課学術情報係資料）

図書館の一隅には，授業で使用している教科書，参考書を集めた教科書コーナーを設置している。これによって，教員が互いに他の授業で使用している教科書を知ることができる。また，専攻科学生にはより専門性の高い参考書を集めた専攻科コーナーを設け，学生の学習の助けとなっている（資料８－２－①－７）。

資料８－２－①－７

教科書コーナー

専攻科　参考書コーナー

（出典　学生課学術情報係資料）

教育研究上の資料としての研究関連の学術雑誌等の受入状況については，資料８－２－①－８に示す通りである。また，研究支援のために多くの学術雑誌の検索システムを用意している（資料８－２－①－９）。

資料８－２－①－８

学術雑誌購読数

学　科	平成 21 年度		平成 22 年度		平成 23 年度		平成 24 年度	
	和書	洋書	和書	洋書	和書	洋書	和書	洋書
校　長	０	０	１	０	０	０	０	０
人文科学部門	１４	０	１０	０	１１	１	１２	２
自然科学部門	９	６	９	６	９	６	８	６
機械工学科	０	１	０	１	０	１	０	０
電気情報工学科	８	０	１２	０	８	０	８	０
電子制御工学科	１０	０	９	０	１１	０	９	０
建設システム工学科	１９	３	２０	２	１５	１	１４	０
専攻科	０	０	０	０	０	０	０	０
図書館	３１	０	３１	０	２６	０	２２	０
情報科学センター	２	０	２	０	２	０	２	０
留学生	１	２	２	０	２	０	２	０
地域共同テクノセンター	１	０	１	０	１	０	１	０
合　計	９５	１２	９７	９	８５	９	７８	８

（出典　学生課学術情報係資料）

資料８－２－①－９

学術雑誌の検索システム

国内学術雑誌検索	国外学術雑誌検索	研究支援サービス
・電気学会出版物 ・トランジスタ技術 ・DOS/V POWER REPORT ・日経サイエンス ・科学 ・数学 ・Software Design ・国際原子力情報システムデータベース ・超伝導体文献データベース ・体育の科学 ・日本金属学会	・英国物理学会 ・American Society for Microbiology ・BMJ ・HighWire Press ・ASME Transactions Journal :Applied Mechanics ・ASME Transactions Journal: Engineering for Gas Turbines and Power ・ASME Transactions Journal:Fluids Engineering ・ASME Transactions Journal: Heat Transfer	・ScienceDirect (SD) ・MathSciNet 【国立情報学研究所】 ・Genii(ジーニイ) 学術コンテンツ・ポータル ・CiNii(サイニィ) 論文情報ナビゲータ ・American Institute of Physics (AIP) ・American Physical Society (APS) ・Science ・JDreamⅢ

（出典　学生課学術情報係資料）

資料８－２－①－１０

平成 24 年度　図書館利用状況

月	開館日数	入館者数	貸出冊数	貸出視聴覚資料数
4	２３	１，１４８	５９０	１０
5	２４	２，８９４	７８０	１８
6	２６	２，１０６	６９８	８
7	２６	３，５９３	６６８	１７
8	１２	１，４１１	２３１	１８
9	２０	４０１	２５１	１１
10	２６	１，０１０	６７０	１９
11	２６	１，６４２	５６９	１５
12	２２	１，２７６	７４０	１６
1	２１	１，１９６	６８１	１４
2	２４	２，０７４	５６５	１９
3	１２	１０６	１２９	８
合　計	２６２	１８，８５７	６，５７２	１７３

（出典　学生課学術情報係資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校図書館には，図書資料および視聴覚資料が整備され，教育研究上必要な学術雑誌を系統的に収集している。また学生の学習レベルや学習目的に応じた資料の開架などの工夫を講じ，その利用の促進を図っている。図書館所蔵資料および国内外学術雑誌の検索システムを用意し，学外の研究支援サービスに参加している。これらは高等専門学校設置基準第25条に定められた要件を満たしている。これらの図書資料は有効に利用されている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

教育研究の展開にフレキシブルに対応して使用できる共通実験室を用意している。学生の情報ネットワーク利用には，講習会の実施，所定の手続き申請，情報発信の指針を定める他，授業での情報倫理教育により不正利用の防止に努めている。学生の学習レベルや学習目的に応じた図書資料の開架などの工夫を講じ，ブックハンティングや図書館投書箱による学生の希望図書の選定などによって図書館利用の促進を図っている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準８の自己評価の概要

本校の施設･設備は，高等専門学校設置基準に定められた要件を満たしている。施設･整備の現状，問題点および改善方策については，自己点検・評価報告書等により情報公開してきた。教員研究室および教室には冷暖房機器が完備し，教室・講義室には液晶プロジェクター・スクリーンや視聴覚機器を配備し，視聴覚教育・情報教育が可能な学習環境を整えており，教育・研究に快適な環境を提供している。これらの施設，教室，実験室等は配備された設備とともに有効に活用されている。

本校の情報ネットワーク施設･設備は，高等専門学校設置基準に定められた要件を満たしている。情報ネットワークの管理・運営は，十分なセキュリティの下でなされている。本校の教育目標に則してコンピュータースキルを身に付けた学生の育成のため，情報科学センターを利用した授業やネットワークを利用した授業が展開されている。情報ネットワークを利用して，授業などの連絡，授業資料の公開，就職・進学情報の提供などの学生向けの情報サービスを行っている。このように本校の情報ネットワーク施設･設備は，有効に活用されている。

本校図書館には，図書資料および視聴覚資料が整備され，教育研究上必要な学術雑誌を系統的に収集している。これらの図書資料は有効に利用されている。これらは高等専門学校設置基準に定められた要件を満たしている。図書館所蔵資料および国内外学術雑誌の検索システムや学外の研究支援サービスに参加することにより，本校の教育研究上のサービスに寄与している。

基準９　教育の質の向上及び改善のためのシステム

（１）観点ごとの分析

観点９－１－①：　教育の状況について、教育活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積され、評価を適切に実施できる体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

教育の状況に関して，まず，教育内容と教育方法はシラバス（資料９－１－①－１）に記載されている。そして，教育成果を示す答案やレポート課題は４年生以上については評価資料室に保管されており，１～３年生については各教員が保管している（資料９－１－①－２）。また，教育効果を反映する授業アンケート及び達成度評価は評価委員会の下部組織であるＦＤ・ＩＣＴ部会で実施される（資料９－１－①－３～４）とともに，実施状況，集計結果や教員の課題分析・今後の改善策はＦＤ・ＩＣＴ部会で把握，収集・整理（資料９－１－①－５～６）され，学校で保管されている。さらに，成績についてはネットワーク成績処理システム（Campus Assist）（資料９－１－①－７）によって収集・整理され，学生課で蓄積・保管されている。なお，教育活動の状況は舞鶴高専年報（資料９－１－①－８）にもまとめられている。

本校は継続的な教育改善システムを有している（資料９－１－①－９）。評価を適切に実施できる体制は，この教育点検システムにおいて，Check（評価委員会(ＦＤ・ＩＣＴ部会)および教育プログラム(PIE)委員会が担当）過程において構築されている。また，各委員会は運営会議及び教員会議・学科部門会議と相互関係を保つことで実施体制の客観性を担保している。

資料９－１－①－１

科　　目　　名	学 年	期別・授業形態・単位数	教 員 名　西山　等 研 究 室 [redacted] 内線電話 [redacted] e-mail: [redacted]
流れ学Ⅰ Hydraulics Ⅰ	4	前期・講義・１単位	
学修単位科目	授業（15時間）＋ 自己学習（30時間）＝標準45時間の学習時間		

【授業目的】
流れの現象は日常生活に密接に関連し，先端技術にも直結している。本科目は，流体の物理的性質，流れの基礎的現象，流れの基礎式などについて，流れを取り扱うための平易な理論を体系づけて学習し，自己学習によって多くの演習課題を解くことにより流れ学に習熟することを目的とする。

【Course Objectives】
The purpose of study of the hydraulics is to deal with flow from the practical viewpoint using the simple theory.

【到達目標】
１．流体の物理的性質が理解できる。
２．次元解析が理解できる。
３．流体の静力学に基づく計算ができる。
４．流れの基礎式を理解し，応用することができる。
５．相似則を理解し，応用することができる。

【Outcomes/Aims】
Students will be able to:
1. understand physical properties of fluid,
2. understand dimensional analysis,
3. calculate various flows through pipe,
4. apply fundamental equations to a simple flow field,
5. apply law of similarity.

【学習・教育目標】
（B）専門分野の基礎知識を修得し，技術の実践に応用できる。

【キーワード】
流体，流れ，静力学，動力学
Fluid, Flow, Statics, Dynamics

【授業時間】
50分×18回＝15時間

【授業方法】
講義を中心に授業を進める。その展開の中では，すでに修得しているべき基本事項について復習や学生に質問しながら，基本事項の整理を行う。流れ学の対象は我々が日常的に経験・観察していることが多いのでその関連も重視しながら，流体に関する力学的な理論を説明する。

【学習方法】
流れ学の理解には初歩的な力学の知識が必要であるので，日常的にこれらについて復習しておくこと。また，流れ学の理解を深め，応用力を養うためには数多くの演習問題を解く必要がある。そのため，毎回，演習問題等の課題を含む復習として100分程度の自己学習を義務付け，その回答を次回の授業時に提出してもらう。

【履修上の注意】
本科目は学修単位科目であり，授業での学習と授業外での自己学習で成り立つものである。

【定期試験の実施方法】
中間・期末の２回の試験を行う。
時間は50分とする。
持ち込みは電卓を可とする。

【成績の評価方法・評価基準】
成績の評価方法は２回の試験の平均値で定期試験結果を評価する（70%）。加えて自己学習課題の内容の評価（30%）との合計をもって総合成績とする。到達目標に基づき，流体の物理的性質，次元解析，流体の静力学計算，流れの基礎式，相似則の理解や応用力についての達成度を評価基準とする。

【科目の位置付け】
１．先行して履修すべき科目

２．後で履修する関連科目
流れ学Ⅱ，流体工学

３．同時に履修する関連科目

（出典　平成２４年度 シラバス）

資料９－１－①－１の続き

【教科書・教材等】
教科書：加藤　宏編「ポイントを学ぶ流れの力学」（丸善）
教材　：必要に応じて資料を配付する。

【参考書・参照 URL 等】
参考書：例えば 加藤　宏編「例題で学ぶ流れの力学」（丸善）

【授業計画】

期別・回		内　　容	到達目標	教科書参照ページ
前期	第１回	シラバス内容の説明，流体とは、流れの分類		1～2
	第２回	流体の物理的性質	1	2～6
	第３回	〃	1	〃
	第４回	単位と次元，次元解析	2	6～8
	第５回	次元解析の応用例	2	〃
	第６回	流れの基礎的現象		11～20
	第７回	〃		〃
	第８回	流体の圧力	3	23～25
	第９回	マノメータによる圧力測定	3	25～27
		★前期中間試験		
	第10回	平面壁に作用する全圧力と圧力の中心	3	28～29
	第11回	曲面壁に作用する全圧力	3	29～30
	第12回	浮力，浮体の安定	3	31～33
	第13回	相対的静止　１．水平方向の加速運動、２．鉛直方向の加速運動	3	33～34
	第14回	〃　　３．鉛直軸まわりの回転運動	3	34～35
	第15回	連続の式，ベルヌーイの式とその応用例	4	38～41, 93～94
	第16回	〃	4	〃
	第17回	相似則	5	41～43
		★前期期末試験		
	第18回	前期期末試験返却，達成度確認，学習内容のまとめ		

【自己学習】
毎回の授業内容に応じた自己学習課題を課す。

【学生へのメッセージ】
流れ学は機械工学分野における重要科目であり，将来のエンジニアとなる学生諸君にとって，常識的に持たなければならない一つの道具である。これを肝に銘じて学習に勤しんでほしい。

（出典　平成２４年度シラバス）

資料９－１－①－２

評価資料室

評価資料室内部

（出典　学生課　資料）

資料９－１－①－３

平成２５年１月７日

新池教員，四蔵教員，加登教員（専攻科２年エンジニアリングデザイン担当）
山田教員（５年計算機援用工学担当）
新池教員，片山教員（５年電気情報工学実験Ⅳ担当）
川田教員，南教員（５年制御工学実験担当）
坂本教員（５年コンクリート構造学Ⅱ担当）

評価委員会　FD・ICT 部会
部会長　三輪　浩

平成２４年度後期授業アンケートおよび達成度評価の実施協力のお願い

５年生と専攻科２年生に対する今年度後期の授業アンケートおよび達成度評価を，１月７日より１月２５日の期間に実施いたします。つきましては，これらの実施にご協力頂きたくお願いする次第です。昨年度よりアンケートの対象科目が全科目（卒業研究，特別研究は除く）となっておりますが，今年度より，科目ごとの自由記述欄を新設しております（全科目共通の記述欄は継続）。アンケート実施の際，学生に確認頂ければ幸いです。

アンケートおよび達成度評価の実施日，時間，場所，担当者および実施概要については別紙のとおりです。校務多忙の折誠に恐縮ですが，ご協力方よろしくお願いいたします。なお，ご不明な点がございましたら，三輪（[redacted]）までご連絡頂けますよう，併せてお願いいたします。

以上

（出典　評価委員会（ＦＤ・ＩＣＴ部会）資料）

資料９－１－①－３の続き

授業アンケートおよび達成度評価実施要項

１．実施スケジュール

下表のスケジュールに従って実施してください。実施期間中の当該授業で実施して頂けると幸いです。ただし，実施期限は１月２５日(金)です。１人分の回答は約２０分で完了する見込みです。

平成24年度　後期授業アンケート・達成度評価実施スケジュール（5年，専2年）

学年	クラス	実施期間	実施時間	実施場所	担当者
5	M	1/7 ～1/25	計算機援用工学	情報科学センター	山田
	E		電気情報工学実験Ⅳ	情報科学センターほか	新池，片山
	S		制御工学実験	制御棟CAD/CAM	川田，南
	C		コンクリート構造学Ⅱ	図書館マルチ	坂本

学年	クラス	実施期間	実施時間	実施場所	担当者
専2	全	1/7 ～ 1/25	エンジニアリングデザイン	専攻科棟情報演習室ほか	担当教員

２．実施手順

１）上表に実施場所を示していますが，あくまで例示です。状況に応じて対応して下さい。なお，図書館３階マルチメディア教室は通常閉室していますので，教務係で鍵を借りてください。

２）舞鶴高専ホームページの左側メニューにある「在校生の皆様へ」をクリックする。

３）授業アンケートおよび達成度評価の欄に「授業アンケート」があるので，回答させる。なお，必要に応じて「授業アンケート回答マニュアル」を参照させて下さい。

４）アンケート終了後はパソコンをシャットダウンする。

３．パスワード忘れ

パスワードが分からない学生は，クラス，氏名および学籍番号を情報科学センターの能勢職員にお知らせ下さい。

以上

（出典　評価委員会（ＦＤ・ＩＣＴ部会）資料）

資料９－１－①－４

平成２５年１月２５日

片山，川田，徳永，鈴木，村上(信)　各教員，眞柄技術職員（１年工学基礎担当）
本科２年，３年担任各位（特別活動担当）
鈴木，室巻，中川，仲川，町田，加登，各教員（４年教科担当）
金山，金森，片山，篠原　各教員（特別実験担当）

評価委員会　FD・ICT 部会
部会長　三輪　浩

平成２４年度後期授業アンケートの実施協力のお願い

本科１～４年生と専攻科１年生に対する今年度後期の授業アンケートを，１月２８日より２月１８日の期間に実施いたします（専攻科１年は一部先行実施）。つきましては，これらの実施にご協力頂きたくお願いする次第です。昨年度よりアンケートの対象科目が全科目（卒業研究，特別研究は除く）となっておりますが，今年度より，科目ごとの自由記述欄を新設しております（全科目共通の記述欄は継続）。アンケート実施の際，学生に確認頂ければ幸いです。

アンケートおよび達成度評価の実施日，時間，場所，担当者および実施概要については別紙のとおりです。校務多忙の折誠に恐縮ですが，ご協力方よろしくお願いいたします。なお，ご不明な点がございましたら，三輪 [redacted] までご連絡頂けますよう，併せてお願いいたします。

以上

（出典　評価委員会（ＦＤ・ＩＣＴ部会）資料）

資料９－１－①－４の続き

授業アンケートおよび達成度評価実施要項

１．実施スケジュール

下表のスケジュールに従って実施してください。実施期間中の当該授業で実施して頂けると幸いです。ただし，実施期限は２月１８日(月)です。１人分の回答は約２０分で完了する見込みです。

平成24年度　後期授業アンケート実施スケジュール（1-4年，専1年）

学年	クラス	実施期間	実施時間	実施場所	担当者
1	1	2/1～2/15	工学基礎	情報科学センター	片山
	2			制御棟CAD/CAM	川田（眞柄）
	3			図書館マルチ	徳永
	4			機械CAD室	鈴木・村上（信）
2	1	1/28	特別活動	機械CAD室	村上（美）・村上（信）
	2			制御棟CAD/CAM	梅垣・南
	3				児玉・南
	4			図書館マルチ	小松・坂本
3	M	2/4	特別活動	機械CAD室	生水
	E			制御棟CAD/CAM	芦澤
	S				石川
	C			図書館マルチ	徳永
4	M	1/28～2/18	設計製図Ⅲ	機械CAD室	鈴木・室巻
	E		ディジタル信号処理	情報科学センター	中川
	S		創造設計プロジェクト	制御棟CAD/CAM	仲川・町田
	C		地盤工学ⅡB	図書館マルチ	加登

学年	クラス	実施期間	実施時間	実施場所	担当者
専1	ES	1/21～2/18	特別実験	専攻科棟情報演習室など	金山，金森，片山
	CM		特別実験	専攻科棟情報演習室など	篠原

1-4および２年の担当者のうち，村上(信)，南および坂本の３教員は実施のサポートです。

２．実施手順

１）上表に実施場所を示していますが，あくまで例示です。状況に応じて対応して下さい。なお，図書館３階マルチメディア教室は通常閉室していますので，教務係で鍵を借りてください。

２）舞鶴高専ホームページの左側メニューにある「在校生の皆様へ」をクリックする。

３）授業アンケートおよび達成度評価の欄に「授業アンケート」があるので，回答させる。なお，必要に応じて「授業アンケート回答マニュアル」を参照させて下さい。

４）アンケート終了後はパソコンをシャットダウンする。

３．パスワード忘れ

パスワードが分からない学生は，クラス，氏名および学籍番号を情報科学センターの能勢職員にお知らせ下さい。

以上

（出典　評価委員会（ＦＤ・ＩＣＴ部会）資料）

資料９－１－①－５

学年・組	回答数	履修学生数	回答率	2013/02/19現在
１－１	42	43	97.7%	
１－２	42	42	100.0%	
１－３	41	42	97.6%	
１－４	39	43	90.7%	
1M	40	41	97.6%	
1E	41	43	95.3%	
1S	40	40	100.0%	
1C	43	46	93.5%	
男子	149	159	93.7%	
女子	12	11	109.1%	
２－１	44	44	100.0%	
２－２	36	43	83.7%	
２－３	38	39	97.4%	
２－４	37	42	88.1%	
2M	44	45	97.8%	
2E	38	42	90.5%	
2S	41	42	97.6%	
2C	32	39	82.1%	
男子	141	154	91.6%	
女子	11	14	78.6%	
3M	37	37	100.0%	
3E	34	37	91.9%	
3S	44	44	100.0%	
3C	36	40	90.0%	
3年習熟度別	145	158	91.8%	
4M	35	41	85.4%	
4E	39	40	97.5%	
4S	38	40	95.0%	
4C	34	39	87.2%	
4年共通	139	160	86.9%	
5M	34	36	94.4%	
5E	31	32	96.9%	
5S	32	32	100.0%	
5C	33	36	91.7%	
5年共通	128	136	94.1%	
1ES	10	12	83.3%	
1CM	5	8	62.5%	
専1年共通	14	20	70.0%	
2ES	7	10	70.0%	
2CM	5	8	62.5%	
専2年共通	11	18	61.1%	

（出典　評価委員会（ＦＤ・ＩＣＴ部会）資料）

資料９－１－①－６

平成２５年３月１３日

教員各位

校長　太田泰雄

平成２４年度「学生による授業アンケート結果」について

平成２４年度「学生による授業アンケート」の集計結果を配布します。
つきましては，添付されたアンケート集計結果を参考にして各授業の課題分析を行うとともに，今後の改善策を御検討いただき，添付された集計結果ファイルの「課題分析」及び「今後の改善策」の欄に該当事項を記入し，下記によりＥメールに添付して提出してください。
「課題分析」及び「今後の改善策」の提出についてＥメール及び添付ファイルで処理できない場合は，ＦＤ･ＩＣＴ部会の三輪教員までその旨御連絡下さい。

記

提出期限　平成２５年３月３１日（日）１７：００

提出先 [redacted]

以上

（出典　評価委員会（ＦＤ・ＩＣＴ部会）資料）

資料９－１－①－７

（出典　学生課　資料）

資料９－１－①－８

総　目　次

はじめに …… 2
総目次 …… 3

学校運営 …… 5
目次 …… 5
運営報告 …… 6
学科・部門別教員一覧 …… ６９
教職員数 …… ８５
学校行事日程 …… ８６

教育活動 …… ８９
目次 …… ８９
学生数 …… ９０
入試状況 …… ９２
就職状況（本科） …… ９３
就職状況（専攻科） …… ９４
進学状況（本科） …… ９５
進学状況（専攻科） …… ９５
進路先一覧（本科） …… ９６
進路先一覧（専攻科） …… ９７
卒業研究題目 …… ９８
専攻科特別研究題目 …… １０１
インターンシップ受入先（本科） …… １０２
課外活動成績 …… １０３
課外活動に対する教員の活動状況 …… １０５

研究活動 …… １０７
目次 …… １０７
研究業績 …… １０８
外部研究費受入 …… １３４
学協会委員及び学会・研究会等の開催協力 …… １３６
教員の活動状況 …… １３９

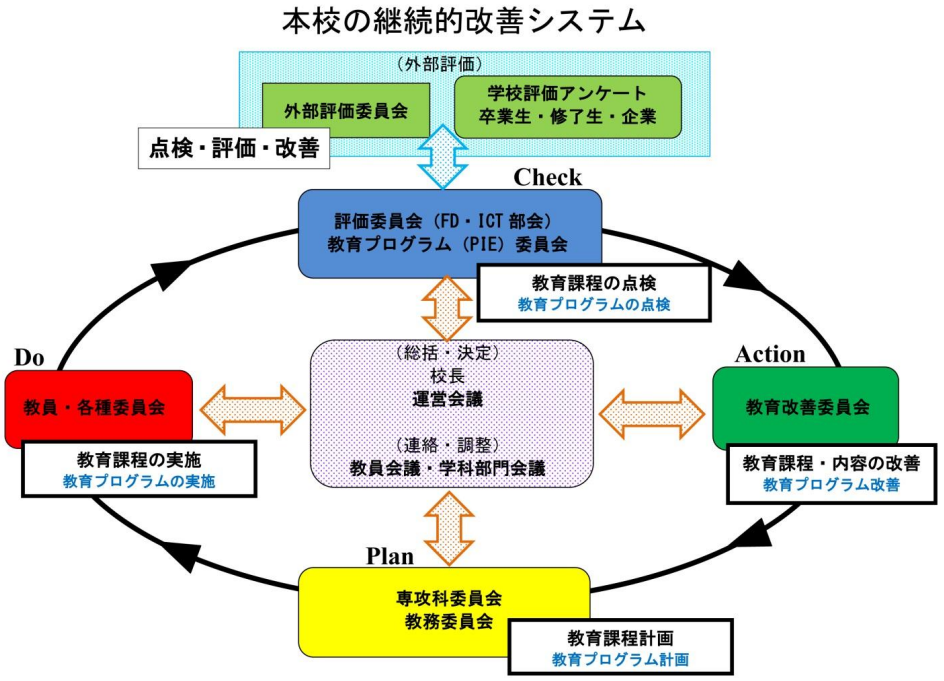
地域・社会活動 …… １４１
目次 …… １４１
地域・社会業績 …… １４２
地域共同テクノセンター技術相談 …… １４９
地域委員 …… １５０

報道記事 …… １５３
目次 …… １５３
報道記事一覧 …… １５４

編集後記 …… １６０

（出典　舞鶴高専年報・第１０号・2013 年４月）

資料９－１－①－９



（出典　舞鶴工業高等専門学校ウェブページ）

（分析結果とその根拠理由）

シラバス，答案・レポート課題，授業アンケート・達成度評価等の教育活動の実態を示すデータは，教務委員会，各教員，ＦＤ・ＩＣＴ部会等によって適切に収集・蓄積され，厳正に保管されている。これらに対して，教育点検システムにおけるCheck過程において客観的な教育活動の評価体制が構築されている。以上のことから，評価を適切に実施できる体制が整備されていると判断する。

観点９－１－②：　学校の構成員及び学外関係者の意見の聴取が行われており、それらの結果をもとに教育の状況に関する自己点検・評価が、学校として策定した基準に基づいて、適切に行われているか。

（観点に係る状況）

学生からの意見聴取として，平成２２年度までは一教員当たり２科目の授業アンケートが実施（資料９－１－②－１）され，平成２３年度以降は卒業研究と特別研究を除く全科目に対して授業アンケートが実施（資料９－１－②－２～３）されている。また，学生，教員及び外部評価者からの意見聴取として，授業公開（資料９－１－②－４～５）が実施されている。また，卒業生・修了生および企業を対象とした教育評価アンケートを平成２４年度に実施（資料９－１－②－６～７）した。この教育評価アンケートは本校卒業または修了後７年から２５年程度までの広い年代を対象としているところに特徴がある。また，これらの結果は，業務における要求度と教育の満足度および本校の教育に対する企業の評価を基準として，評価委員会において点検(分析)・評価されている（資料９－１－②－８）。なお，授業アンケートや教育評価アンケートの結果とその分析は外部評価委員会において報告（資料９－１－②－９～１２）されている。

資料９－１－②－１

第３回　FD_ICT 部会　議事録
日時　２０１０年１２月１４日午後４時５０分～午後６時
場所　多目的会議室
出席　内海、南、山崎、石井、真柄、玉男木、伊藤、上杉、吉永、欠席　坂本（寮監）

１　後期アンケートについて
実施期間　専攻科２年生（達成度評価）　１月２０日
本科生・専攻科１年生　１月２４日～２８日
ただし、設定期間は１月１日８時３０分より３１日１７時まで

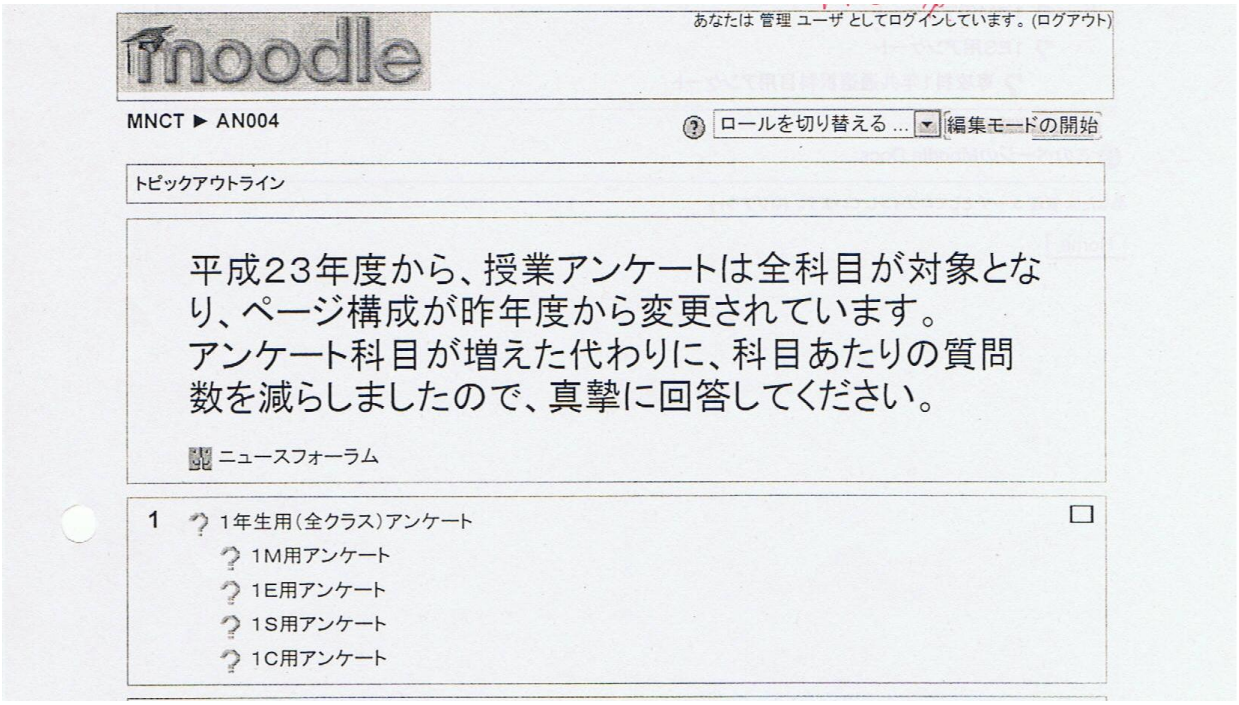
実施方法　１～３年は従前どおり。４年電気情報は研究室から随時入力可能、４年電子制御と４年機械学科は、それぞれ実験もしくは CAD 実習の日なので、そのまま FD 部会員が適当に指示して実施させる。

今回から教務係の援助を借りる。moodle の設定を中心に（FD 部会長より教務係長へメールを送る）。

２　来年度以降について
校長から提案の「アンケートを各担当教員が直接実施し、それに基づいた改善レポートを提出する」という方法を行う。アンケート方法については紙を用いても moodle を用いても可とする。
問題は現状のアンケートを存続させるか否か。数値が必要であれば、moodle を利用して教員一人あたり２科目という体制を続ける。

（出典　評価委員会（ＦＤ・ＩＣＴ部会）資料）

資料９－１－②－２



（出典　Moodle 授業アンケート画面）

資料９－１－②－３

授業アンケートの実施状況

FD・ICT 部会長　三輪　浩

１．授業アンケート実施方法の改定について

本校では昨年度まで１教員当たり２科目の授業アンケートを実施してきた。しかし，昨年度の外部評価を発端として当部会では全科目実施に向けての検討を行うこととなった。これは，近年の授業アンケートは学生の満足度を測ることに重点が置かれており，そのために全科目を実施する必要があることを受けての対応であった。まず，全科目アンケートを既に実施している神戸高専を訪ね，実施内容や方法について訪問調査を行った。その後，具体的な内容設計を行った。

２．授業アンケートの実施内容と方法

（１）全科目実施の定義：シラバスに示された全科目。ただし，複数教員で分散担当の場合も１科目として扱う。共同担当の場合はシラバスの筆頭担当者。なお，卒業研究，特別研究は対象外。

（２）質問内容：

番号	設問	旧設問
1	この授業の内容や進め方は適切でしたか？	Ａ１　この授業の内容には興味が持てましたか？ Ａ２　教科書やプリントなど、教材の難易度は適当でしたか？(*) Ａ３　シラバスに記述されている授業内容や方法は参考になりましたか？
2	よく準備された授業でしたか？	**Ｂ１　よく準備された授業でしたか？** Ｂ２　先生の教える態度に熱意や情熱が感じられましたか？
3	先生の説明は分かりやすいやすかったですか？	Ｃ１　授業の進む速さは適切でしたか？(*) Ｃ２　先生の声は聞き取りやすかったですか？ Ｃ３　板書などの使用は適切でしたか？ **Ｃ４　先生の説明はわかりやすかったですか？** Ｃ５　先生は学生の理解度を考えて授業を進めていましたか？
4	あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか？	Ｄ１　授業の予習および復習（宿題を含む）にはどのくらい時間をかけましたか？（週平均） **Ｄ２　授業中、講義をしっかり聞き、授業に積極的に取り組みましたか？** Ｄ３　授業内容は理解できましたか？

（３）実施方法：Moodle（数値化が容易）

（４）授業改善に必要なアウトプット：数値出力

（５）教員の課題分析と改善策：ＦＤ部会が提供する調査結果に基づいた記述形式とする。

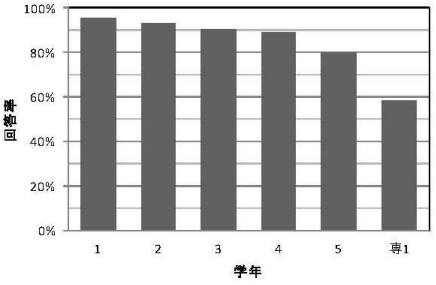
（６）アンケートの実施スケジュール

学年	実施日	実施時間	実施場所				担当者
			1-1, 2-1, M	1-2, 2-2, E	1-3, 2-3, S	1-4, 2-4, C	
1	10/17	特別活動	機械工学科CAD室	情報科学センター	制御工学科棟CAD/CAM教室	図書館3階マルチメディア教室	学級担任
2	10/3						
3	9/26						

学年	実施日	実施時間	実施科目（担当者）				
			M	E	S	C	ES, CM
4	9/26-10/17	授業	設計製図Ⅲ（野毛）	創造工学/工学基礎研究（電気全教員）	電子計測実験（奥村）	水理実験（三輪）	
5		研究等	研究室単位で実施				
専攻科1,2							

３．授業アンケートの実施結果

学年ごとのアンケートの回答率を下図に示す。学年が進むにつれて回答率は低下傾向にあるが，授業時間を利用して一斉実施した１年から４年まではほぼ９割程度の回答率となっている。５年および専攻科は研究時間内の任意回答であったため相対的に低回答率となっており，とくに専攻科学生に対する依頼方法の再検討が必要である。なお，専攻科２年に対しては年度末に一括で行う予定である。



（出典　Ｈ２３年度外部評価委員会資料）

資料９－１－②－４

別 紙

授 業 公 開 実 施 要 領

１．目　的
本校の授業を公開し，学内及び学外から選ばれた評価者及び学生達から評価を受け，また，互いに話し合うことによって，授業公開の担当教員のみならず，参加する多くの教員の参考とし，本校全体の教育方法の改善に繋げることを目的とする。

２．実　施
各学科（部門）は，毎年１回授業公開を行う。専攻科の授業もこれに含める。

３．評価者
学内評価者；　本校の講師以上の教員２名以上（少なくとも内１名は当該学科（部門）以外の者とする。）
学内評価者のうちから，主査１名を互選により決める。
学外評価者：　教育関係者，授業科目に関連する領域のエンジニア，教育に深い関心のある一般市民及び本校後援会員等　２～３名。

４．参観者
評価者以外の本校教職員及び保護者等とし，アンケートをお願いする。

５．実施・評価手順
(1)　各学科（部門）は，該当する授業と学内外の評価者を決定し，評価委員会ＦＤ・ＩＣＴ部会(以下「ＦＤ・ＩＣＴ部会」という。)に報告する。
(2)　ＦＤ・ＩＣＴ部会は，授業公開の計画を集計の上調整し，教職員及び保護者に通知する。なお，ホームページ等により一般に公開する。
(3)　各学科（部門）は，授業公開を実施する。
(4)　授業公開実施後，速やかに評価者等による意見交換を行う。（学生５～１０名を含む。）
(5)　主査は，学内評価者間で意見調整を行った後，授業公開報告書を担当教員及びＦＤ・ＩＣＴ部会に提出する。
(6)　担当教員は，主査及び評価者の授業公開報告書及びアンケート等を参考にして授業改善プラン報告書を作成し，ＦＤ・ＩＣＴ部会に提出する。
(7)　ＦＤ・ＩＣＴ部会は，上記報告書と改善プランを総合的に評価・検討した結果を評価委員会に報告するとともに，全教員に公開する。

６．評価項目
別に示す１３項目について評価する。

７．所管
授業公開に関する所管は，ＦＤ・ＩＣＴ部会とする。

８．注意点
ここで得られた評価は，授業の優劣や教員の人事考課の資料としない。

（出典　総務課資料）

資料９－１－②－５

平成 24 年 11 月 28 日

教　員　各　位

評価委員会　委員長
太　田　泰　雄

平成 24 年度授業公開の実施について

平成 24 年度 授業公開を下記により実施いたしますので，１つ以上の授業に必ず参加くださるよう案内します。

記

【平成 24 年度 授業公開】

授業科目	クラス	実施日時	実施教員	実施場所
アナログ信号処理Ⅱ	3E	平成 24 年 12 月 10 日（月）10 時 35 分～12 時 15 分（3-4 時限）	教授 中川　重康	3E 教室
システム設計学	専攻科１年	平成 24 年 12 月 12 日（水）13 時 00 分～14 時 40 分（5-6 時限）	准教授 豊田　　香	専攻科大講義室
化学ⅢB	４年選択	平成 24 年 12 月 13 日（木）10 時 35 分～12 時 15 分（3-4 時限）	准教授 宮崎　昭仁	視聴覚教室
電気基礎Ⅱ	1S	平成 24 年 12 月 19 日（水）10 時 35 分～12 時 15 分（3-4 時限）	講師 石川　一平	１年３組教室
人間論Ⅱ	3M	平成 24 年 12 月 20 日（木）14 時 50 分～16 時 30 分（7-8 時限）	教授 垂谷　茂弘	3M 教室
建築環境B	4C	平成 24 年 12 月 21 日（金）10 時 35 分～12 時 15 分（3-4 時限）	講師 徳永　泰伸	B320 教室

（出典　総務課資料）

資料９－１－②－６

平成24年6月

舞鶴工業高等専門学校
本科卒業者・専攻科修了者　各位

舞鶴工業高等専門学校長
太　田　泰　雄

教育評価アンケートのお願い

謹啓　貴下ますますご活躍の段，まことに喜ばしくご拝察を申し上げます。

さて，本校におきましては従前から，「日本技術者教育認定機構：略称JABEEによる教育プログラムの認定」および「高等専門学校機関別認証評価」を通して教育の質の向上を目指して日々努力を重ねてまいりました。そこでそれらのみならず，教育改善活動の一環として，本科卒業者・専攻科修了者の皆様にアンケートのご回答をお願いして，その結果を基に，過去の本科並びに専攻科の教育システム・教育成果を点検・評価し，今後の教育の改善に反映させていきたいと考えております。

つきましては，ご多忙の中，大変恐縮ではございますが，本校の発展のためにアンケートにぜひともご協力をいただきたく，よろしくお願いを申し上げる次第でございます。今回アンケートより本校ホームページへのアクセスによる回答とさせていただきたいと存じます。同封の「アンケート回答マニュアル」をご参照いただき，まことに勝手ながら，集計の都合上，平成24年7月10日（火）までにご回答を完了いただきますよう，よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが，貴下のますますのご隆盛を心より祈念いたし，結びの言葉に代えさせていただきます。

謹白

ご不明な点がございましたら，下記までお問い合わせ下さいますようお願いを申し上げます。

アンケート内容：　機械工学科教員　生水　雅之
TEL：[redacted]　E-Mail：[redacted]
インターネット入力：　技術職員　能勢　嘉朗
TEL：[redacted]　E-Mail：[redacted]

（出典　評価委員会資料）

資料９－１－②－７

平成24年5月

人事担当者　様

舞鶴工業高等専門学校長
太田泰雄

教育評価アンケートのお願い

謹啓　貴社ますますご清栄のことと，お慶び申し上げます。また，平素は本校の教育等に格別のご配慮を賜り，厚く御礼を申し上げます。

さて，本校におきましては従前から，「日本技術者教育認定機構：略称JABEEによる教育プログラムの認定」および「高等専門学校機関別認証評価」を通して教育の質の向上を目指して日々努力を重ねてまいりました。そこでそれらのみならず，教育改善活動の一環として，各企業の人事担当者様にアンケートのご回答をお願いして，その結果を基に，過去の本科並びに専攻科の教育システム・教育成果を点検・評価し，今後の教育の改善に反映させていきたいと考えております。

つきましては，ご多忙の中，大変恐縮ではございますが，本校の発展のためにアンケートにぜひともご協力をいただきたく，よろしくお願いを申し上げる次第でございます。今回アンケートより本校ホームページへのアクセスによる回答とさせていただきたいと存じます。同封の「アンケート回答マニュアル」をご参照いただき，まことに勝手ながら，集計の都合上，平成24年7月10日（火）までにご回答を完了いただきますよう，よろしくお願い申し上げます。

最後になりますが，貴社のますますのご隆盛を心より祈念いたし，結びの言葉に代えさせていただきます。

謹白

ご不明な点がございましたら，下記までお問い合わせ下さいますようお願いを申し上げます。

アンケート内容：　機械工学科教員　生水　雅之
TEL：[redacted]　E-Mail：[redacted]
インターネット入力：　技術職員　能勢　嘉朗
TEL：[redacted]　E-Mail：[redacted]

（出典　評価委員会資料）

資料９－１－②－８

平成 24 年度　卒業生・修了生および企業によるアンケート結果に基づく分析

アンケート対象：(1)昭和 62, 63 年度, 平成 10, 16, 17 年度本科卒業生
(2)平成 16, 17 年度専攻科修了生
(3)平成 19～23 年度の本科卒業生および専攻科修了生の就職先企業(人事担当者)

アンケート期間：平成 24 年 5 月 28 日～7 月 10 日
（郵便によるアンケート依頼および web 回答）

回答数（率）　：卒業生・修了生 83／686 人（12%），企業 52／223 社（23%）
参考　：平成 20 年度　卒業生・修了生 167／646 人（26%），企業 89／230 社（39%）

卒業生・修了生および企業より寄せられた回答（(個人）基礎データを除く）を，５段階の評価値に置き換え整理した結果を表１に示す。また同様にそれらをグラフ化した結果を図１に示す。

「１．自然科学」,「2．専門知識（座学系）」および「3．専門知識（実験・実習系）」においては，業務における要求度，高専での教育の満足度ともに比較的高い評価値を示している。一方「4．基本的な情報技術」は，業務における要求度は比較的高いが，高専での教育の満足度はやや低い結果となっている。回答内容は出身学科・専攻または企業の業種・職種により差違があると考えられるが，時代の流れを考慮した改善が必要である。「5．英語によるコミュニケーション」は業務における要求度に対して，高専で受けた教育の満足度は全評価項目の中で最も低い結果となっており，企業からの教育評価値も低い。この傾向は平成 20 年度のアンケート結果とほぼ同じであり，更なる改善が必要であることを示唆している。また「5．英語によるコミュニケーション」で見られた傾向は,「6．哲学（倫理学）・法学・経済学など」においてもほぼ同様な結果を示しており改善の必要がある。「7．卒業研究・特別研究」では，卒業生・修了生の満足度および企業からの教育評価値は，あまり高くない値を示す結果となっている。さらに今回初めてアンケートを行った「8．学習・教育目標（本科）」,「9．学習・教育目標（専攻科）」は，卒業生・修了生および企業より高い評価値が得られており，本校の学習・教育目標の妥当性が示されたものと考えられる。

なお，今回のアンケート回収率は，前回（平成 20 年度 10 月実施）より大幅に低下している。特に卒業生・修了生の回収率が半減している。Web による回答方式を見直すとともに，回収率を高める具体的方策が今後必要である。

以上

1

（出典　評価委員会資料）

資料９－１－②－８の続き

表１　評価項目と評価値

評　価　項　目	卒業・修了生の業務における要求度	卒業・修了生が本校で受けた教育の満足度	企業からの本校の教育に対する評価値
1. 自然科学（数学・物理・化学など）	3.6	3.7	2.9
2. 専門知識（座学系）	3.7	3.7	3.5
3. 専門知識（実験・実習系）	3.6	4.0	3.3
4. 基本的な情報技術	3.9	3.2	3.2
5. 英語によるコミュニケーション	3.1	1.9	2.4
6. 哲学（倫理学）・法学・経済学など	3.0	2.6	2.2
7. 卒業研究・特別研究	－	3.0	3.2
8. 学習・教育目標（本科）	－	4.2	4.1
9. 学習・教育目標（専攻科）	－	4.0	4.0
10. グローバルな視点から多面的に考える能力	－	－	2.7
11. 記述・発表・討議などのコミュニケーション能力	－	－	3.1
12. 自主的・継続的学習能力	－	－	3.4

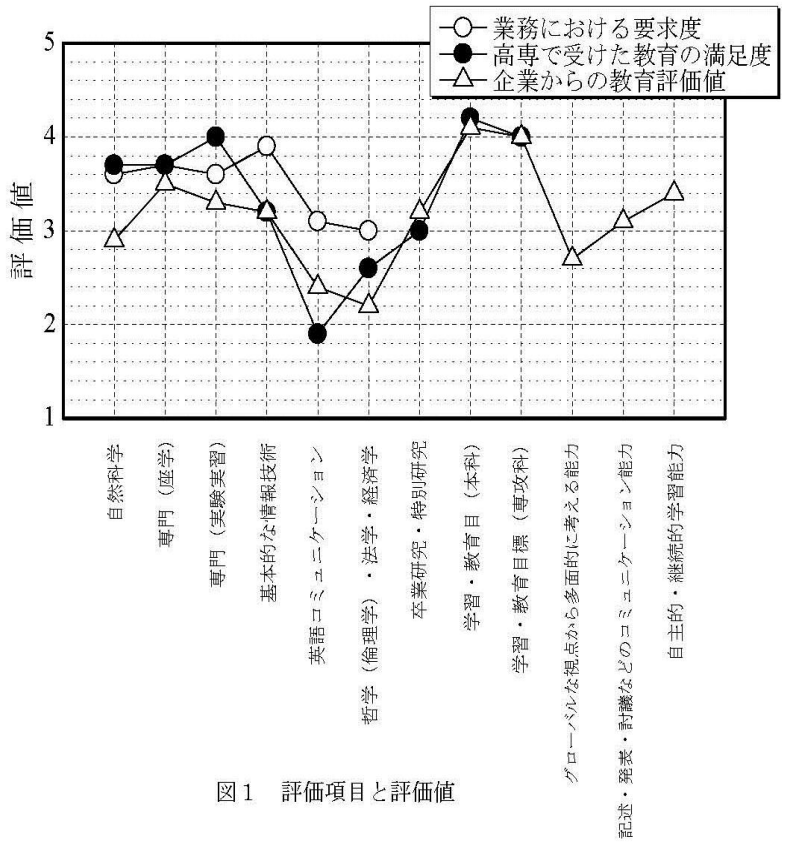


図１　評価項目と評価値

2

（出典　評価委員会資料）

資料９－１－②－９

平成２３年度外部評価委員会議事次第

日　時　１１月２９日（火）１４時～１６時
場　所　大会議室

次　第

１．開会挨拶
２．報　　告
（１）平成２２年度・外部評価委員会議事概要と本校の対応について
（資料１，２）
①議事概要
②本年度の自己点検評価
③継続的改善システムの改善
④授業アンケートの全科目実施
（２）質疑応答・外部評価委員からのご意見等
３．協　　議
（１）志願者増への取り組みについて（資料３）
①現状説明
②質疑応答・外部評価委員からのご意見等
（２）教育の質の向上に対する取り組み（資料４）
①現状説明
②質疑応答・外部評価委員からのご意見等
４．総　　評
５．閉会挨拶

（出典　総務課資料）

資料９－１－②－１０

平成２３年度外部評価委員会議事概要

日　時：平成２３年１１月２９日（火）１４：００～１６：１５

場　所：大会議室

出席者：[redacted]氏

[redacted]氏（外部評価委員会委員長）

[redacted]氏

[redacted]氏

運営会議構成員，評価委員会委員

議事概要（質疑応答のみ抜粋）：

１　平成２２年度外部評価委員会議事概要と本校の対応

[redacted]氏：自由記述はこのアンケートの回答のときに書かせているのか？なぜ書かせないのか？

三輪：自由記述を書かせると，回答に時間がかかってしまう。授業の中で，学生としっかりコミュニケーションをとってもらいたい。自由記述は学生とのコミュニケーションの中でこそ有意に得ることができると考えている。授業の中で紙に記述させてもよい。

[redacted]：しかし，自由記述によりいい情報が得られる場合が多いので，極力自由記述をやった方がよいのではないか。どうしても設問だけでは出てこない内容もある。教員の多忙繁忙化で十分に学生とコミュニケーションが取れない場合もある。

京兼氏：専攻科２年生は，学位申請のリポートの時期で，アンケートの回答は大変か？

三輪：学生の意識がレポート提出に集中しており，アンケートに回答する精神的な余裕がないと考えた。

[redacted]：機構でも学習成果リポートについては何とかしないといけないと考えており，改善の方向で検討している。

三輪：専攻科２年生は後期に実施する。授業科目の数が少ないので，問題ないと思う。

[redacted]：ＰＤＣＡのサイクル図はうまく改善されている。

[redacted]：授業アンケートの結果をどう生かすかが大事である。学生と対話しながら授業を良くして行くという話があったが，基本はそうだと思う。学生とのコミュニケーション，face to face が教育の基本である。そこで，学生と対話ができないと改善の糸口がつかめないということになる。「声が小さい」という場合，マイクを用意するとか，学校としてサポートできることはして行くべきである。授業アンケートの結果の処理の一つとして，このような例もあるので，結果を有効に活用していただきたい。

[redacted]：前期末の授業アンケートを実施したのであれば，その結果を集計してすぐにフィードバックしてはどうか。そうすれば，すぐに授業改善ができるのではないか。授業アンケートの結果が出ていないので，コメントできない。中学校では，毎回生徒に自己評価させることも増えてきている。一つの単元が終わる毎に，自己評価（振り返り）をさせる場合もある。このように，一つの単元が終わる毎に，学生に自己評価をさせて，学生の理解度を把握してはどうか。そうすることによりメタ認知が高まる。その結果，教育の質が高まるのではない

（出典　総務課資料）

資料９－１－②－１１

平成２４年度外部評価委員会議事次第

日　時　１１月２７日（火）１４時３０分～１６時３０分
場　所　大会議室

次　第

１．開会挨拶
２．協　　議
（１）本校の教育の現状と課題（資料１）
①説　明
②質疑応答・外部評価委員からのご意見等
（２）JABEE 中間審査について（資料２）
①説　明
②質疑応答・外部評価委員からのご意見等
（３）企業等，卒業生へのアンケート結果の分析（資料３）
①説　明
②質疑応答・外部評価委員からのご意見等
（４）その他
３．総　　評
４．閉会挨拶

（出典　総務課資料）

資料９－１－②－１２

平成２４年度外部評価委員会議事概要

日　時：平成２４年１１月２７日（火）１４：３０～１６：３０

場　所：大会議室

出席者：[redacted] 氏

[redacted] 氏

[redacted] 氏

[redacted] 氏

運営会議構成員，評価委員会委員

議事概要（外部評価者の意見のみ抜粋）：

○司会　どうもありがとうございました。

これで、三つの観点でご説明、１番目が本校の教育の現状と課題、２点目がＪＡＢＥＥの中間審査について、３点目が企業等、卒業生へのアンケート結果の分析のご説明が終わりました。以上の説明でお分かりになりにくかった点とか、何かご質問がございましたら、外部評価委員の先生からお願いしたいと思います。いかがでしょうか。

[redacted]先生、よろしくお願いします。

○[redacted]では、私から口火を切らせていただきます。

太田校長および各分野の責任者から、詳細に舞鶴高専の教育・研究・地域貢献等の現状と課題に関してはご説明いただきましたので、十分に理解できたと思っており、また、各分野で予想を超えるレベルで活動・活躍されていることを知り感激しています。しかし、気になることも有りました。その一つは、舞鶴高専に入学する学生の件ですが、色々と苦労されており、舞鶴市からの入学者が少なく、先生方が福井県や兵庫県等の中学校まで勧誘活動をされていることを知り、そのご苦労に感謝したいと思います。この件を解決するためには、同じような状況であり毎年多くの先生方が全国の高専を訪問している長岡技科大と連携する必要が有ると感じました。即ち、高専の高等教育機関としての役割を持っている長岡技大はその全国的な認知度を向上し、高専を希望する中学生の増大を支援する活動を展開する必要があると感じました。舞鶴高専に中学校の先生方や学生・父兄を招待するような行事の際に、本学からも参加し、協力したいと思いますので、必要な場合は声をかけてください。加えて、外部資金獲得の件ですが、科学研究費の採択率は非常に高いく、50%近いという事実は誇りにして良いと思いますが、総額として現状の約２千万円を２倍近くまで高めて頂きたいと思います。舞鶴高専の様々の活動・活躍を見ますと、この改善は可能な範囲と思います。また、ＪＡＢＥＥの件ですが、今日の説明で色々と苦労されていることを知りました。本科の４年、５年と専攻科の２年を単位として活動され、成功裏に認証を受けておられますが、その苦労がアウトプットとしてどのように生かされているかが良くわかりませんでした。専攻科を修了された学生の将来に如何なる影響が出ているのか、別な言葉でいえば、専攻科学生の就職時等にどのように反映されているのかが分かれば、ＪＡＢＥＥを受けるインセンティブが高

H24 外部評価委員会議事概要 - 1

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

授業アンケートと授業公開は学内外の様々な関係者からの意見を聴取する取組として定着している。特に，授業アンケートは卒業研究と特別研究を除く全科目を対象としており，教科教育全体の状況分析が可能である。また，授業公開では評価者との直接対話の場が設けられており，具体的な教育方法の状況把握を行うことができる。これらの取組はＦＤ・ＩＣＴ部会によって適切に実施されている。一方，教育評価アンケートは，本校の教育方針，教育内容を社会の目で評価するものであり，その結果を外部評価委員会で議論することによって点検・評価の客観性を担保している。以上のことから，組織としての自己点検・評価が適切に実施されていると判断できる。

観点９－１－③：　各種の評価の結果を教育の質の向上、改善に結び付けられるような組織としてのシステムが整備され、教育課程の見直し等の具体的かつ継続的な方策が講じられているか。

（観点に係る状況）

本校における教育の質の向上や改善は教育点検システム（資料９－１－①－９）に基づいて組織的に実施されている。システムの基幹はPlan，Do，CheckおよびActionの４つの活動で構築されており，それぞれ担当委員会が実施に当たっている。すなわち，教育課程の計画（Plan）は専攻科委員会及び教務委員会が担当し（資料９－１－③－１～２），教育課程の実施（Do）は教員及び各種委員会等（資料９－１－③－３～４）が行っている。また，教育課程の点検（Check）は評価委員会（ＦＤ・ＩＣＴ部会）及び教育プログラム（PIE）委員会が担っている（資料９－１－③－５～６）。そして，教育課程の改善に対するActionは教育改善委員会が行っている（資料９－１－③－７）。これらの委員会と運営会議及び教員会議・学科部門会議とが相互関係を保つことで実施体制のバランスを担保している。さらに，本科卒業者・専攻科修了者及び企業人事担当者への学校評価アンケートの実施（資料９－１－②－６～７），集計（資料９－１－③－８～９）と分析（資料９－１－②－８）や外部評価委員会の開催（資料９－１－②－１１）によって，教育効果の定量的かつ客観的評価を可能にしている。この教育点検システムはPlan，Do，CheckおよびActionのループを繰り返すことによって，教育課程等のスパイラルアップ的な向上が可能となっている。

資料９－１－③－１

専攻科

専攻科長　新池　一弘

１．年間活動の概要

専攻科の年間活動の概要を下表に示します。

年　月	内　容
平成 24 年 4 月	・専攻科入学式 電気・制御システム工学専攻 12 名入学 建設・生産システム工学専攻 10 名入学 ・専攻科新入生オリエンテーション ・専攻科 1 年生特別研究の研究室配属決定 ・第 1 回専攻科委員会[1]
平成 24 年 6 月	・専攻科学位申請説明会 ・専攻科推薦特別選抜試験 ・大学院入試説明会[2] ・第 2 回専攻科委員会 ・第 3 回専攻科委員会
平成 24 年 7 月	・専攻科推薦一般学力選抜試験（前期） ・専攻科前期期末試験 ・大学院入試説明会 ・第 4 回専攻科委員会 ・第 5 回専攻科委員会
平成 24 年 8 月	・オープンカレッジの実施 ・海外インターンシップ ・海外語学研修 ・全国高等専門学校専攻科実務者会議
平成 24 年 9 月	・海外インターンシップ報告会 ・大学院入試説明会 ・第 6 回専攻科委員会
平成 24 年 10 月	・大学評価・学位授与機構学位授与申請 ・専攻科推薦一般学力選抜試験（後期） ・エンジニアリングデザイン教育後期実施 ・大学院入試説明会 ・第 7 回専攻科委員会 ・第 8 回専攻科委員会
平成 24 年 11 月	・高専際 ・ISTS2012（第 2 回「持続可能な社会構築への貢献のための科学技術」に関する国際シンポジウム） ・大学院入試説明会
平成 24 年 12 月	・学位申請小論文試験 ・セミコンジャパン高専企画に出展

[1] 今年度の専攻科委員会の委員（敬称略）
【専攻科長】新池，【電気・制御システム工学専攻長】平地，【建設・生産システム工学専攻長】玉田，【機械系学生担当】山田，【教務主事】三川，【学生主事】背戸柳【人文】荒川，【自然】宮野，【機械】篠原，【電子制御】奥村，【学生課長】中島，【学生課補佐】嵯峨

[2] 京都工芸繊維大学大学院，豊橋技術科学大学大学院，長岡技術科学大学大学院，北陸先端大学大学院および奈良先端大学大学院などの入試担当者が来校され，専攻科生に大学院の様子および詳細な入試情報の紹介が行れた。

（出典　舞鶴高専年報・第１０号・2013 年４月）

資料９－１－③－２

教務委員会

教務主事　三川　譲二

１　平成２４年度の教務委員会の基本方針及び役割分担

平成２４年度の教務委員会の基本方針及び役割分担は，次の通り。

＜基本方針＞

① 教務制度・規則の見直し・整備
- 「修了及び卒業認定規則」改正の周知
- モデルコアカリキュラムへの対応
- 追試験制度の見直し
  →追試験の多さ・煩雑さ及び前期科目と後期科目の不平等性の解消，学生・担任への連絡方法
- 学年暦の見直し（前期期末試験の時期再検討，後期試験返却等達成度確認期間設定の検討）
- 過年度生への個別履修単位認定の検討
- セメスター制の問題点の摘出及び改善

② 学習支援体制の構築検討（学科・部門及学生相談室との連携）
- オフィスアワーの開設時間の掌握
- 特別支援教育の個別実施及び特別支援教育のための校内体制の構築

③ 本校教育の個性や特色の再確認
- 海外研修旅行の効果的かつ安全な実施
- 英語教育の充実・強化の再検討
- キャリア教育の導入・実施
- 混合学級制度及工学の基礎の成果の検証
- 創造性を涵養する教育の再確認

④ 入試広報活動の充実（入試委員会からの付託事項）
- 学校案内，中学校訪問，プレオープンカレッジ，オープンカレッジ，入試説明会等の充実
- 近畿地区及び全国統一広報活動の提案及び対応

⑤ その他
- インターンシップ実施体制の整備
- 「気象警報発令に伴う授業等措置要領」及び対応措置の見直し
- 定期試験のさらなる適正実施→定期試験監督要領（標準）の策定
- 成績評価におけるクラス平均点の基準（６０点標準）を下回る科目についての措置
- ３年生「学習到達度試験」への対応
- 特活の指導方針の確立
- 「３年生修了式」の導入検討
- 「学年主任」，「学年担任会議」についての申合せ策定

＜役割分担＞　※はチーフ　*はサブ

役　　割	委　員　名
総括	三川
委員長代行	主事補（随時）
教務制度の見直し・整備	※三川　＊加登　宮野　金森　南
カリキュラム（モデルコアカリキュラム対応を含む）	主事補（全員）
シラバス・キャリア教育	※西山　※小松　松井

（出典　舞鶴高専年報・第１０号・2013 年４月）

資料９－１－③－３

学科・部門別教員一覧　（平成２５年３月現在）

人文科学部門

氏　名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
三川　譲二 （文学修士）	教授	・教務主事	①日本史 ②世界史Ⅰ・Ⅱ ③現代日本の政治Ⅰ・Ⅱ	日本近現代史	①民主党論 ②芦田均論 ③ダグラス･マッカーサー論 ④占領下の地方自治体･地域
村上 美登志 （博士〔文学〕）	教授	・学級担任 （２－１）	①古　文Ⅰ・Ⅱ ②総合国語ⅡA・B ③国語国文Ⅰ・Ⅱ ④日本文化論	①日本･中世文学 ②漢文学 ③唱導文学 （含む声明学） ④佛教伝承民俗芸能	①延慶本『平家物語』研究 ②太山寺本『曽我物語』研究 ③和製類書研究 ④中世説話研究 ⑤佛舞・融通大念佛狂言研究
松井　信義 （文学修士）	教授	・部門長 ・教務主事補	①総合英語ⅡA, ⅡB, ⅢA, ⅢB, ⅣB, ⅤA ②現代英語Ⅱ	英語学 （English Linguistics）	①語用論（Pragmatics） ②語法・文法（Usage & Grammar）
荒川　吉孝 （文学修士）	教授	・国際交流センター長	①総合英語ⅠA, ⅠB, ⅢA, ⅢB, ⅣB, ⅤA ②現代英語Ⅰ	英文学	①シェイクスピア喜劇 ②ジェイムズⅠ世の『悪魔学』
垂谷　茂弘 （文学修士）	教授	・図書館長 ・学級担任 （１－１）	①人間論Ⅰ・Ⅱ ②哲学 ③心と癒しⅠ・Ⅱ	宗教と心理学	①ユング思想 ②力動精神医学の思想史的位置づけ
田村　修一 （博士〔文学〕）	教授	・学生主事補 ・学級担任 （１－３）	①現代文Ⅰ・Ⅱ ②総合国語ⅡA・B ③日本語 ABCDEF	日本近代文学	①芥川龍之介 ②阿部知二 ③日本近代文学史
宮崎　操 （教育学修士）	准教授		総合英語ⅡA, ⅡB, ⅢA, ⅢB, ⅣB, ⅤA	①英語教育学 ②通訳理論	①通訳教育法の英語教育への導入 ②シャドーイング ③児童英語教育 ④リメディアル教育
吉永　進一 （文学修士）	准教授		①総合英語 IA, IB, ⅢA, ⅢB, ⅣB, ⅤA ②現代社会と宗教Ⅰ・Ⅱ	日本とアメリカの近代宗教思想	①近代仏教史 ②神智学史 ③精神療法

（出典　舞鶴高専年報・第１０号・2013 年４月）

資料９－１－③－４

学生委員会

学生主事　　背戸柳　実

平成２４年度の学生委員会の基本方針は以下の通りである。

１　真摯な学生支援，福利厚生

・修学支援情報を周知し，修学支援の一層の充実をはかる。
⇒各種奨学金等修学支援情報の担任へのアナウンスの徹底，就学支援金制度の徹底実施
・課外活動（学生会活動・クラブ活動・高専祭等）を支援し，その活性化をはかる。
⇒スポーツフェスタ(5/16)の実施，福井高専交歓試合(5/20)の実施，球技大会(10/17)の実施，高専祭(11/1-5)の改善指導の継続，ボランティア活動の奨励および地域連携活動の奨励，学生会と青葉会館業者との話し合い実施（年２回），全国大会優勝の校長表彰(1/31)，トレーニングセンターの適正利用指導。
・各種講演会を開催し，人権と健康についての意識を高める。
⇒薬物乱用防止（３年生，7/24），人権教育（１年生，1/21），エイズ防止（２年生，2/4），教養（３年生，2/28）等各講演会の実施及び各講演会に向けての事前学習，人権･セクハラ防止委員会との連携
・危機管理機能を強化し，安全安心な学生生活を送ることができるようにする。
⇒防災訓練の実施（総務課と連携，６月），打合せスペース適正利用指導，学生の保健指導・感染症の流行防止のための取組み強化（保健室と連携），女子通学生更衣室及び武道場女子更衣室のオートロック化
・学生相談機能を強化する。
⇒パートナーシップの実施(7/23)，低学年下宿生のケア，学生相談室との連携

２　厳格な学生指導，生活指導

・服装，行動，マナー等について本校学生に相応しいものにするよう注意を喚起する。
⇒極端に良識を欠く服装・マナー・行動への注意，教室や打合せスペースの適正利用指導，アルバイトに関する指導の徹底，校歌への愛着涵養，トイレットペーパーのトイレ外使用の禁止，女子通学生指導の継続
・自他の命と身体を守るために交通安全指導を徹底する。
⇒交通安全講習会(6/23,26)，４輪車及び２輪車の駐車指導の強化の継続，自転車の適正利用指導，駐輪場の整理整頓指導
・法令を遵守し，健康を維持するために禁煙・禁酒指導を徹底する。
⇒禁煙・禁酒指導の強化，高専祭打ち上げや追い出しコンパにおける禁酒警告
・良好な学習・研究環境を作るために環境美化指導を徹底する。
⇒定期試験後の環境美化清掃の実施の継続，学生会清掃ボランティア活動の奨励
・その他反社会的行為に対して厳重な指導を行なう。
⇒中丹高等学校補導連絡協議会等対外機関への参加との連携
　学校警察連絡制度の締結

（出典　舞鶴高専年報・第１０号・2013 年４月）

資料９－１－③－５

ＦＤ・ＩＣＴ部会

ＦＤ・ＩＣＴ部会長　三輪　浩

本部会は評価委員会の下部組織として，主として教員の講義手法，教育指導等の改善に資する目的で，種々の取り組みを行っている。今年度の部会員（協力職員を含む）の構成と役割分担は以下のとおりである。

表１　FD・ICT 部会構成員と役割分担

氏　名	所　属	主たる役割	氏　名	所　属	主たる役割
三輪　浩	建設システム	全体の連絡調整	前柄　賢一	支援センター	授業アンケート
吉永　進一	人文	授業アンケート	石井　貴弘	支援センター	授業アンケート
梅垣　浩二	自然	FD・ICT 特別講演会	久保　聡志	総務係	事務手続き全般
小林　洋平	機械	教育連絡会議	滝　博	総務課	事務手続き全般
村上信太郎	機械	授業アンケート	柴田　裕司	総務課	事務系連絡調整
内海　淳志	電気情報	教育連絡会議	中島　賢也	学生課	事務系連絡調整
南　裕樹	電子制御	授業アンケート	吉田　容子	教務係（協力）	授業アンケート
坂本　英輔	建設システム	授業アンケート	池澤　拓史	教務係（協力）	授業アンケート

１．授業アンケート・達成度評価の実施

今年度の授業アンケートの変更点は，１）前期実施のアンケート結果は集計次第すみやかに教員に通知する，２）科目ごとに自由記述欄を設ける，の２点である。これらは平成２３年度の外部評価委員会において検討を要請されていたものである。これにより，より適切な課題分析と授業改善策が期待される。なお，アンケートの実施は，前期分は平成２４年１０月９日～１０月２２日の期間，後期分は平成２５年１月２８日～２月１８日の期間（一部先行実施あり）に行った。

２．授業参観の実施

平成２４年６月２５日～７月６日に実施した。全教員は他の教員の授業を一つ以上参観し，その結果を授業参観報告書にまとめ，提出した（実施率９０％）。参観教員は，参観結果に基づいて自身の授業改善に参考になる点について整理できた。

３．教育連絡会議の実施要領の改訂と連絡会議の開催

教育関連での取扱事項の増化・広範化に対応するため，教育連絡会議の実施要領を改訂した。これに基づいて主たる検討テーマを設定し，会議を開催した。前期の主テーマはコアカリキュラムとし，後期の主テーマは授業アンケートとした。いずれも高専教育をより活性化させる上で重要なものであり，活発な議論が展開された。また，教科教育，学習指導等に関する議論も行われた。なお，連絡会議の結果は主査によりまとめられ，提出される。

４．FD・ICT 特別講演会

今年度の特別講演会は，教務・学生・寮務の３委員会および学生相談室との合同開催として，下記の講演会を実施した。また，講演会終了後，別室にて三主事，学生支援室長，FD・ICT 部会長，看護師などを交えて発達障害に関する保護者への対応等について懇談を行った。

日　時：平成２４年８月６日（月）13:30～15:00
講演者：[redacted]
題　目：高専における特別支援教育とはどうあるべきか？

（出典　　舞鶴高専年報・第１０号・2013 年４月）

資料９－１－③－６

教育プログラム（ＰＩＥ）委員会

教育プログラム委員会委員長　金森　満

１．ＪＡＢＥＥ説明会の実施

本科４年生と専攻科１年生全員を対象に，また，本科５年生の進学希望者を対象に，ＪＡＢＥＥ説明会を実施し，日本技術者教育認定機構（ＪＡＢＥＥ）について，生産・情報基礎工学プログラムについて，達成度確認表を使用した達成度確認等について説明した（４月下旬）。

２．シラバスのチェック

生産・情報基礎工学プログラムの履修科目についてシラバスのチェックを実施し，教科担当者に不備な点を修正していただき，修正版を本校ウェブサイトにアップロードした（５月～６月）。

３．平成２３年度プログラム点検結果の精査と報告

平成２３年度実施したプログラム点検結果を精査し，プログラム点検報告書を整備の上，教育改善委員会に報告した（４月～５月）。

４．教育プログラム（ＰＩＥ）委員会規則の改正について

本委員会の役割の一つを「（1）教育プログラムの継続的改善に関すること。」としていたが，継続的改善は教育改善委員会が担うこととなり，「（1）教育プログラムの点検及び改善に関すること。」に改正することを提案し，６月度の運営会議において承認された（６月）。

５．必修３単位の削減

平成２１年度のＪＡＢＥＥ認定継続審査の結果に対応するため，必修３単位削減（選択化）案を教育改善委員会へ提案し，了承された（５月）。

６．ＪＡＢＥＥ中間審査の受審

自己点検書を作成し，７月１７日付けで日本技術者教育認定機構へ提出した（４月～７月）。また，ＪＡＢＥＥ審査長から寄せられた書類審査時における質問事項に対して，回答書を作成し提出した（１０月～１１月）。

７．卒業研究・特別研究に関与する学習・教育目標の精査

本年度の中間審査結果を受けて，卒業研究ならびに特別研究に関与する学習・教育目標を精査し，専攻科長及び各専門学科長の協力により，関与する学習・教育目標を（B）○，（C）◎，（D）○，（G）○ に改正した（１２月）。平成２５年度４学年から適用する。

８．新カリキュラムに対応した達成度評価基準の改正

本科及び専攻科の新カリキュラムを考慮したプログラムの達成度評価方法ならびに達成度評価基準を提案し，運営会議において承認された（１２月）。平成２５年度～２７年度のプログラム修了認定に適用する。

９．新基準への対応

ＪＡＢＥＥ新基準に対応するため，プログラムが育成すべき自立した技術者像，及び「チームで仕事をするための能力」の育成を目指した学習・教育到達目標を教育改善委員会に提案し，運営会議ならびに教員会議において承認された（１２月～１月）。また，新基準に対応した到達度評価基準，到達度確認表及び科目フロー図等を作成した（１１月～２月）。

１０．平成２４年度プログラム点検の実施

平成２４年度のプログラム点検を実施し，プログラム点検報告書を作成した（３月）。

（出典　　舞鶴高専年報・第１０号・2013 年４月）

資料９－１－③－７

教育改善委員会

教育改善委員会委員長　　金山　光一

教育改善委員会は，本校の継続的改善システムを円滑かつ効果的に機能させるため，平成２３年度に新設された委員会である。教育改善委員会は教育プログラム（PIE）委員会および評価委員会でCHECKされた事項についてACTIONを行う役割を担っており，委員会が必要と認めるときは，各学科・部門及び他の委員会に提議，付託または協力要請を行うことができる。今年度実施した事項を以下に挙げる。

１．本科４・５年における必修単位数の削減について

本校の本科４・５年生と専攻科課程で構成される「生産・情報基礎工学」教育プログラムの修了者は，ＪＡＢＥＥコース修了者として，申請により技術士補の資格が得られる。本校の教育プログラム修了条件は１２４単位以上を修得していることとしている。しかし本校の本科卒業生が専攻科に進学してカリキュラムに従ってプログラムを修了するためには最低１２７単位以上修得しなければならない。一方，他高専から本校専攻科に進学し，途中から本校の教育プログラムに編入する場合，他高専で取得する単位数が少ない場合があることを考慮し教育プログラムを１２４単位をもって修了させている。これは教育プログラム修了者の能力が２とおり存在することになり，学習・教育目標の達成という観点から整合性がとれない。そこで，教育プログラム(PIE)委員会から必修３単位を削減することが提案され，審議の結果了承し，教務委員会に本科４・５年における必修単位数の削減検討を依頼した。

２．「生産・情報基礎工学」教育プログラム点検の適切性検討

平成２２年度及び２３年度に教育プログラム(PIE)委員会が実施した教育プログラム点検の結果報告を受け，プログラム点検の仕組み自体の適切性について審議した。その結果，平成２２年度の点検項目について改善すべき点が抽出されたため，教育プログラム（PIE）委員会に検討を依頼した。併せて「平成２２年度・教育点検システムにおける点検項目に関する報告書」の内容について再審議し，内容が適切であることが確認された。教育プログラム（PIE）委員会で作成された「平成２３年度・教育点検システムにおける点検項目に関する報告書」を審議し，一部について不明瞭な記述等が抽出されたので，教育プログラム（PIE）委員会に修正を依頼した。その他の内容については適切であることが確認された。さらに，プログラム点検の仕組み自体の適切性を点検する際，具体的な点検項目及び点検方法を明文化することが提案され，「教育点検システムの機能点検実施要領」を制定した。

３．学習・教育目標の改正について

JABEE が制定している学習・教育目標として，新たに「(i)　チームで仕事をするための能力」が追加されたことを考慮して，教育プログラム（PIE）委員会から提案された学習・教育目標の改正案について審議し，妥当であると判断した。

４．卒業論文の評価基準について

平成２３年度に各学科・専攻科に依頼した卒業論文等の評価法整備状況を確認し，追加修正が必要と判断された学科に改善を要請した。

５．育成すべき技術者像の制定について

教育プログラム（PIE）委員会が提案した本校の「育成すべき技術者像（案）」について審議し，妥当であると判断し，専攻科委員会に検討を要請した。

以上

（出典　舞鶴高専年報・第１０号・2013 年４月）

資料９－１－③－８

平成２４年７月３１日

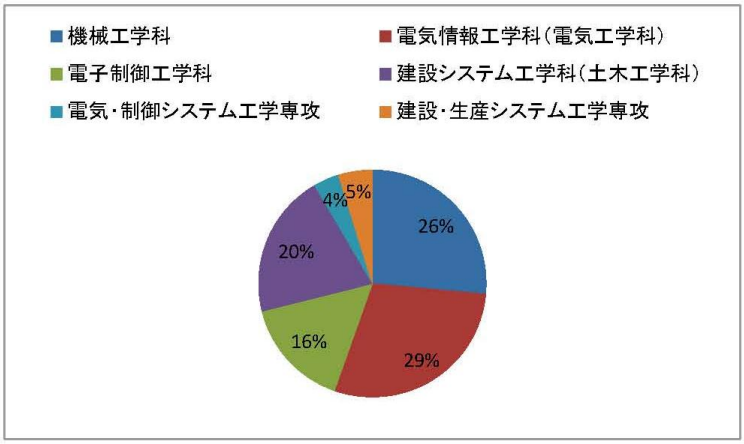
平成２４年度「本科卒業者・専攻科修了者による教育評価アンケート」集計結果

１．個人基礎データに関する質問

問１．　あなたの年齢を[　　]内に記入して下さい。

［33.9 歳］（平均）

問２．　出身学科を回答して下さい。



（出典　評価委員会資料）

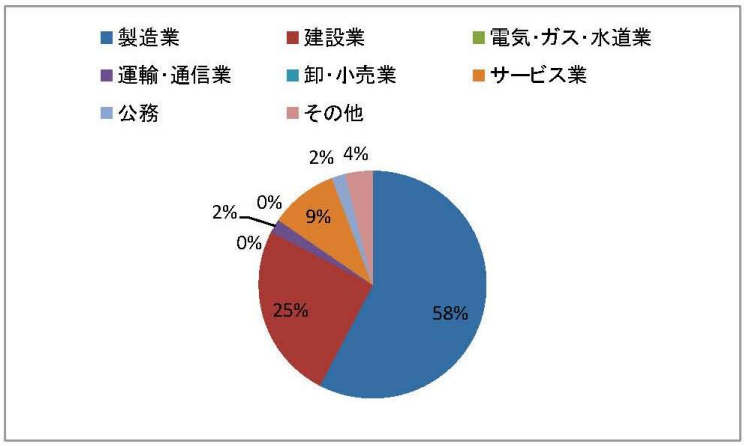
資料９－１－③－９

平成２４年７月３１日

平成２４年度「企業による舞鶴工業高等専門学校の教育評価アンケート」集計結果

１．基礎データに関する質問

問１．　貴社の業種をお答え下さい。



問２．　貴社に在籍の①社員数，②高専卒の社員数，③舞鶴高専本科卒業者数，④舞鶴高専専攻科修了者数，　⑤最近５年間に入社した舞鶴高専本科卒業者数をお答え下さい（概数で結構です），　⑥最近５年間に入社した舞鶴高専専攻科修了者数をお答え下さい（概数で結構です）。

平均

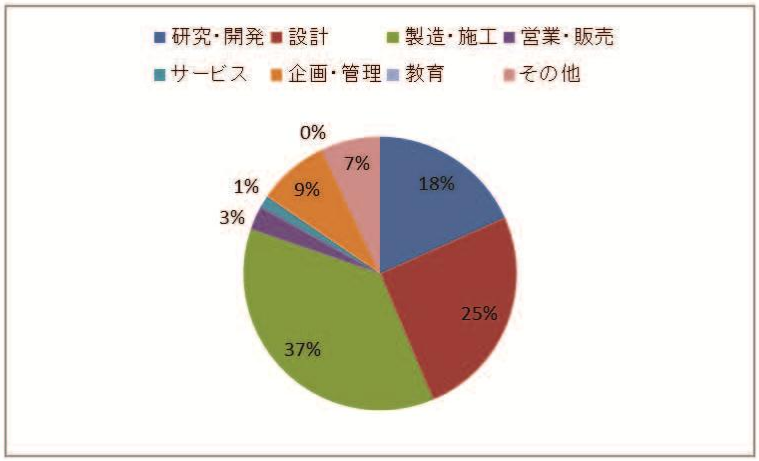
①　1934.9　人　②　86.4　人　③　5.6　人　④　1.1　人

⑤　1.7　人　⑥　0.5　人

（出典　評価委員会資料）

資料９－１－③－９の続き

問３．　最近５年間に入社した舞鶴高専本科卒業者・専攻科修了者の配属職種をお答え下さい（複数の卒業者がおり，配属職種が異なる場合には該当職種をすべてお答え下さい）。



（出典　評価委員会資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校の教育点検システムは，Plan，Do，CheckおよびActionの４つの活動を担当する委員会が能動的に機能的しており，運営会議及び教員会議・学科部門会議との相互関係によって，そのバランスが保たれている。また，外部評価を通じてトータルとしての客観性を維持している。これらの取組が継続的に実施されており，教育課程の見直し等が効果的に実施できるようになっている。

観点９－１－④：　個々の教員は、評価結果に基づいて、それぞれの質の向上を図るとともに、授業内容、教材、教授技術等の継続的改善を行っているか。また、個々の教員の改善活動状況を、学校として把握しているか。

（観点に係る状況）

授業アンケートの結果は教員に返却され（資料９－１－④－１），教員は教育の質の向上を目指してそれに対する課題分析と今後の改善策（資料９－１－④－２）を提出している。また，授業公開では，当該教員は評価教員及び学外評価者からの直接的な意見を聞くことができ，これらに加えて学生の意見を加えた授業公開報告書（資料９－１－④－３）および評価集計表（資料９－１－④－４）により，授業の客観的評価を受ける。これらの報告に基づいて，当該教員は授業改善プラン（資料９－１－④－５）を提出している。さらに，授業参観では，他の教員の授業から授業の参考になる点を学び，自身の授業に反映させている（資料９－１－④－６）。以上の取組の状況は書面にてＦＤ・ＩＣＴ部会に提出され，学校としてその状況を把握している。

資料９－１－④－１

アンケート実施時期	所属部門・学科	教員名
平成24年度	建設システム工学科	

アンケート集計結果(担当科目)

１．各質問に対する各回答の数と割合を示しています。
２．各科目に対するコメントがあった場合は、併せて示しています。
３．講義系科目は担当者全員、実験/実習系科目は筆頭の担当者のみに集計結果を示しています。
４．選択科目では各質問の回答数の合計が異なる場合がありますが、最も多いものを回答人数としています。
５．全科目総合の集計結果を別シートに示しています。
６．学校全体に関する学年・学科別の自由記述は別ファイルに示しています。
７．課題分析と今後の改善策の記入欄が本シートの末尾にあります。ご記入の後、指定の期日までに提出して下さい。
８．担当教員が特定できない科目に対する自由記述は、関係する教員にお知らせしています。
９．１，２年の一般科目および３，４年の習熟度別英語に関して，前期分では科目毎に集計しておりましたが，後期分ではさらにクラス別に分けて集積しています。ご留意下さい。

科目1/10

科目名	クラス	学期	内容	回答人数
水理学IA	３ Ｃ	前期	講義(必修)	33

質　　問	回　　答		
この授業の内容や進め方は適切でしたか？	適切であった	どちらとも言えない	不適切であった
	21(63.6%)	12(36.4%)	0(0.0%)
よく準備された授業でしたか？	準備されていた	どちらとも言えない	準備されていなかった
	18(54.5%)	14(42.4%)	1(3.0%)
先生の説明はわかりやすかったですか？	わかりやすかった	どちらとも言えない	わかりにくかった
	16(48.5%)	13(39.4%)	4(12.1%)
あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか？	取り組んだ	どちらとも言えない	取り組まなかった
	20(60.6%)	13(39.4%)	0(0.0%)

コ　　メ　　ン　　ト
進め方がめんどくさい、書きながらでもいい

科目2/10

科目名	クラス	学期	内容	回答人数
建設システム工学実験Ⅲ（三輪・四蔵）	４ Ｃ	前期	実験/実習(必修)	36

質　　問	回　　答		
この授業の内容や進め方は適切でしたか？	適切であった	どちらとも言えない	不適切であった
	30(83.3%)	6(16.7%)	0(0.0%)
よく準備された授業でしたか？	準備されていた	どちらとも言えない	準備されていなかった
	30(83.3%)	6(16.7%)	0(0.0%)
先生の説明はわかりやすかったですか？	わかりやすかった	どちらとも言えない	わかりにくかった
	29(80.6%)	7(19.4%)	0(0.0%)
あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか？	取り組んだ	どちらとも言えない	取り組まなかった
	31(86.1%)	5(13.9%)	0(0.0%)

コ　　メ　　ン　　ト
わかりやすかった
レポートは難しかったけど、最後までやったら水理学がよくわかるようになってよかった

科目3/10

科目名	クラス	学期	内容	回答人数
水理学IIA	４ Ｃ	前期	講義(必修)	20

質　　問	回　　答		
この授業の内容や進め方は適切でしたか？	適切であった	どちらとも言えない	不適切であった
	19(95.0%)	1(5.0%)	0(0.0%)
よく準備された授業でしたか？	準備されていた	どちらとも言えない	準備されていなかった
	18(90.0%)	2(10.0%)	0(0.0%)
先生の説明はわかりやすかったですか？	わかりやすかった	どちらとも言えない	わかりにくかった
	16(80.0%)	3(15.0%)	1(5.0%)

（出典　評価委員会（ＦＤ・ＩＣＴ部会）資料）

資料９－１－④－１の続き

1/1

クラス	自由記述
	前　　期
１年(共)	どの授業もわかりやすかったです
	ペースがはやっかた！！！
	テスト合格点を下げてほしい
	全体的にいい授業でした。後期もこのままお願いします。
	先生も個性的で楽しい先生が多いし、とてもいい先生ばかりでうれしいです。前期はあんまり成績が良くなかったので、後期は頑張りたいです。
	全体的にん楽しい授業でした
	休憩をとってくれない人がいた
	強いて言えば、通学生に全く親和的でないのはいかがなものか。
	後　　期
１－１	1年間楽しかった。
	特に化学は面白かった
	少し進め方が早いきがした
	化学が分かりにくかった。
	ほとんどが分かりやすかったので良かったです。
	科学が全然わからなかった。
	テストの日程をもっと早く提示してほしい。
１－２	
１－３	先生によってテストの難易度がちがいすぎる
	とても分かりやすかった。
１－４	化学をちゃんとしてほしい。
	もう少し授業時間を長くしてもよろしいかと。

（出典　評価委員会（ＦＤ・ＩＣＴ部会）資料）

資料９－１－④－２

4/4

アンケート実施時期	所属部門・学科	教員名
平成24年度	建設システム工学科	

課題分析

・水理学ⅠA, B:「どちらとも言えない」が約4割あり，授業に興味を持ってない学生が一定数あると推察される。
・水理学ⅡA, B:9割程度の学生が良好と回答しており，大きな問題はない，ただし，別途行った自由記述では板書が読みにくいとの指摘もある。
・建設システム工学実験（水理実験），河川工学A, B, 海岸工学：1～2割の学生は「どちらとも言えない」と回答。
・水圏環境学，環境防災論：8～9割の学生が良好と回答，課題は特にない。

今後の改善策

1. 板書が読みにくいとの指摘は，他の科目にも共通する可能性がある。丁寧な板書を心がける。
2. 水理学Ⅰでは，実例を写真や映像で紹介するなど，興味を喚起するような説明を行いたい。
3. 河川工学，海岸工学は，少人数教育である利点を生かして，学生との対話を重視した授業を目指したい。

（出典　評価委員会（ＦＤ・ＩＣＴ部会）資料）

資料９－１－④－３

授 業 公 開 報 告 書

授業科目	人　間　論　Ⅱ	３　学年　Ｍ　クラス	
教 員 名		実施日	24年　12月　20日
評価者(所属等)			

評　価　者　の　見　解

・講義内容が多岐にわたり、進め方や板書も含めて大学の講義のような印象を受けた。
・資料プリントを配布した上で、現代の時事問題にひきつけて講義を展開する手法は、学生の興味・関心を喚起する上で有効だと感じた。
・講義の節々に質疑や対話を挟むことで、学生もよく集中力が続いており、教室全体に講義へ参加する雰囲気があったように思う。

【授業公開報告書・評価書を踏まえて】

・評価書からは「演習・宿題を取り入れているか」、「板書は適切か」の項目に一定の傾向が伺える。同じ社会科学系の科目を担当する者として、「演習・宿題」をどのように取り入れるのかは難しい問題だとも感じるが、教員間で情報交換をしながら、より良い講義を作り上げたいと考える。

授業担当教員とのヒアリング結果

・講義中のゲーム・読書については退室を促すなど厳しく指導されているとのことで、そうした指導方法は私自身の講義にも取り入れていきたい。

【授業公開報告書を踏まえて】

・評価者からは、講義の進度が早いことについて複数のコメントがあったように思う。また、関連して講義内容（難易度）や板書のスピードについても指摘があった。学生の理解度を適宜確認し、またその向上を図るための具体的方策について、教員間で知恵を出し合っていきたいと思う。

学生とのヒアリング結果

・ヒアリング対象となった学生のノートは私の予想以上にしっかりとまとめられており、きちんと講義内容を理解できているように感じた。

【授業公開報告書を踏まえて】

・「将来役に立つと思うか」との質問に対して肯定的な返事が少なかった点は、評価者同様、私自身も気になった。講義中に現在の時事問題とも絡めた説明がなされており、十分に現代的な意義をもつ内容だと思うが、学生にはその部分を汲み取りきれていないのかも知れない。私が担当する「法学」・「経済学」においても同じ問題があると思われるので、どのような形で講義の意義を伝えて行くか、検討した上で工夫を試みたい。

（出典　総務課資料）

資料９－１－④－４

授業科目	クラス	実施日時	実施教員	学外評価者	学内評価者
人間論Ⅱ	3M	平成24年12月20日（木） 14時50分～16時30分 第7-8時限			

評価項目	評価	計	意見等
1 授業のポイント(要点)が明示されているか	３．明示されている	5	②全体の流れの中で、本時の目標は何であるか。
	２．示されているが整理が必要	3	
	１．明示されていない		無回答　1件
2 教える態度に熱意や情熱が感じられましたか	３．感じられる	8	③指導者の深くて広い学識が魅力的で充実感があった。
	２．少し感じられる	1	
	１．感じられない		
3 よく準備された授業でしたか	３．準備されている	7	③補足プリントでユダヤ教とイエスの思想を分かりやすく、現代とも関連させて効果的。
	２．少し準備されている	2	
	１．準備されていない		
4 授業におけるアクセントがあるか，一本調子でないか	３．アクセントがある	6	③テンポの早い、リズム感のある講義であった。
	２．少しある	3	
	１．ない		
5 演習，宿題などを取り入れているか	３．取り入れている	1	②現代の課題も取り入れた補足プリントの活用が良かった。感想など書かせてはどうか？
	２．少し取り入れている	3	
	１．取り入れていない	4	無回答　1件
6 クラスの大多数が授業に参加しているか	３．参加している	5	③90分忍耐強く集中していた。
	２．概ね参加している	4	
	１．参加の度合いが少ない		
7 授業の導入はスムーズか	３．スムーズである	8	③最初に復習から入り、歴史の流れを明示。
	２．少し工夫が必要である	1	
	１．飛躍が感じられる		
8 授業の進行速度（ボリューム）は適切か	３．適切である	4	②盛りだくさんで理解するのが困難ではないか？ゆっくりと間を入れるのも大切。
	２．少し早すぎる（少し遅すぎる）	4	
	１．早すぎる（遅すぎる）	1	
9 補助教材（ＯＨＰ，プロジェクタ，模型，サンプル，プリント）を効果的に使用しているか	３．巧妙に使用している	3	③プリントを学生に音読させ、理解を深めさせた。
	２．使用している	6	
	１．使用していない		
10 板書は適切か	３．適切である	3	②書くのも早いが、消すのも早い。学生は一所懸命ノートをとっていたが……。
	２．やや改善すべき点がある	6	
	１．適切でない		
11 学生との質疑応答があるか	３．適度にある	8	③約10名と質疑応答。それを全体のものにする広がりが欲しかった。
	２．あまりない	1	
	１．ない		
12 授業中の声は聞き取りやすいか	３．聞き取りやすい	7	③早口ではあったがよく通る声であった。 ②少し語尾が聞き取りにくく思いました。
	２．やや聞き取りにくい	2	
	１．聞き取りにくい		
13 学生を惹き付ける授業であったか	３．惹き付けていた	6	③ものづくりの専門学校で哲学・宗教は敬遠されがち。身近な現実問題とも関連させ、緊張感が漂っていた。眠る学生は皆無だったと思われた。
	２．普通	3	
	１．惹き付けていない		

（出典　総務課資料）

資料９－１－④－５

授業改善プラン報告書

授業科目	人間論Ⅱ	３　学年　　Ｍ　クラス	
教員名		実施日時	平成24年　12月　20日

授業改善プラン

【現状認識】初めて教卓にたった頃より、林竹二の授業や小林秀雄の講演のように、授業内容の質を落とさず、学生にわくわくしながら聴いてもらいたい、と思ってきた。教員生活が終局に近づきながらも、目標はいまだはるか彼方のまま、距離は縮まっていない。

本来、垂谷が受けもっている「人間論」や「哲学」などは、学問として、その有用性があるのか、ないのか、あったとしても、それももっとも見えにくい、あえていうなら「無用の用」の「有用性」ぐらいでしかない（しかし、それが人の「いのち」を考える上で最も重要であるとも考えている）。授業でもそのことを伝え、理解してもらうことが、授業の眼目の一つであると考えている。しかし、これがなかなか困難である。

今回、「将来役に立つと思うか」に対して、学生から肯定的な意見が少なかったとあるが、「無用の用」ということからすれば、そのこと自体は、それはそれでよいと考えるが、そのことが意味することを理解・自覚し、説明できる学生がいなかったことは、まことに残念である。

たとえば、本年度でいえば、老荘思想などもかなりつっこんだ授業をすでに行っていたからだ。おそらく空転していたのであろう。力をこめればこめるほど、些末なことに時間をかけてしまったり、復習で繰り返しが多くなったりするばかりで、そのメッセージが伝わっていないのだ、と痛感させられる。

【改善計画】

・話し方の改善

① その日のもっとも重要な山場では、速度を下げ、丁寧に話す。
② たとえ話や時事的な関連する出来事への言及などを増やす。
③ 答えやすい質問や、簡単そうで勘違いしている事柄の質問などを増やし、授業内容にできるだけ学生を引き込む。

・板書の改善

できるだけ、授業内容の項目的な事柄などは、事前にプリントを作り、授業では、板書より、授業内容を聞いて理解できるように努める。
（つまり、この授業では、学生は、板書を書き写すのは意味がないことを理解させる。）

＊＊＊

・「演習・宿題」などの課題について

昨年までの７年間ほど、年間Ｂ５で120頁の時事ニュースのまとめを配布していた。通常はこれを授業ではまったく扱わず、冬休み明けの「小論文」のテーマ探しに便利なように、また、各自で「自主的」に考えるように、との意図から行っていた。

「無用の用」の科目の性格からして、各人が「主体的」に取り組むのではなく、「単なる知識の詰め込み」は、無意味と考えるからでもあったが、結局、学生は小論文の提出直前に、「生命倫理、環境倫理、情報倫理、グローバル化と共生など」のテーマに応じた資料を短時間であさり、論を構成するだけとなっていた。

これは、結局、授業内容に魅力がないため、主体的に取り組もうとしないからである。したがって、「演習・宿題」を課すこと自体は重要ではなく、むしろ、授業を思わず身を乗りだして聴きたくなる内容にできているかどうかが本来の課題であり、そのことが実現できるよう、上記の試みとともに、社会科はじめ人文教員と相談しながら努力したい。

（出典　総務課資料）

資料９－１－④－６

授業参観報告書

参観日時：H24 年 7 月 6 日（金）５・６時限、授業科目名（学年・クラス）：電子物理Ⅰ
（５年専門共通）

授業担当者：　　参観者：

１．自分の授業改善に参考になった点
○教科書を読ませる。その後，説明する。
○重要なグラフは板書して説明する。
○学生に発問する。
○寝ている学生を起こす。寝ている学生に発問する。

２．受講学生の状況
○一部寝ている学生が目立つ。

３．全体的な感想
○ポイントを押さえたわかりやすい授業であった。
○図の板書では，カラーのチョークを活用した方がよい。
○演習問題を用意してはどうか。
○もっと積極的に学生に発問してはどうか。
○授業の冒頭に，今回の授業の主題やアウトラインを簡潔に述べてはどうか。

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

授業改善を目的とした授業アンケート，授業公開，授業参観などの実施に伴って各教員が授業改善に係る報告書を提出している。これにより，各教員は継続して授業の改善を行うとともに，学校としてその状況を把握できるシステムとなっている。

観点９－１－⑤：　研究活動が教育の質の改善に寄与しているか。

（観点に係る状況）

教員は自身の専門分野に係る教育研究，学術研究，技術研究等の研究活動を精力的に行っており，その成果を広く内外に公表している（資料９－１－⑤－１）。これらの研究は，そのテーマと担当科目が密接に関係している場合が多く（資料９－１－⑤－２），研究活動が教員の専門分野の授業に生かされている。また，日々の研究活動の一環として専門書を上梓し，授業で使用する例もある（資料９－１－⑤－３）。

準学士課程の卒業研究，専攻科の特別研究は，教員の専門分野に関連したテーマを設定することが多く（資料９－１－⑤－４～５），教員の研究活動が学生への研究指導に生かされている。卒業研究や特別研究の成果は，学術論文や学会発表として公表（資料９－１－⑤－６）されており（資料中，○で囲まれた著者は学生），より広い観点からの評価を受ける場合もある（資料９－１－⑤－７）。教員や学生の学会参加は当該分野の最新情報を入手できる機会でもあり，得られた知見に基づいて教育・研究の改善への意欲を高めている。このような活動は後輩学生にも良い刺激を与え，継続的な改善に結びついている。

資料９－１－⑤－１

研究成果発表状況

区　分	著　書	解　説	査読論文	国際会議	学会発表	特　許	その他	計
校　長	1				1			2
人文科学部門	5		1	2	9		１５	３２
自然科学部門	2		1		2		2	7
機械工学科			1	１２	１８		7	３８
電気情報工学科		1	4	8	２７		2	４２
電子制御工学科		3	１２	１１	３５		4	６５
建設システム工学科		2	5	6	１２		１３	３８
教育研究支援センター			2	1	4		１１	１８
合　計	8	6	２６	４０	１０８	0	５４	２４２

（出典　舞鶴高専年報・第１０号・2013 年４月）

資料９－１－⑤－２

建設システム工学科

氏　名	職名	校務分担	担当科目	専門分野	研究テーマ
森尾　敏 （博士〔工学〕）	教授	・図書館長	①地盤工学ⅠA,B ②地盤工学ⅡA ③建設システム工学実験Ⅱ ④施工管理学A,B ⑤応用建設工学Ⅰ ⑥卒業研究 ⑦地盤工学設計論 ⑧特別実験 ⑨特別研究 ⑩工業数学	①地盤工学 ②耐震工学	①有限要素法による応力・変形～浸透連成解析 ②微動測定によるバンコク地盤・地下構造の推定 ③活断層を想定した強震動予測 ④強震時における表面波寄与率の定量的評価
高谷　富也 （学術博士）	教授	・寮務主事	①構造造力学ⅡA,B ②数値解析 ③構造解析 ④耐震工学A ⑤耐震工学B ⑥卒業研究 ⑦応用情報工学 ⑧建築耐震工学	①構造・耐震工学 ②振動工学 ③動土質	①木造建築物の地震時倒壊過程解析に関する研究 ②RC 造建築物の耐震診断・補強に関する研究 ③ACM ブレースによる既存木造住宅の耐震補強工法の開発に関する研究 ④起振器を用いた動的木造住宅の耐震診断 ⑤CASBEE による建築物の評価に関する研究
三輪　浩 （博士〔工学〕）	教授	・FD・ICT部会長 ・安全衛生委員会委員長 ・学級担任（４Ｃ） ・学生主事補	①水理学ⅠA，ⅠB ②水理学ⅡA，ⅡB ③建設システム工学実験Ⅲ ④河川工学A，B ⑤海岸工学 ⑥卒業研究 ⑦水圏環境学 ⑧環境防災論 ⑨水工学特論 ⑩特別実験 ⑪特別演習	①水工水理学 ②土木環境システム	①置き土による河床変動予測と河川環境への影響評価 ②河口砂州の動態と変動予測 ③流砂モデルの再構築（砂礫の移動限界） ④閉鎖性水域における流れと物質循環機構および水質改善法

（出典　舞鶴高専年報・第１０号・2013 年４月）

資料９－１－⑤－３

科　　目　　名	学 年	期別・授業形態・単位数	教員名　川田　昌克 研究室 [redacted] 内線電話 [redacted] e-mail: [redacted]
システム制御Ⅰ System Control Ⅰ	5	前期・講義・１単位	
システム制御Ⅱ System Control Ⅱ		後期・講義・１単位	
履修単位科目			

【授業目的】
「制御工学」の目的のひとつは，『いかにして目的の動作をさせるコントローラを設計するのか？』ということであり，「制御工学」の知識により「コントローラ」を設計しなければ「ロボット」をいかに上手に製作しても思い通りに動かすことはできない。そこで，本科目では，「制御工学」の中でも「現代制御」と呼ばれる手法の基礎を習得してもらうことを目的とする。

【Course Objectives】
One of the purposes of "control engineering" is working out how to design a controller which will early out the target operations. Even if we manufacture robots themselves satisfactory, we cannot move such robots to our satisfaction if the robots are not designed based on control engineering. Accordingly, this subject aims at acquiring a basic knowledge of "modern control theory".

【到達目標】		【Outcomes/Aims】
前期	１．システムを状態空間表現で記述できる。 ２．システムの時間応答を計算できる。 ３．可制御性を判別できる。	Students will be able to: 1. describe the state space representation of a system. 2. calculate the time response of a system. 3. understand controllability.
後期	４．極配置法によりコントローラを設計できる。 ５．サーボシステムを設計できる。 ６．オブザーバを設計できる。 ７．リアプノフの安定定理により安定判別ができる。 ８．最適レギュレータを設計できる。	4. design a controller based on pole placement methods. 5. design a servo system. 6. design a observer. 7. understand Lyapunov stability theory. 8. design a controller based on the optimal regulator theory.

【学習・教育到達目標】
（B）専門分野の基礎知識を修得し，技術の実践に応用できる。

【キーワード】	【授業時間】
現代制御，状態空間表現，状態フィードバック，オブザーバ，サーボ系 modern control, state space representation, state feedback, observer, servo system	前期：2時間（90分）×15週=30単位時間（22.5時間） 後期：2時間（90分）×15週=30単位時間（22.5時間）

【授業方法】	【学習方法】
講義を中心に具体例を交えながら授業を進めていく。主に黒板を使用し，教科書の内容を詳しく説明する。毎回，5名程度の学生に質問する。また，講義内容の理解を深めるため，適宜レポート課題を与え，提出を求める。	１．事前にシラバスを見て教科書の該当箇所を読み，疑問点を明確にする。 ２．授業では，黒板の説明は必ずノートにとり，わからないところがあれば質問する。 ３．演習，レポート課題は必ず自分で考えて解く。わからないところがあれば質問する。

【履修上の注意】	【科目の位置付け】
レポートは必ず授業開始時に提出すること。特別な事情がない限り，授業開始時以外にレポートは受け取らない。	１．先行して履修すべき科目 制御工学Ⅰ～Ⅲ，ロボット工学Ⅰ ２．後で履修する関連科目 （本校専攻科　電気・制御システム工学専攻） システム制御工学，制御工学特論， ロボットシステム制御，特別実験 ３．同時に履修する関連科目 制御工学実験，アクチュエータ工学， CAD 演習ⅡA，ロボット工学Ⅱ
【定期試験の実施方法】 前期・後期とも中間・期末の２回の試験を行う。 時間は 50 分とする。 必要に応じて，電卓の持ち込みを可とする。	
【成績の評価方法・評価基準】 前期・後期とも中間・期末試験の平均値で定期試験結果を評価（70%）し，レポートの評価（30%）との合計をもって総合成績とする。 到達目標に基づき，前期は，システムの状態空間表現，時間応答の計算，可制御性など，後期は，極配置法によるコントローラ設計，サーボ系設計，オブザーバ，リアプノフの安定性理論と最適レギュレータなどについての各項目の理解の到達度を評価基準とする。	

（出典　平成２５年度シラバス）

資料９－１－⑤－３の続き

【教科書・教材等】
教科書：川田昌克「MATLAB/Simulink による現代制御入門」（森北出版）

【参考書・参照 URL 等】
参考書：小郷　寛，美多　勉　「システム制御理論入門」（実教出版）
梶原宏之「線形システム制御入門」（コロナ社）

【授業計画】

期別	週	内容	到達目標	教科書参照ページ
前期	第１週	シラバス内容の説明，古典制御理論から現代制御理論へ		1～10
	第２週	（状態空間表現）状態空間表現の例	1	11～16
	第３週	（状態空間表現）同値変換，近似線形化	1	16～21
	第４週	（状態空間表現）状態空間表現と伝達関数表現の関係	1	21～28
	第５週	（時間応答）１次システムの時間応答	2	33～39
	第６週	（時間応答）遷移行列の定義，性質	2	39～40
	第７週	（時間応答）遷移行列の求め方	2	40～44
	第８週	★前期中間試験		
	第９週	前期中間試験の返却，（時間応答）n 次システムの時間応答	2	44～48
	第10週	（時間応答）n 次システムの時間応答	2	同上
	第11週	（時間応答）極と漸近安定性	2	49～51
	第12週	（時間応答）入出力安定性，極と過渡特性	2	51～56
	第13週	（状態フィードバック制御）レギュレータ制御，可制御性の概念	3	67～70
	第14週	（状態フィードバック制御）可制御性の判別	3	70～74
	第15週	（状態フィードバック制御）可制御性の判別	3	同上
		★前期期末試験		
		前期期末試験返却，到達度確認		
後期	第１週	シラバス内容の説明，（状態フィードバック制御）可制御性と極配置	4	74～77
	第２週	（状態フィードバック制御）可制御標準形と極配置	4	77～82
	第３週	（状態フィードバック制御）アッカーマンの極配置アルゴリズム	4	82～83
	第４週	（状態フィードバック制御）多入力系の極配置	4	84～86
	第５週	（サーボシステム）目標値追従制御	5	92～97
	第６週	（サーボシステム）不変零点，外乱の影響	5	97～100
	第７週	（サーボシステム）内部モデル原理，積分型コントローラの設計	5	100～110
	第８週	★後期中間試験		
	第９週	後期中間試験返却，（オブザーバ）微分信号を用いた状態復元	6	115～119
	第10週	（オブザーバ）同一次元オブザーバ	6	120～128
	第11週	（リアプノフの安定性理論）リアプノフの意味での安定性と判別条件	7	140～142
	第12週	（リアプノフの安定性理論）リアプノフ方程式と安定性	7	142～152
	第13週	（リアプノフの安定性理論）リアプノフ方程式と安定性	7	同上
	第14週	（最適レギュレータ）最適レギュレータ問題の可解条件	8	155～159
	第15週	（最適レギュレータ）リカッチ方程式の解法	8	同上
		★後期期末試験		
		後期期末試験返却，到達度確認		

【学生へのメッセージ】
アポロ計画に代表される様々な宇宙開発では，宇宙船の正確な軌道推定や宇宙船の姿勢制御などに，「現代制御」が数多く利用されている。「現代制御」を習得するには，線形代数や微積分といった数学的知識が必要であり，時には高いハードルとなるかもしれないが，学生諸君はこのハードルを乗り越え，「現代制御」の基礎を習得してもらいたい。

（出典　平成２５年度シラバス）

資料９－１－⑤－４

卒業研究題目

学科	題　　目	指導教員
機械工学科	超音波疲労試験機を用いた微細粒鋼 NFG600W の曲げ疲労試験に関する研究	生水　雅之
	ステンレスねじ表面に施されためっきの組成分析と機械的特性評価	
	合金工具鋼 SKD11 の回転曲げ疲労強度に関する研究	
	エアリフトポンプにおける揚固性能の向上	西山　　等
	竹チップ発酵に及ぼす通気性の影響	
	発酵熱を利用した温度差発電に関する研究	
	自己融着による熱可塑性コンポジットの修復について	篠原　正浩
	局所加熱を利用した熱可塑性樹脂複合材料の曲げ加工	
	空気エンジンの設計製作	谷川　博哉
	自動車用排気触媒内流れのシミュレーション	
	小型循環式風洞の製作と評価	
	有限垂直円柱底面の蒸気膜厚さに関する研究	豊田　　香
	立体スキャナーの設計製作	
	高強度アルミねじ鍛造のシミュレーション	山田耕一郎
	高強度アルミ圧縮試験のシミュレーション	
	各種新開発ねじにおける疲労試験	
	浮体式洋上風車のネガティブフィードバックに関する研究	小林　洋平
	浮体式洋上風車が波や潮流から受ける力に関する研究	
	圧力制御型硬さ試験機に関する研究	
	水エマルジョン燃料の熱分解と微粒子状物質の低減に関する基礎研究	野毛　宏文
	蛍光誘導化反応による混合物質中からの選択的カフェイン検出に関する研究	
	マイクロノズルの圧縮性流れにおける局所管摩擦係数の測定	村上信太郎
	テーパ管の管内流における乱流遷移に関する研究	

（出典　舞鶴高専年報・第１０号・2013 年４月）

資料９－１－⑤－５

専攻科特別研究題目（第２学年）

専攻	題　　目	指導教員
電気・制御システム工学専攻	プッシュプル方式 DC/DC コンバータの励磁電流と偏磁現象について	平地 克也
	ガラス状炭素モールド室温硬化インプリント法による DLC マイクロギアパターンの形成	清原 修二
	室温硬化ナノインプリントリソグラフィ法による微細有機ELデバイスの開発	石川 一平
	気相合成法による n 形ダイヤモンド半導体の作製	奥村 幸彦
	2相圧電駆動ファンの開発	金山 光一
	LC共振型磁界センサによる導体形状検知の研究	金山 光一
	植物ゲノムにおける膜タンパク質の機能予測法の開発	新池 一弘
	2 リンク三叉ヘビロボットの開発と推進制御実験	南　　裕樹
	位相シフト方式フルブリッジ型 DC/DC コンバータのソフトスイッチング動作に関する研究	平地 克也
	金属一誘電体多層膜を用いた表面プラズモン導波路に関する研究	内海 淳志
建設・生産システム工専攻	エアリフトポンプの揚固性能の高効率化に関する研究	西山　　等・小林　洋平
	水の抵抗を受ける振り子動揺周期の実験的推測	小林　洋平・谷川　博哉
	高強度アルミねじ開発のための鍛造シミュレーション	山田耕一郎・生水　雅之
	サブクールされた水道水中における下端部に勾配を有する有限垂直円柱まわりの膜沸騰熱伝達	豊田　　香・小林　洋平
	一面せん断試験による砂質土の液状化特性	加登　文学・森尾　　敏
	水エマルジョン燃焼の熱分解と微粒子状物質の低減に関する基礎研究	野毛　宏文・西山　　等
	既設橋梁を対象とした振動計測と健全度評価	玉田　和也・坂本　英輔

（出典　舞鶴高専年報・第１０号・2013 年４月）

資料９－１－⑤－６

在来軸組構法による新築木造住宅の地震時倒壊解析について, 情科学センター年報, 第 41 号, pp.1-10, (2013.3), 和田友太, 西川隼人, 高谷富也.

仮想化技術とクラウド監視システムの導入について, 情科学センター年報, 第 41 号, pp.20-22, (2013.3), 千賀 優作, 高谷 富也.

三輪　浩

査読付論文

Numerical simulation of low-flow channel evolution due to sediment augmentation, International Journal of Sediment Research, Vol.27, No.3, pp.351-361, (2012.9), Hiroshi Miwa and Gary Parker.

Flow resistance and sediment transport rate in alluvial streams with sedimentary dunes, Journal of Hydroscience and Hydraulic Engineering, JSCE, Vol.30, No.2, pp.49-64, (2012.11), Hiroshi Miwa and Atsuyuki Daido.

学会発表

由良川河口砂州の動態観測と侵食規模の推定, 平成 24 年度土木学会関西支部年次学術講演会講演概要集(CD-ROM), Ⅱ-4, (2012.6), 出野幸一, 三輪　浩, 神田佳一.

由良川河口地形の変動特性と侵食規模の推定, 第 67 回土木学会年次学術講演会講演概要集Ⅱ(CD-ROM), pp.17-18, (2012.9), 三輪　浩, 出野幸一, 神田佳一.

その他

由良川河口砂州周辺の流れとその制御に関する実験的研究, 産学官技術フォーラム'12, 神戸高専地域協働研究センター, OC-1-2, (2012.7), 田口敦士, 神田佳一, 三輪　浩.

洪水による由良川河口砂州のフラッシュ特性に関する移動床模型実験, 産学官技術フォーラム'12, 神戸高専地域協働研究センター, P-28, (2012.7), 藤本真希, 孝子綸図, 神田佳一, 三輪　浩.

由良川における河口砂州の変動特性と侵食規模の推定, 平成 24 年度京都大学防災研究所共同研究一般研究集会, (2012.11), 三輪　浩.

由良川河口地形の動態とその制御法に関する研究, 国土交通省平成 24 年度河川砂防技術研究開発公募地域課題分野(河川)研究成果報告書, (2013.3), 神田佳一, 三輪　浩, 加登文学.

玉田　和也

査読付論文

振動を利用した健全性診断に向けた実橋梁の損傷と動特性変化, 土木学会論文集 A1, Vol.68, No.2, pp.367-383, 2012, 宮下剛, 玉田和也, 劉翠平, 岩崎英徳, 長井正嗣.

学会発表

京都府北部・橋梁維持管理研修会について, 平成 24 年度全国高専教育フォーラム, AK23_3_2, (2012.8), 玉田和也.

（出典　舞鶴高専年報・第１０号・2013 年４月）

資料９－１－⑤－７

建設システム工学科の新卒業生が土木学会の学術講演会で優秀発表賞を受賞しました。

[redacted]の[redacted]氏が、平成 24 年土木学会関西支部年次学術講演会において研究発表を行い、優秀発表賞を受賞しました。講演題目は「由良川河口砂州の動態観測と侵食規模の推定」で、卒業研究の成果をまとめたものです。この賞は、研究内容・発表技術ともに優れた者に与えられるもので、大学生や大学院生が多く受賞する中、高く評価される結果となりました。[redacted]氏は４月より社会人([redacted]勤務)となっており、ますますの活躍が期待されます。

賞　状

優秀発表賞　第Ⅱ部門

[redacted]　殿

あなたが平成２４年度土木学会関西支部年次学術講演会において発表された論文は優秀でありかつその発表技術も特に顕著であったので表彰します

平成２４年６月９日

公益社団法人土木学会関西支部

支部長　酒井

（出典　本校ウェブページ）

（分析結果とその根拠理由）

教員の教育研究，学術研究，技術研究は，すべて教育活動を活性化するものであり，これらの活動の授業への反映（執筆書籍の使用も含む）を通して教育の質の改善に寄与している。また，専門教員の研究活動は卒業研究や特別研究の指導，研究成果の外部発表（論文誌，学会講演会）を通して，学生の研究に取り組む姿勢を向上させ研究意欲を高めている。

観点９－２－①：　ファカルティ・ディベロップメントが、適切な方法で実施され、組織として教育の質の向上や授業の改善に結び付いているか。

（観点に係る状況）

本校のファカルティ・ディベロップメントは主としてＦＤ・ＩＣＴ部会が担当している。平成２４年度の構成は部会長，委員９名（教員７名，総務課長，学生課長）および協力員４名（技術職員２名，事務職員２名）である。協力員は主として授業アンケートと達成度評価の準備とデータ処理を担っている。

ＦＤ・ＩＣＴ部会では年間を通して様々な取組を行っている。その活動は部会の議を経て実施され（資料９－２－①－１～２），報告にまとめられている。平成２４年度の活動報告を（資料９－２－①－３）に示す。部会の活動の中で，教育連絡会議は授業内容や学生指導に関するテーマを設定して教員間で議論を行うもの（資料９－２－①－４）であり，具体的な意見交換が可能である。特別講演会は近年，発達障害や特別支援教育がテーマに選ばれており（資料９－２－①－５），教科教育を超えた教育問題を扱っている。また，授業参観（資料９－２－①－６）の目的は他の教員の授業から自身の授業の参考になる点を学ぶことにある。さらに，授業公開における授業改善プランの提示（資料９－２－①－７）や授業アンケート結果に基づく課題分析と今後の改善策の提示（資料９－２－①－８）は他者からの意見による具体的な回答となっている。

資料９－２－①－１

平成 23 年 6 月 29 日

平成２３年度　FD・ICT 部会　第１回業務打ち合わせ会

日時：平成 23 年 6 月 29 日（水）
場所：多目的会議室

１．報告事項

１．１　平成２３年度 FD・ICT 部会メンバーの確認

番号	氏名	所属	役割分担
１	吉永　進一	人文科学部門	
２	梅垣　浩二	自然科学部門	
３	村上信太郎	機械工学科	
４	内海　淳志	電気情報工学科	
５	清原　修二	電子制御工学科	
６	南　　裕樹	電子制御工学科	
７	徳永　泰伸	建設システム工学科	
８	三輪　浩	建設システム工学科	全体の連絡調整
９	石井　貴弘	教育・研究支援センター	
１０	眞柄　賢一	教育・研究支援センター	
１１	山崎　基史	総務課総務係	
１２	西海　彰二	総務課総務係	
１３	中島　賢也	学生課長	

１．２　平成２２年度の活動項目

(1) 授業参観（前期）
(2) 授業公開（後期）
(3) 授業アンケート（前期・後期）
(4) ＦＤ・ＩＣＴ講演会（後期）
(5) 教育連絡会議（前期・後期）

１．３　授業参観について

昨年度より授業参観は年１回の実施となり，昨年度は６月２１日～７月２日に実施した。今年度は６月２０日（月）～７月１日（金）を設定し，現在，実施中である。

１．４　授業アンケートに関する神戸高専への訪問調査の報告

授業アンケートの全科目実施の検討が昨年度から要請されていることを受け，先行する神戸高専の橋本教務主事を訪問し，実施状況について話を伺った。調査結果の概要は以下のとおり。

（出典　評価委員会（ＦＤ・ＩＣＴ部会）資料）

資料９－２－①－１の続き

2/3

１）以前は５ジャンル２０問，５段階のアンケートであったが，現在では５ジャンル５問５段階で実施している。講義，実技，実験・実習，卒研にも同一の設問を使用。なお，評価１をつける場合は理由の記入を要求している。
２）前期分は成績発表後の１０月中旬（放課後，特活），後期分は試験返却日（最終試験終了後３日程度）にコンピュータ教室で実施（Web 入力）。全科目入力に一人１５分程度必要。体育，実験・実習も実施している。
３）中間試験を授業時間に含め，２月中旬に最終試験が終了するようカレンダーを設定している。
４）アンケート項目が少なく，具体的ではないので，教員の改善策の提示が困難ではないかとの当方の質問に対しては，学生に直接聞くとか授業参観を参考にすれば良いとの回答であった。

２．協議事項
２．１　本年度の役割分担（案）
(1) 全体の連絡調整（三輪）
(2) 授業参観，授業公開（西海・山崎）
(3) 授業アンケート（全員＋α）
　　コード表作成（南，村上，徳永），立案・計画（吉永），アンケート科目選定（清原）
　　Moodle 技術関係（石井，前納），アンケート実施支援（中島）
(4) ＦＤ・ＩＣＴ講演会（梅垣，西海・山崎）
(5) 教育連絡会議（内海，西海・山崎）

２．２　授業公開の実施について
昨年度より授業公開は年１回の実となり，昨年度は後期に実施。今年度も同様に，各部門・学科１名の公開を後期に実施したい。これまで（H13～H22 年度）に未実施の教員は以下のとおり。
児玉（人文），奥村（自然），豊田・小林・村上（機械），石川・南（制御），坂本・徳永（建設）

２．３　ＦＤ・ＩＣＴ講演会
平成２２年度 [redacted]「学生の学びを活性化する共同学習のすすめ」。今年度も実施予定。

２．４　教育連絡会議の実施について（資料１）
平成２１年度より，それまでの科目間連絡会議に代わって，個々の学生の教育問題を把握してその解決についての連絡を行う教育連絡会議が発足した。今年度も引き続き同様の方法で実施したい。

２．５　授業アンケート
これまで１教員２科目の授業アンケートを実施してきた。しかし，平成２２年度の外部評価を経て，PIE 委員会，評価委員会から全科目実施の要請があり，当部会の継続課題となっている。これまでの本校の授業アンケートは，結果とその分析を通した教授法の改善・向上が当初からの趣旨の一つとして重要視されてきた。しかし，近年の授業アンケートは学生の満足度を測ること

（出典　評価委員会（ＦＤ・ＩＣＴ部会）資料）

資料９－２－①－１の続き

3/3

が重要であるそうで，そのためには全科目を実施する必要があるとの説明であった。アンケートの趣旨が変わったこととの理解の下で，当部会としての取り組み方を議論願いたい。現状のMoodleを使って全科目を実施するとした場合，何を決めなければならないか....

議論のたたき台

（１）全科目実施の定義：シラバスに示された全科目。ただし，複数教員で分散担当の場合は１教員に絞る。共同担当の場合はシラバスの筆頭担当者。なお，今年度は準備の関係上，座学のみ実施。

（２）質問項目数：４

（３）質問内容：

番号	設問	旧設問
1	この授業の内容や進め方は適切でしたか？	Ａ１　この授業の内容には興味が持てましたか？ Ａ２　教科書やプリントなど、教材の難易度は適当でしたか？(*) Ａ３　シラバスに記述されている授業内容や方法は参考になりましたか？
2	よく準備された授業でしたか？	**Ｂ１　よく準備された授業でしたか？** Ｂ２　先生の教える態度に熱意や情熱が感じられましたか？
3	先生の説明は分かりやすいやすかったですか？	Ｃ１　授業の進む速さは適切でしたか？(*) Ｃ２　先生の声は聞き取りやすかったですか？ Ｃ３　板書などの使用は適切でしたか？ **Ｃ４　先生の説明はわかりやすかったですか？** Ｃ５　先生は学生の理解度を考えて授業を進めていましたか？
4	あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか？	Ｄ１　授業の予習および復習（宿題を含む）にはどのくらい時間をかけましたか？（週平均） **Ｄ２　授業中、講義をしっかり聞き、授業に積極的に取り組みましたか？** Ｄ３　授業内容は理解できましたか？

（４）実施方法：Moodle（数値化対策）

（５）授業改善に必要なアウトプット：数値出力

（６）教員の課題分析と改善策の記述：ＦＤ部会が提供するデータは最小限である。その他の資料（授業参観，授業公開，教育連絡会議，ＦＤ講演会，学生との意見交換，等）を参考とした自由記述とする。（授業改善を行い，それに対する責任を負うのはあくまで教員個人であり，部会はそのための情報を提供する組織との立場である。）

（７）その他：自由記述は無し（効率化対応，必要ならば，教員が独自調査）

以上

（出典　評価委員会（ＦＤ・ＩＣＴ部会）資料）

資料９－２－①－２

第１回 FD－ICT 部会議事概要

日　時　　平成２３年6月２９日（水）１６：５０～１８：００
場　所　　多目的会議室
出席者　　三輪部会長（司会）、吉永教員、村上（信）教員、南教員、学生課長、
眞柄技術専門職員、石井技術職員、山崎総務係員
（欠席者　梅垣教員、内海教員、清原教員、徳永教員）

議　事

１．報告事項

１．１　平成２３年度 FD・ICT 部会メンバーの確認について
標記の件について、資料の通り確認された。

１．２　平成２２年度の活動項目について
資料の通り、FD 部会の業務が確認された。

１．３　授業参観について
資料の通り部会長から説明があり、現在実施中であることが伝えられた。また、参加人数によっては期限を一週間延ばす等の処置をとることが承認された。

１．４　授業アンケートに関する神戸高専への訪問調査の報告
標記の件について部会長から報告があった。また、ここに記されている Web 入力については神戸高専独自のシステムであり、舞鶴高専で使用している Moodle を利用したアンケートシステムとは違うものであるとの説明があった。

２．協議事項

２．１　本年度の役割分担について
標記の件について資料の通り承認された。

２．２　授業公開の実施について
資料の通り部会長から説明があった。今年度も後期に実施することが承認された。

２．３　FD・ICT 講演会について
今年度も実施することが承認された。なお、詳細は担当者を中心に準備することになった。

1

（出典　評価委員会（ＦＤ・ＩＣＴ部会）資料）

資料９－２－①－２の続き

２．４　教育連絡会議の実施について（資料１）

標記の件について部会長から説明があった。前年度までは１～４年までの学生の教育問題について協議していたが、今年度からは専攻科の学生も含めて協議してはどうかとの意見があった。

２．５　授業アンケートについて

標記の件について、部会長から資料の通り説明があった。とくに、全科目実施の授業アンケートの趣旨はこれまでのものとは異なっている点の説明があり、その趣旨に沿った形でのアンケートであることが確認された。また、当部会の継続課題である全教科実施について議論され、以下の案に沿って制度の設計を行うことが承認された。

・全科目実施する場合、現在のままでは対応できないので、システムを変更する必要がある。
・全教員に自由記述という形でアンケートの実施を依頼する意見も出されたが（それならばMoodleを使用する必要もない）、数値化という観点からやはりMoodleを利用したシステムで行う必要がある。
・全教科実施だが、準備の関係で、今年度は座学のみの実施を検討する。
・同一科目を複数教員で分散担当する場合は１教員に絞り、共同担当の場合はシラバスの筆頭担当者とする。
・質問項目数は各科目について４つを基準とする。
・後日、眞柄技術職員からシステムの草案について部会長に提示する。

以上

2

（出典　評価委員会（ＦＤ・ＩＣＴ部会）資料）

資料９－２－①－３

ＦＤ・ＩＣＴ部会

ＦＤ・ＩＣＴ部会長　三輪　浩

本部会は評価委員会の下部組織として，主として教員の講義手法，教育指導等の改善に資する目的で，種々の取り組みを行っている。今年度の部会員（協力職員を含む）の構成と役割分担は以下のとおりである。

表１　FD・ICT 部会構成員と役割分担

氏　名	所　属	主たる役割	氏　名	所　属	主たる役割
三輪　浩	建設システム	全体の連絡調整	眞柄　賢一	支援センター	授業アンケート
吉永　進一	人文	授業アンケート	石井　貴弘	支援センター	授業アンケート
梅垣　浩二	自然	FD・ICT 特別講演会	久保　聡志	総務係	事務手続き全般
小林　洋平	機械	教育連絡会議	滝　博	総務課	事務手続き全般
村上信太郎	機械	授業アンケート	柴田　裕司	総務課	事務系連絡調整
内海　淳志	電気情報	教育連絡会議	中島　賢也	学生課	事務系連絡調整
南　裕樹	電子制御	授業アンケート	吉田　容子	教務係（協力）	授業アンケート
坂本　英輔	建設システム	授業アンケート	池澤　拓史	教務係（協力）	授業アンケート

１．授業アンケート・達成度評価の実施

今年度の授業アンケートの変更点は，１）前期実施のアンケート結果は集計次第教員に通知する，２）科目ごとに自由記述欄を設ける，の２点である。これらは平成２３年度の外部評価委員会において検討を要請されていたものである。これにより，より適切な課題分析と授業改善策が期待される。アンケートの実施は，前期分は平成２４年１０月９日～１０月２２日の期間，後期分は平成２５年１月２８日～２月１８日の期間（一部先行実施あり）に行った。

２．授業参観の実施

平成２４年６月２５日～７月６日に実施した。全教員は他の教員の授業を一つ以上参観し，その結果を授業参加報告書にまとめ，提出した（実施率９０％）。参観教員は，参観結果に基づいて自身の授業改善に参考になる点について整理できた。

３．教育連絡会議の実施要領の改訂と会議の開催

教育関連での取扱事項の増化・広範化に対応するため，教育連絡会議の実施要領を改訂した。これに基づいて主たる検討テーマを設定し，会議を開催した。前期の検討グループは，これまでとは異なった形での活発な議論を喚起するため職階別とし，コアカリキュラムを主テーマとした。また，後期の検討グループと主テーマは現時点（平成２５年２月７日）で協議中である。なお，連絡会議の結果は主査によりまとめられ，提出される。

４．FD・ICT 特別講演会

今年度の特別講演会は，教務・学生・寮務の３委員会および学生相談室との合同開催として，下記の講演会を実施した。また，講演会終了後，別室にて三主事，学生支援室長，FD・ICT 部会長，看護師などを交えて発達障害に関する保護者への対応等について懇談を行った。

日　時：平成２４年８月６日（月）13:30～15:00
講演者：[redacted]
題　目：高専における特別支援教育とはどうあるべきか？

（出典　舞鶴高専年報・第１０号・2013 年４月）

資料９－２－①－３の続き

５．授業公開の実施

今年度は表２に示すとおり授業公開を実施した。授業を公開した教員は，外部評価者と内部評価者による授業評価，学生の意見および教員や保護者によるアンケート結果を基にして授業改善プランを検討し，報告書を提出した。

表２　授業公開実施内容

番号	授業科目	クラス	実施教員	実施日	主査
1	アナログ信号処理Ⅱ	３Ｅ	中川重康	H25/1/25	芦澤恵太
2	システム設計学	専攻科１	豊田　香	H24/12/12	篠原正浩
3	化学ⅢＢ	４年選択	宮崎昭仁	H24/12/13	背戸柳実
4	電気基礎Ⅱ	１Ｓ	石川一平	H24/12/19	野間正泰
5	人間論Ⅱ	３Ｍ	垂谷茂弘	H24/12/20	児玉圭司
6	建築環境Ｂ	４Ｃ	徳永泰伸	H24/12/21	尾上亮介

（出典　舞鶴高専年報・第１０号・2013 年４月）

資料９－２－①－４

平成２４年度　教育連絡会議　実施計画

FD･ICT 部会

１．連絡会議の趣旨

学科（専攻科），部門を超えて科目間の連携を密にし，また，教育改善に向けた検討を行うことにより，教育の質的向上に寄与することを目的とした連絡会議です。連絡会議のテーマは，人文科学系，自然科学系および専門工学系の科目間連携に関する内容を基本としていますが，さらに，教科教育，学習指導，生活指導等に関する内容を議論することによって，より高い教育効果を期待しています。

２．連絡会議の実施

以下の所属グループごとに連絡会議を行い，主査の教員はその報告を総務課総務係・[redacted]までご提出下さい。

３．所属一覧

各自、自分の所属グループをご確認ください。

グループA		グループB		グループC		グループD	
石川　一平**	S	内海　淳志	E	井上　泰仁	E	芦澤　恵太**	E
伊藤　聡**	S	奥村　昌司	N	奥村　幸彦*	S	○荒川　吉孝	H
上杉　智子**	N	○亀谷　睦	N	金森　潤	S	梅垣　浩二**	N
尾上　亮介*	C	川田　昌克	S	Jonathan Kay	H	岡田　浩嗣	N
加登　文学	C	小林　洋平	M	児玉　圭司**	H	片山　英昭*	E
金山　光一	E	四蔵　茂雄**	C	小松　幸恵**	N	清原　修二++	S
篠原　正浩	M	新池　一弘	E	豊田　香	M	坂本　英輔	C
竹澤　智樹	E	鈴木　立人	M	○野間　正泰**	S	生水　雅之**	M
谷川　博哉*	M	高谷　富也	C	平地　克也	E	背戸柳　実	N
田村　修一**	H	玉田　和也	C	舩木　英岳++	E	仲川　力	S
丹下　裕**	E	垂谷　茂弘**	H	三川　譲二	H	西山　等**	M
○中川　重康**	E	徳永　泰伸**	C	南　裕樹	S	野毛　宏文**	M
宮野　敏男*	N	町田　秀和	S	宮崎　昭仁**	H	松井　信義*	H
村上美登志**	H	宮崎　操	H	宮元　健次++	C	三輪　浩**	C
室巻　孝郎	M	村上信太郎	M	吉永　進一	H	山田耕一郎++	M
森尾　敏	C						

注　各グループ五十音順，○=主査，H=人文，N=自然

＊　部門長・学科長，**担任，++ 副担任

４　具体的な検討テーマ

（１）授業アンケートについて，以下の観点からご義論下さい。

(a) 活用方法

(b) 活用の具体例

(c) 改善案

（２）学習や生活について問題があると思われる学生について、個別にご議論ください。

（３）その他、教育、カリキュラムに関するテーマについてご議論ください。

以上

資料９－２－①－５

平成23年10月7日

教職員　各位

教 務 主 事　三川 譲二
寮 務 主 事　高谷 富也
学生相談室長　小野伸一郎
FD･ICT部会長　三輪　浩

特別支援教育特別講演会の開催について

標記講演会を下記のとおり開催いたしますので、多数参加していただきますようお願いします。

記

1. 日　時　　平成23年10月19日(水)13:30～15:00
2. 場　所　　大会議室
3. 講　師　　[redacted] 氏
[redacted]
4. 題　目　　「高等教育における発達障害の理解と支援」

当日下記のとおり個別相談の時間を設けていただきました。発達障害等に係る特別支援教育について郷間先生に相談を希望される方は、事前に学生課教務係までご連絡のうえ、どうぞご来室ください。

記

時　間　　９：３０～１１：３０
場　所　　多目的会議室

※なお、当日は球技大会実施のため学生委員会は共催となっておりません。

（出典　学生課　資料）

資料９－２－①－６

授　業　参　観　実　施　要　項

（平成１９年１２月１１日
運　　営　　会　　議
平成２２年６月　８日改訂）

（目　的）

１　本校の授業を質的に向上させるため，各教員が自由に他の教員の授業を参観し，各教員の授業改善に役立てることを目的とする。

（方　法）

２　全校一斉に授業参観期間（以後「参観期間」という。）を設定し，事前に許可を取ることなく，どの授業でも自由に参観できるものとする。

（参観期間）

３　参観期間は２週間以上とし，年間に各１回設定するものとする。

（参観回数）

４　教員は前期及び後期参観期間に，それぞれ１回以上他の授業を参観するものとする。

（授業参観報告書）

５　授業参観後，１週間以内に報告書（記名）を提出するものとする。

６　報告書はFD・ICT部会でとりまとめ，評価委員長並びに教務主事に報告するとともに，今後の授業改善に資するものとする。

附　則

この要項は，平成１７年１０月１１日から実施する。

附　則

この要項は，平成１９年１２月１１日から実施する。

附　則

この要項は，平成２２年　６月　８日から実施する。

（出典　総務課　資料）

資料９－２－①－７

授業改善プラン報告書

授業科目	電気基礎 II	１学年　　S クラス	
教員名		実施日時	平成 24 年 12 月 19 日

授業改善プラン

評価者からパワーポイントだけの授業に対して，ノートを取らせることの意義について指摘があった。しかし，ノートを取ることだけに集中して授業内容が頭に入らない可能性があり，また授業スピードが遅くなってしまう事が懸念される。本授業の場合，2 年生，3 年生へと続く科目であるため授業範囲をすべて終わらせるためには，できる限りノートを写すという単純作業を減らし，重要ポイントや計算のみを写すことで授業スピードを上げて年度内に予定範囲を終わらせることができると考える。パワーポイントによる授業を辞めるのであれば，授業範囲を削るといった対策も考えられるが，別途，本科目の続きを担当する教員らとの打ち合わせが必要であり，今後の課題といえる。

学生の理解度を確認しながら進める必要があるとの指摘に対しては，できるだけ学生に質問して確認しているつもりであったが，不十分であったならば改善していきたい。

授業初めに今日は何を勉強するのかについて示すのが望ましいとの意見があり，これに対しては，何度かは行っているが毎回ではなかったので，可能な限り本日の授業の目次ともいえる内容を示したい。

授業が早めに終わることに対しては，105 分授業ではなかなか学生の集中力が続かないことが原因の 1 つにある。これに対しては，集中力が切れそうな場合は途中に時事問題などの余談も入れて授業以外の教育について行う等も検討していく。あるいは 90 分授業が導入されれば，ちょうど良い授業時間になると思われる。

学外評価者からは，質問しやすい雰囲気をつくってもらいたいとの意見が出た。これに対しては，授業開始前，休憩時間，授業開始後の時間を有効に利用して，学生とのコミュニケーションを図り，改善する。また，授業開始と終了の挨拶や，授業前の態度など授業内容以外の部分での教育も行ってもらいたいとの意見が出たので，この点についても注意深く改善していく。

（出典　総務課　資料）

資料９－２－①－８

アンケート実施時期	所属部門・学科	教員名
平成24年度	電気情報工学科	

アンケート集計結果(担当科目)

１．各質問に対する各回答の数と割合を示しています。
２．各科目に対するコメントがあった場合は、併せて示しています。
３．講義系科目は担当者全員、実験/実習系科目は筆頭の担当者のみに集計結果を示しています。
４．選択科目では各質問の回答数の合計が異なる場合がありますが、最も多いものを回答人数としています。
５．全科目総合の集計結果を別シートに示しています。
６．学校全体に関する学年・学科別の自由記述は別ファイルに示しています。
７．課題分析と今後の改善策の記入欄が本シートの末尾にあります。ご記入の後、指定の期日までに提出して下さい。
８．担当教員が特定できない科目に対する自由記述は、関係する教員にお知らせしています。
９．１，２年の一般科目および３，４年の習熟度別英語に関して，前期分では科目毎に集計しておりましたが，後期分ではさらにクラス別に分けて集積しています。ご留意下さい。

科目1/5

科目名	クラス	学期	内容	回答人数
情報数学	２ Ｅ	前期	講義(必修)	40

質　　問	回　　答		
この授業の内容や進め方は適切でしたか？	適切であった	どちらとも言えない	不適切であった
	34(85.0%)	6(15.0%)	0(0.0%)
よく準備された授業でしたか？	準備されていた	どちらとも言えない	準備されていなかった
	37(92.5%)	3(7.5%)	0(0.0%)
先生の説明はわかりやすかったですか？	わかりやすかった	どちらとも言えない	わかりにくかった
	37(92.5%)	3(7.5%)	0(0.0%)
あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか？	取り組んだ	どちらとも言えない	取り組まなかった
	34(85.0%)	4(10.0%)	2(5.0%)

コ　　メ　　ン　　ト
とても丁寧で分かりやすかった。
わかりやすいが、わかりにくかった

科目2/5

科目名	クラス	学期	内容	回答人数
アナログ回路	３ Ｅ	前期	講義(必修)	35

質　　問	回　　答		
この授業の内容や進め方は適切でしたか？	適切であった	どちらとも言えない	不適切であった
	28(80.0%)	6(17.1%)	1(2.9%)
よく準備された授業でしたか？	準備されていた	どちらとも言えない	準備されていなかった
	29(82.9%)	6(17.1%)	0(0.0%)
先生の説明はわかりやすかったですか？	わかりやすかった	どちらとも言えない	わかりにくかった
	23(65.7%)	10(28.6%)	2(5.7%)
あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか？	取り組んだ	どちらとも言えない	取り組まなかった
	26(74.3%)	8(22.9%)	1(2.9%)

コ　　メ　　ン　　ト
楽しかった
授業で習う量がおおい

科目3/5

科目名	クラス	学期	内容	回答人数
論理回路	４ Ｅ	前期	講義(必修)	35

質　　問	回　　答		
この授業の内容や進め方は適切でしたか？	適切であった	どちらとも言えない	不適切であった
	27(77.1%)	7(20.0%)	1(2.9%)

（出典　評価委員会（ＦＤ・ＩＣＴ部会）資料）

資料９－２－①－８の続き

2/2

アンケート実施時期	所属部門・学科	教員名
平成24年度	電気情報工学科	

よく準備された授業でしたか？	準備されていた	どちらとも言えない	準備されていなかった
	28(80.0%)	6(17.1%)	1(2.9%)
先生の説明はわかりやすかったですか？	わかりやすかった	どちらとも言えない	わかりにくかった
	23(65.7%)	10(28.6%)	2(5.7%)
あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか？	取り組んだ	どちらとも言えない	取り組まなかった
	20(57.1%)	14(40.0%)	1(2.9%)
コ　メ　ン　ト			
学ぶ範囲が難しいと思った。			
スライド+1,2限はどうしても眠くなります			

科目4/5

科目名	クラス	学期	内容	回答人数
電気回路	１ Ｅ	後期	講義(必修)	41

質　問	回　答		
この授業の内容や進め方は適切でしたか？	適切であった	どちらとも言えない	不適切であった
	37(90.2%)	2(4.9%)	2(4.9%)
よく準備された授業でしたか？	準備されていた	どちらとも言えない	準備されていなかった
	36(87.8%)	3(7.3%)	2(4.9%)
先生の説明はわかりやすかったですか？	わかりやすかった	どちらとも言えない	わかりにくかった
	35(85.4%)	3(7.3%)	3(7.3%)
あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか？	取り組んだ	どちらとも言えない	取り組まなかった
	40(97.6%)	0(0.0%)	1(2.4%)
コ　メ　ン　ト			
OBさながらの上手な指導だったと思います。			
わかりやすいが、教科書が難しい			

科目5/5

科目名	クラス	学期	内容	回答人数
電磁気応用工学	専1ES	後期	講義(選択)	9

質　問	回　答		
この授業の内容や進め方は適切でしたか？	適切であった	どちらとも言えない	不適切であった
	7(77.8%)	2(22.2%)	0(0.0%)
よく準備された授業でしたか？	準備されていた	どちらとも言えない	準備されていなかった
	7(77.8%)	2(22.2%)	0(0.0%)
先生の説明はわかりやすかったですか？	わかりやすかった	どちらとも言えない	わかりにくかった
	5(55.6%)	4(44.4%)	0(0.0%)
あなたはこの授業に積極的に取り組みましたか？	取り組んだ	どちらとも言えない	取り組まなかった
	2(22.2%)	7(77.8%)	0(0.0%)

課題分析

全体的には良い評価を得ており、大多数の学生は現状の授業に満足しているものと考えられる。
今後の課題としては、低い評価をした少数の学生に対応することが挙げられる。

今後の改善策

理解ができていて「わかりにくかった」と評価している学生は別として、学習が困難であるような学生に対しては今後より細やかに個別対応を行う。
具体的には授業中の理解度の口頭確認、および放課後の直接指導等を予定している。

（出典　評価委員会（ＦＤ・ＩＣＴ部会）資料）

（分析結果とその根拠理由）

ＦＤ・ＩＣＴ部会は評価委員会の下に組織され，種々の取り組みが着実に実施されている。特に，授業公開は平成１４年度から継続的に実施されており，外部評価者の意見を直接授業改善に反映できる取組として定着している。授業アンケートは平成２０年度からそれまでのマークシート方式からウェブ入力方式に変更し，拡張性と機動性を向上させた。さらに平成２３年度からは，それまで一教員２科目のアンケート科目であったものを，卒業研究と特別研究を除く全科目に拡大した。その他，教育連絡会議，特別講演会，授業参観も，上述のとおり明確な目的をもって実施されており，組織として適切な実施方法であるといえる。

部会の活動の中で，教育連絡会議や特別講演会の取組は教員自身の教科教育以外の問題意識を高め，結果として教育の質の向上に寄与している。また，授業参観，授業公開および授業アンケートは具体的な問題点を明らかにすることができる点に特徴があり，高い改善効果が見込めるものである。したがって，これらの活動は授業の改善に結び付いているといえる。

観点９－２－②：　教育支援者等に対して、研修等、その資質の向上を図るための取組が適切に行われているか。

（観点に係る状況）

本校に採用された新任教職員及び他機関からの転入教職員に対しては，新任教職員研修として各統括者（校長・副校長・各主事・事務部長）等による本校概要説明を行い，本校の教育目標の実現に向け，意識の高揚を図っている。教育支援者である本校の職員は，新任教職員研修（資料９－２－②－１）を始めとしてその資質の向上を目的とする技術職員研修や学生支援業務を含む様々な研修（資料９－２－②－２）に参加し，その成果を教育支援や管理運営業務に反映している。帰任後においては，資料の回覧を行うなど，情報の共有化と相互の力量向上に努めている。

また，職員個々の資質向上に資するための各種の資格や検定の奨励（資料９－２－②－３），研究・研鑽結果の公表（資料９－２－②－４～５）等も行っている。

資料９－２－②－１

平成 24 年度 新任教職員研修 実施要領

１．目　　的

高等教育機関としての本校に勤務する新採用の教職員に対して，高専の役割，高専機構としての認識及び自覚を高め，もって本校の教育目標の実現に向け，意識の高揚を図ることを目的とする。

２．日　　時

平成 24 年 4 月 23 日（月）13：20～16：00

３．場　　所

中会議室

４．対 象 者

採用者：室巻　孝郎、池澤 拓史

転入者：柴田　裕司（石川高専より）、滝　　博（京都大学より）

古川　大祐（京都大学より）、吉川　峻介（京都大学より）

釣　　健孝（沖縄高専より）

５．内容・講師

(1) 舞鶴高専について(仮)	校　　長
(2) 独立行政法人について(仮)	事務部長
(3) 教科・授業関係の説明（授業，試験，成績評価等）(仮)	教務主事
(4) 厚生補導関係の説明（学生支援と学生指導）(仮)	学生主事
(5) 高専の現状と将来について（JABEE を含む）(仮)	副 校 長
(6) 寮務関係の説明（寮運営，寮生活指導等）	寮務主事
(7) 保健・メンタルヘルス・衛生管理について(仮)	看 護 師

（出典　総務課　資料）

資料９－２－②－１の続き

平成 24 年度 新任教職員研修 日程表

日　時：平成 24 年 4 月 23 日（月）13：20～16：00

場　所：中会議室

時　間	事　項	講　師
13:20 ～ 13:40	舞鶴高専について(仮)	校　長
13:40 ～ 14:00	独立行政法人について(仮)	事務部長
(休憩)		
14:10 ～ 14:30	教科・授業関係の説明(仮) （授業，試験，成績評価等）	教務主事
14:30 ～ 14:50	厚生補導関係の説明(仮) （学生支援と学生指導）	学生主事
(休憩)		
15:00 ～ 15:20	高専の現状と将来について(仮) （JABEE を含む）	副 校 長
15:20 ～ 15:40	寮務関係の説明 （寮運営，寮生活指導等）	寮務主事
15:40 ～ 16:00	保健・メンタルヘルス・衛生管理について(仮)	看 護 師

（出典　総務課　資料）

資料９－２－②－２

事務職員・技術職員の研修参加状況（学外）

研修会等名称	20年度		21年度		22年度		23年度		24年度		主催等
	技術	事務	技術	事務	技術	事務	技術	事務	技術	事務	
高専機構新任部課長研修会		2		1		1		1			高専機構
高専機構新任課長補佐・係長研修会		5		2		2		2		1	高専機構
高専機構中堅職員研修会				1		1		1		1	高専機構
高専機構初任職員研修会	1	5		3		3	2	2		1	高専機構
高専機構人事事務担当者研修会										2	高専機構
高専機構独法簿記研修						2		2		2	高専機構
高専機構国立高等専門学校機構簿記研修						2		1		2	高専機構
高専機構契約事務研修								1			高専機構
高専機構施設担当職員研修会								1			高専機構
高専機構学務関係職員研修会		1		1		1		1		1	高専機構
高専機構IT担当研修会							1		1		高専機構
高専機構国立高等専門学校機構情報担当者研修会									1	1	高専機構
高専機構知的財産管理システム操作説明会										1	高専機構
高専機構西日本地域高等専門学校技術職員特別研修会	2		1		2				1		高専機構
高専機構ネットワーク管理者研修会							1		1		高専機構
語学研修										5	高専機構
近畿地区中堅係員研修会		1				1		1			人事院近畿事務局
近畿地区セクシャルハラスメント防止研修						1					人事院近畿事務局
近畿地区接遇研修指導者育成コース								1			人事院近畿事務局
近畿地区係長研修										1	人事院近畿事務局
政府関係法人会計事務職員研修						1					財務省
情報システム統一研修			3	1	1	1					文部科学省情報化推進室
近畿地区国立高等専門学校技術職員研修	3				3				2		近畿地区国立高専
近畿地区国立大学法人等会計事務研修		2		1		1		1		1	社団法人国立大学協会近畿地区支部
近畿地区学生指導研修会		1						1		1	福井・舞鶴・近畿地区学生指導研究会
九州沖縄地区国立高等専門学校技術職員研修							1				九州沖縄地区国立高専
九州沖縄地区国立高等専門学校職員研修								1			九州沖縄地区国立高専
学生相談・メンタルヘルス研修会										1	独立行政法人日本学生支援機構
就職・キャリア支援研修会		1									独立行政法人日本学生支援機構
障害学生支援研修会				1		1		1		1	独立行政法人日本学生支援機構
全国学生指導研修会				1		1		1			独立行政法人日本学生支援機構
留学生交流実務担当教職員養成プログラム（留学生担当者研修）		1		1		1		1		1	独立行政法人日本学生支援機構
京都大学課長補佐研修										1	京都大学
京都大学掛長研修（H22以前：専門職員研修）						3				1	京都大学
京都大学技術職員研修（専門技術群研修含）			2		1		5		2		京都大学

（出典　総務課　資料）

資料９－２－②－３

舞鶴高専語学研修実施要項

１．概要

本研修は、高専機構の語学研修制度として実施するもので、研修受講生が英語の能力検定（英検、ＴＯＥＩＣ、ＴＯＥＦＬなど）の目標を設定し、期限までに達成した場合は受験料、教材費の半額を舞鶴高専が支援するものです。

２．支援対象者

常勤の事務職員及び技術職員

３．実施方法

（１）受講希望者は、７月２７日（金）までに添付の実施計画書を総務係に提出します。
事務部長は実施計画書に基づき支援の可否を判断し、通知します。
（２）支援を可とする通知を受けた受講生は、平成２５年１月９日（水）までに、目標を達成し目標を達成したことを証明するもの、要した費用の領収書及び明細資料を総務係に提出します。
（３）提出後、総務係から支給金額をお知らせしますので、立替払請求書を提出します。
（４）舞鶴高専から支給されます。

４．留意事項

・目標の設定は、英検、ＴＯＥＩＣ、ＴＯＥＦＬなど英語の能力検定です。

・支援対象となるものは、能力検定の受験料、テキスト、問題集、通信教育や英会話教室の入学金・教材費・受講料など、目標の達成に資するものです。

・支給金額は、要した費用のうち、不適当なものを除いた額の半額ですが、支給金額の上限はひとりあたり２万円まで（受講者数により支給上限を変更する場合があります。）。
また、支給予定総額が予算上限１０万円を超える場合は、支給額は予算の範囲内で按分した金額を支給しますのでご了承下さい。

・支援対象とならないものは、受講のための交通費、パソコンなどの機器の費用、振込手数料、請求書提出時点で未納の金額その他支援対象とすることが不適当なものです。
また、教育訓練給付金など他の支援制度・割引制度による金額は支援対象になりませんので申告下さい。

・本研修の実施概況は報告書として機構本部に提出し、公表されます。

（出典　総務課　資料）

資料９－２－②－４

教育研究支援センター

釣　健孝

その他

学生目線で製作したLEDを用いた可視化教材，平成24年度全国高専教育フォーラム（PO_A08)，釣健孝，眞柄賢一，仲川力，町田秀和，石川一平，畑亮次．

LEDを用いた教材作製，舞鶴工業高等専門学校紀要，第48号，平成25年3月，釣健孝．

能勢　嘉朗

その他

プログラミングコンテスト課題・自由部門におけるUSTREAM配信実施報告，平成24年度 全国高専教育フォーラム（CK_2_1_2），能勢嘉朗

平成24年度 全国高専教育フォーラム 参加報告，舞鶴高専情報科学センター年報，No.41，pp.57-58，(2013.3)，能勢嘉朗．

情報科学センターの端末以外でのMATLABの利用方法，舞鶴高専情報科学センター年報，No.41，pp.37-42，(2013.3)，川田昌克，能勢嘉朗．

機器運用・セキュリティ部門報告，舞鶴高専情報科学センター年報，No.41，pp.47，(2013.3)，伊藤稔，能勢嘉朗

平成24年度情報担当者研修会参加報告，舞鶴高専情報科学センター年報，No.41，pp.59-60，(2013.3)，井上泰仁，能勢嘉朗，渡邉彰宏，片山英昭．

平成24年度近畿地区高等専門学校情報処理教育連絡協議会報告，舞鶴高専情報科学センター年報，No.41，pp.61-62，(2013.3)，片山英昭，能勢嘉朗，山田耕一郎．

西川　隼人

査読付論文

地震規模依存性を考慮した地盤増幅度評価式の改良と観測増幅度との比較，日本地震工学会論文集，第12巻，3号，pp.34-48，(2012.8)，西川隼人，宮島昌克．

2011年東北地方太平洋沖地震における最大加速度，計測震度と地震動スペクトルの関係，日本地震工学会論文集，第12巻，4号(特集号)，pp.94-103，(2012.9)，西川隼人，宮島昌克．

国際会議

Collapsing Simulation of Wooden House Retrofitted by ACM Braces During Seismic Ground Motion，The 2012 World Congress on Advances in Civil，Environmental，and Materials Research (ACEM'12)，(2012.8)，Tomiya Takatani，Hayato Nishikawa.

（出典　舞鶴高専年報・第１０号・2013年４月）

資料９－２－②－５

教育研究支援センター

教育研究支援センター長　　野間　正泰

教育研究支援センターでは，昨年度に引き続いて，教育支援ならびに研究レベルの向上，地域貢献等に関連して，さまざまな取り組みを行ってきた。研究面では，西川隼人技術職員の日頃の研鑽が実を結び，日本地震工学会の論文奨励賞を受賞したことが特筆に値する。この受賞により，他の技術職員も大いに刺激を受けたと考えている。

以下に，本年度，技術職員が取り組んだ活動および成果について報告する。

１．ホームページ開設

これまでの教育研究支援センターは，組織として単独のアウトプットがなかったので，地域や他高専，他大学に向けて情報発信することを目的に，教育研究支援センターのホームページを開設した。ホームページはセンター概要，センター技術職員全体と個人の活動報告，センター実施の公開講座や出前授業，メンバの担当業務の紹介等，から構成され，センターの活動が一覧できるようになっている。またホームページは技術職員各自の責任において積極的に更新され，出張報告，研修，研究会の報告等は概ね１週間以内に更新されている。

支援センターホームページ

２．出前授業

平成 24 年 5 月に地域貢献の一環として出前授業「魔法の鉛筆」を，綾部市立吉美小学校 5 年生を対象に行った。

本出前授業は子供たちに理科学体験を通して将来の夢を育むとともに，交流を深めることを目的に実施された。魔法の鉛筆は基板に電子部品をはんだ付けしていき，完成した鉛筆で引いた線上を指で触れていくと音が鳴り，線の太さや濃さによって音階が変わるものを製作した。

ほとんどの小学生が初めてはんだごてを使うということで，最初に技術職員が手本を見せた。その後，小学生が製作しはじめ，途中からは親子で協力して製作している様子が見られた。完成して鉛筆から音が鳴った瞬間は「鉛筆から音が鳴った。やった！」と驚きの声があがった。

43 名という大人数の受講生数で行ったが，全員が完成させ音を鳴らすことがでた。受講者や保護者の方からは「理科や科学に興味が出てきた」，「舞鶴高専を進路の選択肢に考えたい」等の声が聞かれた。

出前授業　はんだづけの説明

３．公開講座

地域貢献の一貫として，昨年に引き続き公開講座「イルミネーションアクリルスタンドを作ろう！」を実施した。建設システム・機械・電子制御・電気情報の４学科の分野を取り入れた公開講座で，LED

（出典　舞鶴高専年報・第１０号・2013 年４月）

資料９－２－②－５の続き

によってアクリル板が七色に光るスタンドを製作した。昨年度からの反省で土台部分のセメントが割れやすかったものを強化した。20名の参加者は技術職員のサポートのもと，セメントで土台を作成し，CAD でデザインしたアクリルの模様を工作機械にて彫り込み，電子工作で回路を作成した。はんだづけが難しい部分もあったが，全員の作品が美しく彩られた光を灯すことができた。

公開講座　土台作り

公開講座　回路作り

公開講座　完成品

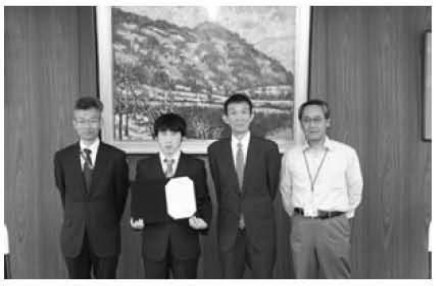
４．自己点検評価に基づく活動発表会

事務組織では，機構本部主導のもと自己点検評価の導入準備が進められている。技術職員は今のところ対象外ということなので，舞鶴高専教育研究支援センターで独自に自己点検評価を導入した。各技術職員が年度の初めに年度目標・計画をたて，年度の終わりに目標・計画がどの程度達成できたか，センター長および全技術職員に対して発表する。技術職員各個人の活動状況がお互いに理解することができた。

５．活動報告集の発刊

今年度から新たに活動報告集を発刊した。教育研究支援センターで取り組んできたことを掲載し，ホームページと同様に舞鶴高専内やその他の高専大学に配布することによって，教育研究支援センターがどのような組織で，どういう仕事をしてどういう方向性や将来性を持っているかをアピールすることができる。また他機関との情報交換や交流など相互活動のさらなる発展を期待するとともに，各技術職員が，この機会に自らの活動を見つめ直し，ステップアップや技術の向上に繋がることを目指す。

６．表彰・受賞


西川技術職員

平成 24 年 3 月 29 日，第 1 部門主任の西川隼人技術職員が，日本地震工学会 2012 年論文奨励賞を受賞した。受賞論文は，「2008 年岩手・宮城内陸地震における一迫，衣川震度観測点のフーリエスペクトルと応答スペクトルの推定，日本地震工学会論文集，第 11 巻，5 号，pp. 1-16，日本地震工学会，2011 年，西川隼人・宮島昌克」。日本地震工学会では，平成 18 年より，これからの我が国の地震工学を担う若手研究者や技術者の研究活動を奨励する意味で，論文奨励賞が設置されている。若手とは該当年 4 月 1 日現在で 35 歳以下が対象となり，公募ではなく過去 2 年に投稿された論文から選考される。西川技術職員の絶え間ぬ努力の成果と言える。

平成 24 年 9 月 24 日，釣技術専門職員が，平成 24 年度国立高等専門学校機構職員表彰を受賞した。表彰題目は「島嶼県沖縄における地域貢献活動としての科学コミュニケーション活動への取組み」である。釣技術専門職員は沖縄高専時代に他の技術職員と共に離島の小中学生を対象に，出前授業として科学や理科に関する実験や工作を行ってきた。それらの活動が認められて今回の受賞に繋がった。

（出典　舞鶴高専年報・第１０号・2013 年４月）

（分析結果とその根拠理由）

教育支援者である事務職員及び技術職員は教育の重要なサポート役であり，その資質向上への組織としての取組は極めて重要である。新任・転入職員への学内研修は資質向上の足掛かりとして効果があり，職員への学外研修は担当業務に対する資質向上が期待できる。また，職員個々の資質向上にも配慮している。本校では，これらを積極的に推進しており，教育支援者等に対して，研修等，その資質の向上を図るための取組が適切に行われていると判断できる。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

・「舞鶴高専年報」が毎年発刊されており，教育・研究活動の実態を示すデータや資料が適切に収集・蓄積されている。
・卒業研究，特別研究を除く全科目の授業アンケートが実施されており，その結果はデータとして適切に蓄積されている。また，集計結果は各教員に通知され，授業改善に役立っている。
・発達障害，特別支援教育など，時宜を得た特別講演会を毎年開催しており，メンタルヘルスに着目した取り組みも行っている。
・授業公開，授業参観，教員連絡会議が定期的に実施されており，教育改善の実現と定着が図られている。
・ファカルティ・ディベロップメントを効果的に実施するためのＦＤ・ＩＣＴ部会を設置し，授業アンケート，授業公開，授業参観，特別講演会，教員連絡会議を通じて，教員が授業内容や方法を改善・向上させるよう組織的に取り組んでいる。
・教育支援者（技術職員，事務職員）に対して積極的に研修の機会を与えるとともに，技術職員に対しては研修・研鑽結果の公表（舞鶴高専年報）を行っている。

（改善を要する点）

該当なし

（３）基準９の自己評価の概要

シラバス，答案・レポート課題，授業アンケート・達成度評価等の教育活動の実態を示すデータや資料は教務委員会，各教員，評価委員会の下部組織であるＦＤ・ＩＣＴ部会等によって適切に収集・蓄積され，厳正に保管されている。そして，評価を適切に実施できる体制が，本校の教育点検システムのCheck過程において構築されている。学内外の様々な関係者からの意見を聴取する取組として授業アンケートと授業公開が継続的に実施されている。特に，前者は卒業研究と特別研究を除く全科目を対象としており，教科教育全体の状況分析が可能である。これらの取組はＦＤ・ＩＣＴ部会によって適切に実施されている。また，本校の教育方針，教育内容を社会の目で評価するための教育評価アンケートは，その結果を外部評価委員会で議論することによって点検・評価の客観性を担保している。以上のように，組織としての自己点検・評価が適切に実施されている。授業アンケート，授業公開，授業参観などの授業改善を目的とした取組では，各教員が授業改善に係る報告書をＦＤ・ＩＣＴ部会に提出している。これにより，教員は継続して授業の改善に行うとともに，学校としてその状況を把握できるシステムとなっている。

本校の教育点検システムは，Plan，Do，Check，Actionの４つの活動を担当する委員会が能動的に機能的しており，運営会議及び教員会議・学科部門会議との相互関係によって，そのバランスが保たれている。また，外部評価を通じてその客観性を維持している。これらの取組が継続的に実施されており，教育課程の見直し等が効果的に実施できるようになっている。一方，教員の教育研究，学術研究，技術研究は，本校の特色を表すとともに教育活動を活性化するものである。これらの授業への反映（執筆書籍の使用も含む）を通して，本校の教育点検システムとは別の観点から教育の質の改善に寄与している。また，専門教員の研究活動は卒業研究や特別研究の指導，研究成果の外部発表（論文誌，学会講演会）を通して，学生の研究意欲の向上に寄与している。

本校のファカルティ・ディベロップメントは主としてＦＤ・ＩＣＴ部会が担当しており，その取組は定められた要領に従って実施されている。教員は部会の種々の取組に対して報告書や改善プラン等を提出しており，教育の質の向上や授業の改善に結び付いている。また，教育の重要なサポート役である技術職員や事務職員に対する学内研修を効果的に実施するとともに，学外研修への参加も積極的に推進しており，教育支援者の資質向上を図るための取組が適切に行われているといえる。

基準10　財務

（１）観点ごとの分析

観点10－１－①：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行できる資産を有しているか。また、債務が過大ではないか。

（観点に係る状況）

資産及び債務の状況

〔１〕 流動資産…現金預金等の主要な流動資産をほとんど保有していない。（資料１０－１－①－１）

〔２〕固定資産…本校の校地・校舎・設備等の資産は独法化に伴い，国有財産及び物品等の承継を受けたものが大部分を占める。法人化後，校舎の改修や最先端設備の新規導入や老朽化した教育研究設備を更新しており，教育研究環境の改善を行っている。（資料１０－１－①－１及び１０－１－①－２）

また，平成２４年度末現在の資産保有状況は資料１０－１－①－３のとおりである。

〔３〕債務…本校の債務状況は資料１０－１－①－１のとおりである。

資料１０－１－①－１

平成24年度（平成25年3月31日現在）貸借対照表（抜粋）

（単位：円）

資産の部		負債及び純資産の部	
科目	金額	科目	金額
[資産の部]	2,550,789,425	[負債の部]	363,785,296
流動資産	25,457,900	流動負債	148,572,569
現金及び預金	24,937,645	運営費交付金債務	806,095
普通預金	3,192	預り寄附金	25,733,685
その他預金	24,934,453	前受受託研究費等	398,800
未収学生納付金収入	169,200	前受受託研究費	98,800
未収学生納付金収入（入学金）	169,200	その他	98,800
棚卸資産	219,992	前受共同研究費	300,000
未成研究支出金	219,992	その他	300,000
前払費用	44,520	未払金	82,958,173
前払費用	44,520	リース債務	8,284,416
未経過保険料	44,520	その他未払金	74,673,757
その他の流動資産	86,543	未払費用	10,006,866
立替金	86,543	給与	1,870,110
固定資産	2,525,331,525	賃借料	1,043,791
有形固定資産	2,523,235,236	水道光熱費	2,660,684
建物	1,784,045,768	未払利息	30,465
建物	1,213,857,583	その他未払費用	4,401,816
建物附属設備	570,188,185	前受金	1,132,152
建物減価償却累計額	-1,027,164,456	預り金	27,536,798
構築物	304,510,862	科学研究費	994,420
構築物減価償却累計額	-208,788,049	源泉所得税	5,778
船舶	1,278,000	その他預り金	26,536,600
船舶減価償却累計額	-1,276,994	固定負債	215,212,727
車両運搬具	6,142,348	資産見返負債	199,111,159
車両運搬具減価償却累計額	-6,142,345	資産見返運営費交付金等	85,813,178
工具器具備品	385,381,597	資産見返運営費交付金	66,872,598
工具器具備品減価償却累計額	-207,656,945	資産見返授業料	18,940,580
土地	1,462,600,000	資産見返補助金等	79,749,980
建設仮勘定	26,805,450	資産見返寄附金	2,551,873
その他の有形固定資産	3,500,000	資産見返物品受贈額	2,597,040
無形固定資産	2,065,231	建設仮勘定見返運営費交付金等	26,805,450
特許権	420,593	建設仮勘定見返運営費交付金	26,805,450
電話加入権	51,000	特許権仮勘定見返運営費交付金等	1,593,638
特許権仮勘定	1,593,638	特許権仮勘定見返運営費交付金	630,625
投資その他の資産	31,058	特許権仮勘定見返授業料	963,013
長期前払費用	6,238	長期未払金	16,101,568
その他の投資その他の資産	24,820		
[本支店勘定]	90,509,684		
[本支店]機構本部（統括）	-9,991,822	[純資産の部]	2,283,451,990
[本支店]機構本部　管理課	100,501,506	資本金	2,967,197,000
		政府出資金	2,967,197,000
		資本剰余金	-683,745,010
		資本剰余金	577,678,754
		資本剰余金施設費	32,850,465
		資本剰余金補助金等	529,929,000
		資本剰余金目的積立金	11,195,289
		資本剰余金譲与	3,704,000
		損益外減価償却累計額	-1,258,935,416
		損益外減損損失累計額	-153,000
		損益外固定資産除売却差額	-2,335,348
合　　計	2,641,299,109	合　　計	2,647,237,286

（出典　総務課資料）

資料１０－１－①－２

有形固定資産への支出額一覧

（単位：円）

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	種別合計
建物	0	0	18,324,248	3,393,875	3,417,645	25,135,768
構築物	0	0	2,343,017	15,798,505	7,013,538	25,155,060
機械装置	0	0	0	0	0	0
船舶	0	0	0	0	0	0
車両運搬具	0	0	0	0	0	0
工具器具備品	9,446,550	135,182,040	89,059,181	30,322,537	19,210,649	283,220,957
年度別合計	9,446,550	135,182,040	109,726,446	49,514,917	29,641,832	333,511,785

（出典　総務課資料）

資料１０－１－①－３

平成２４年度　決算資料（抜粋）　固定資産の取得及び処分

（単位：円）

資産の種類		期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高
有形固定資産（償却費損益内）	建物	6,593,123	3,417,645		10,010,768
	構築物	7,769,207	7,013,538		14,782,745
	機械装置	－	－		－
	船舶	－	－		－
	車両運搬具	3,250,524	－		3,250,524
	工具器具備品	340,306,200	19,210,649		359,516,849
	計	357,919,054	29,641,832	－	387,560,886
有形固定資産（償却費損益外）	建物	1,774,035,000			1,774,035,000
	構築物	289,776,117		48,000	289,728,117
	機械装置	－			－
	船舶	1,399,000		121,000	1,278,000
	車両運搬具	2,891,824			2,891,824
	工具器具備品	25,864,748			25,864,748
	計	2,093,966,689	－	169,000	2,093,797,689
非償却資産	土地	1,462,600,000			1,462,600,000
	美術品・収蔵品	3,500,000			3,500,000
	建設仮勘定	－	26,805,450		26,805,450
	計	1,466,100,000	26,805,450	－	1,492,905,450
有形固定資産合計	建物	1,780,628,123	3,417,645	－	1,784,045,768
	構築物	297,545,324	7,013,538	48,000	304,510,862
	機械装置	－	－	－	－
	船舶	1,399,000	－	121,000	1,278,000
	車両運搬具	6,142,348	－	－	6,142,348
	工具器具備品	366,170,948	19,210,649	－	385,381,597
	土地	1,462,600,000	－	－	1,462,600,000
	美術品・収蔵品	3,500,000	－	－	3,500,000
	建設仮勘定	－	26,805,450	－	26,805,450
	計	3,917,985,743	56,447,282	169,000	3,974,264,025
無形固定資産	特許権	611,773			611,773
	ソフトウェア	－			－
	電話加入権	204,000			204,000
	特許権仮勘定	1,550,210	43,428		1,593,638
	その他	－			－
	計	2,365,983	43,428	－	2,409,411
投資その他の資産	投資有価証券				－
	長期貸付金				－
	破産債権・更生債権等				－
	長期前払費用	23,910	6,238	23,910	6,238
	長期性預金				－
	長期未収入金				－
	貸倒引当金				－
	敷金・保証金				－
	その他	24,820			24,820
	計	48,730	6,238	23,910	31,058
合計		7,838,386,199	112,944,230	361,910	7,950,968,519

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

〔１〕資産について

本校の資産は教育研究活動を遂行するための大部分が国からの承継資産から形成されており，教育研究サービスを提供する基礎を成している。また，最先端設備の導入や老朽化した教育研究設備を更新するため，設備投資を行っている。

以上のことから，教育研究活動を安定して遂行できる資産を有している。

〔２〕債務について

平成２０年度より，支払業務が高専機構本部に一元化されたため，本校が支払に充てる現金預金等を保有せず，高専機構本部が保有している。したがって，本校が保有している債務，特に未払金については高専機構本部での支払となっている。また，本校は短期及び長期を問わず，借入金を一切保有していない。

以上のことから，財務健全性に問題は生じていない。

観点10－１－②：　学校の目的に沿った教育研究活動を安定して遂行するための、経常的収入が継続的に確保されているか。

（観点に係る状況）

本校における当期の経常的収入は下記のとおりである。（資料１０－１－②－１）

〔１〕運営費交付金…事業遂行に要する運営費交付金対象支出から運営費交付金対象収入を差し引いた額が運営費交付金として収入認識される。なお，平成２３年度より教職員人件費を機構本部にて計上されたことに伴い，収入額が減少している。

〔２〕授業料収入等…入学料，授業料，検定料から構成される自己収入である。

〔３〕雑収入…寄宿料，職員宿舎貸付料，雑入等から構成される自己収入である。

資料１０－１－②－１

経常的収入（平成20年度～平成24年度）

（金額単位:円）

	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		項目別合計	
	収入額	構成比	収入額	構成比	収入額	構成比	収入額	構成比	収入額	構成比	収入額	構成比
運営費交付金	1,043,715,737	82.5%	980,103,977	81.5%	1,016,920,278	80.1%	120,382,201	34.1%	118,344,257	34.6%	3,279,466,450	74.0%
授業料収入等	208,357,350	16.5%	207,457,800	17.3%	213,293,950	16.8%	217,185,550	61.5%	209,672,100	61.3%	1,055,966,750	23.8%
雑収入	13,664,562	1.1%	14,406,318	1.2%	39,876,466	3.1%	15,619,215	4.4%	14,162,277	4.1%	97,728,838	2.2%
年度別合計	1,265,737,649	100%	1,201,968,095	100%	1,270,090,694	100%	353,186,966	100%	342,178,634	100%	4,433,162,038	100.0%

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

当期における経常的収入は，運営費交付金及び授業料収入等を中心として，資料１０－１－②－１で示すように安定して確保できている。授業料収入等については，入学志願者確保のための広報活動により安定した志願者数を維持し，継続的な収入を確保している。

以上のことから，経常的収入は継続的に確保されている。

観点10－１－③：　学校の目的を達成するために、外部の財務資源の活用策を策定し、実行しているか。

（観点に係る状況）

外部資金は，科学研究費をはじめ，産学連携（共同研究，受託研究等），寄附金，補助金等の受入れを積極的に行っている（資料１０－１－③－１）。

科学研究費の採択率向上のため，外部から講師を招く等の取組を行っている。また，科学研究費に応募した教職員に対し，インセンティブとして校長裁量経費より研究費を再配分している。

各種研究助成金の公募情報については，学内のグループセッションに掲載する等，教職員に周知している。

資料１０－１－③－１

外部資金収入（平成20年度～平成24年度）

（金額単位：円）

	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度		項目別合計	
	収入額	構成比	収入額	構成比	収入額	構成比	収入額	構成比	収入額	構成比	収入額	構成比
施設整備費補助金		0.0%		0.0%		0.0%		0.0%		0%	0	0.0%
科学研究費	9,719,000	35.9%	8,208,000	40.6%	12,335,000	47.5%	13,868,000	52.0%	12,280,000	33%	56,410,000	41.0%
産学連携等研究収入	8,574,100	31.7%	5,020,050	24.8%	6,618,750	25.5%	4,609,850	17.3%	10,111,400	27%	34,934,150	25.4%
寄付金収入	8,750,000	32.4%	7,000,000	34.6%	6,601,050	25.4%	6,697,480	25.1%	7,379,000	20%	36,427,530	26.5%
その他補助金	0	0.0%	0	0.0%	430,000	1.7%	1,495,860	5.6%	8,007,300	21%	9,933,160	7.2%
年度別合計	27,043,100	100%	20,228,050	100%	25,984,800	100%	26,671,190	100%	37,777,700	100%	137,704,840	100.0%

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

外部資金獲得のため，教職員に対しての広報や研修，インセンティブ研究費を用意するなど，学内での意識向上を行っている。また，地元の舞鶴市から補助金を獲得するなど，地域との連携を進めている。

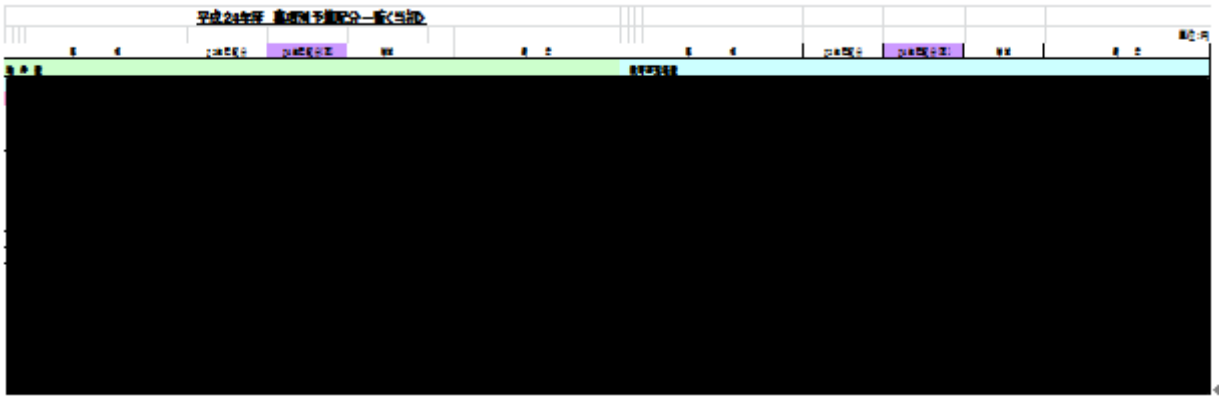
以上のことから，外部の財務資源の活用策を策定し，実行している。

観点10－２－①：　学校の目的を達成するための活動の財務上の基礎として、適切な収支に係る計画等が策定され、関係者に明示されているか。

（観点に係る状況）

本校の目的を達成するための中期目標・中期計画は，高専機構の中期目標・中期計画を踏まえて策定し，関係者に明示している。本校の予算配分（資料１０－２－①－１）は運営会議（資料１０－２－①－２）において審議し，教員会議を通じて教職員に周知している。

資料１０－２－①－１



以下　略

（出典　総務課資料）

資料１０－２－①－２

運営会議議事概要

１．日　　時　　平成24年6月６日(水) 16:50～20:40
２．場　　所　　中会議室
３．出 席 者　　別紙のとおり

４．協議事項

①期末・中間試験実施要領の改訂について
三川教務主事より、資料1に基づき説明が行われ、了承された。

～　略　～

⑤平成24年度予算配分について
　審議に先立ち、事務部長から、資料5-1に基づき、平成23年度予算執行状況について説明が行われた。なお、予算残高については調査のうえ原因と改善事項を報告することとされた。
　続いて、事務部長、総務課長から、資料5-2～-3に基づき平成24年度予算配分について説明が行われ、原案のとおり了承された。

～　略　～

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

高専機構の中期目標及び中期計画を基本として，本校における中期目標・中期計画及び具体的な教育研究活動の方針を各種委員会及び運営会議において審議し，予算配分の基本方針を教職員に周知した上で，予算を執行している。

以上のことから，計画等が十分に策定され，関係者に明示されている。

観点10－２－②：　収支の状況において、過大な支出超過となっていないか。

（観点に係る状況）

本校における収支は，資料１０－２－②－１のとおりである。

資料１０－２－②－１

平成20年度～平成24年度　損益計算書

（単位：円）

勘定科目表示名称	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
[経常費用]	1,307,764,152	1,228,673,451	1,278,396,087	366,345,131	393,961,260
業務費	1,262,631,271	1,175,787,557	1,228,331,778	310,018,495	326,878,128
教育・研究経費	250,974,324	240,680,065	248,796,710	234,753,542	243,315,962
教育研究支援経費	18,011,953	17,915,116	33,212,502	20,975,953	27,089,383
受託研究費	4,431,300	1,953,450	2,318,950	1,560,450	2,271,338
共同研究費	1,535,000	1,880,000	1,300,000	1,745,000	2,438,722
受託事業費	118,800	288,600	209,800	29,400	158,200
教員人件費	656,925,350	611,616,470	550,775,168	24,998,900	28,332,000
常勤教員給与	636,148,035	588,015,546	524,358,443	0	0
非常勤教員給与	20,777,315	23,600,924	26,416,725	24,998,900	28,332,000
職員人件費	330,634,544	301,453,856	391,718,648	25,955,250	23,272,523
役員報酬	0	0	0	0	0
常勤職員給与	314,974,387	281,907,113	367,345,025	0	0
非常勤職員給与	15,660,157	19,546,743	24,373,623	25,955,250	23,272,523
一般管理費	44,935,795	52,823,293	49,401,042	55,716,554	66,639,858
財務費用	197,086	62,601	663,267	610,082	443,274
雑損	0	0	0	0	0
[経常収益]	1,307,738,554	1,227,905,961	1,276,075,731	379,774,263	387,701,046
[経常収益]運営費交付金収益	1,037,958,737	961,655,477	985,533,987	92,627,086	90,777,747
[経常収益]授業料収益	198,535,650	191,871,778	187,511,060	195,687,211	192,790,059
[経常収益]入学金収益	15,735,600	15,904,800	16,243,200	16,327,800	15,143,400
[経常収益]検定料収益	4,075,500	4,009,500	4,719,000	4,983,000	5,494,500
[経常収益]受託研究等収益	5,966,300	3,833,450	3,618,950	3,305,450	4,691,400
[経常収益]受託事業等収益	118,800	288,600	209,800	29,400	1,754,200
[経常収益]補助金等収益	0	2,017,050	710,000	1,495,860	3,170,719
[経常収益]寄附金収益	11,366,028	10,060,876	9,524,502	10,254,640	10,441,122
[経常収益]施設費収益	7,129,500	7,791,000	0	594,935	5,355,000
[経常収益]資産見返負債戻入	11,190,152	14,669,112	27,480,499	37,676,939	41,167,811
[経常収益]財務収益	0	0	0	0	0
[経常収益]雑益	15,662,287	15,804,318	40,524,733	16,791,942	16,915,088
経常利益	0	0	0	0	0
[臨時損失]	−2,531,064	−209,719	2,719,322	3,282,226	8,881,675
[臨時利益]	2,638,464	209,719	4,010,405	779,970	9,203,712
[臨時利益]合計	0	0	0	0	0
[当期純利益(純損失)]	81,802	−767,490	−1,029,273	10,926,876	−5,938,177
[前中期目標期間繰越積立金取崩額]		0	0	0	0
[目的積立金取崩額]	0	0	0	0	0
[当期総利益(総損失)]	81,802	−767,490	−1,029,273	10,926,876	−5,938,177

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校での予算配分は本校の意思決定機関である運営会議にて審議・決定しており，計画の執行段階では過大な支出超過が発生しないように，本校の会計機関がチェックを行っている。平成２１・２２・２４年度については、授業料収入等が減少し、支出超過となったが、国立高専機構全体としては過大な支出超過になっていない。

観点10－２－③：　学校の目的を達成するため、教育研究活動（必要な施設・設備の整備を含む）に対し、適切な資源配分がなされているか。

（観点に係る状況）

本校での予算配分は，本校の意思決定機関である運営会議にて審議・決定している（資料１０－２－①－２）。また，基盤的な教育研究活動として，研究経費・教育経費等を集約して「教育研究経費」とし，その配分額の50％を「基礎的な教育研究経費」として各学科・部門等に配分している。残り50％を「校長裁量経費」とし，共通的に必要な教育・研究・施設整備などに再配分するとともに，新しい教育課題やユニークな教育研究活動，研究設備等の校内公募を行い，必要性・緊急性・有効性等を勘案の上，採択・配分を行っている（資料１０－２－③－１，２）。

資料１０－２－③－１

舞鶴工業高等専門学校校長裁量経費応募要領

（校長裁量経費の目的）

1　舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）においては，予算の一部を校長裁量経費とし、本校の教育・研究の充実発展のために、校長のリーダーシップによる効率的な執行を図ることとする。

（校長裁量経費の対象）

2　本校における校長裁量経費は、本校教職員の企画する事業を対象とし、次の区分を設ける。

【区分A】研究関係（研究開発に関するもの）

【区分B】教育関係（教育の改善・カリキュラム関係など学生教育に関するもの）

【区分C】共通関係（学校環境の維持管理等に関するもの、校舎・寮などの維持等）

（校長裁量経費の申請要領）

3　校長裁量経費の申請は、募集照会期間中に、代表者又は担当者が本要領に基づき、校長裁量経費要求書を総務課財務係に提出するものとする。

なお、募集の照会は適時行うものとする。

（校長裁量経費要求書作成上の留意事項）

4　校長裁量経費要求書の作成に当たっては，次の事項に留意すること。

(1) 要求事業名は、簡潔に記載すること。

(2) 代表者又は担当者は、学科（部門・部）長に記名押印依頼のうえ提出すること。

(3) 要求事業の概要は、その事業の実施内容を明瞭に記述すること。

(4) 予算の執行は、会計関係規則に基づくものである。

(5) その他、校長裁量経費の申請に関する質疑は、総務課財務係に行うこと。

（校長裁量経費の審査及び採択）

5　校長裁量経費の審査及び採択は、校長、副校長、主事、事務部長及び総務課長が行うものとする。

なお、申請事業の審査過程においてヒアリングを実施することがある。

（校長裁量経費の配分）

6　校長裁量経費の配分は，採択された事業に対して行うものとする。

（報告書の提出）

7　校長裁量経費の採択を受けた代表者又は担当者は、事業終了後すみやかに報告書を総務課財務係まで提出すること。

附　則

この要領は，平成１７年１０月１１日から実施する。

附　則

この要領は，平成２１年　７月２９日から実施する。

附　則

この要領は，平成２４年　６月　４日から実施する。

（出典　総務課資料）

資料１０－２－③－２

校長裁量経費(公募)

所属学科・部門	平成20年度		平成21年度		平成22年度		平成23年度		平成24年度	
	採択件数(件)	採択金額(円)	採択件数(件)	採択金額(円)	採択件数(件)	採択金額(円)	採択件数(件)	採択金額(円)	採択件数(件)	採択金額(円)
機械工学科	[redacted]									
電気情報工学科										
電子制御工学科										
建設システム工学科										
人文科学部門										
自然科学部門										
機械工学科・自然科学部門										
建設(専攻科)										
教育研究支援センター										
情報科学センター										
地域共同テクノセンター										
国際交流センター										
専攻科長										
専攻科										
教務主事										
学生主事										
寮務主事										
寮務委員										
安全衛生委員会										
危機管理委員会										
広報委員会										
就職委員長										
進路指導委員										
FD/ICT部会長										
企画室										
課外活動										
学生相談室										
総務課長										
総務課課長補佐										
総務課										
学生課										
学生課長										
看護師										
図書館										
合　計										

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

予算配分は，運営会議において，審議を行った上で決定している。また，「校長裁量経費」の校内公募は，必要性・緊急性・有効性等を勘案の上，採択し配分を行っている。

以上のことから，適切な資源配分がなされている。

観点10－３－①：　学校を設置する法人の財務諸表等が適切な形で公表されているか。

（観点に係る状況）

本校を含めた財務諸表等については，高専機構本部が独立行政法人通則法第３８条の規程に基づき，当該事業年度終了後三カ月以内に財務諸表を主務大臣に提出し，承認を受けた後，官報に公示し，書面を備え置くとともに，ウェブページへ掲載することとなっている（資料１０－３－①－１）。

資料１０－３－①－１

財務諸表等の公表関係法規

独立行政法人通則法第 38 条第 4 項
（財務諸表等）
第三十八条　独立行政法人は，毎事業年度，貸借対照表，損益計算書，利益の処分又は損失の処理に関する書類その他主務省令で定める書類及びこれらの附属明細書（以下「財務諸表」という。）を作成し，当該事業年度の終了後三月以内に主務大臣に提出し，その承認を受けなければならない。
２（略）
３（略）
４　独立行政法人は，第一項の規定による主務大臣の承認を受けた時には，遅滞なく，財務諸表を官報に公告し，かつ，財務諸表並びに第二項の事業報告書，決算報告書及び監事の意見を記載した書面を，各事務所に備えて置き，主務省令で定める期間，一般の閲覧に供しなければならない。

（出典　独立行政法人通則法）

（分析結果とその根拠理由）

高専機構の財務諸表等については，官報及び高専機構のウェブページ上にて公表されている。

以上のことから，財務諸表等が適切な形で公表されている。

観点10－３－②：　財務に対して、会計監査等が適正に行われているか。

（観点に係る状況）

本校の財務に対する会計監査には，高専相互会計内部監査を毎年度実施（資料１０－３－②－１）しているほか，平成２２年度に機構本部監事監査及び内部監査（資料１０－３－②－２，３）を受検している。

資料１０－３－②－１

高専相互会計内部監査

平成20年度監査校	和歌山工業高等専門学校
平成21年度監査校	奈良工業高等専門学校
平成22年度監査校	明石工業高等専門学校
平成23年度監査校	和歌山工業高等専門学校
平成24年度監査校	奈良工業高等専門学校

（出典　総務課資料）

資料１０－３－②－２

平成２２年１１月１日

舞鶴工業高等専門学校長　殿

独立行政法人国立高等専門学校機構
監　事　斎　藤　秀　俊
監　事　松　本　　香

平成２２年度監事監査の実施について（通知）

平成２２年度監事監査を下記のとおり実施しますのでお知らせします。

記

1　監査の項目
（１）教育研究活動について
（２）会計経理の実施状況について
（財務事項に係る内部統制の状況、施設整備費補助金等の執行状況等）
（３）契約の状況について
（４）産学連携・地域連携等の状況について
（５）入試業務の実施状況について
（６）保有個人情報の管理の状況について
（７）その他
（注）監査の実施状況により、監査項目を追加することがあります。
2　監査の実施時期
平成２２年１１月２４日（水）～１１月２６日（金）
3　監査の従事者
[redacted]

- 2 -

（出典　総務課資料）

資料１０－３－②－３

平成２２年１１月１日

舞鶴工業高等専門学校長　殿

独立行政法人国立高等専門学校機構
理事長　　林　　勇二郎

平成２２年度内部監査の実施について（通知）

平成２２年度内部監査を下記のとおり実施しますのでお知らせします。

記

１　監査の項目
（１）会計経理の実施状況について
（財務事項に係る内部統制の状況、施設整備費補助金等の執行状況等）
（２）契約の状況について
（３）産学連携・地域連携等の状況について
（４）入試業務の実施状況について
（５）保有個人情報の管理の状況について
（６）情報セキュリティ対策等について
（７）人事労務管理の状況について
（８）その他
（注）監査の実施状況により、監査項目を追加することがある。
２　監査の実施時期
平成２２年１１月２４日（水）～１１月２６日（金）
３　監査の従事者
[redacted]

- 1 -

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

会計監査は，高専相互会計内部監査を毎年度実施している他，定期的に機構本部監事監査及び内部監査並びに会計監査人監査を受検している。

以上のことから，財務に対して，会計監査が適正に行われている。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校では，教育研究経費のうち５０％を「基礎的な教育研究費」に充当し，残り５０％を「校長裁量経費」に充当することで，限りある活動資金を戦略的に活用している。この予算シフトは，「基礎的な教育研究費」が本校にとって必要不可欠な教育研究を支える一方で，「校長裁量経費」によって，新しい教育課題やユニークな事業に，戦略的かつ機動的に対応できるものとなっている。

（改善を要する点）

運営費交付金については，毎年１％の削減を受けており，「教育研究経費」に充てる予算を維持するため，自己収入及び外部資金の獲得増加に向けて，より一層努力する必要がある。

（３）基準１０の自己評価の概要

まず初めに，本校の財務基盤を考える上で重要となる資産及び債務の状況を述べる。

本校の資産状況について，本校の校地・校舎・設備等の資産は，独法化に伴い国有財産及び物品等の承継を受けており，教育研究活動を安定して遂行するには十分である。さらに，当期においては，設備投資を行い，教育研究活動の発展を支えている。また，債務の状況について，短期及び長期の借入金はゼロであり，本校に過大な債務は認められず，高い財務健全性を示している。

次に，経常的収入について，本校では収入財源の多くを運営費交付金及び授業料収入等に頼っている。授業料収入等については，入学志願者確保のためのＰＲ活動により安定した志願者数を維持し，継続的な収入を確保している。外部資金による収入については，より一層の増加に向け，全学的に対応していく。

このような財務状況の中，本校では，予算配分方針及び配分額を本校の意思決定機関である運営会議にて審議・決定し，適切な収支計画の下で限られた財務資源を活用している。特に，本校では教育研究に充当する予算のうち５０％を「基礎的な教育研究経費」として配分し，教育研究活動に必要不可欠な財源を確保しつつ，残り５０％を「校長裁量経費」として配分し，新しい教育課題やユニークな事業に対し戦略的かつ機動的に対応できる体制を構築している。

一方，運営費交付金が前年度比１％ずつ削減されることを鑑みると，教育研究経費への配分の水準を維持するためにはより一層，管理経費を削減することが求められる。このため，外部資金を確保し，教育研究の原資となる直接経費とともに管理経費に充当可能な間接経費を獲得している。

このような体制で活動した結果，当期においては概ね収支計画のとおり予算執行し，過大な支出超過は認められない。また，本校の財務活動状況については独立行政法人通則法に基づき機構本部がとりまとめのうえ官報及びウェブページ上で公表されている。さらに，会計監査については年１回以上受検しており，指摘事項等には速やかに対応し会計業務の精度向上に努めている。

基準11　管理運営

（１）観点ごとの分析

観点11－１－①：　学校の目的を達成するために，校長，各主事，委員会等の役割が明確になっており，校長のリーダーシップの下で，効果的な意思決定が行える態勢となっているか。

（観点に係る状況）

舞鶴工業高等専門学校教員組織規程（資料１１－１－①－１）および事務組織規程（資料１１－１－①－２）が定められている。舞鶴工業高等専門学校教員組織規程には，第３条には本校の校務の円滑な運営を図るため，副校長，校長補佐，主事補，専攻科長，専攻長，学科長，部門長並びに学級担任を置くことが定められている。また校長の命を受け，本校の将来構想等に関する事項について，企画，立案及び調査（以下「企画等」という。）を行うことを目的とする企画室が設置されており，副校長が企画室長を担当している。舞鶴工業高等専門学校教員組織規程の第4条から第５条に各主事の役割が，第１５条に委員会が規定されており別に制定されている各委員会の委員会規程にその役割等が制定され公開されている。舞鶴工業高等専門学校教員組織規程の第１０条には各種会議が規定されており，校長の諮問により運営会議が校務の企画と運営に関する事項と本校の将来構想および各学科(部門)会議及び各委員会から発議された事項について協議することが規定されており，校長のリーダーシップの下で組織的に意思決定が行える態勢となっている。

資料１１－１－①－１

○舞鶴工業高等専門学校教員組織規程

（目的）

第１条　この規程は，独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（平成１６年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第１号。以下「規則」という。）第５条及び舞鶴工業高等専門学校学則（以下「学則」という。）第６条の規定に基づき，舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）における内部組織及び会議等に関する事項を定め，もって校務の円滑な運営を図ることを目的とする。

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

資料１１－１－①－２

○舞鶴工業高等専門学校事務組織規程

第１章総則

（目的）

第１条　この規程は，独立行政法人国立高等専門学校機構の組織に関する規則（平成１６年独立行政法人国立高等専門学校機構規則第１号）第５条並びに舞鶴工業高等専門学校学則第５条及び第６条の規定に基づき，舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）の事務組織及び所掌事務の範囲を定めることを目的とする。

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

（分析結果とその根拠理由）

平成２１年度には運営会議が６回開催され校務の企画と運営に関する事項等が協議された。平成

２１年度は校長のリーダーシップの下に，平成２１年６月９日の運営会議で学生の海外インターンシップ制度の構築が協議され，国立高等専門学校機構の助成を受けて制度構築を行っている。そして８月にタイのキングモンクット工科大学に４名の学生を２週間派遣し，平成２２年度夏には６名の学生が中国，韓国およびマレーシアの企業で海外インターンシップを行った。さらに平成２２年度には，入学志願者が国立高等専門学校機構の平均値より低くなっている志願倍率の増大を図ることを目的として，校長のリーダーシップの下に中学生を対象とするPRイベント「プレオープンカレッジ」が入試委員会で企画立案され実施された。その結果，平成２２年度入学試験における志願倍率1.3倍に対して平成２３年度入試では1.5倍に増加した。さらに改善を推進し，平成２４年度入試では1.6倍に増加した。また平成２２年度に，校長のリーダーシップの下に本校の学科編成についての将来計画検討ワーキンググループが組織され準学士課程ならびに専攻科課程の課題と改善案が答申された。また平成２３年度から企画室の体制が変更（資料１１－１－①－３）され，将来計画を継続的に検討し，中期計画等を取りまとめる専門部署として整備された。このように校長のリーダーシップの下で，効果的な意思決定が行われている。

資料１１－１－①－３

運営会議議事概要

１．日 時 平成２３年４月１４日(水) 16:50～20:15
２．場 所 中会議室
３．出 席 者 別紙のとおり
４．協議事項

（省略）

② 舞鶴工業高等専門学校企画室要項の一部改正について

金山副校長より、資料２に基づき説明、意見交換が行われ、字句を修正の上、了承された。また、教員の校務負担軽減を企画室の業務に盛り込むよう提案があったが、企画室ではなく運営会議において来年度に向けた校務分担や事務組織の在り方を提案・検討することとされた。

（出典　総務課資料）

観点11－１－②：　管理運営の諸規程が整備され，各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動しているか。また，危機管理に係る体制が整備されているか。

（観点に係る状況）

運営会議等の会議については舞鶴工業高等専門学校教員組織規程に規定されており，各種委員会については舞鶴工業高等専門学校規程集の第5章に各委員会の委員会規則が制定され公開されている。管理運営に関しては，平成２３年度から教務主事と兼務しない副校長が配置され，校長の補佐および，学科編成や設備に関する将来計画，中期計画とそれを達成するための年度計画をとりまとめるとともに外部資金獲得，教職員が行う出前授業などの正規の学生以外に対する教育や理科教育活動を支援する企画室を所掌している。また教務主事（副校長），学生主事（校長補佐），寮務主事（校長補佐）がそれぞれ教務委員会，学生委員会，学寮委員会を所掌している。また，図書館，

情報科学センター，教育研究支援センター，地域共同テクノセンター，国際交流センターにそれぞれ館長，センター長を配置し，運営委員会を組織することにより，教育研究活動の支援にかかる機能を分担して所掌し，その充実に努めている。教員については，各学科・部門に所属し，それぞれ学科・部門の所掌する教育研究を担当するほか，全員が委員会等委員として校務運営に携わることとなっている。

事務組織とその役割は舞鶴工業高等専門学校事務組織規程に定められている。事務部には総務課，会計課の２課を設置し，事務部長を筆頭に総務課長と学生課長が配置され，学校運営の事務をそれぞれ分担し，所掌する体制になっている。

危機管理については，舞鶴工業高等専門学校規程集の第６章に舞鶴工業高等専門学校危機管理規程（資料１１－１－②－１）が定められ，危機管理委員会が規定されている。危機管理委員会は平成２３年度に整備され，本校における危機管理体制の充実を図るために必要な事項を協議するとともに，危機事象発生時に，その対応の検討を行っている。

資料１１－１－②－１

○舞鶴工業高等専門学校危機管理規程

（目的）

第１条　この規程は，舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）において発生する様々な事象に伴う危機に，迅速かつ的確に対処するため，本校における危機管理体制及び対処方法等を定めることにより，学生，教職員及び近隣住民等の安全確保に努めるとともに，本校の社会的責任を果たすことを目的とする。

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

（分析結果とその根拠理由）

管理運営の諸規定が整備されており，各種委員会の議事概要により各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担していることが確認できる。議事概要は各委員会の担当事務組織が作成し，学内のグループウエアによって教職員に周知されている。

危機管理体制の整備状況として，平成２３年度に危機管理委員会が整備され，マニュアル整備，災害発生時の学生の安否確認システムの導入が行われ，これを用いた連絡訓練テストが行われている。また，毎年度教職員の緊急連絡網が制定され教職員に周知されている。

以上より，管理運営の諸規程が整備され，各種委員会及び事務組織が適切に役割を分担し，効果的に活動していると判断できる。また，危機管理に係る体制として危機管理委員会が設置され舞鶴工業高等専門学校危機管理規程が整備されている。

観点11－２－①：　自己点検・評価が学校として策定した基準に基づいて高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ，かつ，その結果が公表されているか。

（観点に係る状況）

平成２１年度に作成した自己点検・評価書は，平成１８年度に開催された参与会，平成１９年度および平成２０年度に開催された外部評価委員会において，委員の方々からいただいた指摘事項や指導内容について分析・評価を行ったものである。平成２２年度以降は，毎年，評価委員会が設定した観点について本校の活動の総合的な状況に対して自己点検・評価が行われ，その結果が「自己

点検評価書」として公表されている。

（分析結果とその根拠理由）

平成２１年度以降，毎年，評価委員会が設定した基準について自己点検・評価を行い「自己点検評価書」としてまとめ，公表している。またこれを外部有識者に説明して助言を聴取する外部評価委員会が毎年開催され，その結果が公表されている。したがって，自己点検・評価が学校として策定した基準に基づいて高等専門学校の活動の総合的な状況に対して行われ，かつ，その結果が公表されていると判断できる。

観点11－２－②：　自己点検・評価の結果について，外部有識者等による検証が実施されているか。

（観点に係る状況）

平成１８年度に参与会が，平成１９年度および平成２０年度には外部評価委員会が開催され，外部有識者等による自己点検・評価の検証が行われている。平成２１年度には「高専の将来を考える会」として高専関係者および産業界から有識者を招聘して講演とパネルディスカッションを実施した（資料１１－２－②－１）。平成２２年以降は，毎年，外部評価委員会を開催している（資料１１－２－②－２）。外部評価委員会は，「舞鶴工業高等専門学校外部評価委員会規程」に示すように外部の有識者から構成され，舞鶴高専の教育理念，将来計画，教育活動，研究活動等について評価を行う機関である。外部評価委員会は，学校側から自己点検・評価結果を説明した後，外部評価委員会委員から意見および助言を頂くとともに，自己点検・評価結果の検証を行っている（資料１１－２－②－３）。外部評価委員会の内容は，年度ごとに「外部評価委員会報告書」として冊子にまとめられ公表されている。

資料１１－２－②－１

「高専の将来を考える会」議事概要

日□□時□平成２１年７月２４日（金）１５：００～１７：３５

場□□所□舞鶴工業高等専門学校大会議室

内□□容□

第　１　部□基調講演「今後の高専の課題および展望」

□□□□□□□□□[redacted]□

第　２　部□パネルディスカッション

□□□□□□□パネリスト

□□□□□□□□□□[redacted]

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□（出典□総務課資料）

資料１１－２－②－２

平成22年度□舞鶴工業高等専門学校□外部評価委員会

□□□□□□□舞鶴工業高等専門学校外部評価委員会□委員

□□□□□□□□□□[redacted]

舞鶴工業高等専門学校評価委員会□委員

□□□□□□□□□太田□泰雄□（校長）

□□□□□□□□□金山□光一□（教務主事・司会）

□□□□□□□□□三川□譲二□（学生主事）

□□□□□□□□□背戸柳□実□（寮務主事）

□□□□□□□□□高谷□富也□（専攻科長・説明者②）

□□□□□□□□□金森□満□□（評価委員会副委員長・説明者①）

□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□□（出典□総務課資料）

資料１１－２－②－３

平成２４年度外部評価委員会議事次第

日　時　１１月２７日（火）１４時３０分～１６時３０分
場　所　大会議室

次　第

１．開会挨拶
２．協　　議
（１）本校の教育の現状と課題（資料１）
①説　明
②質疑応答・外部評価委員からのご意見等
（２）JABEE 中間審査について（資料２）
①説　明
②質疑応答・外部評価委員からのご意見等
（３）企業等，卒業生へのアンケート結果の分析（資料３）
①説　明
②質疑応答・外部評価委員からのご意見等
（４）その他
３．総　　評
４．閉会挨拶

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

毎年度，自己点検・評価の結果については「自己評価書」としてまとめられ，外部有識者で構成される外部評価委員会において検証を行い，その内容は「外部評価委員会報告書」を作成し公表している。平成２４年度からは，本校のウェブページに議事内容と資料を掲載している。このことから自己点検・評価の結果について外部有識者等による検証が行われているといえる。

観点11－２－③：　評価結果がフィードバックされ，高等専門学校の目的の達成のための改善に結び付けられるようなシステムが整備され，有効に運営されているか。

（観点に係る状況）

評価結果のフィードバックは本校のＰＤＣＡ改善システムによって進められている。ＰＤＣＡ改善システムは，「本校の継続的改善システム」として本校ウェブページに公表されている。平成２０年度には「学生による授業アンケートの実施方法の改善」を，平成２１年度には教員間の連携を向上する施策として実施されていた「科目群連絡会」を「教育連絡会議」として見直して実施して

いる。その他の改善事例についても，平成２１年度作成の「自己点検書」に詳細が記されている。平成２２年度には，継続的教育改善活動の Action 機能を担う委員会として教育改善委員会が新たに提案され，平成２３年度に制定された「教育点検システム図」が改正され，平成２４年度に現在の「本校の継続的改善システム」としてシステム全体を改善するシステムが完備した。

（分析結果とその根拠理由）

教育活動を改善するための「本校の継続的改善システム」が設置されており，ＦＤ活動の改善が行われている。平成２３年度に設置された「教育改善委員会」は，平成２２年度の自己点検評価書の観点９－１－③において「新たに教育改善委員会（仮称）を設置し，教育改善機能を強化する必要がある。」との評価結果がフィードバックされて整備された委員会である。教育改善委員会は，平成２３年度，平成２４年度にそれぞれ４回開催されており有効に運営されている。

観点11－３－①：　外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されているか。

（観点に係る状況）

外部有識者等の意見を聴取するしくみとして，外部評価委員会を設置している。外部評価委員会の委員は，大学の学長，企業の役職者，中学校の校長など，高専教育に意見を述べることができる有識者を設定している。また，学校側の出席者は，校長，副校長，主事，専攻科長，部門長，学科長，各センター長などの本校の管理運営に携わるメンバーとなっており，外部評価委員会委員からの意見を直接本校の管理運営に反映できるように構成されている（資料１１－３－①－１）。平成２１年度の外部評価委員会では，平成１８年度に開催した参与会と，平成１９年度および平成２０年度に開催した外部評価委員会で外部有識者からいただいた意見を基に，本校独自の評価基準と評価の観点を設定し，自己点検・評価を実施した。その内容については，平成２１年度の自己点検・評価書に記載されている。平成２２年度の外部評価委員会では，学生による授業アンケートについて検討され，全科目についてアンケートをとるべきであるとの意見を頂いた。この評価結果を評価委員会および評価委員会 FD・ICT 部会で検討し，平成２３年度から全科目についてアンケートを実施した。さらに，第三者評価のしくみとして，卒業生と企業を対象とした教育評価アンケートを実施している。最近では，平成２０年度及び平成２４年度に卒業生と企業を対象とした教育評価アンケートを実施した。アンケート結果は，評価委員会でまとめられ，運営会議で報告されて本校の管理運営に反映されるようになっている。

資料１１－３－①－１

○舞鶴工業高等専門学校外部評価委員会規程

（目的）

第１条　舞鶴工業高等専門学校（以下「本校」という。）における教育研究の改善，向上を図るため学外の有識者による外部評価委員会（以下「委員会」という。）を置く。

（評価事項）

第２条　委員会は，本校の教育理念，将来計画，教育活動，研究活動等について評価をおこなう。

（組織及び選考）

第３条　委員会は若干名で組織し，本校の教職員以外のもので，高等専門学校に関し広くかつ高い識見を有するもののうちから，校長が選考し，委嘱する。

（任期）

第４条　委員の任期は２年とし，再任を妨げない。ただし委員が欠員となった場合の後任の任期は，前任者の残任期間とする。

（委員長）

第５条　委員会には委員長を置き，委員の互選により選任する。

２　委員長は会務を総理し，委員会を代表する。

３　委員長に事故があるときは，あらかじめその指名する委員が，その職務を代理する。

（事務等）

第６条　校長及び関係教職員は委員会に参加し，関係事項の説明をおこなう。

２　委員会の事務は，総務課において処理する。

（出典　舞鶴工業高等専門学校規程集）

（分析結果とその根拠理由）

外部有識者等の意見を聴取する場として，参与会，外部評価委員会が設置されており，本校の管理運営を担当する教職員が出席して直接外部有識者の意見を聴取している。またその内容は報告書として都度まとめられ公表されている。また，卒業生と企業を対象とした教育評価アンケートを実施して本校の教育に対する意見を聴取している。アンケート結果は運営会議で報告され，本校の管理運営に直接活かす事ができるようになっている。具体的に外部評価委員会から提示された意見として，平成２２年度には学生の授業評価アンケート方法についての意見があり，平成２３年度から全科目でアンケートが実施されるようになった。このように外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されている。

また，ＪＡＢＥＥ審査を受けておりこれらについても外部有識者の意見を頂いており，それを具体的な改善課題として管理運営に反映されていることから外部有識者等の意見や第三者評価の結果が適切な形で管理運営に反映されているといえる。

観点11－３－②：　学校の目的を達成するために，外部の教育資源を積極的に活用しているか。

（観点に係る状況）

大阪大学，京都大学，京都工芸繊維大学と学術交流協定を締結し，授業等の教育活動における講師派遣などを受けている。また長岡技術科学大学および豊橋技術科学大学等が主催するサマートレーニングを利用し，学生が学内設備で体験できない実験実習体験を受けている。さらに海外５カ国の大学等と学術交流協定を締結し，海外大学からの短期研修生受け入れおよび本校からの学生の研修旅行受け入れ先として活用している。

その他，企業の技術者を招聘し，技術者に必要な能力や態度について講演していただいたり，学生がエンジニアリングデザインの素養を身につけられるように平成２４年度から専攻科課程において「エンジニアリングデザイン演習」の授業科目を開設し企業の技術者からの指導を受けたりしている（資料１１－３－②－１）。

資料１１－３－②－１

科　目　名	学 年	期別・授業形態・単位数	教 員 名　【授業計画の欄に記載】 研 究 室 内線電話 e-mail:
エンジニアリング・デザイン演習 Engineering Design Practice	2	必　修 後期・演習・２単位	
	標準 60 時間の学習時間		

【授業目的】
エンジニアリングデザインとは顧客からの要求に応じて製品やシステムを開発する一連のプロセスを意味する。したがってこの演習では仕様の策定から設計，製造，検査を経て出荷にいたるまでの一連の流れを学習する。演習は主にそれぞれの分野の専門家である企業技術者に実施いただき，現場での体験に基づいた実践的な知識を身につけることができる。

【Course Objectives】
Engineering design means the series of process to develop products or systems according to the request of customer. Therefore, in this practice students will study the chain of jobs from decision of specification, design, manufacturing, inspection and to shipping. The practice will be constructed by company engineers who are the specialists of each process. As a result, students will be able to acquire the practical knowledge based on the experiences in the engineering spot.

【到達目標】	【Outcomes/Aims】 Students will be able to:
1 エンジニアリングデザインとはどのようなものか理解できている。	1 Understand the meaning of engineering design
2 仕様の策定から出荷までの一連の流れを理解できている。	2 Understand the series of jobs from preparation of specification to shipment of products.
3 マーケティングとそれに基づいた仕様の策定手法を理解し，実施できる。	3 Understand and carry out the marketing and the decision of specification which is suited to marketing results.
4 仕様に基づいた製品設計の手法を理解し，実施できる。	4 Understand and carry out the design of products which is suited to specification.
5 設計通り間違いなく製造するために必要な重要事項を理解できている。	5 Understand the important items of manufacturing for the production with no mistake.
6 品質管理を行うために必要な重要事項を理解できている。	6 Understand the important items of quality control.
7 出荷業務とアフターサービスの重要性を理解できている。	7 Understand the importance of shipping and after service.

【学習・教育目標】
(C)修得した知識を統合して，社会に貢献できる製品やシステムを設計・開発する創造的能力と意欲を有する。
(G)課題の提案・報告などを効果的に記述し，説明することができる。

【キーワード】	【授業時間】
エンジニアリングデザイン，マーケティング，仕様，設計，製造，品質管理，出荷 Engineering design, Marketing, Specification, Design, Production, Quality control, Shipping	４時間×15 週＝60 時間

【授業方法】	【学習方法】
主として企業のベテラン技術者である講師が講義と演習を行う。必要に応じて教員がサポートする。製品やシステムを開発する一連のプロセスを学習し，演習を通じて疑似体験する。	積極的・主体的に演習に取り組むことが重要である。テーマに関して講師と積極的にディスカッションを行い，学生と講師の双方向のコミュニケーションが十分とれるようにする。
【履修上の注意】	**【科目の位置付け】** 1. 先行して履修すべき科目 授業科目全般 2. 後で履修する関連科目 3. 同時に履修する関連科目 授業科目全般
【定期試験の実施方法】 実施しない。	
【成績の評価方法・評価基準】 授業への参画の程度，演習の充実の程度，課題レポートから評価する。定期試験は行わない。 課題レポートでは，次の観点で評価する。 ・ 現状分析を行い，問題点を明確にして，より良い解決案を立案することができるか。 ・「もの作り」において各工学分野や履修科目との関連を把握し，意匠的考え方を基礎にして，現代社会の状況を的確に捉えた認識ができるかどうか。	

（出典　平成２４年度専攻科シラバス）

資料１１－３－②－１の続き

【教科書・教材等】
演習テーマ毎に必要に応じて資料を配布する。

【参考書・参照 URL 等】

【授業計画】

週	内　　容	達成目標	教科書参照ページ
第１週	シラバス内容の説明。エンジニアリングデザインとは。授業の進め方の説明。	１，２	
第２週	マーケティングの目的と手法	３	
第３週	仕様作成の目的と方法	３	
第４週	設計の要点と実習(1)	４	
第５週	設計の要点と実習(2)	４	
第６週	原価計算の必要性と方法	１	
第７週	製造に必要な重要事項の学習と疑似体験(1)	５	
第８週	製造に必要な重要事項の学習と疑似体験(2)	５	
第９週	出荷検査の注意事項	６	
第10週	品質管理の重要性(1)	６	
第11週	品質管理の重要性(2)	６	
第12週	出荷業務の概要	７	
第13週	アフターサービスの役割と重要性	７	
第14週	アフターサービスの役割と重要性	７	
第15週	総合的復習。質疑。	１，２	
	担当教員：（電気情報）新池，平地，（電子制御）奥村，町田，石川 講師：企業技術者 演習場所：専攻科棟大講義室 C304		

【学生へのメッセージ】
学校の授業では主に製品やシステムの設計に役立つ知識を学習し，卒業研究では製品設計を疑似体験することになる。しかし企業での製品開発の一連のプロセスには仕様の策定から製品の出荷まで設計以外に重要な課題が多数存在する。この演習ではこの一連のプロセス，即ちエンジニアリングデザインを企業で実務に携わっている一流の技術者から直接学習するという貴重な体験を得ることができる。授業では講義と演習が行われるが，積極的・主体的に取り組んでほしい。企業技術者とのディスカッションを通じてエンジニアリングデザインの理解を深めてほしい。

（出典　平成２４年度専攻科シラバス）

（分析結果とその根拠理由）

国内大学との協定に基づく教育資源の活用として，特別なテーマについての講演などを行っている。長岡技術科学大学および豊橋技術科学大学等が主催するサマートレーニングを利用し，学生が学内設備で体験できない実験実習体験を受けている。また海外の大学から短期研修生を受入れ，本校からは準学士課程４年生の研修旅行でそれらの大学に学生を派遣し，学生の国際性涵養に活用している。さらに企業の技術者の協力を得て，エンジニアリングデザイン教育を実施している。以上より，学校の目的を達成するために，外部の教育資源を積極的に活用しているといえる。

観点11－４－①：　高等専門学校における教育研究活動等の状況や，その活動の成果に関する情報を広くわかりやすく社会に発信しているか。

（観点に係る状況）

本校の教育研究活動状況やその成果は，インターネットのウェブページで速報や日常的な活動の情報を発信しているだけでなく，「舞鶴高専年報」を毎年度冊子体として作成し公表している（資料１１－４－①－１）。その他にも毎年度「学校概要」を，また「学校だより」を年３回発刊している。また中学生向けには毎年「学校案内」を作成し，京都府，兵庫県，滋賀県，福井県等の中学生に配布している。平成２０年度から近隣の産業界に向けて「舞鶴高専技術通信」を発刊している。

資料１１－４－①－１

「舞鶴高専年報」第 10 号　送付先

《機構本部・全国高専》

	送　付　先	郵便番号	住　　所
1	(独)国立高等専門学校機構(1部)	193-0834	八王子市東浅川町７０１－２
2	函館工業高等専門学校	042-8501	函館市戸倉町１４－１
3	苫小牧　　〃	059-1275	苫小牧市字錦岡４４３
4	釧路　　〃	084-0916	釧路市大楽毛西２丁目３２番１号
5	旭川　　〃	071-8142	旭川市春光台２条２丁目１番６号
6	八戸　　〃	039-1192	八戸市大字田面木字上野平１６－１
7	一関　　〃	021-8511	一関市萩荘字高梨
中略			
62	近畿大学　　〃	518-0459	名張市春日丘７-１

《若狭湾青少年自然の家》

	送　付　先	郵便番号	住　　所
1	国立若狭湾青少年自然の家	917-0101	小浜市田烏区大浜

《京都府等》

	送　付　先	郵便番号	住　　所
1	京都府中丹広域振興局	625-0036	舞鶴市字浜２０２０
2	京都府教育庁	602-8041	京都市上京区下立売通新町西入薮ノ内町
以下略			

（出典　総務課資料）

（分析結果とその根拠理由）

本校の教育研究活動状況やその成果は，組織の状況から日々の活動に至るまで，複数のメディアを通じて広くわかりやすく社会に発信していると判断できる。

（２）優れた点及び改善を要する点

（優れた点）

本校の目的達成に向けた取り組みは，校長のリーダーシップのもと，関係の委員会等で検討する態勢が整備されており，各種委員会および各部門・学科からの提案は運営会議で審議され決定されるシステムとなっている。以上のように各機能の役割分担により合理的な管理運営が行える態勢となっている点が優れている。また外部有識者による意見の聴取については，外部評価委員会を有しており，外部からの意見を積極的に取り入れる態勢が整備されている。平成１９年度から外部評価委員会を毎年実施して報告書を作成するしくみが構築されており継続的な外部評価が行われている点が優れている。

（改善を要する点）

管理運営を支える事務処理量が増大しており，これを効率的に処理するための態勢整備や工夫が必要となっている。

（３）基準11の自己評価の概要

本校の目的を達成するための組織が，校長のリーダーシップの下で円滑に実施できる態勢が整備されている。また，外部からの意見を聴取するシステムがあり，継続的に機能している。また，管理運営システム自体を改善するしくみが整備され，活動が行われている。一方，管理運営を支える事務処理量の増大への対応が課題となっている。